滿支旅行年鑑

昭和十五年



ジャパン・ツーリスト・ビューロー編纂

日本へは商船で

阪
航

大阪商船

案内書進呈

大陸国策を
現地に見よ



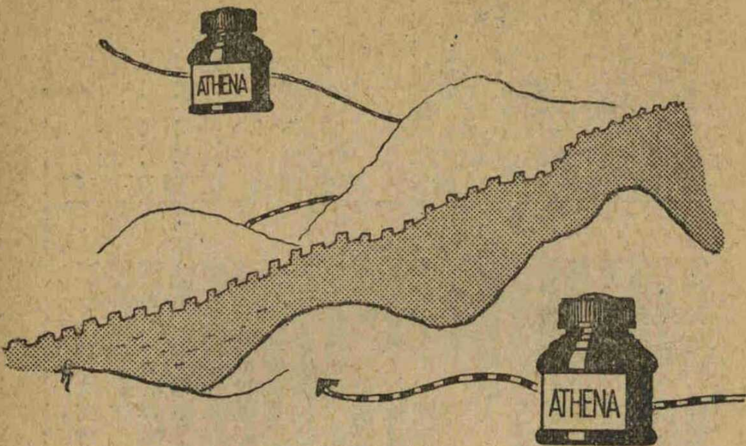
満鉄鉄道總局

昭和十五年

滿支旅行年鑑

ジャパン・ツーリスト・ビューロー
(日本國際觀光局)
滿洲支部編纂


菓子と喫茶
明治製菓賣店
大連賣店
大連市浪速町
電話本局六二〇一
奉天賣店
奉天市春日町
電話春日五三三〇
新京賣店
新京市吉野町
電話新京六一五〇
新京海上ビル賣店
新京市東京海上ビル内
電話本局六四三八
哈爾濱賣店
哈爾濱市埠頭區中央大街
電話道裡六四三〇



日・滿・支は同種同文
書くインキも鮮色アテナ一色

日本のインキを代表する

丸善アテナインキ

・高級で低廉な　アテナ萬年筆・

MARUZEN

昭和十五年滿支旅行年鑑目次

昭和十五年（康德七年）庚辰略暦

紀元二千六百年　西暦千九百四十年

新暦

大	小
一	二
三	四
五	六
七	九
八	十一
十	
十二	

庚甲

一月十八日　三月十八日　五月十七日　七月十六日　九月十四日　十一月十三日

八専

一月十日　三月十日　五月九日　七月八日　九月六日　十一月五日

土用

一月十八日　四月十七日　七月廿日　十月廿日

日本祝祭日

四方拜	一月一日
元始祭	一月三日
新年宴會	一月五日
紀元節	二月十一日
地久節	三月六日
春季皇靈祭	三月廿一日
神武天皇祭	四月三日
天長節	四月廿九日
秋季皇靈祭	九月廿三日
神嘗祭	十月十七日
明治節	十一月三日
新嘗祭	十一月廿三日
大正天皇祭	十二月廿五日

滿洲國祝祭日

元旦	一月一日
萬壽節	二月六日
除夕	二月七日（陰十二月末日）
春節	二月八日（陰正月初一日）
元宵節	二月廿二日（陰正月十五日）
建國節	三月一日
春丁祀孔	三月十五日（陰二月上丁日）
訪日宣詔記念日	五月二日
端午節	六月十日（陰五月初五日）
秋丁祀孔	九月十一日（陰八月上丁日）
中秋節	九月十六日（陰八月十五日）

二十四節

小寒	一月六日
大寒	一月廿一日
立春	二月五日
雨水	二月廿日
驚蟄	三月六日
春分	三月廿一日
清明	四月五日
穀雨	四月廿日
立夏	五月六日
小満	五月廿一日
芒種	六月六日
夏至	六月廿一日
小暑	七月七日
大暑	七月廿三日
立秋	八月八日
處暑	八月廿三日
白露	九月八日
秋分	九月廿三日
寒露	十月八日
霜降	十月廿三日
立冬	十一月七日
小雪	十一月廿二日
大雪	十二月七日
冬至	十二月廿二日

日曜表

一月	七日、十四日、廿一日、廿八日
二月	四日、十一日、十八日、廿五日
三月	三日、十日、十七日、廿四日、卅一日
四月	七日、十四日、廿一日、廿八日
五月	五日、十二日、十九日、廿六日
六月	二日、九日、十六日、廿三日、卅日
七月	七日、十四日、廿一日、廿八日
八月	四日、十一日、十八日、廿五日
九月	一日、八日、十五日、廿二日、廿九日
十月	六日、十三日、二十日、廿七日
十一月	三日、十日、十七日、廿四日
十二月	一日、八日、十五日、廿二日、廿九日

舊暦

大	小
十二（己卯）	三（庚辰）
正（庚辰）	五
二	七
四	八
六	十
九	十二
十一	

甲子

一月廿二日　三月廿二日　五月廿一日　七月二十日　九月十八日　十一月十七日

巳巳

一月廿七日　三月廿七日　五月廿六日　七月廿五日　九月廿三日　十一月廿二日

彼岸

三月十八日　九月廿日

社日

三月十六日　九月廿二日

満支年代表

皇紀前	西紀前	王朝・帝王	事項
一八四〇	二三四〇頃	(帝堯)	
	二二六〇頃	(帝舜)	
一三四〇	二二〇〇頃	夏　禹王	
		啓王	王位世襲の始
		桀王	
八四〇	一七六〇頃	殷(商)　湯王	革命の始
	一四〇〇頃	盤庚王	殷に都を遷す
		紂王	
三四〇	一一二〇頃	武王	
		成王	周公制度を定む
一四〇	一〇〇〇		
		幽王	
	七七〇		

皇紀	西紀前	王朝・帝王	事項
四〇		周　平王	周室の東遷
	六八一	春秋時代	齊の桓公覇を稱す
皇紀六一	六三二		晉の文公覇を稱す
	五九七		楚の莊王覇を稱す
	四九四		呉王夫差覇を稱す
	四七三		越王勾踐覇を稱す
一六一	四五三	戰國時代	戰國時代の始
	四〇三		韓、魏、趙諸侯となる
	三八六		田氏齊を簒ふ
	三七一		孟子生る
二六一	三六一		秦の孝公商鞅を任用
	三三三		蘇秦合從を唱ふ
	三一一		張儀連衡を唱ふ
三六一	二五六	赧王	周の滅亡
	二二一	秦　始皇帝	秦の天下統一
	二〇六		漢楚分爭

皇紀	西紀	王朝・帝王	事項
四六一	二〇二	前漢　高祖	
		惠帝	
		文帝	
		景帝	
	一五四		呉楚七國亂
五六一		武帝	
	一二六		張騫西域より還る
	八七		古朝鮮を滅ぼす
		宣帝	
		元帝	
	西紀一		
六六一		平帝	
	八	新　王莽	
	二三		
	二五	後漢　光武帝	
	五七	明帝	
	七五	章帝	佛教傳來
	八八	和帝	
七六〇	一四七	桓帝	
	一六六		ローマとの交通開く
	一六七		黨錮の禍
	二〇八	獻帝	赤壁の戰
八六〇	二二〇	三國　蜀	
	二二一	漢	
	二二九	呉	
	二六三		
九六〇	二六五	西晉　武帝	
	三一七		

皇紀	西紀	王朝・帝王	事項
一〇六〇	三一七	東晉	
	三八三		淝水の戰
	三八六		
	四〇〇	(南朝)	(北朝)
	四二〇	宋	
	四七九	齊	
	四九四		
一一六〇	五〇二	梁	後魏
	五三四	東魏	
	五三五	西魏	
	五五〇		
	五五六		
一二六〇	五五七	陳　北齊	
	五五八	北周	
	五八九	隋　文帝	
	六〇五	煬帝	
	六一八		
	六一八	唐　高祖	
	六二七	太宗	
	六五〇	高宗	
一三七〇	六八四	中宗	武后政をなす
	七〇五		武后國を周と號す
	七一二	玄宗	
	七五五	肅宗	安史の亂
	七六三	代宗	
一四六〇		德宗	
	八四五	武宗	諸外教を禁ず
		昭宗	

一五六〇　一六六〇　一七六〇　一八六〇

五代・北宋・南宋

年	帝王・國	事項
九〇七	後梁	朱全忠唐を簒ふ
九二三	後唐	
九三六	後晉	
九四六	後漢	
九五〇	後周	
九六〇	太祖	
九七九	太宗	天下一統
	眞宗	
一〇〇四		遼と和す
	仁宗	
一〇四四		西夏と和す
	英宗	
	神宗	
	哲宗	
	徽宗	
一一二〇		金と同盟
	欽宗	
一一二七		開封陷落
	高宗	
一一三八		臨安に都す
一一四一		秦檜岳飛を殺す
一一六一		金軍侵入
	孝宗	
	光宗	
	寧宗	
	度宗	
一二七六		

一九六〇　二〇六〇　二一六〇　二二六〇

元・明

年	帝王	事項
	世祖	
一二八一		日本に寇す
一二九二		マルコーポーロ歸途につく
	成宗	
一三〇〇		
一三〇六		オゴタイ汗國滅ぶ
一三四八		方國珍叛く
一三五三		朱元璋兵を起す
一三六八		
	太祖	
	惠帝	
	成祖	
	仁宗	
	宣宗	
	英宗	
一四四九		土木の變
	孝宗	
	武宗	
	世宗	
	穆宗	
	神宗	
一五八〇		マテオリッチ支那に來る
一六二四		和蘭人臺灣占領
	毅宗	
一六三一		李自成の亂
一六四四		
	世祖	
一六四五		髮令を下す
	聖祖	
一六六一		鄭成功臺灣に據る
一六七三		三藩の亂起る
一六八一		三藩の亂平ぐ
一六九六		外蒙古征定

二三六〇　二四六〇　二五六〇

清

年	帝王	事項
一七二三		天主教を禁ず
	世宗	
一七二四		青海平定
一七二八		西藏平定
一七三六		
	高宗	
一七五七		ズンガル部を滅ぼす
一七八二		四庫全書完成
一七八九		安南朝貢
一七九六		
	仁宗	
一八〇二		阮福映越南國王となる
一八二一		
	宣宗	
一八三九		阿片戰爭起る
一八四二		南京條約
一八五〇		長髮賊起る
一八五一		
	文宗	
一八五二		曾國藩兵を起す
一八六〇		北京條約
	穆宗	
一八六四		長髮賊平定す
一八七五		
	德宗	
一八八一		伊犂條約
一八八五		清佛戰役
一八九四		日清戰役起る
一八九八		戊戌政變
一九〇〇		北清事變
一九〇八		西太后死す
	宣統帝	
一九一一		革命黨武漢に擧兵・
一九一二		清朝滅亡

二五七〇　二五八〇　二五九〇　二五九五

中華民國

年	事項
一九一二	中華民國設立
一九一五	日支交涉
一九一六	袁世凱死す
一九一七	清帝の復位失敗
一九二二	第一奉直戰爭
一九二三	憲法制定
一九二四	第二奉直戰爭
一九二五	孫文死す
一九二七	張作霖大元帥となる
一九二八	國民軍の北伐成功
一九三二	上海事件
一九三七	支那事變起る

滿洲帝國

年	事項
一九三二	滿洲國建國 大同と建元 日本滿洲國を承認
一九三四	滿洲國帝政實施 第一世皇帝に溥儀執政即位 年號を康德と定む
一九三五	滿洲國皇帝陛下御訪日
一九三七	治外法權撤廢 行政移譲
一九三八	張鼓峰事件起る
一九三九	防共協定加盟
同	ノモンハン事件起る

旅行界時事

昭和十三年

十二月〔一日〕・安東交通株式會社創立營業開始・國營バス新線（通河—鳳山、富拉爾基—景星、梨樹鎭—麻山）營業開始・日本航空輸送會社と國際航空會社合併なり大日本航空株式會社創立業務開始〔二日〕・東亞のツーリスト斡旋と國情宣傳の爲ビユーロー駐在員を英領香港に設置〔五日〕・大連觀光協會では連鎖街に觀光案內所開設觀光相談斡旋土産品の陳列即賣を始む〔八日〕・牡丹江鐵道局、同市公署、同ビユーロー共同主催でスキー週間を實施、スキー展、スキーの夕、スキー大會開催・華中都市自動車株式會社上海に設立〔九日〕・上海渡航者に對するコレラ豫防注射證明書携行不必要となり是で全支コレラ防疫は一應解除となる〔十五日〕・日本國際觀光局滿洲支部に於て滿支旅行年鑑創刊〔二十二日〕・東滿猛獸狩團先發調査隊現地に出發。

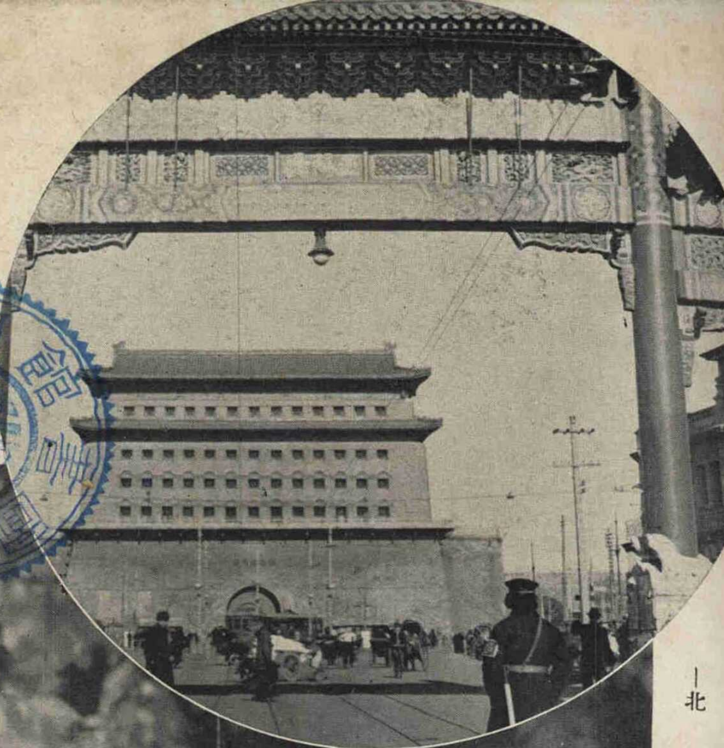
昭和十四年

一月〔一日〕・滿空ダイヤ全面的大改正・青島に豆タク三十臺入荷市內交通に當る・京包線主要驛（張家口、大同、厚和、包頭）で五錢の入場料を徵收開始〔十三日〕・大連埠頭待合所內で上海行旅客に鮮銀券竝國幣と日銀券の無料交換開始・滿洲觀光聯盟日本視察團十三名二十七日間の豫定で新京發〔十五日〕・津浦線徐州淮河間假營業開始〔二十日〕・滿鐵北支事務局で列車中に乘車紀念スタンプを備付く・同蒲線大同—寧武間假營業開始〔二十九日〕・體聯竝吉林體育協會主催全滿スキー大會吉林北山に於て實施。

二月〔一日〕・總局バス新線（鞍山—七嶺子、遼陽—海城）營業開始・滿空職制大改正〔八日〕・十二月中旬來我軍當局竝支那側當局協力の下になされてゐた天津英佛租界交通制限解除〔十日〕・滿空奉天—北京間「はやぶさ」機六人乘を以て運行開始・臨時政府舊法幣流通禁止佈告實施〔十一日〕・參加者四十一名より成る東滿地區猛獸狩無事終了獲物虎二、熊三頭外〔十五日〕・總局自動車新線通遼—構親蘇旗間外九線營業開始〔十六日〕・京包線第三〇一、三〇二列車に二等寢臺車連結〔十八日〕・東滿猛獸狩寫眞展奉天滿蒙百貨店に開催・濟南公會堂に旅館サービス座談會開催〔十九日〕・NYK桑港航路上海寄港再開〔二十日〕・臨時政府治下に於ける通貨統制工作着々進捗し舊法幣第二次大幅切下を實施す〔二十五日〕・總局、觀光聯盟主催大陸寫眞展先づ奉天に蓋明け〔二十八日〕・奉天日本總領事館外滿洲國內一部領事館閉鎖、之に伴ひ南滿居住外人旅券査證事務は新京日本總領事館に於て行ふこととなつた。

三月〔一日〕・奉天交通會社短コース遊覽バス運行開始（長コース四月一日より）・鐵道總局非常時旅客輸送の完璧を期し團體輸送を制限遊覽割引を休止す・同蒲線原平太原間、白家莊線太原北站白家莊間、西銘線王門溝西銘間假營業開始・津浦線徐州以南小荷物、貨物取扱開始・新京遊覽バス二回（九時、十二時半）運行となる・大同石佛寺行バス二回（九時、十四時）運行となる・同蒲線岱岳鎭、朔縣、寧武、太原及其他奧地方面旅行者は憲兵隊發給旅行證明書の携帶を要することとなる・上海アスターハウス日本人經營ホテルとして開業〔二日〕・大同驛構內食堂開業〔四日〕・蒙疆教育視察團新京訪問・鐵道省國際觀光局全世界から八百二十四名招待計畫決定〔八日〕・張家口市內バス運行開始〔十五日〕・同蒲線朔縣、

國都



—北京—

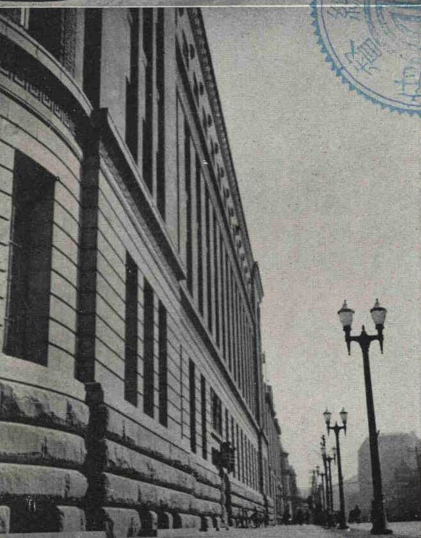


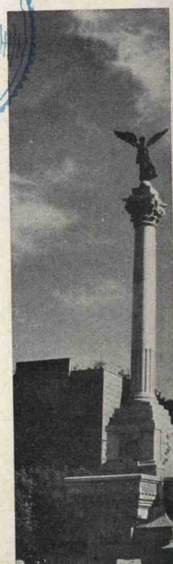
—新京—

都市



—青島—





—大連—

（昭和十四年十二月十九日 旅順要塞司令部檢閲濟）

—奉天—



—哈爾濱—

—天津—



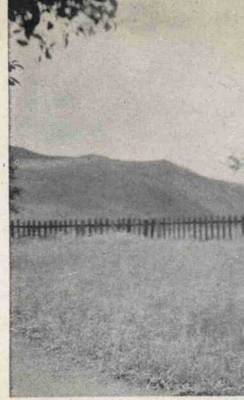


避暑地



—連山關—

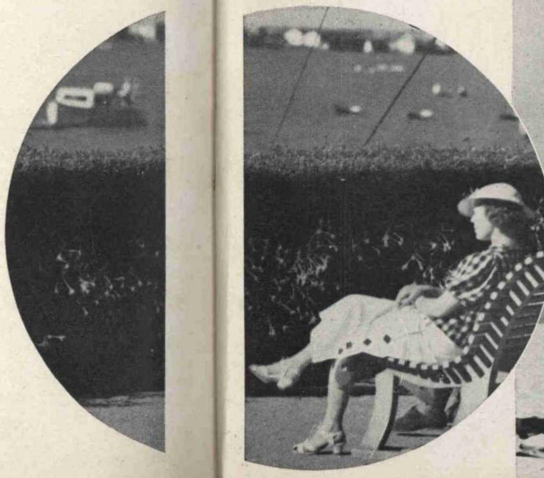




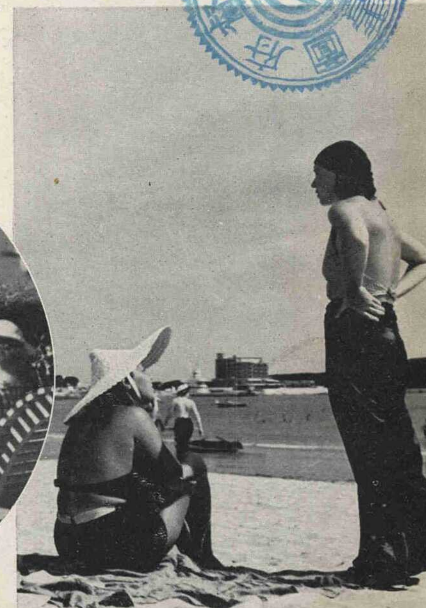
—巴林—



—興城—



—哈爾濱スンガリー—



—青島—

溫泉



—五龍背—



—湯崗子—



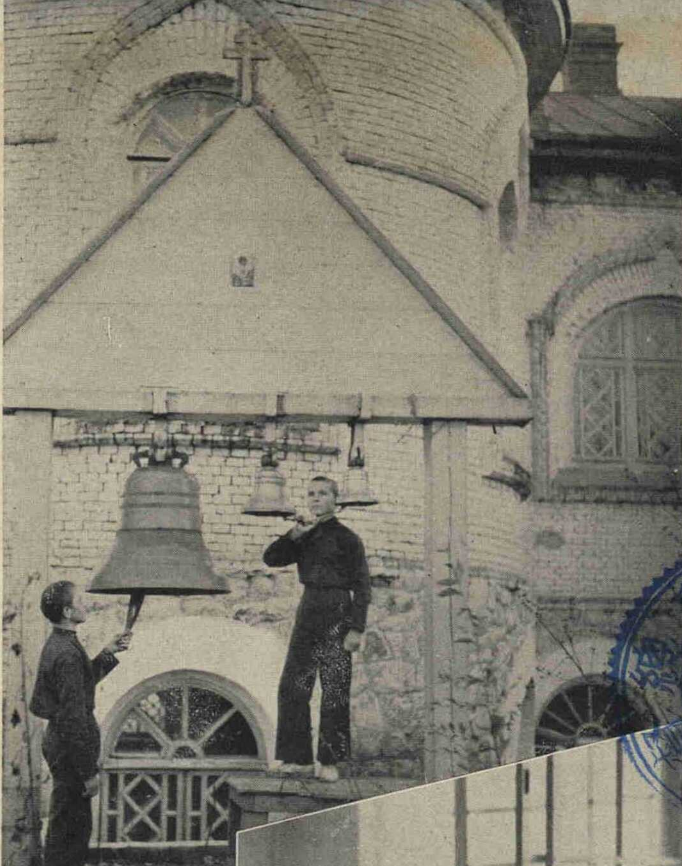
—新京—

忠靈塔

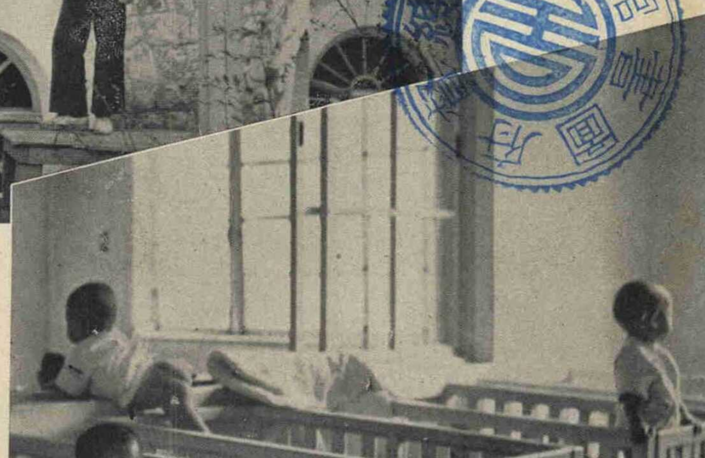


—哈爾濱—

救民



—哈爾濱ロスキーダム孤兒院—



—奉天同善堂—



—北京貧民煖廠—

寧武間假營業開始（二十日）・撫順觀光協會設立に關し打合會・黑河省訪日經濟視察團一行二十五名出發（二十五日）・同蒲線寧武—原平甲子灣線忻縣—定襄假營業開始・鐵道總局バス木蘭—東興、克音河—綏稜營業開始（三十日）・鐵道總局自動車新線八面城八家子間外四線營業開始（三十一日）・海拉爾蒙露人一行三十名櫻ニッポン觀光の旅に上る。

四月（一日）・淮河鐵橋架設工事完成し津浦全線開通列車運行開始さる。冬期休館中の湯崗子溫泉淸林館營業開始・中華航空に於ては北京上海、北京大同、上海漢口、南京漢口の新線營業を開始し、同時に舊線のダイヤを改正・津浦線全通北上處女列車浦口出發走行二日無事北京着・北支の一部新ルートを加へた「東亞觀光券」發賣開始（四日）・鐵道愛護協和少年團員より選拔の滿洲ユーゲント五十名訪日の途に就く（九日）・東京大學學生寫眞聯盟大陸カメラ使節團新京着（十日）・冬期休館中の五龍背溫泉聚樂館營業開始（十一日）・在哈視察團體昨年中三十萬突破と發表（十五日）・札蘭屯ラジウム保健浴場開場・新京ニューアジアホテル營業停止・鐵道總局自動車東山線外四線營業開始（十七日）・昭和十二年七月支那事變勃發以來二年皇軍、滿鐵社員其他尊き犧牲と努力とに依り新支那建設の大動脈たる華北交通株式會社北京に誕生（十八日）・滿洲觀光聯盟第三回總會奉天に開く・華北交通會社社員會北京で結成式擧行（十九日）・札蘭屯指導學校生徒蒙古人二十五名訪日教育視察に上る（二十日）・鐵道總局に於ては列車食堂竝構內食堂及車內販賣の各種飲料の値上を實施（一割—二割）・哈鐵露人從業員十二名日本觀光へ・華北交通株式會社の主要メンバーより成る「鐵道交驩使節」訪日の途に上る（二十八日）・水上クラブ經營のヨットクラブを繼承ハルピン鐵道局ヨットクラブと改稱、右利用內規を發表（三十日）・華中鐵道株式會社上海新亞ホテルに於て創立總會を開く。

五月（一日）・哈爾濱遊覽バス運行開始・南京戰跡、史跡巡覽バス運行開始・新京交通會社滿語說明遊覽バス運轉開始・鐵道省寢臺券及特急券前賣期日一部延長。・江南交通の中樞として敷設せられた海南、海杭、蘇嘉、京蕪等の各鐵道經營を軍鐵道局より移管され上海に華中鐵道株式會社創立、營業開始（三日）・自動車運輸國營路線吳家窩棚—霍爾莫津外四線追加交通部令公布（五日）・新鄉開封間完成し京漢、隴海線を連絡し開通式盛大に擧行（六日）・南朝鮮總督新潟で日本海航路整備に關しステートメント發表（七日）・奉天バス電車早廻競走にビューローチーム（中川、松尾）優勝（十日）・維新政府の發券銀行華興商業銀行上海に設立され業務開始・鐵道總局自動車、官地額穆間運行開始・日本觀光聯盟總會新潟市に開催（十二日）・青島市內自動車料金改正・ドイツガブレンツ機入滿新京着（十三日）・ドイツ記者團一行十四名入滿新京着（十五日）・運城蒲州間完成同蒲全線開通す・蒙疆聯合委員會通貨取締佈告を發し地域內では聯銀券も流通禁止となる（十六日）・第一回黃海聯盟總會大連商工會議所に開催（十七日）・滿鐵大村總裁部所長會議に於て事業方針に關し訓辭・日滿支第一回連絡運輸會議本日より三日間京城に開く（十八日）・蒙疆實業銀行協會訪日視察團一行無事歸還（十九日）・武漢市政府訪日視察團十一名東京着（二十日）・梅輯線黃柏陽岔間、溪城線牛心臺溫泉寺間假營業開始・金城線滿鐵移管同時に運賃引下・開封新鄉間鐵道假營業開始（二十四日）・伯林—槃谷間定期空路開設とルフトハンザ會社發表・奉天旅館組合宿泊料値上方願出

（二十五日）・哈爾濱松花江に遊覽船浮ぶ（二十八日）・滿鐵鐵道總局職制改正實施（三十一日）・北京人口百六十萬突破と發表。

六月（一日）・日空、滿空ダイヤ改正・北滿に東安、北安二省新設・鐵道總局バス運賃全面的に引下・興安嶺踏査隊昨年の逆コースを取りて一行十四名勇躍出發・綏寧線綏陽東寧間鐵道假營業開始・日空東京―新京、京城―大連、福岡―北京の各ダイヤ變更・華中鐵道バス第一次計畫金鹽線、淳化線、溧水線、餘光線營業開始・奉天市內バス新料金制實施（五日）・中支海南線にサービス姑娘乘せ豪華な一等車連絡・鐵道總局バス本溪湖―明山、湖南營―小石頭河子、七臺河―桃山營業開始・ホテル拂底の現況に鑑み新京大同廣場側に新ヤマトホテル建築に關し新京商工公會長滿鐵總裁宛要請す（九日）・天津租界愈々隔絕（十日）・大阪鮮滿支案內所敦賀駐在員事務所開設・青島・東海ホテル營業開始（十三日）・牡鐵主催鏡泊湖調査隊一行十五名出發（十四日）・天津英佛租界通行制限・奉天福岡間有線千五百粁直通電話開通日滿聲の握手成る（十五日）・隴海線新安徐州間營業開始・ビューロー竝滿鐵サンマーハウス各地に開く・日本旅行協會朝鮮支那にて「觀光朝鮮」發刊（十七日）・奉天觀光協會案內所驛前に業務開始（十九日）・滿洲より內地、朝鮮行旅客に對し携帶煙草免稅數量半減さる（二十日）・五龍背溫泉に保養館開設・內鮮滿臺間旅客手荷物の連帶運輸規定改正實施・同蒲幹線陽明堡線原平―崞縣假營業開始・寧武太原間假營業開始（二十三日）・華北交通會社北支自動車輸送擴充五ヶ年計畫（二萬一千粁）を發表（二十五日）・承德北支觀光券の發賣を停止す（二十六日）・新潟埠頭待合室に鮮滿支案內所派出所を設置し斡旋を開始す（二十七日）・滿鐵經營阿爾山ホテル都合により一時營業中止（三十日）・華北交通株式會社自動車營業路線六、〇〇〇粁を突破六、〇八一粁に達せりと發表・奉天北陵一帶の公園化第一期工事一先づ完了第二期工事開始・

七月（一日）・外國爲替管理に關する大藏省令を改正海外旅費自由携帶額五百圓に引下ぐ・門司鮮滿支案內所長崎駐在員事務所開設・西鮮中央鐵道株式會社平壤府濱町に設立・溪城線溫泉寺泉水間假營業開始・鐵道總局バス克音河瑞穗村間、克音河綏稜間の新線假營業開始・青島海水浴場開場・北支より中支方面への航空便開始・華中鐵道バス南蕪、浦錫、吳江、光福、無錫の五線營業開始（三日）・隴海線阿湖新安間營業開始・滿洲國自動車運輸事業國營路線綏棱―香川村外七線一七三粁追加の交通部令交付（六日）・滿洲觀光聯盟主催第八回觀光業務打合會本日より三日間吉林市民館に開催（八日）・吉林年中行事の隨一觀光協會主催の川祭擧行・北京洋車料金統一・北京天津と日鮮間を繫ぐ電話愈々開通（十日）・天津新興路バス運轉開始・奉天加茂町平和ホテル廢業（十一日）・關印ハイスクール女教員團奉天着（十五日）・鐵道總局バス東寶線（東安―寶淸）營業開始（十六日）・海南線に姑娘サービスの食堂車出現（十九日）・七月二十日を期し華興券を法幣と絕緣し再度華興券の價値基準を對英六ペンスとすることゝなり右に關し維新政府より聲明書發表（二十日）・國線通淸線鴨園道淸間鐵道假營業開始・鐵道總局バス延吉―龍井外四線營業開始・齊齊哈爾觀光協會設立に關し關係者市公署に準備會を開催（二十九日）・滿洲開發鐵道犧牲者七、四〇九名と發表（三十日）・新開拓國策大綱內容拓務省より發表・滿鐵華交社員會最初の連絡會議を山海關に開催し共同聲明書を發表す（三十

一日〕・華北交通會社自動車路線七、一七七粁と發表。

八　月〔一日〕・爲替管理法に基く大藏省令改正に呼應從來の爲替管理法を改正し海外持出旅費制限を強化す・滿鐵所管線(除北鮮線)驛名新稱呼制定さる・臨時政府及興亞院では「北支自動車處理對策」を決定實施・從來軍の統制監理であつた北支自動車交通事業は事變前通り領事館に移る・關東州外國爲替管理法規改正實施〔五日〕・東亞海運株式會社創立總會東京會館に開く〔八日〕・華南文化協會廣東で結成式〔十一日〕・新京地下鐵工事調査の爲大阪市電氣局運輸部長橋本敬之氏外八名着京〔十二日〕・日滿實業滿洲支部は東京新京間三十六時間連絡を提案〔十三日〕・鐵道總局、大每、東日共同主催で日滿綴方使節を招聘一行恙く奉天着・興中公司の北支新港臨時建設事務局開設塘沽港築港に乘り出すことゝなつた〔十五日〕・北黑線に朝水驛(額爾—瑷琿)新設・日本觀光通譯協會創立總會鐵道省に開かる〔十六日〕・東洋一を目指す上海中央停車場建築と華中鐵道田副社長の車中談〔十八日〕・鮮滿支交通ブロック强化の爲鐵道總局に滿鐵華交鮮鐵關係者參集第一回鮮滿支案內所會議を開催・世界一を誇る東京飛行場(城東區砂町海岸沖埋立五十萬坪)起工式盛大に擧行〔二十日〕・大連第四埠頭の工事完成滿洲最初のケーソン使用・新京—淨月潭遊覽バス運行開始〔二十四日〕・天津洪水被害三億五千萬圓と發表〔二十五日〕・海運の全面的統制に關し閣議で田邊遞相より報告〔二十九日〕・日滿航路日發制は十六年よりと岡田大阪商船副社長大連で語る〔三十一日〕・大日本航空株式會社創立總會東京日本工業俱樂部に開催玆に同社は正式成立を見九月一日より營業開始・釜山新義州間超快速バス運行計畫發表

九　月〔一日〕・蒙疆七百萬民衆要望の德王を首班とする新統一政府「蒙古聯合自治政府」成吉思汗紀元七百三十四年を期し張家口に成立・通化輯安間鐵道假營業・茂山鐵山開發を主眼とする「北鮮拓殖株式會社創立總會東京に開く・北中支鐵道一貫輸送に關する協定成立主要驛間の直通連絡切符發賣さる・北支水運復興のトップを切り華交水運部では小淸河の旅客、荷物運輸を開始・日空福岡京城間普通定期便每日運行復活・船車連絡に萬全を期し羅津市內バス滿鐵經營となる・上海海關の關稅の徵收新規定制定實施・蒙古聯合自治政府誕生〔七日〕・歐洲戰爭勃發の爲シベリア經由歐洲間貨物輸送を中止すると共に旅客のシベリア經由歐亞連絡「通し切符」の發賣を中止〔八日〕・七月以來水害のため不通の京古線全通・臨時政府建設總署は豫算六百十五萬圓五ケ年計畫にて北支六都市に空港擴張と發表〔十日〕・修理の爲營業停止中の哈爾濱驛構內食堂再開・日空太刀洗—北京運行開始・奉天市內タクシー、メーター制となる〔十一日〕・青島空路第一便晴のロッキード利根號太刀洗を出發す〔十三日〕・滿鐵一萬キロ突破を期し明十五年一月一日より全滿學童七千人の通學汽車賃全免と發表〔十五日〕・撫順線大官屯驛客荷運輸營業開始・日空東京—福岡郵便貨物專用機隔日就航〔十八日〕・滿航新京—奉天—京城線營業開始〔二十日〕・日本北中支間の貨客連絡運輸擴張統一規定實施〔二十五日〕・通遼線道淸八道間假營業開始・乘船切符共同發賣所大連埠頭內に竣工〔二十七日〕・二月以來發賣を停止されてゐた十一種類の家族遊覽券中第一種(旅順行)第四種(撫順行)復活發賣〔二十八日〕・穆稜驛構內食堂及立

賣當分の間停止・滿浦、梅輯完通により朝鮮從貫鐵道成り滿浦に於て盛大な全通式を擧行す（二十九日）・國策貨物を選び國鐵運賃引下に關し鐵相閣議に提示す（三十日）・奉天溫泉ホテル廢業。

十月（一日）・大連都市交通會社では新コースに依る旅大觀光バス定期運轉を開始、走行一五〇粁十一月三十日迄實施することゝなつた・本溪湖に市制實施・日ー滿鮮最捷ルート梅輯線開通により滿鐵經營鐵道は一〇、〇六六粁五と輝く新記錄を築く・新京名古屋ホテル再建開業・戶口調査の結果奉天の總人口百四萬四千三百餘名となる・朝鮮、樺太の陸接國境に係る「國境取締法施行令」實施・東亞海運株式會社營業開始・東京ー臺北ー廣東定期空路開設・滿洲事情を寫眞で紹介・新京に「フートサービス」開始・石太線改軌工事成る・滿空ダイヤ改正により新京福岡間日に二往復となる（二日）・華北交通正太線を石太線と改稱太原楡次間の準軌區間を石太幹線に追加・同蒲線に「北營西站」「鳴李西站」の新驛設置（五日）・北京西部に新市街三百萬坪の大都市計畫案成る・七衛星都市を連ねる人口三百萬大奉天都邑計畫案成る（七日）・奉天驛第二第三ホームに急行劵發賣所を開設・關東州人口八月末現在百二十五萬一千五百九十人內日本內地人十八萬五千二百三十九人と發表・滿鐵一萬粁突破記念ポスター入選者決定一等春田太治氏（八日）・朝鮮上海間國際電話開通（九日）・水害以來歸還者を除く天津行一般旅行者は旅行證明書の外軍の裏書證明書が必要だつたが全面的に解除さる（十日）・白阿線に平臺驛新設・鐵道總局バス寧安溫春間營業開始・營業停止中の穆棱驛構內食堂及驛ホーム立賣復活・第二回東洋觀光會議本日より五日間京都市に開催東亞觀光連絡運輸契約案外可決・營口水道交通事業を奉南交通會社へ讓渡に決定株主總會開催（十一日）・元町一丁目二三に新築中の鐵道總局直營羅津ヤマトホテル竣工營業開始（十三日）・航空安全性强化豫算一億圓五ヶ年計畫內容遞相閣議に說明・興亞の大輸送目指し關門隧道更に一本增設案閣議で決定・同蒲線東關鎭ー南關鎭開通（十四日）・大連第四埠頭竣工成り荷役開始（十五日）・鐵道總局バス新線鴨園八道間營業開始・關釜連絡船一等船客に船名指定制實施（十六日）・華工商業銀行杭州支行開設（十七日）・南潯鐵道復舊晴れの開通式（十八日）・滿鐵滿日共同主催「滿洲交通展」奉天に開催五日間の入場者十五萬人と發表・本日より六日間鐵道省に於て日滿支交通一元化第二回打合會を開催旅客貨物運輸取扱規定改訂事項は十五年六月一日より實施の豫定・海運日本の推進力調査機關案大擴充のため永井遞相關係者を招致協議（二十一日）・滿洲鐵道一萬粁突破記念祝典竝慰靈祭奉天外各地に實施さる・滿洲交通博物館北奉天驛に設置と決る・遞信省では「日本海々運株式會社」設立に關し關係官廳代表者を招集、本省案を附議大體設立に決定を見る（二十三日）・隴海幹線阿湖新浦間竝大浦線新浦大浦間の運送營業開始・省次長會議に於て飯野交通部次長は哈爾濱ー大連に幅員四十米の高速度自動車專用道路建設計畫概要を說明公示し多大の反響を起した（二十四日）・滿鮮國境朝鮮內にて國幣流通十二月限

り禁止と發表〔二十六日〕・日滿中央協會派遣雜誌記者團二十七名出發〔二十七日〕・鐵道幹線調査會特別委員會は工費五億四千萬圓で東京下關間廣軌複線敷設計畫を決定〔二十八日〕・東滿海線に感慨の打止式連雲港で擧行さる〔三十日〕・臨時開拓民審議會首相官邸に開催滿拓・滿鮮合併正式決議〔三十一日〕・國都新京の人口四十一萬七百五十四人となる・滿洲國營、民營自動車路線四萬粁突破。

十一月〔一日〕・綏神線綏化─神樹間一三五・八粁本營業開始・三等寢臺番號稱呼改正・同蒲線に新驛（義棠、什林）設置・山海關、古北口經由支那行旅客の便宜を圖り奉天驛第四ホームに聯銀券兌換の取扱を開始・北京驛構内に兌換所開設三百圓を限度に滿洲國幣蒙銀券日銀券の交換に應ずる・鐵道總局バス密山寶淸間一四七粁の運行開始・旅順戰跡視察バス連絡時刻改正・新京觀光バス運行回數變更・溪城線泉水─田師付、神帶線神樹─帶嶺鐵道假營業開始・朝鮮各地にある日本式旅館の國體宿泊料金改正一月一日より實施のこと丶決る・民營交通事業統制方針に基き鞍山明治區明治通北八番町に「奉南交通株式會社」誕生・全滿鐵道ダイヤ改正・特急「あじあ」鞍山一分停車・滿鐵華交全線に亘りダイヤ改正・鮮滿支直通客貨車乘入れ協定成立實施・九大松尾博士來滿を期に日本溫泉協會滿洲支部奉天ヤマトホテルに溫泉座談會開く・マンチュリアーデーリー・ニュース社大連より新京に移轉・華北電々電報料値上げ〔三日〕・工事中の滿空新京飛行場竣工移轉〔五日〕・中華航空會社第一回監督委員會北京に開く〔六日〕・日本海横斷航路による內鮮滿連絡運輸事務打合會長野市に開く〔七日〕・七嶺子廣臺溫泉阿片癮者療養に最適と九大松尾博士發表〔八日〕・新義州を起點とし鴨綠江口に於ける唯一の不凍港として新に開港の多獅港間を結ぶ多獅島鐵道開通〔九日〕・華興、聯銀券の交流辦法成り長江貿易活況を呈せん〔十日〕・日本海々運國策會社設立官民協議會遞相官邸に開催・一億二千萬圓の巨費を投ずる大東港建設に關し堀內同建設總署長安東より放送〔十一日〕南・京漢口間定期空路營業開始〔十三日〕・北支方面行旅行者コレラ豫防注射證明書携帶解除・蒙銀紙幣發行高五千萬圓突破〔十五日〕・工費二十八萬圓を以て錦縣新驛舍落成・門司市五十周年祝賀式擧行〔二十一日〕・滿鐵非常時旅客輸送訓練旬間開始、ビューロー接遇向上旬間開始・鞍山附近禁獵區十二月一日より五ヶ年間實施と發表〔二十三日〕・日滿連絡定期船の日發制二月より實現豫定と商船岡田副社長船中で語る〔二十五日〕・北支連雲港第二埠頭復舊工事竣成十二月一日より埠頭營業開始と決る

〔二十七日〕・日本紀元二千六百年滿洲國慶祝委員會事業竝行事決定發表・北邊振興策に即應し第六十一次國務院會議に交通機構擴充要綱上程通過一月一日より實施〔二十八日〕・關釜間に二隻の小型船を就航一日七千名輸送に關し鮮鐵、內鮮滿輸送會議に提案・商船大連ラインに二月より五隻增配一部を二等室に改造と發表・日泰間に定期航空協定調印終る・壘爾根─霍龍門鐵道一〇三粁七完成し十二月一日より假營業開始と發表

旅行機關

鐵道

南滿洲鐵道株式會社

會社は日本政府の明治三十九年六月七日勅令第百四十二號を以て設立の件公布せられ同年八月一日附命令書に基き、鐵道運輸事業を經營すると共に、その便益のため附帶事業として倉庫業、車輛工場、炭礦及びこれに附隨する各種化學工業、海運業、港灣を經營し、滿洲國有鐵道の委託經營、同新線建設の受託、會社附屬地內土地建物の經營、土木、教育、衞生及び產業に關する各種の施設をなし(治廢により移讓)廣く東亞の各地に亙つて調查事業を遂行する傍製鐵瓦斯、電氣、窯業、旅館、船渠、石炭業、輸入組合、炭山採木事業、運送業、土木業、倉庫業等を育成、又は助成してこれが發展に資する等單なる鐵道事業に止まらず、關係會社も七十九社に及んで居り、更に昭和十四年には北支經濟開發の原動力たる華北交通會社を誕生せしめ又北滿航運業を接收した。

會社設立當時に於ける資本金は二億圓であつたが、大正九年四月資本金を四億四千萬圓に、更に昭和八年三月八億圓に增資したが雙方共依然半額政府、半額民間の方針を執つてゐる。

創業の際の從業員數は職員二千餘名傭員四千餘名に過ぎなかつたが、現在社員外從事員を加ふれば約二十萬人に及んでゐる。

滿鐵鐵道總局

滿洲國は舊東北政權管下の鐵道その他を經營するに當り昭和八年二月九日交通部佈告及び訓令を以て「大同二年二月九日に於て國有鐵道、松花江官營水運事業及び各項附屬事業を南滿洲鐵道株式會社に委託して經營せしむ」と發令し同年三月一日滿鐵は奉天に鐵路總局を設置し之が經營に當らしめた。總局は昭和九年（康德元年）四月一日管下九鐵路局を四鐵路局に廢合整理し一部路線の合併改稱と同時に運送規定の改正統一を行ひ、一方滿鐵鐵道建設局が滿洲國の意を體して新設せる路線は完成と同時に總局に於て之を經營することゝなり、更に昭和十年(康德二年)三月二十三日滿蘇共同經營の北滿鐵路の讓渡と同時に之を總局の管下に移したため、總局の業務は著しく擴大したのである。

越えて昭和十一年(康德三年)十月一日滿鐵社線、北鮮線（北鮮鐵道管理局線）及び國線（總局所管の國有鐵道）を統合して經營の一元化となり、職制改正を行ひ茲に鐵道總局と改名し各鐵道を擧げて管轄せしむることゝなつた。

即ち滿洲國建國後國有鐵道二千八百餘粁の經營を受託して滿鐵の所管線は俄に四千餘粁に激增、殊に國線は年々絕えず建設せる新線と昭和十年に接收した舊北鐵を加へると實に受託當時の三倍—八千四百餘粁に垂んとし、更に北鮮の受託鐵道三百五十粁と社線一千二百三十一粁を合せて蜿蜒一萬六六粁に達し、今や全線滿鐵の傘下に整然たる一元的統制をもつて合理的運營を續け

大陸鐵道政策遂行に邁進してゐる。國線經營後七箇年、國防に産業開發に其使命の重大性をよく認識せる滿鐵社員は一方滿洲開發の先驅者となつてあらゆる艱難を克服し、糧食の缺乏にも耐へながら特有の精神力と技術能力とを以て奮鬪を續け、四千餘粁の鐵道を建設したことは世界鐵道建設史上に誇示するに足るものである。

▽滿鐵社線

		粁
連京線	大連—新京	七〇一・四
安奉線	安東—蘇家屯	二六〇・二
埠頭線	大連—大連埠頭	二・九
撫順線	蘇家屯—撫順	五二・九
旅順線	周水子—旅順	五〇・八
營口線	大石橋—營口	二二・四
煙臺炭坑線	煙臺—煙臺炭坑	一五・六
甘井子線	南關嶺—甘井子	一一・九
渾楡線	渾河—楡樹臺	四・一
吾妻線	大連—吾妻	二・九
入船線	沙河口—入船	四・〇
溪城線	明山—牛心臺	一四・九
金城線	金州—城子疃	一〇二・四
計		一、二三一・二

▽國線

		粁
奉吉線	(吉林・奉天間)	四四七・四
壺蘆島線	(錦西・壺蘆島間)	一三・一
奉山線	(北奉天・山海關間)	四二三・四
河北線	(溝幇子・河北間)	九一・一
北票線	(金嶺寺・北票間)	一七・九
葉峰線	(葉柏壽・赤峰間)	一四六・九
錦古線	(錦縣・古北口間)	五三六・三
新義線	(新立屯・義縣間)	一三一・五
平梅線	(四平街・蓮河間)	一四九・二
梅輯線	(梅河口・輯安間)	二四四・八
大鄭線	(大虎山・鄭家屯間)	三六六・二
平齊線	(四平街・齊齊哈爾間)	五七一・四
楡樹線	(齊齊哈爾・昂昂溪間)	二八・七
京白線	(新京・白城子間)	三三二・六
白阿線	(白城子・阿爾山間)	三七七・〇
寧墨線	(寧年・墨爾根間)	一八〇・三
北黑線	(北安・黑河間)	三〇二・九
虎林線	(林口・虎頭間)	三三五・七
齊北線	(齊齊哈爾・北安間)	二三一・五
濱北線	(哈爾濱・北安間)	三二四・九
綏神線	(綏化・神樹間)	二三五・八
拉濱線	(三棵樹・新站間)	二六六・一
京濱線	(新京・哈爾濱間)	二四二・〇
濱洲線	(哈爾濱・滿洲里間)	九三四・八
汪北線	(汪淸・北荒嶺間)	八三・四
龍豐線	(龍潭山・大豐滿間)	三三・七
濱綏線	(哈爾濱・綏芬河間)	五四六・四
朝開線	(朝陽川・開山屯間)	六〇・六
京圖線	(新京・圖們間)	五二八・〇
圖佳線	(圖們・佳木斯間)	五八〇・二
梨樹線	(下城子・梨樹鎭間)	三三・八
綏寧線	(綏陽・東寧間)	九六・二
佳蓮線	(佳木斯・蓮江口間)	一三・七
通滑線	(鴨園・道滑間)	一六・一
計		八、四八二・九
北鮮線		三五二・四粁
總計		(一〇、〇六六・五)

鐵道總局組織

南滿洲鐵道株式會社
- 鐵道總局
  - 庶務課、文書課、業務課、弘報課
  - 人事局：人事課、養成課、調査課、厚生課、保健課
  - 經理局：第一經理課、第二經理課、會計課、調度課
  - 調査局：調査課、資料課
  - 營業局：旅客課、旅館課、貨物課、混保課
  - 輸送局：配車課、運轉課、車輛課
  - 水運局：水運課、築港課
  - 自動車局：營業課、技術課
  - 工作局：工作課、工場課、機械課
  - 工務局：保線課、改良課、建築課、電氣課、水道課
  - 建設局：計畫課、工事課
  - 附業局：産業課、土地課、愛路課、拓植課

- 輸送委員會
- 參賛
- 監察
- （設備委員會）
- 鐵道局（奉天、錦州／吉林、牡丹江／哈爾濱、齊齊哈爾）
  - 總務課
  - 人事課
  - 經理課
  - 營業課
  - 輸送課
  - 自動車課
  - 工務課
  - 電氣課
  - 附業課
  - 鐵道監理所
  - 驛
  - 埠頭
  - 列車區
  - 機關區
  - 檢車區
  - 工務區
  - 電氣區
  - 自動車區
  - 電氣修繕場
  - 電信所
  - 滿洲青年義勇隊鐵道自警村訓練所
  - 大連埠頭事務所（奉局ニ限ル）
  - 鐵道局教習所
  - 醫院
  - 富拉爾基保養院
  - 工事事務所
- 北滿航運局
  - 總務課
  - 運輸課
  - 船舶課
- 北鮮鐵道事務所
  - 總務課
  - 經理課
  - 運輸課
  - 工務課
  - 醫院
- 鐵道學院
- 鐵道技術研究所
- 北滿鐵路殘務整理事務所
- 鐵道技術員養成所
- 福祉生計所
- 保養院
- 撫順醫院
- 林業事務所
- 畜產加工所
- 圖書館
- 鐵道工場
- 建設事務所
- 築港事務所

【滿鐵重役】 ▲總裁 大村卓一▲副總裁 佐々木謙一郎、佐藤應次郎▲理事 中西敏憲、武部治右衛門、久保孚、伊澤道雄、平島敏夫、平山復二郎、猪子一到、大垣研▲監事 大橋新太郎、小倉正恒、原邦造、森廣藏、安宅彌吉

【滿鐵顧問】 田中清次郎、木原清、丸澤常哉、小日山直登、川原宏（昭和十四年七月現在）

▲會社幹部名略

朝鮮總督府鐵道局

建設は明治三十二年九月京仁鐵道合資會社に依る仁川・永登浦間三十二粁餘を以て嚆矢とし、翌三十三年七月之を西大門に延長し京城・仁川間を通ぜしめ、同三十四年京釜鐵道株式會社成立するや、直に京城釜山間の工事に着手し同三十八年一月京釜線の開通を見た。

更に同三十七年臨時軍用鐵道統監部は日露戰役中軍用線として京義線及馬山線の急設に着手し、馬山線は同三十八年十月、京義線は同三十九年四月兼二浦に至る支線と共に開通し、茲に半島を縱走する主要幹線を竣成せしめた。

次で同三十九年七月帝國政府は京釜及京仁線を買收して國有と爲し、同時に統監府鐵道管理局を設け陸軍の所管に關する京義・馬山の兩線を其の管理に移し、以て朝鮮に於ける鐵道の統一經營をなし其後同四十二年十二月鐵道院の所管に移りたるが、同四十三年十月朝鮮總督府の設置と共に其の管理に復歸した。

而して大正六年七月に至り政府は朝鮮交通貿易上の見地より其の經營を南滿洲鐵道株式會社に委託したるも、其の後時勢の推移は直接經營の必要を認むるに至つたので同十四年三月末日限り之を解除した。

此の間既成線の改良に努むると共に一面地方開發に資せんがため主要港灣に通ずる新線の建設を計畫し、平壤より鎭南浦に至る平南線は明治四十三年十月竣成し、湖南線及京元線は大正三年孰れも其の工を竣へ、引續き咸鏡線の工を起し昭和三年九月に至り之を全通せしめた。

茲に於て鮮內各地方の交通狀態は著しく面目を改むるに至りたるが、朝鮮產業開發

上鐵道の普及促進は最も緊急施設なるを以て、政府は既定計畫に屬する平元線の建設及新に昭和二年度以降十二箇年の繼續事業として圖們・惠山・滿浦・東海・慶全の五線建設竝に其の間に介在する私設鐵道買收等に關する計畫を樹立し爾來着々實施中である。

而して昭和八年に至り圖們線の完成と滿洲國京圖線の竣工に伴ひ、北鮮竝に滿洲とを連絡し、更に裏日本一帶との新なる交通路を展開するに至りたるを以て、之が連絡運輸の完璧を期するため、同八年十月一日以降輸城以北の鐵道三百二十八粁五を滿鐵に委託經營せしめた。

一方國境地方に於ける產業開發、國防警備上の見地より、北鮮拓殖鐵道建設を企圖し、昭和七年度より之が建設工事に着手し、已に一部の營業を開始した。更に同七年滿洲國成立以來日滿間の交通激增し、一般經濟界の殷盛と共に、貨客輸送亦著增せるを以て之等輸送を緩和し且朝鮮中央部に於ける資源開發に資せんがため同十一年十二月より永川・東京城間の中央線建設中である。

而して現在營業粁は約四千粁に及んでゐる。

【組織及幹部】▲鐵道局長（工藤義男）—庶務課長（大島寅治）、調査同（田邊多聞）、監督同（西崎鶴司）、營業同（大和田福德）、運轉同（原　鑒）、建設同（江崎義人）、保線同（鈴木　敏）、改良同（淸水幸次）、工作同（崎山參一郎）、電氣同（永井研三）、經理同（小林利一）▲鐵道事務所（釜山、太田、京城、平壤、順天、元山、城津）▲建設事務所（京城、平城、安東、江陵）▲改良事務所（釜山、京城、平壤）▲工場（釜山、京城、淸津）▲鐵道病院▲鐵道從事員養成所

華北交通株式會社

今次支那事變の最も輝かしい戰果の一つとして、日華蒙協力の下に創設された特殊會社であり華北、蒙疆に於ける交通の總元締である。

經營の前途は頗る多難を豫想さるゝが稠密な人口と天與の資源に立脚する以上、前途は洋々たるものがあらう。又人的には大多數の中國從業員を包擁し、交通網を媒體として民族の融合提携に身を以て實踐しつゝある。まことに華北交通會社はわが大陸政策の先驅として、東に滿洲、朝鮮を結び、南は中南支に連り、西は中央アジアにも及ぶべき大陸交通の中樞に位置し、眞にアジアの大動脈であり、世界の公器である。その動向には常に國民的關心が寄せられねばならない。全從業員はその使命を體して勇奮力行しつゝあり、事變發生以來皇軍と形影相伴ひ、寸鐵を帶びぬ身を挺して聖戰の華と散つた社員は既に四百名を超えてゐる。

【創　立】昭和十四年（民國二十八年）四月十七日

【社　員】八萬人、このうち日本人は約二萬、他の約六萬は華人。日人社員は滿鐵會社、鐵道省その他の出身者、華人社員の大部分は舊北支鐵道從事員たりし者で、一部滿鐵出身者も加つてゐる。日人社員制としては職員、雇員、傭員の三段階あり、職員中の高級者には參事、副參事の待遇名が與へられる。

【重　役】總裁一人、副總裁二人、理事五人以上、監事三人。總裁、副總裁は株主總會で選任し政府の認可を要する、任期五年。理事、監事は株主總會で選任、任期は理事四年、監事三年。

【會　計】資本金　三億圓

出資內譯	北支那開發株式會社	一億五千萬圓
	南滿洲鐵道株式會社	一億二千萬圓
	中華民國臨時政府	三千萬圓

總株數—六百萬株　一株—五十圓
社債募集限度—拂込株金額の三倍まで
營業年度—十月一日から九月末日
定時株主總會—每年十二月

華北交通會社は國有鐵道の運營に任ずるのであるが、經營上の損失は政府の保證に據らず、全部會社の負擔となる。また北支鐵道が有する巨億の借款整理に資するため、政府に相當額の上納金を納付すべき義務を負はされて居り、華北交通株式會社法に定むるところにより華北に於ける鐵道、自動車、水運竝に之に附帶する諸事業の經營

又蒙疆政府の委託により蒙疆に於ける鐵道竝にその附帶事業の經營に當る。

鐵道は會社業務の根幹にして北支、蒙疆鐵道の總延長六千二百三十餘キロの大部分は既にその經營下に入つた。戰局の進展に伴ふ占領線の伸長、軍鐵一致の健鬪による復舊補强作業の進捗につれて、特殊輸送に遺憾なからしむると共に、一般營業路線も急速に伸展しつゝあり全鐵道の平常化は近きに在りと信ぜられる。

【線別營業粁程】

		粁
京山線	（北京—山海關）	四二二
京古線	（北京—古北口）	一四五
京漢線	（前門—新郷）	六一五
新開線	（新郷—開封）	一〇三
津浦線	（天津—蚌埠）	八三九
膠濟線	（青島—濟南）	三九三
京包線	（北京—包頭）	八一六
同蒲線	（大同—風陵渡口）	八五七
正太線	（石門—太原）	二四〇
隴海線	（連雲—寶鷄）	一二三一
その他		六六七

【機構】

總裁室＝企畫委員會、總務局、人事局、主計局、資業局

經理部、運輸部、自動車部、水運部、工作部、工務部、警務部、監察室、輸送委員會、參與、東京事務所、鐵路局

鐵路局＝總務處、經理處、營業處、輸送處、工作處、工務處、電氣處、警務處、鐵路工廠、鐵路辦事處、鐵路出張所、鐵路監理所、鐵路學院、自動車事務所

【幹部】 ▲總裁（宇佐美寛爾）▲副總裁（殷同、後藤悌次）▲理事（杉廣三郎、周培炳、山口十助、新井堯爾、太田久作、孫瑞林、佐原憲次、闞尙銳）▲監事（陸夢熊、吉田浩、伊澤道雄）

▲局長（總務）高橋定一、（人事）沖田迅雄、（主計）福川篤四郎、（資業）伊藤太郎、（同次長）加藤新吉▲企畫委員會幹事長 伊藤太郎▲部長（經理部長）後藤副總裁、（同次長）福川篤四郎、（運輸部長）佐原理事、同次長芳賀千代太、小池文雄、（自動車部長）陶理事、（同次長柔）小池文雄、（水運部長）佐原理事、（同次長）貫井輝四郎、（工作部長）太田理事、（同次長）三宅靜一、（工務部長）杉理事、（同次長）柳ケ瀨正哉、（警務部長）磯谷屯、同次長八木沼丈夫、三原敏男、（監察部長）孫理事▲輸送委員會委員長 太田理事▲東京事務所長 佐藤晴雄▲鐵路局長 天津（周慶潮）、北京（下津春五郎）、張家口（郡新一郎）濟南（平田驟一郎）、太原（大里甚三郎）

華中鐵道株式會社

中支に於ける支那事變占領鐵道の運營は軍の管理下に於て軍鐵道局により行はれたが、軍特務部に於ては昭和十二年末既に中支鐵道會社設立の計畫を樹て、之が準備に當りつゝあつた處、中支に於ける日本權益の設立を急ぐ一般的狀勢と、鐵道運營機構の强化を目指す氣運濃化と相俟つて昭和十二年末以來急速に會社設立準備業務の進行を見、遂に中支振興株式會社の子會社として昭和十四年四月三十日華中鐵道會社の創立總會を開催、五月一日より營業を開始するに至つた。

一、法人 維新政府の法令に基く支那特殊法人

二、資本 五千萬圓（四分の一拂込）

三、組織 社長、副社長の外取締役、監査役あり、社員は參事、副參事、參事補、社員、雇員、傭員制に分つ。

従つて從來軍に於て運營してゐた江南三角地帶の鐵道は本會社に移管され、更に主管路線に於ける自動車運輸及び之に附帶する事業の經營に當ることゝなつた。所管線左の通り。

鐵道の部

	粁
海南	三一一・〇四
海杭	一九五・八三
呉・淞	一七・六三
海杭支	七・三六
蘇嘉	七四・四〇
南寧	一八六・〇〇
同支	二一・四〇
津浦	一七五・二二（但蚌埠以南）
淮南	一一七・二四
外に	九六・四四
計	一、二〇二・五六

自動車の部（自動車の部參照）

【機構及幹部】 ▲總務部（總務、經理、調査課）▲技術部（工務、工作、電氣課）▲業務部（營業、輸送、自動車課）

▲副社長 田誠▲常務取締役 上林市太郎、堀尾豐熊、何志杭▲取締役 國澤新兵衞、陳伯藩▲監査役 園田三郎、王建民▲總務部長 上林市太郎（總務課長小幡靖、經理課長 郷野基秀、調査課長未定）▲業務部長何志杭、同副部長井上剛（營業課長、平野玄雄、輸送課長津田滿壽次、自動車課長未定）▲技術部長 堀尾豐熊、（工務課長 吉岡重慶、工作課長平山鑿、電氣課長未定）

航路

大阪商船株式會社

明治初年、大阪を中心とする海上運送業は折からの文明開化の風潮に乘つて群小船會社の濫立をみたが西南役後大會社の機運に達し明治十七年大阪商船株式會社の結成創立を見るに至つた。當時會社の資本金は僅かに百二十萬圓、使用汽船も一萬七千噸航路浬數も四千九百八十六浬で、僅々瀬戸內海を營業範圍とするに過ぎなかつた。

其の後日清、日露の二大戰役を契機として航路範圍は朝鮮から臺灣、支那沿岸に伸展し日露戰役後には香港を起點としてマニラ及び日本諸港を經由、北米ピユーゼツトサウンドに至る北米航路の開設を見、此處に大阪商船は世界海運界デビユーの第一歩を踏み出した。大正三年七月歐洲に大戰亂の勃發するや海運界空前の黃金時代を現出し、大阪商船も亦その風雲に乘じて經營の一大發展をなし世界海運屈指の大船會社に迄躍進したのである。

爾來南米航路世界一周線の開拓、アフリカ市場への新航路開設、其他濠洲、新西蘭、ペルシヤ、タイ國への貿易路擴充はもとよりパナマ經由、紐育經由急行航路に新造優秀船を配する等常に新航路開拓に力を注いで來た。

然し大阪商船が持つ特異性は其の充實した東洋航路網を有することで、朝鮮、滿洲、北支、南支、臺灣、比律賓と東洋の港にして大阪商船の「赤大字マーク」社旗の飜らざる所なく、就中日滿連絡航路の如き六千噸乃至一萬噸の優秀船十隻が毎月二十五回定期を踏んで航進する壯觀は世界海運界にその比を見ないところである。

而して昭和十四年新東亞建設達成のために對支航權の統制强化を企圖して東亞海運會社の創設せらるゝや天津航路、青島航路以下十指に近き對支航路を擧げて之に移讓した。

昭和九年には創立五十周年を迎へ今や資本金一億圓、經營航路は全世界に五十餘線其の航路延長三十五萬浬、之に使用する船舶は百七十餘隻、總噸數は××萬噸を凌駕してゐる。

▽商船の主なる經營航路

世界一周線、南米(東岸)線、アフリカ線、西アフリカ線、歐洲(パナマ經由)線、紐育急航線、濠洲線、新西蘭線、孟買線、甲谷陀線、西貢盤谷急航線、比律賓線、比律賓急行線、大阪天津線、大阪青島線、大阪大連線、神戶基隆線、北鮮急航線、基隆香港線、高雄廣東線、基隆厦門線、高雄上海線、高雄天津線、那覇大連線、横濱天津線、大阪那覇線、大阪別府線

【幹　部】　▲社長　村田省三▲副社長　岡田永太郎▲船舶部長(宮田武太郎)經理部長(神田外茂夫)部長　營業部長(田島正雄)▲遠洋課長(平井好一)東洋課長(村井弘光)船客課長(中村富强)文書課長(伊藤武雄)會計課長(奈良秀治)海務課長(加藤　進)工務課長(和辻春樹)調度課長(友貞甚輔)▲支店長香春敏夫(東京)松浦　暢(横濱)石垣　廉(大阪)渡邊重吉(神戶)小山忠秋(門司)家長　寛(鹿兒島)坂井　照(別府)前川藤吉郎(那覇)廣瀬辰之助(臺北)齊藤保次(京城)桑彩壽慶(大連)吉植庄司(天津)未定(上海)枝吉正保(香港)・東亞關係以外省略・

日本郵船株式會社

日本郵船株式會社は明治十八年十月、三菱會社と共同運輸會社との合同により資本金一千一百萬圓、所有船舶五十八隻、總噸數六萬八千七百餘噸を以て創立されたものである。當時の經營航路は日本內地諸港間並に支那朝鮮方面への數線に過ぎなかつたが、今日では資本金一億六百二十五萬圓、所有船舶百六十五隻、總噸數××萬餘噸といふ世界屈指の大汽船會社となり幾多の航路網を以て五大陸の主要港を完全に聯絡して居る。

明治二十六年十一月孟買航路を創設せるを始とし現在の主要遠洋航路たる歐洲線、

シアトル線、濠洲線の如きは孰れも日清戰役直後の開設にかゝり、次で日露戰役後には印度方面に甲谷陀線を開きたる外、各遠洋航路を改善充實すると共に東洋近海に幾多の航路を擴張し、大正十一年には經營航路大小併せて三十五航路に増加し之に就航せる船舶は百七隻、總噸數××萬一千噸に達した。

而して大正十二年近海郵船株式會社を創立し資本金一千萬圓、船舶二十二隻、總噸數五萬四千八百噸を出資して近海航路の大部分を其獨立經營に移し、大正十五年には資本金を一億六百二十五萬圓に增資し東洋汽船會社の重要航路桑港線並に南米西岸線の營業權と使用船舶九隻總噸數九萬八千噸を繼承した。昭和三年には約八千萬圓の巨費を投じ、優秀客船九隻、總噸數××萬餘噸の建造を行ひ桑港線、シアトル線、歐洲線、南米西岸線に夫々就航せしめた。

昭和十四年八月十六日近海郵船會社を合併して近海部を設置し、天津・神戶間、大連・長崎・鹿兒島間、横濱・營口・天津間航路等を繼承したが十月中東亞海運會社設立に伴ひ日華聯絡線、横濱上海線、青島線等を移讓した。所有船舶百六十五隻、××六萬餘噸。

【主要經營航路】 横濱、倫敦、桑港、沙市、南米西岸、濠洲、北歐、漢堡、孟浦、日本近東伊太利、紐育、中南米ガルフ、東航世界一周、甲谷陀、孟買、マドラス、日本南洋濠洲、南洋、大連北海道の各線。

【幹　部】 ▲社長　大谷　登▲副社長　寺井久信▲常務取締役　淺井虎之助、中甯精一、永島義治、大矢新次　金鞍一榮、莊田雅雄▲課長　貨物（森野喜由）船客（生駒　實）庶務（和田二郎）會計（松本光三）調度（鈴木恭藏）企畫（市原章則）海務（後藤忠治）工務（鈴木恒太郎）勞務（濱　慶芳）▲支店長　横濱（柳瀨省吾）名古屋（鷹野　正）大阪（河原愼男）神戶（莊田雅男）門司（片岡種美）上海（渡邊康策）大連（伊藤　格）香港（矢島安造）新嘉坡（山田朝彥）倫敦（金鞍一榮）紐育（小倉鋼一）桑港（高橋一雄）シヤトル（田岡彌平）ホノルル出張所（木村寬次）

原田汽船株式會社

明治二十七年四月原田商行を創立して海運業を經營したのが原田汽船會社の濫觴である。

明治三十六年九月造船所を併設し大正五年四月原田汽船株式會社（資本金五十萬圓）に改組し原田造船所の一部を併合して昭和十三年十二月資本金三百萬圓に增資したが昭和十四年秋東亞海運會社に合併す。

〔所有船舶〕 九州丸、關西丸、關東丸、原田丸、照國丸、慶運丸、第七原田丸

嶋谷汽船株式會社

前社長嶋谷德三郎氏が明治二十三年より經營せる個人營業を大正六年五月之を繼承し資本金五十萬圓を以て組織せる株式會社に變更し其の創立を見た。爾來順調の發展を遂げ逐年隆昌に赴き大正七年二月には資本金を倍額に增資し、同年八月には二百萬圓に大正十五年六月には三百萬圓に昭和八年七月には更に五百萬圓に增資し、昭和九年十一月には昭和三年十二月來分離し居りたる嶋谷商船株式會社（本社小樽資本金一百萬圓）を合併せるため六百萬圓に增資し、更に昭和十二年六月に八百萬圓に增資（全額拂込濟）し今日に及んで居る。

創立當時の所有汽船は六隻總噸數六千五百七十二噸であつたが現在に於ては二十隻〇萬九千五百五十九噸に激增せる外更に造船中のもの二隻約六千噸がある。

定期航路—朝鮮北海道大連線、北鮮北海道線、伏木根室線、北海道北支線

【幹　部】 取締役社長（嶋谷武次）專務取締役（嶋谷　勇、嶋谷俊郎）、取締役（米谷滿重、若林純雄）監査役（重田英一、西大路隆和）小樽支店長（嶋谷俊郎）、大連支店長（能口憲一）伏木出張員（山崎常一）京城出張員（原榮一郎）

北日本汽船株式會社

南樺太と北海道を連絡する諸航路が南樺太領有當時より區々の船主により受命經營せられ統一が缺けてゐたのと主要貨物たる

同島の海産物漁獲年々消長あり各船主の經營安易ならぬと見て樺太廳は關係各船主を慫慂、合同して新會社を組織、北日本汽船株式會社を設立せしめ、昭和三年には吉會線全通を期待し敦賀清津直航線を開始し昭和四年には大阪商船會社より敦賀浦鹽斯德線を繼承し次で日本海横斷日鮮滿連絡航路の基礎を創設し又昭和十年四月日本海汽船株式會社を創立して新潟起點とする日鮮滿連絡航路を經營することゝなり、昭和十三年十月には北陸汽船株式會社を併合して伏木北鮮航路の强化を計り、更に又昭和十四年二月には前記日本海汽船會社を合併し、斯くして日本海湖水化の先驅者として日滿交通上國策の線に沿うて益航路の改善擴充に努めつゝある。現在資本金一千萬圓、所有船舶三十九隻、重量××萬餘噸、定期航路十五線に及んでゐる。

【幹　部】▲社長　野村治一良▲常務取締役　森信次郎、森田初三郎▲取締役　鴨谷武次、村田省三、山本厚三▲監査役　堀　新、栗林德一、田邊貞造▲東京本社支配人　飯田利信▲小樽營業所各課長　江崎勝郎（庶務）坂爪善造（營業）森信次郎（船舶）江河勝朗（海員）野崎美太郎（經理）

阿波國共同汽船株式會社

阿波國共同汽船會社は明治二十年の創立にかゝり日清戰役後夙に北清航路に着目し明治三十二年第三共同丸（總噸數約二百噸）を廻航し芝罘旅順間に就航したのが始めである。

明治三十七年日露戰爭勃發するや第六共同丸、第七共同丸は御用船となり其後北清航路開拓に邁進し邦船としてその嚆矢を爲したものである。次いで三十九年仁川、鎭南浦、龍岩浦、安東縣、大連、旅順、芝罘間の航路を開始し、同年更に芝罘大連安東航路を開拓、歐洲戰爭により青島が我日本の管理となるや直に大連、芝罘、青島航路を、昭和三年六月より大連、鎭南浦、天津航路を、また今次事變を契機とし朝鮮物産の北支進出促進の爲西鮮天津線を開拓してゐる。

現在北支那朝鮮航路左の如し。

大連—芝罘—仁川線、西鮮—天津線、安東—芝罘線、營口—龍口線

▲組織　取締役社長—支配人—總務部（庶務課、會計課、用度課）營業部（企畫課、船舶課、業務課）大連支店、小松島支店

▲幹部　會長（西野嘉右衛門）社長（新居圭藏）常務（西野省三郎）支配人（天羽壽郎）營業部長（新村喜源司）總務部長（富永國太郎）小松島支店長（薛本甚三郎）大連支店長（上崎龍次郎）

朝鮮郵船株式會社

朝鮮郵船株式會社は朝鮮産業開發上極めて重大性を持つ海運業の發展を期するため明治四十五年京城に設立されたもので當初は資本金三百萬圓、所有船舶も二十六隻、六千餘噸に過ぎなかつたが近時半島産業貿易の飛躍的伸展に伴ひ今日では其の資本金も一千萬圓に增資し×萬噸の船隊を擁して居る。

現在の經營航路は朝鮮總督府命令航路十一線、自營航路四線の定期航路と共に各方面に臨時配船をしてゐるが就中滿支關係航路としては北鮮三港經由滿洲に通ずるものに北鮮新潟線、北鮮敦賀線、雄基東京線、釜山浦鹽斯德大阪線の四航路あり安東經由に新義州東京線、新義州大阪線、大連經由に朝鮮長崎大連線等がある。又對支航路としては從來朝鮮北支那線、朝鮮上海線の二航路に過ぎなかつたが今次事變を契機として西鮮と天津、青島を各々直線に結ぶ西鮮天津線、西鮮青島線の二航路を新に開設し斯くて日本海、勃海灣の湖水化の實現に活躍してゐる。

【幹　部】社長（櫻木幹雄）專務（廣瀨　博）庶務課長（黒澤寛）營業課長（高井春五郎）船舶課長（劍持武）會計課長（今井金之助）

大連汽船株式會社

明治四十四年六月設立した北清輪船公司は大正二年一月其の組織を變更し大連汽船

合名會社と改稱し、次で大正四年一月滿鐵は資本金五十萬圓を以て現在の大連汽船株式會社を設立して大連汽船合名會社の業務一切を繼承同年二月海運業及び倉庫業を開始し現在資本金二千五百七十萬圓となるに至つた。同社創業當時關東州及び北支那沿岸に於ける日本人海運業は漸く發展の機運を示したが尙上海、靑島、廣東等を根據とする外國船は盛に北支那沿岸航路を營み其勢力牢として拔くべからざるものがあり、此の間に立ち爾來二十數年間鋭意經營の充實と航權の伸長を計り以て渤海及び支那沿岸航路に覇を稱へるに至りたるのみならず日滿間、南洋を始め東洋一帶は勿論、遠くは歐洲方面に迄航跡を印するに至つた。而して昭和十三年末に於ける所有船舶は五十四隻、××萬四千八百五十三總噸、傭船二十二隻、四萬三千五百六十三總噸、合計七十六隻、×二萬八千四百十六總噸にして設立當時の運航船舶に比較すれば隻數に於て約八倍、噸數に於て約二十六倍の大をなすに至つた。

【幹　部】▲社長　安田　柾▲專務　川村龍雄▲常務取締役　吉富金一、高木磐雄(營業部長)、島田信吉(總務部長)▲取締役　横濱直藏(船舶部長)、田村陸士、西村實造、酒井淸兵衞▲監査役　隅田虎二郎、折田有信▲課長　水地慶治(庶務)、高崎太平(會計)、廣瀬源治(貨物)、高山謹一(船客)、中村太次馬(海務)、多賀信隆(調度)▲船舶監督　須鼻粱平▲支店長　山崎水哉(上海)、鶴野政三(靑島)、久保三郎(天津)、佐藤信二(神戸)、竹林安吉(營口)、▲神戸支店監督　山岸庸大▲東京事務所長　中西家太郎

東亞海運株式會社

東亞におけるわが海運の確立は興亞聖業の重要なる一環をなすものであり政府竝に民間海運業者は夙にこれが對策につき協議を重ね、東亞を一體とする海運會社の設立を企圖してゐたが八月五日丸の内東京會館に東亞海運會社創立總會開催の運びとなり十月一日より營業を開始するに到つた。

本社の設立は、日支提携互助連繫の確立の立場からも重要なる一側面をなすもので、わが國海運の綜合力を發揮するものだけに今後日支間及び支那における海上交通路は急速なる整備をみると共に今後は從來の面目を一新するであらう。

一、資本金　七千三百萬圓

一、目的　(イ)日支間、支那沿岸、支那、外國間などにおける海運業經營 (ロ) 碼頭、倉庫業の經營 (ハ)附帶事業の經營竝に關係事業に對する投資

【經營航路】

北支線―阪神天津、横濱天津、阪神靑島、横濱靑島

中支線―横濱上海、阪神漢口

南支線―阪神廣東、基隆厦門、基隆香港、高雄上海、高雄天津、高雄廣東

沿岸線―天津上海、大連芝罘、大連芝罘威海衞靑島、天津廣東、大連廣東

長江線

【幹　部】▲取締役社長　河田　烈▲取締役副社長　淸水安治▲專務取締役　内田　茂、長岡信捷、中川幹太(總務部長)、山本武夫(營業部長)、近藤　很(海務部長)▲取締役　大谷　登、村田省三、堀　新▲向井忠晴、澤井鎌吉、山中喜一▲監査役　安田繁三郎、鑄谷正輔、岡崎忠雄

日本海海運株式會社

日本海の湖水化は、日滿經濟ブロックの強化促進上極めて重要且緊急なりとして、豫て關係機關に於て之が航路の統制に當る新會社設立を急いでゐたが、愈々朝鮮郵船、大連汽船、北日本汽船三社に於て現物出資(三社計十一隻)資本金四千八百萬圓(四分の一拂込)を以て日本海々運會社創立に決定、メイン航路新潟―北鮮間を增航、羅津港に對應して新潟港の尨大な擴築が豫想せられてゐる。營業開始は昭和十四年末の豫定である。

北滿江運局

松花江に支那の船舶が航行し始めたるのは一六五八年戎克にて吉林より松花江を下り黑龍江に入りて璦琿に至る間を警備したのに始まりたると傳へらる。然し本格的に汽船の運航をみたのは一九〇二年露西亞が

東支鐵道の建設材料運搬船を敷設完了後、尙商船隊として殘留せしめ哈爾濱、ハバロフスク間の貨客輸送を行ひつゝ漸次江上勢力の增大を計り爲一九〇七年時の東三省總督徐世昌が彼等を驅逐する目的にて九隻の商船を浮べたに始まる。帝政露西亞の沒落と同時に彼等の持つ民有船の過半が支那官民に買收され初めて支那の一大航運勢力が築かれるに至つた。其の後支那官憲は極力航權の回收に努め一九二六年東支鐵道の埠頭と所屬船を接收したるを最後として完全に蘇聯の勢力を松花江から驅逐し之を新興滿洲國が引繼ぎ今日に及んだのである。而して北滿水運は昭和八年三月に滿鐵が國有鐵道と同時に港灣河川の委託營業を受け官有船舶を引受けたのを契機として、四月に官民全航運業者を一團としたシンヂケート哈爾濱航業聯合會を設立して北滿航運業の一大統制を斷行するに至つたが、昭和十四年航路五千餘粁を包括する事業の一切は滿鐵に引繼がれ同社北滿江運局によつて運營せられてゐる。

鴨綠江輪船公司

由來鴨綠江上流地帶は陸路の交通不便を極めて居ると共に鴨綠江の水路も亦水深淺く難瀬岩礁各所に列在し水流又急であるため機械船運航等は全く不可能とせられ、纔かに舟筏通ずるに過ぎない狀態であるので飛行機エンヂンを應用し空中推進裝置による淺吃水船により大正十一年楚山中江鎭間同十三年中江鎭新乫坡鎭間、總延長三二七浬の運航に成功するに至つたもので、之が現在の鴨綠江上流行唯一の交通機關であるプロペラー船の起源である。以來朝鮮總督府命令航路として現在七隻就航してゐる。

昭和十二年中取扱旅客數は一萬五千餘に及んでゐる。

天候如何により一定せざるも每年十一月中旬より翌年四月上旬迄は結氷のため休航してゐる。

上海內河輪船公司

事變後日支合辦により創立せられた本公司は中支河川唯一の交通機關として民船の就航を準備中であつたが、昭和十四年五月中旬次の通り一般貨客の輸送を開始した。

尙本公司は內河沿岸の治安恢復に從ひ逐次航路を擴張する豫定である。

支　店　杭州迎紫路二七
出張所　拱宸橋大同路七六

航　路

一　拱宸橋―塘棲線（四五支里）一日三往復、所要一時間三十分、料金三〇仙
二　拱宸橋―德淸線（七五支里）一日一往復、所要三時間、六十仙
三　拱宸橋―三墩鎭―餘杭　二時間、五〇仙

航空

大日本航空株式會社

日本に於ける航空輸送事業は昭和三年十月一千萬圓の資本を以て日本航空輸送株式會社を設立せるに始まり、爾來十年同社は政府保護の下に斯業の開拓經營に努力する所あり、昭和十二年六月には資本金五百萬圓を以て國際航空株式會社の設立を見たりと雖も、高速度交通機關の機能を完全に發揮し、興亞大業遂行の先驅たらしめんがためには、更に豐富なる資本と充分なる政府の保護助成を必要とするに至り、昭和十三年末現大日本航空株式會社を設立したるが翌年更に大日本航空株式會社法制定され、資本金一億圓の中三千七百二十五萬圓を政府自ら出資し、現大日本航空株式會社を母體として茲に一大航空國策會社の設立を見、十月一日より營業を開始した。仍ち本會社は航空輸送事業の畫期的振興を圖るを以て目的とし、國內及國際航空輸送事業の獨占的經營に任ずる國策會社にして其使命は寔に大なるものありと謂ふべし。

現在日本內地はもとより臺灣、朝鮮、滿

洲、支那の各地及び南洋パラオに其航空路を延ばし、近く東京盤谷間の定期航空も開始されんとし、南洋より北米に到る定期航路も行く〳〵は本社によつて創始される筈である。近く國際航空輸送協會に正式加入し世界各國航空會社との連絡を一層緊密にする豫定である。

△就航飛行機名

フォッカー三M　一〇人乘
ハインケル　六人乘
川西式四發飛行艇　二〇人乘
中島式P一型郵便機
中島フォッカースーパーユニバーサル水上旅客機　六人乘
中島フォッカースーパーユニバーサル陸上旅客機　八人乘
三菱エアースピードエンボイ陸上旅客機　九人乘
中島AT陸上旅客機　一二人乘
ロッキード14WG三型陸上旅客機　一四人乘
ダグラスDC二型陸上旅客機　一八人乘
ダグラスDC三型陸上旅客機　二五人乘

【幹部】▲總裁　中川健藏▲副總裁　齊藤武夫▲理事　片岡直道、有地十五郎、中川泰輔、松永壽雄、永淵三郎、齊藤外男、寶外市松、大谷　登、村田省三、兒玉常雄、古田俊之助、島田勝之助、鄉　古潔、原邦造、鷲尾勘解治、安邊　浩▲監事　長谷川孝治、橋本圭三郎、森村　勇▲相談役　阪谷芳郎、根津嘉三郎、稲畑勝太郎▲部長　海洋(松永壽雄)企畫(永淵三郎)營業(齊藤外男)庶務(可兒滿壽夫)經理(立川　繁)歐亞(森　審樹)技術(向坂六郎)▲課長　人事(永田利夫)庶務(鈴木一郎)監査(吉田宰平)企畫(長谷川昌夫)調査(本田敬之)業務(芦原友信)乘客兼國際(兒島義人)郵便貨物(赤羽　右)會計(上垣内新一)調度兼秘書(小笠原隆)營繕(畠中　卓)運航庶務(井上正鑑)運航通信(丸山茂富)乘員監督(小川寬爾)國內兼滿支兼東洋部長代理(下山俊作)歐亞(石川詳一)南洋(淺香良一)補給(小池武夫)整備(齊藤秀彥)檢査(藤林源藏)

滿洲航空株式會社

大同元年(昭和七年)九月日滿合辦資本金國幣三百八十五萬圓を以て設立せられ旅客郵便物及び貨物の航空機に依る輸送、航空機の製造及び修理を主要業務として同年十一月營業を開始し、康德五年八月現在に於て定期航空路總延長粁程は一萬餘粁に達し政治經濟の重要都市は悉く其の航空網の下にあり、資本金は現在三千萬圓にして康德六年一月の機構改革により總務部、航空處、補給處、寫眞處(新京)、東京支店の五機關を有してゐる。

△就航飛行機名

ユンカース八六型　一〇人乘
プスモス(滿航式三型)　二人乘
隼式一型　六人乘
スーパー(滿航式一型)　六人乘
國光式一型　八人乘
タイフン機

【職制】▲社長　兒玉常雄▲副社長　王焱模▲常務取締役　武宮豐治▲常任取締役▲研究審議會▲總務部長中富貫之(庶務課長清水行兵衛、人事同黒川清、經理同吉川義博、監査同鹽谷俊次)▲東京支店長安邊浩(庶務課長荒井金次郎、調度同木島豐)▲航空處長河井田義匡(庶務課長　新井七郎、運航同原田三郎、營業同國友宣光、器材同隈　政太、通信同河原畑作太郎、乘務員養成所長河井田義匡、奉天管區長美濃勇一、新京同都築德三郎、哈爾濱同金谷　準、牡丹江同片桐保一郎、齊々哈爾同金谷　準、張家口出張所長田端愛太郎)▲寫眞處長柴田秀雄(庶務課長田邊輝彥、營業課同甘田　勝、作業課同柴田秀雄、北京出張所長池田松三郎)▲補給處長生方四郎(庶務課長秋田吉太郎、補給課同中川敬次、檢査課同國技　實、整備工場長柴入春喜)

中華航空株式會社

昭和十一年十月十七日冀察政務委員會と日本との間に航空協定が成立し、日支雙方より新航空會社設立委員を擧げ該協定書に基き中日合辦組織の航空會社の設立準備に着手、十一月七日に惠通航空股份有限公司なる名稱の下に成立、十一月十七日より營業を開始した。

今次支那事變の戰果擴大と共に全支を一丸とする航空會社の設立が要望され、中華民國臨時政府、中華民國維新政府、蒙疆聯合委員會の三政權によつて航空會社設立に關する協定が結ばれこれが共同命令に基き昭和十三年十二月十七日惠通航空股份有限

公司を統合し中國法人として「全支航空一元化」を目標とする中華航空株式會社が北京に設立され、翌十八日より營業が開始された。當初の資本金六百萬圓なるも今秋を期し五千萬圓に增資する豫定。

△就航飛行機名

ダグラスDCIII型	二十一人乘	旅客機
ダグラスDCII型	十四人乘	旅客機
ロツクヒード十四型	十一人乘	旅客機
中島式AT型	八人乘	旅客機
スーパーユニバーサル	六人乘	旅客機
ビーチクラフト	三人乘	旅客機

【機　構】董事長―副董事長―董事―總務部（庶務課、人事課、文書課、企畫課）營業部（業務課、計畫課）財務部（會計課、經理課、用度課、營繕課）運航部（運航課、器材課、通信課）技術部（整備課、檢査課、補給課、修理工場）管理局（華中管理局、蒙疆管理局）東京出張所

【幹　部】董事長（兒玉常雄）副董事長（辻　邦助）董事（新井三郎、秋澤　穗、于景陶、齊藤武夫、張衞庚、謝文達、杜運宇）、監察人（森村　勇、吳中賢、祝伊才、伊藤　祜）顧問（小池　寶）監督官（成富汎愛）總務部長（新井三郎）財務同（秋澤穗）營業同（于景陶）運航同（新井三郎）、技術同（西川嶋吉）華中管理局長（德留清一）

中國奥地航空網

戰前に於ける支那民間航空は上海に本社を置く米支合辦中國航空公司、獨支合辦歐亞航空公司に二分され地方的には北支に日支合辦惠通航空公司、南支に官民合辦西南航空公司が存在した。

事變勃發と共に中國、歐亞兩公司は蔣政權の手によつて軍用化され、戰果の擴大と共に航空網を縮少して奥地に移つた。

中國、歐亞兩公司は共に目下本社は重慶にあり、重慶―香港、重慶―河內、重慶―哈密の國內幹線の外重慶と成都、嘉定、宜昌、桂林、貴陽等とを結ぶ定期航空を實施して居る。更に國內動脈と連絡し崩壞しつゝある蔣政權に輸血を行つて居る國際航空路には左の如きものがある。

一、蘇聯、蘇聯民間航空隊航空線はモスコー、ウルムータより哈密に至り重慶よりの西安、蘭州、肅州經由哈密に至る所謂西北航空路に連絡す。

二、英國、イムペリアル、エアウエイズ線はラングーンより昆明に至り、昆明―重慶線と結び、更にバンコツク―河內線は河內―重慶線及び河內―香港間に連絡す。

三、佛國、エール、フランス線は河內より香港に伸びてこれも佛領印度支那經由の援蔣ルートの一をなして居る。

四、米國、パン、アメリカン線は桑港より太平洋を飛石傳ひに香港に至る。

其の他和蘭のはKLMはアムステルダム―シドニー線の東方空路をマニラ、香港に延長の計畫を樹てゝ居る。

自動車・電車

鐵道總局自動車局

滿洲建國後國道の新設に伴ひ自動車運輸業は急速な進歩を示してゐるが世界文明國の現狀に比ぶれば各種の事情に阻まれてまだ劣勢である。然しながら自動車は陸に於て鐵道に亞ぐ主要交通機關であり又產業開發、治安の維持、國防線確保等に重大な關係を有するを以つて滿洲國は左の如き自動車路線を國營として國有鐵道に兼營せしめてゐる。

（イ）　鐵道と競爭立場に立つ路線
（ロ）　鐵道の代用たるべき路線
（ハ）　治安維持並に產業開發に必要なる路線

尙右以外の一般路線は民間の經營に委ね大體に於て一路一線主義の下に統制することゝした。斯くして滿洲に於ては各國鐵道が苦杯を喫した自動車交通との競爭もみられず鐵道自動車の經營は永久的な共存共榮策が確立し相携へて產業開發、國防治安の維持に貢獻することゝなつてゐる。

現在鐵道總局經營の路線は百八十餘線、

一萬五千餘粁、此内には道路不良等の關係で季節に依り運行を休止する區間もある。

交通量未だ多からず、一日一往復の運行を以て足る程度の處もあり、車輛の壽命は道路及び氣候不良により甚だ短く、收支の均衡を得ること困難であるが、今後治安が確保され地方産業開發の進展に伴ひ其成績は次第に向上するものと見られる。昭和十三年度中の旅客輸送状况は一、一六一、四〇四にして昭和八年度一一五、三一七に比し約十倍の増加を示してゐる。

華北交通會社自動車部

鐵道網の密度が極めて低い北支や蒙疆に於ては、鐵道の補助或は代行機關として自動車の役割は特に大きい。華北交通會社は華北における主要路線七、八四七・七粁（三月末現在）を經營し、鐵道との綜合經營の效果を發揮してゐる。蒙疆政府は別に蒙疆汽車公司を設立して路線三千四百餘キロを經營せしめて居り、道路建設の進捗につれて自動車路線は急速に伸長される豫定であり、昭和十七年末までに全延長二萬粁に達するであらう。華北交通會社は四箇年一千名の計畫で自動車從事員の養成に努めてゐる。現在の經營路線數は五十五、自動車事務所五箇所、その下に營業所三十六箇所。

華中鐵道會社自動車課

本社設立により十七路線九〇七粁の營業路を有し、尙引續き自動車新路線の選定と運輸諸施設充實に邁進しつゝあり、江蘇、浙江、安徽三省の長途バス一萬三千粁をも近く經營に移す豫定である。

大連都市交通株式會社

大正十五年六月滿鐵が附帶事業として經營せし電氣事業を分離獨立せしめ南滿洲電氣株式會社を創立せしに始まり、滿洲國の誕生と共に滿洲國電氣事業の統制に伴ひ所有電氣供給事業を滿洲電業株式會社に讓渡して交通事業のみとなり社名を大連都市交通株式會社としたものである。當社經營の電鐵事業は明治四十二年九月當時滿鐵運輸課電氣係の附帶事業として大連市内に開通せしに始まり、又乘合自動車事業は昭和二年六月旅大自動車會社を買收經營すると共に市内竝郊外にと年々膨脹を續け今日に至つたのである。

其の後同種事業に對する投資としては、昭和十年には新京交通株式會社、同十一年には復縣交通株式會社、同十二年には奉天交通株式會社、同十三年には安東・奉北・天津・青島の各交通株式會社に參加投資をなして居る。

【幹　部】　社長（山岡信夫）常務取締役（九里正藏）取締役支配人（税所壯吉）總務課長（安東猷二）企畫同（堀　禎章）運輸同（野間口正人）

奉天交通株式會社

康德四年二月十一日に滿洲國の國策に從ひ奉天市公署と大連都市交通株式會社の協同出資によつて資本金貳百五拾萬圓を以て設立、從來奉天及撫順市内乘合自動車を營業とせる滿洲自動車運輸株式會社（通稱貢バス）竝に奉天市内電車を營む奉天市電車廠と奉天電車株式會社は夫々奉天交通株式會社に一切の業務を繼承して奉天市内の交通機關は統制されたのである。其の後康德五年六月一日に撫順の山口タクシー商會を買收して、撫順市内の自動車交通は遊覽バス、タクシーと共に完全に一元化され、續いて今年六月十五日には奉天郊外交通株式會社を、十月には遼海長途汽車公司、尙十二月二十五日に海城利通汽車公司を買收併合した。明けて康德六年一月に興隆長途汽車公司を、三月に協榮公司を引繼ぎたる同社は國策の線に沿ひ事業の擴大强化を計り、康德六年七月資本金を四百萬圓に增資し今後の發展

に備へた。現在の營業は奉天市內バス、同遊覽バス、同電車、撫順市內バス、同遊覽バス、同タクシーを扱ひ、尙郊外線として奉天—遼中、鐵嶺—法庫、法庫—彰武、興京—通化、遼陽—長灘、鞍山—劉二堡、海城—騰鰲堡等相互間の營業をなす。

【幹　部】　專務取締役（賀來之憲）、常務取締役（肥田耕三）、取締役（九里正藏、濱田有一、瀨江五月、倉橋泰彥）監査役（張諒、稅所壯吉）庶務課長（高須祐三）經理同（永井慶造）企畫同（中村實）自動車同（小岩動）電車同（小坂伊太郞）

新京交通株式會社

滿電バスと官吏通勤を專とせる特別市營バスとが夫々銳意其の使命に向つて努力し來りしも特殊的、部分的にて到底建國以來目醒しき都市の躍進に對應すること困難なる情況にありて、必然的に統一經營が要求せらるゝ情勢となるに及び康德二年五月一日交通部竝關東局より新京特別市及南滿洲電氣株式會社に對し夫々統制會社設立に關する訓令あり、爾來兩者に於て各般の準備進められ遂に康德二年七月八日公司の設立を見るに至り、同年七月二十日より營業を開始せり。

康德四年三月吉奉公司を買收し康德六年二月二十八日第七回株主總會に於て從來の資本金壹百萬圓を國幣參百五拾萬圓に增資す。

【幹　部】　專務取締役（橋口勇九郞）支配人（中馬重宗）總務課長（松本忠勝）營業同（中馬重宗）技術同（稗田貫一）

哈爾濱交通株式會社

電車に在りては民國十六年十月十日哈爾濱電業局の創業經營に係る路線を康德元年十二月百六十萬圓の評價を以て特別市が接收し交通局を設けて經營に當りたるも、同五年七月一日公稱資本金五百萬圓の交通會社設立なるに及び、全線五錢均一を實施すると共に設備經營の充實を計りつゝある。

又乘合自動車に在りては康德二年一月廿日大汽車公會より特別市が二十三萬八千九百餘圓（車輛買收費七萬三千八百餘圓を含む）を以て買收、之に新車購入車庫建築等設備費を加算して四十二萬三千五百餘圓の事業資金を以つて經營、運轉系統を擴充して名實共に市營バスとしての機能を發揮するに至つたものである。當時大汽車公會に於て漠然と決定せられたる料金制は市營買收に當り一時に急激なる變革を避くるため其儘踏襲したのであるが、市營買收前は自動車と電車は各異つた形態のもとに經營されてゐた關係上、兩者の間は必然的競爭的立場に置かれてゐたので、康德五年七月交通會社設立により電車路線も移管され、從來の複雜なる各線の料金を全廢、一區五錢の區間制を實施し爾來自動車、電車共經營方針の面目を更新し、眞に市民の足として其任務を遂行しつゝある。

【幹　部】　社長（高恩濤）專務（剛崎虎雄）支配人（市川孝八）庶務課長（村山哲男）經理同（同上）企畫同（今福猪太郞）電車同（陳鐘、中田篤美）自動車同（平井雅）

安東交通株式會社

滿洲國交通統制政策に基く安東產業自動車會社は新交通會社に其事業を繼承され昭和十三年十二月三十日を以て營業を開始した。最近東邊道の開拓、水豐ダム工事の進捗、鴨綠江河口港（大東港）の着工等に依り飛躍的發展を期待される安東に於ける同社の使命は重大なるものあり、市民待望久しかりし市內バスの實現をみた點に於て先づ多大の好評を博してゐる。

一　資本金　百萬圓

二　營業線（郊外線）安東を中心とする近郊都市內、（市內バス）。法院—六合造紙、〇安東神社—實業銀行—南三條通—安東神社

【幹　部】　專務取締役（井上芳雄）總務課長（川口守一）經理同（福田茂穗）運輸同（仙波忠一）

蒙疆汽車公司

昭和十二年十一月張多汽車公司を改稱し

て資本金六百萬圓（半額拂込）の蒙疆汽車公司となし、蒙疆地域に於ける自動車路線を統制經營すべき重大な任務を負ふに至つたものであり、交通系統別指定路線三十、延長六千粁の自動車路線開拓を目標に陣容を整へた。

昭和十二年度に於て大同、厚和二市內路線の外四線路を加ふるに過ぎなかつたが、內蒙第一次自動車統制による八〇〇粁を加へ同年度中の全經營路線は一、八〇〇粁に及んだ。昭和十三年度は前年度開拓路線に對し銳意業績の向上に努めつゝあつたが治安不良に依る幾多の困難に遭遇しながら、張家口貝子廟線の定期運行、林西への延長計畫、張家口蔚縣線、大同左雲線、大同石佛寺線、厚和托克托線、包頭南線、包頭固陽線等の開設竝復活を行つた。更に昭和十四年度に於ては張家口より一千粁に及ぶ長大路線を以つて林西より錫林郭勒盟、察哈爾盟及察南地區を縱走し、行政主要地を結ぶ邊疆地域の國策交通線を計畫中である。

【各地營業所】 張家口、宣化、多倫、張北、德化、商都、大同、平地泉、厚和、包頭、張家口（修理工場）

【幹　部】 總裁（杉廣三郞）經理（溪友吉）副經理（久保　淳）庶務主任（三浦嘉七）經理係主任（井上伊人）、營業係主任（兼）（久保　淳）

華中都市自動車株式會社

上海及び中支主要都市に於けるバス自動車運輸業統制のため設立された。本社は上海興中公司及江南產業公司バス部、南京、杭州に於ける興中公司バス其他を繼承經營に當つて居り、中支振興會社子會社の一つである。

自動車路線表

鐵道總局線

一人一粁當運賃率	路線名	區　間
五錢	柳亘線	通化柳安間
	通臨線	通化驛臨江間
	朝撫線	輝南撫松間
	勃依線	勃利驛依蘭間
	佳富線	佳木斯富錦間
	佳樺線	佳木斯樺川間
	富同線	富錦同江間
	富寶線	富錦寶淸間
	富興線	富錦興山鎭間
	佳依南線	佳木斯依蘭間
	佳依北線	佳木斯依蘭間
	濱依線	巴彥依蘭間
	木東線	木蘭東興間
	通大線	通河大羅密間
五錢	通鳳線	通河鳳山間
四錢	紅旗街線	安東紅旗街間
	鳳大線	鳳凰城驛小黃旗間
	石大線	大石橋驛岫巖間
	莊岫線	莊河岫巖間
	開法線	通江口法庫間、小橋康平間
	章法線	章古臺驛法庫間
	凌綏線	凌源驛綏中驛間
	綏明線	綏中城內明水塘邊門間
	建青線	喇嘛洞青龍間
	凌冷線	凌源冷口間
	泉喜線	平泉喜峰口間
	泉青線	下店青龍間
	泉峰線	平泉赤峰間
	承豐線	三岔口豐寧間
	朝惠線	老虎山新惠間
	葉惠線	葉柏壽驛下店子間
	峰多線	赤峰多倫間
	承峰線	上瓦房赤峰間
	大廟線	赤峰大廟間
	峰林線	赤峰驛林西間
	東經線	林東經棚間
	開東線	開魯林東間
	通桓線	通化驛桓仁間
	柳鳳線	柳河五鳳樓間
	朝五線	北平安川五道溝驛間
	煙伊線	煙筒山驛伊通間
	九河線	下九臺驛上河灣間
	九白線	其搭木白旗屯間
	九窰線	下九臺驛四青嘴子間
	窰農南線	窰門農安驛間

四錢

寧農北線	寧門泰山屯間
蛟八線	蛟河八家子間
敦號線	東門馬號間
敦額東線	官地額穆間
敦額西線	敦化額穆間
明安線	明月溝驛安圖間
圖琿線	圖們驛琿春間
梨密線	梨樹鎮平陽間
梨麻線	梨樹鎮麻山驛間
東山線	東京城驛山市驛間
寧沙線	寧安驛胡家樵間
寧新線	寧安驛新安鎮間
綏岔線	綏芬河驛三岔口間
岔東線	南山根東興鎮間
勃臺線	勃利驛七臺河間
勃通線	大四站三道通間
倭雙線	倭肯驛雙河鎮間
湖依線	湖南營依蘭間
佳寶線	沙崗寶清間
阿林線	阿城拉林驛間
呼西線	呼蘭蘭西間
克綏線	克音河綏稜間
滿扶線	肇源扶餘間
青排線	青崗七排八井間
青明線	青崗明水間
三楡南線	後狼窩陶賴昭驛間
三楡北線	弓棚子大八號間
楡白線	楡樹白旗屯間
四楡線	四家瓦驛興隆店間
常楡線	五常驛楡樹間
林楡線	拉林楡樹間

四錢

孫奇線	北孫吳驛前奇克間
孫璦線	吳家窩棚乍爾莫津間
黑奇線	黑河奇克間
黑汗線	四嘉子汗達氣間
黑金線	黑河金山鎮間
泰景線	泰來驛景星間、塔子城扎賚特間
齊杜線	昂昂溪杜爾伯特旗間
齊景線	富拉爾基驛景星間
齊甸線	齊齊哈爾林甸間
康同線	泰康驛大同鎮間
康依線	泰康驛依安間
安州線	安達驛肇州間
安青線	正亞青崗間
海拜線	海倫驛拜泉間
東拜線	克東拜泉間
克北線	克山北興鎮間
泰拜線	泰安驛拜泉間
拜依線	孫家燒鍋依安間
泰依間	高百川依安間
海阿線	海拉爾阿爾山間
開平線	開通驛太平川驛間
前乾線	前郭旗乾安間
開乾線	開通驛乾安間
京洮線	龍泉鎮洮南間
洮王線	瓦房鎮王爺廟間、五間房那金河間

三錢

王醴線	王爺廟醴泉間
王西線	王爺廟西科後旗間
安城線	大孤山城子疃間
河龍線	河深溝龍王廟間
東龍線	大東溝馬家堡子間
石大線	岫巖達子英間

三錢

蓋莊線	蓋平驛莊河間
蓋岔線	蓋平驛岔口驛間
海岫線	海城驛岫巖間、李家瓦房八岔溝間
海岔線	海城驛岔口驛間
鞍連線	立山驛廟臺間
遼歪線	遼陽驛歪頭山驛間
歪撫線	歪頭山驛撫順驛間
撫城線	撫順驛城廠間
鐵撫線	鐵嶺驛撫順驛間
奉庫線	奉天驛法庫間
法平線	法庫康平間
新法線	新臺子驛法庫間、新臺子驛懿路間
民彰線	新民驛彰武驛間
面家線	八面城八家子間
阜北線	阜新城內八道壕驛間、白土廠邊門北鎮間
吐默特線	阜新城內東吐默特間
阜套線	阜新城內哈拉套街間
承圍線	承德驛圍場間
朝峰線	朝陽驛建平間
北奈線	北票奈曼旗間
通侯線	通遼驛侯沁蘇旗間
通開線	通遼驛開魯間
開奈線	開魯奈曼旗間
羊魚頭線	輯安羊魚頭間
山柳線	山城鎮驛柳河驛間
柳孤線	柳河驛孤山子間
朝撫線	朝陽鎮撫松間
石伊線	石嶺驛伊通間
磐伊線	磐石驛伊通間
岔雙線	岔路河雙陽間

三錢
窰大線 窰門大房身間
窰農北線 葦山屯農安驛間
農伏南線 農安驛伏龍泉間
農伏北線 農安驛伏龍泉間
敦額東線 敦化官地間
琿慶線 琿春慶興橋間
琿東線 琿春東興鎭間
大羅線 大興溝羅子溝間
梨密線 平陽密山間
密山驛線 密山密山驛間
平陽驛線 平陽平陽驛間
濱依線 哈爾濱巴彥間
巴彥埠頭線 巴彥巴彥埠頭間
濱樂線 松浦樂安鎭間
滿扶線 滿溝肇源間
滿青線 滿溝青崗間
三楡南線 三岔河楡樹間
三楡北線 三岔河楡樹間
三扶線 三岔河扶餘間
五家站線 蕭家堡子五家站間
小扶線 小弓棚子扶餘間
孫奇線 孫吳驛北孫吳驛前間
昂昂溪線 齊齊哈爾昂昂溪間
齊甘線 永安街甘南間
齊景線 梅里斯富拉爾基驛間
訥布線 訥河驛布西間
安拜線 安達驛拜泉間
東拜線 克東驛克東間克拜間
克拜線 克山驛拜泉間
海奈線 海拉爾奈勒穆圖間
洮醴線 洮南醴泉間

三錢 洮王線 三家子瓦房鎭間
二・五錢 安城線 安東大孤山間
濱房線 哈爾濱平房驛間
二錢 五龍背線 安東驛五龍背間
海遼線 海城驛遼陽驛間
奉撫線 奉天驛撫順驛間
錦壺線 錦州驛西海口間、杏山壺蘆島間
承古線 營房古北口間
京吉線 新京驛吉林間
京九線 南關上九臺驛間
小豐滿線 吉林小豐滿間
牡寧線 牡丹江寧安驛間
濱阿南線 哈爾濱阿城驛間
濱阿北線 香坊阿城間

華北交通會社主要線（昭和十四年二月一日現在）

區間	粁程
山海關—建昌營間	一〇八
山海關—南海間	五
昌黎—拾頭營間	四三
唐山—遵化間	—
唐山—林南蒼間	八一
喜峰口—林南蒼間	—
昌黎—樂亭間	四八
唐山—豐潤間	二八
唐山—胥各莊間	一〇
唐山—玉田間	六六
天津—塘沽間	五〇
天津—滄縣間	一四一
天津—獨流鎭間	四三
天津—楊柳鎭間	二〇
天津—鹹水沽間	二七
天津—太沽間	五六
下瓦房—鹹水沽間	二三
下瓦房—太沽間	五二
天津—河西務間	六四
天津—南蔡材間	四五
天津—揚材間	三三
天津—北京間	一三二
北京—古北口間	一三二
北京—遵化間	一四六
北京—河西務間	六八
北京 玉田—唐山間	一八二
北京—通縣間	二四
北京—南苑間	一三
北京—豐臺間	二一
北京—碧雲寺間	三一
北京—青龍橋間	一一〇
太原—楡次間	三〇
石門—獲鹿間	一一八
濟南—大汶口間	一一〇
芝罘—夾河橋間	一一
青島—藍村間	五七
青島—膠村間	六七
青島—高縣間	九六
青島—卽密間	四三

蒙疆汽車公司主要線（昭和十四年六月一日現在）

區間	粁程
張家口—商都間	一八〇
張家口—德化間	一六五

張家口—蔚縣間	一七八
張家口—貝子廟間	六七八
張家口—平定堡間	二一八
張家口—多倫間	二九八
張家口—康保間	一六三
張家口—張北間	五四
張家口—公會間	八二
大同—左雲間	七一
大同—石佛寺間	二〇
厚和—托克托間	八四
包頭—固陽間	六〇

華中鐵道會社線 （昭和十四年八月現在）

京　常	一五九・〇〇
淥　水	七七・〇〇
淳　化	二四・〇〇
餘　光	三〇・〇〇
蘇　光	七五・〇〇
光　福	二六・〇〇
無　錫	一〇・〇〇
南　濼	三五・〇〇
浦　楊	三六・〇〇
上　錫	一四七・〇〇
錫　常	七一・〇〇
澱　河	三七・〇〇
崑　山	一五・〇〇
蘇　熟	三七・〇〇
南　塗	六四・〇〇
句　容	四七・〇〇
平　湖	一七・〇〇
計	九〇七・〇〇

大連都市交通株式會社線

（市內線）

	粁	（一區五錢）
中央線	九・〇〇	三區
南部線	八・三二	三區
北部線	四・六〇	一區
西部線	四・九〇	三區
東部線	五・一八	一區
小平島線	一九・五三	六區
老虎灘線	一一・三三	四區
傅家庄線	三・八〇	三區
石道街線	二・八三	一區
旅順市內線	二・〇五	三區
水師營線	一三・一四	六區

（郊外線）

		圓
大連—旅順（旅大南線）	四七・二九	1・00
大連—旅順（旅大北線）	五三・〇七	1・00
大連—旅順（旅大區間線）	四〇・一五	0・七〇
大連—甘井子	一三・一三	0・二五
大連—小野田	一三・一八	0・三〇
大連—金州	二四・〇七	0・五〇
金州—普蘭店	四一・四八	0・七〇
金州—曲家屯	二三・六三	0・六〇
金州—大孤山	三三・〇〇	0・四五
金州—愛川村	二一・〇七	0・四〇
普蘭店—亮甲店	三三・三六	0・三五
普蘭店—登沙河	二五・五〇	0・六〇
普蘭店—復州灣	四三・〇〇	1・五〇

二 滿洲民營自動車 二

▽新京交通株式會社

	粁
新京市內	一六八・二六
新京市內遊覽	七二・八〇
新京—伊通	七八・〇〇
新京—雙陽	六九・九〇
新京—雙城堡	六〇・〇〇
新京—伏龍泉	八六・〇〇
寬城子—萬寶山	二八・五〇
小合隆—八家子	七・〇〇
計	五七〇・四六

▽滿洲交通株式會社

新京—燒鍋店—懷德	五七・〇〇
昌圖—通江口	六〇・〇〇
懷德—范家屯	三七・〇〇
懷德—楊家城子	二六・〇〇
七面城—大窪—雙廟子	五二・二〇
昌圖城—鷲鷲樹	二二・〇〇
大窪—寶力屯—昌圖城	四八・〇〇
昌圖縣城—馬仲河	九・〇〇
計	三一一・二〇

▽吉奉交通株式會社

公主嶺—楊大城鎭	六一・二〇
懷德—秦家屯	一七・〇〇
秦家屯—八屋	一五・〇〇
范家屯—伊通	四七・〇〇
八屋—雙山	四八・〇〇

公主嶺—懷德	四六・八〇
公主嶺—蒜爾蘇	五〇・〇〇
公主嶺—伊通	五二・〇〇
計	三三六・八〇

▽吉林交通株式會社

吉林市內	一二・三〇
吉林—四家房	一二九・〇〇
吉林—朝陽堡—樺甸	一六二・〇〇
吉林—松花江道—樺甸	二八七・〇〇
樺甸—呼蘭—磐石	七〇・〇〇
計	六六〇・三〇

▽國際運輸齊々哈爾支店

齊々哈爾市內	一〇・三五
計	一〇・三五

▽丙通長途汽車公司

瓦房—學田地	八九・〇〇
洮南—高力板	一二七・〇〇
計	二一六・〇〇

▽牡丹江市公署

牡丹江市內	一八・一九
計	一八・一九

▽哈爾濱交通株式會社

哈爾濱市內	七〇・八六
哈爾濱市內遊覽	二九・〇〇
桃花巷—松浦	一〇・三〇
計	一一〇・一六

▽哈濱自動車交通合資會社

哈爾濱—賓縣	八〇・〇〇
賓縣—新甸	五〇・〇〇
枷板店—高麗帽子	二四・〇〇
計	一五四・〇〇

▽巴彥自動車株式會社

巴彥—沈家站	六一・〇〇
巴彥—東興	七三・〇〇
計	一三四・〇〇

▽協和自動車公司

延壽縣城—珠河縣城	五〇・〇〇
延壽縣城—方正縣城	六九・〇〇
計	一一九・〇〇

▽東亞運輸商會

綏化縣城—望奎縣城	七〇・〇〇
綏化縣城—慶城縣城	六〇・〇〇
計	一三〇・〇〇

▽哈郭長途汽車公司

對青山—樂安鎮	一〇・〇〇
樂安鎮—臻源	一一五・〇〇
計	一二五・〇〇

▽合資會社信義洋行

圖們市內	三・二五
計	三・二五

▽東滿洲鐵道株式會社

琿春—沙坨子	一三・〇〇
計	一三・〇〇

▽安東交通株式會社

安東市內	一三・七二
安東—寬甸	一〇〇・〇〇
寬甸—長甸河口	四六・〇〇
太平村—九連城	六・〇〇
寬甸—桓仁	一二〇・〇〇
桓仁—沙尖子	四〇・〇〇
桓仁—橫道川	二〇・〇〇
鳳凰城—石頭城	四〇・〇〇
鳳凰城驛前—舊市街	三・〇〇
寬甸—草河口	一一一・〇〇
草河口—岫巖	一二五・〇〇
寬甸—沙尖子	七六・〇〇
金湯河—安東驛	一・〇〇
石頭城—靉陽邊門	四五・〇〇
計	七二六・七二

▽奉天交通株式會社

奉天市內	一〇八・一七
奉天市內遊覽	五五・〇〇
撫順市內	一七・九〇
奉天—遼中	八六・〇〇
奉天—冷子堡	七八・〇〇
奉天—沈旦堡	五二・〇〇
鐵嶺—法庫	五〇・〇〇

鐵嶺—大甸子	三〇・〇〇
新臺子—法庫	五九・四〇
大甸子—白旗寨	二五・二〇
八家子—劉二堡	一二・八九
八家子—騰二堡	一二・二二
八家子—唐馬寨	二四・七二
海城—騰鰲堡	三二・〇〇
南雜木—通化	一八九・〇〇
東昌臺—桓仁	七五・〇〇
永陵街—桓仁	九五・〇〇
撫順—化尖子	一六五・〇〇
新民—法庫	八四・〇〇
彰武—法庫	九一・〇〇
彰武—哈拉套街	四五・〇〇
計	一、三八七・五〇

▽奉北交通株式會社

開原—八棵樹	五一・〇〇
八棵樹—梨家臺	二〇・〇〇
梨家臺—孤家子	二三・〇〇
孤家子—草市	三七・〇〇
開原—下肥地	六〇・〇〇
下肥地—孤家子	五八・〇〇
紹皮屯—涼水泉子	二九・〇〇
紹皮屯—西豐	三六・〇〇
草市—山城鎮	一九・五〇
涼水泉市—興隆臺	四四・〇〇
孟家寨—下肥地	四二・〇〇
孟家寨—馬家寨	二一・〇〇
靠山屯—黃旗寨	二三・〇〇
山城鎮—南山城子	四〇・〇〇
山城鎮—四平街	四〇・〇〇
四平街—楡樹臺	四一・〇四
四平街市內	三・三〇
西豐—西安	五七・八〇
石家臺—西豐	七五・〇〇
西豐—東豐	一〇七・〇〇
西豐—興隆街	三三・〇〇
西安—二道河子	二六・〇〇
西安—遼河源	二六・〇〇
西豐—西安(南道)	五四・〇〇
東豐縣城—大楊崴子	二四・〇〇
東豐縣城—那丹伯	八八・〇〇
仙城村—那丹伯	五七・〇〇
遼河源—沙河鎭	三三・〇〇
大楊崴子—山城鎭	二〇・〇〇
開原驛—開原城	九・〇〇
開原驛—通江口	三二・〇〇
二寨子—中固驛	二九・〇〇
開原城—馬仲河	一六・〇〇
計	一、二七四・六四

▽營口水道交通株式會社

營口—田庄臺	二六・〇〇
營口市內	六・四〇
計	三二・四〇

▽樂安汽車公司

連山—錦州	九三・〇〇
計	九三・〇〇

▽復縣交通股份有限公司

蓋平縣城內	二・〇〇
瓦房店—復州城	四二・〇〇
瓦房店—復東鎭	五四・〇〇
李店—復州灣	三二・〇〇
蕭家爐—謝家屯	三六・〇〇
復州城—娘々宮	二一・〇〇
松樹—復東鎭	七五・〇〇
申爐—朱家屯	一〇・〇〇
松樹—永寧潤	二六・〇〇
娘々宮西崖—蚊子咀	二五・〇〇
計	三二三・〇〇

▽溝北長途汽車公司

北鎭—溝幇子	二八・四〇
溝幇子—閭陽驛	一〇・六〇
北鎭—黑山	三二・八〇
計	七一・八〇

▽昭和自動車公司

打虎山—臺安	三八・二三
臺安—遼中	三二・〇〇
計	七〇・二三

▽北支滿蒙運輸商會

承德—黃崖關	一三九・〇〇
計	一三九・〇〇

滿洲民營自動車總計	七、〇五〇・〇〇

旅行機關一覽

・本表は東亞旅行關係分のみを記載し、鐵道各驛、代理店等を除いた。

【鐵　道】

名稱	所在地
▽滿鐵鐵道總局	奉天市
同奉天鐵道局	同
同錦州鐵道局	錦州市
同吉林鐵道局	吉林市
同牡丹江鐵道局	牡丹江市
同齊々哈爾鐵道局	齊々哈爾市
同哈爾濱鐵道局	哈爾濱市
同北鮮鐵道事務所	羅津府
同北滿江運局	哈爾濱市
▽鶴立鐵道株式會社	佳木斯市
▽開豐鐵路股份有限公司	開原街
▽華北交通株式會社	北京市
同北京鐵路局	同
同張家口鐵路局	張家口市
同天津鐵路局	天津市
同濟南鐵路局	濟南市
同太原鐵路局	太原市
▽華中鐵道株式會社	上海市北四川路
▽朝鮮總督府鐵道局	京城市漢江道一五
奉天出張員事務所	奉天市加茂町二
▽鐵道省奉天事務所	同
▽鐵道省北京公館	北京東長安街二號
▽鐵道省國際觀光局辦事處	北京東城新開路三八號

【航　空】

名稱	所在地
▽滿洲航空株式會社	奉天市商埠地五經路九緯路三號
東京支社	東京麴町區内幸町大阪ビル
奉天飛行場事務所	奉天省瀋陽縣靖安村（北陵東側）
奉天空の旅案内所	奉天大廣場三井ビル一階
大連飛行場事務所	關東州周水屯一〇六八
大連營業所	大連市伊勢町五四
安東飛行場事務所	安東市外三道浪頭
安東營業所	安東市市場通り
錦州飛行場事務所	錦州省錦縣北大營
承德營業所	熱河省承德縣承德火神廟街
赤峰營業所	熱河省赤峰縣赤峰三道街
林西營業所	興安西省林西縣三道街
通化營業所	安東省通化縣城内關大什字街
桓仁營業所	安東省桓仁縣桓仁城内東關
輯安營業所	安東省輯安縣城内
寬甸營業所	安東省寬甸縣城内
新京飛行場事務所	新京市外西北
新京營業所	新京淸明街二〇二
吉林營業所	吉林省永吉縣林吉商埠地大馬路
延吉營業所	間島省延吉縣延吉興隆大街
琿春營業所	間島省琿春西門外陸軍特務機關
淸津飛行場事務所	朝鮮咸鏡北道龍城面松坪洞
林東飛行場事務所	興安南分省通遼縣永福大街二七
通遼營業所	
開魯營業所	興安西分省開魯縣城內北大街
哈爾濱飛行場事務所	哈爾濱馬家溝土肥原街
哈爾濱營業所	哈爾濱南崗建築街二
齊々哈爾飛行場事務所	龍江省龍江縣齊々哈爾南大營
齊々哈爾空の旅案内所	龍江省龍江縣齊々哈爾新馬路五
海拉爾營業所	興安北省海拉爾消防街二
滿洲里營業所	興安北省滿洲里市二道街三〇七、七三六
嫩江營業所	龍江省嫩江縣嫩江街南大街
北安鎭營業所	龍江省龍鎭縣北安鎭南二道街
大黑河營業所	黑河省璦琿縣大黑河南大街八一
依蘭營業所	三江省依蘭縣三姓東大街
富錦營業所	三江省富錦縣富錦城内東興街
佳木斯營業所	三江省樺川縣佳木斯東門外南北路
寶淸營業所	三江省寶淸縣城内
通河營業所	濱江省通河縣城内
湯原營業所	湯原縣城外
牡丹江飛行場事務所	濱江省寧安縣牡丹江市外
牡丹江營業所	濱江省牡丹江大平街九
穆稜營業所	濱江省穆稜縣穆稜田屋部隊官舍
東寧營業所	濱江省東寧縣東寧中大街
八面通營業所	濱江省穆稜縣八面通正陽街
半截河營業所	濱江省密山縣半截河飯島部隊
密山營業所	濱江省密山縣密山興凱大街
虎林營業所	濱江省虎林縣川崎部隊本部
饒河營業所	三江省饒河縣城和平街

岫巖飛行場事務所　岫巖縣岫巖城外
孫呉飛行場事務所　孫呉縣孫呉岫巖城外

▽中華航空株式會社　北京宣武門內國會街五〇號
北京航空案內所　門一區崇門大街二五七
天津航空案內所　日本租界芙蓉街三
大連航空案內所　連鎖街三越前
華中管理局　上海施高塔路二九〇
張家口出張所　後溝街二號
大同出張所　大同縣東南隅石人街
青島出張所　青島
濟南出張所　濟南
徐州出張所　徐州
南京支所　南京

▽大日本航空株式會社　東京市芝區田村町飛行館內

營業所
札幌　北一條西四丁目札幌グランドホテル
青森　新町陸奥館本店
仙臺　仙臺驛前針久旅館
東京　芝區田村町飛行館一階內
長野
新潟　古町ニイガタ・エキスプレス
富山　舊城前富山館
名古屋　西區笹島町舊驛前シナ忠旅館
大阪　西區靭南通日清生命館內
鳥取　驛前土產館
松江　灘町二三三八
徳島　塀浦町阿波ホテル
高知　播磨屋町野村自動車會社
福岡　上呉服町片倉ビル內

大邱　驛前米力商店
京城　黃金町朝鮮ビル內
咸興　中央町松月旅館
清津　羅南本町鶴屋旅館
　　新岩洞國際ホテル
橫濱　磯子區富岡町橫濱駐在假事務所
パラオ　パラオ島コロール町
サイパン　カラパン街商興クラブ內
平壤　壽町一三三　三根旅館
新義州　眞砂町中津旅館
　　安東驛前安東ホテル
大連　常盤町二
奉天　加茂町二　三井ビル內空の旅案內所
新京　清明街二〇二滿洲航空營業所
上海　西華德路七一號
南京　中山東路八四號
青島　曲阜路大和ホテル
天津　日本租界芙蓉街三航空案內所
北京　崇內大街二五七號中華航空會社內
那覇　西新町寶來館及ビ西本町丸三商會內
臺北　本町三丁目
臺中　大正町二丁目ラヂオ相談所
臺南　大正町三丁目東屋旅館
馬公　馬公街二八八商船組內
屏東　驛前臺灣運輸株式會社
臺東　寶町新港自動車商會
花蓮港　黑金通二一株式會社朝日組
宜蘭　坤門塗師尾旅館

【航路】

▽日本郵船株式會社　東京市麴町區丸ノ內二丁目
橫濱支店　橫濱市中區海岸通三町目九
名古屋支店　名古屋市中區天王崎町四
大阪支店　大阪市西區川口町二六
大阪船客切符發賣所　大阪市東區備後町二丁目五八
神戸支店　神戸市神戸區海岸通一丁目一〇
門司支店　門司市棧橋通一
上海支店　上海共同租界黃浦灘第三一號
大連支店　大連市山縣通一八一
香港支店　8 Connaught Road, Hongkong.

▽大阪商船株式會社　大阪市北區宗是町大阪ビル
天保山船客係　大阪市港區北海岸
大阪ビル船客案內所　大阪市北區宗是町大阪ビル
日本橋船客案內所　大阪市南區日本橋北詰
梅田案內所　大阪驛構內
東京支店　東京市麴町區內幸町大阪ビル
橫濱支店　橫濱市中區木町住友ビル
名古屋船客案內所　名古屋市中區南大津町千代田ビル
京都船客案內所　京都市四條通富小路東
神戸支店　神戸市海岸通
神戸旅行案內所　神戸市海岸通三丁目
廣島代理店　廣島市宇品町海岸通
關門船客案內所　下關驛前
門司支店　門司市湊市
別府支店　別府市海岸通
博多船客案內所　博多驛前九軌デパート
長崎代理店　長崎市千馬町
鹿兒島支店　鹿兒島市生產町
佐賀切符發賣所　佐賀驛前佐運本店

久留米切符發賣所　久留米市京町千歲商町
熊本切符發賣所　熊本市春日町
京城支店　京城府南大門通
大連支店　大連市山縣通
奉天事務所　奉天浪速通
新京事務所　新京中央通
哈爾濱事務所　哈爾濱一頭區地段街
北京事務所　北京東交民巷高騎路第一
天津支店　天津佛租界佛蘭西碼頭
塘沽代理店　塘沽中新街
芝罘代理店　芝罘岩城商會
青島代理店　青島新疆路岩城商會
上海支店　上海廣東路第二號
基隆出張所　基隆驛前
臺北支店　臺北驛前
臺北船客案內所　臺北市榮町
高雄支店　高雄市新濱町

▽大連汽船株式會社　大連市山縣通一九五

上海支店　上海四川路一一〇號
同黃浦棧橋事務所　上海楊樹浦路三四〇號
天津支店　天津特別第一區ウヰルソン路
同　天津佛租界倉庫
青島支店　青島館陶路三七號
神戸支店　神戸市神戸區明石町三二明海ビル
東京事務所　東京市麴町區丸ノ內丸ビル七〇六號
奉天事務所　奉天浪速通二八都ビル內
營口支店　營口市新市街南本街一號
安東出張所　安東市財神廟街
香港出張所　Top floor King's Bldg., Connaught Road.
臺北出張所　臺北市表町二丁目一四
新京出張員　新京市大同大街三〇二號海上ビル
北鮮出張員　羅津府昭和通一丁目三五四國際ビル二〇五
葫蘆島出張員　錦州省葫蘆島國際運輸內

▽朝鮮郵船株式會社　京城府南大門通五丁目一

釜山支店　釜山府大橋通二丁目一
元山支店　元山府海岸通二丁目九
仁川出張所　仁川府港町六丁目一六
大阪出張所　大阪市北區宗是町一大阪ビル二階
東京出張所　東京市麴町區丸ノ內郵船ビル三階三四四號
北鮮出張員　清津府北星町二二國際運輸支店內
青島出張員

▽阿波國共同汽船株式會社　德島市塀裏町六五

大連支店　大連市山縣通二〇〇
芝罘出張所　山東省芝罘順泰街
京城出張所　京城府蓬萊町一

▽北日本汽船株式會社　東京市麴町區內幸町大阪ビル內

大泊支店　樺太大泊町榮町濱通二一
新京在勤員事務所　新京八島通四二福昌ビル
大阪在勤員事務所　大阪市北區宗是町大阪ビル內
敦賀在勤員事務所　敦賀市大和田回漕部內
宇品在勤員事務所　廣島市宇品町廣島商船組合
伏木在勤員事務所　富山縣伏木港三輪回漕店內
泊居在勤員事務所　樺太泊居港泊居回漕店內
函館在勤員事務所　函館市仲濱町共同回漕店內
清津在勤員事務所　清津府北星町國際運輸支店內
浦鹽斯德在勤員事務所　蘇國浦鹽斯德市
青森出張所　青森市新安町八三
稚內出張所　北海道稚內町北濱通四丁目
眞岡出張所　樺太眞岡港本町一丁目四六
新潟出張所　新潟市沼垂町龍ケ島新潟運送艀會社內
富山出張所

▽嶋谷汽船株式會社　神戸市神戸區明石町一八

小樽支店　小樽市南濱町五丁目三
大連支店　大連市山縣通一五三
伏木出張所　富山縣伏木町湊町九
京城出張所　京城府苑西町一〇八

▽鴨綠江輪船公司　新義州常盤町三丁目二

▽松浦汽船株式會社　大連市加賀町三〇

▽康和海運株式會社　大連市山縣通一八

▽東亞海運株式會社　東京市麴町區丸ノ內海上ビル二階

東京支店　日本橋區小網町二ノ三
横濱支店　中區海岸通五ノ二六
大阪支店　西區本田町通一ノ四九
神戸支店　神戸區浪速町五七

門司支店　東港町一
長崎支店　常盤町四
臺北支店　表町二ノ一五及一六
上海支店　共同租界黃浦灘路五
廈門支店　海後路十一
廣東支店　長堤太馬路三八二
南京支店　下關江邊路、
蕪湖支店　臨港路一號
漢口支店　第三特別區
天津支店　日界松島街八
青島支店　新疆路一八
大連支店　山縣通二〇〇

▽上海內河輪船公司　上海市
杭州支店　杭州迎紫路二七
拱宸橋出張所　拱宸橋大同路七六

【自動車】

▽大連都市交通株式會社　大連市常盤橋
旅順・金州・普蘭店各營業所
▽新京交通株式會社　新京特別市豐樂胡同一〇一
▽滿洲交通株式會社　新京特別市西五馬路十二號
▽吉奉交通株式會社　吉林省懷德縣公主嶺河南西大街八二
▽吉林交通株式會社　吉林市粮毅街三七
▽國際運輸齊々哈爾支店　齊々哈爾市新馬路街七號
▽丙通長途汽車公司　龍江省洮南縣城內四緯路一一三號
▽哈爾濱交通株式會社　哈爾濱市南崗區義州街三三
電車驛前詰所　哈爾濱驛前
電車十六道街詰所　哈爾濱市東傅家區正陽十六道街
自動車課營業係　哈爾濱市埠頭區中央大街二二二
其他自動車課警察街、秋林、石頭道街、桃花巷詰所等
▽哈爾濱自動車交通合資會社　哈爾濱市道外太古六道街一九九
▽巴彥自動車株式會社　濱江省巴彥縣城中太平街道南
▽協和自動車公司　濱江省延壽城裏同慶街
▽東亞運輸商會　哈爾濱市八站中馬路六號
▽哈郭長途汽車公司　同右
▽合資會社信義洋行　間島省延吉縣圖們街銀河區春風路
▽東滿洲鐵道株式會社　間島省琿春縣琿春街
▽安東交通株式會社　安東市公安街二四號
寬甸、桓仁、草河口、鳳凰城各營業所
▽奉天交通株式會社　奉天市瀋陽區小西街三段七〇號
本社事務取扱所　同　宮島町二
奉天郊外バス營業所　同　瀋陽區大西街八四
鐵嶺營業所　鐵嶺市柳町一
興京營業所　興京縣興京河北街
鞍山營業所　鞍山市北八番町一
撫順營業所　撫順市西一條通東三番地四號
自動車課千代田通營業所　同南八條營業所
同小西門營業所　小西街電車課營業係
▽奉北交通株式會社　奉天省開原縣開原街東洋街四號
▽營口水道交通株式會社　營口市綏定門一二號
▽樂安汽車公司　錦州市驛前
▽復縣交通股份有限公司　奉天省瓦房店集市街一
▽冀北長途汽車公司　北鎮縣北鎮街西大街
▽昭和自動車公司　臺安縣城內萬福寺東胡同八
▽北支滿蒙運輸商會　熱河省承德街草市前街一八〇
▽咸北自動車株式會社　北鮮清津府港町
▽華中都市自動車株式會社　上海市
▽蒙疆汽車公司　張家口
〔營業所〕　張家口、宣化、多倫、張北、德化、商都、大同、平地泉、厚和、包頭

【鮮滿支案內所】

▽滿鐵東京鮮滿支案內所　東京市京橋區銀座二丁目一

同　分　室　東京市虎ノ門滿鐵ビル

▽滿鐵大阪鮮滿支案內所　大阪市堺筋安土町

同名古屋出張所　名古屋市中區榮町一丁目一〇

同敦賀駐在員事務所　敦賀驛前大通り

△滿鐵新潟鮮滿支案內所　新潟市古町通六

▽滿鐵小樽鮮滿支案內所　小樽市稻穗町東六丁目二七

▽滿鐵門司鮮滿支案內所　門司稅關前

同長崎駐在員事務所　長崎市萬屋町七九

▽滿鐵下關鮮滿支案內所　下關驛前

▽ジヤパン・ツーリスト・ビユーロー

東京市麴町區丸之內一ノ一
(分室)神田區鍛冶町二丁目二四(神田驛前)

滿洲支部　奉天市住吉町五

華北出張所　北京崇文門大街三九

朝鮮支部　京城府朝鮮總督府鐵道局內

關東支部　東京市東京驛內(降車口)

中部支店　名古屋市中區廣小路通二丁目朝日ビル內

關西支部　大阪市東區安土町(堺筋)二ノ六三

西部支部　廣島市廣島鐵道局內

九州支部　門司市門司鐵道局內

羽越信支部　新潟市新潟鐵道局內

東北支部　仙臺市仙臺鐵道局內

北海道支部　札幌市札幌鐵道局內

臺灣支部　臺北市臺灣總督府交通局鐵道部內

案內所

・關東州・滿洲

大連　伊勢町五四・播磨町ヤマトホテル內・大連驛內・常盤町三越內・連鎖街榮町角・監部通三四・西崗子北關街二六

鞍山　北二條町一六

奉天　驛前・浪速通ヤマトホテル內・城內小西門大街門牌二九

四平街　驛前

新京　驛前・大同大街三中井百貨店內・興仁大路郵政局內・ヤマトホテル內

安東　大和橋通二丁目(驛前通)

營口　南本街一・永世街一〇

撫順　中央大街一一(驛前通)

吉林　大馬路一三九・城內

延吉　康平區進學路一四ノ七

通化　南關三九

圖們　春風街三四ノ一

牡丹江　太平路一二

哈爾濱　中央大街七八・地段街丸商百貨店內・傅家甸正陽大街昇平二道街ヤマトホテル內

佳木斯　向陽大街三段地

齊齊哈爾　正陽大街三九八

滿洲里　三道街ニキチンホテル內

錦州　大馬路(驛前)

承德　南營子大街

山海關　南關中街七四號ノ二

・北鮮

清津　埠頭船客待合所內

羅津　昭和通國際ビル

・中國・蒙疆

北京　崇文門大街三九・王府井大街二・宣外兵馬司中橫町・西單北大街一九五・前門大街五九

天津　日本租界旭街一二・特三區大馬路一緯路三〇號勞工協會內・東馬路南大門一三六

北戴河　海濱西經路(夏期中)

張家口　橋東五四

大同　大東街一一二號

厚和　驛內

太原　首義門街四九

石門　阜寧路

靑島　堂邑路二八號・奉天路西段一號

濟南　大馬路五〇七

上海　北四川路一三二四號・廣東路八六號三菱ビル內

南京　中山路一ノ一

杭州　新民路二區三二五

蘇州　驛內
漢口　江濱路一九七號

・朝鮮

釜山　驛構內
大橋通二丁目三中井支店內
大邱　元町一丁目三中井呉服店內
京城　本町一丁目三越內
驛內
鐘路二丁目和信內
平壤　本町七三　三中井支店內
咸興　本町四六　三中井支店內

・內地

東京　東京驛降車口
東京驛乘車口
東京鐵道運輸部旅客課案內所內
神田區鍛冶町二ノ二四(驛前)
麴町區內幸町帝國ホテル內
麴町區丸ビル鮮滿案內所內
丸ノ內ビルヂング（二階地方物產陳列所內）
京橋區銀座三丁目松屋內
下谷區廣小路一丁目松坂屋內
日本橋區室町三越內
日本橋區通一丁目白木屋
日本橋區通二丁目高島屋內
淀橋區角筈一丁目三越內
四谷區新宿三丁目伊勢丹內

横濱　中區海岸通一横濱貿易協會內
中區伊勢佐木町野澤屋內
輕井澤　驛內(夏期中)
箱根　箱根宮ノ下宿士屋ホテル內
日光　金谷ホテル內
松本　驛前(夏期中)
名古屋　驛內
中區小路通二丁目(朝日ビル)
中區南大津町松坂屋內
岐阜　柳ヶ瀨町四丁目丸物支店內
金澤　片町宮市大丸內
富山　西町七宮市大丸支店內
新潟　古町通七
京都　驛內
驛前市設觀光案內所內
下京區四條通大丸內
東山區粟田口華頂町都ホテル內
中京區河原町通京都ホテル內
大阪　東區安土町堺筋角
東區安土町堺筋鮮滿案內所內
東區高麗橋三越內
東區心齋橋筋大丸內
南區日本橋筋三丁目松坂屋內
南區心齋橋筋十合呉服店內
北區中ノ島三丁目新大阪ホテル內
神戶　三ノ宮驛內
裏町四〇大丸內

岡山　下之町七七天滿屋北館內
松江　白潟本町二四尾原呉服店內
廣島　八丁堀福屋內
下關　驛前
高松　內町五三　三越內
門司　西海岸通鮮滿案內所內
小倉　寶町井筒屋內
博多　東中洲町玉屋內
橋口町四六松屋內
唐津　(夏期中)
佐世保　榮町玉屋內
雲仙　(夏期中)
長崎　驛前
熊本　安已橋通町千德內
鹿兒島　金生町三九山形屋內
仙臺　東一番町三越內
盛岡　志家第六地割字肴町川德呉服店內
青森　新町八一松木屋內
函館　末廣町七三今井商店內
札幌　南一條西二丁目今井商店內
小樽　稻穗町東八丁目今井商店內

・臺灣

臺北　榮町三丁目菊本商行內
臺南　末廣町一丁目林百貨店內

・海外

米國　紐育市フイフスアベニユー五五一
ロスアンゼルス市商工會議所內
佛國　巴里市カピユシイヌ街三九

旅客運賃

鐵道の部

▽朝鮮主要驛間

至驛名	釜山より 粁程	釜山より 所要時間	釜山より 三等運賃	大邱より 粁程	大邱より 所要時間	大邱より 三等運賃	大田より 粁程	大田より 所要時間	大田より 三等運賃	京城より 粁程	京城より 所要時間	京城より 三等運賃	平壤より 粁程	平壤より 所要時間	平壤より 三等運賃	安東より 粁程	安東より 所要時間	安東より 三等運賃
安東	949.8	16.35	14.73	825.0	14.05	13.39	666.6	11.20	10.24	499.3	8.33	7.75	238.6	4.00	3.71	—	—	—
咸興	794.9	15.33	13.33	670.1	13.03	10.41	511.7	10.19	7.94	350.8	7.03	5.45	611.5	13.43	9.49	850.1	16.43	13.20
元山	672.0	13.09	10.41	546.2	10.49	8.48	387.8	8.06	6.03	226.9	4.49	3.51	487.6	10.24	7.57	726.2	14.29	11.27
木浦	543.6	10.55	8.44	418.8	8.35	6.50	260.4	5.35	4.05	427.7	10.58	6.64	688.4	17.40	10.68	927.0	12.45	14.27
群山	394.8	8.33	6.33	270.0	5.53	4.19	111.6	2.53	1.74	278.9	7.55	4.33	539.6	11.08	8.27	778.2	15.13	12.08
麗水港	570.6	14.10	8.86	445.8	11.59	6.92	287.4	8.33	4.47	454.7	13.14	7.06	715.4	18.10	11.10	954.0	13.20	14.79
鎭南浦	766.4	12.00	11.89	641.6	11.40	9.96	483.2	8.55	7.51	315.9	5.58	4.90	55.3	1.16	0.87	293.8	5.19	4.56
平壤	711.3	11.19	11.04	586.4	9.59	9.10	428.0	7.14	6.64	260.7	4.17	4.05	—	—	—	238.6	4.00	3.71
上仁川	469.1	7.50	7.29	344.3	5.45	5.35	185.9	3.17	2.89	37.0	.51	.56	297.7	5.35	4.61	536.3	9.41	8.33
京城	450.5	6.45	7.00	325.7	4.47	5.06	167.3	2.36	2.61	—	—	—	260.7	4.17	4.05	499.3	8.33	7.75
大田	283.2	4.15	4.41	158.4	2.17	2.47	—	—	—	167.3	2.36	2.61	428.0	7.14	6.64	666.6	11.20	10.24
大邱	124.8	1.54	1.94	—	—	—	158.4	2.17	2.47	325.7	4.47	5.06	586.4	9.59	9.10	825.0	14.05	13.39

▽日滿連絡（安東釜山經由・三等）

（三等）	大連	奉天	新京	哈爾濱	安東
	圓	圓	圓	圓	粁
京城	17.71	13.03	16.76	21.21	7.75
釜山	24.69	19.01	23.74	28.10	14.73
下關	26.24	23.56	27.29	31.65	18.28
三宮	31.86	28.18	31.91	37.27	23.90
大阪	32.09	28.41	32.14	37.50	24.13
名古屋	35.46	29.78	34.51	38.85	24.45
東京	37.81	33.18	36.86	41.33	27.85
門司	26.24	23.66	27.39	31.75	18.38
博多	29.58	23.99	28.63	33.99	19.63
長崎	32.50	25.82	30.55	34.01	21.54
鹿兒島	33.91	27.33	31.96	36.33	22.95

▽日滿連絡（大連門司經由・三等）

	大連	奉天	新京	哈爾濱
下關	17.10	23.36	27.99	33.35
神戸	23.74	28.86	33.59	37.95
大阪	23.95	29.12	33.84	38.20
名古屋	24.33	30.48	35.21	39.57
東京	26.77	32.82	37.56	41.92
博多	18.24	24.40	29.13	33.49
長崎	20.16	26.32	31.05	35.41
鹿兒島	21.27	27.73	32.46	36.82

▽滿洲北支那主要驛間

各主要驛名	大連より			奉天より			新京より			哈爾濱より			北京より		
	粁程	三等運賃	最短時間	粁程	三等運賃	最短時間	粁程	三等運賃	最短時間	粁程	三等運賃	最短時間	粁程	三等運賃	最短時間
奉天	三九六・六	六・一六	四・四三	—	—	—	三〇四・八	四・七三	三・三三	五四六・八	九・〇九	七・三九	八四一・九	一三・九一	一六・二五
新京	七〇一・四	一〇・八九	八・三〇	三〇四・八	四・七三	三・三三	—	—	—	二四二・〇	四・三六	四・〇〇	一、一四六・七	一八・六四	一九・二七
哈爾濱	九四三・四	一五・二五	一三・三〇	五四六・八	九・〇九	八・〇五	二四二・〇	四・三六	四・〇〇	—	—	—	一、三八八・七	二三・〇〇	二三・二七
大連	—	—	—	三九六・六	六・一六	四・四三	七〇一・四	一〇・八九	八・三〇	九四三・四	一五・二五	一三・三〇	一、二三八・五	二〇・〇七	二〇・三七
安東	六四一・二	九・九四	一〇・四一	二七五・八	四・三八	五・二四	五八〇・六	九・〇一	一〇・〇〇	八二二・六	一三・三七	一四・〇〇	一、一一七・七	一八・一九	二〇・七九
四平街	五八五・九	九・〇九	六・五六	一八九・三	二・九五	二・〇八	一一五・五	一・八〇	一・三〇	三五七・五	六・一六	五・三〇	一、〇三二・二	一六・八六	一八・〇三
吉林	八二九・一	一三・三〇	一〇・三三	四三三・五	七・〇四	九・四〇	一二七・七	二・三三	二・〇八	三六九・七	六・六六	六・〇八	一、二七四・四	二〇・九五	二二・二五
圖們	一、一三九・四	二〇・四〇	一七・三九	八三三・八	一四・三四	一三・五七	五二八・〇	九・五一	九・二五	七七〇・〇	一三・八六	一三・二五	一、六七四・七	二八・一五	二八・五三
牡丹江	一、二九七・七	二二・六四	二三・〇四	九〇一・一	一五・〇八	一七・三三	五九六・三	一〇・七五	一三・五〇	三五四・三	六・三九	九・五〇	一、七四三・〇	二九・三九	三三・一七
佳木斯	一、六二九・二	二七・二一	三三・一四	一、二三三・六	二一・〇五	二七・三三	九二七・八	一六・三三	二四・〇〇	六八五・八	一一・九六	二〇・〇〇	二、〇七四・五	三四・九六	四三・二七
齊齊哈爾	一、二四三・二	二〇・六三	一九・四七	八四五・六	一四・四七	一五・〇五	五四〇・八	九・七四	一一・〇〇	二九八・八	五・三九	七・〇〇	一、六八七・五	二八・三九	三〇・二七
滿洲里	一、八七八・二	三三・〇八	三九・三〇	一、一七六・八	二五・九二	三三・一五	一、一七六・八	二一・一九	二八・四八	九三四・八	一六・八三	二四・三〇	二、三三三・五	三九・八三	四七・四七
錦縣	六三二・五	一〇・四一	一一・二九	二三五・九	四・二五	六・四七	五四〇・七	八・九八	一〇・一九	七八二・七	一三・三四	一四・一九	六〇六・〇	九・六七	一一・四八
承德	一、〇六八・五	一八・一六	二三・二七	六七一・九	一二・一〇	一八・四五	九七六・七	一六・八三	二三・一七	一、二一八・七	二一・一九	二六・一七	二五一・八	四・一三	一三・〇五
北京	一、二三八・五	二〇・〇七	二〇・三七	八四一・九	一三・九一	一五・五五	一、一四六・七	一八・六四	一九・二七	一、三八八・七	二三・〇〇	二三・二七	—	—	—
天津	一、〇九九・一	一七・九七	一八・三七	七〇二・五	一一・八二	一三・五五	一、〇〇七・三	一六・五四	一七・二七	一、二四九・三	二〇・九〇	二二・二七	一三九・四	二・一〇	二・三〇
濟南	一、四五九・二	二三・三七	二八・〇七	一、〇六八・六	一七・二二	二三・二五	一、三六三・四	二二・九四	二六・五七	一、六〇五・四	二六・三〇	三〇・五七	四九五・五	七・五〇	一一・五〇
青島	一、八四八・四	二九・二七	四〇・〇七	一、四五一・八	二三・一一	三三・二五	一、七五六・六	二七・八四	三八・五七	一、九九八・六	三三・三〇	四一・五七	八八八・七	一三・四〇	二三・四〇

備考　本表は普通順路を示したるものである

▽中支那主要驛間

主要驛名	上海より 粁程	上海より 三等運賃	上海より 最短時間	蘇州より 粁程	蘇州より 三等運賃	蘇州より 最短時間	南京より 粁程	南京より 三等運賃	南京より 最短時間	蕪湖より 粁程	蕪湖より 三等運賃	蕪湖より 最短時間	杭州より 粁程	杭州より 三等運賃	杭州より 最短時間
上海	—	—	—	86.0	1.30	1.18	311.0	4.70	5.30	417.0	6.30	9.35	190.0	2.85	4.45
崑山	52.0	.80	.51	34.0	.55	.37	259.0	3.90	4.37	365.0	5.50	8.42	199.0	3.00	5.36
蘇州	86.0	1.30	1.18	—	—	—	225.0	3.40	3.18	331.0	5.00	7.33	165.0	2.50	4.43
無錫	129.0	1.95	2.12	43.0	.65	.30	182.0	2.75	3.14	288.0	4.35	7.19	208.0	3.15	5.13
常州	167.0	2.55	2.56	81.0	1.25	1.33	144.0	2.20	2.36	250.0	3.75	6.12	246.0	3.70	6.06
丹陽	222.0	3.20	3.45	136.0	1.90	2.13	89.0	1.50	1.42	205.0	3.10	5.47	291.0	4.40	6.56
鎮江	242.0	3.65	4.16	156.0	2.35	2.43	69.0	1.05	1.08	175.0	2.65	5.12	321.0	4.85	7.26
南京	311.0	4.70	5.30	225.0	3.40	3.18	—	—	—	106.0	1.60	4.05	390.0	5.85	8.11
蕪湖	417.0	6.30	8.35	331.0	5.00	7.33	106.0	1.60	4.05	—	—	—	496.0	7.45	12.16
南上海	21.0	.35	.35	107.0	1.65	2.03	332.0	5.00	6.05	438.0	6.60	10.10	177.0	2.70	4.33
松江	49.0	.70	1.08	128.0	1.95	2.38	353.0	5.30	6.38	459.0	6.90	10.42	145.0	2.20	3.40
嘉興	99.0	1.50	2.26	74.0	1.15	2.24	299.0	4.50	5.53	405.0	6.10	9.57	91.0	1.40	2.26
長安	151.0	2.30	3.46	136.0	1.90	1.30	351.0	5.30	6.73	457.0	6.90	10.11	39.0	.60	1.01
杭州	190.0	2.85	4.45	165.0	2.50	4.43	390.0	5.85	8.11	496.0	7.45	12.16	—	—	—

空路の部

▽日満連絡（日空・満航）

•満洲里	二二圓	六九圓	九一圓	一〇七圓	一二五圓	一四八圓	一四二圓	一五三圓	一六四圓	一七八圓	一九九圓	二二九圓	二三七圓	二五四圓
一七五粁	•海拉爾	四八	七〇	八八	一〇四	一二七	一二一	一三一	一四三	一五七	一七八	二〇八	二一六	二三三
五七五粁	四〇〇	•齊々哈爾	二三	三六	五六	七九	七三	八三	九五	一〇九	一三〇	一六〇	一六八	一八五
八五〇粁	六七五	二七五	•哈爾濱	一七	三四	五七	五一	六一	七三	八七	一〇八	一三八	一四六	一六三
一、〇八五粁	九一〇	五一〇	二三五	•新京	一八	四一	三五	四五	五七	七一	九二	一二二	一三〇	一四七
一、三六〇粁	一、一八五	七八五	五一〇	二七五	•奉天	二三	一七	二七	三九	五三	七四	一〇四	一一二	一二九
一、七一五粁	一、五四〇	一、一四〇	八六五	六三〇	三五五	•大連	二〇	二八	四〇	五四	七五	一〇五	一一三	一三〇
一、五七〇粁	一、三九五	九九五	七二〇	四八五	二一〇	二七三	•新義州	一〇	二三	三六	五七	八七	九五	一一一
一、七三〇粁	一、五五五	一、一五五	八八〇	六四五	三七〇	四三三	一六〇	•平壌	一二	二六	四七	七七	八五	一〇一
一、九三〇粁	一、七五五	一、三五五	一、〇八〇	八四五	五七〇	六三三	三六〇	二〇〇	•京城	一六	四〇	六五	七三	九〇
二、一六四粁	一、九八九	一、五八九	一、三一四	一、〇七九	八〇四	八六七	五九四	四三四	二三四	•大邱	二四	五一	五九	七六
二、四九四粁	二、三一九	一、九一九	一、六四四	一、四〇九	一、一三四	一、一九七	九二四	七六四	五六四	三三〇	•福岡	三〇	三八	五五
二、九九四粁	二、八一九	二、四一九	二、一四四	一、九〇九	一、六三四	一、六九七	一、四二四	一、二六四	一、〇六四	八三〇	五〇〇	•大阪	八	二五
三、一三三粁	二、九五八	二、五五八	二、二八三	二、〇四八	一、七七三	一、八三六	一、五六三	一、四〇三	一、二〇三	九六九	六三九	一三九	•名古屋	一七
三、四二九粁	三、二五四	二、八五四	二、五七九	二、三四四	二、〇六九	二、一三二	一、八五九	一、六九九	一、四九九	一、二六五	九三五	四三五	二九六	•東京

▽東京—新京／京城—大連急行便（日空）

•東京	三〇圓	六五圓	一〇五圓	一四九圓	一七〇圓	一五〇圓
四三五粁	•大阪	三五	七五	一一九	一四〇	一二〇
九三五粁	五〇〇	•福岡	四〇	八四	一〇五	八五
一、四七五粁	一、〇四〇	五四〇	•京城	四四	六五	四五
二、〇四五粁	一、六一〇	一、一一〇	五七〇	•奉天	二一	—
二、三二〇粁	一、八八五	一、三八五	八四五	二七五	•新京	—
二、〇三五粁	一、六〇〇	一、一〇〇	五六〇	—	—	•大連

▽奉天北京間（満航）

•奉天	一五圓	五一圓	六六圓
二〇〇粁	•錦州	三六圓	一五圓
六一〇粁	三九〇粁	天津	
七三〇粁	五三〇粁	一二〇粁	•北京

▽福岡、上海、南京間（日航）

•福岡	八五圓	一一〇圓
九五〇粁	•上海	二五
一、二二〇粁	二七〇	•南京

▽大連北京間（華航）

•北京	一五圓	六五圓
一二〇粁	•天津	五〇
五〇〇粁	三八〇	•大連

▽北京上海間（華航）

•北京	一五圓	六〇圓	一〇〇圓	一四五圓	一七〇圓
一二〇粁	•天津	四五	八五	一三〇	一五五
四〇〇粁	二八〇	•濟南	四〇	八五	一一〇
六八〇粁	五六〇	二八〇	•徐州	四五	七〇
九七〇粁	八五〇	五七〇	二九〇	•南京	二五
一、二四〇粁	一、一二〇	八四〇	五六〇	二七〇	•上海

航路の部

▽東亞海運會社

區間	浬程	一等	二等	三等
神戸—天津	一、〇四〇	A 八〇 B 六八	洋 七〇 和 四八	三二
門司—天津	八〇〇	A 七〇 B 六〇	洋 四八 和 四〇	二九
高雄—上海	—	五七	—	二九
神戸—上海	八七九	特 二五〇 〃 一四五 A 八三 B 七六	—	三二
神戸—長崎	三四九	特 一〇〇 〃 五八 A 三三 B 三三	—	七
長崎—上海	四六五	特 一五〇 〃 八六 A 五〇 B 四五	—	一八
神戸—門司	二四〇	一五	一〇	五
神戸—青島	八二〇	六九	四八	二〇
青島—門司	五七〇	五七	三八	一六
大連—芝罘	八七	六五	五	三
大連—威海衛	九一	一〇	八	五
大連—青島	二六九	二四	一〇	六
		特一	特二	官艙	官艙
上海—蕪湖	二三二	二三	一二	三
南京—蕪湖	三一	八	三・五	一・二
蕪湖—安慶	一八	二三	四・五	一・二
蕪湖—九江	二三二	二〇	七・五	二
蕪湖—漢口	四〇〇	二八	一三・五	三・五

▽大阪商船會社

區間	浬程	一等	二等	三等
大連—門司	六二〇	五五	三七	一七
大連—廣島	七五五	六〇	四一	一八
大連—神戸	八五〇	六五	四五	一九
雄基・羅津・清津	三七	—	五	二
雄基・羅津・門司	五二九	—	四〇	一六
雄基・羅津・神戸	七七九	—	四五	一八
清津—門司	四七三	—	三七	一五
		三等甲	二等乙	並等
大連—三角	六四五	二九	二四	一三
大連—鹿兒島	八二〇	三五	三〇	一五
大連—那覇	一、一九五	四八	四〇	一〇

▽日本郵船會社

區間	浬程	一等	特三	三等
大連—長崎	五七七	二八	二四	一三
大連—鹿兒島	六九五	三三	一七	一五
長崎—鹿兒島	一七三	七	四	三・五

▽朝鮮郵船會社

區間	浬程	特等	並等
仁川—鎭南浦	二〇三	八・六〇	四・八〇
仁川—上海	一、二三六	三六	一八
仁川—青島	三三〇	二四	一三・三〇

區間	浬程	並等
大連—鎭南浦(仁川)	一八〇(二九〇)	七・五〇
大連—長崎	九七三	三
大連—鹿兒島	一一一七	一五

區間	浬程	特等	並等
新潟—清津	四八九	三〇	一五
新潟—羅津	五三六	三〇	一五
新潟—雄基	五四七	三〇	一五

▽北日本汽船會社

區間	粁程	一等	二等	三等
敦賀—淸津	八三三	四五	三〇	一五
敦賀—羅津	九四一	四八	三三	一六
敦賀—浦鹽	一、一〇四	六〇	四〇	二〇
	粁程	一等	二等	三等
新潟—清津	九〇六	四五	三〇	一五
新潟—羅津	九七五	四八	三三	一六

▽阿波國共同汽船會社

區間	浬程	一等	二等	三等
大連—芝罘	八七	八	六・五	五
大連—威海衛	九一	一〇	八	五
大連—仁川	二九九	一六	一三	七
仁川・芝罘・威海衛	二七五	一六	一三	七

區間	浬程	一等	三等
大連・仁川・鎭南浦	二九〇(一八〇)	一三	七
大連—天津	二四五	一〇	五・五
天津・仁川・鎭南浦	五八〇(三九八)	一八	一三

▽大連汽船會社

	浬程	一等	三等
大連—基隆	八五〇	五〇	二二
大連—高雄	一、〇九〇	五三	二五

	浬程	一等	二等	三等
大連—青島	二七五	三六	二四	八
大連—上海	五六五	七五	五〇	一八
青島—上海	三九〇	五五	三六	一三

	浬程	一等	三等
營口—大連	一八〇	九	四
營口—敦賀	一、〇七一	四二	一九
營口—新潟	一、二四〇	四七	二一
大連—敦賀	八九一	三五	一五
大連—伏木	一、〇二七	三八	一七
大連—新潟	一、〇六〇	四〇	一八

	浬程	一等	特三	三等
安東—大連	一五七	一五	—	五
安東—天津	三七九	三〇	—	一〇
大連—天津	二四二	二七	三	八
		二三(遼河丸		
		二〇 に限る)		(六)

▽北滿江運線（滿鐵北滿江運局）

本表は三等運賃｛二等運賃は三等運賃の二倍／一等運賃は三等運賃の三倍｝

	哈爾濱	巴彥	石頭河	新甸	木蘭	濃濃河	通河	方正	三姓	竹簾	湯原	蓮江口	佳木斯	樺川	綏濱	富錦
巴彥	〇・九五															
石頭河	一・三〇	〇・八〇														
新甸	一・三五	〇・九〇	〇・五〇													
木蘭	一・五〇	〇・九五	〇・八〇	〇・五〇												
濃濃河	一・八〇	一・三〇	〇・九〇	〇・七〇	〇・六五											
通河	二・一五	一・三五	一・〇五	〇・八〇	〇・七〇	〇・五五										
方正	二・三〇	一・七〇	一・三〇	一・〇五	〇・九五	〇・七〇	〇・五〇									
三姓	三・一〇	二・四〇	二・一五	一・七五	一・七〇	一・六〇	一・四五	一・三〇								
竹簾	三・三五	二・七〇	二・三〇	二・〇〇	一・九〇	一・八〇	一・六〇	一・四五	〇・五五							
湯原	三・四五	二・八〇	二・四〇	二・二五	二・一五	二・〇〇	一・七五	一・五〇	一・〇五	〇・五〇						
蓮江口	三・八五	三・二〇	二・八〇	二・六五	二・四〇	二・一〇	一・九〇	一・七五	一・三五	一・一〇	〇・五五					
佳木斯	四・一〇	三・三五	三・〇五	二・七〇	二・五〇	二・三〇	二・一五	一・九〇	一・六〇	一・三五	〇・九五	〇・四〇				
樺川	四・四〇	三・六〇	三・四五	二・九五	二・九〇	二・五〇	二・三〇	二・一五	一・七五	二・七〇	一・六〇	一・〇五	〇・六五			
綏濱	五・五〇	四・七〇	四・四〇	四・一〇	四・〇五	三・五〇	三・二五	三・一〇	二・三〇	二・三五	二・〇〇	一・七五	一・三〇	一・〇五		
富錦	五・七〇	四・八〇	四・五五	四・二五	四・一五	三・七〇	三・四五	三・三五	二・五五	二・五〇	二・四〇	二・〇〇	一・七〇	一・二五	〇・五五	
同江	六・二〇	五・七〇	五・三五	五・〇五	四・八〇	四・六〇	四・三五	四・一〇	三・三五	三・一〇	二・九〇	二・八〇	二・三〇	二・一五	一・一〇	〇・八〇

	鷗浦	金山鎮	三站	黑河	璦琿	奇克特	烏雲	佛山	蘿北	同江	佳木斯	哈爾濱
漠河	二・〇〇	三・三〇	四・四〇	五・六〇	六・一五	六・八〇	七・六〇	七・九〇	九・三〇	一〇・〇〇	一三・二五	一六・〇〇
鷗浦		一・三〇	二・四〇	三・六〇	四・一五	四・八〇	五・六〇	五・九〇	七・三〇	八・〇〇	一〇・二五	一四・〇〇
金山鎮			一・三〇	二・四〇	二・九五	三・六〇	四・四〇	四・七〇	六・三〇	七・一〇	九・二五	一三・八〇
三站				一・三〇	一・七五	二・四〇	三・一〇	三・五〇	五・一〇	五・九〇	八・一五	一一・六〇
黑河					〇・五五	一・三〇	二・〇〇	二・三〇	三・九〇	四・七〇	六・九〇	一〇・四〇
璦琿						〇・九五	一・七五	一・九〇	三・六〇	四・五五	六・五五	一〇・三〇
奇克特							一・〇五	一・三五	二・七〇	三・六〇	五・七〇	九・三五
烏雲								〇・五五	二・一五	二・九五	五・〇五	八・五五
佛山									二・〇〇	二・八〇	四・四〇	八・三〇
蘿北										一・一〇	三・一〇	六・八〇

	饒河	國富鎮	海青鎮	撫遠	同江	佳木斯	哈爾濱
虎林	一・四五	一・七〇	二・五五	三・六〇	五・三〇	六・八〇	一〇・〇〇
饒河		一・一〇	二・一〇	三・一〇	四・七〇	六・三〇	一〇・二〇
國富鎮			一・一〇	二・一五	三・七五	五・三五	九・二五
海青鎮				一・三〇	二・七〇	四・五〇	八・五〇
撫遠					一・九〇	三・五〇	七・五〇

▽鴨綠江輪船公司（並等）（特等五割增）

新義州起點	粁程	上航運賃	下航運賃
昌城	八六	五・一五	四・一〇
碧潼	一四〇	八・三五	六・六五
楚山	二二四	一三・三五	一〇・一五
滿浦鎭	二九八	一七・七〇	一四・一六
舊城洞	三四三	二〇・四五	一六・三〇
中江鎭	四二九	二六・一〇	二〇・八五
金昌	五一七	二九・七〇	二三・六五
東興	五五九	三三・八〇	二六・一〇
新乫鎭	六〇六	三五・〇〇	二七・八五

市內乗物賃金

・驛基點・

・都市	・目的地	・タクシー	・人力車	・馬車	・摘要
大連（孤括內は埠頭立關よりの料金）	日本橋	三〇	七（一四）	一四（二八）	（一）タクシーメーター料金 （イ）市內二千米迄三〇錢、以上九百米以內を增す毎に一〇錢 （ロ）郊外千六百米迄三〇錢、以上七二〇米以內を增す毎に一〇錢 （ハ）待時間五分に付一〇錢 （ニ）電話呼出迎賃市內一〇錢 （ホ）呼出待報告後一〇分無料以後五分に付一〇錢 （ヘ）市內時間貸一時間毎に二・五〇 （ト）戰跡廻りは待時間料不要
	大廣場	三〇	七（一四）	一四（二八）	
	埠頭	五〇	一四	二八	
	寺兒溝	五〇（四〇）	二〇（一四）	四〇（二八）	
	櫻町	四〇	一四	二八	
	日之出町	五〇	一四	二八	
	老虎灘	一・〇〇（一・二〇）	—	—	
	桃源臺	六〇（八〇）	—	—	
	傅家庄	一・三〇（一・五〇）	—	—	
	春日町	四〇（五〇）	一四（二〇）	二八（四〇）	
	中央公園	三〇（五〇）	七（二〇）	一四（二〇）	
	伏見町	三〇（六〇）	一四（二五）	二八（五〇）	
	小崗子警察	三〇（七〇）	一四（二五）	二八（五〇）	
	關東州廳	三〇（七〇）	一四（二五）	二八（五〇）	（二）（イ）バス一區五錢 （ロ）電車乗換二錢 （三）電車全區間五錢均一 （普通） 人力車 一區間七錢 二區間一四錢 三區間二〇錢 馬車 一區間一四錢 二區間二八錢 三區間四〇錢 但し四區間以上は一區に付人力車五錢、馬車一〇錢增 一區間は直線十町以內 （特別） 暴風雨及深夜は二割增重物携帶は倍額 （雇切） 人力車一日（十時間）一・四〇 同半日（五時間）〇・七〇 馬車一日（十時間）二・八〇 同半日（五時間）一・四〇 （客待） 人力車三〇分間毎に七錢 馬車同一四錢
	譚家屯	四〇（七〇）	二〇（三〇）	四〇（六〇）	
	石道街	六〇（九〇）	—	—	
	聖德街一丁目	五〇（八五）	二五（三五）	五〇（七〇）	
	大正廣場	六〇（九〇）	二五（三五）	五〇（七〇）	
	星ケ浦	九〇（一・二〇）	—	—	
	黑石礁	一・一〇（一・四〇）	—	—	
	龍ケ岡	一・一〇（一・三〇）	—	—	
	鐵道工場	七〇（一・〇〇）	—	—	
	沙河口驛	七〇（一・〇〇）	—	—	
	周水子驛	一・三〇（一・〇〇）	—	—	
	飛行場	一・四〇（一・八〇）	—	—	
	小野田セメント	一・九〇（二・〇〇）	—	—	
	甘井子曹達會社	二・〇〇（二・四〇）	—	—	
	甘井子滿洲化學	二・一〇（二・五〇）	—	—	
	滿洲石油	二・六〇（三・〇〇）	—	—	
	滿石社宅	二・六〇（三・〇〇）	—	—	

鞍山

市公署	五〇	六	一〇
消費組合	五〇	六	一〇
滿鐵病院	五〇	九	一三
鞍山神社	五〇	一二	一五
臺町	五〇	一二	一七
睦ヶ池	五〇	一二	二二
井々寮	五〇	六	一〇
八卦溝入口	五〇	一〇	二〇
曙小學校	五〇	一四	二〇
昭和製鋼所	五〇	一五	二〇
鞍馬町	五〇	一五	二〇
西廣場	五〇	六	一〇
世界館	五〇	一五	二〇
柳町	五〇	一二	一五
賽馬場	1·00	二〇	二〇

奉天

大廣場	一〇	一五
滿蒙百貨店附近	五	八
宮島町派出所	五	八
大倉ビル	一五	二〇
大廣場	五	八
奉天ビル附近	五	八
青雲寮	五	八
平安廣場	五	八
忠靈塔	一〇	一五
南五條通附近(自平安廣場)	五	八
鐵道總局	一三	二〇
滿鐵消費組合	八	一五
敷島町	二〇	三〇
長沼	一五	四〇
渾河沿	四〇	五〇

◎バス一區五錢三區以上十五錢均一

◎電車一區三錢二區以上六錢均一

◎タクシーメーター制一八〇〇米迄四〇錢、以後五〇〇米又は其端數每に十錢待車三分每十錢

◎人力車一時間貸七五錢

◎馬車一時間貨八五錢

北市場	二〇	三〇
總站	二五	四五
西塔	一五	二〇
西飛行場	二〇	五〇
北陵賽馬場	五〇	八〇
造兵廠	三五	八〇
馬路灣	一五	二〇
馬路灣至大西邊門	一〇	一五
大西門至大西邊門	一〇	一五
本城內	一〇	一五
大東門至大東邊門	一〇	一五
大東邊門至東飛行場	一〇	一五
大東門至小河沿	一〇	一〇
小東邊門至奉海路	一〇	一五
小東門至小東邊門	一〇	一五
瀋海站至東陵	四〇	五〇
小北門至小北邊門	一〇	一五
小北邊門至北塔	一〇	一五
大北門至大北邊門	一〇	一五
大北邊門至北大營	三	四〇
大南門至大南邊門	一〇	一五
小南門至小南邊門	一〇	一五
大倉ビル至小西邊門	一〇	一五
小西邊門至小西門	一〇	一五
小西邊門至總站	一〇	一五
小西邊門至北陵	二〇	四五
小西邊門至西塔	一〇	一五
小西邊門至工業區	一〇	一五
工業區至北陵	二五	二五

總站至濟海站		四〇	六〇	
南市場至工業區		二〇	二五	
北市場至南市場		二五	二五	
南市場至皇姑屯		三〇	四〇	
皇姑屯至北市場		一五	二五	
小西邊門至大西邊門		一〇	一五	
安東				
鐵橋附近	四〇	一〇	一五	人力車市内一〇錢—二〇錢
鎮江山	四〇	一〇	一五	馬車市内一五錢—二五錢
市場通	四〇	一〇	一五	
大東港建設總署	四〇	二〇	三〇	豆タク市内四〇錢均一
九連城	四・〇〇	—	二・〇五	
鴨綠江製材	四〇	二〇	二〇	
鴨綠江製紙	[illegible]	二〇	四〇	
大東港	一八・〇〇	—	—	
新義州	一・〇〇	四〇	—	渡船一〇錢
水豐ダム	二九・四〇	—	—	プロペラ船 上り二・六〇 下り一・六〇
五龍背	一五・〇〇	—	—	
撫順				
炭礦事務所	五〇	五	一〇	タクシーはメーター制バス一區五錢電車あり
新市街	五〇	—	一〇	
永安臺	五〇	一五	三〇	
東郷	一・一〇	二五	四〇	
楊柏堡	—	五〇	八〇	
老虎臺	—	五〇	八〇	
古城子洗炭所	—	三五	六〇	
撫順城	—	四〇	五〇	

營口				
大山坑	—	二〇	三〇	バス運轉區間自驛至西大廟（五區）一區四錢
新市街	五〇	八	一〇	
鐘樓廳	七〇	二〇	三〇	
二本町	八〇	二五	三五	
西大街	九〇	四二	六〇	
牛家屯	一・〇〇	三〇	四〇	
老爺閣街	一・〇〇	三三	四七	
西砲臺	二・五〇	七〇	一・〇〇	
通化				
城内	二・〇〇	五〇	八〇	バス一五錢
四平街				
鐵道東	一・五〇	一五	二〇	
大葬場	三・五〇	一五	二〇	
機關區社宅	一・〇〇	一〇	一五	
野球場	一・五〇	一〇	一五	
市場附近	一・〇〇	五	一〇	
消防隊附近	一・〇〇	五	一〇	
中央公園及陸軍官舍	一・〇〇	五	一〇	
滿鐵社宅	一・〇〇	五	一〇	
滿鐵醫院	一・〇〇	五	一〇	
昭和橋通	一・〇〇	五	一〇	
海豐屯	二・五〇	—	三五	

四平街：（一）バス一區三錢（二）人力車馬車天候不良の場合は五割增（三）待合料金 自動車三〇分毎に二・〇〇、人力車二時間毎に一〇、馬車二時間毎に一五（四）貸切料金 自動車一時間五・〇〇、人力車一日（十時間）八〇、半日（五時間）五〇 馬車一日（十時間）一・五〇 半日（五時間）八〇

新京	吉野町	四〇	五	五	
	新京神社	四〇	五	五	
	兒玉公園	四〇	一〇	一〇	
	大使館	五〇	一〇	一〇	
	忠靈塔	五〇	一五	一五	
	三中井百貨店	六〇	一五	一五	
	大同廣場	六〇	一五	一五	
	大同公園	七〇	二〇	二〇	
	宮廷府	六〇	二〇	二〇	
	國務院	八〇	三〇	三〇	
	南湖	一・四〇	四〇	四〇	
	飛行場	六〇	三五	三五	
	賽馬場	九〇	三〇	三〇	
	寬城子戰跡	六〇	二五	二五	
	南嶺戰跡	一・七〇	五〇	五〇	
吉林	領事館跡	六〇	一三	一五	
	文廟	八〇	一四	一八	
	江岸（市公署）	九〇	一二	二五	
	河南街	一・〇〇	一七	一二	
	臨江門	一・一〇	四〇	二六	
	北山	一・二〇	三〇	三六	
	市民館	一・四〇	四〇	四八	
	小白山	三・〇〇	六〇	六九	
	龍潭山	—	—	—	
	ダム	八・〇〇	—	—	
圖們	國際劇場	九〇	一五	二〇	
	ビューロー	九〇	二〇	二五	

（一）タクシーメーター制始發から一四〇〇米迄四〇錢、五〇〇米又は端數に一〇錢待時間五分毎に五錢

（二）豆タクメーター制始發から五〇〇米迄一〇錢以後五〇〇米又はその端數を增す毎に五錢

（三）市内バス均一線系統一〇錢區間線一區五錢

（四）馬車人力車一區二五〇米一臺二錢割なるも近くは五錢よりとす

タクシーバス共區間制バス一區三錢

哈爾濱	稅關	九〇	二〇	二五	タクシー米制バス、電車あり各五錢
	警察署	九〇	二〇	二五	
	鐵橋	九〇	五〇	六〇	
	中央寺院	八〇	一〇	二〇	
	秋林百貨店	八〇	二〇	三〇	
	キタイスカヤ街	八〇	二〇	五〇	
	馬家溝	一・〇〇	二五	五〇	
	松花江	八〇	三〇	五〇	
	丸商百貨店	八〇	二五	四〇	
牡丹江	舊市街	一・〇〇	一五	二〇	（バス一區十錢）
	第一新市街	一・〇〇	一〇	一五	
	第二新市街	一・〇〇	一五	二〇	
佳木斯	新埠頭	二・〇〇	三〇	五〇	（バス一區五錢）
	省公署	一・五〇	二〇	三〇	
	滿空營業所	一・二〇	一五	二〇	
	東門外	二・〇〇	二五	四〇	
	飛行場	二・五〇	一・〇〇	一・七〇	
	忠靈塔	一・五〇	三〇	五〇	
齊齊哈爾	ビューロー	一・五〇	二〇	一五	（バス一區五錢）
	城内	二・〇〇	二五	二〇	
	龍沙公園	二・〇〇	二五	二〇	
	忠靈塔	二・〇〇	二五	二五	
滿洲里	國境見學場所	—	—	一・〇〇	
	五道街	—	—	一五	
	市政管理處	—	—	一五	
	ビューロー	—	—	一〇	
錦縣	市内	六〇	一〇	一五	（バス一區五錢）
	城内	六〇	一五	二〇	
	女學校	六〇	五	一〇	
	北大營賽馬場（金家屯）	一・五〇	三〇	五〇	

承德	小嶺子	二・〇〇	二五	七〇	
	北關倒座子	六〇	一〇	二〇	
	東關八家子	六〇	一〇	二〇	
	東部工場地帶	九〇	三〇	五〇	
	合成燃料	一・五〇	五〇	八〇	
	市内	一・〇〇	二五	四〇	
	飛行場	—	一〇	一五	
	陸軍病院	—	三〇	四〇	
	獅子溝	—	四〇	五〇	
	大佛寺	—	四五	六〇	
清津	浦口洞	七〇	—	—	(市内バス毎乘車一〇錢) 但港町迄二五錢を要す
	港町(埠頭前)	七〇	—	—	
	明治町	七〇	—	—	
	壽町(バス終點)	七〇	—	—	
	漁町	一・五〇	—	—	
羅津	府内	八〇	—	—	(バスあり)
山海關	南門外一帶	—	五	—	驢一〇馬一五
	鼓樓、城内西南隅	—	一〇	—	驢一五馬二〇
	天下第一關、東羅城 城内西北隅	—	一五	—	驢二〇、馬三〇
	二郎廟	—	五〇	—	驢五〇馬七〇
	角山寺	—	—	—	驢四〇馬六〇
	南海	—	四〇	—	同
	石河	—	三〇	—	驢三〇馬四〇
					一時間以上待合せ一時間に付十錢、市内天下第一關以外は往復四時間を標準としそれ以上は一時間に付十錢
北京	鐵路局	—	五	二〇	
	崇文門	—	一〇	四〇	(バス一區五錢 電車五錢均一)
	華北交通	—	一〇	四〇	
	同仁醫院	—	一五	五〇	
	東單牌樓	—	一五	五〇	
	東安市場	—	一五	五〇	
	居留民團	—	一五	五〇	
	東四牌樓	—	一五	八〇	
	朝陽門	—	三〇	一・〇〇	
	軍司令部	—	三〇	一・〇〇	
	北新橋	—	二五	一・二〇	
	東直門	—	四〇	一・二〇	
	西觀寺西口	—	一五	五〇	
	同東口	—	二〇	六〇	
	州胡同西口	—	一五	五〇	
	同　東口	—	二〇	六〇	
	西總布胡同西口	—	一八	七〇	
	同　東口	—	二三	八〇	
	乾面胡同西口	—	二〇	七〇	
	同　東口	—	二五	八〇	
	和平門	—	一〇	四〇	
	特務機關	—	一五	五〇	
	宣撫班本部	—	一五	五〇	
	放送局	—	一五	五〇	
	西單牌樓	—	一五	五〇	
	西四牌樓	—	二五	八〇	
	太平倉	—	三〇	一・〇〇	
	阜成門	—	三〇	一・〇〇	
	新街口	—	二五	一・二〇	
	西直門	—	四〇	一・二〇	
	府右街南口	—	一五	五〇	
	同　北口	—	二〇	五〇	
	附馬大街東口	—	二〇	三〇	
	同　西口	—	三〇	一・〇〇	

報子街西口	—	三五	八〇
豐成胡同西口	—	二五	八〇
中央公園	—	六	二〇
中央海南口	—	一〇	四〇
景山	—	二〇	六〇
北海	—	二〇	六〇
東華門	—	一五	五〇
西華門	—	一五	五〇
南池子南口	—	一〇	五〇
同　北口	—	一五	五〇
北池子南口	—	一五	五〇
同　北口	—	一〇	五〇
鼓樓	—	四〇	一・〇〇
地安門	—	二五	一・〇〇
孔子廟	—	三〇	一・〇〇
鐘樓	—	三〇	一・〇〇
德勝門	—	三五	一・五〇
安定門	—	三〇	一・〇〇
市公署	—	二〇	六〇
大柵欄	—	五	二〇
珠市口	—	五	二〇
先農壇	—	一五	五〇
永定門	—	一五	五〇
西便門	—	三五	八〇
東便門	—	三〇	一・〇〇
廣安門	—	三〇	一・〇〇
左安門	—	三〇	一・〇〇
右安門	—	三〇	一・〇〇
南新華街北口	—	一〇	四〇
南新華街南口	—	二〇	六〇
日本大使館	—	七	二八

天津	天壇	—	一五	五〇	
	日本租界	一・五〇	五	—	（本表は租界中心を標準とせるもの、外に電車バスあり）
	支那街	一・五〇	二〇	—	
	伊租界	一・〇〇	一〇	—	
	英租界	一・五〇	二〇	—	
	佛租界	一・五〇	一五	—	
	特一區	二・〇〇	二五	—	
	特二區	一・〇〇	二〇	—	
	特三區	五〇	一〇	—	
	特四區	一・五〇	一五	—	
青島	埠頭・青島縣廳・青島驛・發電所・水族館	一・六〇	—	—	出庫より入庫まで十五分以内の料金（一）豆タク八〇〇米迄三〇錢以後五〇〇米毎は一〇錢待車五分毎に一〇錢（二）バス毎乘車一〇錢乘換一回限五錢
大同	城内	一・八〇	一五	—	
	市内	一・〇〇	—	—	
	石佛往復	三・一〇	—	—	所要三時間
	炭礦	二〇・〇〇	—	—	同　四時間
	一時間貸切	四・〇〇	—	—	
	一日貸切	四〇・〇〇	—	—	一〇時間
石門	市内一圓	—	一〇	—	雨天五錢増
濟南	一時間貸切	三・〇〇	—	—	
	大東門	—	一三	—	
	院前街	—	一七	—	
	大明湖	—	一七	—	
	大西門	—	一四	—	

	乾健門	〃	四	—	
	路突泉	—	一六	—	
	普利門	—	一〇	—	
	經二路緯一路	—	七	—	
	齊魯大學	—	一七	三〇	
	千佛山	—	三〇	—	
	黃臺車站	—	三〇	—	
	大觀園	—	八	—	
	緯七路小緯二路	—	一〇	—	
	公園	—	六	—	
	齊南醫院	—	一〇	—	
	經三路緯八路	—	八	—	
太原	ビューロー	—	一〇	—	バス 五錢
	警察分署	—	一〇	—	同 五錢
	太原神社	—	二〇	—	同 一〇錢
	領事館	—	二五	—	同 一五錢
	鐵路工廠	—	三〇	—	同 一五錢
南京	二號棧橋	一・〇〇	一〇	二〇	
	亞細亞ホテル	一・五〇	二五	五〇	バス一〇錢
	市政府	二・〇〇	三〇	七〇	同 一五錢
	鼓樓	二・〇〇	三〇	七〇	同 一五錢
	新街口	二・五〇	四〇	一・〇〇	同 二〇錢
	中華門	三・〇〇	五〇	一・五〇	同 三〇錢
	中山門	三・〇〇	六〇	二・〇〇	
	中山陵	三・〇〇	一・〇〇	二・五〇	
	玄武湖	三・〇〇	四〇	一・〇〇	
上海	一時間貸切	五・〇〇	三〇	—	
	ガーデンブリッチ	二・〇〇	二五	—	バス一〇錢
	領事館	二・〇〇	三五	—	同 同
	碼頭(日郵)	二・〇〇	四〇	—	同 二〇錢
	ビューロー	二・〇〇	一五	—	同 一〇錢
	呉淞路廣場	二・〇〇	二〇	—	同 同（但しバスは北四川路虬江路まで徒歩とす）
蘇州	寒山寺	—	三五	七〇	
	金門	—	一五	五〇	バス 七錢
	觀前街(蘇州銀座)	—	三一	六〇	同 一〇錢
	日本租界	—	四〇	八〇	
杭州	湖濱公園	一・五〇	一五	—	バス一二錢
	領事館	一・五〇	二〇	—	同 一六錢
	中山公園	二・〇〇	二五	—	同 二〇錢
	岳王廟	二・五〇	三〇	—	同 二四錢
	雲林寺	五・〇〇	四〇	—	同 三二錢
	淨慈寺	二・〇〇	二〇	—	
	湖墅	五・〇〇	三〇	—	同 三二錢
漢口	タクシー(ダットサン)				一日貸切三〇圓、一粁迄五〇錢以後一粁毎二〇錢増待車五分一〇錢
	バス				一區五錢貸切一時間一〇圓
	人力車				碼頭より市中心地まで一〇錢

註 武昌漢陽は人力車のみにてバス、タクシーなし



支那事變の輝しき戰果によつて東亞新秩序の建設は飛躍的發展を遂げ、日滿支を貫ぬく交通網の整備と產業の開發は東亞旅行界に異狀なる一時期を劃し從つて各主要地に於ては悉く旅館の不足を告げ、觀光團體の誘致困難、宿泊料金の値上げ、共同宿泊所の設置、滿鐵に對する新ホテル經營の要望等となつて顯はれるに至つた。然してこの旅館不足の主要なる一因をなすものは各地に於ける住宅難による定住者のホテル利用則ち旅館のアパート化によるものとされ、昭和十三年度に於ける宿泊人員は地方に依り多少異るも少きは一、二割、大きは三、四割方の激增振りを示し、昭和十四年度に入つては更に一段と宿泊設備の不足を告げるに至つてゐる。各地新設の主要旅館は昭和十四年早々牡丹江ヤマトホテルの開業、秋期に入り羅津ヤマトホテル、哈爾濱名古屋ホテルの開業等あり、尙全支の國際ホテルは漸次日本人の經營に移されつゝある。

主要地旅館數

・本表は大體二級以上の旅館數にして滿支人旅館の調査は頗る不備の點あり之が完成は他日に待つ

・地名	・日本旅館	・朝鮮旅館	・滿支旅館	・外人旅館	備考
【滿洲】					
大連	四五	四	一六	八	
鞍山	二三	二	六	—	
奉天	五三	九	九六	—	
撫順	四	二	八	—	
營口	四	四	九	—	
安東	一七	一三	三	—	
通化	七	一〇	七四	—	
四平街	六	三	八〇	—	
新京	四三	八	七〇	—	
吉林	一〇	一六	一五	—	
圖們	一二	一二	八	—	
延吉	八	二	一	—	
哈爾濱	二四	四	一三	一〇	
牡丹江	二一	一四	九六	—	
佳木斯	二五	四	四八	—	
齊々哈爾	六	二	七	—	
海拉爾	六	—	—	—	
滿洲里	三	—	—	一	
白城子	五	—	—	—	
錦縣	一〇	三	二九	—	
北安	五	—	—	—	
承德	八	一	一〇	—	
【北鮮】					
清津	四六	八四	—	—	
羅津	四	四	—	—	
【中國・蒙疆】					
山海關	六	—	一七	一	
北京	六二	一二	一三	三	
天津	四六	一二	四六	七	
石家莊	二九	一四	一〇四	—	
徐州	九	七	—	—	
濟南	一八	三	二九	一	
靑島	二九	四	四二	三	
太原	二五	六	—	—	
張家口	二〇	—	—	—	
大同	八	—	五三	—	
厚和	一〇	—	—	—	
上海	五三	二	—	—	
南京	四〇	三	—	—	
杭州	五	—	一四	—	
蘇州	三	—	一二〇	—	
漢口	七	五	一五	四	

鮮滿支主要日本旅館調

△滿洲

宿泊料金中 ※印は食事なし室料 / △印は一泊朝食附料金 / 其他は一泊二食(夕朝食)附料金

―連京・旅順線―

・地名	・旅館名	・所在町	・宿泊料 最高	・宿泊料 最低
大連	大連ヤマトホテル(總局直營)	播磨町	※三〇・〇〇円 二五・〇〇	※四・〇〇円 九・〇〇
	星ヶ浦ヤマトホテル(總局直營)	星ヶ浦	※一〇・〇〇 一七・〇〇	※四・五〇 九・五〇
	遼東ホテル	大山通	※二五・〇〇	※三・〇〇
	中央ビルホテル	西通	※一三・〇〇	※四・〇〇
	亞細亞ホテル	信濃町	七・〇〇	三・〇〇
	天滿屋ホテル	西通	※五・〇〇	※三・〇〇
	花屋ホテル	信濃町	七・〇〇	四・〇〇
	東鄕旅館	信濃町	七・〇〇	四・〇〇
	東鄕別館	信濃町	五・〇〇	三・〇〇
	ナニワホテル	伊勢町	※五・〇〇	※二・〇〇
	錦水ホテル	信濃町	六・〇〇	五・〇〇
	滿洲ホテル	東鄕町	六・〇〇	四・〇〇
	東洋ホテル	伊勢町	六・〇〇	四・〇〇
	磐城ホテル	監部通	六・〇〇	四・〇〇
	鎭西旅館	信濃町	六・〇〇	四・〇〇
	春田旅館	監部通	六・〇〇	四・〇〇
	日本橋ホテル	大山通	六・〇〇	四・〇〇
	東洋館	伊勢町	六・〇〇	四・〇〇
	ヤマシロホテル	羽衣町	※五・〇〇	※三・〇〇
	大連ホテル	敷島町	五・〇〇	三・〇〇
	技術會館ホテル	東公園町	三・〇〇	二・五〇
奉天	ヤマトホテル(總局直營)	浪速通	※二五・〇〇 三〇・〇〇	※三・五〇 八・五〇
	瀋陽館	琴平町	△二〇・〇〇	△四・〇〇
	ホービルホテル	住吉町	※一三・〇〇	※二・五〇
	大星ホテル	浪速通	※六・五〇	※二・〇〇
	大丸旅館	若松町	八・〇〇	四・〇〇
	平和ホテル	加茂町	※五・〇〇	※二・〇〇
	滿洲ホテル	浪速通	七・〇〇	※二・五〇
	マルナカホテル	彌生町	※五・五〇	※三・〇〇
	溫泉ホテル	江ノ島町	※一五・〇〇	※二・〇〇
	日滿ホテル	千代田通	※四・五〇	二・〇〇
	平安ホテル	平安通	六・五〇	三・五〇
	昭和ホテル	千代田通	※四・〇〇	※二・〇〇
	東亞旅館	平安通	五・〇〇	三・五〇
	日進旅館	宮島町	四・五〇	三・五〇
	松島館	松島町	七・〇〇	三・五〇
	九洲館	浪速通	八・〇〇	三・五〇
	一力旅館	浪速通	四・五〇	三・五〇
	武藏屋旅館	宮島町	四・五〇	二・五〇
	常盤旅館	宮島町	四・五〇	三・〇〇
新京	ヤマトホテル(總局直營)	中央通	※二五・〇〇 三〇・〇〇	※三・〇〇 八・五〇
	國都ホテル	中央通	※八・〇〇	二・五〇
	大都ホテル	日本橋通	※一三・〇〇	※三・〇〇
	滿蒙ホテル	中央通	※一〇・〇〇	※三・〇〇
	向陽ホテル	大和通	※八・〇〇	※四・〇〇
	中央ホテル	中央通	※八・〇〇	※三・〇〇
	大和新館	東二條通	※七・〇〇	※二・五〇

地名	名称	所在地		
新京	太陽ホテル	永樂町	※六・〇〇	※四・〇〇
	新亜細亜ホテル	日本橋通	※七・五〇	※四・〇〇
	富士屋旅館	中央通	※七・〇〇	※二・五〇
	松屋ホテル	興安大路	※七・〇〇	※三・〇〇
	天寶ホテル	天寶街	※八・〇〇	※三・〇〇
	新京ホテル	富士町	△五・〇〇	△三・五〇
	帝都ホテル	大經路	七・五〇	四・五〇
	大新ホテル	新發路	△五・〇〇	△三・〇〇
	都ホテル	朝日通	※五・〇〇	※三・〇〇
	國際ホテル	中央通	△四・〇〇	均一
	太平旅館	大和通	※五・〇〇	※三・〇〇
	旭ホテル	日本橋通	※五・〇〇	※三・〇〇
	大丸新館	錦町	※五・〇〇	※三・〇〇
	滿蒙旅館	大和通	七・五〇	三・五〇
	蓬萊ホテル	中央通	※五・〇〇	※三・〇〇
	國華ホテル	日本橋通	※五・〇〇	※三・〇〇
	梅屋旅館	三笠町	六・〇〇	四・〇〇
	常盤旅館	三笠町	※五・〇〇	※三・〇〇
	名古屋ホテル	日本橋通	※五・〇〇	※三・〇〇
	協和旅館	日ノ出町	五・五〇	三・〇〇
	新都旅館	大和通	※四・五〇	※二・五〇
	喜久屋旅館	吉野町	※四・五〇	※二・五〇
	吉田屋新館	三笠町	五・五〇	三・〇〇
哈爾濱	ヤマトホテル（總局直營）	南崗車站街	※三五・〇〇 四〇・〇〇	※三・五〇 八・五〇
	北滿ホテル	新城大街	※一三・〇〇	※三・〇〇
	ニューハルピン	大直街	※一四・〇〇	※五・〇〇
	名古屋ホテル	石頭道街	※九・〇〇	※三・〇〇
	亜細亜ホテル	斜紋街	※九・〇〇	※三・五〇
	ナショナルホテル	地段街	※一三・〇〇	※三・五〇
	榮屋ホテル	水道街	八・〇〇	五・〇〇
	國際ホテル	斜紋一道街	七・〇〇	三・五〇
	鶴屋旅館	斜紋街	六・五〇	三・七〇
	滿洲屋ホテル	石頭道街	八・〇〇	四・〇〇
	ホテル・モデルン	中央大街	※一二・〇〇	※三・五〇
	天滿ホテル	義州街	七・〇〇	四・〇〇
	滿平ホテル	斜紋五道街	七・〇〇	五・〇〇
	東洋ホテル	地段街	八・五〇	五・〇〇
	大星ホテル	水道街	七・〇〇	四・〇〇
	都ホテル	郵政街	六・〇〇	四・〇〇
	松花ホテル	中國六道街	七・〇〇	四・〇〇
	北興ホテル	石頭道街	六・〇〇	四・〇〇
	花屋ホテル	田地街	七・〇〇	四・〇〇
旅順	ヤマトホテル別館（總局直營）	黄金臺	※七・〇〇	※五・〇〇
	旅順ホテル	青葉町	七・〇〇	三・〇〇
	防長館	青葉町	五・〇〇	二・五〇
金州	金州旅館	筑紫町	五・〇〇	三・〇〇
普蘭店	松山旅館	福壽街	五・〇〇	三・〇〇
瓦房店	みどり旅館	驛前	四・〇〇	二・五〇
熊岳城	温泉ホテル	温泉街	七・〇〇	四・〇〇
	熊谷旅館	中央通	四・五〇	四・〇〇
蓋平	松美屋	大堆子街	三・〇〇	二・五〇
大石橋	梅廼家旅館	驛前	六・〇〇	三・五〇
	大東旅館	大街	七・〇〇	三・五〇
海城	出雲屋旅館	大街	七・〇〇	三・五〇
	海城ホテル	大街	七・〇〇	三・五〇
湯崗子	對翠閣	―	※一四・〇〇	※四・〇〇
	樂山莊	―	※一八・〇〇	※一五・〇〇
	玉泉館	―	三・五〇	二・〇〇
鞍山	近江屋ホテル	北二條通	八・五〇	四・五〇
	鞍山ホテル	北五條通	七・〇〇	四・〇〇
	扇屋旅館	北三條町	五・〇〇	三・〇〇
遼陽	遼塔ホテル	昭和通	七・五〇	三・五〇

	內田旅館	昭和通	六・〇〇	四・〇〇
	油屋旅館	幸町	六・〇〇	三・〇〇
蘇家屯	昭和旅館	昭和通	四・〇〇	三・五〇
鐵嶺	松花ホテル本館	中央通	七・〇〇	四・〇〇
	松花ホテル別館	中央通	七・〇〇	五・〇〇
開原	驛ホテル(總局直營)	驛舍樓上	※二・五〇	均一
	二葉旅館	開原大街	一〇・〇〇	三・〇〇
昌圖	天橋館	—	三・五〇	二・五〇
四平街	植半旅館	立一條通	八・〇〇	四・〇〇
	小松屋旅館	中央通	八・〇〇	四・〇〇
公主嶺	公主嶺ホテル	堀町	七・〇〇	五・〇〇
	丸福旅館	花園町	八・〇〇	四・〇〇

—營口・撫順・安奉線—

營口	淸林館	旭街	七・〇〇	三・五〇
	營口ホテル	旭街	八・〇〇	三・五〇
撫順	炭礦俱樂部	西公園町	※三・〇〇	※二・〇〇
	筑紫館本店	東一番町	八・〇〇	五・〇〇
	筑紫館支店	驛前	一〇・〇〇	四・〇〇
	壽旅館	永安大街	六・〇〇	三・〇〇
本溪湖	本溪湖ホテル	石山町	七・三〇	三・〇〇
橋頭	富田屋旅館	驛前	六・〇〇	三・〇〇
南坟	一二三屋旅館	驛前	四・〇〇	三・〇〇
草河口	岩見旅館	草河口	五・三〇	三・三〇
連山關	都屋旅館	驛前	三・〇〇	二・〇〇
	松屋旅館	驛前	三・〇〇	二・〇〇
鷄冠山	鷄冠旅館	南町	三・〇〇	三・〇〇
鳳凰城	小林旅館	敷島町	四・〇〇	二・〇〇
	鳳凰旅館	敷島町	四・〇〇	二・〇〇
五龍背	五龍閣(總局直營)	—	※七・〇〇	※一・五〇
安東	安東ホテル	驛前	一五・〇〇	二・〇〇

	滿洲旅館	五番通	八・〇〇	三・五〇
	元寶館	市場通	一〇・〇〇	三・五〇
	富久壽美旅館	市場通	六・〇〇	三・五〇
	大和旅館	大和橋通	六・五〇	三・五〇
	日ノ出旅館	大和橋通	六・〇〇	三・三〇
	日滿ホテル	大和橋通	※三・五〇	※二・〇〇
	井筒屋旅館	五番通	六・〇〇	三・五〇
	ことぶき旅館	六番通	三・〇〇	均一
	紅屋旅館	三番通	六・〇〇	三・五〇
	秀濤旅館	大和橋通	五・〇〇	三・〇〇
	渚屋旅館	堀割北通	四・〇〇	二・五〇

—京濱・京圖・朝開線—

德惠	響門旅館	中央大街	五・〇〇	三・五〇
陶賴昭	松花旅館	鐵寮街	三・〇〇	均一
三岔河	日本旅館	—	四・〇〇	均一
雙城堡	常盤旅館	協和街	五・〇〇	三・五〇
下九臺	淸鳳旅館	九臺溫泉	※八・〇〇	※三・五〇
吉林	名古屋旅館	大馬路	一一・〇〇	四・五〇
	日淸ホテル	大馬路	一〇・〇〇	四・五〇
	三陽ホテル	南大路	※七・〇〇	※三・五〇
蛟河	松屋旅館	康德街	六・五〇	三・五〇
威虎嶺	大泊旅館	驛前	三・〇〇	均一
敦化	富士屋旅館	凱旋通	七・〇〇	三・五〇
	大泊旅館	驛前	七・〇〇	三・五〇
明月溝	松屋旅館	滿洲街	八・〇〇	三・〇〇
朝陽川	山口旅館	驛前	四・五〇	三・〇〇
延吉	日本ホテル	丁字街	八・〇〇	三・五〇
	ヤマトホテル	新安街	八・〇〇	四・〇〇
	カメヤ旅館	春風街	一〇・〇〇	九・〇〇
圖們	博多屋旅館	銀行街	七・〇〇	三・〇〇

龍井	柳屋旅館	銀行街	四・〇〇	二・五〇
	福屋旅館	春風街	七・〇〇	三・〇〇
	間島屋旅館	吉勝中街	三・〇〇	三・〇〇
	名古屋旅館	廣東街	七・〇〇	三・五〇

―圖佳・虎林線―

石峴	きくや旅館	―	二・五〇	二・〇〇
汪清	花屋旅館	大肚川旭町	五・〇〇	二・五〇
	梅屋旅館	大肚川旭町	四・〇〇	三・〇〇
	日之日旅館	大肚川旭町	四・〇〇	一・〇〇
大荒溝	大黒屋旅館	昭和通	七・〇〇	三・五〇
天橋嶺	山城屋旅館	―	六・〇〇	三・五〇
春陽	土佐屋旅館	驛前	三・五〇	二・五〇
	文福旅館	―	三・五〇	二・五〇
鹿道	北海館	驛前	三・五〇	二・五〇
東京城	東亞ホテル	城内	五・〇〇	三・五〇
寧安	寧安旅館	城後街	六・〇〇	四・〇〇
	日之本旅館	城後街	七・〇〇	四・〇〇
	蓬莱旅館	西南門街	六・〇〇	四・〇〇
海浪	鶴屋旅館	中央通	二・五〇	一・五〇
牡丹江	ヤマトホテル(總局直營)	太平路	※一〇・〇〇	※四・〇〇
	富士屋ホテル	光化街	一六・〇〇	五・〇〇
	芙蓉ホテル	日昭街	七・〇〇	四・〇〇
	常盤ホテル	丹明街	七・〇〇	四・〇〇
	花屋ホテル	丹明街	八・〇〇	五・〇〇
仙洞	仙洞旅館	―	二・五〇	均一
林口	菊屋ホテル	驛前	七・〇〇	五・〇〇
古城鎭	加賀旅館	驛前	四・五〇	均一
勃利	亞細亞ホテル	正直街	六・〇〇	四・〇〇
	東洋ホテル	正直街	六・〇〇	四・〇〇
	勃利旅館	南門街	六・〇〇	四・〇〇
千振	千振旅館	湖南營	一・〇〇	均一
	湖南營旅館	湖南營	二・五〇	一・〇〇
彌榮	第一共勵宿泊所	永豊鎭	一・五〇	均一
	第二共勵宿泊所	同	三・五〇	均一
佳木斯	驛ホテル(總局直營)	驛舍樓上	※三・五〇	※三・〇〇
	伊勢屋旅館	南崗大街	一〇・〇〇	四・〇〇
	京都旅館	南崗通	六・〇〇	四・〇〇
	梅屋旅館	中央大街	六・〇〇	四・〇〇
	壽屋旅館	中央大街	六・〇〇	四・〇〇
	柳田旅館	南崗大街	五・〇〇	三・〇〇
	花屋ホテル	同	六・〇〇	四・〇〇
	佳木斯ホテル	同	七・〇〇	五・〇〇
	協和ホテル	中央大街	※二・五〇	※一・〇〇
	札幌旅館	驛前通	六・〇〇	四・〇〇
	長門旅館	驛前通	四・〇〇	均一
滴道	滿壽旅館	―	―	―
鷄西	武津旅館	―	四・〇〇	三・五〇
平陽	麗陽旅館	平陽鎭	七・〇〇	五・〇〇
黒臺	武津旅館	―	四・〇〇	均一
東安	芬州旅館	―	七・〇〇	四・〇〇
	末廣旅館	―	七・〇〇	四・〇〇
	櫻屋旅館	―	七・〇〇	四・〇〇
虎林	日の本旅館	―	五・〇〇	五・〇〇
	大和ホテル	―	五・〇〇	五・〇〇
虎頭	ウスリー旅館	―	五・五〇	三・五〇

―濱綏・拉濱線―

阿城	阿城旅館	通城街	四・〇〇	均一
帽兒山	エドヤ旅館	大同街	三・〇〇	二・五〇
珠河	富士屋旅館	―	六・〇〇	四・〇〇
一面坡	一面坡ホテル	鐵道街	七・〇〇	四・〇〇
	丸越旅館	大直街	七・〇〇	五・〇〇
葦河	大和旅館	―	三・〇〇	二・〇〇

亞布洛尼	辰巳屋旅館	驛前	四・五〇	二・五〇
横道河子	ときわ旅館	水泉街	五・〇〇	三・〇〇
	別莊ホテル	水泉街	五・〇〇	三・〇〇
愛河	掖河旅館	學堂街	三・五〇	二・五〇
	大黒屋旅館	學堂街	五・〇〇	四・〇〇
穆稜	穆稜ホテル	警察街	七・〇〇	四・〇〇
	丸屋旅館	警察街	六・〇〇	四・〇〇
下城子	下城子旅館	―	七・〇〇	五・〇〇
小綏芬	櫻屋旅館	―	四・〇〇	均一
	東滿旅館	東街	四・〇〇	均一
綏芬河	綏芬旅館	大通街	八・〇〇	五・〇〇
	三若旅館	敎堂街	七・五〇	五・五〇
	ポクラホテル	賣買街	一〇・〇〇	五・五〇
	松尾旅館	敎堂街	五・〇〇	四・〇〇
新站	滿平ホテル	陽明街	五・〇〇	三・五〇
山河屯	滿月旅館	南大街	三・〇〇	均一
五常	五常ホテル	東大街	四・〇〇	三・〇〇
	飯田旅館	東大街	三・〇〇	均一
―濱北・北黒・齊北・寧墨線―				
呼蘭	建國ホテル	建國街	四・〇〇	三・〇〇
綏化	綏化ホテル	松木街	五・〇〇	四・〇〇
	北進ホテル	驛前	五・〇〇	四・〇〇
	協和ホテル	―	五・〇〇	四・〇〇
海倫	海倫ホテル	順天東大街	五・〇〇	均一
北安	大同ホテル	西松村街	八・〇〇	四・〇〇
	日乃丸旅館	東松村街	八・〇〇	六・〇〇
龍鎮	滿龍旅館	驛前	四・〇〇	均一
孫呉	興安ホテル	永代路	八・〇〇	五・〇〇
黒河	常盤ホテル	興隆街	一三・〇〇	五・〇〇
	蔦屋旅館	興隆街	一〇・〇〇	五・〇〇
	丸金旅館	南大街	五・〇〇	三・五〇
克山	鶴屋旅館	城内	四・〇〇	三・〇〇
泰安	彌生館	北大街	五・〇〇	四・〇〇
寧年	寧年館	―	四・〇〇	△三・五〇
訥河	富屋旅館	西大街	四・五〇	四・〇〇
墨爾根	吉野屋旅館	南大街	六・〇〇	五・〇〇
―濱洲線―				
滿溝	濱洲旅館	正陽街	四・五〇	三・〇〇
	日滿旅館	斜紋街	三・〇〇	均一
安達	安達旅館	南三道街	二・五〇	均一
	佐賀旅館	北三道街	三・〇〇	均一
昂昂溪	昂榮旅館	中江街	四・五〇	四・〇〇
扎蘭屯	青木旅館	郵政街	七・〇〇	四・〇〇
	雙葉旅館	齊齊哈爾街	六・〇〇	三・五〇
博克圖	興安旅館	一面街	五・〇〇	均一
	津川旅館	一面街	五・〇〇	均一
海拉爾	呼倫ホテル	滑防街	一〇・〇〇	五・〇〇
	蒙都ホテル	大通街	八・〇〇	四・〇〇
	海拉爾ホテル	東二道街	六・〇〇	四・〇〇
滿洲里	東亞旅館	博土街	七・〇〇	四・〇〇
	日本ホテル	二道街	七・〇〇	四・〇〇
―京白・白阿・平齊線―				
農安	玉屋旅館	東街	三・五〇	均一
前郭旗	扶餘ホテル	福壽大街	四・〇〇	均一
	旭ホテル	福壽大街	三・〇〇	均一
阿爾山	阿爾山ホテル(總局直營)	阿爾山	六・五〇	五・〇〇
王爺廟	王爺廟ホテル	興德街	七・〇〇	四・〇〇
	滿蒙ホテル	興隆大街	四・〇〇	三・五〇
索倫	アジア旅館	驛前	四・〇〇	均一
	索倫旅館	索倫街	四・〇〇	均一
鄭家屯	鄭家屯ホテル	北大街	八・〇〇	四・〇〇
洮南	南滿旅館	康樂街	三・〇〇	四・〇〇

白城子	富士屋ホテル	工商路	六・〇〇	四・〇〇
	八千代ホテル	成功路	六・〇〇	均一
泰来	静屋旅館	驛前	三・〇〇	
	花湖屋旅館	國光街	四・〇〇	三・五〇
齊齊哈爾	鐵道局ホテル(總直營)	驛舎	※四・五〇	〇・八〇 〇・五〇
	龍沙旅館	永安大街	三・〇〇	四・〇〇
	日の丸旅館	新馬路	三・〇〇	四・〇〇
	朝日旅館	永安里	六・〇〇	四・〇〇

―奉吉・平梅・梅輯線―

清原	初音旅館	清原大街	三・〇〇	均一
山城鎮	多来福旅館	東門裡	四・五〇	三・五〇
梅河口	梅屋旅館	驛前	五・〇〇	三・五〇
朝陽鎮	福家旅館	西大街	四・〇〇	三・〇〇
磐石	磐石ホテル	城内	七・五〇	三・五〇
	栄福旅館	中央通	七・〇〇	四・〇〇
西安	スター旅館	長春街	七・〇〇	三・〇〇
	山田屋旅館	西寧門裡	五・〇〇	三・五〇
	西安ホテル	永安西街	五・〇〇	三・〇〇
東豊	東豊旅館	城内	四・〇〇	三・五〇
三源浦	一三五支旅館	三源浦中街	三・〇〇	均一
通化	田村旅館	南關	七・五〇	五・五〇
	多来福旅館	南關	五・〇〇	三・五〇
	水華園旅館	西南關	四・〇〇	三・〇〇

―奉山・壺蘆島・大鄭線―

新民	新民ホテル	驛前	五・〇〇	二・〇〇
大虎山	大虎山ホテル	平安街	五・〇〇	二・五〇
	伊豫屋旅館	大和街	四・五〇	二・五〇
	大和屋旅館	同	四・五〇	二・五〇
溝幇子	日乃本旅館	南新街	四・〇〇	三・〇〇
錦縣	錦州ホテル	福壽街	一〇・〇〇	四・〇〇
	昭和ホテル	青柳大街	一〇・〇〇	四・〇〇
	奉山ホテル	大馬路	七・〇〇	三・〇〇
	遼西ホテル	室町	七・〇〇	三・〇〇
	建國ホテル	大和街	五・〇〇	三・五〇
錦西	連山旅館	驛前	三・〇〇	二・五〇
興城	温泉ホテル(總局直營)	興城	※四・〇〇 六・〇〇	二・〇〇 三・五〇
	満月旅館	驛前	冬 三・〇〇	夏 二・五〇
綏中	綏中旅館	大街	七・〇〇	三・〇〇
	日乃丸旅館	南門外大街	六・〇〇	二・五〇
壺蘆島	壺蘆島ホテル(總局直營)	埠頭	※四・五〇	※三・〇〇
	大和屋旅館	西山街	六・〇〇	四・〇〇
彰武	彰武旅館	驛公署前	四・〇〇	二・五〇
	天心旅館	驛前	四・〇〇	三・〇〇
章古臺	章古臺旅館	驛前	五・〇〇	二・五〇
通遼	通遼ホテル	永福大街	八・〇〇	三・五〇
	博多屋旅館	永福大街	三・〇〇	

―錦古・葉峰・北票・新義線―

義縣	菊水旅館	東街路北	四・〇〇	二・〇〇
料陽	國際ホテル	北大街	七・〇〇	三・〇〇
葉柏壽	東洋ホテル	驛前	八・〇〇	三・〇〇
	福壽ホテル	驛前	五・〇〇	四・〇〇
凌源	大和旅館	北大街	四・〇〇	三・五〇
	満月旅館	北大街	四・〇〇	三・五〇
平泉	日満ホテル	中央大街	五・〇〇	三・五〇
承徳	驛ホテル(總局直營)	驛舎樓上	※三・〇〇	均一
	梅屋旅館	西大街	七・〇〇	四・五〇
	承徳ホテル	舊銀庫胡同	三・〇〇	五・〇〇

	春日旅館	太平橋通	五·〇〇	四·〇〇
	日光ホテル	太平橋通	五·〇〇	三·五〇
古北口	古北口ホテル		五·〇〇	四·〇〇
赤峰	都ホテル	五道街	一五·〇〇	四·〇〇
	赤峰ホテル	三道街	七·〇〇	三·〇〇
北票	大同ホテル	驛前	五·〇〇	三·〇〇
	北票ホテル	驛前	三·五〇	均一
東阜新	白翠ホテル	白柳街	六·五〇	四·五〇
	白濱旅館	城内東大街	一〇·〇〇	四·〇〇
	榮ホテル	城内東新路街	六·〇〇	三·〇〇
	妙法旅館	城内南大街	三·五〇	均一
	阜新旅館	城内新大街	五·五〇	三·五〇
	阜新ホテル	城内南一條街	四·五〇	二·五〇

―鐵道總局自動車沿線―

輯安	霜井旅館	東盛街	五·〇〇	三·五〇
園場	園場ホテル	三道街	四·五〇	三·五〇
多倫	多倫旅館	牛市街	五·〇〇	四·〇〇
開魯	興西ホテル	東大街	七·〇〇	四·五〇
烏丹城	壽ホテル	東門大街	四·〇〇	均一
	烏丹城ホテル	城内	六·〇〇	三·〇〇
林西	日滿旅館	三道街	四·〇〇	三·〇〇
	林西ホテル	三道街	六·〇〇	三·〇〇
拜泉	花柵屋旅館	北二道街	四·五〇	均一

△朝鮮

平壌	鐵道ホテル	山手町	※二〇·五〇	※二·〇〇
	三根旅館	壽町	一五·〇〇	三·五〇
	朝日旅館	幸町	八·〇〇	三·五〇
	櫻旅館	旭町	七·〇〇	三·〇〇
	つはめ	東町	四·〇〇	二·七〇
	菅々館	南町	五·〇〇	二·七〇
京城	朝鮮ホテル	長谷川町	※三七·〇〇	※三·〇〇
	備前屋	長谷川町	一〇·〇〇	四·〇〇
	天眞樓	南山町	九·〇〇	五·〇〇
	山本旅館	本町	七·〇〇	四·〇〇
	不知火旅館	旭町	七·五〇	三·五〇
	本町ホテル	本町	七·〇〇	三·〇〇
	京城ホテル	南山町	七·〇〇	四·〇〇
	笑福旅館	御成町	六·〇〇	三·五〇
	大綠旅館	御成町	九·〇〇	四·〇〇
	御成旅館	南大門通	七·五〇	三·五〇
	浦尾旅館	本町	七·〇〇	三·五〇
	三重旅館	蓬莱町	七·〇〇	三·〇〇
	二見旅館	古市町	七·〇〇	四·〇〇
	大東館	南大門通	六·〇〇	三·〇〇
	村上旅館	南大門通	七·〇〇	四·〇〇
釜山	鐵道會館	驛舍樓上	※三〇·〇〇	※五·〇〇
	釜山ホテル	辨天町	四·〇〇	二·〇〇
	鳴戸旅館	大倉町	八·〇〇	三·五〇
	荒井旅館	榮町	七·〇〇	三·〇〇
	松島ホテル	岩南町	一〇·〇〇	三·〇〇
	花屋ホテル	大倉町	七·〇〇	三·〇〇
	松井旅館	大倉町	五·五〇	三·〇〇
	岡本旅館	大倉町	五·五〇	三·〇〇
朱乙	鮮仙閣	朱乙溫堡	一〇·〇〇	二·五〇
	千歲	朱乙溫堡	一〇·〇〇	二·五〇
	萬翠	朱乙溫堡	五·〇〇	二·五〇
	かねた溫泉館	龍郊洞	七·〇〇	二·五〇
淸津	國際ホテル	新岩洞	一五·〇〇	一·五〇
	櫻屋旅館	港町	五·〇〇	三·〇〇
	山陽館	大和町	四·〇〇	二·五〇
	鶴林館	明治町	八·〇〇	三·〇〇
	淸進館	敷島町	四·〇〇	二·〇〇

富寧	平和旅館		三・〇〇	二・〇〇
吉茂山	〆梅旅館	富寧面柳坪洞	三・五〇	二・〇〇
	とらや旅館	富寧両柳坪洞	三・五〇	二・〇〇
會寧	會寧旅館	四洞	七・〇〇	三・〇〇
	博多屋旅館	一洞	一〇・〇〇	三・〇〇
	松屋旅館	二洞	七・〇〇	二・五〇
	丸中旅館	慈山洞	五・〇〇	三・〇〇
上三峰	佐藤旅館	三峰洞	七・〇〇	三・〇〇
鐘城	福井旅館	錦山洞	六・〇〇	二・〇〇
	大盛館	錦山洞	六・〇〇	二・〇〇
南陽	大田旅館	本町通	六・〇〇	二・五〇
	九州館	本町通	六・〇〇	二・五〇
	南陽館	本町通	六・〇〇	二・五〇
穩城	松葉旅館	東和洞	四・〇〇	二・五〇
	日進旅館	西興洞	二・〇〇	一・五〇
訓戎	昭和旅館	豊舞洞	四・〇〇	二・〇〇
	大成旅館	豊舞洞	二・〇〇	一・五〇
慶源	咸東旅館	檜洞	五・〇〇	二・〇〇
	長崎屋旅館	檜洞	五・〇〇	一・〇〇
阿吾地	扉屋ホテル	灰岩洞	八・〇〇	三・〇〇
	梅屋旅館	灰岩洞	五・〇〇	二・〇〇
雄基	大和旅館	日の出町	一〇・〇〇	四・〇〇
	博多旅館	東本町	八・〇〇	四・〇〇
羅津	高砂旅館	大和町	四・〇〇	三・〇〇
	草島旅館	大和町	四・〇〇	三・〇〇
	羅津ホテル		四・〇〇	三・〇〇
	ヤマトホテル（總局直營）	元町	一八・〇〇	四・〇〇

△中國・蒙疆（一部支那旅館を含む）

通州	近水樓	西海子	一五・〇〇	九・〇〇
	山陽館	北大街	六・〇〇	五・〇〇
古北口	古北口ホテル	站前		五・〇〇
北京	扶桑館	東單牌樓大街	※一〇・〇〇 一五・〇〇	※二・五〇 五・〇〇
	都ホテル	崇文門大街	一三・〇〇	四・五〇
	日華ホテル	東城洋溢胡同	一〇・〇〇	五・〇〇
	日華ホテル別館	東安門大街	一五・〇〇	六・〇〇
	東京旅館	東城新開路	七・〇〇	五・〇〇
	燕京ホテル	西觀音寺胡同	一一・〇〇	五・五〇
	石田旅館	東城船板胡同	八・〇〇	※六・〇〇
	黎明館	東城東裱褙胡同	一三・〇〇	五・〇〇
	松屋ホテル	東四牌樓七條胡同	九・〇〇	五・〇〇
	豊前屋	東城草廠胡同小門	一三・〇〇	六・〇〇
	増田旅館	麻線胡同三五	七・〇〇	五・〇〇
	黄城館	西城黄城根	六・〇〇	四・〇〇
天津	芙蓉ホテル新館	日界榮街	二五・〇〇	一〇・〇〇
	ヤマトホテル	日界花園街	一五・〇〇	五・五〇
	カメノキホテル	日界須磨街	※一八・〇〇	五・〇〇
	常盤ホテル	日界壽街	一五・〇〇	七・〇〇
	平安ホテル	日界旭街	一三・〇〇	七・〇〇
	芙蓉ホテル別館	日界曙街	一三・〇〇	四・〇〇
	曉ホテル	特三區一緯路	※八・〇〇	※三・〇〇
	松島館	日界松島街	八・〇〇	五・〇〇
塘沽	塘沽ホテル	濼沿街	七・五〇	六・〇〇
	富士屋旅館	新街	六・五〇	四・〇〇
	宮島館	新豊街	六・〇〇	五・〇〇
唐山	華北ホテル	西馬路	七・〇〇	五・〇〇
	沖野旅館	西馬路	五・〇〇	四・〇〇
	唐山ホテル	平安東街	五・〇〇	四・〇〇
海濱	海濱館	草廠路	七・〇〇	四・〇〇
	同福飯店	保一路	七・〇〇	四・〇〇
山海關	東方賓館	南門外	九・〇〇	四・〇〇
	東洋本館	南關西大街	一〇・〇〇	四・〇〇
	大和館	南關西大街	八・〇〇	四・〇〇

保定	日本旅館	南門外	八・〇〇	三・〇〇
	大和旅館	西關大街	八・〇〇	四・〇〇
	松屋旅館	西關大街	五・〇〇	三・〇〇
	築紫旅館	城内唐家胡同	六・〇〇	四・〇〇
	お政旅館	煤廠街十號	一〇・〇〇	二・〇〇
	華北ホテル	煤廠街	五・〇〇	二・〇〇
	玉屋旅館	西關大街	五・〇〇	四・〇〇
	保靜館	煤廠街	六・〇〇	四・〇〇
石門	日本ホテル	大同街	一〇・〇〇	五・〇〇
	北辰荘ホテル	電報局街	七・〇〇	四・〇〇
	松菊旅館	寺後街	七・〇〇	四・〇〇
	石家荘ホテル	親善街	一〇・〇〇	四・〇〇
	玉の家ホテル	大同街	五・〇〇	四・〇〇
	葛家ホテル	中山街	五・〇〇	四・〇〇
	菊水ホテル	親善街		五・〇〇
	富士ホテル	新興街	五・〇〇	四・〇〇
	第一ホテル	南大街	七・〇〇	四・〇〇
	浪速ホテル	共存街	七・〇〇	四・〇〇
	赤城ホテル	阜寧路	五・〇〇	四・〇〇
	北支旅館	共存街	四・〇〇	三・〇〇
	大和旅館	親善街	五・〇〇	三・五〇
	玉屋旅館	大橋街		五・〇〇
彰徳	彰徳ホテル	北廠街	六・〇〇	五・〇〇
	新興ホテル	北廠街	七・〇〇	五・〇〇
	都ホテル	中山大街	八・〇〇	五・〇〇
	五省ホテル	城内北大街	八・〇〇	五・〇〇
濟寧	大和ホテル	翰林街		五・〇〇
	濟寧ホテル	文中學街		四・〇〇
濟南	蓬萊賓館	緯二路	三・〇〇	六・〇〇
	鶴屋ホテル	二大馬路二緯路	三・〇〇	六・〇〇
	金水ホテル	緯二路	三・〇〇	六・〇〇
徐州	大和ホテル		一三・〇〇	六・〇〇
	濟南新館	三大馬路緯二路	一三・〇〇	六・〇〇
	中央ホテル	太馬路※	五・〇〇※	二・〇〇
	大和ホテル	太馬路	八・〇〇	五・〇〇
	日の出ホテル	太馬路	—	六・〇〇
	日勝旅館	太馬路	八・〇〇	四・〇〇
張店	鶴屋ホテル		八・〇〇	五・〇〇
	大寶ホテル	站前	七・〇〇	四・〇〇
	東寶ホテル	站前	七・〇〇	四・〇〇
	末廣旅館	站前	四・五〇	三・五〇
青島	大和ホテル	曲阜路	一〇・〇〇	五・〇〇
	グランドホテル	大平路	一三・〇〇	七・〇〇
	大和ホテル別館	市外湛山	八・〇〇	五・〇〇
	中央ホテル	市場一路	七・〇〇	四・〇〇
	松茂里旅館	中山路	六・〇〇	四・〇〇
宣化	龍烟ホテル	城内西草市街	七・〇〇	五・〇〇
張家口	日本旅館	東安大街	一〇・〇〇	五・〇〇
	察南ホテル	宣化大街	一〇・〇〇	五・〇〇
	富士屋ホテル	東安大街	七・〇〇	四・〇〇
	福榮旅館	鐵路斜街	一〇・〇〇	五・〇〇
	松田旅館	東安大街	五・〇〇	均一
	廣島旅館	東安西街	五・〇〇	均一
	喜久屋旅館	橋東大街	五・〇〇	均一
大同	塞北館	興園巷	七・〇〇	四・〇〇
	大和ホテル	怡安街	七・〇〇	五・〇〇
	晋北ホテル	皇城廟前街	一三・〇〇	五・〇〇
	南海ホテル	司令部街	六・〇〇	五・〇〇
	大同ホテル	閻池街	八・〇〇	六・〇〇
	山西ホテル	大北街	七・〇〇	五・〇〇
	三鈴ホテル	大西街	六・〇〇	五・〇〇
	日本ホテル	新城西大街	八・〇〇	六・〇〇
厚和	神戸館	同	六・〇〇	四・〇〇

地名	旅館名	所在地		
	厚和旅館	新城西落鳳街	七·〇〇	五·〇〇
	大和旅館	舊城東順城街	六·〇〇	五·〇〇
	綏遠ホテル	舊城坑料街	七·〇〇	五·〇〇
包頭	包頭ホテル	塗爺師巷	※六·〇〇	※三·〇〇
	第一ホテル	富三元巷	五·〇〇	均一
	武藏屋旅館	小文明巷	四·〇〇	均一
朔縣	朔縣ホテル	城內	六·〇〇	三·五〇
	うきよ旅館	同	六·〇〇	均一
太原	北支ホテル	中校尉營	三·〇〇	四·五〇
	太原旅館	萬壽七號	三·〇〇	四·五〇
	大丸ホテル	正大街	三·〇〇	四·五〇
	國際ホテル	西小月墻	三·〇〇	四·五〇
	亞細亞ホテル	海子邊五號	三·〇〇	四·五〇
	正太旅館	柳巷街	三·〇〇	四·五〇
陽泉	富士乃屋旅館	陽泉下站	六·〇〇	四·〇〇
上海	萬歲館	閔行路	（上海市內日本主要旅館は大體 四·〇〇—二〇·〇〇程度）	
	豐陽ホテル	北海寧路		
	辰巳屋旅館	有恒路		
	日ノ丸館	吳淞路		
	林館	密勒路		
	常盤館	乍浦路		
	東和ホテル	北四川路		
	東洋館	密勒路		
	中央ホテル	武昌路		
	海星館	海寧路		
	八千代館	靶子路		
	大和ホテル	海能路		
	山崎ホテル	子路		
	扶桑館	閔行路		
	江星館	文路		
	東館	密勒大路		
	アスターハウスホテル	黃浦路		
	新生館	施高塔路		
	青林館	長春路		
	新亞細亞ホテル	北四川路天潼路		
	帝國ホテル			
	ブロードヱイマンション			
南京	亞細亞ホテル	城內	（南京市內日本主要旅館は大體 四·〇〇—二五·〇〇程度）	
	南京ホテル	同		
	寶來館	同		
	國華ホテル	同		
	福田館	同		
	富貴館	同		
	興亞館	同		
	日進館	同		
	大和旅館	同		
	揚子ホテル	城外下關		
	野田屋旅館	同		
杭州	新々旅館	裏西湖より三軒	最低 六·〇〇	
	常岡ホテル	英士街より三軒二	五·〇〇	
	九州旅館	東坡街より三軒三	三·五〇	
	旭ホテル	英士街より三軒	四·〇〇	
蘇州	繁廼家	城外大馬路	七圓內外	
	數島館	城內平門路	五圓內外	
漢口	揚子江ホテル、富貴館、中央ホテル、福昌ホテル、武漢ホテル、交通旅館、壽旅館			

旅行統計

鐵道の部

鐵道總局扱月別鐵道旅客員數（昭和十三年度）

年月	合計	社線	國線	北鮮線
昭和一三、四月	三、九七五、四六六	一、七〇八、三三三	二、二七三、九四七	二五四、三一三
同　五月	三、九五三、〇三八	一、八一四、五〇四	二、一一八、二三九	二四〇、六五四
同　六月	三、四四八、一六四	一、四八六、一〇一	一、九〇五、四九九	二四〇、六六七
同　七月	三、七七二、四三三	一、七二五、五〇〇	二、〇三一、〇三一	二一五、九〇六
同　八月	三、八三三、〇五五	一、七〇〇、六八四	二、一二八、八八〇	二一一、六九七
同　九月	三、六一六、〇一三	一、五三六、八九五	二、〇一五、一三八	二四五、六六九
同　十月	三、九六七、五一三	一、六七六、一九五	二、二一三、三一三	二七五、三三六
同　十一月	四、二六五、八〇七	一、七九七、二四四	二、四九一、一六五	二六一、四八四
同　十二月	四、七二〇、一六二	一、八六一、二六七	二、九〇三、六七一	二九四、七九〇
昭和一四、一月	四、五五三、五三九	一、七五八、八六七	二、七九二、〇九〇	二七四、二九七
同　二月	四、一八二、九四六	一、六五四、二九六	二、四八七、四九九	二五一、九六三
同　三月	五、七五三、三一九	二、一三二、六〇八	三、五三四、一三七	二九二、八九四
合計	五〇、〇五〇、五三三	二一、〇〇一、六一三	二八、八九三、八一九	三、〇五九、六七八

鐵道總局扱月別鐵道旅客輸送收入（昭和十三年度）

年月	合計	社線	國線	北鮮線
昭和一三、四月	七、八六三、〇三二・八七	二、八〇六、三三五・一七	四、八七〇、四四四・九〇	一八六、二六一・八〇
同　五月	七、三六一、七一〇・六三	二、七二一、一五七・七五	四、四六九、四四七・九〇	一七一、一〇四・九八
同　六月	六、五三〇、八二〇・二〇	二、四九七、二〇七・八四	三、八六三、九一一・五四	一六九、七〇〇・八二
同　七月	六、五五四、七二一・七八	二、四七〇、九三一・六七	三、九二三、七九五・二四	一六〇、九九四・八七
同　八月	六、四一八、三六四・五六	二、三五八、〇〇六・九六	三、九一七、〇一五・九六	一四三、三四一・六四
同　九月	六、六〇〇、六五三・四一	二、四〇一、一三六・〇一	四、〇一三、〇一三・六〇	一八三、五〇三・八〇
同　十月	七、二五五、三一二・〇五	二、五九八、一三三・五五	四、四七五、八三九・一七	一八一、三三九・三三
同　十一月	八、三二九、六六九・六四	二、七九四、一三六・〇〇	五、三三三、九六六・五七	二二二、五七五・〇七
同　十二月	九、八〇八、〇三八・〇一	三、一五〇、一四六・三九	六、三七二、〇二三・四五	二八五、八六〇・一七
昭和一四、一月	八、六六五、四七六・五九	二、七四〇、〇三五・八四	五、七〇一、七〇二・五七	二二三、七三八・一八
同　二月	七、三四五、四五二・七三	二、五四一、九三五・六六	四、六一〇、五四四・〇七	一九二、九八三・〇〇
同　三月	一一、八九三、三〇六・一一	三、九一六、七一〇・五四	七、七二三、〇三三・七七	二四九、五七一・八〇
合計	九四、五三八、五四五・三八	三三、九九五、八三四・三八	五九、一七一、七三六・七四	二、三七〇、九七四・四六

鐵道總局所管線累年鐵道旅客員數

	合計	社線	國線	北鮮線
昭和八年	—	一一、六三三、八七五	—	七四六、八九〇
同　九年	二四、二二二、二四九	一三、七六六、四〇三	八、八一四、五〇九	一、六一一、三三七
同　十年	三〇、二二二、〇四九	一五、二二三、九三三	一三、二七九、九五七	一、七一八、一七〇
同　十一年	三四、六七八、〇七四	一五、七四九、七六六	一六、七五八、七七五	二、一六九、五三三
同　十二年	四〇、五九〇、八六九	一七、五一五、〇四四	二〇、六三五、一六一	二、四四〇、六六四
同　十三年	五〇、〇五〇、五三三	二一、〇〇一、六一三	二八、八九三、八一九	三、〇五九、六七八

鐵道總局所管線主要驛乘降客數

（昭和十三年度）

驛名	乘車	降車	合計
大連	一、三四二、六二三	一、二〇三、三九四	二、五四六、〇一七
沙河口	四二六、八〇四	四四八、九八八	八七五、七九二
周水子	二二五、九五四	二五二、五〇九	四七八、四六三
金州	二五六、一四四	二六四、〇二七	五二〇、一七一
普蘭店	三四三、八二九	三三五、九七三	六七九、八〇二
瓦房店	二九二、〇二九	二八七、八四一	五七九、八七〇
大石橋	三四七、四九八	三三四、一二一	六八一、六一九
蓋平	二二六、〇七三	二二七、九一一	四五三、九八四
海城	三九六、一一〇	三八五、二三〇	七八一、三四〇
鞍山	九三九、七五五	九九二、六三四	一、九三二、三八九
遼陽	七八八、二四六	七〇六、四〇七	一、四九四、六五三
煙臺	二〇三、四一一	二〇一、七九六	四〇五、二〇七
蘇家屯	三一七、五八〇	三一七、七四七	六三五、三二七
奉天	三、〇七二、三一七	三、一六三、四五一	六、二三五、七六八
鐵嶺	三五九、二二九	三五一、八六二	七一一、〇九一
范家屯	二一九、九四九	二二四、一一一	四四四、〇六〇
開原	二七四、五一九	二六八、七六〇	五四三、二七九
四平街	五一二、二一四	四九九、五一八	一、〇一一、七三二
公主嶺	三六六、七三五	三八八、九九一	七五五、七二六
新京	一、四四六、二一六	一、四五三、七〇二	二、八九九、九一八
安東	二二五、九三三	一八一、三九一	四〇七、三二四
鳳凰城	二四九、一八六	二四一、五二九	四九〇、七一五
本溪湖	四四六、四二六	四三六、一九六	八八二、六二二
夏家河子	二一三、二〇九	二〇三、五三〇	四一六、七三九
營口	四二一、二四〇	三九〇、四六九	八一一、七〇九
撫順	四一三、八七〇	四三八、六九七	八五二、五六七
清津	四三三、二九七	四一〇、八三五	八四四、一三二
會寧	二九七、五九八	二八四、四九六	五八二、〇九四
錦縣	五三七、六七四	五五七、二二一	一、〇九四、八九五
山海關	三〇四、六九六	一五〇、四五二	四五五、一四八
北奉天	二二七、四三九	一六〇、三三七	三八七、七七六
延吉	二二〇、二〇八	二四一、三九七	四六一、六〇五
龍井	二六一、六八〇	二六二、六九二	五二四、三七二
圖們	二六二、一八九	三一三、〇四九	五七五、二三八
寧安	三二四、一一四	三二九、二八七	六五三、四〇一
牡丹江	九五四、八五三	九〇〇、七五五	一、八五五、六〇八
佳木斯	三二七、三五一	三二一、〇四六	六四八、三九七
哈爾濱	一、一〇三、七九六	一、三三九、一五一	二、四四二、九四七
阿城	二〇九、四一六	二一一、〇九五	四二〇、五一一
濱江	三三九、二九九	三三三、九六〇	六七三、二五九
呼蘭	二一五、五二一	二二四、三八三	四三九、九〇四
綏化	二二六、一九二	二五一、八〇五	四七七、九九七
齊齊哈爾	三四一、二二八	三四四、九二四	六八六、一五二

華北交通會社線別旅客員數

（昭和十三年度）

	人
計	一四、四八四、九五四
京山線	五、七二三、六〇〇
京漢線	二、一八二、〇九五
津浦線	二、六七二、七二七
京包線	二、三五二、四九三
京古線	一八〇、三三〇
膠濟線	一、二七一、五四〇
正太線	二二七、八九三
同蒲線	一五三、八八二
道清線	二四〇、八六九
隴海線	六八六、四九七

（註）線別を集計して計と符合せざるは二線以上に跨りて輸送されたる人員を重複計上せるが爲

華北交通會社月別鐵道旅客員數

（昭和十三年度）

計	一四、四八四、九五四	%
四月	九五三、八三三	一〇〇
五月	八六五、八四〇	九一
六月	九七七、六六八	一〇三
七月	一、〇三六、七〇一	一〇九
八月	九八六、一七九	一〇三
九月	一、〇三三、七四五	一〇八
十月	一、二三〇、一五八	一二九
十一月	一、三八七、八三七	一四五
十二月	一、三〇〇、三三四	一三七
一月	一、三〇九、四八二	一三七
二月	一、二四〇、七七八	一三一
三月	二、二三三、三九一	二三五

華北交通會社主要驛乘降客數

（昭和十三年度）

驛名	計	乘車	降車
天津	三、〇二九、八五七	一、五六二、二九六	一、四六七、五六一
北京	二、一三一、一四八	一、〇一二、三六四	一、一一八、七八四
濟南	一、一二七、四六八	五六六、五九八	五六〇、八七〇
山海關	一、〇八七、七四七	四七三、二〇五	六一四、五四二
前門	九五二、一六八	四五九、一五七	四九三、〇一一
石家莊	六六四、六三四	三三二、二五一	三三二、三八三
張家口	五三五、七七六	二三六、一九〇	二九九、五八六
天津北站	四九九、七四八	二九八、七〇〇	二〇一、〇四八
塘沽	四一三、九七〇	二二七、三五一	一八六、六一九
大同	三五〇、八三四	一七〇、一七四	一八〇、六六〇
秦皇島	三四三、一二七	一七四、〇五六	一六九、〇七一

青島	三三〇、六三五	九八、七〇三	二三一、九三二
西直門	二七一、〇五一	一三四、三九三	一三六、六五八
太原	九八、三六九	四五、四九四	五三、八七五
徐州	九八、〇〇二	四四、五三四	五三、四六八
古北口	四八、一二三	二〇、六八〇	二七、四四三

華中鐵道會社鐵道旅客員數

（昭和十四年會社成業後）

	人
五月	三二三、二六八
六月	三〇九、八五八
七月	三〇四、七〇〇

（但軍人軍屬及津浦、淮南線を除く）

華中鐵道會社主要驛乘降客數

（昭和十四年會社成業後）

		上海	南京	蘇州	杭州
五月	乘車	九三、九八三	三三、七三三	三三、五五五	九、六二九
	降車	一〇五、四〇八	二五、四四〇	三三、三三五	八、九八六
六月	乘車	八五、八〇〇	二〇、五八一	三三、三〇四	七、四〇三
	降車	九一、九六九	三三、五四〇	二四、二七一	七、六八七
七月	乘車	八三、三三一	二一、五一四	二八、八六九	六、九三六
	降車	九〇、六四一	二四、三三五	三一、五四三	七、九三五

航路の部

南滿埠頭月別乘船上陸人員

（昭和十三年度）

〔上陸客〕

月別	大連	營口	安東
四月	五四、五九一	二七、〇五〇	六、七七八
五月	四五、六六八	一五、七五三	三、四六一
六月	三一、一一九	九、七〇〇	三、六三四
七月	三六、四〇一	七、六七〇	二、九三〇
八月	三八、三六六	五、七五四	二、二二四
九月	三六、九八二	二、六〇八	二、八五七
十月	四〇、五七九	二、八〇五	三、〇三六
十一月	四〇、六三三	三、二二七	一、九八五
十二月	三五、〇二九	九五四	—
一月	二六、七九八	—	—
二月	二三、六六六	—	—
三月	一三三、五九七	二四三	—
計	五四四、四六九	七五、七五三	二六、八九五

〔乘船客〕

月別	大連	營口	安東
四月	二四、五七六	七一八	三、七七八
五月	二六、七八四	八〇五	一、六三三
六月	二五、七四五	九六五	一、八〇一
七月	二五、〇六九	一、一四五	一、四三三
八月	二八、六六四	一、一五九	二、三六九
九月	二六、一六三	一、〇〇一	一、五九六
十月	二八、八二七	二、〇三七	一、六六八
十一月	二九、五九三	五、五〇一	二、二二四
十二月	三五、三九三	六、〇六六	—
一月	三七、六〇八	—	—
二月	三三、二〇一	—	—
三月	三三、六一九	一三、八一八	—
計	三四三、二四一	三三、二一五	一六、六〇五

南滿埠頭累年上陸乘船人員

〔上陸客〕

年別	大連	營口	安東
昭和三年	五三〇、八八五	一四九、七三三	六九、六八三
同四年	五三七、三〇九	一四八、三三六	五三、八八八
同五年	三六四、八六一	一二六、九八八	四九、一一三
同六年	二九三、一六五	九三、一八九	四五、四八一
同七年	三九三、三三六	八九、八九二	四一、〇一五
同八年	五〇一、一一四	二〇〇、〇七三	三六、七九〇
同九年	四九五、二二四	一三九、八三七	六一、一四〇
同十年	四一四、八四七	一一三、〇一三	三三、三九〇
同十一年	三六七、四六四	一三七、四七九	二四、四五七
同十二年	三〇八、七一七	六七、五二〇	二九、二四三
同十三年	五四四、四八七	七五、七五三	二六、八九五

〔乘船客〕

年別	大連	營口	安東
昭和三年	二五七、三三七	九九、九二八	四二、六一〇
同四年	二九五、七六六	八〇、九九九	二四、一一九
同五年	二六〇、八七一	一〇五、七四七	二五、二一〇
同六年	二八一、四三三	一〇五、八〇五	四〇、五四七
同七年	三三九、二二四	一〇四、四一七	二六、二三三
同八年	二九一、一一四	一〇三、九〇七	四五、三七九
同九年	三三五、一四〇	一一〇、四二八	二四、三三九
同十年	三〇三、七一三	九三、二九三	四六、四一七
同十一年	三三三、七八五	七六、四七九	二九、八一八
同十二年	二五三、一七五	三一、〇三三	三三、二六六
同十三年	三四三、二四一	三三、二三四	一六、六一〇

北鮮三港累年上陸乗船人員

〔上陸〕

年別	雄基	清津	羅津
昭和十一年	三、三七五	三三、〇六六	八、〇四五
同 十二年	一、一六〇	二六、三〇〇	九、三五五
同 十三年	一、一三七	四三、三九一	一五、六八〇

〔乗船〕

年別	雄基	清津	羅津
昭和十一年	二、九八二	二八、六三五	一一、〇二八
同 十二年	二、一四八	三七、八一七	一〇、〇四八
同 十三年	一、三七四	三九、六一〇	一五、一七七

北鮮三港月別上陸乗船人員

（昭和十三年度）

〔上陸〕

月別	雄基	清津	羅津
四月	九四	六、二二四	一、三三三
五月	二一一	五、一三五	一、四五七
六月	一四〇	七、一四四	一、一六四
七月	八九	六、九六〇	一、一九八
八月	一四四	七、五六九	二、四九九
九月	一三八	七、〇四四	二、四六二
十月	一二九	七、五八七	一、七三六
十一月	一〇四	五、一一七	九七五
十二月	三四	三、九一八	九〇〇
一月	五五	三、三〇七	五八三
二月	三五	四、三五一	五六四
三月	六三	九、〇〇五	八三九
計	一、一三七	四三、三九一	一五、六八〇

〔乗船〕

月別	雄基	清津	羅津
四月	九四	二、三〇六	八二七
五月	八〇	二、六四四	一、二八一
六月	五七	二、二八一	六二六
七月	一六三	二、五九六	八六六
八月	二三〇	四、七〇九	二、七四六
九月	九	三、七二五	二、〇〇三
十月	九七	四、一六六	二、三三八
十一月	一三〇	三、七六〇	一、一四七
十二月	一〇五	五、三〇四	一、〇一七
一月	一一一	二、四一八	七四四
二月	九四	二、三八七	五八九
三月	一〇三	三、四一四	一、〇〇〇
計	一、三七四	三九、六一〇	一五、一七七

北滿水運主要埠頭乗船下船客數

（昭和十三年度）

埠頭名	乗船	下船
哈爾濱	一〇一、五四七	九九、七七九
通河	二九、五八九	三三、三〇四
三姓	四九、六〇三	四三、五四〇
蓮江口	七五、三三六	八六、三三四
佳木斯	一三三、四九九	一二七、四八二
樺川	二一、二六〇	一七、八二六
富錦	四八、一六〇	三九、八六三
黒河	一〇、三五六	一一、一一四
漠河	二、一三六	三、七三二

朝鮮郵船累年乗降人員數

（東亞關係分）

年度別 ＼ 港名	大連 乗客	大連 降客	營口 乗客	營口 降客	天津 乗客	天津 降客	青島 乗客	青島 降客	上海 乗客	上海 降客	威海衛 乗客	威海衛 降客	芝罘 乗客	芝罘 降客
昭和十三年	七〇	二八八	六三	—	—	九	二、三三〇	一、一三一	一八六	九一	—	—	—	—
同 十二年	八〇七	三八七	一三四	—	五	三七	三六六	三六五	一七七	一五一	六	六〇〇	一六〇	一、三三〇
同 十一年	三六九	一、一五〇	一四一	一三一	—	—	八八六	六六六	四〇六	四〇〇	—	—	五九一	八八七
同 十年	一、三三〇	二、四八〇	—	—	—	—	一、六三三	一、六五一	三一五	三一八	—	—	一、九九〇	一、八〇四

備考　年度は當社營業年度（自四月至三月）に依る

朝鮮郵船月別竝線別乘降人員數 (昭和十三年度東亞關係分)

航路名	朝鮮長崎大連線		朝鮮北支那線								朝鮮上海線				西鮮青島線	
港名	大連		大連		營口		天津		青島		上海		青島		青島	
月別 / 乘降別	乘客	降客	乘客	降客	乘客	降客	乘客	降客	乘客	降客	乘客	降客	乘客	降客	乘客	降客
一月	二	二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
二月	二	二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三月	—	一四	三	六	—	—	—	—	四	五	—	—	—	—	—	—
四月	五	三五	—	二一	二四	—	—	—	五	三五	六	四三	四	四	四	三〇
五月	九	二三	—	二四	一九	—	—	—	七	二四	二一	六三	三三	—	五六	六三
六月	六	二一	—	一九	二六	—	—	—	三	一七	三五	六八	四	—	三三	五四
七月	二	二一	二	八	—	—	—	九	一三	一二	一二	六六	一九	二	四三	六四
八月	九	一七	—	四	四	—	—	—	七〇	七	一五	四三	二六	—	五六	七〇
九月	一〇	一三	—	六九	—	—	—	—	四三	四〇	一八	九六	三三	三	八〇	一〇七
十月	四	二	—	—	—	—	—	—	—	—	三三	一〇一	一三七	一	一三三	一一五
十一月	八	一	—	—	—	—	—	—	—	—	二七	一〇三	一五六	四	二七八	九八
十二月	—	六	—	—	—	—	—	—	—	—	四	五一	一七	—	四〇五	一六六
計	五七	一五七	五	一五一	七三	—	—	九	一四五	一四〇	一七七	五九二	四二九	一四	一、〇八八	七四七

備考 朝鮮北支那線は三月中旬迄及十月以降休航、朝鮮上海線は三月迄休航、西鮮青島線は四月より開航

大連汽船累年乘降客數 (最近六箇年間)

航路別	昭和一三	昭和一二	昭和一一	昭和一〇	昭和九	昭和八
	人	人	人	人	人	人
大連、上海	—	一二五、一六四	一六二、五八五	一六一、八三七	一四〇、二六六	一六六、五四四
大連、天津	—	六五、一三三	五七、九二三	六九、四四三	七五、六八八	九〇、八一四
安東、大連天津	—	三〇、七九四	七、六九一	七、七三一	八、四四四	八、九〇四
大連、臺灣	—	二、三二三	二、五二一	二、六一七	二、二二九	四、一六四
大連裏日本	—	九六六	一、三二五	一、一四二	一、一三七	五四三
大連靈齋島	—	四、八八七	一、二六四	五四八	三六四	—
其他	—	三三、三一七	三三、八九四	二四、八六三	四一、八五五	三六、八七八
合計	三三一、一九七	二〇六、六八二	二五七、二〇四	二六八、一五九	二九九、九六五	三九九、八九五

北日本汽船敦賀北鮮間累年乘降客數

年別	敦賀―北鮮	北鮮―敦賀
昭和八年	九、二二九	五、四一三
同九年	八、一四〇	六、八五三
昭和十年	九、〇六七	八、二四八
同十一年	一三、〇五一	九、四七一
同十二年	一三、七三六	一二、五九九
同十三年	二七、七三六	一八、四三〇
合計	七五、八四六	五九、九七三

北日本汽船新潟北鮮間累年乘降客數

年別	人員
昭和十年	三、七一〇
同十一年	九、七〇〇

昭和十二年	一六、四二〇
同十三年	四、二二〇五
合計	七二、〇三五

北日本汽船月別航線別乗降人員數（昭和十三年度東亞關係）

◎敦賀北鮮航路

月別	敦賀—北鮮	北鮮—敦賀
一月	八六九	八七四
二月	一、三五〇	六三一
三月	二、二六四	一、四八四
四月	二、九三〇	一、二三三
五月	二、九四八	一、六六五
六月	三、五一一	一、一七五
七月	二、八〇四	一、三六五
八月	二、八四〇	二、四七九
九月	二、三三七	一、六八四
十月	二、四九四	二、〇〇三
十一月	一、七一一	一、四六一
十二月	一、七六八	二、三九八
合計	二七、七三六	一八、四三〇

◎新潟北鮮航路

月別	新潟—北鮮	北鮮—新潟
一月	五六八	五三四
二月	九一四	二七五
三月	一、五三五	九三〇
四月	二、三四八	九六五
五月	一、五三六	六四六
六月	三、一〇七	七二一
七月	二、七八二	一、一一四
八月	二、八五九	一、八八八
九月	三、五七五	一、九三七
十月	四、三六一	一、四六二
十一月	二、四一〇	一、三四六
十二月	二、三四九	二、一〇五
合計	二八、二六四	一三、九二二

日清汽船昭和十三年度月別乗降人員（往・復航計）

	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	一〇月	一一月	一二月	計
上海、蕪湖	八六五	一〇九	五七二	八四一	一、一一九	二、五七三	五、一六六	三、四六八	二、九八四	二、七〇三	三、三九五	三、六六三	二六、六六六
上海、通州	—	—	—	一四五	三六七	三七七	一二七	三七四	一八二	二七三	二六一	四四二	二、三六八
上海、宗明	—	—	—	—	九三〇	二、三六八	七、六六六	四、八七三	四、八七八	六、三三三	五、六〇三	五、〇八七	三七、五一六
大連、上海	—	—	—	—	一	一	—	六	—	一	一四	九	三三
天津、上海	—	—	—	五四	三五三	四九九	八九七	一、一二五	一、三二四	一、三四一	一、一八五	一、四一三	七、九四〇
計	八六五	一〇九	五七二	一、〇四〇	二、六六七	五、七一七	一三、八四六	九、八二六	九、二六六	一〇、四四一	一〇、四五七	一〇、六八四	七四、五四三

空路の部

大日本航空累年定期航空旅客員數

年度＼輸送數	
昭和四年度	二、七五五人
昭和五年度	七、六四二
同六年度	六、七六六
同七年度	一〇、七一六
同八年度	一〇、九九二
同九年度	一二、一八七
同十年度	一〇、八二二
同十一年度	一八、九五五
同十二年度	四七、三四二
昭和十三年度	六九、二六八

中華航空月別旅客員數（昭和十三年度）

大連定期（北京——大連）

月別	旅客員數
一月	三五四
二月	三一九
三月	四〇五

四月	二五二
五月	二五九
六月	一一六
七月	二三七
八月	二八八
九月	三六八
十月	三二七
十一月	四一九
十二月	二〇二
計	三、五四六

備考　大連定期の外大同定期、上海定期の二定期あるも何れも本年三月營業開始した。

自動車・電車の部

鐵道總局自動車月別旅客員數

（昭和十三年度）

月別	乘車人員	輸送人粁
昭和一三年四月	一三七、〇六三	四、三三六、九三五
同　五月	一四五、〇六三	四、六四三、二一八
同　六月	一三一、三〇九	四、〇六九、九七〇
同　七月	一三八、三四三	三、三六八、七七三
同　八月	一四九、三三一	四、〇七五、八一八
同　九月	一三四、三三四	五、四三〇、五八五
同　十月	一五一、三三五	六、六〇七、四三三
同　十一月	四九七、七四二	九、八三四、〇一九
同　十二月	五九三、五一五	一三、四三五、九九九
昭和一四年一月	六一〇、一三三	一五、〇〇四、八三三
同　二月	六四七、八〇七	一三、七四三、八九八
同　三月	七七一、六三九	一七、三三六、四三〇
計	四、三九六、六五三	一〇一、八七六、七九八

鐵道總局自動車累年旅客員數

昭和八年度	一一五、三一七人
同　九年度	三七九、九九四
同　十年度	五二九、〇三九
昭和十一年度	七九六、三六六
同　十二年度	一、一六一、四〇四
同　十三年度	四、三九六、六五三

（所管營業粁（十四年三月末現在）七、八四七・七粁）

華北交通月別旅客員數

（昭和十三年度）

	人	%
計	三、七九五、三〇四	：
四月	九九、八八四	一〇〇
五月	一〇七、八〇一	一〇八
六月	一六四、三八四	一六四
七月	一六六、一六六	一六六
八月	一八〇、一一四	一八二
九月	二三一、三七三	二三一
十月	二三三、三九四	二三四
十一月	三七五、七三三	三七六
十二月	四三六、五九八	四三七
一月	五四〇、九三九	五四三
二月	五一一、一一四	五一二
三月	六七八、九〇四	六八〇

滿洲民營自動車主要會社旅客運輸表

（滿洲國交通部調）

（自康德三年度—至康德五年度）

會社名	康德三年度 總走行粁	康德三年度 延旅客員數	康德四年度 總走行粁	康德四年度 延旅客員數	康德五年度 總走行粁	康德五年度 延旅客員數
	粁	人	粁	人	粁	人
新京交通株式會社	三、〇七六、五三三・九	七、五六八、〇七六	三、〇八一、三八五・五	八、八八〇、六六六	四、四四三、〇七三・二	二一、一九五、〇四三
奉天交通株式會社	六、六六六、八四三・七	一七、七七一、九四四	六、〇四五、九七二・六	三六、六一五、四六三	九、七六五、四七三・一	三六、三四二、三四三
哈爾濱交通株式會社	三、七六六、〇三七・一	一三、六四七、一三七	三、〇八六、五四一・四	一三、七五五、九八四	三、七〇〇、三六五・一	一六、〇九五、〇八三
安東交通株式會社	六一八、一五六・〇	五一、七五四	一、七六三、〇九九・〇	九九、一五六	二、〇八六、一〇五・〇	一〇一、六六七
吉奉交通株式會社	三六一、〇五〇・〇	三六、三八八	一九八、五九七・〇	三五、一二七	三六八、八三六・〇	五三、三八九
吉林交通株式會社	四四、八七〇・〇	三九、八五〇	一、一四三、〇四三・二	一、一二六、五六五	一、〇七九、七八〇・一	一、一二八、五七四

復縣交通株式會社	294,364.8	68,807	342,055.7	89,334	392,391.1	123,685
營口水道交通株式會社	1,017,689.5	3,140,776	1,079,698.0	3,444,545	748,686.8	3,570,405
滿洲交通株式會社	333,928.7	124,368	307,502.4	99,668	307,521.0	180,018
濱北長途汽車公司	70,916.2	24,841	65,951.8	27,336	72,095.2	40,667
哈賓自動車交通合資會社	107,523.0	11,846	221,462.0	24,402	221,260.0	45,160
國際運輸齊齊哈爾支店	232,246.2	99,573	521,653.5	1,089,032	469,390.0	1,371,050
樂安汽車公司	58,067.0	33,924	108,334.0	43,691	107,337.0	45,608
昭和自動車公司	24,719.0	8,696	50,163.0	10,558	74,069.0	30,804
奉北交通株式會社	康德五年十二月二十五日より事業開始					
牡丹江市公署	康德六年一月十五日より事業開始					

四大交通會社月別乘客數 （昭十三・自動車・電車共）

月別＼會社名	大連都市交通	奉天交通	新京交通	哈爾濱交通	計
昭和一三年一月	……	3,496,163	767,832	2,586,840	6,850,834
二月	……	3,497,699	753,925	2,556,899	6,808,523
三月	……	3,861,412	866,921	2,950,351	7,678,684
四月	5,167,712	4,050,776	862,418	3,110,216	13,211,121
五月	5,053,687	4,165,723	1,104,517	3,336,333	13,660,260
六月	5,077,400	4,109,774	1,190,015	3,153,644	13,530,833
七月	5,977,591	4,750,488	1,120,904	3,059,392	14,908,375
八月	5,291,415	4,561,339	1,396,664	3,201,030	14,450,448
九月	5,050,944	4,368,329	1,163,261	3,264,418	13,846,962
十月	5,333,453	5,262,799	1,336,545	3,446,075	15,378,872
十一月	4,995,629	5,337,850	1,169,475	3,278,337	14,781,291
十二月	5,095,360	5,739,935	1,340,773	3,039,406	15,215,474
昭和一四年一月	4,853,870	……	……	……	4,853,870
二月	4,696,362	……	……	……	4,696,362
三月	5,337,903	……	……	……	5,337,903
計	61,803,235	53,233,227	13,973,239	36,962,961	164,990,733

（各交通會社調による）

大連交通會社累年乘客數

年度＼一箇年乘客	電車	郊外バス	市内バス	戰跡バス	大連遊覽
昭和七年	27,557,336	564,017	2,744,419	2,440	—
同八年	31,347,243	805,308	3,808,466	4,230	—
同九年	36,343,600	1,124,856	4,542,424	3,563	—
同十年	39,699,336	2,037,065	6,146,494	8,534	—
同十一年	39,778,064	2,097,125	8,276,778	16,504	—
同十二年	43,309,330	2,535,964	8,617,465	20,047	2,333
同十三年	48,521,966	3,216,703	10,026,984	32,111	4,501
十三年一日平均	132,937	8,813	27,471	88	12

大連交通會社月別乘客數 （昭和十三年度）

月別	電車	郊外バス	市内バス	戰跡バス	大連遊覽
四月	4,156,336	240,559	776,889	3,678	339
五月	4,024,998	253,017	723,891	3,240	471
六月	4,087,684	233,921	763,440	2,667	448
七月	4,800,843	253,239	921,187	2,898	435
八月	4,069,325	269,850	947,559	3,995	776
九月	3,996,187	243,825	826,508	3,771	645

十月	四、一六九、四四四	二八〇、六七八	八六八、八五二	三、九四六	五五三
十一月	三、八九三、五六四	二六五、四七九	七九四、九三六	二、二五七	三七三
十二月	三、九一七、八二七	二九四、九一四	八四一、七三九	八七四	一六
一月	三、七七七、五九六	二七三、一五五	八〇三、三六三	七六六	一
二月	三、五八三、三三三	二八四、六三三	七六九、〇九六	一、二四〇	一
三月	四、〇八五、八七〇	三三七、四四三	九三二、三二四	三、八二九	四三七

奉天市內バス累年乘客數

康德元年	
同二年	三一、五八五、九七三
同三年	三一、八九三、四六三
同四年	三一、一三四、四六七
同五年	三四、八二八、九五三

奉天遊覽バス累年乘客數

康德元年	一、四二五
同二年	二、〇八三
同三年	三、七七九
同四年	四、六八五
同五年	一四、一四六
同六年八月末	二二、八〇〇

奉天電車累年乘客數

康德元年	六、一二七、七八四
同二年	七、七八八、八九六
同三年	八、二一二、七五七
同四年	一〇、四五七、一八五
同五年	一六、四八六、六八三

撫順市內バス累年乘客數

康德四年	七八九、二三〇
同五年	一、五三八、三六三

奉天市內自動車月別乘客數

(昭和十三年度)

一月	二、四二五、六九七
二月	二、三二四、六七六
三月	二、五四八、五一四
四月	二、五八〇、三〇六
五月	二、六七五、六二八
六月	二、六一〇、七八一
七月	三、一七〇、四一〇
八月	二、九七一、三六九
九月	二、七八五、七九二
十月	三、四七五、六四一
十一月	三、五七三、二一七
十二月	三、六八六、九二二
合計	三四、八二八、九五三

奉天市內遊覽バス月別乘客數

(昭和十三年度)

一月	無シ
二月	無シ
三月	無シ
四月	八四五
五月	二、〇九〇
六月	一、七九五
七月	一、七六九
八月	二、三八〇
九月	二、〇九六
十月	二、五四一
十一月	六三〇
十二月	無シ
合計	一四、一四六

奉天市內電車月別乘客數

(昭和十三年度)

一月	九七六、五三八
二月	一、〇六〇、三八五
三月	一、一九三、八三五
四月	一、三五一、三七二
五月	一、三六五、八五七
六月	一、三七四、六七五
七月	一、三九八、四五八
八月	一、四〇七、三九一
九月	一、四一三、八〇九
十月	一、六〇五、一五一
十一月	一、五二四、二一一
十二月	一、八一五、〇〇〇
合計	一六、四八六、六八三

郊外バス月別乘客數

(但し十三年六月十五日以降)

六月	三、六二六
七月	八、七〇四
八月	八、七〇二
九月	八、九七八
十月	一二、三五六
十一月	一六、一〇一
十二月	一九、三六二
合計	七七、八二九

撫順市內バス月別乘客數（昭和十三年度）

一月	九三、九二八
二月	一一二、六三八
三月	一一九、〇六三
四月	一一八、二五二
五月	一二二、一五八
六月	一一八、三六一
七月	一三七、三四三
八月	一三九、六四四
九月	一四四、四九一
十月	一四九、九〇二
十一月	一三八、二六九
十二月	一四四、三一四
合計	一、五三八、三六三

撫順遊覽バス月別乘客數（但し十三年六月以前は不明）

六月	五三六
七月	六九八
八月	一、一七九
九月	一、〇九五
十月	一、二五三
十一月	三二五
十二月	無し
合計	五、〇八六

撫順市內タクシー乘客數（十三年七月以前は不明）

七月	三三、一〇六
八月	三〇、六六四
九月	三二、〇五八
十月	三三、五八六
十一月	三五、〇六〇
十二月	三五、九九六
合計	二〇〇、四七〇

鐵嶺郊外バス乘客數（十三年十月以前は不明）

十月	二、三六九
十一月	三、一六二
十二月	六、一七六
合計	一一、七〇七

鞍山郊外バス月別乘客數（十三年十一月以前は不明）

十一月	三六、八七五
十二月	三二、一六五
合計	六九、〇四〇

新京交通會社累年乘客數

年別＼線別	市內線	郊外線	遊覽線	雜線	計
昭和十年	二、二三八、八〇三	八、一二六	—	一七四、八二六	二、四二一、七五五
同十一年	七、三三三、七一三	四三、五八六	九〇五	一二四、三八五	七、五〇二、五八九
同十二年	八、六九二、一三三	六六、八〇三	三、四三九	一二三、三〇五	八、八八五、六八〇
同十三年	一二、二三三、五七八	七六、八九〇	一五、一八七	六三五、六〇四	一二、九六一、二五九

新京交通會社月別乘客數（昭和十三年）

年別＼線別	市內線	郊外線	遊覽線	雜線	計
昭和一三年一月	七四九、五五二	九、一四六	—	九、一三三	七六七、八三一
昭和一三年二月	七三五、一六〇	七、七六四	—	一一、〇一一	七五三、九三五
同三月	八四四、二二四	九、二三三	—	一三、四六四	八六六、九二一
同四月	八〇九、三六四	六、三五七	七七九	六五、九一八	八八二、四一八
同五月	一、〇二一、二〇五	五、二六五	一、五六三	七五、三六四	一、一〇四、五一七
同六月	一、一一三、八〇九	四、七八〇	一、二九九	六〇、一二七	一、一八〇、〇一五
同七月	一、〇四九、五八一	三、七〇三	一、八一九	六五、八〇一	一、一二〇、九〇四
同八月	一、二三六、四九七	四、三四七	二、八六七	六二、九五三	一、三〇六、六六四
同九月	一、〇九一、四二三	三、九二六	二、〇六九	六五、八六三	一、一六三、二八一
同十月	一、一六一、二六一	五、三二一	二、六七八	五七、二九四	一、二二六、五五四
同十一月	一、一〇六、一〇二	七、一七五	一、四四四	五四、七五四	一、一六九、四七五
同十二月	一、二三四、二六八	二、九一三	六六九	八三、九〇三	一、三二一、七五三
計	一二、二三三、五七八	七六、八九〇	一五、一八七	六三五、六〇四	一二、九六一、二五九

哈爾濱交通會社累年乘客數

年度別	電車	自動車	觀光バス
康德二年	一六、二三四、二七九	一三、三七四、三六八	一
同　三年	一六、八二八、四二八	一三、六五一、三二七	二、五五七
同　四年	一六、五三七、六六四	一五、七三六、九六四	二、九〇六
同　五年	二〇、八八〇、八一三	一六、〇九五、九七〇	五、八九七
同　六年（迄五月）	一一、四四七、〇三七	七、八四四、九〇九	一五、七七九

（觀光バス康德三、四、五年は五月より十月迄の分、康德六年分は五月より九月迄の分）

哈爾濱交通會社月別乘客數（昭和十三年）

月別	電車	自動車	觀光バス
一月	一、三三九、八七六	一、三三六、九六四	一
二月	一、三四八、三一五	一、二〇八、三六四	一
三月	一、四九六、四〇九	一、四五三、九五一	一
四月	一、六〇九、四八七	一、五〇〇、七三九	一
五月	一、六八七、八三九	一、六四七、九六八	五四六
六月	一、六七八、四六四	一、四七四、三六五	六一五
七月	一、七六七、四三五	一、三九一、〇八四	八七三
八月	一、九一五、六三二	一、二八三、七二六	一、六七三
九月	一、九六三、八四一	一、三九九、四〇二	一、一七五
十月	二、一七三、六三六	一、三七一、四四一	九九七
十一月	二、〇四三、五〇二	一、三三四、八二五	一
十二月	一、八三六、三三七	一、二〇三、〇三九	一
計	二〇、八八〇、八一三	一六、〇九六、二七〇	五、八七九

旅館の部

主要地累年旅館宿泊人員數（推定）

地名＼年度	昭和八年 日	昭和八年 鮮	昭和八年 滿	昭和八年 外	昭和九年 日	昭和九年 鮮	昭和九年 滿	昭和九年 外	昭和一〇年 日	昭和一〇年 鮮	昭和一〇年 滿	昭和一〇年 外
大連	一	一	一	一	一	一	一	一	七〇、三二九	一	一	一
鞍山	二〇、八〇〇	二、四八〇	四八、七〇〇	一	三三、〇〇〇	二、三五〇	四八、四〇〇	一	三三、四〇〇	三、三四〇	四七、五〇〇	一
奉天	一	一	一	一	一一三、五七六	一	一	一	一四二、〇四七	一	一	一
撫順	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
營口	一	一	一	一	一	一	一	一	六、四一五	一、七二〇	一〇四、三三〇	一
安東	二六、三四七	一七、六〇〇	一、七六〇	一	三五、四三九	一七、九五〇	一、六一三	一	三六、七九五	一八、三四〇	一、七九〇	一
通化	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四平街	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
新京	一	一	一	一	一	一	一	一	九五、六六二	一	一	一
吉林	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
延吉	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
哈爾濱	九、八六三	一	一	一	二一、六四三	一	一	一	三一、八五六	一	一	一
牡丹江	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

地名	昭和一一年 日	鮮	滿	外	昭和一二年 日	鮮	滿	外	昭和一三年 日	鮮	滿	外
佳木斯	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
齊齊哈爾	三〇、〇〇〇	八〇〇	四〇、〇〇〇	—	四〇、一〇〇	九五〇	五七、〇〇〇	—	四三、〇〇〇	一、〇三〇	六六、二四〇	—
滿洲里	—	—	—	—	八三五	—	—	七三〇	一、六八五	—	—	六〇七
錦縣	—	—	—	—	—	—	—	—	一七、二三〇	一、三三三	四、一六六	—
承德	一八、〇〇〇	三、六〇〇	五七、〇〇〇	—	三三、〇〇〇	三、八〇〇	六〇、〇〇〇	—	三〇、〇〇〇	四、二〇〇	六〇、〇〇〇	—
淸津	六三七	一、二三六	—	—	九八四	二、七四〇	—	—	一九、四三二	二三、九四八	—	—
羅津	七、二〇〇	一、三〇〇	—	—	七、七〇〇	一、五〇〇	—	—	九、五〇〇	一、六〇〇	—	—
山海關	一七、九六八	—	—	—	三、六三九	—	—	—	一三、五六三	—	二三七、八六五	—
石家莊	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
北京	五、〇四九	—	—	—	—	—	—	—	六六、六三一	—	—	—
大同	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
太原	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
杭州	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
蘇州	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

地名／年度	昭和一一年 日	鮮	滿	外	昭和一二年 日	鮮	滿	外	昭和一三年 日	鮮	滿	外
大連	六九、三七七	—	—	—	七一、九〇三	—	—	—	八六、二八九	四一、〇九〇	一五五、三三〇	三一、五七三
鞍山	一六、七〇〇	三、三五〇	四九、八〇〇	—	三三、四五〇	四、二八〇	五三、〇〇〇	—	四七、八九〇	四、六八〇	五六、四〇〇	—
奉天	二一六、八五七	—	—	—	二三四、五七三	—	—	—	四九九、六一六	四五、〇〇〇	七三〇、〇〇〇	—
撫順	—	—	—	—	—	—	—	—	二四、四〇〇	二、九二〇	六、二〇〇	—
營口	八、二三〇	二、一〇〇	六、五二〇	—	九、五五七	二、四六六	八〇、三二五	—	一九、〇七〇	九、二七一	五六、三四三	—
安東	三七、〇六一	一六、〇〇三	一、七三二	—	三一、五九〇	二〇、七五五	一、九〇六	—	四六、一四六	三三、四〇五	二、三六〇	—
通化	—	—	—	—	—	—	—	—	三三、二五〇	—	—	—
四平街	—	—	—	—	五、二一七	—	—	—	九、七七一	一、三六四	五六、〇八〇	—
新京	一〇七、七五一	—	—	—	一六三、九八〇	—	—	—	—	—	—	—
吉林	—	—	—	—	四六、三三八	—	—	—	四七、〇九六	三〇、九六六	一、一五七、二九一	一、六八四
延吉	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
哈爾濱	一三、〇八七	—	—	—	一五、三五三	—	—	—	一八、七五三	七六	—	—
牡丹江	—	—	—	—	—	四六八	—	—	—	—	—	—
佳木斯	—	—	—	—	三一、七〇〇	四、三〇〇	一五六、〇〇〇	—	一一〇、七〇〇	三、一〇〇	四三九、二〇〇	—
齊齊哈爾	五九、一〇〇	一、一四〇	八三、八〇〇	—	六一、三〇〇	一、二五〇	九三、〇〇〇	—	六六、七〇〇	一、五九〇	二二五、〇〇〇	—
滿洲里	二、一六〇	—	—	六八一	一、九四七	—	—	五四〇	一、八五〇	—	—	五六四
錦縣	二〇、三三七	三、七九〇	三、七二九	—	三一、三〇五	三、八六〇	七、三九九	—	四一、七六三	四、三三〇	五、〇三三	—
承德	四三、二〇〇	四、〇〇〇	六八、〇〇〇	—	四六、八〇〇	三、五〇〇	七〇、〇〇〇	—	五四、〇〇〇	三、〇〇〇	七三、〇〇〇	—
淸津	二五、五〇一	二五、六七二	—	—	三三、四一六	五六、七四三	—	—	五四、四九九	八三、七三一	—	—
羅津	九、七〇〇	一、八〇〇	—	—	一〇、五〇〇	一、九〇〇	—	—	一一、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—
山海關	一一、九三三	—	一〇〇、三五五	—	九、一六四	—	一二四、〇六七	—	一一、六〇四	—	一三七、八三九	—
石家莊	—	—	—	—	—	—	—	—	七〇、四〇〇	三六、〇六〇	二七三、二五〇	—
北京	—	—	—	—	一六、〇一三	一三、六六〇	—	—	五六、九六六	六七、九〇一	—	—
大同	—	—	—	—	一、三三四	—	—	—	二〇、一七四	二、一六六	—	—
太原	—	—	—	—	—	—	—	—	二〇、六八四	六、〇六四	一八、六六〇	—
杭州	—	—	—	—	—	—	—	—	四、八六〇	—	—	—
蘇州	—	—	—	—	—	—	—	—	六、〇〇〇	三四〇、〇〇〇	—	—

昭和十三年度月別各地日本旅館宿泊人員數（推定）

月別／地別	大連	鞍山	奉天	營口	安東	四平街	哈爾濱	淸津	山海關
昭一三 四月	八、五五四	三、五二〇	四一、三六五	一、八四四	三、九九一	七六八	一、五六三	四、四四五	六〇五
五月	一六、四四四	三、二六〇	四五、七一三	一、九九九	四、四三三	六九九	一、五一七	四、一八一	六一〇
六月	六、五四八	三、二三〇	四〇、〇六三	一、六九〇	四、一一〇	一、一四〇	一、六二五	四、〇三〇	八一六
七月	五、五七〇	五、七〇〇	四〇、二〇七	一、四九七	三、九九五	七九九	一、七一三	四、一三四	一、一一三
八月	六、七四五	三、〇九〇	四五、一六九	一、九九六	三、七五四	八三一	一、九八五	五、一四七	一、三二七
九月	五、三三五	二、九七〇	四三、九四三	一、五三九	四、〇八〇	九〇五	一、四二四	五、三九七	八四七
一〇月	六、三九一	三、一一〇	四三、八一〇	一、六一七	四、三一九	九〇九	一、六四三	五、一七一	八一三
一一月	六、三六七	二、九五〇	四三、七八二	一、六七九	四、一九八	九四七	一、三九八	五、一〇三	九七三
一二月	七、三〇三	五、六五〇	四四、〇九七	一、五五三	三、九九八	八四八	一、四五三	五、〇四八	九四一
昭一四 一月	四、四五〇	四、一七〇	三七、三六九	一、三〇三	三、一〇一	五九七	一、四四四	三、五三一	一、六五七
二月	四、三七五	四、三五〇	三六、三二九	一、三七一	二、九四九	六七九	一、五八二	三、九六七	八五七
三月	八、四〇七	五、六五〇	三六、九六八	一、五五三	三、三九八	七二九	一、四三六	四、三六四	九六六
合計	八六、二八九	四七、七六〇	四九九、六一六	一九、〇七〇	四六、一四六	九、七七一	一八、七五三	五四、四九九	一一、六〇四
備考			一、二、三月分は十三年	一、二、三月分は十三年	一、二、三月分は十三年		一、二、三月分は十三年	一、二、三月分は十三年	一、二、三月分は十三年

滿鐵經營旅館累年宿泊人員數

年度	客室數	人員	延人員
昭和七	三六六	三一、八八五	七五、五〇三
同 八	三五三	三〇、六六六	九九、九六六
同 九	三六八	三七、五〇三	一〇九、七七五
昭和十	三八九	四〇、五六〇	一〇六、八六五
同 十一	四三四	四一、一一三	一〇四、四一八
同 十二	四二六	四一、二二四	一〇九、三五五
同 十三	—	四八、〇四一	一三三、二九九

滿鐵經營旅館月別宿泊人員數（昭和十三年度）

月別	宿泊人員	宿泊延人員
昭一三 四月	三、六八八	八、九五七
五月	四、二一〇	一〇、一〇〇
六月	三、七七七	九、五五〇
七月	四、一八九	一三、一一四

八月	四、四三五	一三、二七五
九月	四、二〇四	一〇、四九三
十月	四、一三〇	一〇、一五一
十一月	三、六六八	九、一九三
十二月	三、六〇〇	八、六七四
昭一四 一月	三、七八五	九、三六四
二月	三、六四五	九、二三六
三月	四、六五〇	一一、一五一
合計	四八、〇四一	一三三、二九九
(前年度)	(四三、三二四)	(一〇九、三七五)

滿鐵經營旅館別宿泊人員數（昭和十三年度）

旅館	人員	延人員
〔社線〕		
大連ヤマトホテル	一一、二〇八	三六、二六六
星ヶ浦ヤマトホテル	二、四六五	九、〇〇九
同分館	三六三	四、一一一
黄金臺ヤマトホテル	三七〇	一、〇三五
奉天ヤマトホテル	七、一四一	二三、六二四
新京ヤマトホテル	四、九七八	一八、三二九
五龍背温泉ホテル	五、七二一	一〇、一六九
扶桑館（北京）	二、一六四	八、一六五
〔國線〕		
壺蘆島ホテル	一、五四六	二、四四八
齊齊哈爾鐵路ホテル	二、二九六	四、五五六
哈爾濱ヤマトホテル	五、七一七	一〇、九三三
牡丹江ヤマトホテル	一、七四〇	二、二六一
（昭和一四年一月より三月まで）		
興城温泉ホテル	貸切	
阿爾山温泉ホテル	一、八二一	三、五五七
計	四八、〇四一	一三三、二九九

市內乘物利用者調（推定）昭和十三年度

	バス	タクシー	電車	馬車	人力車
大連	一三、三六〇、二二九	八、三六〇、〇〇〇	四八、五三一、九六六	六、五四〇、〇〇〇	六、六〇〇、〇〇〇
鞍山	—	一六、五〇〇	—	一、二四一、〇〇〇	一、〇九八、〇〇〇
奉天	三四、八六八、九五三	—	一六、四八六、六八三	二三、三七八、〇〇〇	二〇、六二〇、〇〇〇
撫順	一、五三八、三五三	一八、〇〇〇	三六、四〇〇	三六、〇〇〇	四五、二〇〇
營口	二、四九二、〇〇〇	七四、七〇〇	—	一、四六〇、〇〇〇	一、七五一、〇〇〇
安東	一〇三、五〇〇	二〇〇、〇〇〇	—	三、五四〇、〇〇〇	九、二〇〇、〇〇〇
通化	一〇九、五〇〇	一、〇九五	—	七〇六、一〇〇	七四〇、九五〇
四平街	三六六、五四〇	一、八二五	—	七三五、六四五	八三三、八五〇
新京	一九、七七九、四〇二	一、九四六、〇五四	一、〇五八、五八五	一八、六一五、〇〇〇	一三、七三八、五〇〇
吉林	一、五四二、九六六	一一五、二〇〇	—	四、二六〇、〇〇〇	五、〇七六、〇〇〇
圖們	三、七〇〇	四、六〇〇	—	三三一、〇〇〇	六六、〇〇〇
哈爾濱	一五、七五五、九八四	五七六、〇〇〇	一六、五三七、六四四	—	—
佳木斯	七、二〇〇	二六、〇〇〇	—	七九八、〇〇〇	一、三六〇、〇〇〇
齊齊哈爾	四〇一、五〇〇	二一、九〇〇	—	三五七、五〇〇	二七三、七五〇
滿洲里	—	—	—	七三〇、〇〇〇	—
錦縣	五、六四五、〇〇〇	三八、六六八	—	五二八、〇〇〇	八九八、五〇〇
承德	三六、五〇〇	七、三〇〇	—	二一六、五〇〇	九四七、五〇〇
山海關	—	—	—	（馬驢）二一、〇〇〇	一九三、〇〇〇
清津	二、〇八八、三六〇	四四八、五九六	—	—	—
羅津	二九七、四八三	五四、〇〇〇	—	—	—
天津	五、二三三、九三一	七三、五〇〇	五、三三五、八七三	—	二九、二〇〇、〇〇〇
石家莊	—	—	—	—	三、二二〇、〇〇〇
上海	六六、五三八、二二〇	—	九九、二〇四、一六四	—	—
杭州	二四二、七〇〇	一七、六四〇	—	—	八、三二三、五〇〇
蘇州	三、二四〇、〇〇〇	—	（驢）四、四〇〇	七〇、〇〇〇	五、三〇〇、〇〇〇

（本調査は算出方に付未だ不充分なる箇所あり之が完成は他日に待つ）

旅行消費の部

滿洲國外來者消費額（康德四年）—單位千圓—

旅館に於ける宿泊人消費額（昭和十三年度・推定）

	日本旅館（圓）	朝鮮旅館（圓）	滿支人旅館（圓）	外人旅館（圓）
大連	432,555	83,180	159,310	107,806
奉天	1,495,610	90,000	1,560,000	—
撫順	170,480	—	—	—
營口	87,100	—	—	—
安東	302,000	45,000	9,200	—
通化	166,270	—	—	—
四平街	239,084	21,046	24,848	—
吉林	297,000	62,000	332,000	—
哈爾濱	335,380	—	—	—
佳木斯	578,000	15,600	219,600	—
齊齊哈爾	536,900	4,785	366,700	—
滿洲里	11,100	—	—	2,823
錦縣	331,336	10,973	2,633	—
承德	270,000	9,000	72,000	—
山海關	98,600	—	275,676	—
羅津	82,500	13,000	—	—
清津	334,878	87,946	—	—
天津	118,400	146,300	119,560	374,205
石家莊	442,400	108,240	544,460	—
太原	288,000	54,000	36,000	—
杭州	156,330	—	21,870	—
蘇州	250,000	—	480,000	—

滿洲在住者國外消費額（康德四年）—單位千圓—

種別	總額	日本	支那	其他
△旅行者消費額	26,824	16,000	10,720	104
△移住者及出稼人持參金	9,958	5,836	4,122	—
（イ）日本開拓民及一般渡來者	5,836	5,836	—	—
（ロ）入滿苦力	4,122	—	4,122	—
△滿洲外艦船乘組員消費額	487	321	14	152
△滿洲外よりの留學生消費額	476	439	37	—
△布敎費	478	45	—	433
△外國政府經費	152,392	150,530	—	1,862
△合計	190,615	173,170	14,905	2,551

種別	總額	日本	支那	其他
△國外旅行者消費額	31,141	24,182	6,173	786
△船舶乘組員國外消費額	332	179	73	80
△留學生消費額	3,003	2,542	67	394
△布敎本山獻納金	13	12	1	—
△在外公館費竝滿鐵在外機關費其他	4,908	2,375	1,826	705
△合計	39,396	29,290	8,141	1,965

滿洲國內催行旅行團體（ビューロー・驛共同主催）

（昭和十三年）十月

發地	團名	日數	人員
奉天	新京都市視察團	三日	一八一
同	鐵嶺ハイキング團	日歸	五八
同	橋頭	同	一〇二
同	千山探勝團第一班	同	一〇六
同	同　第二班	同	一〇九
大連	第一八回龍頭大孤山ハイキング團	同	九四
大連	第一九回金州大和尚山ハイキング團（第一組、第一班）	日歸	一三八
同	第二〇回三十里堡ハイキング團	同	二六
同	秋の千山探勝團	同	一五一
同	第二一回金州大和尚山ハイキング團	同	二五

大連	第二二回石河小里山ハイキング團	日歸	八一
同	第二三回三十里堡ハイキング團	同	九五
新京	沿線忠靈塔參拜團	五日	三四
同	昌圖競獵大會	三日	二〇
安東	石下栗拾團	日歸	四七
同	第一回高麗山ハイキング團	同	三五
同	第三回高麗山探勝團	同	五一
同	五龍背ハイキング團	同	二二
同	五龍背芋掘團	同	一七七
同	鳳凰山探勝團	同	三一
哈爾濱	玉泉ハイキング團	同	八五
同	北鮮三港視察團	九日	
營口	熊岳城ハイキング團	日歸	五〇
同	第三回熊岳城ハイキング團	同	六九
同	千山探勝團	同	八二
清津	四會驛附近ハイキング團	二日	一三
同	哈爾濱視察團	三日	一六
撫順	千山秋季感謝祭	日歸	一六
同	營口釣魚團	三日	二一
鞍山	撫順炭礦視察團	日歸	四〇
同	第二回撫順炭礦視察團	同	三六
錦縣	閭山探勝團	同	四四

十一月

大連	第二四回金州大和尚山ハイキング團	日歸	七二
同	第二五回三十里堡兎狩團	同	一二三
新京	練習艦隊見學團	三日	一四
撫順	第二回營口釣魚團	同	一五
佳木斯	北鮮三港視察團		八
鞍山	練習艦隊參觀團	二日	六八
哈爾濱	海倫郡日村附近狩獵團	同	八
齊齊哈爾	五廟子狩獵團	日歸	四六

十二月

新京	野兎獻納競狩大會	日歸	二二
同	吉林北山スキー場開き參加團	同	二四
同	王府獻納兎狩團	同	二〇
大連	第二六回二十里臺兎狩團	同	三一六
同	第二七回金州兎狩團	同	二九五
同	第二八回二十里臺兎狩團	同	四九
錦縣	國都見學團	五日	二一
吉林	第二回獻納兎狩團	日歸	二七
圖們	北鮮三港視察團	二日	二三

（昭和十四年）

一月

新京	雙城堡、哈爾濱忠靈塔參拜團	三日	四四
佳木斯	南滿都市視察團	一二日	二二

二月

新京	永沼挺身隊墓碑參拜團	日歸	六五〇
同	吉林スキー選手權大會	同	六五
吉林	雙河鎭猛獸狩	四日	一二
奉天	得勝臺兎狩團	日歸	九四
齊齊哈爾	碾臺子兎狩團	同	一五一
佳木斯	北鮮商工視察團	七日	九
哈爾濱	南滿戰跡見學團	四日	一〇
吉林	北鮮視察團	五日	八
山海關	兎狩團	日歸	一二七

三月

大連	三十回柳樹屯ハイク	日歸	三〇
奉天	遼陽陸軍病院慰問團	同	七八
哈爾濱	白系露人新京視察團		三三

來滿視察團體

自昭和十三年九月
至昭和十四年三月（ビューロー斡旋）

學生團體

九月

大阪府立農學校	五九
四日市商業學校	五〇
福井商業學校	三六
京城敎習所二班	三三
宮崎商業學校	三六
東京府立園藝學校	五九
京城商業實踐學校	四八
福岡縣八女農學校	七九
裡里公立農學校	九七
東京文理科大學高等師範學校	一九

滿鐵新入社員團　三四
宮野商業學校　四〇
福岡縣農實學校　四〇
福岡縣朝倉農學校　三七
朝鮮中央學校　一四六

紳士團體

秋田縣敎育會　一九
新潟敎育會　二六
岐阜縣青年團　二四
滿洲移民地小作農視察團　四六
スキロン會鮮滿視察團　一一
戸畑市會議員　一三
大日本聯合青年團　二七
岐阜聯合青年團　二三
福岡縣敎育會團　二六
平壤殖產銀行支店團　二二
名古屋敎育會團　二〇
名古屋市派遣敎育團　一一
秋田縣小學校長皇軍慰問團　一九
尉山郡面長視察團　二〇
富山縣敎育會　一〇
茨城縣移民地視察團　二〇

十月

學生團體

愛知縣安城青年學校　二一
新義州職業學校　二四
佐賀農業學校　四六
新義州東公立中學校　六〇
大分縣佐伯中學校　七〇
天津日本商業學校　五〇
大阪浪速商業學校　八五
培材中學校　一五〇
熊本縣菊地農營學校　四五
愛媛縣宇和農業學校　三六
玖球農學校　三七
阿蘇農學校　八三
新義州三務學校　四七
岐阜師範學校　五九
朝鮮崇德學校　三六
徽新中學校　四二
京城師範學校第一班　七〇
同　第三班　五八
京都公立農學校　六六
廣島縣立西條農學校　一五〇
大分縣女子師範學校　四三
貴州松光園藝學校　二七

紳士團體

北陸三縣敎育者團　三四
岡山縣敎育會　一九
山形縣拓務協會　一九
青森縣農會　二〇
靜岡縣敎育會　二〇
高知縣派遣團　八
日本旅行會鮮滿視察團　三一
臺灣敎育會鮮滿視察團　三〇
新潟縣鮮滿農事視察團　一三
栃木縣敎育會視察團　一三
鳥取縣敎育會鮮滿視察團　一五
ペルー經濟親善使節團　四
平壤東拓社員視察團　二九
大日本聯合女子青年團滿洲移住地視察團　四一
朝鮮敎育會皇軍慰問竝敎育視察團　二〇

十一月

中央鐵路學院滿洲視察團　六五
練習艦隊乘組員一行第一班
同　第二班
大分縣敎育會鮮滿視察團　一五
アメリカ旅館組合業者團　一七
長野縣移民地視察團　二一

十二月

紳士團體

京都市立中學校長團　一〇
日滿支經濟懇談會出席者團　四六
大阪市會議員北支皇軍慰問團　一六

(昭和十四年)

二月

學生團體

東京青年指導學校　一二

三月

學生團體

咸興師範學校　八二
熊本縣玉名中學校　四九
熊本師範學校　一一五
奈良師範學校　七二
鹿兒島師範學校　一〇六
釜中商業學校　八〇
山口縣興風中學校　五二

島根縣津和野中學校	三八
廣島高等師範學校	二一
宮崎中學校	三九
神戸藥學專門學校	二三
鳥取師範學校	三一
大阪女子藥學專門學校	二三

紳士團體

長野縣分散移住村滿洲視察團	二五
東京府立青年團指導滿洲北支視察團	一二
平安北道警察隊	一五
大阪泉化纖物組合原藤右門視察團	九
高居商店滿洲招待團	四五

北支視察團

自昭和十三年九月
至昭和十四年三月 (ビューロー斡旋)

三重縣教育會鮮滿支視察團	水野猶藏氏	五
京都市教育會鮮滿北支視察團二班	原　憲二	一〇
京都市教育會鮮滿北支視察團一班	北村金三郎	一〇
吉林鐵道局青年部北支視察團	下澤義夫	二七
日本赤十字社大連病院北支皇軍慰問團	倉　尚貞	二〇
日本旅行會鮮滿支視察團第一班	南　新助	五〇
名古屋靈鑛經濟調査團	加藤勝太郎	一一
大ネル滿支皇軍慰問團竝經濟視察團	貴　傳松	二〇
大阪府皇軍慰問北支班	長谷川　透	一八

和歌山皇軍慰問團	成川辯太郎	七
大阪府立中等學校教員教育視察團	柳田鏡四郎	一〇
中支皇軍慰問奉天實業團	入江英一郎	二〇
中支皇軍慰問團竝臺灣產業視察團	代表者不明	三〇

中支視察團

高島屋中支實業視察團	一三・一一
朝鮮全道聯合見本市團	同
龜井氏一行	同
中支振興重役視察團	同
特務機關(二)	一四・一
朝鮮支部主催中支視察團	同
東京市產業局中支視察團	同　二
東亞輸出組合視察團	同
東洋木材新聞社視察團	同
北海道聽調査團	同
大阪ネル業中支實業視察團	同　三
大阪泉北郡棉業視察團	同
長崎卸商中支進出見本市視察團	同
長崎民友新聞中支視察團	同
愛知縣々議中支視察團	同
盛岡市會議員中支視察團	同

(以上ビューロー斡旋團體にして全來滬團體の二割程度)

訪日滿支人團體

自昭和十三年十一月
至昭和十四年三月 (ビューロー斡旋)

團體名	代表者名	人員
興安南省訪日教育視察團	高橋健太郎	一五
滿洲國治安部滿系警察幹部訪日團	佐野高一	二三
新民會體育會派遣日滿スポーツ親善團	神島好夫	一四
通化省協和會訪日視察團	池　茂治	二五
興安西省滿系職員訪日視察團	川野鼎三	二〇
錦州省訪日教育視察團	三島壽男	二二
東亞文化協議會中國代表訪日團	高橋訓平	二一
咸鏡北道教育會內地視察團	阿部敏雄	二三
交通部郵政職員養成所訪日視察團	吉田藏人	八二
滿洲國留學生豫備校日本學生團	廣田長次郎	一三五
旅順高等公學校師範部訪日團	小野田功	六一
財務職員養成所第一、二期生訪日團	內殊信興	一六九
龍江省瞻楡縣日本產業視察團	三好秀夫	二一
蒙古聯盟自治政府主催訪日文官視察團	赤　定	三三
新京商工會主催訪日團	古林正仁	二三
永吉縣教育訪日視察團	三原善太郎	二〇
滿洲國滿系幹部警察官日本視察團(二班)	收芽太郎	一八
昭和製鋼所滿人社員訪日視察團	坂內三郎	二二
內務局主催滿洲國地方官吏渡日視察團	佐々木治平	二五


胃腸榮養
錠劑
わかもと
春日來！
雪も消えた、氷も溶けた、建設の大陸に陽光はさんと輝く……健康日本の躍進は錠劑わかもとの服用によつてこそ。藥用酵母獨特の作用で全身榮養を充實し、疲勞を克服して、勤勞報國の實を擧げる事が出來ます。
二十五日量
一圓六十錢
東京芝公園
わかもと本舗
支社
大阪・福岡・京城
奉天・北京・上海・漢口

観光ルート



日満支連絡状況

日・満・支間の交通連絡状況を日本満洲間、満洲支那間、日本支那間に分ち更に鐵道、海路、航空に分類すれば次の通りである。尚△印は主要ルートを意味す。

（一）日本―満洲間

【鐵道】△東京―下關―（連絡船）―釜山―安東―新京（所要五五時間）

【海路】△東京―神戸＝大連―新京（所要八八時間大阪商船）△東京―下關（門司）＝大連―新京（所要七四時間二〇分大阪商船）△東京―敦賀＝淸津―新京（所要八二時間北日本汽船）△東京―新潟＝淸津―新京（所要八二時間北日本汽船、朝鮮郵船）神戸＝門戸＝門司＝淸津、羅津、雄基（大阪商船）・那覇＝鹿兒島＝三角＝大連（大阪商船）・鹿兒島＝長崎＝大連（日本郵船）・高雄＝基隆＝大連（大連汽船）・新潟＝伏木＝大連（大連汽船）・仁川＝大連＝長崎＝鹿兒島（朝鮮郵船）

【航空】△東京―大阪―福岡―京城―奉天―新京（所要一〇時間四五分）

（二）満洲―支那間

【鐵道】△奉天―山海關―北京（所要一五時間五五分）・奉天―承德―古北口―北京（所要四四時間三〇分）

【海路】△大連＝青島＝上海（所要五一時間大連汽船）△大連＝天津（所要二〇時間大連汽船、阿波國共同汽船）・大連＝芝罘＝威海衛＝青島（東亞海運）

【航空】一般開放の分のみ△奉天―錦州―山海關―天津―北京（所要四時間三五分滿洲航空）△大連―天津―北京（所要二時間中華航空）

（三）日本―支那間

【鐵道】△東京―下關―（連絡船）―釜山―奉天―北京（所要七二時間五五分）

【海路】△神戸＝門司＝天津（所要一一〇時間東亞海運）△神戸＝門司＝青島（所要七二時間東亞海運）△長崎＝上海（所要二六時東亞海運）・阪神＝門司＝上海＝（日本郵船）・仁川＝上海（朝鮮郵船）・仁川＝青島（朝鮮郵船）・高雄＝基隆＝上海（日本郵船）・基隆＝厦門＝高雄＝香港（東亞海運）

【航空】東京―大阪―福岡―上海―南京（所要九時間四五分大日本航空）△東京―大阪―福岡―青島―天津―北京（所要一一時一五分大日本航空）

鮮満観光ルート

第一案（往路朝鮮經由）

日次	地名	發著	時刻	列車番號	備考	宿泊
一日	下關	發	一〇・三〇	一便		連絡船
同	釜山	著	一八・〇〇			
同	同	發	一九・四〇	三		
二日	京城	著	三・〇八		旅館—朝鮮神宮—博文寺—經學院—昌慶苑—總督府（廳舍見學朝鮮事情紹介の映畫等）—博物館—德壽宮—朝鮮美術品製作所—旅館	京城
三日	同	發	八・〇五	四三		
同	平壤	著	一五・一四		驛—大神宮前—七星門—博物館—乙密臺—箕子廟—玄武門—牡丹臺—永明寺—お牧の茶屋—浮碧堂—淸流壁—大同江（舟で下る）—大同門—練光亭—妓生學校—驛	
同	同	發	二〇・四四	七		
四日	安東	著	〇・四〇			
同	同	發	一・一〇	七		
同	奉天	著	七・〇五		旅館—奉天神社—忠靈塔—國立博物館—同善堂—北陵—北大營—宮殿前通過—吉順絲房—滿毛百貨店（又は三中井百貨店）—旅館	奉天
五日	同	發	八・〇五	六四一		
五日	撫順	著	九・二〇		驛—炭礦事務所—古城子—露天堀—製油工場—新市街—驛	
同	同	發	一五・四〇	六五二		
同	奉天	著	一六・五〇			
同	同	發	二二・四〇	二一		
六日	新京	著	六・一八		旅館—日本橋通—商埠地—國務院—宮廷府—北大營—城內—南嶺戰跡—大同廣場—關東軍司令部—西公園—守備隊—大使館—寬城子—戰跡—旅館	新京
七日	同	發	八・一〇	一五急		
同	哈爾濱	著	一二・四五		驛—郵政管理局—濱江省公署—博物館—中央寺院—飛行場—志士の碑—ミルレル兵營—鐵路クラブ—鐵路局—極樂寺—露人墓地—孔子廟—傅家甸—ヨットクラブ—旅館	哈爾濱
八日	同	發	一六・五五	一六急		
九日	大連	著	九・四〇		旅館—滿洲資源館—埠頭—油房—滿鐵本社—大廣場—遊覽道路—露天市場—星ケ浦—旅館	大連
十日	同	發	七・四五	六〇一		
同	旅順	著	九・三			
同	同	發	一六・〇〇	バス		
同	大連	發	一七・〇〇		驛—白玉山表忠塔—博物館—二〇三高地—戰利品記念館—東鷄冠山—北堡壘—バス停留所	大連
十一日	同	發	一一・〇〇	大阪商船		
十二日	航海中					
十三日	門司	著	早朝			

(2) 一人當費用概算

（二等團體 一六一圓〇五錢　三等團體 一〇三圓九九錢（團員二〇名以上遡遊團體内鮮滿としての一切の割引運賃及び料金））

乘車船運賃	二等運賃 七三・三三 三等運賃 三七・二一	
急行寢臺料金	急行料金 二等 三等 京城 平壤 一・〇〇 ・五〇 新京 哈爾濱 一・〇〇 ・五〇 哈爾濱 大連 二・五〇 一・二五 寢臺料金（五回使用） 二等 一八・七五 三等 七・二〇	二等 二三・二五 三等 九・四五
宿泊料金	特等（一泊二食 附四・五〇 二等團體に適用）二七・〇〇（六泊分） 並等（一泊二食 附三・五〇 三等團體に適用）二一・〇〇（六泊分）	二等 二七・〇〇 三等 二一・〇〇
食事料金	（一）旅館食事 朝食 四・〇〇（一食一・〇〇）京城、奉天、新京、大連 夕食 三・〇〇（一食三・〇〇）奉天 （二）市中食事 朝食（一食 ・五〇 二回分）一・〇〇 晝食（一食 ・八〇 八回分）六・四〇 （三）車中食事 晝食（一食一・二〇 二回分）二・四〇 夕食（一食一・二〇 三回分）三・六〇	一九・四〇
乘物料金	京城バス二〇人乘一日貸切 一・九一 平壤電車二區分 ・一〇 奉天バス二〇人乘一日貸切 一・二〇 撫順電車二區分 ・二〇 新京バス二〇人乘四時間貸切 ・八五 哈爾濱バス二〇人乘四時間貸切 ・八〇 大連バス二一人乘五時間貸切 一・二〇 旅順馬車一臺三人乘 三・五〇 一・一七 旅順大連間バス料金 一・〇〇	八・四三
觀覽料	京城 昌慶苑 五錢 德壽宮 五錢 博物館 五錢 平壤 博物館 五錢 奉天 北陵 一五錢 博物館 五錢 旅順 博物館 五錢 記念館 五錢	・四五
雜費	一、旅館使用人心附支拂額の一割 二等 三・三〇 三等 二・六〇 二、食堂車使用人心附支拂額の一割 ・六〇 三、赤帽運搬賃（一箇に付五錢）三箇とし一〇回分 一・五〇 四、驛旅館間荷物運搬賃（一箇に付一〇錢）三箇とし一一回分 三・三〇 五、奉天同善堂寄附金 ・五〇	二等 九・二〇 三等 八・五〇

第二案（往路大連經由）

(1) 旅行日程

日次	地名	發著	時刻	列車船名	觀察箇所竝順路	宿泊
一日	門司	發	一二・〇〇	大阪商船〇〇丸		船中
二日						同
三日	大連	著	九・〇〇		旅館—滿洲資源館—埠頭—油房—滿鐵本社—大廣場—遊覽道路—露天市場—星ヶ浦—旅館	大連
四日	同	發	七・四五	六〇一	驛—白玉山表忠塔—博物館—二〇三高地—戰利品記念陳列館—東鷄冠山—北堡壘—バス停留所	同
	旅順	著	九・一二			
	同	發	一七・〇〇	バス		
	大連	著	一八・三〇	六一二		
五日	大連	發	一〇・三〇	二五		奉天
	奉天	著	一八・四〇			
六日	同	發	八・〇五	六四一	驛—炭礦事務所—古城子—露天堀—製油工場—新市街—驛	同
	撫順	著	九・二〇			
	同	發	一五・四〇	六五二		
	奉天	著	一六・五〇			
七日	奉天	發	二二・四〇	二一	旅館—奉天神社—忠靈塔—國立博物館—同善堂—北陵—北大營—宮殿前通過—吉順絲房—滿毛百貨店—（又は三中井百貨店）—旅館	車中

日	行程	時刻	列車	觀光	宿泊
八日	新京著	六・一八		旅館―日本橋通―商埠地―國務院―宮廷府―北大營―城內―南嶺戰跡―大同廣場―關東軍司令部―西公園―守備隊―大使館―寛城子驛戰跡―旅館	新京
九日	同發 哈爾濱著	八・一〇 一二・四五	一五	驛―郵政管理局―濱江省公署―博物館―中央寺院―飛行場―志士の碑―ミルレル兵營―鐵路クラブ―鐵路局―極樂寺―露人墓地―孔子廟―傅家甸―ヨットクラブ―旅館	哈爾濱
十日	同發 奉天著 同發	九・四五 二二・五四 二三・一八	二〇 急行（のぞみ）八		車中
十一日	平壤著	九・三三		驛―大神宮前―七星門―博物館―乙密臺―箕子廟―玄武門―牡丹臺―永明寺―お牧の茶屋―浮碧堂―清流壁―大同江（舟に乘て下る）―大同門―練光亭―妓生學校―旅館	平壤
十二日	同發 京城著	九・三八 一四・三〇	急行（のぞみ）八	旅館―朝鮮神宮―博文寺―經學院―昌慶苑―總督府（廳舍見學朝鮮事情紹介映畫等）―博物館―德壽宮―朝鮮美術品製作所―旅館	京城
十三日	京城發	三・〇二	四		車中
十四日	釜山著 同發 下關著	一〇・四〇 一一・四五 一九・三〇	二便		連絡船

2 一人當費用概算　二等團體 一六〇圓一六錢　三等團體一〇六圓八二錢

乘車船運賃―急行寢臺料金―宿泊料金―食事料金―乘物料金―觀覽料―雜費	計
二等運賃 七三・三三 三等運賃 三七・二二	合計 二等 七三・三三 三等 三七・二二
急行料金（三等 二等） 奉天―平壤 二・〇〇 一・〇〇 平壤―京城 一・〇〇 ・五〇 寢臺料金（三回使用） 二等 一一・二四 三等 四・三二	二等 一四・二四 三等 五・八二
特等（一泊二食附四・五〇、二等團體に適用）三六・〇〇（八泊分） 並等（一泊二食附三・五〇三等團體に適用）二八・〇〇（八泊分）	二等 三六・〇〇 三等 二八・〇〇
（一）旅館食事 夕食（京城）二・〇〇 （二）市中食事 晝食（一食 ・八〇錢 九食分）七・二〇 （三）車及船中食事 朝食（一食 ・八〇錢 二食分）一・六〇 晝食（一食 一・二〇 三食分）三・六〇 夕食（一食 一・二〇、二食分）二・四〇	一六・八〇
大連バス二一人乘五時間貸切 一・二〇 旅順馬車一臺三人乘 三・五〇 一・一七 旅順大連間バス料金 一・〇〇 撫順電車二區分 ・二〇 奉天バス二〇人乘一日貸切 一・二〇 新京バス二〇人乘四時間貸切 ・六五 哈爾濱バス二〇人乘四時間貸切 ・六〇 平壤電車二區分 ・一〇 京城バス二〇人乘一日貸切 一・九一 各地驛―旅館間乘物料馬車・八〇（一臺二人乘 ・二〇 八回使用） タクシー・二〇（一臺四人乘 ・八〇京城一回使用）	九・四三
旅順 博物館 五錢 記念館 五錢 奉天 北陵 一五錢 博物館 五錢 平壤 博物館 五錢 京城 博物館 五錢 昌慶苑 五錢 德壽宮 五錢	・五〇
一、旅館使用人心附支拂額の一割 二等 三・八〇 三等 三・〇〇 二、食堂車使用人心附支拂額の一割 ・七六 三、赤帽運搬賃（一箇に付五錢）三箇とし一〇回分 一・五〇 四、驛旅館間荷物運搬賃三・三〇（一箇に付一〇錢）三箇とし一一回分 五、奉天同善堂寄附金 ・五〇	二等 九・八六 三等 九・〇六

（摘要）第一案に同じ

第三案（往路北鮮經由）

1 旅行日程

日次	地名	發着	時刻	列車船名	視察箇所竝に順路	宿泊
一日	敦賀	發	一六・〇〇	北日本汽船〇〇丸		船中二泊
三日	清津	著	六・〇〇		市内概觀一巡	
	同	發	一一・〇〇			
同	羅津	著	一九・〇〇		同	
四日	同	發	八・〇〇	二〇二		吉林
	吉林	著	一九・一六			
五日	同	發	一七・四四	二〇六	旅館―大馬路―日本總領事館―文廟―河南街―牛馬街―德勝門―北山―小白山―吉林省公署―園山子―龍潭山―驛	新京
	新京	著	二〇・四〇			
六日	新京	滯在			旅館―日本橋通―商埠地―國務院―宮内府―北大營―城内―南嶺戰跡―大同廣場―關東軍司令部―西公園―守備隊―大使館―寛城子戰跡―旅館	
七日	同	發	二三・四五	九〇三	旅館―郵政管理局―濱江省公署―博物館―中央寺院―飛行場―志士の碑―ミルレル兵營―鐵路クラブ―鐵路局―極樂寺―露人墓地―孔子廟―傳家甸―ヨットクラブ―旅館	哈爾濱
	哈爾濱	著	七・四一			
八日	同	發	一七・四〇	二二		
九日	奉天	著	六・一八		旅館―奉天神社―忠靈塔―國立博物館―同善堂―北陵―北大營―宮殿前通過―吉順絲房―滿毛百貨店―（又は三中井百貨店）―旅館	奉天
十日	奉天	發	八・〇五	六四一	驛―炭礦事務所―古城子―露天堀―製油工場―新市街―驛	車中
	撫順	著	九・二〇			
	同	發	一五・四〇	六五二		
	奉天	著	一六・五〇			
十一日	同	發	二三・〇七	二〇	旅館―滿洲資源館―埠頭―油房―滿鐵本社―大廣場―遊覽道路―露天市場―星ヶ浦―旅館	大連
	大連	著	八・一五			
十二日	同	發	九・〇〇	バス	白玉山表忠塔―博物館―二〇三高地―戰利品記念館―東鷄冠山―北堡壘―水師營會見所	同
	旅順	著	一〇・〇〇			
	同	發	一六・〇〇	バス		
	大連	著	一七・〇〇			
十三日	同	發	一二・四〇	二一		車中
	奉天	著	二二・二五			
十四日	同	發	二三・一八	急行（のぞみ）八	驛―大神宮前―七星門―博物館―乙密臺―箕子廟―玄武門―牡丹臺―永明寺―お牧の茶屋―浮碧堂―淸流壁―大同江（舟で下る）―大同門―練光亭―妓生學校―旅館	同
	平壤	著	九・三三			
	同	發	二三・三五			
十五日	京城	著	七・二〇	四八	旅館―朝鮮神宮―博文寺―經學院―昌慶苑―總督府（聽舍見學）―朝鮮事情紹介（映畫等）―博物館―德壽宮―朝鮮美術品製作所―旅館	京城
十六日	同	發	一四・四二	急行（のぞみ）八		船中
	釜山	著	二二・一〇			
	同	發	二三・三〇	二便		
十七日	下關	著	七・一五			

2 一人當費用概算　二等團體　一六八圓九七錢　三等團體　一二二圓二四錢

乘車船運賃	急行寢臺料金	宿泊料金	食事料金	乘物料金	觀覽料	雜費
二等運賃 五四・七八 三等運賃 三〇・九〇	急行料金 二等　三等 圖們吉林 一・五〇　・七五 奉天平壤 二・〇〇　一・〇〇 京城釜山 一・五〇　・七五 寢臺料金（五回使用） 二等 一八・七五 三等 七・二〇	特等（一泊一食附四・五〇 三等團體に適用） 三六・〇〇（八泊分） 並等（一泊二食附三・五〇 三等團體に適用） 二八・〇〇（八泊分）	（一）旅館食事 朝食 四・〇〇（哈爾濱、奉天、大連、京城、四食分 一食 一・〇〇） 晝食 一・五〇（大連一食分一食一・五〇） 夕食 八・〇〇（新京、哈爾濱、奉天、平壤、四食分 一食 二・〇〇） （二）市中食事 八・八〇（一食八〇錢 一一食分） （三）車中食事 晝食（一食 一・二〇 一食分）一・二〇 夕食（一食 一・二〇 三食分）三・六〇	津浦タクシー二時間貸切 八・〇〇 二・〇〇 羅津タクシー三時間貸切 八・〇〇 二・〇〇 吉林バス二〇人乘三時間貸切 ・九〇 新京バス二〇人乘四時間貸切 ・八五 哈爾濱バス二〇人乘四時間貸切 ・八〇 奉天バス二〇人乘一日貸切 ・八〇 大連バス二二人乘五時間貸切 一・二〇 旅順バス二〇人乘一日貸切（大連旅順間往復を含む） 三・三五 平壤電車二區分 ・一〇 京城バス二〇人乘一日貸切 一・九一 各地驛旅館相互間乘物料馬車 一・四〇（一臺二人乘二〇錢一四回使用） タクシー ・二〇（一臺四人乘八〇錢京城一回使用）	奉天 北陵 一五錢 博物館 五錢 旅順 博物館 五錢 記念館 五錢 平壤 博物館 五錢 京城 博物館 五錢 昌慶苑 五錢 德壽宮 五錢	一、旅館使用人心附支拂額の一割 二等 四・四五 三等 三・六五 二、食堂車使用人心附 ・四八 三、赤帽運搬賃 二・四〇（一箇に付五錢三箇とし一六回分） 四、驛旅館相互間荷物運搬賃三・六〇（一箇に付一〇錢三箇とし一二回分） 五、奉天同善堂寄附金 ・五〇
合計 二等 五四・七八 三等 三〇・九〇	二等 二三・七五 三等 九・七〇	二等 三六・〇〇 三等 二八・〇〇	二七・一〇	一五・四一	・五〇	二等 一一・四三 三等 一〇・六三

滿支觀光ルート

コース

【一號コース】發驛―下關…釜山―京城―安東―奉天―錦縣―山海關―（北支）

【二號コース】發驛―三ノ宮（門司）…天津（塘沽）―（北支）―錦縣―奉天―大連…門司（神戸）發驛

【三號コース】發驛―三ノ宮（門司）…大連…天津（塘沽）―（北支）山海關―錦縣―奉天―大連…門司（神戸）―發驛

【四號コース】發驛―下關…釜山―京城―安東―奉天―錦縣―山海關―（北支）―發驛

【五號コース】發驛―下關…釜山―京城―安東―奉天―山海關―（北支）―山海關―天津（塘沽）…門司（又は神戸）―發驛

【六號コース】發驛（長崎）―上海―南京―濟南―北京―山海關―奉天―安東―釜山―發驛

【七號コース】發驛―三ノ宮（門司）青島―濟南―北京―山海關―奉天―安東―釜山―發驛

以上の外敦賀又は新潟より清津、羅津に上陸新京を經て北支入コース、滿洲主要地を一巡して北支入コース等がある。

汽車汽船賃概算（東京發北京著）

コース 番號	種別	全區間一等	汽船一等汽車二等	全區間二等	汽船二等汽車三等	全區間三等	記事
一號	片道	一三四·八六	九〇·九三	八五·八七	四九·五九	四六·〇四	東京山海關往復割引乘車船券利用
	往復	二三三·二八	一五〇·四八	一四二·四八	八二·八四	七六·一六	
二等	片道	九六·九七	八七·九六	六五·九六	五六·九九	三〇·九九	乘船地は神戸、上陸地は塘沽とす 二等設備のあるは大阪商船のみ
	往復	一七三·五〇	一五七·〇四	一一七·四〇	一〇一·九〇	五五·一〇	東京天津（塘沽）間往復割引乘車船券利用
三號	迴遊	(A)二三三·四三 (B)二三九·八三	(A)二〇〇·八九 (B)一九七·二九	(A)一六四·八九 (B)一六一·二九	(A)一三六·八三 (B)一三三·二三	七三·九三	一、乘船地は神戸、上陸地は塘沽とす 二、大連天津（塘沽）間は二等設備なきため二等運賃欄の同區間は一等として計算せり 三、(A)は天津丸及北京丸(B)は長平丸（何れも大連汽船）の運賃を適用せり 四、東亞遊覽券を利用せり
四號	迴遊	二〇三·一四	一六六·二九	※一三三·四五	※九三·三九	六七·一五	OK・SY・K天津航路には二等なし※はOK・S・Kのみに適用（東亞遊覽券利用）
五號	迴遊	二四三·二六	一八〇·三八	一六八·三四	一〇八·七三	八〇·四八	東亞遊覽券利用

滿洲國內觀光ルート

總費用（二〇人以上普通團體個人當り）

第一ルート

（A） 大連著—旅順—鞍山—奉天—撫順—
新京—吉林—哈爾濱—佳木斯—牡丹江—
羅津

二等　一三九·一三　　三等　一〇〇·〇六

（B） 大連著—旅順—大連—金州—湯崗子
鞍山—奉天—撫順—吉林—新京—哈爾濱
—呼倫—佳木斯—牡丹江—羅津

二等　一六三·九三　　三等　一二四·二四

（A）の逆　二等　一四三·一八　　三等　一〇四·二六

（B）の逆　同　一七〇·三八　　同　一二九·七八

第二ルート

（A） 安東—新京—吉林—哈爾濱—孫呉—
黒河—孫呉—北安—齊齊哈爾—奉天—撫
順—奉天—鞍山—大連—旅順—大連發

二等　一六〇·一〇　　三等　一二四·四三

（B） 安東—新京—吉林—哈爾濱—呼蘭—
哈爾濱—黒河—孫呉—北安—齊齊哈爾—
奉天—撫順—奉天—湯崗子—鞍山—大連
—旅順—大連發

二等　一九三·五三　　三等　一四三·八五

（A）の逆　二等　一五九·一七　　三等　一一三·九七

（B）の逆　同　一八九·一三　　同　一四三·二一

第三ルート

（A） 第二ルート逆（A）旅程と大連發より
吉林著迄同一（吉林—南陽—羅津發）

二等　一六四·〇九　　三等　一二八·五四

（B） 第二ルート逆（B）旅程と大連發より
吉林著迄同一吉林—圖們—南崗—雄基—
羅津發）

二等　一九三·六九　　三等　一四七·一九

（A）の逆　第二ルート（A）新京發より大連
發迄同一（羅津—南陽—吉林—新京發）

二等　一五三·三九　　三等　一〇九·四九

（B）の逆　第二ルート（B）新京發より大連
發迄同一（羅津—雄基—圖們—吉林—新
京發）

二等　一九九·六九　　三等　一四六·七八

第四ルート

（A） 大連著—旅順—大連—鞍山—奉天—
撫順—奉天—錦縣—承德—古北口—北京
—天津—山海關—安東

二等　一六四·一八　　三等　一二五·二三

（B） 大連著—旅順—大連—金州—湯崗子
—鞍山—奉天—撫順—奉天—錦縣—承德
—古北口—北京—青龍橋—北京—天津—
山海關—奉天—安東

二等　一八七·九〇　　三等　一三八·六三

(A)の逆　二等　一六八・三三　三等　一二六・五五
(B)の逆　同　一七二・六二　同　一四五・三二
(但し費用概算中には運賃、急行料、寢臺料、宿泊料、食事料、乘物賃、手荷物、赤帽賃、拜觀料、心附、雜費一切を含む)

訪日觀光ルート

滿支人訪日觀光團或は視察團のルートに就ては考慮す可き點多きに鑑み、當ビューロー滿洲支部に於て過去の體驗に基き種々研究の結果次の七コースを選び、スペシメン・ルートとして推奬することとなつた。

コース、日程、費用概算は次の通りである。

コース　(—印は陸路、…印は海路)

第一ルート

大連…門司—九州各地—別府…大阪—東京—日光—横須賀—奈良—京都—嚴島—下關…釜山—京城—(蘇家屯)—大連

第二ルート

奉天—大連…神戸—大阪—奈良—名古屋—東京—横須賀—日光—鬼怒川溫泉—仙臺—松島—靑森—山中溫泉—福井—京都—嚴島—下關…釜山—京城—奉天

第三ルート

新京—奉天—京城—釜山…下關—嚴島—京城—奈良—名古屋—東京—日光—横須賀—鎌倉—江ノ島—箱根—熱海—大阪…別府—中、北九州—門司…大連—新京

第四ルート

哈爾濱—(奉天)—京城—(釜山)…下關—嚴島—大阪—奈良—二見ヶ浦—伊勢神宮—名古屋—東京—日光—横須賀—京都—神戸—別府—八幡—博多—門司…大連—哈爾濱

第五ルート

新京—淸津…敦賀—長野—東京—日光—横須賀—箱根—熱海—名古屋—京都—奈良—大阪—神戸…別府—中、北九州—門司…下關…釜山—京城—奉天—新京

第六ルート

哈爾濱—新京—淸津…敦賀—長野—東京—日光—横須賀—名古屋—伊勢神宮—二見ヶ浦—奈良—京都—大阪—嚴島—下關…門司—八幡—下關…釜山—京城—奉天—哈爾濱

第七ルート

牡丹江—哈爾濱—新京—奉天—京城—釜山—下關—門司—別府—大阪—奈良—京都—東京—日光—東京—新潟—淸津—朱乙—輸城—牡丹江(又はこの反對コース)

費用概算

出發地	ルート	種別	所要日數	二等 三〇人團體個人當り	二等 三〇人團體個人當り	三等 三〇人團體個人當り	三等 三〇人團體個人當り
				圓	圓	圓	圓
大連	第一ルート	含九州	二五日	二七九・〇〇	二六五・〇〇	一九八・〇〇	一九八・〇〇
奉天	第二ルート	含奥州	二三日	二五二・〇〇	二四二・〇〇	一七一・〇〇	一六三・〇〇
新京	第三ルート	普通	二一日	二四五・〇〇	二三四・〇〇	一七二・〇〇	一六二・〇〇
哈爾濱	第四ルート	特種	二三日	二六八・〇〇	二五六・〇〇	一八四・〇〇	一七五・〇〇
新京	第五ルート	普通	二一日	二四三・〇〇	二三三・〇〇	一七五・〇〇	一六六・〇〇
哈爾濱	第六ルート	特種	二一日	二三九・〇〇	二三〇・〇〇	一七〇・〇〇	一六三・〇〇
牡丹江	第七ルート	含新潟	二一日	二三一・〇〇	二二三・〇〇	一五四・〇〇	一四六・〇〇

・註　乘船車賃、寢臺急行料、宿泊食事料、手荷物赤帽代、心附、記念寫眞代等一切を含む。

觀光事業機關

◇滿洲觀光委員會（國務院總務廳弘報處內）

【趣旨】滿洲國及關東州に於ける觀光事業諸機關を整備統制して內外旅行者の便を圖ると共に滿洲國及四圍の情勢の宣傳等により國策の遂行を期す。

【組織】（一）在滿各機關觀光事業關係者を以て組織し事務所を國務院總務廳弘報處內に置く（二）委員長一委員若干名を以て組織（三）委員長は國務院總務廳次長を充て委員は委員長之を委囑（四）幹事長一名、幹事若干名を置き委員長之を委囑

【機能】（一）本委員會は觀光機關の整備、觀光事業の統制指導に關する事項等を審議決定す（二）本委員會は滿洲觀光聯盟を指導し、其決議事項は該聯盟をして之を實施せしむるものとす。（委員近く移動の豫定）

◇滿洲觀光聯盟（鐵道總局旅客課內）

【創立】康德四年三月

【沿革】康德四年三月滿洲觀光委員會の事業機關として誕生し漸次各地の觀光協會を加盟せしめ觀光施設、接遇、對內外宣傳、觀光觀念の普及と觀光事業に關する情報の蒐集交換、聯盟報の發行、他團體との連絡强調等に力を致し、漸次本事業の統制發達を促進して今日に至る。現在加盟團體は大連、旅順、奉天、新京、吉林、哈爾濱安東、承德、錦州の各觀光協會である。

【役員】

顧問　ツーリスト・ビューロー滿洲支部長　伊澤道雄
　鐵道總局營業局長　足立長三
　滿洲弘報協會理事長　森田久
　滿洲醫科大學教授　黑田源次
　滿洲映畫協會常務理事　林顯藏

理事長　滿鐵鐵道總局旅客課長　野間口英喜

理事　大連市副市長　田中穆
　旅順市長　蟻川久太郎
　奉天市實業廳勸業科長　吉田市郎平
　安東商工公會會長　瀬之口藤太郎
　新京商工公會會長　石崎廣治郎
　吉林商工公會會長　河野喜作
　哈爾濱市庶務科長　朽木忠雄
　奉天鐵道局營業課長　金田詮造
　錦州鐵道局營業課長　中田健吾
　吉林鐵道局營業課長　後藤雅
　齊齊哈爾鐵道局營業課長　長谷川銀一
　哈爾濱鐵道局營業課長　望月讃
　牡丹江鐵道局營業課長　中村亨
　總裁室弘報課　能登博
　鐵道總局弘報課　永野賀茂
　ビューロー滿洲支部幹事　角田壯次郎

評議員　大連市長　別宮秀夫
　大連市副市長　田中穆
　旅順市長　蟻川久太郎
　奉天市長　鄒焉
　奉天市實業廳勸業科長　吉田市郎平
　安東市長　多田晃
　安東商工公會會長　瀬之口藤太郎
　新京特別市長　于靜遠
　新京商工公會會長　石崎廣治郎
　吉林市長　路之金
　吉林商工公會會長　河野喜作
　承德商工公會會長　尹怡恩
　哈爾濱市長　趙雲
　哈爾濱市庶務科長　朽木忠雄
　錦州市長　張國棟
　撫順市長　增田增太郎
　奉天鐵道局營業課長　金田詮造
　錦州鐵道局營業課長　中田健吾
　吉林鐵道局營業課長　後藤雅

齊齊哈爾總道局營業課長　長谷川銀一
哈爾濱鐵道局營業課長　望月龍
牡丹江鐵道局營業課長　中村亨
總裁室弘報課　能登博
鐵道總局弘報課　永野賀茂
鐵道總局旅館課　四方辰治
ビューロー滿洲支部幹事　角田壯次郎

幹事

鐵道總局旅客課　佐藤眞美
鐵道總局旅客課　佐藤彥治郎
ビューロー滿洲支部　西田龜萬夫

【昭和十四年事業】 一、各地觀光案內所開設指導並援助　二、滿文觀光論文懸賞募集　三、第二回觀光寫眞懸賞募集　四、滿人ガイド養成　五、聯盟報第一、第二、第三號發行　六、日滿觀光雙六作製　七、觀光寫眞繪葉書第一―第三輯發行　八、觀光寫眞展（十箇所）、九、旅行團招聘（蘭印ハイスクール女教員團、米加女教員團、印度人教育家團、朝鮮新聞記者團、其他作家、作曲、作詞家等）　一〇、日滿綴方使節援助其他

◇大連觀光協會（大連市役所內）

【創　立】 昭和十年十月二十二日

【沿　革】 日滿支の中心に位する大連港の重要性と風光明媚なる海濱、幽邃閑雅なる山野を有し四季を通じて觀光に惠まれた好適地大連が、頻繁なる旅客に對し何等之が斡旋機關なきを以て、昭和十年十月二十二日本會を設立し會長に市長小川順之助氏を推し、同十一月市長更迭に伴ひ丸茂藤平氏就任、同十四年五月三度現市長別宮秀夫と更迭現在に及ぶ。

【役　員】 ▲會長別宮秀夫 ▲副會長田中稔、高田友吉、貝瀨謹吾　▲理事森川莊吉、大岩峯吉、長永義正、山岡信夫、安田柾、伊藤格、乘板壽慶、森岡謹一郎、松本豐三、折田有信、大塚俊雄、增田昇二、米野豐實、張本政、□睦堂、許偉年　▲幹事高山謹一、山口義人、能登博、本間貞治、長谷川喜一郎、今市欽介、早川正雄、高橋松三郎、笹岡久雄、春田鹿三郎、白川淳、高本吉郎、中村常太郎、後藤辰雄、森岡俊介、樋室建一

【昭和十三年度事業】 （一）四月十六日より二十日迄練習艦隊乘組員接遇のため各艦繫留岸壁に案內所を設置（二）觀光ポスター一千枚作製全滿に揭出（三）交通會社後援自四月十日至同月二十日十一日間接客業從事員を參集せしめ市內觀光箇所見學をなす（四）觀光案內リーフレット十萬枚作製配布（五）自四月二十三日至五月三日間奧地より觀櫻旅客接遇のため星ヶ浦公園內に案內所を設置（六）自六月十八日迄同二十四日常盤橋市場二階商店街に於て大連、全滿、北支觀光地巡寫眞スタンプ展開催（七）自七月五日迄八月十二日星ヶ浦臨海浴場北側に大小二十戸のビーチハウスを經營避暑客の便に供す（八）八月中新京に於ける觀光展にジオラマ一箇所特別出品（九）自十二月五日連鎖街に觀光案內所設置

◇旅順觀光協會（旅順市役所內）

【創　立】 昭和十年十二月

【沿　革】 昭和十四年五月高山會長辭任、蠑川市長後任に就任現在に至る。

【役　員】 ▲會長旅順市長蠑川久太郎 ▲副會長缺員 ▲理事市會議長村上信二、同副議長中村廣喜、博物館長今井順吉、バス主任小山光記、戰跡保存會主事伴野英二、土產組合長山縣富次郎、旅館組合長中尾判太郎 ▲幹事馬車組合理事島貫虎太郎、市書記中元清壽、同古賀竹次郎

【昭和十三年度事業】 一、觀光座談會開催　二、戰跡案內講習會實施　三、乃木町朝日會館內に無料休憩所設置現在聖地會館に移轉　四、戰跡ポスター、册子「聖地旅順」、「聖地會館繪ハガキ作製內外に配布

◇奉天觀光協會（奉天市公署內）

【創　立】 昭和十三年五月

【役　員】 ▲會長鄭禹（奉天市長）▲副會長松田芳助（奉天商工公會長）▲常務理事吉田市郎平（奉天市實業處勸業科長）　▲理事加藤治雄（奉天商工公會常務理事）、肥田耕三（奉交常務）、關憲治（奉天驛長）、大竹孝助（旅館組合長）、細井松太郎（自動車組合長）、宮澤貢（三業組合長）、石田晃（カフエー組合長）、西村一

郞（飲食店組合長）▲幹事酒井一郞（奉交企畫科）▲主事緖方彌吉（專任）

【昭和十三年度事業】六月、千代田公園内にスポーツ遊戯場開始、觀光懇談會開催（滿毛）、土產品座談會開催。七月、カメラハイキング會員募集、寫眞懸賞募集、カメラハイキング。八月、夕涼渾河下り、奉天八塔巡り、觀光展覽會開催（滿毛）。九月、ハイキングと渾河下り、奉天戰跡巡り。十月、秋の行樂諸猟、英絡山ハイキング、觀光座談會開催（ヤマトホテル）

◇四平街景勝維持會（昭平橋通二六　四平街商工公會內）

【沿　革】市の東方約二里半の地に「半拉山門」なる景勝地あり、此地は柳邊西十三門の一が今尙嚴存し、その山頂は能く蒙地千里を遙望す。仍ち此景勝を顯揚し古跡を維持せしめんがために本會を設立し、新京奉天間に於ける一大觀光施設たらしめんとするものなり。

【役　員】▲會長伊藤新八▲理事小川義鷹、二木桂三郞

【昭和十三年度事業】本地域は吉林省に跨り居り、施設に就ては手續の問題等あり目下の處は年々遊覽客の誘致、案內、接待等にのみ力を致し居れり。

◇鐵嶺觀光協會（鐵嶺市公署內）

【創　立】康德五年六月二十二日

【沿　革】元龍首山景勝維持會は縣公署、滿鐵等の協力により商工會議所がその運用に當り觀光施設其他紹介宣傳に相當の効果を擧げて來たが、康德四年十二月事務運用一切を市公署に移管、翌年五月同會を解散し、單に龍首山のみならず鐵嶺縣下は勿論法庫、康平縣等背後の名勝をも紹介すべく同年六月二十二日遂に本會の設立を見るに至れり。爾來商工公會に事務所を置き專ら觀光コースの調査撰定、案內書の作製、遼海山スキー場の施設、西貝河其他狩獵地の宣傳、張家樓子日露戰跡保存紹介等に努力して來た。康德六年中に事務所を市公署內に移轉の豫定。

【役　員】▲會長副市長平田淳▲副會長商工公會長紀藤義也▲常務理事市庶務科長金衞金次郞、商工公會常務理事松崎義造、驛長鹿野鶴造、滿日支局長野口則淸　顧問五名、理事十六名

【昭和十三年度事業】一、觀光コース五本選定　二、案內書一萬部作製頒布　三、遼海山スキー場バス道路修築　四、春秋二季の全滿狩獵大會開催　五、張家樓子戰蹟保存標識の建設

尙目下鐵嶺、法庫、康平三縣下に亘り史蹟調査中。

◇新京觀光協會（新京驛降車口前）

【創　立】康德三年八月二十五日

【沿　革】康德三年六月三日新京特別市實業懇談會に於てビューロー、驛、滿洲事情案內所、旅館組合其他代表者によつて準備委員會を開いた結果官民有志七十餘名の參集者を得八月二十五日創立總會を開くに至つた。康德五年事務所を現在の處に設け漸次事務員を增加して現在に至る。

【役　員】▲會長新京特別市長于靜遠▲副會長商工公會副會長石崎廣治郞、同王荊山▲常務理事長谷川正雄、市公署財務處長橫田猷太郞

【昭和十三年度事業】一、案內所開設（旅館、土產、市內案內、乘物其他觀光に關する案內相談の取扱、觀光バス及淨月潭行バスの切符取扱）二、刊行物（國都新京案內、新京の琹、新京觀光地圖、繪ハガキ觀光の新京等）三、接遇改善事項（旅館業者サービス座談會、主要旅館視察及批評會、職業別サービス座談會及市內名所見學會、觀光關係者招待觀光バス試乘及批評會、觀光サービス講習會、觀光客の感想調査）四、土產物研究に關する事項（滿洲土產物品評會―自七、二六至七、三一於寶山百貨店入場者四萬餘）五、觀光施設（新京驛前美化運動）六、觀光觀念普及事項（觀光スタンプ

展—自八、一至八、七於寶山百貨店入場者七萬餘、石碑嶺—淨月潭コース、金錢保コースの徒步旅行コース設定、大屯娘々祭の後援、淨月潭探勝大會）

◇本溪湖觀光協會（商工公會內）

【創　立】昭和十四年五月三十一日

【沿　革】太子河遊覽地維持會として誕生、昭和十二年四月二十八日觀光協會と改稱、事業範圍を擴大し、爾來太子河を中心とする風光古蹟の宣傳と外客誘致に努めつゝあり。

【役　員】▲會長宮崎小三郎　▲副會長王源鑑　▲顧問、委員省略

◇安東觀光協會（安東市公署內）

【創　立】康德三年十一月

【沿　革】天與の山容水姿と傳統の文化習俗を保存補強し、廣く內外人を誘致して民力の涵養と國富の增進に努め、國境地帶としての特殊性に全力を傾注しつゝある本會は昭和四年大連新聞社の滿洲八景公選に際して安東鎭江山が其第一位に當選せる翌五年「外客誘致委員會」を創設、康德元年之を安東景勝委員會と改稱して常に外來客の誘致と接遇に努めて來たが、治外法權の一部撤廢と共に同三年十一月安東觀光協會と改組し今日に至り、組織は全市民を會員とし市公署、商工會の補助金と事業益金を以て經費に充て臨時事業は一部寄附金を以て行ふ。

【役　員】▲會長安東市長都富佃　▲副會長副市長孫潤蒼、商工公會長瀨之口藤太郎　▲理事、評議員、顧問略（康德六年七月現在）

【昭和十三年度事業】一、滿洲國々立公園設定促進運動　二、九連城河水浴場設置　三、時局下の花見對策、四、日滿兒童親善交驩

◇營口觀光協會（營口商工公會內）

【創　立】康德五年七月

【昭和十三年度事業】一、市內案內看板の設置（驛構內及商工公會前）　二、伊太利軍艦乘組員歡迎映畫會開催　三、學生兒童のために觀光映畫鑑賞會開催　四、觀光箇所の寫眞撮影

【役　員】▲會長營口市長耿熙旭　▲副會長同副市長甲斐正治、營口商工會副會長阿部覺磨　▲常務理事商工會常務班事河野繁　▲事務擔當者商工公會庶務股長野中正造

◇吉林觀光協會（財神廟胡同一號吉林商工公會內）

【創　立】康德二年二月二十六日

【沿　革】豐かなる觀光資源と國都に近き有利なる地位を把握し、全滿唯一の鵜飼事業を吉林旅館組合より繼承、爾來專ら該事業に精進して今日に至る。康德五年六月事務所を市公署より商工公會內に移轉し施設內容漸次强化せられ、就中水電ダム工業進展に伴ふ觀光施設により大いに之が紹介宣傳に努めつゝある。

【役　員】▲會長踐之洼　▲副會長河野喜作、同貞松恒郎　▲理事荒川海太郎、帶金國男、後藤雅、范象魁、遠藤梅三郎、傅昭魁、岩間啓二郎、孫楚卿　▲常任幹事中山子行　▲幹事楊雲蒸、宮田正五郎、小袋半藏、若山正義、沈恩海、川崎貞利

【昭和十三年度事業】（一）鵜飼事業（自五、一五至九、三〇、百三十五日間乘客延人員二、五六五人收入總額二、二四九圓二五錢）（二）第一回吉林川祭實施經費二、九九七圓六五錢　（三）吉林小唄並行進曲懸賞募集（應募者百四十三種、小唄一等當選賞金百圓撫順東七條小學校中川卓、行進曲一等當選賞金百圓吉林市公署谷川吉太郎　（四）十二月十一日吉林小唄並行進曲發表會實施（五）ダム視察團に對し常に便宜供與　（六）北山スキー場の改善並工作助成

◇哈爾濱觀光協會（中央大街二〇號）

【創　立】康德四年三月三十日

【沿　革】從來觀光客に對しては市公署庶務科調查股に於て斡旋の勞を執つてゐたが、政府の指示に從ひ之を哈市自體の觀光

機關とせしむべく創立せられ、當初事務所を市公署內に置き觀光客誘致に從事したが、翌年九月街頭に進出し現在の所に移轉した。

【役　員】▲會長哈爾濱市長趙囂　▲副會長同副市長大迫幸男、商工公會長張延閣、同副會長加藤明同同李明遠　▲常務理事哈鐵旅客係長柴屋亮之助、ビューロー主任岡本俊磨、市公署官房庶務科長井口忠彥　▲理事二五名　▲監事二名　▲顧問三〇名

【昭和十三年度事業】一、志士碑境內に無料茶湯接待所設置　二、南滿各都市に於て哈市觀光寫眞展開催　三、日滿連絡船にハルビン案內カード作製配布　四、松花江に煙火大會開催　五、グランドオペラ開催　六、東京の滿洲產業博覽會にヂオラマ出品　七、觀光案內地圖の作製　八、スタンプ觀光展開催(於登喜和)　九、哈爾濱觀光ポスターを日滿に配布　一〇、哈爾濱觀光案內を全滿に放送　一一、觀光案內所、土產品即賣所開設　一二、松花江畔にロシア料理店觀光亭を經營　一三、旅館女中の哈爾濱觀光斡旋　一四、交響管絃樂團の併置經營

◇錦州觀光協會(富和街錦州市公署內)

【創　立】康德五年二月二十二日

【沿　革】遼西產業界の中心的古都たる錦州を內外に廣く紹介せんがため、昭和十二年四月以來商工會議所竝錦鐵等相寄り數次の協議會又は設立準備委員會を經て昭和十三年二月發會式を擧ぐるに到り、役員も夫々決定して事務所を市公署內に置くこととなつた。

【役　員】▲會長錦州市長　▲副會長曾根市商工公會副會長、錦鐵營業課長　▲理事錦州市庶務科長(常任)、錦縣縣長、錦鐵旅客係長、商工公會常務理事、滿航支所長、ビューロー主任、旅館組合長　▲幹事錦州市庶務股長(常任)外六名　▲評議員七名

【昭和十三年度事業】一、旅館設備の視察研究　二、旅客業者座談會　三、接客業及從業員の講習會　四、市民ハイキング　五、繪ハガキ作製頒布　六、鳥瞰圖作製　七、日本內地觀光施設の視察　八、畜產品評會に於ける鄉土產品販賣の後援其他

◇承德觀光協會(承德街公署內)

【創　立】昭和年十一年九月

【沿　革】康德三年五月十日承德十日會の協議事項に上程され熱河事情研究所長高田成志氏外五名の委員を擧げ協會結成に着手、其後座談會を開催し李縣長を委員長とする設立委員會が成立した。爾後數回に亘る委員會を經て九月十五日結成式を擧げ名譽會長に原總務廳長、會長に李縣長、副會長に岡田民會長、常任理事に高田所長推薦、事務所を西大街承德居留民會內に置く。康德四年十一月居留民會解散となるに及び一時ビューロー內に移轉せるが、康德六年二月商工公會に移し、次で康德六年八月現在の場所に移つた。

【役　員】

名譽會長	承德縣長
會長	承德商工公會々長
副會長	承德街公所副街長
同	承德旅館組合長
理事	協和會熱河省本部事務長
同	省公署土木科長
同	省公署社會科長
同	承德縣副縣長
同	街長
同	警察廳長
同	稅關長
同	警務科長

【昭和十三年度事業】(康德五年度)

一、總會開催(事業經過報告、收支決算報告)
一、承德行進曲、小唄募集銓衡發表
一、駱駝遊覽實施
一、觀光地圖原案作成
一、喇嘛踊會開催
一、案內者の選定養成實施竝案內開始
一、團體接待方打合せ座談會の開催　二回
一、空のハイキング、カメラハイキングの實施
一、熱河を語る講演會の開催　三回
一、承德郊外牛圈子溝村(承德より約四粁)溫泉溝の視察募集實施
一、北支視察團の募集實施

一、接客座談會の開催　三回
一、觀光承德を語る座談會開催　三回
一、雪中ハイキングの募集實施
一、承德のパンフレット作製（離宮と喇嘛寺案內、承德の古蹟に就て）
一、接客改善座談會の開催　二回
一、土產物を語る座談會開催　二回
一、觀光協會事務所移轉擴張
一、承德名所三十個所の選定寫眞作製
一、特殊の催物
一、清音會（古代音樂）　一、喇嘛踊　一、灤河下り
一、駱駝に乘り古蹟巡り　一、灤河の魚釣り
一、內外人旅客の斡旋

團體種別	件數	人員
普通團體	二九件	五一八人
學生團體	一六	六八五

（自昭和十三年四月、至十四年三月）

◇齊齊哈爾觀光協會（市公署內）

內外各地より來齊するもの逐年增加の傾向に鑑み豫てより關係に於て協會設立の議が進められてゐたが、この程成案を得、十月二十四日省公署に於て副市長以下關係各機關代表三十名出席、創立委員會を開催協議の結果十四年十一月下旬迄に發會式を擧行、明年度より本格的活動を開始する筈。

◇上海觀光協會（黃浦灘路二四橫濱正金銀行樓上鐵道省 辦事處內）

【創　立】昭和九年七月

【沿　革】在上海日本側觀光關係相寄り情報意見の交換を行ひ、相互に連絡利便を圖ると共に本協會を通じ外國關係機關及支那側關係機關との連絡提携及外支人の日本誘致を增進する爲に汽船會社、鐵道省事務所等の關係者を中心として設立せられ、殊に滿洲事變後の支那の對日空氣惡化の際に本協會を通じ中日間の友好增進に貢獻せんとせることも本協會設立當事者の底意なりしなり。

【會　員】興亞院華中連絡部、日本總領事館、日本郵船、大阪商船、大連汽船、東亞海運、滿鐵上海事務所、ビューロー、華中鐵道、上海日本商工會議所、大日本航空、華中航空、鐵道省辦事處、鐵道省國際觀光局事務所　▲（幹事）鐵道省辦事處、同省國際觀光局事務所

【昭和十三年度事業】日支事變勃發により暫く積極的事業は之を差控へたるも每月一回會員の會合を行ひ、觀光關係情報交換及旅行に關する注文、意見等を交へ相互の業務上利するところ尠からず。

◇滿洲獵友聯盟（奉天住吉町五）

【創　立】昭和十年十二月

【沿　革】狩獵道德の向上、身心の鍊磨、尙武の氣風涵養竝に會員相互の融和親睦を圖るを目的として各地の獵友會を以て組織して居る。

その創立は昭和十年十二月に滿洲國成立以前から組織されて居た大連、奉天、新京哈爾濱等の各獵友會がその主體となり之に撫順、營口、本溪湖、瓦房店等が參加し大連に於て結成された。而して聯盟の本部は昭和十二年七月迄大連にあつたが、鐵道總局とビューロー滿洲支部の奉天移轉に伴ひ同聯盟も翌八月より奉天に移轉した。

現在本部はビューロー滿洲支部內に置かれて居る。同聯盟は前述の目的を遂行する爲左記の事業を行つてゐる。

一、日滿各關係機關との連絡
二、機關誌の發行
三、射擊會、競獵會の開催

【昭和十三年度事業】（自昭和十三年八月至同十四年七月）

一、クレー射擊大會（八月七日）大連　問山平松氏優勝
一、狩獵法發布請願（八月十六日）
一、「農林業と鳥獸保護法」册子五千部配布
一、鳥獸保護法の徹底と野兎捕獲獻納宣傳のため講演座談會開催（自十月二十日至同三十日）吉林、延吉、牡丹江、圖們、哈爾濱、北安、齊齊哈爾、白城子、四平街の各地
一、東滿地方猛獸狩（自二月一日迄十二日）
一、興安嶺猪狩（齊鐵竝同地獵友會主催）後

援（二月十九日―二十二日）
一、野兎捕獲競獵會（二月二十六日）營口外人支部參加チ、ハル支部優勝
一、實包十萬發臨時輸入し滿洲火藥會に依頼して各地に分配
一、雁鴨競獵會（三月十九、二十日於營口）後援
一、野兎捕獲献納、三月末を以て締切りたる數は三千三百八十四頭、陸軍大臣より感謝狀授與さる。

【事務所】

本部　奉天住吉町奉ビル　ツーリストビューロー支部內
大連支部　浪速町一二　坂本銃砲店內
奉天支部　青葉町五六　長山聰方
新京支部　室町三丁目三ノ二　西藤慈重方
哈爾濱支部　道裡地段街一〇七　日光洋行內
撫順支部　永安臺　炭坑俱樂部內
本溪湖支部　永利街　本溪湖坑木會社內
營口支部　南本街三〇　飯野元一郎方
瓦房店支部　朝日街九　高山信吉方
錦州支部　錦州鐵道局營業課　旅客係內
四平街支部　驛前　ビューロー案內所內
鞍山支部　北二條通三三ノ一　森田銃砲店內
齊齊哈爾支部　永安大街九〇　馬場銃砲店內
牡丹江支部　圓明街八　中村銃砲店內
吉林支部　新開門街二一　ビューロー案內所內
圖們支部　春風街　ビューロー案內所內
延吉支部　康平區進學路
佳木斯支部　南崗大街　妹尾花舖方
公主嶺支部　畜產課構內官舍　佐藤福太郎方
鐵嶺支部　松島町二　滿日支局內

【役員】▲總裁　平島敏夫　▲會長　宇佐美喬爾

▲副會長　原半次郎　大連
同　志和俊陽　奉天
同　金田詮造　同
同　伊東盛一　新京
同　山本久治　哈爾濱
同　武內哲夫　錦州
同　桑折勝四郎　牡丹江
▲常任理事　長山聰　奉天
同　丸山浩三　同
同　間山平松　大連
同　今井健五郎　同
同　西藤慈重　新京
同　陣野貞吉　同
同　遠藤清　哈爾濱
同　吉田菊治　同
同　松森正重　撫順
同　餌打宏泰　同
同　八田健太郎　錦州
同　中田健吾　同
同　松隈吉郎　鞍山
同　永松保　同
同　三箇功　齊齊哈爾
同　森田關男　同
同　木下信男　牡丹江
同　岸原粂次郎　吉林
同　筒井濱十郎　同
同　松田熊太郎　圖們
同　稻葉龍三郎　鐵嶺
常任理事　野口三郎　鐵嶺
▲理事　三好文六　奉天
同　安藤忍　大連
同　灰田茂直　新京
同　高津岩次郎　哈爾濱
同　橋本昇　撫順
同　川村渉　同
同　荒木利恭　本溪湖
同　飯野元一郎　營口
同　高山信吉　瓦房店
同　中村豊吉　錦州
同　佐藤德四郎　四平街
同　江津義元　鞍山
同　田川治兵衛　齊齊哈爾
同　大西弘　牡丹江
同　中村五郎　吉林
同　藤川靜可　圖們
同　陶山太平　延吉
同　妹尾芳男　佳木斯
同　佐藤福太郎　公主嶺
同　戒田睦夫　鐵嶺

◇滿洲旅館協會（奉天市千代田通二）

【創立】大正九年十月

【沿革】滿洲に於ける邦人旅館業者を以て組織し斯業の改善發達、旅客の誘致、會員相互の利益親睦を計る目的を以て創立され、當初本部を大連に置いてゐたが昭和十三年五月から奉天に移轉した。現在會員は二六九名。

▲支部事務所　大連市奥町一六
奉天市千代田通二
新京市中央通五　富士屋旅館
安東市大和橋通六丁目　日之出旅館
哈爾濱市地段街一一九　ナショナルホテル
牡丹江市光化街　周房旅館

・

【役　員】▲會長　小林才治(大石橋)　▲副會長　大竹孝助(奉天)、五味武太郎(新京)▲支部長　中村常太郎(大連)、釘崎丑雄(安東)、五味武太郎(新京)、小野嘉代二(哈爾濱)、内藤昌祐(牡丹江)▲會計　中村貞次郎(奉天)

◇日本溫泉協會滿洲支部　(奉天市住吉町五)

【創　立】昭和五年十一月

【沿　革】昭和四年十一月東京に於て「溫泉協會創立懇談會」を開催して會則を決定し、同業者の同意を得同年十二月正式に會則を議定し、役員も選出されて茲に同會の設立をみたのであるが、關東、中部、東北、北海道、關西の各支部設立に次いで滿洲支部も翌年十一月大連に於て發會式を擧ぐるに至つた。

【目的及事業】滿洲に於ける溫泉に關する研究及其知識の普及と溫泉地の保護改善發展等に貢獻するを目的とし次の事業を行つてゐる。

一、月刊雜誌「溫泉」を發行、之を役員會員に頒布する外、臨時印刷物に依り溫泉知識の普及、溫泉地の改善發展に資してゐる。

二、溫泉に關する展覽會、講演會、研究會、座談會を主催又は後援して目的達成に努めてゐる。

【會　員】熊岳城溫泉ホテル、湯崗子溫泉株式會社、五龍背溫泉旅館　興城溫泉ホテル、九寨溫泉株式會社

【役　員】▲支部長　鐵道總局營業局長　足立長三　▲副支部長　鐵道總局旅客課長野間口英喜　▲常務理事　鐵道總局保健課長千種峰藏、同產業課長小川一郎、同厚生課長神崎登、ジャパン・ツーリスト・ビューロー滿洲支部幹事角田壯次郎　▲理事　滿洲國國務院總務廳弘報處長武藤富男、同產業部次長柏村稔三、同民政部保健司長張明岐、鐵道總局營業局旅客課佐藤眞美、同同佐藤彥次郎、同旅館課四方辰治、大陸科學院地質調査所長福田連、ジャパン・ツーリスト・ビューロー滿洲支部參事西田龜萬夫、同事業課長北條保平、▲幹事　鐵道總局營業局旅客課中森正雄、ジャパン・ツーリスト・ビューロー滿洲支部事業課調査宣傳係主任齋藤博(一四、一一現在)

◇旅行倶樂部竝滿洲旅行倶樂部聯盟　(奉天市住吉町五)

ビューロー滿洲支部内に事務所を置くツーリスト倶樂部は、昭和七年創設以來各地に倶樂部網を擴張したが、茲に旅行界の劃期的飛躍期に際會して、從來のツーリスト倶樂部を改組し、興亞の新情勢に順應する旅行倶樂部竝に滿洲旅行倶樂部聯盟を昭和十四年四月一日より設定した。即ち會員相互の親睦を圖ると共に、志操、體位の向上を目指し、健全なる旅行趣味の普及、發達、旅行知識竝に旅行公德の啓發に資せんとするものである。依つて差當り新會員五、〇〇〇名を本年中に得べき豫定を以つて滿洲、關東州、北鮮の各案内所を動員し可及的速かに右實現を期することになつた。現在會員は約一千五百名。

新旅行倶樂部竝聯盟規約を要約すれば大體次の通りである。

▲旅行倶樂部規約

一、本會ハ滿洲國、關東州及ビ北鮮在住ノ旅行同好者ヲ以テ組織ス
二、本會ノ事務所ハ社團法人ジャパン・ツーリスト・ビューロー案内所内ニ置ク
但シビューロー案内所所在地外ノ旅行倶樂部ニ於テハ適宜事務所ヲ設ク
三、本會事業
一、旅行ニ關スル各種ノ會合
二、臨時會員ノ團體旅行ノ實施
三、印刷物ノ配布
四、其他必要ナル事項
四、本會ノ會員タラントスル者ハ入會金一圓ヲ納入スベキモノトス
但シ二十名以上ノ團體入會ノ場合ハ入會金一人當五十錢トス
五、會費ハ之ヲ徴收セズ

六、會員ニ對シテハ一定ノ會員徽章ヲ無料交附ス

七、聯盟所屬ノ旅行倶樂部所在地域ヘ住所ヲ變更シタル場合ハ其地域ノ旅行倶樂部會員トナルモノトス

▲滿洲旅行倶樂部聯盟規約

一、本會ハ滿洲國、關東州及ビ北鮮各地ノ旅行倶樂部ヲ以テ組織ス

二、本會ハ事務所ヲ社團法人ジヤパン・ツーリスト・ビユーロー滿洲支部ニ置ク

三、本會ハ所屬旅行倶樂部ヲ統制補導シ相互ノ連絡協調ヲ圖リ各關係機關ト協力シテ旅行倶樂部ノ發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

▲旅行倶樂部事務所

大連、鞍山、奉天、四平街、新京、安東、營口、撫順、吉林、延吉、通化、圖們、牡丹江、哈爾濱、佳木斯、齊齊哈爾、滿洲里、錦州、承德、山海關、清津、羅津

滿洲事情案內所（新京中央通六番地）

滿洲に於ける一般及び經濟事情の調査紹介を行ひ、併せて滿洲視察斡旋委員會の實際事務機關として視察者に對し斡旋の任に當ることを以て目的とし、利用者のための調査斡旋はすべて無料であり、左記各項の事業に當つてゐる。

一、來訪及び書面による諸事情の照會に對する回答

二、視察者に對し各機關との聯絡及び斡旋其他便宜供與

三、滿洲國を中心とする諸事情の調査及び資料の公開

四、前項に必要なる參考調査資料の蒐集竝其の整理

五、滿洲事情紹介に必要なる印刷物の刊行及び頒布

六、以上の外滿洲事情普及のために必要なる事項

當所は昭和八年一月、關東軍特務部の指令に基き、滿洲國の經濟諸事情を正しく調査紹介することを目的として設置せられ、其目的遂行のため、調査資料の廣汎に亘る蒐集整理竝に調査報告書の刊行等を遂行し、昭和十一年六月より滿洲弘報協會に包括されその機構下にあつたが、昭和十三年一月再び分離し茲に獨立せる公共機關として運營する事となつた。

觀光事業主管官公署（括孤內長氏名）

（同報分のみ）

・省名	・科名	・股名
奉天	庶務（古館純也）	企畫（坂本坦二）
熱河	社會（高勝山）	禮教（孫廣福）
錦州	庶務（林昌雄）	庶務（今井綱記）
安東	庶務	弘報（蘇琺忠）
間島	（小板橋光壽）	
通化	庶務（高橋重義）	企畫（齊藤俊成）
牡丹江	庶務	弘報（吉原文吾）（郭新元）
東安	庶務（田中有年）	弘報（今坂寅雄）
北安	庶務	弘報（倉內文技）

・街・市名	・科名	・股名
新京	調査	調査（吉岡清）
奉天	勸業（吉田市郎平）	庶務（藤木謙市郎）
吉林	行政（楊埜蕊）	實業（日坂萬象）
安東	庶務	庶務（日野廣次）
齊齊哈爾	庶務（吉武忠夫）	庶務（右田嘉一郎）
佳木斯	庶務（渡邊三郎）	庶務（欠）
牡丹江	庶務	資料（高橋義當）
四平街	庶務	庶務（成瀨良次）
鐵嶺	庶務（金衛金次郎）	庶務（小池隆信）
撫順	行政（王剣斌）	實業（梅田正太郎）
鞍山	庶務	庶務（西川喜一）
遼陽	庶務	庶務（日野三郎太）
錦州	庶務	庶務
營口	庶務（市成太三郎）	庶務（岡本市太郎）
延吉	行政（黃乙鳳）	
本溪湖	庶務（中谷保太郎）	庶務（林信雄）
大連	殖產課（大岩峯吉）	
旅順	庶務課（牧島喜一郎）	

滿支旅行團體

◇大連

會名	組織	會員數	事業	會長又は代表者名
武川商事合資會社體育部				濱野良一
三越大連支店ハイキング部				今井銀瓶
大連あるかう會				佐賀七郎
正金銀行ハイキング部				中島復
森永製菓ハイキング部				今福正文
國際運輸社員會				松本豊治
關東軍倉庫大連支庫ハイキング部				島田源太郎
大連瓦斯會社運動會徒歩部				竹田幹
三菱俱樂部				河原武
大連汽船會社ハイキング部				西本義祐
大連遞信俱樂部				野尻哲
滿洲電業ハイキング部				松川隆
三井物產遠足部				村田米太郎
大タク事業部				春日粂三郎
大連電々俱樂部				細川正一
古河電氣俱樂部				石森克二
日滿商事大連支店ハイキング部				勝浦圭
日滿棉花大連支店日棉會				木下清
進和商會社員會				内村信孝
朝鮮銀行遠足部				菊地武彥
キリンビールハイキング部				首藤治平
西崗商會ハイキング部				
大連工業會社ハイキング部				木村司藏
昭和製鋼所大連出張所ハイキング部				加藤讓
赤十字社大連病院ハイキング部				中村
滿鐵消費組合體育部				高橋壽夫

◇鞍山

會名	組織	會員數	事業	會長又は代表者名
鞍山觀光貯金會	有志	三〇名	年一回以上商工視察竝觀光旅行	神田藤兵衞
昭和製鋼所山岳部	社員會内部	五〇	キャンピング共他	石丸茂

◇奉天

會名	組織	會員數	事業	會長又は代表者名
滿洲電線會社遠足部	會費組織	二五〇名	旅行遠足	山崎一郎
滿洲國兵工廠シンポク會	同	六〇〇	同	
滿洲國航空工廠親和會	同	二八〇	同	
滿洲機器株式會社旅行會	積立	一五〇	同	秋山
滿洲中央銀行旅行會	同	五〇	同	
赤十字社奉天病院遠足部	同	三〇〇	同	
同社奉天病院徒歩旅行會		三五	徒歩旅行	寺井武
電信電話會社遠足部	積立	二八〇	旅行遠足	尾崎深之輔
滿洲計器會社遠足部	會費	二五〇	同	同社社長
國際運輸會社遠足部	積立	三〇〇	同	庶務係長
奉天實業旅行會	商店協會員積立	五〇	同	入江英一郎
滿洲毛織會社ハイキング會	會費	四〇〇	ハイキング	庶務課長
滿洲電業會社ハイキング部	積立	三〇〇	同	同

滿洲醫科大學運動部	會費	一〇〇		學事課 岸元
滿洲航空會社運動部	積立	三〇〇		庶務課長
日滿鋼材會社遠足會	同			庶務課
奉天瓦斯會社遠足會	同			同
福昌公司遠足會	同			同

◇四平街

電々倶樂部四平街支部	社員(家族を含む)を以て組織	一〇〇名	年二回小旅行を行ふ	毛利英三
滿洲寫眞作家協會四平街支部	有志	一五	隨時撮影旅行	圖書館

◇新京

滿洲鑛業開發會社遠足部	全社員組織	名	隨時催行	經理課長森市松
滿洲重工業開發會社遠足部	同		同	
電業社員會厚生部	同	一、一〇〇	同	天野長次郎
電々社員クラブハイキング部	同	一、五〇〇	同	岸本一
新京ハイキング倶樂部	愛好者	一五〇	同	村川五郎
滿洲中央銀行ハイキング部	有志	一五〇	同	成宮英三
同スキークラブ	愛好者	七〇	同	同
滿洲興業銀行スキークラブ	同	一〇	同	貞永憙一

◇安東（調査中）

前年調

山岳會		二六名		原田市松
モーターサイクル倶樂部		三〇		前田克己

◇哈爾濱（調査中）

前年調

滿洲飛行協會哈爾濱支部	財團法人 特別會員(九〇) 正、準會員(三五)	一二五名	航空思想普及技術講習	大臨忠一
哈爾濱釣魚研究會	特別會員 普通會員	三〇	釣魚地研究定例競技會	秋山秉雪
スキー聯盟				

◇牡丹江

牡丹江旅行倶樂部	會員組織	六〇名	隨時旅行、會合會報發行	牡丹江市長

◇吉林

滿洲體育聯盟吉林事務局			省民 體育一般	理事長三谷清
同 吉林市體育協會			市民 體育奬勵	吉林市長
滿洲飛行協會吉林分所	財團法人	六	航空思想普及航空術實習	三谷清

◇錦州

國際運輸山岳部	社員會運動部	二五名	近郊、其他山野跋渉	飯谷肇
郵政局山岳部	郵政總局體育協會員	一七〇	同	都丸伊勢松

◇天津

ゆかう會	邦人有志	三〇名	趣味の旅行	赤山今朝治

◇青島

體育協會	會員制度	三〇〇名	各種體育	栗本定次郎

◇獵友會（聯盟所屬外）

清津獵友會		五三		清津警察署長
安東獵友會(前年調)		四〇		壹岐鶴吉

ジャパン・ツーリスト・ビューロー

【設立の趣旨】 多數外人を國内に誘致することは彼我國民の親交を增して國民外交の好轉を示すこととなるばかりでなく、同時に國産品の海外紹介となり、延いては貿易の發展を來たす結果となるのであり、一方また外客がその土地にて消費する正貨は無形の輸出として國際貸借調節の上に重要な關係を齎すものである。この外客誘致事業は國民外交上からもまた國家經濟上からも極めて重要な性質を帶びてゐるが、旅客の斡旋は獨り外國人ばかりでなく日本人に對しても廣く取扱ひ一般旅行者の斡旋に盡さうといふ手段から、現實的に鐵道驛乃至汽船會社の出札口と旅行をせらるゝ人々の間に立つて凡ゆる便宜を圖らうといふのがもう一つの仕事である。

これを要約すればビューローは旅行に關する公益の斡旋機關であつて若し鐵道會社が當所を利用すれば當所の各地案内所が一樣に皆其處の支店、出張所又は驛と同樣の働きをするし公衆から見れば夫々各鐵道、汽船、航空乃至自動車會社の市内營業所が綜合して設けられてゐると同樣な組織となるのである。

【ビューローの仕事】 内外旅客誘致、名勝、觀光地の紹介宣傳、内外主要鐵道、汽船、航空、自動車の切符發賣、寢臺券、急行券の發賣並豫約、遊覽券、旅行小切手、旅館券の發行、請負旅行、旅行保險の引受、旅行圖書、地圖、案内記、雜誌、繪葉書類の發行、旅行日程及旅費概算作成等。

【本部設立經過】 明治二十六年蜂須賀茂韶侯、澁澤榮一子、益田孝男の諸氏が中心となつて外人の斡旋機關として喜賓會(Welcome Society)を組織し主として來遊外人の斡旋に盡力し來つたが日露國交克復後ツーリスト事業が國民外交上又國家經濟上極めて重要なることが識者の間に漸く認めらるゝやうになつたので、先づ交通機關及其關係者によつて明治四十五年三月十二日鐵道院内に第一回の總會を開催し全員一致會則の承認を得て、茲にジャパン・ツーリスト・ビューローが創設せらるゝに至つた。

其後漸次陣容を整へ、又地方に案内所も新設せらるゝに及んで喜賓會は大正三年三月末日限り之を解散し、その事務はビューローに引繼がれた。

爾來ビューローは其の施設の内容に擴張改善が加へられ昭和二年七月一日組織を社團法人として基礎を固め、昭和四年三月には官民合同して對米共同廣告委員會をビューロー内に置き、年二十數萬圓を以て主として米國民に對して呼びかけたが政府も遂にこの事業の重要性を認め、昭和四年四月二十四日鐵道省内に國際觀光局を設け續いて昭和六年十二月財團法人國際觀光協會が設立されて茲に本格的に海外宣傳が行はれるやうになつた。一方ビューローは日本旅行界の趨勢に順應するため對外人關係の外更に進んで邦人の取扱にも重きを置くことゝなり昭和七年五月には百貨店内に於ける鐵道案内所の委託經營を受け、同九年十月一日には舊日本旅行協會の事業を繼承して會名を社團法人ジャパン・ツーリスト・ビューロー(日本旅行協會)と改稱した。昭和十年七月には内地各鐵道局所在地に支部を、各運輸事務所所在地に地方事務所(地方會)を設置して鐵道關係團體の募集及取扱をも引受けることゝなつた。即ちビューローは旅行に關する限りは全部一手を以て斡旋をなし得る名實共に兼ね備へた本邦唯一の旅行斡旋機關となり、現在支部十一案内所及出張所百四十五海外出張所三を有してゐる。

ジャパン・ツーリスト・ビューロー
（日本旅行協會）

（本部）

- 總務部長（藤原久信）
- 調査部長（香月善次）
- 外人旅行部長（渡邊乙兵衛）
- 邦人旅行部長（大坪正）
- 經理部長（宇治橋正則）
- 旅行文化部長（兼總務部長）
- 附帶事業課長（大塚陽一）

- 關東支部（東鐵所管內）
- 中部支部（名鐵所管內）
- 關西支部（大鐵所管內）
- 西部支部（廣鐵所管內）
- 九州支部（門鐵所管內）
- 東北支部（仙鐵所管內）
- 羽越信支部（新鐵所管內）
- 北海道支部（札鐵所管內）
  - 地方事務所（地方會）
  - 案內所、出張所
  - 囑託案內所
- 朝鮮支部（鮮鐵所管內）
- 臺灣支部（臺鐵所管內）
  - 案內所、出張所
  - 囑託案內所

- 海外出張所
- 海外囑託案內所
- 海外代理店

（特別會計）—滿洲支部（關東州、滿洲國、支那、北鮮ヲ所管）

- 常務理事附（西田龜萬夫）
  - 文書係
- 總務課長（竹內好輔）
  - 人事係
  - 計畫係
- 經理課長（八木政三）
  - 會計係
  - 用度係
  - 審査係
- 事業課長（北條保平）
  - 事業係
  - 旅行係
  - 調査宣傳係
  - 編輯係
  - 案內所、出張所
- 華北出張所長（片岡春隆）
  副（吉田正雄）
  - 總務係
  - 經理係
  - 事業係

【役員】

名譽會長　鐵道大臣　永田秀次郎
會長　鐵道次官　喜安健次郎
理事　橫濱市長　青木周三
同　名古屋市長　縣忍
同　名譽會員　淺野良三
同　鐵道總局營業局長　足立長三
理事　日本郵船會社船客課長　生駒實
同　南滿洲鐵道株式會社理事　伊澤道雄
同　京都市長　市村慶三
同　鐵道省國際觀光局庶務課長　井上萬壽藏
同　同盟通信社々長　古野伊之助
同　名譽會員　種田虎雄
同　合名會社大倉組頭取男爵　大倉喜七郎
同　名譽會員　男爵　大藏公望
同　日本郵船會社取締役社長　大谷登
同　朝鮮鐵道局營業課長　大和田磊德
同　南滿洲鐵道株式會社東京支社長　岡田卓雄
同　鐵道省國際觀光局長　片岡謌郎
同　神戶市長　勝田銀次郎
同　金谷ホテル社長　金谷眞一
同　株式會社三越專務取締役　北田內藏司
同　大阪鐵道局長　木村隆規
同　華北交通會社運輸部次長　小池文雄
同　大阪市長　坂間棟治
同　華北交通會社運輸部長　佐原憲次
同　名譽會員　生野團六
同　鐵道總局文書課長　高田精作
同　東京市長　頼母木桂吉
同　華中鐵道株式會社副社長　田誠
同　大阪商船會社東京支店長　中川幹太
同　名譽會員　中川正左
同　鐵道省運輸局旅客課長　西尾壽男
同　東武鐵道株式會社長　根津嘉一郎
同　鐵道總局營業局旅客課長兼旅館課長　野間口英喜
同　鐵道大臣官房文書課長　高須俊一
同　大阪商船株式會社々長　村田省三

理事	鐵道省運輸局長	長崎惣之助
同	鐵道省國際觀光局事業課長	横田　巖
同	臺灣總督府交通局鐵道部長	渡部慶之進
監事	鐵道省經理局長	池井　啓次
同	鐵道總局經理局會計課長	菊田　直次
同	鐵道省經理局會計課長	小倉　俊夫
同	日本郵船株式會社常務取締役	永島　義治
事務理事		高久甚之助
常務理事		藤原　久信
同		野間口英喜
參事		宇治橋正則
同		角田壯次郎
同		片岡　春隆
同		西田龜萬夫
同		渡邊乙兵衛
同		大坪　正

〓滿洲支部〓

【設立經過】滿洲支部は最初大連支部と稱して南滿洲鐵道株式會社運輸部內に設置されたのは大正元年十一月一日であつたが當時は滿鐵社員にその業務を委囑して內外旅客誘致並に旅行上の斡旋に當つてゐた。

其後外人の往來が漸く頻繁になつたので大正三年三月、大連ヤマトホテルを始め旅順驛、奉天ヤマトホテル、哈爾濱滿鐵事務所の四箇所に案内所を設け其の事務を委囑して專ら外人斡旋に備へたのであつた。當時奉天に於ては中國旅行社が開設され、また哈爾濱にあつては萬國寢臺車會社支店が活躍し其の他トーマス・クック商會に於ても赴歐旅客のため滿鐵沿線に出張所を設ける有樣であつて滿洲內の旅行斡旋機關は殆ど外人によつて占められて居た。恰度この頃日本內地から鮮滿支方面への關心が次第に昂まりつゝあり、ビューローに旅行斡旋を求むる者も尠くなかつたので大正十五年三月旅行案內並に乘車券の發賣所として京城、大連、上海、哈爾濱の四案內所開設の議が本部理事會によつて決定され更にシベリア、滿洲、民國本部を大連支部の受持とし經濟は本部と全然獨立して活動することが一層本事業の發展を期し得らるゝとの見解に歸着した。

よつて本部は大正十五年四月二十日理事會に於て大連支部案內所設立を決議し、また滿鐵會社は右の案に基いて大連支部の設立助成を承諾し斯くして大正元年南滿洲鐵道株式會社運輸部內に胎生し其手に育成さるゝこと十五箇年、即ち大正十五年五月に至り大連支部が獨自の旅行斡旋機關として呱々の聲を擧げるに至つたのである。其後昭和十一年十月「滿洲支部」と改稱、同年十二月奉天住吉町五に事務所を移轉した。

爾來滿洲國の固成による順調なる旅行界の動きに應へ全滿主要地の斡旋網を充實したるのみならず、中北支方面に於ても皇軍行動の後を承け硝煙未だ消えやらぬ各地に業務機關の新設を見、管內に於ける案內所、出張所、駐在員事務所は六十を有してゐる。現在從事員約八百五十を擁し昭和十四年八月全面的に機構を改正して一段と其の組織を强化し正に東亞旅行界の王座として全員協力一路非常時國策の線に沿ひて斡旋報國の完璧を期しつゝある。而して支那事變勃發以來東亞の新情勢に應へて其事業成績は事變前に數倍するに至つた。

滿鐵華交選出役員

支部長、理事	伊澤　道雄
副支部長、理事	佐原　憲次
副支部長、理事	足立　長三
理事	岡田　卓雄
理事	小池　文雄
理事	高田　精作
監事	菊田　直次
常務理事	野間口英喜
幹事	角田壯次郎

▽施設年表

大正	元、一一、一	大連支部を開設、滿鐵運輸部に事務委囑
同	三、三、二七	大連ヤマトホテル、旅順驛、奉天ヤマトホテル、哈爾濱滿鐵公所

に案內事務委囑
大正 三、六、一 長春ヤマトホテルに案內事務委囑
同 一四、九、一五 上海滿鐵事務所に案內事務委囑
同 一五、五、一 歐亞連絡復活に伴ひ大連支部を擴張し、本部より獨立して旅客案內事務に應衡す大連支部職制制定
同 五、一〇 天津案內所開設
同 五、二八 大連案內所開設
同 六、一 安東駐在事務所國際運輸に委囑
同 六、八 奉天案內所開設
同 七、一 北平案內所を大連支部に移管
同 七、一三 哈爾濱案內所開設
同 八、二三 上海案內所開設
同 一〇、二一 長春案內所開設
同 一一、二〇 滿洲里案內所開設
昭和 二、五、三一 安東案內所開設
同 七、二〇 撫順案內所開設
同 一一、二八 大連支部竝大連案內所を伊勢町五四に新築移轉す
同 三、七、一八 大連ヤマトホテル內出張所開設
同 八、一 ツーリスト・ブレチンを創刊
同 一〇、一 天津日本租界加藤洋行內に出張所開設代賣開始
同 四、一、一 ハルピン傅家甸出張所開設
同 五、五 營口案內所開設
同 七、二三 營口舊市街出張所を開設
同 八、一 奉天ヤマトホテル內出張所開設
同 一一、一五 大連日本橋出張所開設
同 一一、二〇 哈爾濱埠頭區出張所開設

昭和 四、一二、一 汽車時間表を創刊
同 五、七、一 第二次職制を制定
同 六、二〇 青島案內所開設
同 九、一 內報創刊
同 一二、一一 長春案內所を長春驛前に新築移轉
同 一二、一七 日本溫泉協會滿洲支部設立
同 六、四、一 天津日本租界出張所を閉鎖
同 六、一 第三次職制を制定（二部四係制に改む）
同 六、五 撫順案內所代賣開始
同 七、三一 大連日本橋出張所閉鎖
同 八、八 第四次職制を制定
同 一二、二三 第五次職制制定
同 七、三、二五 大連監部通出張所開設
同 一一、一 「長春案內所」を「新京案內所」と改稱
同 一一、一 奉天城內出張所開設
同 一一、一八 「哈爾濱埠頭區出張所」を「哈爾濱傅家甸出張所」と改稱
同 八、四、一 上海虹口出張所開設
同 五、一五 滿洲里案內所代賣開始
同 六、一 營口代理店を舊市街東和公司內に開設
同 六、五 吉林案內所開設
同 一〇、一七 山海關案內所開設
同 一一、一 齊齊哈爾案內所開設
同 一二、二五 圖們站內に駐在員を置く
同 九、二、一 淸津北鮮鐵道管理局內に駐在員を置く
同 三、一〇 淸津案內所開設

昭和 九、七、一 雜誌「旅行滿洲」を創刊
同 一二、五 「北京案內所」を「北平案內所」と改稱
同 一〇、四、一 「ツーリスト・ブレチン」を「旅行情報」と改稱
同 八、一 錦縣案內所を開設
同 八、一〇 哈爾濱新市街出張所を車站街に開設
同 一〇、九、二六 塘沽駐在員を置く
同 一二、七 第六次職制制定
同 一二、二四 上海虹口出張所は吳淞路四二三に移轉
同 一一、七、一 鞍山驛舍內に駐在員を置く
同 七、一 羅津驛舍內に駐在員を置く
同 八、一 承德火神廟日本商工會內に駐在員を置く
同 八、一 鞍山、圖們、牡丹江各案內所開設
同 一〇、一 「大連支部」を「滿洲支部」と改稱
同 一〇、二三 新京大同大街三中井百貨店內に出張所を開設
同 一二、一二 滿洲支部は奉天住吉町五奉ビル內に移轉
同 一二、二、一 哈爾濱ヤマトホテル內に出張所を開設
同 六、一 大連驛內出張所開設
同 六、五 四平街に駐在員を置く
同 七、一 青島新疆路出張所開設
同 七、一 天津福島街出張所開設
同 七、五 塘沽出張所開設
同 七、五 芝罘出張所開設

昭和一二、七、七　龍口出張所開設
同　八、一　青島新疆路出張所に移轉し青島鐵山路出張所となる
同　八、一〇　四平街案內所開設
同　九、八　大連連鎖街出張所を開設
同　九、九　大連三越內出張所を開設
同　九、二五　承德案內所開設
同　一〇、一三　「北平案內所」を「北京案內所」と改稱
同　一三、三、一三　「旅行滿洲」を四月號より「觀光東亞」に改題
同　三、一五　北京駐在員設置、南京駐在員設置
同　五、一五　佳木斯案內所開設
同　六、一五　張家口案內所開設
同　七、一　石家莊案內所開設
同　七、一五　濟南案內所開設
同　七、一六　大同驛內に駐在員設置
同　七、三一　牡丹江案內所建築上棟式擧行
同　九、一〇　蘇州駐在員設置
同　九、一三　厚和駐在員設置
同　一一、一　杭州、大同、南京三案內所開設
同　一二、一五　滿支旅行年鑑創刊
同　一二、一三　延吉駐在員設置
同　一四、二、一三　漢口駐在員設置
同　四、一　濟南大東公司內出張所開設
同　四、一　ツーリスト倶樂部を改組し旅行倶樂部並滿洲旅行倶樂部聯盟を結成
同　四、一〇　北京宣外出張所開設
同　四、一五　大連西崗子出張所開設

昭和一四、四、一五　大連山縣通臨時出張所開設（閉所五月十五日）
同　五、二八　太原駐在員設置
同　六、一　新京興仁大路出張所開設
同　六、一　北戴河夏期出張所開設
同　七、一　延吉案內所開設
同　七、一五　新京ヤマトホテル出張所開設
同　八、一〇　第七次職制改正制定ニヨリ支部內三課及華北出張所設置
同　八、一五　通化案內所開設
同　九、一　太原案內所開設
同　九、一五　哈爾濱昌平街出張所開設
同　一〇、一五　北京西城出張所開設
同　一〇、一五　天津東馬路出張所開設
同　一一、一五　羅津案內所開設
同　一二、一　漢口案內所開設
同　一二、一　青島奉天路出張所開設
同　一二、一五　吉林城內出張所開設
昭和一五、一、一五　北京前門出張所開設（豫定）

昭和十三年度事業概況

【旅行並弘報關係】

種別		昭一二	昭一三
▲團體幹旋手配	件數	二九四	三六八
	人員	三、六六二	二九、三四二
▲團體幹旋	件數	六、一七九	六、八四七
▲特殊幹旋	人員	一九、一八四	四〇、三三九
▲來滿團體案內（滿鐵指定）	件數	一、四六〇	一、六〇三
	人員	六六、四〇九	七七、五四四

	昭一二	昭一三
▲日程作成件數	二、四六八	一九、九七七
▲電話應答件數	一、〇三〇、六四五	一、九〇六、八〇七
▲來訪客		
英人	三、七二六	三、八一〇
米人	一五、三三六	三、一二六
獨人	六、八九八	九、〇三七
佛人	三、四九〇	二、三七六
露人	[illegible]	三、六四二
滿洲人	[illegible]	一、六二一、三三八
其他	[illegible]	三三、一九一
小計	八四八、八七二	一、六九三、五三〇
邦人	七八〇、九三三	一、八三七、二七一
合計	一、六二九、八〇〇	三、五〇〇、八九一

▲案內記類發行

天津から南京へ、北京繪ハガキ、北京から漢口へ、北京から包頭へ、厚和、蘇州、南京、佳木斯、張家口、杭州、石家莊、上海戰跡案內、熱河（英文）、北京（英文）、旅行手帳

▲定期刊行物

旅行情報（週刊）、滿洲支部汽車時間表（月刊）、觀光東亞（月刊）、滿洲支那旅行年鑑（創刊）

▲催　行

・哈爾濱觀光寫眞展（大連、奉天、安東、新京、撫順、旅順、吉林）、旅とハイキング展（哈爾濱）、ポスター世界一周展（鞍山）、クレー射擊大會（湯崗子）映畫會（營口、新京、吉林、齊齊哈爾、哈爾濱、奉天）、スキー展（哈爾濱、新京、牡丹江）、東滿猛獸狩寫眞展（奉天）▲催行援助　寫眞スタンプ展（大連觀光協會主催）、新京スタンプ展、勞工募集ポスター製作、滿洲資源博覽會（滿洲新聞社主催）、觀光スタンプ展並捺印競技會（大連觀光協會主催）其他

旅行常識



滿支を旅行するには旅費は幾何あればよいか、日數は何日位かゝるか、切符はどんなのを買へば便利で、割安になるか、其他旅館のことや、徑路から旅裝、稅關の話など、これさへ見れば滿支の旅行について一通りのことは分ると云つた事柄を取纏めたものである。

滿洲旅行

徑　路（日本より）

【海路大連經由】

（イ）大阪商船經由

毎月十七、八回神戸出帆、門司、大連に往復してゐる。

（ロ）日本郵船經由

主として南九州地方の旅客のための航路で、月六回、鹿兒島、長崎と大連間を往復運航してゐる。

【朝鮮經由】

（イ）釜山經由

毎日朝夕二回下關と釜山間に鐵道省直營の連絡船があり、釜山及び下關では急行列車に夫々接續する。

（ロ）北鮮經由

北日本汽船敦賀、淸津間（羅津、雄基寄港）は月六回、新潟、淸津間（羅津、雄基寄港）は月十回、何れも兩地間を往復運航してゐる。

【航　空　路】

毎日東京、大連間を發着してゐる。途中着陸地は名古屋、大阪、福岡、大邱、京城、平壤、新義州であるが、別に大連—京城—福岡—東京と、新京—奉天—京城—福岡—東京の急行便がある。

（滿洲北支間は「北支常識」の項參照）

旅　行　季　節

春…四月中旬の杏の花の季節から、下旬の櫻の頃を過ぎて、アカシヤ薫る五月、新綠の六月頃までが滿洲旅行に一番良い時期である。

夏…七月中旬から八月上旬にかけて所謂滿洲の雨期に入るが、內地の梅雨の樣に毎日降り續くと云ふことは珍しく、それに朝夕は急に涼しくなつて北滿なら袷が欲しいやうなこともあり、內地の夏より遙かに凌ぎ易い。

秋…滿洲の秋は短いが、南滿地方なら十月、北滿地方なら九月一杯は母國の秋と同樣、紅葉の季節で、春にも優る旅行のシーズンである。

冬…滿洲の冬は三寒四溫と云つて、寒さが三日續けば、次に暖い日が四日續くと云ふやうに、自然に氣候が緩和されてゐる。此の時期は滿洲として一番活氣のある時で、世界的な農業特産物出廻りが特に活潑になり、又スケート、スキー等のウインタースポーツが大陸の大自然を背景として行はれる。狩獵家の活躍期に入るのも此の頃で「狩獵滿洲」の名は遠く歐米にまで響いてゐる。

服裝と携帶品

鐵道を離れてずつと奥地へ入る人は別に雨具、食糧の携行と濕地地帶旅行の用意が必要であるが、鐵道沿線の主要都市を視察

する旅行ならば、内地の旅行とさして選ぶところなく、取立てゝ特別に携行を要するやうなものはない、なるべく輕快な服裝＝洋服の方が萬事に便利である。氣候が大陸的で酷暑期でも夜間は冷氣を覺えるから、腹卷とセーター類の用意が望ましい。雨は滅多に降らないから、洋傘よりスプリングか、レインコートを携行した方が、上記の理由からばかりでなく、埃除けとしても便利である。冬は厚手の外套を用意すればよい。

又内地から携帶される寫眞機、望遠鏡等の高價品は歸路輸入品と見做され課税される虞れがあるから、入國に際し左記の税關箇所で携帶證明を受けて置く必要がある。

一　海路大連上陸の場合は神戸又は門司税關で

一　釜山上陸朝鮮經由の場合は安東驛構内新義州税關出張所で

一　清津、羅津、雄基上陸の場合は上三峰驛又は圖們驛內税關出張所で

通貨と兩替

通貨の種類は日本貨幣、朝鮮銀行紙幣、滿洲貨幣の三種である。之等は等價に使用出來るから旅行中兩替の必要はないが、滿洲貨幣は歸路日本貨幣に兩替をする必要がある。

滿洲貨幣は奉天、新京、圖們、上三峰驛構內賣店、安東驛ホーム構內賣店並大連埠頭、釜山棧橋朝鮮銀行出張所で等價無料兩替をしてゐるからこれを利用すればよい。

又朝鮮銀行紙幣も大連埠頭、釜山棧橋の同銀行出張所で旅客のため兩替の便を計つてゐる。

尙旅行者は現金五百圓以上を國外に携帶する場合は管理當局の許可を要す。

旅館

滿洲國內鐵道沿線主要地各驛旅館は大體茶代廢止が實行され（社線沿線各旅館は茶代絶對廢止）旅行者間に好評を博してゐる。

女中その他への心附は宿料支拂額の一割乃至二割をやれば結構である。

尙食事の取り樣如何によつて洋式ホテルが安價の場合もあり和式旅館の方が比較的小額の費用で濟む場合もあり蓋し一樣でない。

○單獨宿泊料

・洋式ホテル——鐵道總局直營ヤマトホテル及びその他の洋式ホテルには何れも歐、米兩式があり、宿泊は一人室一日凡そ金四圓以上、食事料は凡そ朝一圓五十錢、晝二圓、晩二圓五十錢である。

・和式旅館——一泊二食附凡そ一等六圓以上、二等五圓、三等四圓である。

○團體宿泊料

滿洲國內鐵道沿線各旅館は大抵「滿洲旅館協會」に加入してゐて、左記の協定團體宿泊料及び食事料金に從つてゐる。

尙關東州內は左表料金より約一割內外減となつてゐる。

團體宿泊料及食事料金表　（旅館協會協定）

種別（滿洲）	關東州內 宿泊料金 全食附	朝食缺	晝食缺	夕食缺	關東州內 食事料金 朝食	晝食	夕食	辨當
小學生團	一・三〇	一・〇〇	一・〇〇	〇・九〇	〇・三〇	〇・四〇	〇・五〇	〇・三〇
中等學生團	一・九〇	一・六〇	一・六〇	一・四〇	〇・五五	〇・六五	〇・八五	〇・三五
專門以上學生團	二・四五	二・〇〇	二・二五	一・八〇	〇・七五	〇・八五	一・〇五	〇・四〇
青年團	二・四〇	二・〇〇	—	一・七〇	〇・七五	〇・八五	一・二五	〇・五〇
敎員及軍人團	二・八五	二・三〇	—	二・〇〇	〇・八五	一・〇五	一・五〇	〇・六〇
普通團體	三・五〇	二・九〇	—	二・三五	一・〇〇	一・五〇	二・〇〇	〇・七〇

種別（滿洲）	關東州外 宿泊料金 全食附	朝食缺	晝食缺	夕食缺	關東州外 食事料金 朝食	晝食	夕食	辨當	席料 宿泊	席料 休憩
小學生團	一・三〇	一・一〇	一・一〇	〇・九五	〇・三五	〇・四五	〇・五五	〇・三〇	全食附の1/3	當該食事料金の半額
中等學生團	二・〇〇	一・八〇	一・八〇	一・六〇	〇・六〇	〇・七〇	〇・九五	〇・四〇	全食附の1/3	當該食事料金の半額
專門以上學生團	二・六五	二・三五	二・三〇	二・〇〇	〇・八〇	〇・九〇	一・一五	〇・四五	全食附の1/3	當該食事料金の半額
青年團	二・六五	二・三〇	—	一・八五	〇・八〇	〇・九〇	一・四〇	〇・五五	全食附の1/2	當該食事料金の半額
敎員及軍人團	三・二五	二・六〇	—	二・三〇	〇・九五	一・二五	一・七〇	〇・七〇	全食附の1/2	當該食事料金の半額
普通團體	三・八〇	三・二五	—	二・五五	一・一〇	一・六〇	二・三〇	〇・八〇	全食附の1/2	當該食事料金の半額

內地鮮滿間往復又は廻遊團體割引率

團體種別	人員	省線	朝鮮局線・滿鐵所管線・朝鮮鐵道線	大阪商船・北日本汽船	日本郵船	大連汽船
學校敎職員及學生	一〇人以上	五割	五割	二割五	二割	二割五
	二〇人以上	五割	五割	二割五	二割	三割
	三〇人以上	五割	五割	三割	二割五	三割
	五〇人以上	五割	五割二五	三割	三割	三割五
	一〇〇人以上	五割	五割五	三割	三割	三割五
	二〇〇人以上	五割	五割七五	三割	三割	三割五
	三〇〇人以上	五割	六割	三割	三割	三割五
普通	一〇人以上	三割	三割	一割五	一割	一割
	二〇人以上	五割	五割	一割五 一二等二割	一割 一二等一割五	一割五
	三〇人以上	五割	五割	二割 一二等二割五	一割五 一二等二割	一割五
	五〇人以上	五割	五割	二割五	二割	二割
	一〇〇人以上	五割	五割	二割五	二割	二割
	二〇〇人以上	五割	五割	二割五	二割	二割
	三〇〇人以上	五割	五割	二割五	二割	二割

汽車賃

一粁に付

線別	一等	二等	三等
滿鐵線・北鮮線	四錢四厘	二錢八厘	一錢五厘五毛
國有線	五分	三分	一分八厘

急行料金

	三〇〇粁迄	五〇〇粁迄	八〇〇粁迄	八〇一粁以上
三等	1.00圓	1.50圓	2.00圓	2.50圓
二等	2.00	3.00	4.00	5.00
一等	4.00	5.00	6.00	7.50

特急あじあ

「はと」「ひかり」「のぞみ」其他の急行

	三〇〇粁迄	五〇〇粁迄	八〇〇粁迄	一、三〇〇粁迄	一、三〇一粁以上
三等	0.50圓	0.75圓	1.00圓	1.25圓	1.50圓
二等	1.00	1.50	2.00	2.50	3.00
一等	2.00	2.50	3.00	3.75	4.50

寢臺料金

（鮮滿連絡の場合は五〇〇粁を最低とする）

	上段	中段	下段
三等	1.00圓	1.50圓	1.80圓
二等	3.00	—	4.50
一等	5.00	—	7.00

食堂車食事料

		朝	晝	夕
洋食	あじあ	—圓	1.50圓	1.50圓
	その他	0.80	1.20	1.20
		0.60	1.00	1.00
和食	あじあ	—	1.50	1.50
	その他	0.50	1.00	1.00
滿食			1.00	1.00

洋食　一品料理（二〇錢以上）

丼・ランチ・幕の內（四〇錢以上）

構內食堂

鐵道總局直營　大連、奉天、開原、四平街、新京、安東、承德、吉林、圖們、哈爾濱、齊々哈爾、滿洲里、牡丹江、綏芬河、佳木斯

其他　大石橋、遼陽、蘇家屯、鐵嶺、昌圖、公主嶺、大虎山、蛟河、敦化、德惠、雙城堡、滿溝、安達、香坊、阿城、帽兒山、濱江、鄭家屯、白城子、昂々溪、免渡河、海拉爾、一面坡、亞布洛尼、亮子嶺、橫道河子、穆稜、下城子、羅津

辨當發賣驛

鐵道總局直營　大連（構內食堂）、奉天、四平街、新京、安東、承德、哈爾濱、牡丹江、吉林、圖們

其　　他　金州、瓦房店、熊岳城、大石橋、遼陽、鐵嶺、昌圖、公主嶺、橋頭、鷄冠山、大虎山、錦縣、山海關、彰武、義縣、朝陽、葉柏壽、齊々哈爾、寧年、訥河、王爺廟、梅河口、西安、石嶺、通化、德惠、陶賴昭、雙城堡、安達、阿城、呼蘭、濱江、五常、綏化、海倫、北安、龍鎭、孫吳、春陽、鹿道、勃利、鷄西、東安、虎林、一面坡、橫道河子、下城子、淸津、輪城、古茂山、會寧、上三峯、南陽、訓戎、阿吾地、羅津、開原、綏芬河、滿洲里、佳木斯

辨　　當　四〇錢、壽司　三〇錢、茶　五錢

手荷物

無賃で取扱ふ手荷物の重量は旅客一人に付次の重量までは無量で運送する。

一等六〇瓩　二等四〇瓩　三等三〇瓩

小兒は各等この半量。

無賃運送重量を超える手荷物を託送になしたときは其の超過重量に對してのみ次の通常小荷物運賃と同額の運賃を拂ふこと。

通常小荷物運賃

粁程＼重量	一瓩	二瓩	四瓩	六瓩	九瓩	三瓩以上六瓩を增す毎に
	錢	錢	錢	錢	錢	錢
八〇粁迄	一五	二〇	二五	三〇	三五	四〇
二四〇粁迄	一五	二〇	二五	三五	四五	五五
四八〇粁迄	一五	二五	三五	四五	六〇	七五
八〇〇粁迄	一五	二五	四〇	五五	七五	九五
以上四八〇粁を增す毎に	五	一〇	一五	二〇	二五	三〇

主要地車馬賃

左表は大體の標準であるから乘車の際は豫め料金を取極めるのが得策である。尙大連、新京、奉天の自動車はメーター制で大連は市內二千米まで三十錢、それより九百米又は其端數毎に十錢、市外は千六百米まで三十錢、以上七百二十米又は其端數毎に十錢、待車五分毎に十錢。新京は千四百米迄四十錢、以後五百米又は其端數毎に十錢、待車五分毎に十錢、奉天は千八百米迄四十錢、以後五百米毎に十錢增、待車三分毎に十錢。右表の外大連、奉天、新京、哈爾濱等の大都市には「遊覽バス」、他の主要都市にも「バス」があり、極めて安價に主要箇所の觀光、視察が出來る。

種類	自動車（四人乘）			人力車			馬車（二人乘）		
地名＼時間	一時間	半日（五時間）	一日（十時間）	一時間	半日（五時間）	一日（十時間）	一時間	半日（五時間）	一日（十時間）
大連	二・五〇	一二・五〇	二五・〇〇	—	〇・七〇	一・四〇	—	一・四〇	二・八〇
營口	三・〇〇	一五・〇〇	二〇・〇〇	〇・三〇	〇・五〇	一・〇〇	〇・四〇	一・六〇	三・〇〇
奉天	三・〇〇	一五・〇〇	三〇・〇〇	〇・二五	一・二〇	二・二〇	〇・八五	一・七〇	三・二〇
撫順	三・〇〇	一五・〇〇	二七・五〇	〇・三〇	〇・七〇	一・三〇	〇・五〇	一・七〇	三・〇〇
新京	四・五〇	一七・〇〇	三〇・〇〇	〇・五〇	二・〇〇	三・八〇	〇・五〇	二・〇〇	三・八〇
安東	三・〇〇	一五・〇〇	三〇・〇〇	〇・四〇	二・〇〇	三・〇〇	〇・五〇	二・五〇	四・〇〇
錦州	三・五〇	一五・〇〇	三三・〇〇	〇・三〇	一・二〇	二・〇〇	〇・四〇	一・八〇	三・〇〇
山海關	—	—	—	〇・二〇	一・〇〇	二・〇〇	—	—	—
牡丹江	五・〇〇	二〇・〇〇	三五・〇〇	—	二・〇〇	三・〇〇	—	三・〇〇	五・〇〇
佳木斯	四・〇〇	二〇・〇〇	四〇・〇〇	〇・七〇	二・〇〇	三・〇〇	一・〇〇	三・〇〇	五・〇〇
鞍山	二・五〇	一二・五〇	二〇・五〇	〇・二〇	〇・九〇	一・六五	〇・二五	一・五〇	二・七五
齊齊哈爾	二・五〇	一二・五〇	二五・〇〇	〇・六〇	三・〇〇	六・〇〇	〇・六〇	三・〇〇	六・〇〇
哈爾濱	三・〇〇	一二・五〇	二五・〇〇	〇・四〇	一・〇〇	二・〇〇	〇・六〇	一・五〇	三・〇〇
滿洲里	—	—	—	—	—	—	〇・五〇	一・七〇	三・〇〇
吉林	三・五〇	一七・〇〇	三四・〇〇	〇・四〇	一・四〇	二・〇〇	〇・五〇	一・七〇	三・〇〇

撮影、模寫禁止について

左の場所は要塞地帶であるから、寫眞の撮影及び模寫は要塞司令官の許可を得なければならない。

大連及び其附近、旅順及び其附近、鴨綠江鐵橋及び其附近、北鮮羅津附近、圖們鐵橋及び其附近、但し此の外にも鐵橋、框舍は一般に禁止されてゐる。

尙軍事機密特別地域(間島省琿春縣、牡丹江省東寧縣、穆稜縣、三江省蘿北縣、綏濱縣、同江縣、撫遠縣、東安省虎林縣、密山縣、饒河縣、黑河省全部、興安北省全部)及び航空機上よりの測量、撮影、模寫、錄取等は一切禁止されてゐるから注意を要する

各主要都市觀光地に於ける撮影については別項寫眞撮影要覽に揭げた。

郵便料金

▽通常郵便料金

種別	重量	宛先地 國內	日本	中華・蒙疆	外國
第一種 書狀	二〇瓦又は其の端數毎に	四錢	四錢	五錢	二〇錢
第二種 通常葉書		二錢	二錢	二錢五厘	一〇錢
往復葉書		四錢	四錢	―	二〇錢
第三種 定期刊行物	六〇瓦又は其の端數毎に	五厘	五厘	五厘	四錢(五〇瓦迄)
第四種 書籍印刷物 寫眞、書畫	一二〇瓦又は其の端數毎に	二錢	二錢	二錢	
第五種 農產物種子		一錢	一錢		
商品見本	一二〇瓦又は其の端數毎に	二錢	二錢	二錢	八錢(一〇〇瓦迄)

▽特殊郵便料

書留料	日本宛	一箇に付	八錢
	外國宛	同	一六錢
小包料	內國	一瓩迄	二〇錢
		其の端數毎に	一〇錢
	日本	一瓩迄	四五錢
	關東州	同	二〇錢
	中華・蒙疆	同	四〇錢

▽航空郵便料

		日本宛	北支宛	蒙疆宛
書狀	二〇瓦又は其の端數毎に	三五錢	二〇錢	一六錢
通常葉書		一八錢	一〇錢	一三錢

▽電報料金

私報

同一市街內發著	一語に付	三錢
滿洲內及滿鮮間に發著	同	六錢
日本內地、臺灣、樺太と滿洲に發著	同	八錢
北支及蒙疆方面	一語に付	一二錢

一通の語數が五語に滿たない場合でも最低料金として五語分の料金を支拂なければならない。

一語とは本文及指定略號の字數を通算し五字を云ふ

旅行記念スタンプ

(括孤內は接續驛で他線にも重復揭出してゐる)

連京線…大連埠頭、甘井子埠頭、大連、沙河口、(周水子)、金州、三十里堡、普蘭店、瓦房店、松樹、熊岳城、沙崗、蓋平、(大石橋)、海城、湯崗子、鞍山、首山、遼陽、煙臺、(蘇家屯)(渾河)、(奉天)、鐵嶺、開原、昌圖、(四平街)、郭家店、公主嶺、大屯、(新京)、「あじあ」列車中

安奉線…(蘇家屯)、歪頭山、本溪湖、宮原、橋頭、下馬塘、連山關、鷄冠山、鳳凰城、高麗門、五龍背、安東

旅順線…(周水子)、夏家河子、旅順

撫順線…(渾河)、撫順

營口線…(大石橋)、營口

京圖線…(新京)、下九臺、土們嶺、吉林、(拉法)、蛟河、敦化、明月溝、(朝陽川)、延吉、(圖們)

朝開線…(朝陽川)、龍井、開山屯、(上三峰)

奉吉線…(奉天)、北奉天總站、瀋陽、東陵、撫順城、營盤、淸原、山城鎭、(梅河口)、海龍、朝陽鎭、盤石、(吉林)

平梅線…(四平街)、石嶺、西安、東豐、(梅河口)

梅輯線…通化

奉山線…(奉天)、新民、(大虎山)、(溝幇子)、(錦縣)興城、興城海水浴場、綏中縣、山海關

盤蘆島線…盤蘆島

大鄭線…(大虎山)、通遼、(鄭家屯)

河北線…(滿帮子)、河北
錦古線…(錦縣)、(義縣)、金嶺寺、朝陽、葉柏壽、凌源、平泉、承德、北票、古北口
葉峰線…(葉柏壽)、赤峰
平齊線…(四平街)、(鄭家屯)、洮南、(白城子)、泰來、江橋、(齊々哈爾)
京白線…(新京)、農安、前郭旗、大賚城、(白城子)
白阿線…(白城子)、王爺廟、索倫、阿爾山
齊北線…(齊齊哈爾)、泰安、克山、(北安)
寧墨線…拉哈、訥河
濱北線…(哈爾濱)、(濱江)、(三棵樹)、呼蘭、萬家屯、綏化、海倫、(北安)
拉濱線…(哈爾濱)、(濱江)、(三棵樹)、拉林、五常、新站、(拉法)
北黑線…(北安)、龍鎭、孫呉、黑河
京濱線…(新京)、德惠、松花江、陶賴昭、三岔河、雙城堡、(哈爾濱)
濱洲線…(哈爾濱)、滿溝、安達、昂昂溪、富拉爾基、同避暑場、扎蘭屯、同避暑場、巴林、同避暑場、博克圖、海拉爾、滿洲里
濱綏線…(哈爾濱)、香坊、阿城、玉泉、帽兒山、一面坡、横道河子、(牡丹江)、穆棱、下城子、綏芬河
圖佳線…(圖們)、東京城、寧安、林口、(牡丹江)
新義線…(義縣)
北鮮線…淸津、會寧、(上三峰)、南陽、慶源、雄基、羅津
京釜線…釜山、釜山鎭、大邱、秋風嶺、大田、天安、成歡、水原、南京城、龍山、京城、
京義線…(京城)、開城、黃海黃州、平壤、新安州、定州、宣州、新義州

▽ビューロー案內所

大連、鞍山、奉天、四平街、新京、安東、營口、撫順、吉林、圖們、牡丹江、佳木斯、淸津、羅津、哈爾濱、齊齊哈爾、滿洲里、錦縣、承德、山海關

〔注意〕 郵便葉書に旅行記念スタンプを押捺する場合は裏面通信文記載面に押さないと第一種郵便物(書狀)の取扱ひを受け、受取人が不足稅を取られるから注意を要する。

ストツクナーゲル

旅の思ひ出として讃へらるゝストツクナーゲルはステツキにトランクに机上のアルバムに永久消ゆることなき好箇のスーベニアーとして多くの旅行家に愛好される。

【一箇 一〇錢】

▽發賣箇所

大連・鞍山・奉天・新京・安東・營口・撫順・吉林圖們・牡丹江・佳木斯・淸津・羅津・哈爾濱・齊齊哈爾・滿洲里・錦縣・承德・山海關・北京・天津・張家口・石門・青島・上海ビューロー各案內所

北支・蒙疆旅行

徑路

滿洲、日本より北支への旅行徑路には左の四コースがある。

【奉天―山海關經由】 奉天北京間には直通列車がある。奉天から天津へ約十二時間半、北京へ十四時間半を要する。沿線の都市竝觀光行樂地の主なるものに錦縣、壺蘆島、興城、山海關、秦皇島、北戴河、唐山等がある。

國境驛山海關では稅關檢査、北支旅行身分證明書の檢査を受けねばならない。託送手荷物は驛ホームの稅關檢査所で、手廻品の檢査竝身分證明書の檢査は停車中車內で行はれる。

【奉天―錦縣―承德經由】 奉天承德間に直通列車があり、承德北京間も昭和十三年十月本營業を開始したが、奉天承德間約二十時間、承德北京間約十二時間を要し山海關經由に比し實に二倍餘の時間を要する。

然し北京觀光には淸朝三百年の歷史を探る上に於て淸朝が蒙邊懷柔政策の根據地として塞外の祕境熱河承德に離宮をはじめ大寺廟の大建築群を造營し、蒙古民族懷柔により淸朝の基礎を固めんとした歷史的事實を無視することは出來ない。かうした意味から云つても、北京を見る前に是非承德を見て置くことが必要であり、また北京の美しさ、偉大さを知る上に於て承德觀光を先に行ふことがどれ程效果的であるかは分明だ又八達嶺と萬里の長城を見るに絕好の地である。古北口驛では稅關檢査、身分證明

書の檢査がある。

【大連―天津航路經由】 大連天津間には大連汽船、阿波國共同汽船の各船が就航してゐる。

稅關檢査は上陸後碼頭にある稅關檢査所で、身分證明書は上陸前船中で行はれる。

因に塘沽に上陸する場合は塘沽棧橋で行はれる。

【神戶―門司―靑島經由】 以上は日本より滿洲を經て北支へ入る場合又は滿洲より直接北支へ入るコースであるが、日本より直接北支へ渡るコースの代表的なものとして新設東亞海運會社の神戶―門司―靑島航路があり、每月八回往復して居り、東洋の避暑地、海水浴場として名高い靑島に上陸、膠濟、津浦兩線を經て天津、北京に向ふものである。

旅行注意

【通貨】 舊法幣の使用は去る四月十日を以つて禁止となり、同時に外國爲替の集中も實施され、北支に於ける通貨は中國聯合準備銀行發行の紙幣に統一せられたので他の紙幣は左記箇所で聯銀券に交換しなければならない。

一、山海關、塘沽、靑島、天津は埠頭にある無料交換所
二、汽車、船舶中にある無料交換所
三、正金銀行、朝鮮銀行、滿洲中央銀行
四、山海關、古北口驛構內聯銀出張所
五、蒙疆地方の通貨は蒙疆銀行券に限られ南口驛構內に於て他の紙幣と兩替を要する。

これ等の相場關係は何れも金銀等價である。

【身分證明書の携行】 居住地所轄警察署發行身分證明書を携行しなければ、北支入國を拒否せられるから旅行に先立つて必ず入手して置く必要がある。此の證明書は國境通過の際及び船車乘降の際取締官憲に依つて檢閲を受ける。又旅行中隨時提示を命ぜられる場合もあるから常に携帶してゐなければならない。

身分證明書下附手續については「入國、入境取締規則」を參照されたい。

【寫眞撮影に就て】 北支旅行に寫眞機の携行は差支へないが撮影に當つては特に愼重を期することを心懸けねばならない。何と云うても未だ戰後間もないのであるから軍事上其他の關係上撮影禁止となつてゐる地帶もあるので、列車からの撮影はもとより、視察觀光地に於ける撮影など、取締官憲又は案內人等につき豫めその指示を受け萬全を期することが必要である。尙詳細は同じく「入國、入境取締規則」を參照されたい。

【觀光地での注意】 名所、古蹟、戰跡等視察觀光地に於ける一般視察觀光上の注意事項は現地に於ける制札その他で告知されるが、それ以外に何等の明示を受けずに或種の拘束又は注意を受くべき箇所も多いからこれ等に就ては現地の取締官憲又は案內人の指示に從ふことは云ふまでもないがこの他、隨所に必要に應じて步哨線が敷かれてゐる場所があるからこの步哨線通過に際しては、步哨の誰何を受けなくとも、進んで挨拶をなし歸途に於ても一應の挨拶をなすは儀禮上必要であらう。又觀光視察箇所には步哨又は警備員が配置されて居る處は許可を必要とすること勿論で、寫眞撮影模寫等に關しては箇々に就てその指示に從ふことが是非必要である。

【戰利品、圖書、新聞等の携出に就て】 旅行中各地で種々土產物等購入されることであらうが、土產物その他買物の包紙に古新聞等を利用したものも多いが、古新聞等の中には、反滿抗日的な蔣政權時代の新聞もあるから、一應注意して置く必要がある。

また圖書等も支那、外國で發行されたものには風紀公安上相當注意を要するものもあるので、これ等を滿洲國又は日本へ輸入

する事は嚴禁されてゐるから、購入に際して特に注意しなくてはならない。その他戰利品と目されるもの(青龍刀、銃彈の藥莢、寺廟、古蹟で入手したるが如き佛像古瓦の類等)は官憲の許可したるものを除き全部沒收されるから豫め注意を要する。

【軍隊慰問に就て】 軍隊慰問を目的とする團體旅行で特に注意すべきは、軍主腦部を訪問し北支の諸問題について說明を求めることである。軍主腦部の方々は最高機關としての計畫運營に就て、それ〴〵多忙な仕事に一分一秒を惜しまれてゐる狀態であるから、一々その方々を煩すことは遠慮すべきであらう。それより奧地前線の將兵慰問をしてこそ、慰問旅行の本義があるのであるから、事情に依り全部が行動を共にすることが出來なければ、一人でも二人でも一同を代表して奧地に慰問することは豫め計畫して置くべきで、慰問品の携行は自由意志とは云へ、是非實行して欲いものである。個人旅行者でも例へば八達嶺の萬里長城見物に赴くにしても、同地を警備する將兵諸士の慰問品を多少なり携行することは心懸くべきであらう。

【稅　關】 山海關、古北口の兩國境驛及び青島、天津碼頭(又は塘沽棧橋)で稅關檢査がある。入國の際は比較的簡單であるが出國の際は相當嚴重に行はれる。然し往路と雖も事局柄檢査は相當嚴重であるから餘計な手廻品は一切持たないことである。

【携帶品申告書】 天津、青島、上海より大連へ上陸する場合は物品稅令に基き携帶品の申告書を大連稅務署宛提出し檢査を受くるを要す。

【外國爲替管理】 天津、青島、上海向旅行者の貨幣無許可携帶限度及携帶品制限額は左の通り

旅費　現　金　二〇〇圓以下
　　　信用狀　一、〇〇〇圓以下
商品　一〇〇圓相當額以下

【青島途中下船】 (イ) 途中下船又は次船に乘繼ぐ場合

乘船前又は船中にて申出ある證明書完備の旅客に對しては本船に於て上陸劵を發行交付す。

(ロ) 本船碇泊中上陸する場合

青島埠頭憲兵隊に出願し埠頭通行許可書の交附を受くるを要す。

旅裝と携帶品

【北　支】 春…三月頃から春らしくなり六月には暑くなる。

滿洲同樣春には「蒙古風」が吹き街路の惡い所では塵除眼鏡、マスク等が必要であるが服裝は內地と同樣で差支へない。

夏…暑さは特に甚しく、傳染病も各地に發生する爲、此の時期の旅行者は必ず「コレラ豫防注射」「種痘」を忘れてはならない。

秋…北支を旅行するなら秋である。暖かく小春日和が續き、豐饒北支はパールバックの「大地」を感じさせる。

初秋は夏服、晚秋は合服に薄外套があれば充分である。

冬…寒さは嚴しくなく、滅多に氷が張らない。服裝は冬着に薄外套で間に合ひ、傳染病の危險が少いため冬を好む旅行者も多い。

【蒙　疆】 溫度は大體中部滿洲程度、沙漠的傾向が著しく春には特に風がひどい。水も北支以上に惡く、埃除眼鏡、マスク水筒、藥等が必要なことは勿論である。併し旅行シーズンは先づ秋であらう。

尙、蒙疆地區の住民には回々敎徒多く、住民の殆んど全部は日本人に對する認識皆無であるから新に進出する邦人は蒙疆人の感情を害さない樣細心の注意が肝要である。

〔註〕北支、蒙疆旅行の際特に注意を要する點は、水の惡い事であって、旅行者は必ず水筒と征露丸(クレオソート丸)の携帶が必要である。尙出來れば其の他藥品、繃

需等もほしい。

旅館

各都市には到る處日本旅館が出來、未だ設備不完全のものも見受けられるが、日本人の旅行に少しも差支へない程度に接遇して呉れる。宿泊料は二食付一泊最高二十圓から最低四圓位、支那旅館は食事なしでずつと廉く一泊一圓以下の所もある。

北支旅館團體宿泊料及食事料金表（北京・天津は二割增）

團體種別	宿泊料 基本料金	宿泊料 朝食缺	宿泊料 晝食缺	宿泊料 夕食缺	食事料 朝	食事料 晝	食事料 夕	食事料 辨當
	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
小學校（一泊三食附）	一・五〇	一・三〇	一・三〇	一・一〇	〇・三五	〇・四五	〇・五五	〇・三〇
中等學校（同右）	二・五〇	二・一〇	二・三〇	二・〇〇	〇・六〇	〇・七〇	〇・九五	〇・四〇
專門學校以上（同右）	三・〇〇	二・六〇	二・七〇	二・四〇	〇・八〇	〇・九〇	一・一五	〇・四五
靑年團（一泊二食附）	二・八〇	二・四〇	—	二・〇〇	〇・八〇	〇・九〇	一・四〇	〇・五五
普通團體（同右）	四・〇〇以上	三・三〇以上	—	二・八〇以上	一・一〇以上	一・六〇以上	二・三〇以上	〇・八〇以上

辨當（小學校・中等學校・專門學校以上）　基本料金の三分の一
辨當（靑年團・普通團體）　基本料金の半額

席料　宿泊・休憩　當該食事料金の半額

◉缺食宿泊料の適用に就ては缺食すべき食事の少くる共一食前に其の旨申出あるを要し其の後の申出に對しては當該食事の實費を申受くること

◉夕食料金は大體夜十時迄に旅館を出發すること、し之に對する宿泊料を含むものにて夜十二時を超ゆるときは朝食缺宿泊料を申受くること

汽車賃

大人三等普通旅客運賃率は一人一粁に付一錢五厘とし、運賃の算出は賃率に粁程を乘じ二錢五厘未滿を切捨て、二錢五厘以上七錢五厘未滿を五錢に、七錢五厘以上を十錢に切上げたる額にして、二等は三等の二倍、一等は三等の三倍額とし、大人運賃の最低額は三等十錢、二等二十錢、一等三十錢とす。

急行料金

・普通急行料金

粁程＼等級	一等	二等	三等
五〇〇粁迄	二・五〇圓	一・五〇圓	〇・七五圓

・滿鮮支連絡急行料金

粁程＼等級	一等	二等	三等
三〇〇粁迄	二・〇〇元分	一・〇〇元分	〇・五〇元分
五〇〇粁迄	二・五〇	一・五〇	〇・七五
八〇〇粁迄	三・〇〇	二・〇〇	一・〇〇
八〇一粁以上	三・七五	二・五〇	一・二五
八〇〇粁迄	三・〇〇	二・〇〇	一・〇〇
一三〇〇粁迄	三・七五	二・五〇	一・二五
一八〇〇粁迄	四・五〇	三・〇〇	一・五〇
一八〇一粁以上	五・二五	三・五〇	一・七五

鮮滿連絡の場合は五百粁を最低とする。

寢臺料金

京山線

種別＼等級	一等	二等	三等
上段	四・〇〇元分	二・五〇元分	一・〇〇元分
中段	—	—	一・二〇
下段	五・〇〇	三・〇〇	一・五〇

旅行記念スタンプ

（括弧内は他線にも重複掲出してゐる）

京山線…北京、豐臺、天津、塘沽、唐山、古冶、灤縣、昌黎、(海濱)、幹線列車內
海濱線…海濱、北戴河
京包線…(北京)、西直門、南口、青龍橋、宣化、張家口、大同、豐鎭、平地泉、厚和、包頭
京漢線…(前門)、蘆溝橋、長辛店、涿縣、高碑店、保定、正定、石門、順德、邯鄲、彰德、京漢線列車內
西陵線…易線
津浦線…(天津)、天津北站、馬廠、青縣、滄縣、泊頭、德縣、禹城、濟南、兗州、臨城、徐州
濟寧線…濟寧
博山線…博山
膠濟線…青島、高密、坊子、濰縣、益都、張店
◇ビューロー案內所…北京、天津、張家口、大同、青島、濟南、芝罘、塘沽、石門、上海、南京、杭州

郵便料金

△普通郵便料

名宛先地	重量	料金
A 通常葉書(明信片)		
日本、滿洲、支那(市內一錢)		二錢五厘
右以外の國		一五錢
B 書狀(封信)		
日本、滿洲、支那(市內二錢)	二〇瓦又は其の端數每に	五錢
右以外の國	二〇瓦迄	二五錢
	其の端數每に	一五錢
C 新聞紙		
日本、滿洲、支那	五〇瓦每に	五厘
市內	一〇〇瓦每に	五厘
外國	五〇瓦每に	五錢
D 書類、印刷物業務用書類等		
日本、滿洲、支那	一〇〇瓦迄	一錢
市內	一〇〇瓦迄	五厘
外國	五〇瓦每に	五錢
E 商品見本類		
日本、滿洲、支那	一〇〇瓦迄	三錢
市內	一〇〇瓦迄	一錢
外國	五〇瓦每に	五錢

△特殊郵便料

A 遞送料		
イ 書通	(平快)	五錢
ロ 書留	(快遞)	一二錢
B 小包		
日本	一瓦迄	一圓一二錢
滿洲	一瓩	五〇錢
	其の端數每に	二〇錢

注意 支那に於て小包を受領するときは小包到着通知表發行後十日目より一箇に付一日五錢の保管料を要す

C 航空郵便料

日本宛	書狀	二〇瓦每に	三五錢
	葉書		一八錢
關東州宛及北支相互間	書狀	二〇瓦每に	二〇錢
	葉書		一〇錢

滿洲宛 現在關東州宛同額料金を以て便宜取扱ふも大連以遠は列車便に依る

中支旅行

沿線情況

【治安】 武漢占領以來皇軍の威は中國の邊境にまでも及び、上海より南京、杭州に至る鐵道沿線治安は殆ど確立せられ、列車妨害等殆ど皆無とも稱すべき狀態となり、發着は正確を保ちつゝある。

【沿線各都市の發展】 上海南京間に介在する各都市は邦人の產業開發及治安恢復に從ひ一段の進展をなし、日支合辨の諸事業日に興り、舊に倍する繁榮を示すに至つた都市もある。

【觀光地の回復】 觀光地の首位を占むる杭州は支那事變には何等の被害を受けず、單に手入れ不完全により幾分荒廢をみたが今は殆ど回復をみた。蘇州も多少被害はあつたが之亦自治委員會の手によつて回復がなされ、殆ど舊態に歸りつゝあり、其他各地の觀光地も漸次復舊されつゝある。

徑路

一、日本內地より

(1) 空路

大日本航空會社定期旅客機が東京から大阪、福岡を經由して上海まで毎日運航してゐる。

・運賃及所要時間

東京―上海間	百五十圓	九時間（途中着陸時間を含む）
大阪―上海間	百十五圓	八時間（同）
福岡―上海間	八十五圓	三時間半

使用機は何れもダグラス十八人乘（内地相互間はロックヒード機）の新鋭機で機上では明朗なエアーガールが行屆いたサービスをしてゐる。

(2) 航　路

(イ) 長崎―上海間

東亜海運上海丸、長崎丸の二隻が大體隔日に運航してゐる。兩船とも二一節の優秀な旅客船で長崎から約一晝夜で上海黄浦碼頭に到着する。

・運賃は

一等　五十圓、四十五圓、三等十八圓である。

(ロ) 神戸―上海間

日本郵船會社船が就航して居り、約二週間目毎に發着となつてゐる。所要時間五十四時間で、運賃は

一等　九十圓、八十圓、三等　二十六圓、二十三圓

其他日本郵船の北米航路、歐州航路の巨船も上海に寄港するが故に、それ等の船舶を利用することも出來る譯である。

二、朝鮮滿洲方面より

列車又は旅客機を利用し北支經由の途もあるが一般には海路を利用されてゐるやうである。これは大連汽船の大連丸、奉天丸、青島丸によるもので大連、上海間を隔日に運航してゐる。所要時間約五十四時間

・運賃

一等七十五圓、二等五十圓、三等十八圓である。

三、北支より

(1) 鐵　道

天津から津浦線を經由、南京で海南線に乘り繼ぎ、上海に至るもので、津浦線には北京、浦口間直通列車が一日一往復運轉され海南線には急行（一、二、三各等食堂車付）が二往復運轉してゐる。

所要時間　天津―上海間　三十四時間　三等運賃十八圓（但し海南線には夜行列車無き爲め南京に一泊の事）

(2) 航　路

上海大連間の大連丸奉天丸青島丸が各船とも青島に寄航してゐるので青島を隔日に發着してゐるわけである。

青島―上海間の所要時間は約二十七時間、運賃は一等五十圓、二等三十六圓、三等十二圓

(3) 空　路

北京―上海間に中華航空會社の定期旅客機が毎日運航してゐる。全線の所要時間（途中の着陸時間を含む）は五時間三十分、運賃は百七十圓であるが各發着地相互間の運賃及所要時間は次の通りである。

北京―天津間	三十分	十五圓
天津―濟南間	一時間	四十五圓
濟南―徐州間	一時間	四十圓
徐州―南京間	一時間	四十五圓
南京―上海間	一時間	二十五圓

旅行季節

春…暖かいが濕氣多く好い旅行シーズンではない。服裝は合着。

夏…暑く傳染病頻發し旅行中は特に注意を要する。上海市内の人々は半ズボンにシャツ一枚の扮裝であるが尚暑いと云ふ。傳染病の豫防注射は是非せねばならない。

秋…暖かく雨もさまり旅行に良い。服は夏用でもよく、合服でもよい。

多…九州程度の寒さで薄手の多服に、オーバーは有つても無くとも可い。

旅行者心得

最近中支方面に視察、慰問旅行する者が

増加したので中支軍司令部より次の通り旅行者心得が公布せられた。

一、幾萬の生靈の鎭まれる聖地を旅行するの態度を失はざること。
二、半面的皮相の觀察をなさゞること。
三、大國民たるの態度を失ひ一般支那人に對し誤りたる優越觀を以て臨まざること。
四、現地の軍隊に迷惑をかけ、又不快の念を與ふるが如き慰問視察をなさゞること。
五、説明書記載以外の行爲をなさゞること。
六、慰問視察に名を藉り營業的行爲をなさゞること。
七、宿泊、乘物の不自由を忍ぶこと。
八、油斷して不慮の危禍に陷らざること。
九、病疫に警戒すること。
一〇、見聞せる軍の祕密を放言せざること。
一一、記載事項を發行者の許可なく訂正せざること。

通　貨

中支方面に於ける流通狀態は日本銀行券、法幣、日本軍票(作戰地區に於て)、浙江興業銀行券(杭州附近)、浙江實業銀行券(同)等であつたが、維新政府の發行銀行「華興商業銀行」が昭和十四年五月十日より業務を開始し、舊法幣を離脱して外貨に對し獨自の價値基準を以て操作することを聲明し、紙幣は差當り十圓、五圓、一圓、二角、一角の五種を發行して新法幣として今後强制流通せしめる筈である。

上海方面—鮮銀券、滿洲國幣等全然流通せず、殊に滿洲國幣は交換の術なし。鮮銀券は日本銀行券と兩替する場合一割位安いことがあるから注意を要する。

漢口方面—漢口方面の通貨は軍票であるが、支那人、外人關係には法幣も通用し、日本金所持者に對しては船內にて軍票に交換を命ぜられる。

津浦線南下旅客—軍通行許可證の發給を受けざるものは徐州驛に於てのみ所持する聯銀券を軍票に交換可能にして、浦口までの旅行者に對しては二百圓迄、蚌阜迄の旅行者に對しては百圓の限度內に於て交換を許可せられあり、通行許可證所持者に對しては南下、北上共に夫々五百圓の限度內に於て交換に應ずる。徐州以南に於ては聯銀券を交換する公の機關無きにつき旅行者はなるべく銀行送金の方法を採られたい。

【其　他】—其他乘船、下船時に於ける攜帶品檢査、撮影竝模寫、戰利品、圖書、新聞の携出、軍隊慰問等北支旅行の場合と大體同じに心得られたい。

汽　車　賃

【旅客運賃】 大人一人一粁當り

四等	三等	二等	一等
一錢	一錢五厘	三等の二倍	三等の三倍

【急行料金】

粁程／等級	一等	二等	三等
二〇〇粁迄	二・〇〇	一・〇〇	〇・五〇
二〇一粁以上	四・〇〇	二・〇〇	一・〇〇

【手荷物無賃運送量】

一等　八〇瓩　二等　六〇瓩　三等　四〇瓩

旅　館

二食付普通一泊四圓—二十圓位で主要地の主なる日本旅館は大體左の通りである。

上海…萬歲館、豐陽ホテル、辰巳屋旅館、日ノ丸旅館、新亞細亞ホテル、林館、常盤館、東和ホテル、東洋館、中央ホテル、海星館、八千代館、大和ホテル、山崎ホテル、扶桑館、江星館、東館、アスターハウス、新生館、青林館等
南京…亞細亞ホテル、南京ホテル、寶菜館、國華ホテル、福田館、富貴館、興亞館、日進館、大和旅館、揚子江ホテル、野田屋等
杭州…新々旅館、常岡ホテル、九州旅館、旭ホテル等
武漢…揚子江ホテル、富貴館、中央ホテル、福昌ホテル、武漢ホテル、交通旅館、壽旅館等

特殊切符

【船車連絡切符】 日本内地へ行くのに門司や神戸までの乘船券だけを求めるのは不便であり損だ。それには行先地までの船車連絡切符を選ぶがよい。荷物等は自身で積替へる手數はなく。赤帽賃も省ける。

片道通用期間は一箇月間。

【東亞觀光券】 日本、滿洲、支那と亙つて旅行なさる方には東亞觀光券の一綴を薦めたい。費用と手數を省くことは勿論のこと徑路の選擇は自由である。鐵道二割引、汽船一割引、通用期間三箇月となつてゐる。

本券はツーリスト・ビューローのみで發賣してゐる。

【内鮮滿周遊券】 内地から朝鮮を經由して滿洲を一巡し大連から汽船で始發驛へ歸るのと、この反對徑路を一巡する極めて便利で格安な切符である。この切符は

汽車の區間 (關釜間航路を含む)二割引
船の區間 大連—門司又は神戸—敦賀—清津間 一割引
通用期間……………………二箇月
途中下車…………………隨意

で視察旅行や商用旅行に適してゐる。尚學校教職員及び學生に對しては更に高率な割引がある。

【内鮮滿往復券】 陸路朝鮮經由或は海路大阪商船(神戸又は門司)大連航路又は北日本航路(敦賀、新潟—清津)、日本郵船鹿兒島大連航路經由再び同一徑路を引返へし始發驛に戻る切符で周遊券同樣極めて格安である。

汽車の區間 (關釜間航路を含む) 二割引
船の區間 大連—門司又は神戸 / 清津—(敦賀又は新潟) / 大連—(長崎又は鹿兒島) 一割引
通用期間……………………二箇月
途中下車…………………隨意

尚發賣驛については周遊券の樣な制限がなく主なる驛なら何處でも買へるので大變便利である。

▽團體の場合 前記の廻遊或は往復の場合と同樣徑路を、二等又は三等旅客が十人以上一團となつて旅行するときは單獨の場合よりも更に高率な左記割引がある。

・世話人無賃扱ひ

二十人以上五十人未滿の團體にあつては内一人、五十人以上は五十人毎に内一人を世話人として各鐵道(關釜間航路を含む)に限り無賃(滿鐵所管線及び朝鮮線内は急行料金共) 扱ひとして便宜を計つてゐる。

【北支觀光券】 北支(天津、北京)遊覽旅行に便宜のため設定されたもので觀覽券(自動車料金、入場料、案内人手當等を含む)旅館券、乘車船券引換證が一册に綴られてある。發賣箇所はジャパン・ツーリスト・ビューローで各等通用期間は三箇月である。

【金剛山探勝乘車券】 朝鮮金剛山探勝旅客のため大連、奉天、新京、安東の四驛から出發する者に限り取扱ふ。各等通用期間二箇月、滿鐵線二割引、朝鮮鐵道局線三割引

(イ)往復乘車券—第一徑路 大連、奉天、新京又は安東發(鐵原經由)内金剛往復、第二徑路 大連、奉天、新京又は安東發(安邊經由)外金剛往復。

(ロ)廻遊乘車券—第一徑路 大連、奉天、新京又は安東發、内金剛—外金剛—發驛 第二徑路 大連、奉天、新京又は安東發、外金剛—内金剛—發驛。

【北滿避暑地行割引往復乘車券】 每年五月十五日から九月三十日まで約五箇月間左の通り割引往復乘車券を發賣してゐる。

ビューロー發賣箇所	發驛	着驛
新京案内所	新京	富拉爾基、扎蘭屯、巴林
哈爾濱案内所	哈爾濱	一面坡、富拉爾基、扎蘭屯、巴林
滿洲里案内所	滿洲里	同
牡丹江案内所	牡丹江	一面坡、愛河、阿城
齊齊哈爾案内所	齊齊哈爾	富拉爾基、扎蘭屯、巴林

本切符は單獨二、三等三割引、團體(五人以上)二、三等五割引で通用期間は發賣日より同年九月三十日迄である。

【溫泉券】 溫泉旅館一泊料金と心附を含

み一人券と二人券とある。溫泉行割引往復乘車券と組合せて甲券汽車二等旅館湯崗子對翠閣五龍背五龍閣と乙券汽車三等旅館湯崗子玉泉館五龍背五龍閣とに區別され當分の間奉天と撫順から湯崗子と五龍背に限つて發賣し通用期間五日間で奉天及び撫順のビユーロー案內所で取扱ふ。

【船車券】 ビユーローで契約した主要運輸機關（私鐵、軌道、汽船、自動車、電車等）を利用する者に對しビユーロー各案內所で發賣するもので現地で買ふより割引されて居る。

【旅行小切手】 二十圓券、五十圓券、百圓券の三種でビユーロー各案內所で發賣する。現金への引換は旅行先の第百銀行支店及び取引銀行又はビユーローで取扱ふ。

【旅行券】 三圓券、五圓券、十圓券の三種がある。贈り物として新らしい趣向だ。この券で滿鐵の乘車券、急行券、寢臺券は勿論、直營の旅館、構內食堂、食堂車等の支拂ひに使つて便利である。

【旅館券】 この券に指定されてゐる日本內地、朝鮮、臺灣等に於ける旅館、溫泉は信用あるものを選んでゐる。料金は均一に定められてをり、內地でも茶代は要らないから不要の心遣ひが省け、經濟至便である。

【溫泉行割引】 熊岳城、湯崗子、五龍背興城各溫泉行旅客の便益を計る爲下記驛發の各等割引往復乘車券がある。但し二十人以上の團體乘車であつても無賃扱はない。

單獨　二、割引　通用七日間
團體　五人以上三割引　通用四日間

發賣驛

一、熊岳城溫泉行　大連、沙河口、旅順、金州、普蘭店、瓦房店、大石橋、營口、海城、鞍山、立山、遼陽、奉天、新京、撫順

二、湯崗子溫泉行　大連、沙河口、旅順、大石橋、鞍山、立山、營口、海城、遼陽、奉天、鐵嶺、開原、四平街、公主嶺、新京、撫順、本溪湖、吉林、哈爾濱

三、五龍背溫泉行　奉天、撫順、本溪湖、安東

四、興城溫泉行　北奉天、奉天、新民、大虎山、溝幇子、錦縣、錦西、綏中、山海關、河北、義縣、朝陽、葉柏壽、凌源、平泉、承德、北票、赤峰、壺蘆島

又朝鮮局線發五龍背溫泉行、鐵道總局所管線發朝鮮朱乙溫泉にも割引乘車券がある

・朱乙溫泉行・　新京、吉林、敦化、明月溝、老頭溝、延吉、龍井、五常、濱江、哈爾濱、天橋嶺、東京城、寧安、牡丹江、林口、綏芬河、淸津、富寧、古茂山、上三峰、鏡城、潼關、會寧、南陽、雄基、羅津、圖們

【家族遊覽券】 左記各地への遊覽客の便益を計る爲同一家族の大人二人（大人一人と小兒二人）に對する基本運賃を以て家族遊覽券を發賣してをる。但し二、三等往復のみとし通用期間は發賣の日共二日間。

種別	行先	發賣驛	基本運賃 二等 圓	基本運賃 三等 圓	超過運賃 二等 圓	超過運賃 三等 圓
第一種	旅順	大連・沙河口	四・八〇	二・六〇	二・四〇	一・三〇
第二種	金州	大連・沙河口	二・四〇	一・四〇	一・三〇	〇・七〇
第三種	鐵嶺	奉天	五・六〇	三・〇〇	二・八〇	一・五〇
第四種	撫順	奉天	四・四〇	二・六〇	二・三〇	一・三〇
第五種	吉林	新京	一〇・八〇	六・六〇	五・四〇	三・三〇
第六種	壺蘆島	錦縣	五・六〇	三・四〇	二・八〇	一・七〇
第七種	玉泉	哈爾濱	五・三〇	三・三〇	二・六〇	一・六〇
第八種	呼蘭	哈爾濱・濱江	二・八〇	一・八〇	一・四〇	〇・九〇
第九種	橫道河子	牡丹江	六・八〇	四・〇〇	三・四〇	二・〇〇
第十種	下九臺	新京	四・四〇	二・八〇	二・三〇	一・四〇
同	同	吉林	六・四〇	四・〇〇	三・三〇	二・〇〇
第十一種	阿城	哈爾濱	三・四〇	二・〇〇	一・七〇	一・〇〇

超過料金とは大人一人を增す每に要する料金で小兒の超過料金は半額。

【社寺券】 社寺參拜に必要な拜觀、奉納、宿泊又は食事等の費用を纏めて出發の際に購入するもので、料金も割引されて居りビユーローで發賣してゐる。

通用期間　二箇月

【旅行傷害保險】 旅行中不時の災害に備へる爲めの旅行傷害保險の契約は各ビユーロー案內所で簡單に取扱つて居る。保險金額一千圓に對する一般保險料率

旅行地／期間	一箇月以內	二箇月以內	三箇月以內	六箇月以內	九箇月以內	一箇年以內
滿洲	二・三五	三・六〇	四・五〇	六・七五	八・一〇	九・〇〇
內地	一・〇〇	一・六〇	二・〇〇	―	―	―

土産

滿洲、支那の土産物は土地で作られたものと、外來品とに區別される。滿洲、支那での製品は何れも同一の色調や巧緻を表はしてゐて、その地方色を彷彿せしめ滿、支の土産として全く相應はしいものである。

然しながらこゝに全然滿、支の色彩のない外來品が土産物として登場してゐるのはその感觸よりも價格が安い點から來たものであるが昨今の如く輸入減少の狀態にあつては、舶來品は昔日の如く容易に、而かも安く手に入れるといふわけには行かない。手に入れて日本へ持ち歸つても、輸入税を課せられ折角の土産も一層高い土産となる場合もあるのは注意すべきことである。

さて滿洲、支那の製品にしろ、舶來品にしろ、苟くも滿洲、支那で買求めて日本なり、朝鮮なりへ土産物として持つて歸る時には總て輸入品として、税關の檢査を受けることになつており、そして一般に輸入品は殆ど課税されることになつてゐる。但し旅行者自身の携帶用品及び少量の土産品は税關吏の裁量に依つて、免税通關されるが元來が絕對的なものではなくて、慣例的の便法に過ぎないから旅行者は前例を強調することは出來ない。また旅行者の身分、職業などに依つて所持品の品質、數量等を認定し免税を加減する場合もある。

左記價格欄は各地値段を記載したもので從つて時期や場合に依つて變動もあり、相違が生ずることもある。又免税標準數量は滿洲製品にしろ支那製品にしろ何れも大連經由を主としたものであるが、たゞ大凡の目標をつける爲の便宜に供した次第である。

尚安東―圖們―上三峰の朝鮮税關經由で朝鮮若くは日本へ赴く旅客又は支那方面より直接日本へ歸る旅客にあつては其免税標準量が必ずしも同一でないことを承知して居なければならない。

▽一般土産品

品目	單位	價格	産地	免税標準數量(大連經由)
花瓶	一個	0・五0―100・00	大連	價格三圓程度
コーヒーセット	半打	五・00―10・00	同	同
水差	一個	1・00―10・00	同	同
コップ	一打	1・五0―三0・00	同	同
菓子鉢	一個	二・五0―五0・00	同	同
インクスタンド	同	0・八0―一五・00	同	同
青龍刀型ペーパーナイフ	一本	0・五0―1・二五	同	三本
面形スプーン	同	0・八0―二・五0	同	價格三圓程度
糸硝子製品	一箱	1・00―10・00	博山	同
高粱稈細工品	一個	0・10以上	旅順	同
北陵土産	同	0・10以上	奉天	同
行列人形、土俗人形	同		同	同
新京布老虎	一個	0・10―1・五0	新京	價格三圓程度
木材扇子	一本	1・00	安東	同
銀製アイスヨット	一個	五・00以上	營口	一
石炭細工	同	0・0五―三0・00	撫順	價格五圓程度
泥人形	同	0・0五―0・四0	吉林	價格三圓程度
樂燒	同	0・三0―二・00	同	同
搬不倒	同	0・三0―0・五0	同	同
老虎枕頭	同	0・0五―1・00	同	同
太刀猿	同	0・一五	同	同
雅趣陶器類	同	0・一五―三・00	同	價格五圓程度
會寧燒	同	四・00	清津	同
白樺細工品			哈爾濱 齊齊哈爾	
ステッキ	一本	0・三0―七・00	哈爾濱 滿洲里	二本
同(ノロ)(ノロの足及皮にて作る)	同	1・八0―三・五0	海拉爾 滿洲里	同

化石	一個	0・50—1・00	錦縣	價格三圓程度
七寶燒花瓶	同	3・00—15・00	北京	同
燈籠	同	1・80—10・00	同	同
天津人形	同	1・50—3・50	天津	同
街行燈	同	1・50—5・00	同	同
風俗人形	同	1・50—2・00	同	同
蒙古刀	同	3・50—5・00	海拉爾 張家口	二本
柴檀細工		1・00—200・00	上海	課稅
鋏(剪刀)	一挺	1・00—15・00	杭州	價格三圓程度
錫製・酒器	一個	7・00—15・00	義縣	一個
名所風景入タオル手拭	一枚	0・90	滿支各地	價格三圓程度
名所入ハンカチーフ	同	0・10—0・50	同	同
刺繍品	同	0・50以上	同	同
トランプ	一組	0・20—3・00	外國	二組
麻雀	同	8・00—150・00	滿支各地	課稅
支那限取圖	一個	0・10—1・20	支那	價格三圓程度
同 團扇	一本	草製0・10—0・65 絹張製0・25—5・00	同	同
同 扇子	同	絹及紙張0・10—2・50 羽毛扇子0・20—5・00	同	同
同 茶碗(九官燒)(朱泥燒)	一個 茶器一組	0・50以上 1・20—5・00	同	同
同 盆		福州製0・70—3・50 漢口製3・50—4・50		同
支那盆	二枚	2・00—4・00 福州龍眼木製	支那	二枚
拂子	一本	0・50—3・00	同	二本
名所繪はがき	一部	0・15—0・60	滿支各地	三〇部
各種寫眞帖	同	0・20—3・00	同	二部
滿、支、蒙風景寫眞	一枚	0・05—0・30	同	三、四〇枚

▽食料品

品目	單位	價格	產地	免稅標準數量
鶉粕漬	一函	1・20—2・00	旅順	二—三函
金州漬物	一樽	0・50—1・00	金州	一樽
高粱しるこ	一函	1・10—1・40	大連、旅順	五函
精肉味噌漬	同	3・40	大連	一函
長壽味噌(大蒜味噌)	一瓶	0・50	同	五本
黃瓜麵醬漬	一斤	0・08—0・65	同	五斤
大蒜入葡萄酒	一本	1・50	同	二本
林檎	二貫		同	植物檢査を要す
蓮の實羊羹	一個	0・20—1・50	同	一・五〇のもの五個程度
高粱餅	一函	0・30—1・50	奉天	五函
山楂飴	同	1・00	同	同
すつぽん飴	同	1・00	同	同
支那素麵	一包	0・30	新京	十包程度
芝蔴糖	一個	0・30—0・50	同	價格三圓程度
白魚筏干	一函	1・00—2・30	安東	同
哈佃煮	同	0・50—1・00	營口	五圓位迄
娘々豆	同	0・50—5・00	同	同
銀飴	一個	0・10	同	同
同	一罐	1・50—5・00	同	同
琥珀飴	同	0・50—2・50	撫順	二罐
老山浸糖	一合	0・70	吉林	五合
鹽ウニ		0・60—1・20	清津	
貝柱味淋干		1・50—2・80	同	
鰯トマトサージン	一封度	0・25	同	
ロシア漬	一函	0・50	哈爾濱	三函
河魚燻製	一疋	0・15	同	五疋
メドック(蜂蜜酒)	一本	0・80	同	二本
チーズ	一フント	0・60	同	一ポンド
バター	同	0・80	同	同
ソーセイヂ	一封度	0・40—1・00	奉天	同

鯉の拳漬		一・〇〇—二・〇〇	齊齊哈爾、哈爾濱	
史國公酒（瓶詰四合入）（同 二合入）		一・七二 〇・八六	同	
白蘑（茸）	一斤	一・〇〇—五・〇〇	海拉爾	五斤
蝦油小瓜（蝦油にて小形胡瓜を鹽漬にせるものを更に漬けたもの）	一個	一・〇〇—二・〇〇	錦縣	四個
蜂蜜	一罐	〇・八〇—一・五〇	濱綏線沿線、四平街、錦州	五本
燻鶏	一羽	〇・三〇—〇・五〇	錦縣	
梨	百斤	一〇・〇〇	同	植物検査を要す
蟹うるか漬	一瓶	〇・七〇—一・〇〇	山海關	五瓶
蝦うるか漬	同	〇・八〇—一・二〇	同	
干鮎		一・〇〇—二・〇〇	同	
甘栗	一斤	二・〇〇	北京、天津、奉天	一貫匁
醬菜（黄茄、茄子等のモロミ漬）	一斤	〇・五〇—二・〇〇	北京	
醋鴨蛋（家鴨の卵の醋漬）	一個	〇・二〇	同	
ドライビーフ	一罐	〇・八〇—一・二〇	青島	三罐
パデントビーフ	同	〇・八〇—一・九〇	同	同
牛肉粕漬	同	大 三・七〇 中 二・六〇 小 一・五〇	同	
文化豆	同	大 一・〇〇 小 〇・五〇	同	
鹽ビー	同	大 一・六〇 小 〇・七〇	同	
スキ焼ビーフ（醤養煮）	同	一・三〇	濟南	
肉の華	同	一・五〇	同	
ジンギスカン・カレービーフ	同	一・五〇	青島、濟南	
チョコ・ビーフ	同	一・四〇	同	
ロシヤ飴	一罐	〇・三五—一・五〇	滿支各地	五罐
ロシヤキャンデー	一函	〇・七〇—一・八〇	同	五函
ウイスキーチョコレート	同	〇・五〇—三・五〇	同	五罐
豆麺	一把	〇・一〇—〇・二〇	同	二貫匁
支那製果實砂糖漬	一函	〇・五〇—五・〇〇	同	五函
チョコレート製品	同 板モノ	二・一〇—五・〇〇 〇・〇五—二・〇〇	同	同
高粱飴	一函	一・二〇—二・二〇	滿洲各地	同
角砂糖	同	〇・一九	臺灣	十函
ココア	一罐	〇・三五—二・〇〇	外國	一封度
紅茶	同		同	同
コーヒー	同		同	同
乾葡萄	一函	〇・一五—〇・四〇	同	十函
パインアップル	一罐		臺灣	
支那茶	一斤	〇・三〇—一五・〇〇	支那	一封度
糟鴨蛋	一個	〇・二〇—〇・四〇		

▽装身具

品目	單位	價格	產地	免稅標準數量
蛤細工（カフス釦、帯止）	一個	一・二〇—一・三〇	營口	價格三圓程度
琥珀細工（カフス釦、帯止、珠數、指輪）	同	〇・五〇—五〇・〇〇	撫順	同
支那七寶とんぼ玉	同	〇・二〇—一・〇〇	北京	同
珠數（菩提樹）	一連	一・〇〇—一五・〇〇	同	同
翡翠	一個	五・〇〇—五〇・〇〇以上	支那	課稅
黒ダイヤ	一カラット	〇・一〇—〇・二〇	滿洲、外國	同
アレキサンダー	同	〇・七〇—〇・八〇	外國	同
砂金石	一個	〇・五〇—一・五〇	同	同
ルビー	一カラット	〇・六〇—〇・七〇	同	同

品目	單位	價格	產地	免稅標準數量
オパール	一カラット	1.00—2.00	外國	課稅
アクマリン・エメラルド	同	0.65	同	同
ウラルダイヤ	同	1.00—1.10	同	同
石入ネクタイピン、帶止、カフス釦	一個	0.50以上	同	同
サファイア	一カラット	0.80—1.00	滿支各地	同
支那古錢帶止	一個	1.00—2.00	同	同
瑪瑙細工(カフス釦、パイプ、帶止)	同	0.60—3.00	同	同
ガーネット(ザクロ石)	同	1.00—2.00	外國	同

▽織物

品目	單位	價格	產地	免稅標準數量
ホームスパン	一着分	24.00—35.00	四平街	課稅
羽蒲團	一枚	30.00—600.00	哈爾濱	同
ロシヤ毛布	同	10.00—50.00	同	同
麻製刺繡入ハンドバック	一個	1.80—12.00	北京	一個
麻製刺繡入ハンカチーフ	一枚	0.25	同	一打
糸緞風景	同	0.85—6.00	同	二枚
人絹緞刺繡入ハンドバック	一個	1.60—2.00	同	一個
麻製刺繡入テーブル掛	一枚	2.60—4.00	同	一枚
支那刺繡入テーブルセンター	同	2.00—8.00	同	同
支那刺繡入ハンドバック	一個	5.00—17.00	同	一個
支那刺繡入小間物	同	1.00—15.00	同	同
襤褸錦	同	1.50—80.00	同	同
絨氈	一尺平方	1.80—3.50	北京天津	課稅
古刺繡加工品(清朝時代の古刺繡の裏を改造せるもの)	一枚	1.00—6.00	北京	價格五圓程度
絹織物(緞子、繻子)	一疋	18.00—25.00	杭州	同
絹紬風呂敷	一枚	0.50—1.30	滿洲	二枚
絹紬	一疋	7.50—13.50	滿洲	價格三圓程度
白絹紬	同	5.50—10.00	同	同
佛國製テーブル掛	一枚	14.00—25.00	佛國	一枚
ゴブラン織	同	1.90—30.00	同	同
レーステーブル掛	同	1.50—5.00	同	同
アンゴラ織テーブル掛	同	20.00	同	同

▽文房具

品目	單位	價格	產地	免稅標準數量
滿洲風物入便箋	一冊	0.15—0.30	大連	二冊
翠雲石加工品	一個	0.50—18.00	橋頭	三個
壽山石の印材	同	3.00—10.00	吉林	價格五圓程度
硯石	同	15.00以上	同	同
虎眼石(印材、カフス釦)	同	1.00—1.50	延吉	同
鐙城硯	同	5.00	清津	同
支那墨	同	0.10—15.00	北京	二個
支那筆	一本	0.50—10.00	同	五本
支那硯	一個	0.50—500.00	同	
支那封筒	一函	0.40—0.55	同	一函
記念文鎭	一個	0.50—2.00	同	二、三個
高粱ペン軸	二本入一函	0.15	同	五箱
石刷(碑文)	一枚	0.60	支那	十枚

▽煙草器具

品目	單位	價格	產地	免稅標準數量
灰皿	一個	0.55—6.00	大連	價格三圓程度
琥珀パイプ	同	0.50—50.00	撫順	二個
銅製セット	一組	2.50—15.00	北京	
滿蒙名所入各種灰皿	一個	0.65—2.00	滿洲各地	四個
白樺製莨ケース	同	3.30—4.50	ソ聯	二個
金屬製卷莨入	同	0.90—30.00	滿、支各地	同

品目	單位	價格	產地	免稅標準數量
支那煙管	一本	0・三五—0・六0	滿、支各地	三本
水煙管	一個	一・五0—五・00	同	
高粱パイプ	二本一函	0・10	同	一個
象牙パイプ	一個	一・00—10・00	同	五函

▽毛皮類

品目	單位	價格	產地	免稅標準數量
銀狐	一枚	四00・00—一、一00・00		十割課稅但し身分旅程遠近期節等を考慮し自家用別に限り免稅さることあり
狐	同	一五・00—二00・00		
虎	同	100・00—一、000・00		
豹	同	一五・00—100・00		
海獺	同	一五0・00—一、000・00		
川獺	同	10・00—一五0・00		
熊（シベリヤ產）	同	七0・00—八00・00		
狼	同	10・00—三0・00		
羊	同	五・00—二0・00		

▽酒類

品目	單位	價格	產地	免稅標準數量
ウヰスキー	一本	二・八0—七・七0	英國	
ブラック、ホワイト	同	三・00	同	
オールドパー	同	一八・00	同	
ジョニウオツカー（赤）	同	一五・00	同	
同（黑）	同	二三・00	同	
キング・オブ・キング	同	一六・00	同	
レッド・ハックル	同	10・00	同	
葡萄酒メドック	同	三・二0	佛國	
同ボルド	同	二・五0—三・五0	同	
佛國キュラソー	同	六・八0	同	
伊國ベルモット	同	四・00	伊國	
三星ブランデー	同	一三・00	佛國	
各種葡萄酒	同	二・二0—二0・00	英國、伊太利、佛國	
ウオッカ	一本	0・三五—二・八0	滿洲各地	
ナストイカ	同	0・四五—0・九0	滿洲	
杏酒	同		同	
高粱酒	同		同	
紹興酒	同		同	
光酒	同		同	
葡萄酒（原料山葡萄）	同		哈爾濱	

▽外國煙草

品目	單位	價格	產地	免稅標準數量
外國煙草	一〇本	0・10—一・00	外國	五〇本
外國葉卷	一本	0・五0—五・00	同	二五本
刻				一五匁
支那煙草	一〇本	0・0三—0・一五	滿洲支那	五〇本

煙草は土產物として持ち歸へることは出來ない。ただ旅行者の自用として紙卷のみならば五十本、葉卷のみならば二十五本、刻のみならば十五匁だけ携帶を認められてゐる。然しながら右を二種以上混合する時は各半分宛の數量しか携帶を認められない。

▽時計、寫眞機、ラヂオ（自家用以外は五割、十割課稅）

品目	單位	價格	產地	免稅標準數量
時計	一箇			課稅
寫眞機	同			同
雙眼鏡	同			同
ラヂオ	同			同

▽藥種類

品目	單位	價格	產地	免稅標準數量
蔘糖（人蔘精糖）	一樽	一・00—二・00	吉林	價格五圓程度
蛤蟆油	一函	二・五0以上	同	同
田鷄油（蛙の肉）	二合瓶	四・00—五・00	同	同
藥用人蔘	一斤	四・00以上	同	同
松ノ實（五葉の松の實不老、強壯劑）	同	0・八0	圖們	同
六神丸	一函（一、〇〇〇粒入）	一・五0	北京	同

旅行會話

【一般會話】

(日語)	(満支語)		(露語)	
一	イー	(一)	アヂン	Один
二	アル(リヤン)	(二)(兩)	ドゥワー	Два
三	サン	(三)	トゥリー	Три
四	スー	(四)	チェトゥイレ	Четыре
五	ウー	(五)	ピャーチ	Пять
六	リユー	(六)	シェースチ	Шесть
七	チー	(七)	セーミ	Семь
八	パー	(八)	ウオーセミ	Восемь
九	チユー	(九)	デーウャチ	Девять
十	シイー	(十)	デーシャチ	Десять
十一	シーイー	(十一)	アヂンナッツアチ	Одиннадцать
十二	シーアル	(十二)	ドウエナッツアチ	Двенадцать
百	イーパイ	(一百)	ストー	Сто
千	イーチエン	(一千)	トゥイシャチャ	Тысяча
萬	イーワン	(一萬)	デーシャチトゥイシャチ	Десять тысяч
朝	ツアオチー	(早起)	ウートロ	Утро
晩	ワーンシヤン	(晩上)	ノーチ	Ночь
今	シエンツアイ	(現在)	チェペーリ	Теперь
今日	チンテン	(今天)	セウォードニャ	Сегодня

(日語)	(満支語)		(露語)	
明日	ミンテン	(明天)	ザーフトラ	Завтра
昨日	ツオーテン	(昨天)	フチェラー	Вчера
はい(諾)	シー	(是)	ダー	Да
いゝえ(否)	プーシ	(不是)	ニエート	Нет
無い	メイユウ	(沒有)	同	
有る	ユウ	(有)	エスチ	Есть
私	ウオ	(我)	ヤー	Я
貴方	ニイ	(你)	ヴイ	Вы
彼	タア	(他)	オン	Он
彼女			アナー	Она
よろしい(許す)	シン	(行)	モージノ	Можно
不可ない	プウシン	(不行)	ネリジャー	Нельзя
何時	チイテンチョン	(幾天鐘)	カクダー	Когда
何故	ツアンマ	(怎麼)	パチェムー / ザチェム	Почему / Зачем
手紙	シン	(信)	ピシモー	Письмо
葉書	シンペル	(信片兒)	アックルイツカ	Открытка
電報	テンパウ	(電報)	テレグラムマ	Телеграмма
切手	シンピヤオ	(信票)	マルカ	Марка
時計	ツン / ピヤヲ	(鐘)…柱、置 / (錶)…腕、懐中	チャスイ	Часы
戸	ウーメン	(屋門)	ヅゥリェヴ	Дверь
窓	チヨワンフ	(窓戸)	アクノー	Окно
此處	チヨペル	(這邊兒)	ズヂェーシ	Здесь
右へ	ワンユウ	(往右)	ナプラーウォ	Направо
左へ	ワンツアオ	(往左)	ナレーウォ	Налево
今日は	チイラフアンラマ	(吃了飯了麼)	ズドラスチスェ	Здравствуйте!
有難う	シエシエ	(謝謝)	スパシーボ / ブラガダリューワース	Спасибо / Благодарю Вас

これは何ですか	チヨオシシヨンマ	(這是甚麼)	チトーエートタコーエ	Что это такое?
私のいふことがわかりますか	ウオシユオデホアニイミンパイマ	(我說的話你明白麼)	パニマーエチェリ ヴイ メニャ	Понимаете-ли Вы меня?
英語がわかりますか	ニイホイシユオイングオホアマ	(你會說英國話麼)	パニマーエチェリヴイ パアングリースキー	Понимаете-ли Вы по-английски?
今、何時ですか	シエンツアイチイテイエンチヨン	(現在幾點鐘)	カトールイチペェーリ チヤス	Который теперь час?
左様なら	ツアイチエン	(再見)	ダスウィダーニヤ	До свидания!

【列車中にて】

急行列車	クワイチヨ	(快車)	スコールイポイェズド(エクスプレス)	Скорый поезд (Экспресс)
寝臺車	ワオーチヨ	(臥車)	スパーリヌイワゴン	Спальный вагон
食堂車	ファンチヨ	(飯車)	ワゴンレストウラン(ワゴンスタローワヤ)	Вагон ресторан (Вагон-столовая)
乗車券	チヨピヤオ	(車票)	プローエズドヌイビレート	Проездный билет
寝臺券	シユイプピヤオ	(睡舖票)	ビレートナスパリノエメスト(プラッカルタ)	Билет-на спальное место (Плац-карта)
急行券	チイシンピヤオ	(急行票)	ピレートナスコーロスチ	Билет на скорость
車掌	チヨチヤン	(車長)	カンドウークトル	Кондуктор
ボーイ	チヤアフアン / タンクアル	(茶房) / (堂倌兒)	プロウオドニック	Проводник
赤帽	ホンマオツ / チアオハン	(紅帽子) / (脚行)	ナシーリシチク	Носильщик
兩替所	チエンポ	(錢舖)	メニャーラ	Меняла
時間表	シーコピアオ	(時刻表)	ラスピサーニエポーエズドフ	Расписание поездов
毛布	チヤンツ	(毯子)	アデヤーロ	Одеяло
枕	チエントウ	(枕頭)	パドウーシカ	Подушка

洗面器	シーレンペン	(洗臉盆)	ウムィワーリニック	Умывальник
〇〇行の列車は何時に出ますか	ワン〇〇チユイダホウチヨチイテインチヨンカイマ	(往〇〇去的火車幾點鐘開麼)	フ〇〇カトロームチヤスウ アトホージト ポーエズド	В〇〇 котором часу отходит поезд?
これが〇〇行の列車ですか	チヨシシヤン〇〇ダホウチヨマ	(這是上〇〇的火車麼)	フ〇〇エトポーエズド	В〇〇это поезд?
途中乗替がありますか	ツアイパンタオルユウホワンチヨマ	(在半道兒有換車麼)	ブーヂェットリ ペレサートッカ ナプーチ	Будет ли пересадка на пути?
こゝは何驛ですか	チヨシーシエンマチヤン	(這是甚麼站)	カカーヤ エート スタンツィヤ	Какая это станция?
次は何驛ですか	シアーチアンシシエンマチヤン	(下站是甚麼站)	カカーヤ スレードゥユシチヤヤスタンツィヤ	Какая следующая станция?
この驛は何分停車ですか	チヨチヤンテイントウタクンフ	(這站停多大工夫)	スコリコ ミヌート ズヂェーシスタイート ポイェズド	Сколько минут здесь стоит поезд?
三十分です	シ、サアンシフン	(是、三十分)	トゥリッツアチミヌート	Тридцать минут
この列車は〇〇に定時に着きますか	チエガホウチヨテインシータオマ	(這個火車定時到麼)	プリブーヂェットリ ナーシポイエズドウオウレーメヤ	Прибудет-ли наш поезд во-время?
いゝえ、列車は五分間延着します	プーシ、チエガホウチヨタオウーフエンチヨンワン	(不是、這個火車到五分鐘晚)	ニェドゥーマユ、ポイエズドアパズダーエトナピャーチミヌート	Не думаю, поезд опаздает на пять минут
ボーイさん、お世話になりました	チヨトン、ラオニイチヤラ	(車僮、勞你駕了)	プラオドニーク、スパシーボ ザフローポトゥイ	Проводник, спасибо за хлопоты.
左様なら 御機嫌やう	ウオヅオラ ツアイチエンツアイチエン	(我走了、再見再見)	ダスウィダーニヤ、フセウォー ハローシェウォー	До свидания(всего хорошего)

【食堂にて】

食堂	ツアイクアン	(菜館)	スタローワヤ(レストラン)	Столовая (ресторан)
獻立表	ツアイタンツ	(菜單子)	メニュー(プレイスクーラント)	Меню (прейскурант)

朝食	ツアオフアン	(早飯)	ザーフトラク	Завтрак
晝食	シヤンフアン	(晌飯)	アベード	Обед
晩食	ワンフアン	(晩飯)	ウージン	Ужин
ナイフ	タオツ	(刀子)	ノージ	Нож(複數ножи ナジー)
フオーク	チヤーツ	(叉子)	ウィルカ	Вилка
スプーン	チーツ	(匙子)	ローシカ スタローワヤ	Ложка столовая
皿	テイエツ	(碟子)	タリェールカ	Тарелка
コップ	パオリペイ	(玻璃盃)	スタカーン	Стакан
ナプキン	フアンタン	(飯單)	サルフェートカ	Салфетка
紅茶	ホンチヤア	(紅茶)	チャイ	Чай
コーヒー	カアフエイ	(珈琲)	コッフェ	Кофе
チョコレート	カアフエイタン	(珈琲糖)	ショコラード	Шоколад
麥酒	ピーチユ	(啤酒)	ピーウォ	Пиво
ソーダ水	スウターシユイ	(蘇達水)	ソーダワヤワダー	Содовая вода
水	リヤンシユイ	(涼水)	ワダー	Вода
アイスクリーム	ピンチリン	(冰淇淋)	マロージノエ	Мороженое
牛乳	ニユーナイ	(牛奶)	マラコー	Молоко
バター	ホアンユウ	(黄油)	マースロ	Масло
チーズ	ナイピン	(奶餅)	スイル	Сыр
果物	クオピン	(果品)	フルクト	Фрукты
菓子	テイエンシン	(點心)	ピロージノエ(洋生菓子)	Пирожное
			コンフェクト(干菓子)	Конфекты
魚	ユイ	(魚)	ルイバ	Рыба
肉	ロウ	(肉)	ミャーソ	Мясо
ソーセージ	シヤンチヤン	(香腸)	カルバサー	Колбаса
卵	チイタン	(鷄蛋)	ヤイツォー	Яйцо
ビーフステーク	ニユーパイ	(牛排)	ビフシステークス	Бифштекс

ローストビーフ	カアオニユロ	(烤牛肉)	ジャーレノエミヤーソ	Жареное мясо
カツレツ	カツレツ		カトレータ	Котлета
オムレツ	オムレツ		ヤイーチニツァ	Яичница
スープ	タン	(湯)	スープ	Суп
豚肉	チユーロウ	(猪肉)	スウィニーナ	Свинина
ハム	ホウトイ	(火腿)	ウエツチナー	Ветчина
野菜サラダ	チンツアイサラダ	(青菜サラダ)	サラート イズ ゼレーニ	Салат из зелени
アスパラガス	アスパラガス		スパールヅャ	Спаржа
煙草	イエンヂヨル	(煙捲兒)	パピロース	Папиросы
葉巻	ルツンイエン	(呂宋煙)	シガーラ	Сигара
マッチ	ヤンフオア	(洋火)	スピーチカ	Спички
釣銭	ジヤオチエン	(找錢)	ズダーチャ	Сдача
お茶を一杯下さい	ニーナーイーペイチヤアライ	(你拿一杯茶來)	ダイチェムニェー スタカンチャーユ	Дайте мне стакан чаю
ウオツカを一杯下さい	ケウオイーペイウオクオシヤヲチユ	(給我一杯俄國燒酒)	ダイチェムニェー リームクーウオードキー	Дайте мне рюмку водки
マッチを下さい	ケエウオイーガヤンフオア	(給我一個洋火)	ダイチェムニェー スピーチキ	Дайте мне спички
勘定書を持つてお出で	ナーチヤンタンライパ	(拿賬單來罷)	プリネシーチェ スチョート	Принесите счет
みんなでいくら	コンツオンシトーシヤオチエン	(共總是多少錢)	スコリコ ザ フショウ	Сколько за все?

【旅行地にて】

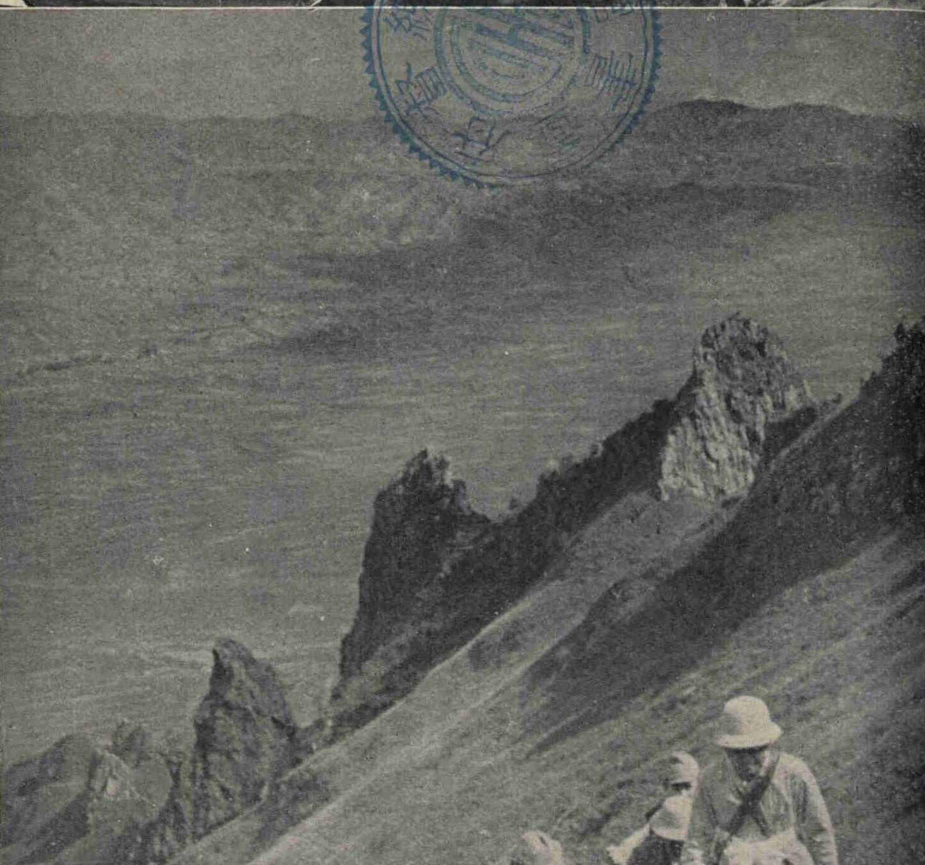
ホテル	ファンテイエン	(飯店)	ガスチーニツア	Гостиница
大使館	タアシクワン	(大使館)	パソォーリストウォ(又は)ポルプレドストウォ	Посольство, Полпредство
領事館	リンシークワン	(領事館)	コンスーリストウォ	Консульство

銀行	インハン（銀行）	バンク	Банк
商店	プーツ（舗子）	マガジン	Магазин
百貨店	パイホオテイン（百貨店）	ウニウェルサーリヌイ マガジン	Универсальный магазин
博物館	ボウウクワン（博物館）	ムゼイ	Музей
劇場	シイーコアンツ（戯館子）	テアートル	Театр
自動車	チイチヨオ（汽車）	アフトモビーリ	Автомобиль
乗合自動車	クオンコンチイチヨオ（公共汽車）	アフトブース	Автобус
馬車	マアチヨ（馬車）	イズウォーシチック	Извозчик
人力車	ヤンチヨ（洋車）		
運賃	チヨフエイ（車費） チアオチエン（脚錢）	プライェズドナヤ プラータ	Проездная плата
地圖	テイトウ（地圖）	ゲオグラフイーチェスカヤ カルタ	Географическая карта
税關	シユイクワン（税關）	タモージニャ	Таможня
この荷物を持つて下さい	タイチエガシンリチユイパ（帶這個行李去罷）	ウォジミーチェ エーチィ ウェーシチ	Возьмите эти вещи
運轉手、ホテルサボイへ	シーチ、シヤンサボイリウクワンチユイ（司機、上サボイ旅館去）	ショフエル、オテリ サボイ	Шофер отель Савой
こゝは何通りですか	チエシシエンマタオル（這是甚麼道路）	カークナズイワエッツァ エータウーリツア	Как называется эта улица?
もつとゆるりと行きなさい	マンテイエルツオーパ（慢點兒走罷）	パイェズジャイチェメードレンニェーエ	Поезжайте медленнее
室がありますか	ユウチエンウーツメイユウ（有間屋子沒有）	エスチ リ ウ ワススワボードナヤ コムナタ	Есть-ли у Вас свободная комната?
小さい明るい室を下さい	ケイウオチヤヲイチエンシヤオミンウーツ（給我找一間小明屋子）	ムニエー ヌジナー ネエボリシャーヤ スウエートラヤ コームナタ	Мне нужна небольшая, светлая комнаа
風呂を用意して下さい	ケイウオユイペイシーツアオシユイパ（給我豫備洗澡水罷）	プリガトーウィテェムニユー ワンヌウ	Приготовьте мне ванну

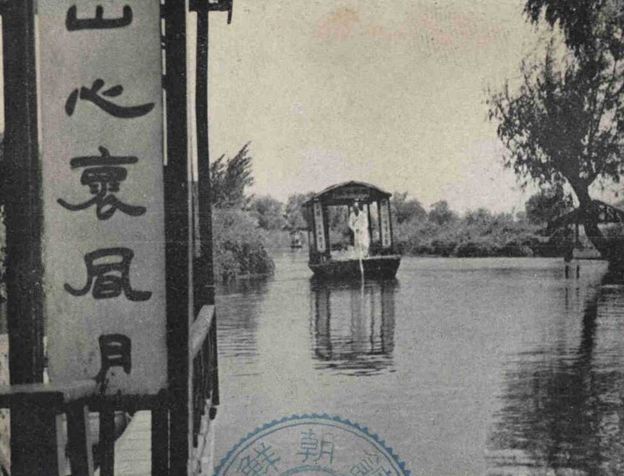
盧山
泰山
五臺山

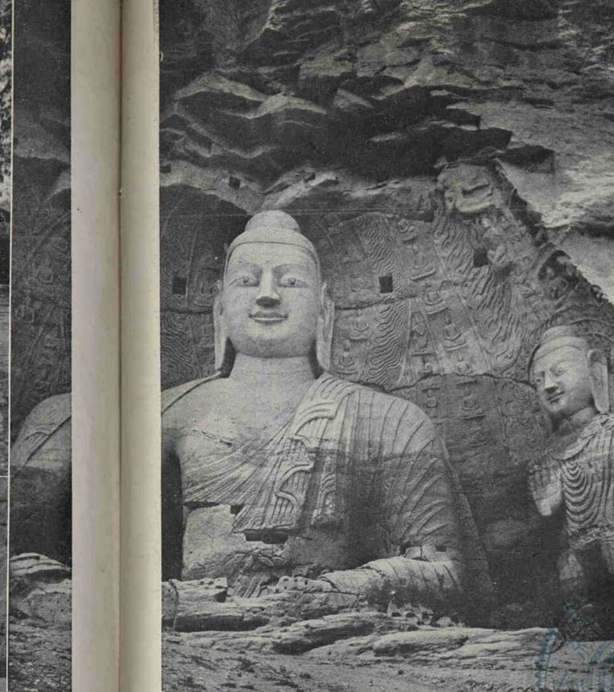


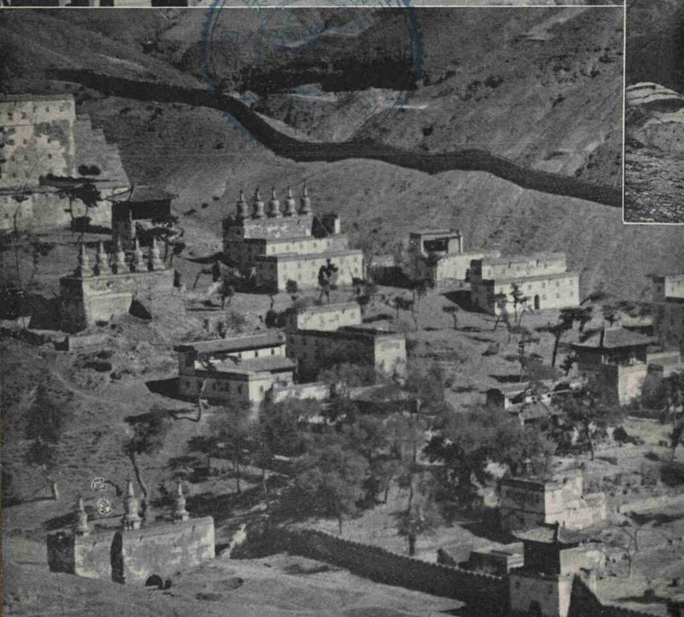




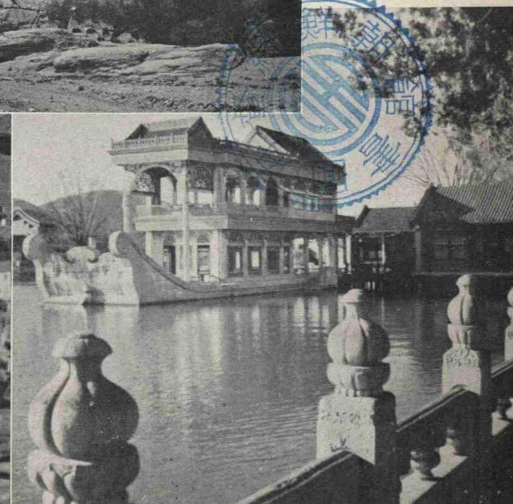
懷古









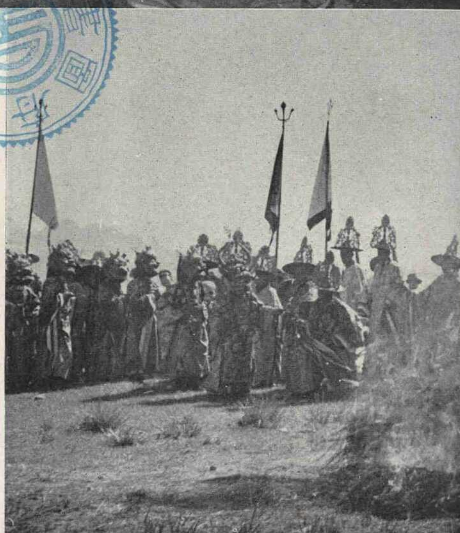


右上 大同石佛寺
右下 北京萬壽山
左上 濟南大明湖
左下 熱河普陀宗乘廟

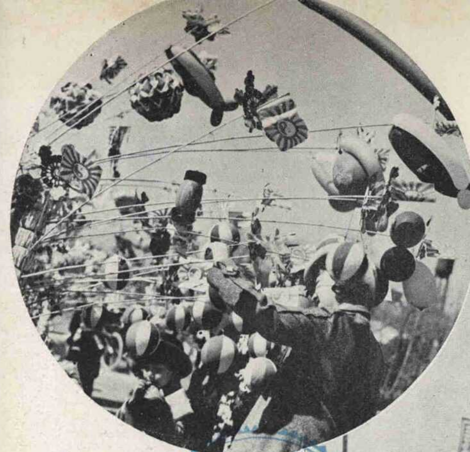
祭禮



—氷上祭—



—喇嘛廟會—



—神社春祭リ—





—娘々祭—

體育









學校

上 北京國立藝術專科學校

中 北京 新民學院

下 哈爾濱露人小學校


さくらフヰルム
旅の憶ひ出
それから それへ
スペシアルクローム
パンクロF
パンクロUSS
ライカ用パンクロF
赤外用
16ミリ、8ミリシネ用
東京室町三丁目
小西六
支店 大阪・福岡
京城・大連

北京篠塚工業所

入國入境取締規則

○要塞地帯法（抜萃）

第一章 總則

第一條 要塞地帯トハ國防ノ爲建設シタル諸般ノ防禦營造物ノ周圍ノ區域ヲ謂フ

第二條 要塞地帯ノ幅員ハ防禦營造物ノ各突出部ヲ連結スル線ヲ基線トシ此ノ線ヨリ外方一定ノ距離以内ニ於テ之ヲ定ム

第三條 要塞地帯ハ陸地ト海面トヲ問ハス之ヲ三區ニ分チ各區ノ幅員ハ左ノ區別ニ從ヒ陸軍大臣之ヲ定メ竝之ヲ告示ス其ノ他之ヲ變更スル場合亦同シ但シ陸軍營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域カ海軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域ト相關聯スルカ或ハ軍港要港又ハ海軍用地ニ係ル場合竝陸軍用地カ海軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域ト相關聯スル場合ニ於テハ陸軍大臣海軍大臣協議ノ上之ヲ定メ連署シテ告示ヲナスコトヲ要ス

第一區 基線ヨリ測リ二百五十間以内及基線ト防禦營造物間ノ區域

第二區 基線ヨリ測リ七百五十間以内

第三區 基線ヨリ測リ二千二百五十間以内

第四條 要塞司令官、鎭守府司令長官、要港部司令官及築城本部長ハ要塞地帯ヲ劃スル爲、其他必要ト認ムル場合ニ於テハ部下官僚ヲシテ要塞地帯内及第七條第二項ノ區域内何レノ地ヲ問ハス出入セシムルコトヲ得但シ陸海軍用地ニ出入セシメントスルトキハ互ニ當該官廳ノ承認ヲ經ヘシ

第二章 禁止及制限

第七條 何人ト雖モ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ要塞地帯内水陸ノ形狀ヲ測量撮影、模寫錄取シ又ハ要塞地帯内ヲ航空スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ要塞地帯外ト雖モ第三區ノ境界線ヨリ外方三千五百間以内ノ區域ニ於テ之ヲ適用ス

航空ノ許否ニ關シテハ要塞司令官ト陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 要塞司令官ハ要塞地帯内ニ入リ兵備ノ狀況其他地形等ヲ視察スル者ト認メタルトキハ之ヲ要塞地帯外ニ退去セシムルコトヲ得

第九條 要塞地帯ノ第一區ニ屬スル水面ニ在リテハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ漁獲、採藻及艦船ノ繫泊、土砂ノ掘鑿ヲナスコトヲ得ス

第十六條 各區内ニ於テ陸軍大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ新設若クハ變更スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

堤塘、運河、道路、橋梁、鐵道、隧道、永久棧橋

第三章 罰則

第二十二條 第七條及第九條ノ禁ヲ犯シタル者ハ一年以下ノ懲役若クハ十一日以上ノ拘留又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ二圓以上ノ科料ニ處ス

第八條ニ依リ要塞司令官ニ退去ヲ命セラレ其ノ命ニ從ハサルモノ亦同シ

第二十三條 第七條及第九條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二十四條 第十條乃至第十三條第十五條及第十六條ニ違反シタル者ハ四十圓以下ノ罰金又ハ二圓以上ノ科料ニ處ス

第二十五條 第十四條ニ違犯シタル者ハ二圓以下ノ科料ニ處ス

第二十六條 要塞地帯各區及第七條第二項ノ區域ヲ標示スル爲設ケタル標石、標木、標札ノ類ヲ移轉シ又ハ之ヲ毀壞シタル者ハ二月以下ノ懲役若クハ十一日以上ノ拘留ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ過失ニ出テタル者ハ二圓以下ノ科料ニ處ス

（備考）

日本に於ける要塞地帯は二十五區に分れ、その境界線も劃然と規定されてゐる。そして一歩右區域内に入れば直ちに要塞地帯法が適用せられる。滿洲及朝鮮方面に於ける要塞地帯は左の通りである。

第二十三區（旅順及大連） 大連灣及旅順灣を中心とする一圓。

第二十四區（鎭海灣） 釜山及鎭海を中心とする一圓京釜本線龜浦以南は要塞地帯である。

第二十五區（永興灣） 元山を中心とする永興灣及沿岸一帶の地域。

○軍機保護法施行規則（抜萃）

治安部令第八號

康德五年二月二十三日

軍機保護法施行規則

第一條　省略

第二條　軍機保護法第八條ノ規定ニ依リ左ニ掲グルモノヲ軍事機密物件又ハ軍事機密地域トス

一、機密兵器、軍用廳舍、軍用艦船、軍用航空機、軍用列車其ノ他ノ軍事上機密ニ屬スル物件及軍事ノ用ニ供スル鐵道ニ關スル施設

二、堡壘、砲臺、防備衞所其ノ他ノ國防ノ爲建設シタル防禦營造物

三、軍用港灣、軍用驛、軍用飛行場、軍需資源產出地、電氣通信所、軍需品工場、軍需品貯藏所其ノ他ノ軍事施設ニシテ現場ニ適宜標識又ハ標杭ヲ設ケ標示シタルモノ

四、前各號ノ物件、防禦營造物、軍事施設ニシテ其ノ試製、實驗、計畫又ハ築設中若クハ建設豫定地域ニ屬スルモノ

五、前三號ニ掲グルモノノ周圍又ハ軍事上特ニ祕密ヲ要スル地域

第三條　前條第五號ノ地域ハ之ヲ左ノ三種ニ分ツ

第一種地域　防禦營造物又ハ軍事施設ノ外周ヲ基線トシ之ヲ去ルコト二粁以內ノ地域

第二種地域　第一種地域ノ外側四粁以內及國境接壤地帶ニシテ現場ニ標識又ハ標杭ヲ設ケテ標示シタル地域

第三種地域　其他ノ地域

前項ノ第三種地域ハ更ニ之ヲ左ノ如ク區分ス

甲號地區　左ニ掲グル地域中第一種地域及第二種地域ヲ除キタル部分

間島省　琿春縣
牡丹江省　東寧縣、穆稜縣
三江省　蘿北縣、綏濱縣、同江縣、撫遠縣
東安省　饒河縣、虎林縣、密山縣
龍江省　龍鎭縣
黑河省　全部
興安北省　全部

乙號地區　附圖第二ニ示ス乙地域中第一種地域及第二種地域ヲ除キタル部分

丙號地區　鞍山、撫順、本溪湖各驛ヲ中心トシ其ノ周圍半徑六粁以內ノ地域

第一種地域、第二種地域及第三種地域甲號地區竝ニ乙號地區ヲ軍機保護法第十二條第五項ノ地域ト指定ス

第四條ヨリ第十條迄省略

第十一條　自己ノ領有シタル圖書物件ガ軍機上ノ機密ニ屬スルコトヲ知リタル者ハ軍機保護法第十一條ノ規定ニ依リ遲滯ナク最寄憲兵部隊又ハ警察官署ニ出頭シ當該圖書物件ヲ提示スベシ

第十二條　軍機保護法第十七條ノ規定ニ依ル沒收處分ハ治安部大臣ノ認可ヲ受ケ憲兵部隊長又ハ警察官署長之ヲ行フ

前項ノ沒收處分ハ憲兵部隊長又ハ警察官署長命令書ヲ交付シテ之ヲ爲スベシ

第十三條　第一種地域、第二種地域及第三種地域甲號地區(以下單ニ特別地區ト稱ス)內ニ居住スル者(以下單ニ居住者ト稱ス)ハ別紙第二號樣式ニ依リ所轄警察官署長ニ屆出デ居住證明書ノ發給ヲ受クベシ

居住證明書ノ有効期間ハ發給ノ日ヨリ二年トス

第十四條　居住者旅行又ハ移動スル場合ハ居住證明書ヲ携帶スベシ

居住者特別地區內ニ於ケル他ノ縣又ハ旗ヘ旅行スル場合ハ前項ニ依ルノ外其ノ旨豫メ所轄警察官署長ニ屆出デ證認ヲ受クベシ

第十五條　特別地區外居住者ニシテ特別地區內ヲ旅行セントスルトキハ別紙第三號樣式ノ旅行許可願二通ニ寫眞(六箇月以內ニ撮影シタル名刺型無帽半身)二葉ヲ添附シ所轄警察官署(已ムヲ得ザルトキハ最寄ノ警察官署)長ニ願出デ旅行許可書ノ發給ヲ受クベシ

但シ寫眞ヲ添附シ能ハザル事由アルトキハ其ノ旨所轄警察官署長ニ願出デ指紋ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

汽車又ハ航空機ニ據リ特別地區內ヲ通過スル者ハ前項ノ許可書ヲ要セス但シ旅行許可書ヲ有セザル者ハ其ノ地ノ警察官署長ノ許可ナクシテ停車場構外又ハ飛行場外ニ出ヅルコトヲ得ズ

第十六條　工事其他ノ事由ニ因リ多數ノ集團ヲ引率シテ特別地區內ヲ旅行セントスル者ハ前條第一項ニ依ル本人ノ願書ニ別紙第四號樣式ノ團體名簿二通ヲ添附シ所轄警察官署(已ムヲ得ザルトキハ最寄警察官署)長ニ願出ヅベシ

前項ノ願出アリタルトキハ所轄警察官署長ハ被引率者ニ對シ前條第一項ノ手續ヲ免除シ引率者ニ對シ集團旅行許可書ヲ發給スルコトヲ得

引率者ハ被引率者監督ノ責ヲ負フモノトス

第十七條　第十五條第一項又ハ前條第二項ノ旅行許可ヲ受ケタル者ニシテ已ムヲ得ザル事由ニ因リ旅行ノ徑路、行先地又ハ期間ヲ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ最寄警察官署長ニ屆出デ認諾ヲ受クベシ

第十八條　第十六條第二項ノ集團旅行許可ヲ受ケタル引率者死亡病氣其他已ムヲ得ザル事由ニ因ル旅行不能トナリタルトキハ被引率者ハ第十五條第一項ニ依リ新ニ旅行許可書ノ發給ヲ受ケ又ハ新ニ引率者ヲ定メ第十六條第一項ニ依リ最寄警察官署長ニ願出デ許可ヲ受クベシ

引率者ハ被引率者中前項ノ事由ニ因リ旅行不能トナリタル者アルトキハ遲滯ナク其ノ旨最寄警察官署長ニ屆出デ認可ヲ受クベシ

第十九條　業務其他ノ事由ニ因リ常時特別地區內ニ出入スル者ハ所轄警察官署長ニ願出デ定期旅行許可書ノ發給ヲ受クルコトヲ得

前項ノ許可出願ニ關シテハ第十五條第一項ノ規定ヲ準用ス

定期旅行許可書ノ有効期間ハ發給ノ日ヨリ一年トス

第二十條　第二十五條第一項、第十六條第二項又ハ前條ニ依ル旅行許可書ノ發給ヲ受ケタル者特別地區內ノ旅行ヲ終ヘタルトキハ遲滯ナク最寄警察官署長ニ旅行許可書ヲ返納スベシ

第二十一條　特別地區外居住者ニシテ特別地區內ヘ移住セントスル者又ハ第一種地域及第二種地域中國境接壤地帶以外ノ特別地區內居住者ニシテ第一種地域及第二種地域中國境接壤地帶內ヘ移住セントスル者ハ別紙第五號樣式ノ移住許可願二通ニ寫眞（六箇月以內ニ撮影シタル名刺型無帽半身）二葉ヲ添附シ所轄警察官署長ヲ經テ治安部大臣ニ願出デ移住許可書ノ發給ヲ受クベシ

前項ノ出願者家族又ハ同伴者アルトキハ各人每ニ寫眞二葉ヲ添附スベシ

第二十二條　前條ノ許可ヲ受ケタル者已ムヲ得ザル事由ニ因リ移住期間ノ延期ヲ必要トスルトキハ其ノ事由ヲ具シ最寄警察官署長ニ屆出デ認證ヲ受クベシ

第二十三條　居住者特別地區內ニ於テ移住セントスルトキハ所轄警察官署長ニ其ノ旨屆出ヅルト共ニ移住後二十日以內ニ其ノ地所轄警察官署長ニ屆出デ居住證明書ノ書換ヲ受クベシ但シ第一種地域及第二種地域中國境接壤地帶內ニ於テ移住セントスル者ハ改メテ第二十一條ノ手續ヲ爲シ許可ヲ受クベシ

第二十四條　居住者特別地區外ヘ移住セントスルトキハ所轄警察官署長ニ其ノ旨屆出ヅルト共ニ出境後遲滯ナク最寄警察官署長ニ居住證明書ヲ返納スベシ

第二十五條　第二十一條第一項又ハ第二十三條但書ノ許可ヲ受ケ移住シタル者ハ二十日以內ニ所轄警察官署長ニ屆出デ移住許可書ヲ返納スルト共ニ第十三條第一項ニ依リ居住證明書ノ發給ヲ受クベシ

第二十六條　本令ニ依ル許可書及證明書ハ之ヲ貸與、讓渡又ハ不正ニ使用スルコトヲ得ズ

第二十七條　居住證明書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ十日以內ニ其ノ旨所轄警察官署長ニ屆出デ再發給ヲ受クベシ

居住證明書ヲ旅行又ハ移動先ニ於テ亡失シタルトキハ最寄警察官署長ニ屆出デ證明書ノ發給ヲ受ケ歸著後前項ニ依リ再發給ヲ受クベシ亡失シタル居住證明書ヲ發見シタルトキハ直ニ其ノ旨最寄警察官署長ニ屆出ヅベシ

第二十八條　旅行許可書又ハ移住許可書ヲ亡失シタルトキハ直ニ其ノ旨最寄警察官署長ニ屆出デ證明書ノ發給ヲ受クベシ

前項ノ亡失屆ニハ旅行又ハ移住許可書ノ記載事項ヲ記入スベシ

第一項ノ證明書ハ之ヲ旅行又ハ移住許可書ト看做ス

第二十九條　居住證明書ノ有効期間滿了シタルトキ又ハ其ノ記載事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ一月以內ニ所轄警察官署長ニ屆出デ書換ヲ受クベシ

第三十條　當該官憲ハ特別地區內居住者、旅行者又ハ移住者ニ對シ何時ニテモ居住證明書、旅行許可書又ハ移住許可書ヲ査閱スルコトヲ得

第三十一條　居住又ハ旅行ニ關シ他ノ法令ニ依リ發給ヲ受ケタル證明書若ハ許可書又ハ法令ニ依リ認メラレタル證明書ハ別ニ定ムル所ニ依リ之ヲ本令ニ依ル居住證明書又ハ旅行許可書ト看做ス

第三十二條　治安部大臣ハ特別地區內居住者又ハ旅行者ニ對シ國防上必要アリ又ハ治安上害アリト認ムルトキハ其ノ居住又ハ旅行ヲ禁止又ハ制限スルコトアルベシ

第三十三條　第十三條乃至第三十一條ノ規定ハ軍人軍屬其他官公吏ニシテ正規ノ服裝ヲ著用シ又ハ所屬長發給證明書ヲ携帶スル者及十四歲未滿ノ者ニ對シテハ之ヲ適用セズ

第三十四條　以下ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一、第八條、第九條、第十四條、第十七條、第十八條第二項、第二十條、第二十二條乃至第二十九條ノ規定ニ違反シタル者

二、故ナク第十三條第一項ノ規定ニ依ル居住屆ヲ爲サザル者

三、第十六條第三項ノ引率者ニシテ被引率者ヲ逃亡セシメタル者

四、第三十條ノ規定ニ依ル取締官憲ノ査閱ヲ拒否シタル者

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

特別地域取締令ハ之ヲ廢止ス

特別地域取締令ニ依リ發給ヲ受ケタル居住證明書、旅行許可書及移住許可書ハ本令ニ依リ發給ヲ受ケタルモノト看做ス

（別紙第三號樣式）

旅行（定期旅行）許可願

（寫眞又ハ指紋）　契

氏名及別號
年齡
性別

一、本籍又ハ出生地

一、現住所
一、戸主トノ續柄
一、職業
一、旅行ノ目的
一、旅行徑路及行先地
一、旅行期間

右ニ依リ旅行（定期旅行）許可相成度寫眞添附此段願出候也

年　月　日

右　氏　名㊞

警察官署長　殿

（別紙第四號樣式）

團體名簿

番號	本籍又ハ出生地	現住所	被募地	職業	氏名	年齡	摘要

備考　一、本籍又ハ出生地ハ詳細ニ記入スベシ
　　　二、被募集團ハ勞働者ニ限リ之ヲ記入スルモノトス

（別紙第五號樣式）

移住許可願

一、氏名及別號
一、性別
一、生年月日及年齡
一、本籍又ハ出生地
一、現住所
一、戸主トノ續柄
一、民族
一、職業
一、宗敎
一、移住ノ目的
一、移住地
一、出發豫定年月日
一、家族其ノ他同伴者ノ氏名年齡職業及關係

右ハ依リ移住許可相成度寫眞添附此段願出候也

年　月　日

右　氏　名㊞

治安部大臣　殿

注意　上記軍機保護法施行規則に依れば第一種地域、第二種地域及第三種地域中の甲號地區旅行の際にのみ旅行許可書を必要とすることになつて居るが、最近乙號地區内各地に於て時期的或は地域的に甲號地區同樣旅行許可書の携行を必要とする地域が多くなつた爲許可書を携行する方が便利である。近き將來には乙號地區に旅行許可制度が實施せられるやも量られない狀態にある故、旅行者は乙號地區内旅行の際に於ても旅行許可書を携行する樣特に勸告する。これに伴ひ各地警察官署に於ては既に乙號地區旅行者に對して右許可書發給の取扱を開始してゐる。尙、日本よりの旅行者は大連、安東、圖們、奉天、新京、哈爾濱其の他特別地域外の警察官署に願出る事が出來る。此の場合には勿論身分證明書と寫眞が必要である。

○滿洲國人の渡日取扱規則

一　官公吏個人ノ場合
本人所屬公衙發給ノ身分證明書ヲ携帶スルコト

二　留學生ノ場合
民政部大臣發給ノ留學認可書又ハ駐日大使館發給ノ留日學生證明書ヲ携帶スルコト

三　一般民衆個人ノ場合
本人居住所轄警察署長發給ノ赴日身分證明書ヲ携帶スルコト但シ日本側ニ於テ勞働者ノ入國ヲ制限シ居ル關係上勞働者ノ渡日ニ對シテハ身分證明書ヲ發給セザルコト、若シ勞働者ト認ムルモノノ範圍ニ關シ日本側ト當國側ト意見ヲ異ニシ當國側ニ於テ勞働者ニ非ズト認メ身分證明書ヲ發給シタル者ト雖モ、日本側ニ於テ之ヲ勞働者ト認メタル場合ハ入國ヲ拒絕セラルルコトアルベシ

四　團體ノ場合
團體ヲ構成セル各人ハ其ノ官公吏タルト否トヲ問ハズ原則トシテ前記ノ如キ夫々當該身分證明書ヲ携帶シタル上

（1）官公吏及官署主催ニ依ル團體ニ在リテハ所轄官廳ヨリ一件書類添附ノ上總務長官ヘ旅行許可（康德四年四月總人人第一八三一號ニ依リ）ヲ申請スルコト
總務長官ヨリ許可アリタル團體ニ對シテハ外務局ヨリ駐日大使ヲ通ジ日本外務省ニ便宜供與方依賴ス

（2）一般民衆團體ニシテ日本旅行ニ付便宜供與ヲ受ケントスル場合ハ地方長官ヲ通シ一件書類ヲ外務局ニ提出シ外務局ハ駐日大使ヲ通ジ外務省ニ便宜供與方依賴ス

五　前記三ノ警察署長發給ノ赴日身分證明書ニハ本人ノ本籍又ハ出生地現住所職業氏名年齡赴日目的旅行期間行先地ヲ記載シ半身脫帽ノ寫眞ヲ貼附ス

六　本取扱ハ康德五年一月一日ヨリ實施ス

七　本取扱實施ノ上ハ從來外務局ニ於テ個人ニ對シ發給セル渡日證明書ヲ廢止ス

【別　表】（記載例）

第一〇號　赴日身分證明書
康德七年一月一日

住　所　吉林省永吉縣第五區何何屯堡何何甲門牌一號
職　業　農　業（保長）
氏　名　王　振　武　年　齡　二十八年

契……約……何何警察署印

第一〇號　赴日身分證明書

本籍又ハ出生地　吉林省永吉縣第五區何何屯　山東省掖縣何何村
住　所　吉林省永吉縣第五區何何屯堡何何甲門牌一號
職　業　農　業（保長）
氏　名　王　振　武　年　齡　二十八年
赴日目的　視　察
旅行期間　自康德七年一月一日至康德七年一月三十一日
行先地　下關、廣島、大阪、京都、東京、栃木

右係證明王振武赴日身分
康德七年一月一日
吉林省永吉縣
何何警察署長㊞

㊞
六箇月以内ニ撮影セル半身脫帽寫眞貼附（手札型）
取扱㊞

○滿洲國「外國旅券」規則

〔院令第三十一號〕

第一條　外國旅券ハ國內ニ在リテハ外務局長官國外ニ在リテハ本邦大公使、總領事又ハ領事之ヲ發給ス

第二條　旅券ノ下附ヲ申請セントスル者ハ左記書類ヲ國內ニ在リテハ居住地省長（首都警察廳管轄區域ニ在リテハ警察總監）國外ニ在リテハ前條所定ノ在外公館長宛提出スベシ

一、旅券下附願（別紙第一號書式）
二、身許申告書（別紙第二號書式）
三、外國在留者ヨリノ呼寄ニ關スル書信ヲ有スル者ハ該書信
四、其他參考トナルベキ書類アルトキハ該書類
五、寫眞三葉（最近六月以內撮影ノ手札形、無帽半身、無臺紙）

當該官署長ハ其ノ認定ニ依リ前項第二號書類ノ提出ヲ省略セシムルコトヲ得

第三條　公用ノ爲外國ニ旅行セントスル者及其ノ同伴セントスル家族又ハ從者ニ關シテハ本人ノ所屬長官ヨリ各寫眞二葉且從者ニ付テハ本人ノ身許保證書（別紙第三號書式）ヲ添附シテ外務局長官ニ公用旅券ノ下附ヲ請求スベシ（別紙第四號書式）

公用ノ爲外國ニ在ル者其ノ家族又ハ從者ヲ呼寄セントスルトキハ前項ニ準ズ（別紙第五號書式）

第四條　旅券ノ下附ヲ受ケタル後該旅券面記載ノ事項ニ變更ヲ生ジタルトキ其ノ他旅券ノ書替ヲ必要トスルトキハ事由ヲ具シ第二條所定ノ官署長ニ其ノ書替ヲ申請スベシ

第五條　旅券ノ下附ヲ受ケタル者旅券發給ノ日附ヨリ六月以內ニ出發セザルトキハ該旅券ハ其ノ效力ヲ失フ

第六條　旅券ノ下附ヲ受ケタル者歸國シタルトキハ該旅券ハ其ノ效力ヲ失フ

第七條　用務ノ爲本邦ト特定ノ地トノ間ヲ數次往復スル必要アリト認ムル者ニ對シテハ願出ニ依リ數次往復旅券ヲ下附スルコトヲ得

前項ニ於ケル特定ノ地トハ當分ノ間ソ聯邦極東領域各地ニ限ルモノトス

本旅券ハ發給ノ日附ヨリ三年ヲ經過シタル後始メテ歸國シタルトキ其ノ效力ヲ失フ

第八條　無效又ハ失效ノ旅券ハ遲滯ナク旅券發給ノ權限アル官署長ニ返納スベシ有效ナル旅券ト雖モ旅券發給ノ權限アル官署長ヨリノ命令アルトキ亦同ジ

第九條　旅券ヲ紛失シ又ハ滅失シタルトキハ直ニ其ノ旨旅券發給ノ權限アル官署長ニ屆出ヅベシ紛失シタル旅券ヲ發見シタルトキ亦同ジ

第十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三月以下ノ徒刑又ハ百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ旅券ヲ沒收ス

一、事實ニ相違スル記載又ハ申立ヲ爲シ其ノ他詐欺ノ行爲ヲ以テ旅券ノ下附ヲ受ケタル者及之ヲ幇助シタル者
二、他人名義ノ旅券ヲ使用シ又ハ之ヲ使用セシメ其他不正ノ目的ヲ以テ旅券ヲ授受シタル者及之ヲ幇助シタル者
三、本令ニ依リ旅券ヲ返納スベキトキニ之ヲ返納セズシテ使用シ又ハ事實ヲ僞リテ旅券ヲ紛失シ若ハ滅失シタル旨ヲ屆出デタル者

第十一條　旅券發給及書替ニ關シテハ左ノ手數料ヲ徵收ス

一　普通旅券	一葉每ニ	國幣五圓
一　數次往復旅券	同	國幣十圓
一　旅券書替	同	國幣三圓

前項諸手數料ハ外務局長官又ハ在外公館長ニ於テ必

要ト認メタルトキハ之ヲ免除スルコトヲ得

第十二條　前條ノ手數料ハ收入印紙ヲ以テ納入スベシ在外公館ニ於テハ別ニ定ムル換算率ニ從ヒ當該駐在國ノ貨幣ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

第十三條　本令ハ本邦內ニ生活ノ本據ヲ有スル無國籍人ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ康德五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

大同二年外交部令第一號外國旅券及外國人入國旅券査證規則竝ニ同部令第二號外國旅券及外國人入國旅券査證施行細則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

別紙第一號書式

外國旅券下附願

一　氏　　名

一　出　生　地（詳細記載スルコト）

一　所　在　地（同上）

一　身　　分（戶主ト家族トノ別、本人家族ナルトキハ戶主ノ氏名職業及戶主トノ續柄）

一　年　　齡（何年何月何日生）

一　職　　業（何種營業、關係事業、役名等詳細記載スルコト）

一　旅行目的地及經由地名（例ヘバ莫斯科經由佛國、新京發拔經由獨逸等ト記載スルガ如シ）

一　旅行目的（例ヘバ視察、留學、商用等ト記載スルガ如シ）

一　身　　量

一　特　　徵（外部ヨリ見ルコトヲ得ル身體ノ特徵一箇所、特徵ナキ者ハ「ナシ」ト記載スルコト）

一　出境地點（例ヘバ綏芬河、山海關等ト記載スルガ如シ）

一　出發豫定期日（何年何月何日）

一　歸國豫定期日（何年何月）

右ニ依リ外國旅券御下附相成度別紙何々書（第二條第一項第一號乃至第四號ニ該當スル書類）及寫眞三葉相添ヘ此段相願候也

年　月　日

住所

氏　　名（印）

省長（警察總監）宛

備　考

一　本邦大公使、總領事ニ提出スル旅券下附願ノ樣式ハ右ニ準ズルコト

二　夫ガ妻ヲ又ハ親ガ子ヲ同伴スル場合ハ其ノ氏名、年齡、身量及特徵ヲ夫々各人別ニ記載ノ上同一願書ニ依リ出願スルコトヲ得但シ右ノ場合ニ於テ妻ヲ夫ノ旅券ニ又ハ子ヲ親ノ旅券ニ併記方（數次往復旅券ノ場合ヲ除ク）希望ノ者ハ「某ヲ某ノ旅券ニ併記」ト氏名ノ項ノ下方ニ記載シ且全員合同撮影ノ寫眞三葉ヲ添附スルコト

別紙第二號書式

身許申告書

住所

氏　　名

年　月　日生

學　業

一　何年何月何日何學校卒業又ハ

一　何年何月ヨリ何年何月迄何所ニ於テ何何修業若クハ研究等

職　業

一　何年何月何會社事務員トシテ何所詰又ハ

一　何年何月以來何業ニ從事等

旅　行

一　何年何月何日何官署ヨリ旅券ノ下附ヲ受ケ何何ノ爲何國ニ旅行何年何月ニ歸國等

賞　罰

一　賞罰表彰等ノ事實

資　產

一　自己所有分

（イ）地所家屋價格　　圓

（ロ）商品價格　　圓

（ハ）貸金　圓預金　圓債券　圓現金　圓

（ニ）其他動產價格　　圓

合　計　　圓

一　戶主所有分（本人ガ戶主ナル場合ハ不要）（記載方前ト同ジ）

右ノ通相違無之候也

年　月　日

右　何　某（印）

省長（警察總監）宛

備考　本邦大公使、總領事又ハ領事ニ提出スル身許申告書ノ樣式ハ右ニ準ズルコト

別紙第三號樣式

身許保證書

住所

氏　　名

年　月　日生

右者拙者ノ使用スル從者ニシテ今般何國ヘ同伴又呼寄スル者ニ相違無之同人ノ身上ニ關シテハ一切當方ニ於テ責任ヲ以テ引受可致保證候也

年　月　日

官　職

氏　　名（印）

外務局長官宛

別紙第四號樣式

年　月　日

何部大臣(本人所屬長官)氏　名㊞

外務局長官宛

公用旅券請求ノ件

住所　官　職　氏　名
年　月　日生

住所　同伴スル妻　氏　名
年　月　日生

住所　同伴スル子　氏　名
年　月　日生

住所　同伴スル從者　氏　名
年　月　日生

右者官命ニ依リ左記ノ通外國ニ出張可致候ニ付公用旅券發給相成度寫眞二葉及身許保證書相添ヘ此段及請求候也

記

一　旅行目的地及經由地名

一　身量(各人別ニ記載スルコト)

一　特徴(各人別ニ外部ヨリ見ルコトヲ得ル特徴一箇所、特徴ナキ者ハ「ナシ」ト記載スルコト)

一　性別(各人別ニ記載スルコト)

備　考

一、官職名ノ英佛譯文一定セルモノハ該譯文ヲ官職名ノ傍ニ附記スルコト

二、一葉ノ旅券ニ數名ノ併記方申請セントスルトキハ其ノ旨ヲ追書トシ置クコト

三、身許保證書ハ從者ヲ同伴セントスルトキニノミ添附スルコト

別紙第五號書式

年　月　日

何部大臣(本人所屬長官)氏　名㊞

外務局長官宛

公用旅券請求ノ件

住所　何官職何某ノ妻　氏　名　年　月　日生

住所　何官職何某ノ子　氏　名　年　月　日生

住所　何官職何某ノ從者　氏　名　年　月　日生

右者公用ノ爲何國ニ滯在スル何官職何某ノ呼寄ニ依リ左記ノ通外國ニ旅行可致候ニ付公用旅券發給相成度寫眞二葉(及身許保證書)相添ヘ此段及請求候也

記

一　旅行目的地及經由地名

一　身量(各人別ニ記載スルコト)

一　特徴(各人別ニ外部ヨリ見ルコトヲ得ル特徴一箇所、特徴ナキ者ハ「ナシ」ト記載スルコト

備　考

一、官職名ノ英佛譯文一定セルモノハ該譯文ヲ官職名ノ傍ニ附記スルコト

二、子ヲ母ノ旅券ニ併記方希望スルトキハ其ノ旨ヲ追書シ置クコト

三、身許保證書ハ從者ガ呼寄セラルルトキニ限リ添附スルコト

○滿洲國「外國人旅券査證」規則

〔昭和十三年九月二十日院令第二十六號〕

第一條　本邦ニ入國セントスル外國人ハ條約又ハ慣行ニ依リ旅券査證ヲ必要トセザル者ヲ除キ豫メ旅券(又ハ國籍證明書)ニ本邦駐外官署又ハ駐大連外務局辦事處ノ入國査證ヲ受クルコトヲ要ス但シ已ヲ得ザル事由ニ因リ右官署ノ査證ヲ受クルコト能ハザル者ハ別ニ指定スル地點ノ一ニ於テ外務局ノ入國査證ヲ受クルコトヲ得

第二條　本邦人ニ對シ出國査證ヲ要求スル國ノ國民ニシテ本邦ヨリ出國セントスル者ハ豫メ別ニ指定スル地點ノ一ニ於テ外務局ノ出國査證ヲ受クルコトヲ要ス但シ第四條ノ定期査證ヲ以テ本邦ヲ常時出入國スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條　本邦ヲ通過セントスル外國人ハ入國及出國ノ査證ニ代ヘ通過査證ヲ受クルコトヲ得

第四條　本邦ヲ常時出入國セントスル外國人ハ定期査證ヲ受クルコトヲ得

第五條　本令ニ依リ査證ヲ受ケントスル者ハ所定ノ手數料ヲ納付スベシ

第六條　本令ニ於テ駐外官署トハ大使館、公使館、總領事館、領事館、通商代表部、代表部、通商代表部辦事處及代表部辦事處ヲ謂フ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

康德四年院令第三十二號外國人入國旅券査證規則ハ之ヲ廢止ス

▽滿洲國及關東州內定住外國人ニ對スル旅券査證辦法

〔國務院訓令第一號〕

一　本邦內ニ生活ノ本據ヲ有シ且所轄警察官署發給ノ現ニ有效ナル居留證明書ヲ有スル者ニ對スル査證ハ無料トス

一　關東州內ニ生活ノ本據ヲ有シ且所轄警察官署發給

ノ現ニ有效ナル居留證明書ヲ有スル者ニ對スル査證料ハ入國及通過共國幣二圓トス

一　關東州内ニ生活ノ本據ヲ有スル者ニ對スル多次有效入國査證竝ニ有效期限ハ下記ノ通之ヲ定ム

多次有效入國査證　料金每件國幣十圓査證ノ日附ヨリ六月間有效

▽北支經由外人旅客の滿洲國入國査證に就て

日本國人及中華民國人以外の外國人にして滿洲國に入國するときは、必ず旅券査證を受くべきものにして無査證の儘山海關に至り入滿を拒否せられたる事例多きにつき注意を要する。北支に於ける旅券査證機關は左の通りである。

一、滿洲帝國通商代表部　北京南海公園

二、滿洲帝國通商代表部天津辦事處　天津宮島街三四

三、滿洲帝國通商代表部濟南辦事處

濟南商埠地二路六六

▽蒙疆地域外人居住旅行規定

第一條　本規定ノ外人トハ日本、滿洲及新支那ニ國籍ヲ有スルモノ以外ヲ謂フ

第二條　本規定ハ蒙疆地方ノ特殊事情ニ基キ日本人ノ利益ヲ害セザル如ク外人ノ居住及旅行ニ關シ其生命財產ヲ保護スルヲ主張トシテ規定ス

第三條　蒙疆地域ニ於テ外人ノ居住及旅行（入蒙ヲ除ク）ニ對スル業務ハ左記機關ニ於テ之ヲ司ル

一、居住ニ關シテハ張家口、大同及厚和ニ在ル各自治政府（現政廳）トス

二、旅行ニ關シテハ張家口、大同、厚和及包頭ニアル各特務機關トス

前項以外ノ地ニ在リテハ其他若クハ最寄日本軍隊トス

第四條　外人居住ノ手續ニ關シテハ各政府ノ定ムルトコロニ依ル

第五條　外人ニシテ蒙疆地域内ヨリ京津地方ヘ旅行セントスルモノハ第三條第二項ニ揭グル機關ノ發行スル旅行證明書ヲ所持スルヲ要ス前項旅行證明書ノ發給ヲ受ケントスルモノハ居留證明書（パスポート）及本人ノ寫眞ヲ添ヘ、旅行ノ目的、行先、經路、期間等ヲ述ベテ願出ルモノトス

旅行途中既ニ發給セラレタル旅行證明書ノ期間、行先、經路等ヲ變更スルノ已ムナキニ至リタル時ノ手續ハ前項ニ準ズ

第六條　外人ニシテ旅行中其地ニ於テ憲兵、警官ハ勿論日本軍將校ヨリ居留證明書及旅行證明書ノ提示ヲ求メラレタル時ハ之ニ應ズルヲ要ス

第七條　凡テ證明書ハ其有効期間滿了後速ニ發行機關ニ返納スルヲ要ス

但シ止ムヲ得ザル事情ニヨリ發行機關ニ至ルコトヲ得ザルモノハ最寄日本軍機關ニ返納ヲ依託スルコトヲ得

○入蒙者取締規則

昭和十三年七月一日より蒙古地帶旅行者の身邊保護の目的から次の通り入蒙者取締暫行規則を制定實施されてゐる。爾後蒙古方面旅行者は豫め在張家口兵團本部關東軍司令部又は特務機關の許可を受ける樣注意を要する。

入蒙者取締暫行規則

一、本規則ニテ入蒙者トハ「滿洲蒙古」及京包線沿線以外ノ蒙古地域ヲ旅行スルモノヲ云フ。

二、日本陸軍以外ノ要務ヲ以テ察南晉北其他京包線沿線或ハ滿洲國ヨリ入蒙セントスル者ハ身邊ノ保護其他ノ必要上當分努メテ之ヲ制限スルヲ方針トシ之ニ關スル取締ハ次記各項ニ依リ實施スルモノトス。

三、入蒙ヲ希望スル者ハ豫メ在張家口兵團本部若クハ關東軍司令部ノ許可ヲ得ルヲ要ス。

然シ已ムヲ得ザル事情アル者ニ對シテハ次記諸官署ニ於テ身元、入蒙ノ目的（但シ一切營利ヲ目的トセザル公用又ハ學術上ノ研究、調査等ニ限ル）其ノ他所要事項ヲ調査シ、差支ヘナシト認メ本人ガ入蒙後ノ心得實行ヲ承認シタ場合ニ於テ入蒙ヲ許可スルコトヲ得。此ノ場合蒙疆地區ニ於テハ特務機關ガ許可シ滿洲國側ニテハ入蒙ヲ希望スル日滿兩國官公吏、協和會職員、滿鐵、滿鐵鐵道總局、滿電電、滿空、大東公司、興中公司、電業等ノ從業員ニ對シテハ當分ノ間其ノ所屬長（長官、社長及之ニ準ズル者）ガ身分證明書ヲ發給シ入蒙ヲ許可スルモノトス。

四、入蒙希望者ハ身邊ノ保護其他ノ必要上次記諸件ノ實行ヲ承諾スルヲ要ス

（イ）　入蒙者ハ直チニ現地最寄ノ特務機關若クハ警務機關ニ屆出デ、其ノ指示ニ從フヲ要ス。

（ロ）　入蒙者ハ蒙古人ニ損害ヲ與ヘ又ハ誤解、惡感ヲ招クガ如キ一切ノ行動ヲ禁ズルヲ要ス。

（ハ）　入蒙者ニ當分ノ間蒙古内ニ於テ營利ヲ目的トスル事業ノ經營ヲ許サザルモノトス。

（ニ）　入蒙者ハ其ノ用務ヲ終ヘタ後ハ速カニ蒙古ヨリ立退キ入蒙許可ヲ受ケタル機關ニ對シ必要ナル報告ヲナスモノトス

○北支方面旅客及移住者旅行手續

滿洲國及關東州より北支方面に旅行（移住）せんとす

る左記以外の日本人は所轄警察署長（軍關係者は憲兵隊長）發行に係る身分證明書を所持せざれば日本官憲により入國を拒否せられることになつて居るから注意を要する。

（1）制服着用ノ日本軍人、軍屬、關東局、日本大使館、警察官吏、日系滿洲國軍人及警察官吏

（2）日滿兩國官公吏、協和會職員、滿鐵及鐵道總局、滿洲電信電話、滿洲電業、滿洲航空ノ從事員ニシテ所定ノ身分證明書ヲ所持スルモノ

（1）關係當局取扱要領

（一）管內居住ノ內鮮人中次ニ揭グル以外ノモノニシテ北支ニ旅行、移住セントスルモノニ對シテハ別紙樣式ノ身分證明願ヲ提出セシメ、所要ノ調査ヲナシタル上身分證明書ヲ發給ス。

（イ）左ノ者ノ旅行、移住ニ對シテハ身分證明書ヲ要セズ。

制服着用ノ日本軍人、軍屬、關東局、大使館、警察官竝日系滿洲國軍官及警察官。

（ロ）左ノ者ニ對シテハ當分ノ間其ノ所屬長ニ於テ身分證明書ヲ發給スルモノトス。

日滿官公吏、協和會職員、滿鐵及鐵道總局、滿洲電信電話、滿洲電業、滿洲航空等ノ從業員。

（ニ）大連水上、營口、安東警察署ニ於テハ前項身分證明書ノ提示ヲ求メ、之ヲ所持セザル者ニ對シテハ上陸不可能ナルベキ旨ヲ說示シテ乘船ヲ阻止ス。

（ホ）內地、朝鮮ニ對シテモ關東軍ヨリ聯絡セル趣ニテ管外居住ノ內鮮人ニ對シテハ原則トシテ關係名廳所轄署ニ於テ證明書發給ノ筈ナルモ、若シ願出アリタル場合ハ昭和十二年二月十三日附關機高第一〇九二號「一時滯在者ニ對スル特殊地帶旅行移住證明書發給方ニ關スル件」ノ要領ニ準ジ便宜扱ヲナスコト。

（2）證明標準

（一）現ニ戶口調査簿ニ登錄セラレ身元確實ナル者

（二）業務上又ハ家庭上其他眞ニ必要ト認ムル者

（三）禁制品取扱ノ虞ナキ者

（四）國防又ハ治安ノ害無シト認メタル者

（3）證明手數料

徵收セズ

（4）報告

每月ノ證明書發給竝拒否ニ日、鮮別ニ計上シ職業、目的、徑路、行先地ノ概要其他特記事項等翌月五日迄ニ報告ノコト

（5）願出樣式

（第一號樣式）

北支旅行身分證明書

一　本　籍

二　現住所

三　職業、氏名、年齡

四　旅行ノ目的又ハ理由

五　旅行期間　昭和　年　月　日自
　　　　　　　　　　　　月　日至

六　旅行徑路及行先地

右ニ依リ旅行致度此段及願出候也

年　月　日

右　氏　名㊞

所轄警察署長殿

（第二號樣式）

北支移住身分證明願

一　本　籍

二　現住所

三　職業、氏名、年齡

四　移住目的

五　移住地

六　家族其他同伴者氏名、年齡、職業及本人トノ關係

右ニ依リ移住致度此段及願出候也

年　月　日

右　氏　名㊞

所轄警察署長殿

○支那行定期旅行者身分證明書（關東州）

從來の北支（或は青島、上海方面）旅行身分證明書は一回限り有効で再度使用を禁ぜられてゐたが、再三渡航するもの、便を計つて所轄警察署に於て定期旅行身分證明書を發給されてゐる。證明願樣式は次の通り

（手札型上半身寫眞）

北支 上海方面 定期旅行者身分證明願

一　本　籍

二　現住所

三　職業、氏名、年齡

四　旅行ノ目的又ハ理由

五　有効期間昭和十五年　月　日自
　　　　　　　　　　　月　日至

六　旅行徑路及行先地（旅行地域）

右ニ依リ旅行致度保證人連署此段及願上候也

右願出人　氏　名㊞

保證人　本　籍
　　　　現住所　職業　氏　名㊞

○大連經由渡支證明に就て

一　天津及上海行旅客

(イ)　日本人は天津或は上海總領事館又は所轄警察署發給の旅行證明書を要す、但し日本軍人、軍屬、日滿官公吏及公用に依り旅行する滿鐵社員は其の所屬證明書のみにて可

(ロ)　滿支人は所轄警察署の居住證明書又は旅行證明書を要す。

(ハ)　外國人は自由

二　靑島行旅客

(イ)　日本陸海軍及外務省關係の內何れかの證明書を要す。

(ロ)　日本人一般旅行者所轄警察署の旅行證明書を要す。

(ハ)　滿支人は所轄警察署の居住證明書又は外國旅行證明書を要す、但し右證明書を有せざるものは大連水上署の許可を要す。

(ニ)　外國人は旅行劵のみにて可。

○支那人渡日に就て

最近日本內地に入國せんとする支那人の取扱は次の條件を具備せざる者は入國を禁止せられることになつた。尙滿洲國人(在滿永住支那人を含む)に對する取扱は從來通りである。

渡日條件

一、新政府(地方治安維持會を含む)所屬官公吏の場合は所屬官公署發給の身分證明書及在支日本帝國官憲の證明書又は紹介狀所持のこと。

(第一號樣式參照)

二、日本帝國官憲の特殊任務を帶びたる者の場合は該要務を帶びたることを判別し得る日本帝國官憲の紹介狀所持のこと。

三、關東州內永住者及び內地在泊船に乘組みのため渡航する船員の場合は在關東州警察署發給渡航證明書及び見せ金一名一〇〇圓宛所持のこと。

四、その他は新政府及び在支日本帝國公館長の證明書及び見せ金一名一〇〇圓所持のこと。

(第二號樣式參照)

五、次の者は上記の證明書なくとも上陸を許可せられる。

(イ)　本年五月一日以降日本內地學校發行在學又は留學證明書所持の再渡航學生。

(ロ)　本年五月一日以降の日本內地居住地所轄警察署發給外國人登錄簿抄本所持の再渡航者。

(ハ)　五月二十日以後一時歸國せんとする日本在住支那人にして再入國差支へなしと認められる者には居住地所轄警察署に於て一時歸國證明書を發給してゐたが、これは再入國許否判定の資料とされるものでなく、今後は內地上陸には必ず中國新政府及在日本帝國公館長の證明書の所持を要することゝなつた。

(第一號樣式)

身分證明書

寫眞

官職　氏名

年齡

一、渡日用務

右證明ス

年　月　日

所屬官公署長㊞

右證明ス

年　月　日

在支日本帝國公館長氏名㊞

(第二號樣式)

渡日證明書

寫眞

本籍

現住所

職業　氏名

年齡

一、渡日目的

一、行先地名又ハ旅行地域

右證明ス

年　月　日

(新政權當局者)官職氏名㊞

右證明ス

年　月　日

在支日本帝國公館長氏名㊞

○海州行日本人入域心得

一、今次、聖戰ノ目的ヲ確認シ私ヲ滅シ積極的ニ皇軍ニ協力スルハ勿論、官憲ノ命令ニ對シテハ絕對ニ服從スルコト

二、日本人トシテノ體面ヲ堅持シ支那人ニ對シテハ善意ヲ以テ之ヲ誘導シ東亞和平ノ理想鄕建設ノ一分子トシテ勉勵スルコト

三、土地家屋其ノ他支那人トノ間ニ各種契約ヲ爲サントスル時ハ一々憲兵隊ノ證認ヲ得テ之レヲ行ヒ決シテ個人間ニ自由契約ヲ行ハザルコト

四、通貨ハ一切軍票ヲ使用スルモノトス、依テ所持金ハ豫メ靑島及徐州ノ陸軍部隊本部ニ於テ交換スルコト

五、入域許可願及經歷書ハ各三通ヲ準備シ一通ハ本人所持シ殘リノ一通ハ到着後海州憲兵分隊ニ差出スモ

ノトス

六、入域許可願及經歷書用紙ハ青島及徐州ノ陸軍特務機關ニ於テ受領スルモノトス

七、其ノ他不審ノ點ハ青島及徐州兩陸軍特務機關ニツキ聽取スルコト

八、入域前ニ必ズ種痘ヲナシ猶成ル可ク「チブス」「パラチブス」ノ豫防注射ヲナシテ來ルコト

九、現地ハ物資缺乏シアルニ付各自努メテ多ク携行スルコト

○海南島渡航注意

一、諸官省官吏を除く普通渡航客に限り海軍省軍務局第二課又は臺灣總督府海軍武官室よりの渡航證明書交附が必要なり。

二、海南島上陸は次に依るべき旨同島關係當局より指示及告示があつた。

(イ) 碇泊場司令指示

一、日本人船客ノ上陸ハ在泊中ノ陸上視察ニ限リ情況ニ依リ許可スル事アリ

一、上陸スル者ハ所要各種豫防注射ヲナシ居ル事ヲ要ス

一、陸上ノ買物ハ軍票ニ限ルモノトス

一、其他軍側ノ取締ヲ嚴守スルモノトス

(ロ) 海口領事館告示

本島ニ於テ左記ノ事項ヲ禁ズ、之ニ違反シタル者ハ相當處分ス但シ軍部及當館ノ許可又ハ諒解アル者ハ此ノ限リニ非ズ

一、軍人軍屬ニ紛ハシキ服裝

一、戰鬪帽ヲ使用スル事

一、銃器及刀劍ヲ携帶スル事

(ハ) 尙所要各種豫防注射とは次の通りである

一、種痘證明書

一、コレラ豫防注射完了證明書

一、ペスト豫防注射完了證明書

○海外旅費自由携帶額引下(日本)

一、大藏省では上海方面に於ける圓貨對策として又本邦外貨資金の節約乃至確保をはかる目的を以て外國爲替管理に關する大藏省令を改正し外國旅行者旅費携帶の自由限度を左の如く改正昭和十四年七月一日より實施した。

(1) 外國旅行者ノ旅費携帶ニ關スル自由限度ヲ通貨、送金爲替及信用狀ヲ通ジ五百圓ニ引下グルコト

(2) 在外者ニ對スル旅費其他ノ諸給與送金ニ關スル自由限度ヲ一ケ年五百圓ニ引下グルコト

(3) 本邦銀行券ノ輸入ハ旅行者ガ二百圓以下ヲ携帶輸入スル場合オヨビ官廳ノ輸入スル場合ヲ除キスベテ許可ヲ要スルコト

(4) 本邦マタハ外國ノ銀行券ヲ輸入スルモノハソノ輸入報告書ヲ稅關ニ提出スルコトヲ要スルコト

二、改正省令施行に當り注意せられたき事項その他左の如し

(1) 外國旅行者ハ從來通貨一千圓、送金爲替オヨビ信用狀一千圓合計二千圓マデノ旅費ヲ自由ニ携帶シ得タルモ今後ハ通貨、送金爲替、信用狀ヲ通算シテ五百圓ヲ超ユル場合ハ許可ヲ要スルモノナルコト

(2) 旅費ノ携帶ハナルベク信用狀マタハ送金爲替ヲ利用シ通貨ノ携帶ヲ小額ニ止メラレタキコト

(3) 旅費携帶ニ關スル許可申請書ハ從前通リ日本銀行支店ニ提出スベキモノナルコト

(4) 滿洲及支那向旅行者ノ手續ヲ簡易迅速ナラシムルタメソノ旅行費携帶ニ關スル許可ハ原則トシテ日本銀行ニ限リ處理スルコト

(5) 滿洲向旅行者ノ旅費携帶ニツイテハ正常ト認メラルル限リ寛大ニ許可スル方針ナルコト。

(6) 五百圓ヲ超ユル旅費ヲ携帶シテ外國ニ旅行セントスルモノハナルベク許可ヲ受ケタルノチ乘車船劵ヲ購入スルヤウ注意セラレタキコト

(7) 旅費携帶ニ關スル爲替オヨビ信用狀取引ノ許可ヲ受ケ七月一日以後出發スルモノハソノ通貨携帶ニツキサラニ別途許可ヲ受クルヲ要スルヲモツテ至急コレガ申請ヲナサレタキコト

(8) 本邦銀行券輸入ニ關スル許可申請書ハ輸入地稅關ニ提出スベキモノナルコト

(9) 旅行者ノ本邦銀行券ノ携帶輸入ニ關スル許可ハ原則トシテ稅關ニ限リ處理スルコト

(10) 滿洲、支那ヨリノ本邦向送金ニツイテハ極力爲替送金ヲ利用シ銀行券ノ送付マタハ携帶ニヨルコトヲ避クルヤウ特ニ注意セラレタキコト

(11) 本邦マタハ外國ノ銀行券ヲ携帶輸入スルモノハ入國ノ際郵便ナドニヨリ送付ヲ受ケタルモノハ二週間內ニ所定ノ樣式ニヨル報告書ヲ稅關ニ提出スベキモノナルコト

○海外旅費持出制限(滿洲國)

一、從來通貨の海外持出許可不要範圍は現金、信用狀通算一、五〇〇圓であつたが、これを五〇〇圓に引下げた。

二、通貨の國外よりの持込額は從來自由であつたが今後は四〇〇圓以上の持込には政府の許可を要する。

三、一〇〇圓紙幣の國外持出は許可制とする。

(昭和十四年八月一日實施)

○通貨持出持込制限(臨時政府)

一、外國通貨ヲシテ華北管轄地域內ヲ通過セシメル時ハ五百元ヲ限度トシソレ以上ハ臨時政府ノ許可ヲ要スル、但シ日滿兩國ノ許可アリタルモノハコノ限リニアラズ

二、許可書ハ海關監督公署ト各省公署ニオイテ發行スル

三、違反者ハ該通貨ヲ沒收スルトトモニ五倍ノ罰金ニ處スル

(昭和十四年八月三日公布)

○滿洲發東亞各地旅行必携證明書

行先		身分證明書	種痘證明書	コレラ豫防注射證明書	ペスト豫防注射證明書	其他
支那	天津	必要	希望	希望		
	北支一帶	同	注意	注意		
	青島	同	同	必要		
	上海	同	必要	同		
	漢口	同	同	同		
	廣東	同	同	同		
	海南島	同	同	同	必要	(チブス豫防注射證明書必要)
蒙疆	蒙疆	必要	注意			
滿洲	南滿					
	北滿	希望			(冬期注意)	
	滿洲國境	必要				
日本	日本	滿支露人必要				
	臺灣	同	必要			
	沖繩	同	同			

備考

一 證明書ノ携行ナキモノニハ乘車船券ノ發賣ヲナサズ
二 身分證明書ハ行先及資格ニヨリ異ル
三 各種豫防注射ハ一ケ月以内ニ行ヒタルモノ
四 本表中(希望)及(注意)ノ箇所ハ時期的ニ必要トナルモノニ付平常モ携帶ノコト
五 滿洲特別地域、北支奥地、中支奥地、蒙疆奥地、南支、漢口、廣東、海南島等旅行ノ際ハ軍關係ノ許可ヲ必要トス(奥地トハ鐵道沿線以外ノ謂ナリ)
六 外國人ハ旅券若クハ國籍證明書又ハ之ニ代ルヘキ證明書ヲ必要トシ、特別地域旅行ノ際ハ軍又ハ警察署ノ許可ヲ要ス

○支那發赴日及入滿必要證明書

團體及個人の赴日及入滿に必要な證明書は次の通りである。

人種	日本人	蒙疆人	滿洲人 支那人	外國人
必要證明書の種類	身分證明書	渡日證明書 入滿證明書	同上	渡日證明書 旅行證明書
發給箇所	日本大使館	居住地管轄政府にて査證の上日本領事館、又は大使館、通商代表部、蒙疆代表部	同上	日本大使館、滿洲國通商代表部、蒙疆通商代表部
被發給手續(所要日數)	被發給者に對し嫌疑なき時は用務の如何により直に發給す	同上	同上	自國大使館發行の身分證明書居住證明書を日本大使館及所管日本領事館に提示し渡日證明書を受け通商代表部にて査證す
被發給資格				
査證箇處又は検査箇所	赴日—天津、山海關、大連、安東 入滿—山海關、古北口	同上	同上	同上
其の他必要事項		通商代表部入滿手數料は要せず	同上	通商代表部査證手數料として入滿の場合一〇圓 通過の場合一二圓を受く
上記以外の必要證明書	身分證明書、居住證明書は携帶する方無難である	同上	同上	同上

○東亞旅行者撮影要覽

遊覽箇所		一般旅行者寫眞撮影制限	市中撮影禁止箇所	職業寫眞屋出張の有無	旅行記念スタンプ備附有無及料金
大連	滿洲資源館	內部撮影は館內事務所の許可を要す		無	
	(ロシア町を含む)	大連は要塞地帯内に在る關係上寫眞機携帶者にして撮影許可證所持なき者は撮影を許さず特に許可證所持者と雖撮影後必ず憲兵隊に於て検査を要するに付視察旅行者の寫眞機携帯は之を禁じられて居る			
	工業博物館			無	有 無料
	大連港及埠頭			無	有 無料
	油房			無	有 無料
	碧山莊(苦力收容所)			無	無
	滿鐵本社			無	有 無料
	大廣場			無	無
	大連醫院			無	
	大連神社			無	
	中央公園			有	有(心附五錢)
	忠靈塔				
	中央試驗所			シーズン中のみあり	有 無料
	露天市場			無	
	星ヶ浦			有	
	老虎灘			無	有(但ヤマトホテル)

鞍山	昭和製鋼所	工場地區構内は不可		無	有 無料
	鞍山神社	可		無	有 無料
	忠魂碑	可		夏季中のみあり	無
	東方連山、遊覽道路	可		無	無
奉天	奉天神社	可	造兵所、飛行場、驛第四ホーム附近 其他軍關係造營物	無(但し近傍に寫眞屋あり)	有 無料
	忠靈塔	可		無(同)	有 五錢(小學生無料)
	國立博物館	內部(本屋內部陳列所)は不可、外部は自由撮影可但し特に內部撮影希望の者は館長證明書を要す		無	有 無料
	同善堂	可		無	有 無料
	北陵	可(但し營利を目的とせず小型カメラにて撮影する場合)		旅行シーズン中のみあり	有 十錢
	北大營	可		無	無
四平街	海豐屯	可		無	無
	半拉山門	可		無	無
	日露媾和條約最終協定記念館	可		無	無
新京	大同廣場	可	無電局 國際飛行場(格納庫も含む) 其他軍關係造營物は絕對不可	無	有 無料
	宮內府	可		無	內部に備附あるも一般學生には不可
	南嶺	可(但し軍關係機物は許可を要す)		有	
	關東軍司令部	不可		無	有 無料
	新京神社	可		無	有 無料
	忠靈塔	可		無	有 無料
	寬城子	可(但し軍關係機物以外のものとす)		無	
營口	營口神社	可		無	無
	東亞煙草	可		無	無
	營口防衞記念碑	可		無	無
	河南埠頭附近	可		無	無
	楞嚴寺	可		無	無
	舊砲臺	可		無	無
撫順	炭礦事務所	可	各主要工場及發電所竝軍關係造營物 一般空中寫眞、鐵道狀況	無	無
	古城子露天掘	制限あり 許可を要す		無	無
	製油工場	不可		無	有 無料

安東	鴨綠江鐵橋	不可(橋梁上・下三百米以內を禁ずるも之れ以外の江岸は差支なし)		無(但し市中より直ぐ呼ぶことを得)	無
	鴨綠江合同製材第一工場	可		無	有 無料
	燐寸工場	可		無	無
	鴨綠江製紙會社	可		無	無
	鎭江山	可		花見シーズン中のみあり	無
	安東神社	可		同	無(但朱印有り五錢)
	柞蠶工場	可		同	無
	元寶山	可		同	無
圖們	東光山	可(但し市街の展望寫眞撮影不可)	市街の展望及鐵橋附近	無	無
	國際鐵橋	不可		無	無
清津	埠頭	局部的撮影ならば可、全般的乃至特に埠頭施設例へば呑吐能力を察知し得べき物件箇所等は可及的差控へられたし		無	有 無料
	高抹山	不可		無	無
	燈臺	不可		無	無
	漁港	輸城川堤防上より不可その他輸城川大橋を除く外局部的なら可		無	無
	市內繁華街	平面寫眞に限り可		無	無
	清津驛	右に同じ		無	有 無料
羅津			要塞地帶なるを以て絕對禁止		
牡丹江	牡丹江池	可	牡丹江市液河間鐵橋 液河、愛河、海濱兵營	無	無
	北晴山	可		無	無
	忠靈塔	可		無	無
	牡丹江神社	可		無	無
	銀座街	可		無	無
	大平路	可		無	無
	牡丹江河畔	可		無	無
吉林	松花江圖子山附近	制限			
	北山	可(但市街展望撮影不可)	吉林驛	有	
	小豐滿工事場附近	不可			

哈爾濱	哈爾濱驛	可		無	有　無料
	哈爾濱神社	可		無	有　無料
	中央寺院	可		無	有　無料
	博物館	可	外部撮影は可なるも内部撮影は口頭にて館長の許可を要す特に不許可の陳列品もあり		
	忠靈塔	可		シーズン中のみあり	有　無料
	志士碑	可		同	有　無料
	飛行場	不可（特に當局の許可を得たる者は此の限りに在らず）		無	有　無料
	文廟	可		無	有　無料
	極樂寺	可		無	有無料（但し布施として若干の奉捨は隨意）
	露人墓地	可		無	
	傅家甸碼頭	不可		無	無
	三棵樹及滿洲線鐵橋	不可		無	無
	松花江	可（但し鐵橋に向つて爲す撮影は不可）		無（但しシーズン中出張することあり）	有　無料
	ヨットクラブ	可		無	有　無料
					右以外露人の教會のスタンプに關しては無料なれど幾分奉捨をなすものとす
滿洲里	滿洲里記念塔	憲兵隊の許可竝檢閲を要す	軍事機密特別地域なるに付必ず許可を要す	近傍にあり	無
	日本義勇軍記念塔	同		同	無
	日本墓地忠魂碑	同		同	無
	滿洲里神社	同		同	無
	エノケンチャ寺院	同		同	無
	セラフイマ寺院	同		同	無
承德	忠靈塔	可		無	無（將來備附ける模様）
	避暑山莊	不可（現在不可なるも將來特殊建築物を除き許可ある旨）	飛行場承德驛構内其他軍關係造營物	無	無（同）
	普寧寺	可		無	有　無料
	須彌福壽廟	可		無	無
	佈達拉廟	可		無	有　無料

	殊像寺	可		無	無
	守遠寺	可		無	無
	普樂寺	可		無	無
	元廟	可		無	無
北京	萬壽山	可		閣内寫眞屋あり	有
	故物陳列所（宮城三大殿）	可		無	武英殿にあり無料
	故宮博物院	内外部共に可		無	無
	天壇	目下皇軍駐屯地なれば不可		閣内寫眞屋あり	無
	北海公園	可		無	無
	中南海公園	可		閣内寫眞屋あり	無
	中央公園	可		無	無
	喇嘛廟	可		無	無
	孔子廟	可		無	無
	國子監	可		無	無
	觀象臺	可		無	無
	景山	可		無	無
	太廟	可		無	無
	玉泉山	可		無	無
	蘆溝橋	可（但し現地守備隊の許可を要す）		無	無
	南口八達嶺方面	同		無	無
	南苑	不可（但し市街は可）		無	無
	其他軍關係なき各神社庭苑寺院	可		無	無
青島			軍駐在箇所以外は市内外一圓撮影に制限なし		
上海	陸戰隊本部	可（外部）但し外人は不可		無	無
	上海神社	可		無	無
	虹口パーク（新公園）	可（但し外人は不可）		無	無
	ジェスフィルドパーク	可		無	無
	上海市政府	不可		無	無
	江灣競馬場	不可		無	無
	大馬路競馬場	可		無	無

古龍華寺	不可	無	無
日本人墓地	可	無	無
四明公所	可	無	無
復旦大學	可	無	無
八字橋	可	無	無
東亞同文書院	可	無	無
北停車場	可	無	無
京滬鐵路管理局	可	無	無
城内	可	無	無

○北支鐵道寫眞撮影取締

告示

爾今北支諸鐵道ニ於ケル左記寫眞撮影ヲ禁止ス、該箇所ヲ撮影セントスルモノハ日本軍司令部ノ許可ヲ受ク可シ。

記

一 鐵道ノ橋梁（全景竝部分機構）
一 鐵道工場（全景竝工場内各部分）
一 トンネル（出入口附近）
一 機關庫（機關庫附近鐵路配置、機關庫全景、給水給炭設備）
一 停車場構内（全景、全般配線、信號設備）
一 給水場（給水場附近風景、給水槽）
一 防護設備（防護掩舍各種衛工物建物ノ防護施設等）
一 裝甲列車及裝甲軌道車

昭和十三年五月十七日

日本軍司令官

○蒙疆地區寫眞撮影取締

蒙疆地區に於ける次の事物の撮影は禁止せられてゐる。

（イ）裝甲列車
（ロ）裝甲軌道車
（ハ）南口驛青龍橋驛間の風物
（ニ）驛を背景とせるもの
（ホ）主要都市の全景
（ヘ）鐵道線路を中心とした風物
（ト）軍隊、軍事行動鐵道諸施設物
（チ）其他各種施設物（橋梁、トンネル、機關庫、工場、防護施設）

尙特に撮影せんとする者は兵團本部の證明書を要す。

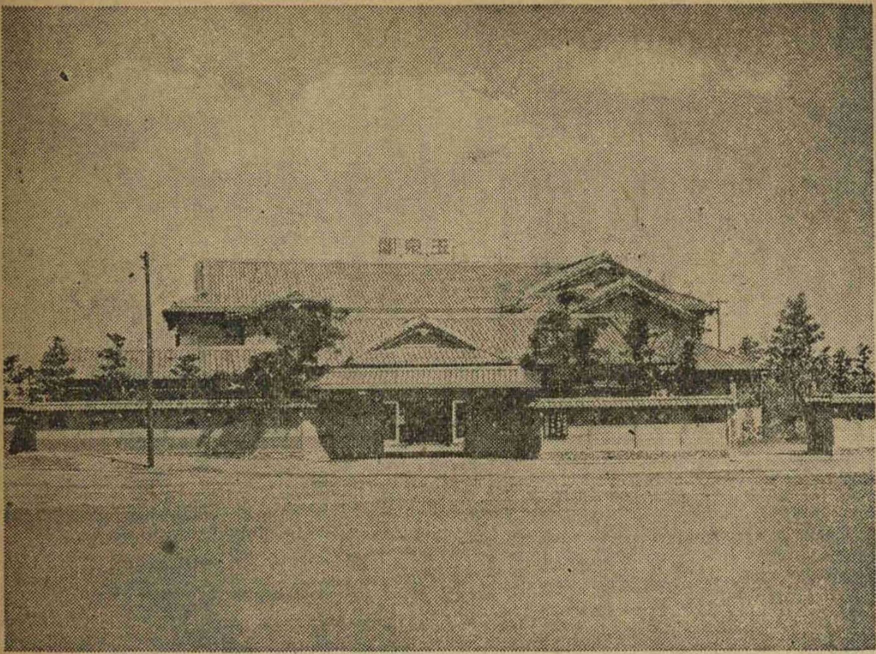
○中支寫眞撮影製作取締

昭和十三年十二月二十四日付中支派遣軍司令官に於て軍人、軍屬寫眞撮影製作取締規則が制定せられたが本規定中撮影禁止に關する事項は一般地方人にも適用せらるゝものである。

一 軍ノ機密ニ關スルモノ一切
イ 機祕密兵器資材ニ指定セラレタルモノ。
ロ 軍ノ陣地ニ判然タルモノ
ハ 彈藥其他軍需品ノ集積狀況
ニ 其他警備司令官（又ハ之ニ準ズル部隊長）ノ禁止セル地區
ホ 其他軍ノ機密ヲ漏洩スル虞レアルモノ

二 逆宣傳ニ利用セラルル虞アルモノ
イ 殘虐性ヲ感ゼラルル寫眞
ロ 不軍規ナル情況ヲ感ゼラルル寫眞若シクハ日本軍ノ戰意ヲ失ヒタルガ如キ感ヲ抱カシムルモノ
ハ 國際法違反ト感ゼラルルモノ（外國權益地内ニ於ケル行動等）
ニ 公共施設ヲ破壞セルモノ（病院、教會、佛寺、學校等ノ公共施設一般）
ホ 戰死傷ノ寫眞ニシテ悲慘ナル感情ヲ惹起セシムルモノ
ヘ 支那軍ノ宣傳用傳單若クハ文章等ヲ撮影セルモノ

三 第一項（ニ）ノ規定ニ基キ南京警備司令部ヨリ發セラレタル撮影禁止區域左ノ如シ
イ 下關一帶
ロ 浦口一帶
ハ 蕪湖ニ至ル鐵道線路以東ノ城内飛行場及城外飛行場一帶
◎但シ光華門ノ戰跡ハ撮影スルモ差支ヘナシ
ニ 右ノ外現地ノ衛兵、歩哨等ニ於テ禁止ヲ告知スル場合



玉泉閣正面全景

春‥‥の玉泉閣

庭の柳がうすみどりに芽ぐみ、匂ひ來る梅が香、春は南風に乘つて、明るく朗かに、先づ品川の海を訪れます。見晴しのよい海ぞひの座敷春がすみ、縹渺の彼方に房總の山々を望み、淸新爽快な氣分な滿喫して頂き、折柄の催し醍醐桃山の花の宴、夜ざくらの風情も添へて、春の淸興を名殘りなく。

夏‥‥の玉泉閣

品川の海わたり來る凉風颯々、これが何よりの夏の御馳走、當閣自慢の海風呂を召して浴衣がけの御樂坐に、板前の腕の冴えを見せた季節料理、汗も鄒團も一ぺんにどこへやら、品川名物あみ舟釣舟のお世話もいたします。お臺場の海水浴歸りにもお氣輕にどうぞお立寄りを。

秋‥‥の玉泉閣

ひきさけば秋ぞ眞白き木の子かな――御酒も料理も、一段と味覺をそそる秋は、宵々の月とともに、私共の江戸前料理の風味も、いよいよ冴えて參ります。海からのぼる名月の眺めもすばらしく、庭の千草にすだく蟲のこゑごゑ、粹な小座敷での淺酌低唱、また興あることゝ存じます。

冬‥‥の玉泉閣

外の木枯しを、あたゝかく聽く切炬燵、雪見酒の風情もおもしろく、詩歌の雅莚、お茶の會などに、室々の暖房は申すまでもなく、調度、器物の端にいたるまで意を用ひ、年忘れや新年會などの御催しには、それぞれの趣向を凝らして奉仕いたします。

割烹

玉泉閣

品川海岸（三業地）
電話高輪(44) 〇八四三番 二三三二番

驛名索引

(イ) この驛名索引は滿洲、北鮮、北支の鐵道驛名を網羅したものである。
(ロ) 滿洲、北鮮は日本語讀み、北支は支那語讀みになつてゐる。
(ハ) 讀み方は滿鐵及華北交通制定のものである。
(ニ) ×印は簡易驛、○印は信號場、⊗印は信號場兼簡易驛、△印は信號所を示す。

滿洲・北鮮の部

完工	カンコウ	濱洲
甘泉舖×	カンセンポ	連、京
甘旗卡	カンキカ	大鄭
下面×	カメン	北鮮東部
下城子	カジョウシ	濱綏
下板城	カバンジョウ	錦古
卡倫	カロン	京圖
火斗山	カトザン	錦古
火連寨	カレンサイ	安奉
街基	ガイキ	平齊
衙門屯○	ガモントン	平齊
衙門營	ガモンエイ	大鄭
干溝	カンコウ	梅輯
郭家	カクカ	齊北
郭家店	カッカテン	連京
韓家溝	カンカコウ	奉山
瓦房店	ガボウテン	連京
蓋平	ガイヘイ	連京
柤勾子	カンコウシ	連京
鹿道	カドウ	圖佳
江陽×	カウヤウ	北鮮西部
耿犬△	カウカ	連京
夏家河子	カカカシ	旅順
果松	カショウ	梅輯
鶴浦	カクホ	北鮮西部
鶴山	カクザン	寧墨
額山	ガクザン	北黑
臥虎屯	ガコトン	平齊
臥龍泉△	ガリユウセン	連京

間坪×	カンピヨウ	北鮮西部
鶴龍門	カクリユウモン	[illegible]
高嶺鎮	カウレイチン	北鮮西部
葛根廟	カツコンビヨウ	白阿
懷慶街	カイケイガイ	朝開
寬溝○	カンコウ	濱綏
關家⊗	カンカ	奉山
上三峰	カミサンポウ	北鮮西部

(キ)

金寶屯	キンポウトン	平齊
金坑○	キンコウ	安奉
金山	キンサン	平齊
金州	キンシユウ	連京
金州東門	キンシユウトウモン	金城
金溝子	キンコウシ	連京
金家○	キンカ	安奉
金・生△	キンセイ	北鮮西部
金通溝○	キンツウコウ	圖佳
金嶺寺	キンレイジ	錦古
金溝	キンコウ	錦古
九寨	キユウサイ	連京
九龍坪	キウリヤウビヤウ	北鮮東部
九江泡○	キユウコウホウ	濱綏

九道嶺	キユウドウレイ	新義
九站	キユウジヤン	京圖
牛角山×	キユウカクザン	金城
牛家	ギユウカ	拉濱
牛心臺	ギユウシンダイ	溪城
牛相屯△×	ギユウソウトン	撫順
牛汾臺	ギユウフンダイ	白阿
許家屯	キヨカトン	連京
姜家	キヨウカ	濱洲
北孫吳	キタソンゴ	北黑
北奉天	キタホウテン	奉吉
北三家	キタサンカ	奉吉
吉林	キチリン	奉吉
歸流河	キリユウガ	白阿
巨流河	キヨリユウガ	奉山
舊三道河×	キユウサンドウガ	梨樹
舊站	キユウタン	奉吉
玉皇	ギヨクコウ	葉峰
王泉	ギヨクセン	濱綏
曲家店	キヨクカテン	平齊
奇峰○	キホウ	濱綏
共榮○	キヨウエイ	京圖
橋頭	キヨウトウ	安奉
杏樹	キヨウジユ	圖佳
杏樹屯	キヨウジユトン	金城
鄉崔	キサイ	虎林
邱家○	キユウカ	京濱
義縣	ギケン	錦古
夾心子	キヨウシンシ	金城
夾子○	キヨウシ	京圖
錦縣	キンケン	奉山
錦西	キンセイ	奉山
棋杆底×	キカンテイ	金城

(ク)

寬谷	クワンコク	雄羅
黃坡	クワウハ	北鮮東部
訓戎	クンジユウ	北鮮東部
會寧	クワイネイ	北鮮西部
郡嶺	グンレイ	拉濱

(ケ)

鷄冠山	ケイカンザン	安奉
鷄黑○	ケイコク	安奉
鷄西	ケイセイ	虎林
鷄嶺○	ケイレイ	寧帶
下馬塘	ゲバトウ	安奉
下馬蓮○	ゲバレン	圖佳
元帥林×	ゲンスイリン	奉吉
景家○	ケイカ	奉山
奎山	ケイザン	虎林
慶城	ケイジヨウ	綏寧
慶源	ケイゲン	北鮮東部
邢家○	ケイカ	京濱
月牙⊗	ゲツガ	虎林
京奉△	ケイホウ	皇姑屯

溪洞○	ケイドウ	京圖
圖泡	ケンポウ	墨

(コ)

克音河	コクオンカ	濱北
克山	コクザン	齊北
克東	コクトウ	齊北
克利○	コクリ	平齊
興隆店	コウリユウテン	奉山
興福	コウフク	綏寧
興隆鎮	コウリユウチン	濱北
興凱⊗	コウガイ	虎林
興莊○	コウソウ	京濱
興安	コウアン	濱洲
興城	コウジヨウ	奉山
五廟子	ゴビヨウシ	平齊
五叉溝	ゴシヤコオ	白阿
五道溝	ゴドウコウ	梅輯
五常	ゴジヨウ	拉濱
五家	ゴカ	京濱
五河林	ゴカリン	圖佳
五度林○	ゴドリン	圖佳
五龍背	ゴリユウハイ	安奉
五道○	ゴドウ	圖佳
五峰	ゴホウ	大鄭
黑河	コクタ	北黑
黑水	コクスイ	平齊
黑河埠頭	コクカフトウ	黑河埠頭
黑山頭	コクザントウ	奉吉
黑臺	コクタダイ	虎林

黒山縣	コクザンケン	大鄭
高老	コウロウ	綏紳
高山子	コウザンシ	奉山
高嶺	コウレイ	奉山
高力○	コウリキ	安奉
高家歳○	コウカサイ	安奉
高麗門	コウライモン	安奉
高臺山○	コウダイザン	奉山
高嶺子	コウレイシ	畄綏
古城	コジョウ	齊北
古城鎭	コジョウチン	圖佳
古山子	コザンシ	京圖
古山	コザン	葉峰
古北口	コホクコウ	錦古
古茂山	コモサン	北鮮西部
虎山	コザン	圖佳
虎林	コリン	虎林
虎頭	コトウ	虎林
虎市○	コシ	京濱
虎石臺	コセキダイ	連京
江橋	コウキョウ	平齊
江灣	コウワン	寧墨
江密峰	コウミッホウ	京圖
呼蘭	コラン	濱北
康金井	コウキンセイ	濱北
湖南×	コナン	白阿
湖北⊗	コホク	虎林
胡家店○	コカテン	平齊
胡家	コカ	河北
鴻興	コウコウ	平齊
香房	コウボウ	濱綏
香鶴⊗	コウカク	虎林
口前	コウゼン	奉吉
孤家子	コカシ	撫順
孤店子	コテンシ	京圖
菰園	コエン	通清
渾河	コンガ	連京
洪儀	コウギ	北鮮東部
吳家屯	ゴカトン	安奉
公主嶺	コウシュレイ	連京
公營子	コウエイシ	錦古
皇姑屯	コウコトン	奉山
溝幇子	コウパンズ	奉山
葫蘆島	コロトウ	葫蘆島
葫蘆島埠頭	コロトウフトウ	葫蘆島
顧郷屯	コキョウトン	京濱
昂昂溪	コウコウケイ	濱洲
廣盛○	コウセイ	奉山
靠山屯	コクザントン	奉吉
黃白	コウハク	梅輯
黃旗屯	コウキトン	奉吉
紅花嶺○	コウカレイ	濱綏
紅石	コウセキ	錦古
紅房子○	コウボウシ	濱綏
荒地	コウチ	奉山
荒山○	コウザン	京圖
荒溝	コウコウ	綏神
興隆山	コウリュウサン	京圖
廣寧寺	コウネイジ	金城
蛟河	コウガ	京圖
合水○	ゴウスイ	圖佳
向陽⊗	コウヨウ	圖佳
（サ）		
三間房	サンゲンボウ	平齊
三棵樹埠頭	サンカジュフトウ	棵樹
三峰洞○	サンポウドウ	朝開
三十里堡	サンジュウリホウ	京連
三十家	サンジッカ	錦古
三臺	サンダイ	安奉
三源浦	サンゲンホ	梅輯
三道溝	サンドウコウ	圖佳
三棵樹	サンカジュ	拉濱
三岔河	サンタガ	京濱
三臺○	サンダイ	奉山
三望溝⊗	サンボウコウ	濱綏
三江口	サンジャンコウ	平齊
三房○	サンボウ	圖佳
三林	サンリン	平齊
沙河口	サカコウ	連京
沙崗	サコウ	連京
沙河	サカ	連京
沙洞	サドウ	綏寧
沙河鎭	サカチン	安奉
沙後所	サゴショ	奉山
沙拉	サラ	新義
沙海	サカイ	葉峰
沙房○	サボウ	紳帶
山頭堡×	サントウホウ	連京
山海關	サンカイカン	奉山
山城鎭	サンジョウチン	奉吉
山河屯	サンカトン	拉濱
山市	サンシ	濱綏
山底○	サンテイ	濱綏
蒼坪	サウヒョウ	北鮮西部
山洞○	サンドウ	濱綏
柞樹○	ザクジュ	濱綏
柴崗×	サイコウ	京白
柴河	サイガ	圖佳
蔡家溝	サイカコウ	京濱
蔡家	サイカ	連京
左家○	サカ	京圖
索崗	サイコウ	京白
薩爾圖	サルト	濱洲
嵯崗	サガン	濱洲
細鱗河	サイリンカ	濱綏
細嶺○	サイレイ	濱綏
索格叠	サツカクエイ	白阿
崔家×	サイカ	溪城
蠶廠屯	サンショウトン	金城
（シ）		
舍力	シャリキ	京白
小汪清	ショウオウセイ	綏神
小南○	ショウナン	京濱
小嶺	ショウレイ	濱綏
小九	ショウキュウ	濱綏
小城溝○	ショウジョウコウ	圖佳
小綏芬	ショウスイフン	濱綏
小興安⊗	ショウコウアン	北黑
小平山○	ショウヘイザン	畠綏
小合隆	ショウゴウリュウ	京白
小白	ショウハク	紳帶
小平山○	ショウヘイザン	濱綏
小家街○	ショウカガイ	安奉
小平房	ショウヘイボウ	錦古
小寺溝	ショウジコウ	錦古
小城	ショウジョウ	拉濱
小姑家	ショウクウジャ	京圖
小崗子	ショウコウシ	連京貨物
小市	ショウシ	溪城
新站	シンチャン	拉濱
新廟	シンビョウ	京白
新安	シンアン	寧墨
新開河△	シンカイガ	連京
新屯○	シントン	齊北
新松浦	シンショウホ	濱北

（ス）

（セ）

驛名	讀方	線名
泉水	センスイ	溪城
泉頭	セントウ	連京
泉水屯×	センスイトン	金城
成高子	セイコウシ	濱綏
世・仙○	セセン	北鮮東部
雪嶺	セツレイ	綏神
錢家店	センカテン	大鄭
聖涙○	セイロウ	神帶
全巨里	ゼンキョリ	北鮮西部
嘯岩×	セウガン	北鮮西部
薛家	セツカ	錦古
汐子	セキシ	葉峰
赤峰	セキホウ	葉峰
洗馬○	センバ	濱綏

(ソ)

驛名	讀方	線名
蘇家屯	ソカトン	連京
雙廟子	ソウビョウシ	連京
雙羊店	ソウヨウテン	奉山
雙河鎭	ソウカチン	奉吉
雙頭山×	ソウトウザン	錦古
雙・城堡	ソウジョウホウ	京濱
雙龍○	ソウリュウ	京濱
雙井○	ソウセイ	京濱
雙崗	ソウコウ	平齊
蒼林	ソウリン	綏神
蒼土	ソウド	新義
蒼石	ソウセキ	奉吉
草河口	ソウカコウ	安奉
草市	ソウシ	奉吉
宋杖子	ソウジョウシ	錦古
宋	ソウ	濱洲
孫家堡	ソンカホウ	安奉
孫家	ソンカ	拉濱
孫呉	ソンゴ	北黒
楚山	ソザン	圖佳
索倫	ソロン	白阿

(タ)

驛名	讀方	線名
泰康	タイコウ	濱洲
泰安	タイアン	齊北
泰東○	タイトウ	齊北
泰來	タイライ	平齊
大嶺	タイレイ	濱綏
大土山○	ダイトザン	平齊
太平川	タイヘイセン	平齊
太嶺	タイレイ	濱綏
大興	タイコウ	平齊
大賚城	ダイライジョウ	京白
大石寨	ダイセキサイ	白阿
大連甘井子埠頭	ダイレンカンセイシフトウ	甘井子
大連	ダイレン	連京
太平山	タイヘイザン	連京
大黃旗○	ダイオウキ	奉山
大石橋	ダイセキキョウ	連京
太子河×	ダイシガ	連京
大橋	タイキョウ	連京
大橋子○	ダイキョウシ	濱綏
大榆樹	ダイユジュ	連京
大屯	ダイトン	連京
大連埠頭	ダイレンフトウ	連京貨物線
大虎山	タイコザン	奉山
大遼河	ダイリョウガ	奉山
大林	ダイリン	大鄭
大房身	ダイボウシン	連京
大官屯	ダイカントン	撫順
大陽溝△	タイヨウコウ	連京
大劉家×	ダイリュウカ	金城
大罕	タイカン	大鄭
大巴	タイハ	新義
大窪	タイア	河北
大營子	ダイエイシ	錦古
大平房	タイヘイボウ	錦古
大興鎭	ダイコウチン	平梅
大川○	ダイセン	京圖
大觀嶺○	ダイカンレイ	濱綏
大同農場×	ダイドウノウジョウ	大鄭
大平嶺	タイヘイレイ	京圖
大豐滿	ダイホウマン	龍豐
大橋	ダイキョウ	京圖
大石頭	ダイセキトウ	京圖
大興溝	ダイコウコウ	圖佳
塔哈	タハ	齊北
他山	タザン	連京
代馬溝	ダイマコウ	濱綏
坦途○	タント	平齊
達里	タツリ	神帶
達家溝	タツカコウ	京濱
對青山	タイセイザン	濱洲
第二下城子⊗	ダイニカジョウシ	梨樹
團山○	ダンサン	京濱
駝興鎭	ダイコウチン	平梅
駝腰嶺	ダヨウレイ	梅輯

(チ)

驛名	讀方	線名
中固	チュウコ	連京
中島	チュウトウ	北鮮西部
中和○	チュウワ	齊北
中德○	チュウトク	京濱
長嶺子○	チョウレイシ	旅順
長發屯	チョウハットン	圖佳
張臺子×	チョウダイシ	連京
張家堡○	チョウカホウ	安奉
張維屯	チョウイトン	濱北
張連×	チョウレン	京圖
陳家屯	チンカトン	奉山
陳相屯	チンソウトン	安奉
陳山○	チンザン	京濱
姚千戶屯	チョウセンコトン	安奉
趙家屯	チョウカトン	奉山
趙家	チョウカ	濱北
朝陽	チョウヨウ	錦古
朝陽鎭	チョウヨウチン	奉吉
朝陽川	チョウヨウセン	京圖
朝水○	チョウスイ	北黒
茶條溝	チャジョウコウ	京圖
千振	チブリ	圖佳
沈家	チンカ	濱北
齊齊哈爾	チチハル	平齊
鎭東	チントウ	平齊

(ツ)

驛名	讀方	線名
通化	ツウカ	梅輯
通遠堡	ツウエンポ	安奉
通遼	ツウリョウ	大鄭
通天⊗	ツウテン	圖佳
通康	ツウコウ	濱北
通北	ツウホク	濱北
通溝	ツウコウ	梅輯

(テ)

驛名	讀方	線名
田水○	デンスイ	安奉
田家	デンカ	連京
田昇	デンショウ	綏神
田師付	デンフシ	神帶
田莊臺	デンショウダイ	河北

驛名	讀方	線名
巴胡塔	パコトウ	大鄭
玻璃山	ハリサン	平齊
波羅赤	ハラセキ	錦古
范家屯	ハンカトン	連京
盤石	バンセキ	奉吉
梅河口	バイカコウ	奉吉
柏根里	パイコンリ	墨霍
柏山○	ハクザン	濱綏
盤山	バンザン	河北
莫和山	バクワサン	虎林
半城子○	ハンジョウシ	圖佳
背陰河	ハイインガ	拉濱
蛤蟆塘	ハマタン	安奉

（ヒ）

驛名	讀方	線名
東新京	ヒガシシンキョウ	京圖
東阜新	ヒガシフシン	新義
東通化	ヒガシツウカ	梅輯
東香坊⊗	ヒガシコウボウ	濱綏
廟嶺	ビョウレイ	圖佳
廟溝	ビョウコウ	綏神
廟北○	ビョウホク	京濱
廟臺子	ビョウダイシ	濱洲
馮家	ヒョウカ	大鄭
馮屯○	ヒョウトン	北黑
百股⊗	ヒャッコ	奉山
濱江	ヒンコウ	濱綏
瓢兒屯△	ヒョウジトン	撫順
尾山×	ビザン	北黑
斐德⊗	ヒトク	虎林
貔子窩	ヒシカ	金城

（フ）

驛名	讀方	線名
普蘭店	フランテン	連京
分水	ブンスイ	連京
文官屯	ブンカントン	連京
撫順	ブジュン	撫順
撫順城	ブジュンジョウ	奉吉
阜新	フシン	新義
富寧	フウネイ	北鮮西部
富拉爾基	フラルジ	濱洲
富海	フウカイ	齊北
佛嶺⊗	フツレイ	圖佳
布海	フカイ	京濱
虎爾虎拉	フルフラ	濱洲
博克圖	ブヘト	濱洲
傅家屯	フカトン	平齊
福金○	フクキン	安奉

（ヘ）

驛名	讀方	線名
平頂堡	ヘイチョウホウ	連京
平泉	ヘイセン	錦古
平東	ヘイトウ	平梅
平崗	ヘイコウ	平梅
平陽	ヘイヨウ	虎林
平房	ヘイボウ	拉濱
平安	ヘイアン	拉濱
平山	ヘイザン	濱綏
平安堡○	ヘイアンポ	平齊
北票	ペイピョウ	錦古
北山	ペイサン	奉吉
北安	ペイアン	濱北
北沙子	ペイサシ	京濱
邊昭	ヘンショウ	平齊
平安嶺	ヘイアンチン	白阿
偏嶺	ヘンレイ	溪城

（ホ）

驛名	讀方	線名
奉天	ホウテン	連京
豐山	ホウザン	北鮮西部
豐利	ホウリ	北鮮東部
豐仁	ホウジン	北鮮東部
豐庫	ホウコ	平齊
鳳凰城	ホウオウジョウ	安奉
鳳儀△	ホウギ	會寧炭礦
北門○	ホクモン	奉吉
北林○	ホクリン	濱綏
北安	ホクアン	濱北
北甸	ホクデン	神帶
北荒嶺	ホクコウレイ	綏神
虻牛哨	ボウギュウショウ	連京
棒槌嶺○	ボウツイレイ	安奉
牧城子×	ボクジョウシ	連京
本溪湖	ホンケイコ	安奉
芳山鎭	ホウザンチン	大鄭
泡子	ホオシ	大鄭
泡子沿×	ホウシエン	龍豐
牡丹江	ボタンコウ	圖佳
寶城○	ホウジョウ	京濱
寶林	ホウリン	圖佳
寶東	ホウトウ	虎林
勃利	ボツリ	圖佳
藿爾洪得	ホルホンテ	濱洲
望哈○	ボウハ	京圖
望海○	ボウカイ	奉山
帽子山	ボウジザン	濱綏
堡石圖○	ホセキト	平齊
保康	ホコウ	平齊
穆家店○	ボクカテン	平齊
方家○	ホウカ	奉山

（マ）

驛名	讀方	線名
萬嶺家	マンカレイ	連京
萬家屯	マンカトン	奉山
萬山○	マンザン	濱綏
萬發屯	マンハットン	濱北
萬寶山	マンポウザン	京白
馬鞍山	マアンザン	拉濱
馬橋河	マキョウガ	濱綏
馬家	マカ	齊北
滿井	マンセイ	連京
滿溝	マンゴウ	綏洲
滿洲里	マンチュウリ	濱洲
磨盤山	マバンザン	京圖
磨刀石	マトウセキ	濱綏
麻山	マザン	虎林

（ミ）

驛名	讀方	線名
南興安東△	ミナミコウアンヒガシ	白阿
南興安西△	ミナミコウアンニシ	白阿
南口前	ミナミコウゼン	奉吉
南新京	ミナミシンキョウ	連京
宮原	ミヤノハラ	安奉
宮之宿×	ミヤノシュク	金城
密山	ミツザン	虎林
密峰	ミツポウ	濱綏

（ム）

驛名	讀方	線名
穆稜	ムウロン	濱綏

（メ）

驛名	讀方	線名
明城	メイジョウ	奉吉
明山	メイザン	溪城
明月溝	メイゲッコウ	京圖
免渡河	メントガ	濱洲
墨爾根	メルゲン	寧墨
帶嶺	メイレイ	神帶

（モ）

驛名	讀方	線名
木里圖	モクリト	大鄭
木頭×	モクトウ	京白
孟家屯	モウカトン	連京
茂林	モリン	平齊
門體○	モンタイ	奉山
門達	モンダツ	大鄭

北支の部

驛名	讀方	線名
沙河縣	シヤーホーシエン	京漢
沙溝	シヤゴウ	津浦
沙河鎭	シヤーホーチエン	京包
沙峪	シヤユイ	同蒲
沙城	シヤチヨン	京包
沙嶺子	シヤリンヅ	京包
山海關	シヤンハイ・ゴワン	京山
山家林	シヤンジヤーリン	棗莊
上安	シヤンアン	正太
上湖	シヤンホー	正太
下花園	シヤホアユアン	京包
下會	シヤーボイ	京古
下盤石	シヤーパンシー	正太
辛莊子	シンチユワンヅ	京包
辛店	シンデン	膠濟
辛置	シンチー	同蒲
忻口	シンコウ	同蒲
忻縣	シンシエン	同蒲
雙橋	シユワンチヤオ	京古
雙廟	シユワンミヤオ	京漢

驛名	讀方	線名
界首	シエオシヨウ	津浦
界河	ジエホー	津浦
聚樂堡	ジユイロープー	京包
十八臺	シパータイ	京包
順義	シユンイー	京古
順德	シユンドー	京漢
小營	シヤオイン	京古
小冀	シヤオチー	京漢
蝦蟆屯	シヤーマートン	膠濟
壽陽	シヨウヤン	正太
尙希莊	シヤンシーチユワン	同蒲
神頭	シエントウ	同蒲
朔縣	シユオシエン	同浦
修文	シウウエン	同蒲
許家店	シユイヂヤデン	同蒲
胥各莊	シユイゴーチユワン	京山
徐州北站	シユイヂヨウペイジヤン	隴海
朱各莊	ジユゴーチユワン	京山
徐塘莊	シユイタンチユワン	隴海

驛名	讀方	線名
徐水	シユシユイ	京漢
徐州	シユイジヨウ	津浦
寨西店	ジヤイシーデン	京漢
濬縣	ジユンシエン	京漢
墟溝	シユイゴウ	隴海
興濟	シンチー	津浦
宣化	シユワンホア	京包
蔣村	ジヤンツン	甲子河
軒崗	シユワンガン	同蒲
水頭	シユイドク	同蒲
商邱	シヤンチウ	隴海
小壩	シヤオパー	隴海
史村	シーツン	同蒲
什林	シーリン	同蒲
獅子營	シーヅーイン	道清
修武	シウウー	道清
宿縣	シユシエン	津浦
（ス）		
松林店	スンリンデン	京漢
孫子店	スンシーデン	濟寧
蘇集	スーチー	京包
四方	スーフアン	京古
宋家莊	スンヂヤチユワン	同蒲
宿羊山	スウヤンシヤン	臨趙
（ソ）		
鄒縣	ゾウシエン	津浦
鄒塢	ゾウウウ	棗莊
岞山	ゾオシヤン	膠濟
（タ）		
大陳莊	ダーチエンチユワン	京漢
大汶口	ダーウエンコウ	津浦
大同	ダートン	京包
大港	ダーガン	膠濟
大坭河	ダーニイホー	膠濟
大臨池	ダーリンチ	膠濟
大崑崙	ダークンルン	博山
大郭	ダーゴー	正太
大平	ダーピン	新開
大牛店	ダーニウデン	同蒲
大浦	ダープー	隴海
大許家	ダーシユイヂヤ	隴海

驛名	讀方	線名
大廟	ダーミヤオ	隴海
大湖	ダーーヤ	隴海
太原	タイユワン	同蒲
太原北站	タイユワンペイヂヤン	正太
大谷	タイグー	同蒲
大召營	ダーチヤオイン	道清
唐坊	タンフアン	京山
唐山	タンシヤン	京山
唐官屯	タンゴワントン	津浦
塔崗	ターガン	京漢
塔耳堡	ターアルプー	膠濟
臺閣牧	タイゴーム	京包
臺兒莊南站	タイアルヂユワンナンジヤン	臨趙
臺兒莊	タイアルザユワン	臨趙
陶卜齊	タオプーチー	京包
陶思浩	タオスーハオ	京包
褡褳	ダーリエン	京漢
塘沽	ターグウ	京山
湯陰	タンイン	京漢

黨家莊	タンヂャヂュワン	津浦
泰安	タイアン	津浦
譚家坊	タンヂャフアン	膠濟
岱岳	タイユエ	同蒲
待王	ダイワン	道淸
碭山	ダンシャン	隴海

（チ）

張貴莊	ヂャングイヂュワン	京山
張家莊	ヂャンジャヂュワン	京山
張莊	ヂャンヂュワン	津浦
張夏	ヂャンシャー	津浦
張家口	ヂャンヂャコウ	京包
張禮	ヂャンリー	同蒲
張辛	ヂャンシン	京古
張店	ジャンデン	膠濟
張閣莊	ヂャンゴーヂュワン	灤海
張蘭	ヂャンラン	同蒲
淸風店	チンフォンデン	京漢
淸華園	チンホアユアン	京包
淸河	チンホー	京包
淸化	チンホア	道淸
陳官屯	チエンゴワントン	津浦
濟陽	ヂーヤン	周口店
濟南北站	ヂーナンペイジャン	津浦
濟寧	ヂーニン	濟寧
濟南	ヂーナン	膠濟
昌黎	チャンリー	京山
昌平	チャンピン	京包
昌樂	チャンロー	膠濟
靑縣	チンシエン	津浦
靑龍橋	チンルンチヤオ	京包
靑島	チンダオ	膠濟
正陽門	ジョンヤンメン	京山
正定	ヂョンディン	京漢
周口店	チョウコウデン	周口店
周村	ヂョウツン	膠濟
周士莊	ヂョウシーヂュワン	京包
膠東	ヂャオドン	膠濟
膠縣	ヂャオシエン	膠濟
井陘	ヂンシン	井陘
井陘炭礦	ヂンシンタンコワン	井陘
軍糧城	ヂャンリャンチョン	京山
茶淀	チャデン	京山
秦皇島	チンホワンダオ	京山
前門	チエンメン	京漢
前寨	チエンジャイ	同蒲
長辛店	チャンシンデン	同蒲
長珍	チャンヂエン	同蒲
涿縣	ヂュオシエン	京漢
鎭內	ジエンネイ	京漢
彰德	ヂャンドー	京漢
淇縣	チーシエン	京漢
汲縣	ヂーシエン	京漢
靜海	ヂンハイ	津浦
磚河	ヂュワンホー	津浦
曲阜	チュイフー	津浦
齊村	チーツン	棗莊
柴溝堡	チャイゴウプー	京包
柴莊	チャイヂュワン	同蒲
卓資山	ヂュオヅシャン	京包
旗下營	チーシャイン	京包
察素齊	チャスーチー	京包
朝陽門	チャオヤンメン	環城
城陽	チョンヤン	膠濟
芝蘭莊	ヂーランヂュワン	膠濟
丈嶺	チャンリン	膠濟
朱劉店	ヂュリウデン	膠濟
夾河寨	ヂャーホーヂャイ	隴海
金嶺	チンリン	膠濟
程家	チョンヂャ	正太
芹泉	チンチュア	正太
祁縣	チーシエン	同蒲
介休	ヂエシウ	同蒲
趙墩	ヂャオドン	隴海
趙城	ヂャオチョン	同蒲
焦作	ヂャオゾオ	道淸
常口	チャンコウ	道淸
車輻山	チョオフーシャン	臨趙
中河	ヂュンホー	京山
中心莊	ヂュンシンヂュワン	京山

（ツ）

漕河	ツアオホー	京漢
磁縣	ツーシエン	京漢
滄縣	ツアンシエン	津浦
滄口	ツアンコウ	膠濟
蔡家莊	ツアイヂャヂュワン	膠濟
淄河店	ヅーホーデン	膠濟
淄川	ヅーチュワン	博山
草橋	ツアオチャオ	隴海
曹浦	ツアオプー	隴海
曹老集	ツアオラオヂー	濟南
曹村	ツアオフン	津浦
測石	ツオシー	正太

（テ）

天津西站	テンヂンシーヂャン	津浦
天津北站	テンヂンペイヂャン	京山
天津	テンヂン	京山
天鎭	テンヂエン	京包
田莊	テンヂュワン	京山
定興	ディンシン	京漢
定縣	ディンシエン	京漢
定襄	ディンシャン	甲子灣
鐵山	テーシャン	鐵山

北周莊	ペイチョウチュワン	同蒲
北營	ペーイン	正太
北陽	ペイヤン	同蒲
北義井	ペイイーチン	甲子灣
碑家店	ペイジャデン	京山

（ホ）

黄土坡	ホワントウポウ	京山
黄村	ホワンツン	京山
黄河涯	ホワンホーヤー	津浦
黄旗堡	ホワンチープー	膠濟
黄臺	ホワンタイ	膠濟
黄寨	ホワンジタイ	同蒲
黄口	ホワンコウ	隴海
懷來	ホワイライ	京包
懷柔	ホワイロウ	京古
懷仁	ホワイレス	同蒲
獲鹿	ホールー	正太
獲嘉	ホーチヤ	道清
洪洞	ホンドン	同蒲
後封臺	ホウフンタイ	京山
泊頭	ポオトウ	津浦
紅砂壩	ホンシャバー	京包
厚和	ホウホー	京包
湖田	ホーテン	膠濟
博山	ポーシャン	博山
黌山	ホワンシャン	黌山
坡頭	ポオトウ	正太
播明	ポオミン	同蒲
皇后園	ホワンホウユワン	同蒲
霍縣	ホーシエン	同蒲
河邊	ホーペン	甲子灣
柏山	ポーシャン	道清
侯馬	ホウマー	同蒲

（マ）

馬頭	マートウ	京漢
馬廠	マーチャン	津浦
馬蓋圖	マーガイトー	京包
馬牧集	マームーチー	隴海
馬尙	マーシャン	膠濟
馬首	マーショウ	正太
麥達召	マイダーチャオ	京包
茅村	マオツン	津浦

（ミ）

密雲	ミーユン	京古
明水	ミンシュイ	膠濟
明權	ミンチュワン	隴海
鳴李	ミンリ	正太
興隆	ミンルン	隴海

（メ）

門溝頭	メントウゴウ	門頭溝

（ヤ）

楊村	ヤンツン	京山
楊家莊	ヤンヂャヂュワン	膠濟
楊柳青	ヤンリウチ	津浦
楊樓	ヤンロウ	隴海
楊集	ヤンチー	隴海
鴨鴿營	ヤーゴイン	京漢
姚官屯	ヤオゴワントン	津浦
姚哥莊	ヤオゴーヂュワン	膠濟
堯溝	ヤオゴウ	膠濟
陽泉	ヤンチュワン	正太
陽方口	ヤンファンコウ	同蒲
陽高	ヤンガオ	京包
陽武	ヤンウー	新開

（ユ）

永定門	ユンディンメン	京山
永樂	ユンロー	京漢
永王莊	ユンワンヂュワン	京包
永嘉堡	ユンジャプー	京包
于家莊	ユイジャヂュワン	京漢
元氏	ユワンシー	京漢
禹城	ユイチョン	津浦
榆林	ユイリン	同蒲
榆次	ユイツー	正太
原平	ユアンピン	同蒲
遊家墳	ユウヂャフエン	道清
運城	ユンチョン	同蒲
運河	ユンホー	隴海

（ラ）

郎坊	ランファアン	京山
落垡	ラオファアン	京山
灤縣	ランシエン	
淶水	ライシュイ	西陵
藍村	ランツン	膠濟
亂流	ランリウ	正太
蘭封	ランフオン	隴海

（リ）

臨洺關	リンミンゴワン	京漢
臨城縣	リンチョンシエン	臨城縣
臨城	リンチョン	津浦
臨汾	リンフエン	同蒲
李哥莊	リーゴーヂュワン	膠濟
李家莊	リーヂャヂュワン	津浦
李莊	リーヂュワン	隴海
李河	リーホー	道清
李封	リーフオン	道清
良鄉	リャンシャン	京漢
良王莊	リャンワンヂュワン	津浦
柳辛莊	リウシンヂュワン	京漢
柳泉	リウチュワン	津浦
柳河	リウホー	隴海
柳衛	リウウエイ	道清
兩下店	リャンシャーデン	津浦
兩渡	リャンドー	同蒲
留守營	リウショウイン	京山
琉璃河	リウリーホー	京漢
呂庄	リューヂュワン	新開
梨園	リーユワン	同蒲
連雲	リエンユン	隴海
劉提圈	リウテイヂュワン	隴海
六河溝	リウホーゴウ	六河溝
連鎮	リエンヂエン	津浦
利國	リーゴー	津浦
歷城	リーチョン	膠濟
里八莊	リーバーヂュワン	同蒲
靈石	リンシー	同蒲
禮元	リーユワン	同蒲

（ル、レ、ロ）

盧臺	ルータイ	京山
盧溝橋	ルーゴウチャオ	京漢
盧家莊	ルーヂャヂュワン	正太
路王墳	ルーワンフエン	京漢
龍山	ルンシャン	膠濟
雷莊	レイヂュワン	京山
任橋	レンチャオ	津浦
濼口	ローコウ	津浦
羅文皂	ローウエンザオ	京包
羅王	ローワン	隴海

（ワ）

萬莊	ワンヂュワン	京山
萬德	ワンドー	津浦
窪里	ワーリー	京山
望都	ワンドウ	京漢
王化堡	ワンホアプー	京漢
王官屯	ワンゴワントン	京包
王村	ワンツン	膠濟
王門溝	ワンメンゴウ	甲子灣
瓦窰	ワーヤオ	隴海

府縣人會

大連

縣名	所在地	代表者名	會員數	在住者數
長崎	但馬町一四	富永能雄	一二〇	
愛媛	若狹町二六	增田義男	一〇〇	
宮崎	佐渡町六	佐藤至誠	二〇〇	
三重	聖德街五ノ一五六	淸水楠次郎	一四〇	
山形	能登町一〇	岩井勘六	三〇〇	
防長	山縣通二一	藤田秀助	五〇〇	
大分	東裕公司	首藤定	八〇〇	
熊本	伊勢町八一	中村長吉	一二〇	
廣島	能登町一五	小林和介	一三五	
新潟	光明臺一五	西片朝三	一五〇	
奈良	霧島町一四〇	寺島由松	三五〇	
靜岡	伊勢町六二 滿蒙工業所內	平井大次郎	一五〇	
和歌山	山縣通 和歌山物產斡旋所內	桝田憲道	一一〇	
長野	霧島町四六	今井行平	一、五〇〇	
愛知	神明町九八	相生常三郎	四五〇	
茨城	山縣通八八	山田浩通	三三〇	
岐阜	聖德街一ノ二五二 石井盛一方	杉野耕三郎	一五〇	
島根	大黒町八三	松内辰郎	二八〇	
青森	近江町二	對島林次郎	一三〇	

旅順

山口	朝日町一丁目三九	井町正八	八五	五六三
佐賀	殿島町一四	山口世基	八〇	七五四
山形	乃木町三丁目五五	蠟川久太郎	三五	一九七
長崎	中村町一一	麻生茂	一五〇	一、〇七一
長野	金比羅町九 石井太三郎方	田中稔	五四	二七三
宮城	善通寺町四 旅順公學堂內	小倉勉	六〇	三三〇
大分	鯖江町五一	田邊公彬	八〇	四六八
靜岡	名古屋町六	仲野嘉與作	四五	三五三
熊本	青葉町五七	長濤學	一三〇	八〇六
宮崎	柳町一九ノ一	黒木重綱	六八	三四四

鞍山

廣島	北三條町 中木商會	福井眞	四〇〇
富山	北二條町 能登屋內	能登屋久松	一七〇
山梨	北二條町六三	小林壽	一三〇
鳥取	北三條町四一	桑田幸治	一〇〇

遼陽

岐阜	初音町	高木儀三郎	三一	五〇
新潟	同	高濵金治	四三	三五
富山	京町	西村茂	三三	四四
長野	櫻木町	内樹總松	三九	六三
廣島	大和通	山縣研一	四三	二〇〇
香川	朝日通	八木弘	三五	三三
熊本	本町	西田爲次郎	七三	三七七
埼玉	同	山村惠伴	三五	九〇
和歌山	同	玉木憲純	一五	四六
愛媛	同	渡邊國次	三三	七七

奉天

大分	仲町	赤松純平	四〇	六〇
山形	住吉町九	白田寿	三四〇	
宮城	千代田通二	千葉蔚	七〇〇	
福島	淀町一二	染谷深藏	七〇〇	
千葉	柳町一一	和田實	三〇〇	
茨城	千代田通三五	神立時三郎	二〇〇	
新潟	西塔大街	西巻豐之助	三〇〇	
石川	八幡町一二	飯島滿次	八〇	
長野	淀町一〇	飯島慶三	一、一〇〇	
富山	隅田町五	中川芳三郎	五〇〇	
三重	十間房	出口深之助	一〇〇	
奈良	稻葉町三	吉川元康	五〇	
兵庫	浪速通二四	藤田九一郎	三〇〇	
大阪	青葉町七	中田卯吉郎	五〇	
岡山	永代町二	鹽尻彌太郎	一、〇〇〇	
和歌山	千代田通四〇 貿易會館二階	松井常三郎	四〇〇	
土佐	十間房	野並勇馬	三〇〇	
福岡	千代田通二一	小田要一	六〇〇	
長崎	木曾町一一	西田謹一	六、〇〇〇	
熊本	平安通三八	安藤基平	五、〇〇〇	
宮崎	琴平町七	有川藤吉	六〇〇	
大・分	稻葉町七	篠田大	一五〇	

撫順

山口	東三條通四九	淺田倫治	二六〇	二八〇
廣島	永安大街二	住田定一	四〇〇	四三〇
宮城	炭礦工事事務所	馬場彰	一五〇	三七〇
熊本	南臺町一丁目四	棟久藏	四五〇	四八〇
鳥取	北臺町一丁目二	南家碩次	一〇〇	一五〇
加越能友	東三番町五〇	寺西圭之	八〇	一〇〇

佐賀	四五條通三六	伊藤熊治郎	三五〇	四二〇
島根	東一番町三五	中原祥光	一五〇	一〇〇
大分	東一番町九	有瀬修二	一〇〇	三五〇
宮崎	南臺町一ノ一	後藤俊次郎	二四〇	二七〇
鹿兒島	東三番町二二	川路喜平	一、三〇〇	一、四〇〇
岡山	東七條二八	蜂谷文平	三五〇	三五〇
長野	東四條通七〇	中島右仲	一〇〇	一五〇
三重	東三條通五五	竹内敬美	一〇〇	一〇〇
福島	南臺町二ノ一〇	武田勝利	一五〇	一六〇
岩手	東八條四四	古川泰藏	三五	三五
山形	東三條通九九	淺井照次郎	二〇〇	一〇〇
茨城	南臺町一ノ四	宮本愼平	一〇〇	一〇〇

安東

廣島	市場通一丁目	大原清逸	八〇	七〇七
德島	驛前堀割通	中川憲義	五三	二〇八
新潟	興隆街興銀支店野澤氏氣付	金子富江	一三〇	二四五
山梨	六番通三丁目	新田忠平	一三	一〇三
長野	大和橋通五丁目興銀支店一忠宗雄氣付	雨宮都	五〇	二〇四
福井	江岸通二丁目川崎製材所	川崎潔	二〇	一七五
加能越	六番通六丁目大倉太七郎	藤平泰一	一〇〇	五二九
愛知	驛前三番通	小島釼一	六二	五三六
三重	五番通八丁目際天號	近藤松五郎	六六	三一八
奈良	市場通九丁目辻山洋行	山縣寅吉	四〇	一三三
京都	市場通五丁目	川勝正三郎	一八	二〇一
大阪	四番通五丁目	藤原秀吉	二五	三七四
和歌山	市場通四丁目文榮堂	弓倉悅藏	二〇	一九九
鳥取	驛前二番通一五	村山眞治	五〇	二〇六
岡山	六番通七丁目	岡本東洋男	八〇	四二一
愛媛	市場通五丁目ダルマ商會内	酒井圓	一四〇	五三六
香川	東山手町安東寺	井上信義	六〇	二七六
島根	堀割南通四丁目相當寺	河谷正憲	四〇	四三九
三州	大和橋通一丁目安東新聞社	川俣篤	二〇五	五〇〇
熊本	大和橋通三丁目日の出旅館	山下五郎	一〇〇	一、〇二九
福岡	大和橋通七丁目	草葉強太郎	二一〇	一、〇八九
大分	四番通三丁目澤田良一	神田重吉	八〇	七三二
岐阜	市場通二丁目	大野幸作	五〇	一八五
山口	大和橋通八丁目安東商事金融株式會社方	佐戸正人	一五〇	八六九
佐賀	市場通四丁目坂井屋商店	野田茂	六〇	六八六
茨城	八番通四丁目	飯野伯重郎	二〇	二六四
兵庫	市場通一丁目西播洋行	大西朝二	五〇	四二七
靜岡	七番通四丁目	八木元八	二五	二九九
埼玉	六番通五丁目	阿部卓爾	二一	八四
宮城	驛前六番通	水間議之助	一八	一六六
栃木	三番通四丁目三省精米所	影山常三郎	一五	三二

鐵嶺

鹿兒島	松田三之助		二一〇
長崎	尾上千万太		二〇
福岡	平田淳		七〇
廣島	能地鑿		一〇〇
新潟	稻葉龍三郎		二〇
愛・岐	紀藤義也		四〇
東北	下山恭次郎		七〇
鳥取	橋木勝藏		二〇

四平街

山形	南四條通	小林國治	三六	二一六
茨城	南四條通	橋木房吉	四〇	九〇
岐阜	紅梅町二木桂三郎方	鹽谷要藏	二〇	六〇
愛知	北七條通東本願寺方	天野東	二〇	二一〇
長野	昭平橋通	鶴見次世	二四〇	一、三〇〇
加越能	中央通六	竹村石次郎	四〇	一四〇
岡山	南二條通	原田親一	二八二	一、一三〇
山口	北二條通	小扳道明	一四七	六〇三
四國	南四條通山櫻社	島村喜久馬	八〇	三三〇
佐賀	北三條通三共洋行	老野文市	八六	二六〇
長崎	北三條通五六	相川庄四郎	六〇	二一〇
熊本	昭平橋通一九	千代野甚五郎	七五〇	四、四〇〇

公主嶺

新潟	櫻町	本井義雄	三六	
熊本	泉町二丁目	野島茂幸	一〇〇	

新京

青森	東朝陽路四〇三	工藤忠	一〇〇	七〇〇
岩手	永樂町三ノ二六	四戸友太郎	二六八	九〇〇
秋田	東二條通二五鎌田方	高橋康順	二一〇	八五〇
宮城	八島通五	畠山源五郎	四五〇	一、六〇〇
福島	東五條通一三權田商店	穴澤喜壯次	二〇五	一、六五〇
茨城	朝日通二五大陸公司	小泉三郎	一五〇	一、五〇〇
栃木	室町一ノ二井上刀劍店	井上惣三郎	二五〇	一、六五〇
群馬	吉野町一ノ一五石川自轉車店	星野直樹	一五〇	八〇〇
埼玉	曙町二ノ二二堀井方	中島比多吉	五〇	六〇〇

神奈川	敷島通二四一	佐藤精一	130	650
新潟	崇智路三〇	木間德松	200	3,100
富山	永樂町二ノ一一 仲田方	仲田三郎	250	1,800
石川	祝町三ノ一七 泰正號	兵部潤一	180	700
福井	日本橋一六 阿川組	宇野常吉	100	550
長野	中央通一五	松島鑑	160	660
岐阜	日本橋通二〇	林金次	378	2,778
滋賀	祝町二ノ二 井上呉服店	松岡彌三郎	230	650
德島	室町二ノ一三	沖津亘	110	700
香川	老松町二ノ三 天野商店	長尾吉五郎	250	1,200
愛媛	三笠町三ノ二	松田銈太郎	130	700
福岡	東二條通三四 福信金融	石橋米一	200	4,550
大分	老松町一一	得丸助太郎	700	3,600
佐賀	入船町四ノ二五 佐藤商店	佐藤宇治太郎	500	3,600
長崎	三笠町三ノ一四 盛倉農具店	荒木信光	350	4,500
三州會	吉野町一ノ二 隆泰公司	島石福十郎	500	5,600
北海道	大經路五三	八卷清泰	450	2,600
山梨	大經路三六 井上洋服店	岩間甲斐之助	150	700
靜岡	興安大路四〇八	棒葉司省	100	700
愛知	東三條通 科野洋行	淺井庄一郎	330	1,500
三重	西廣場小學校	瀰川順平	100	700
京都	永樂町二ノ一〇	大原万千百	230	450
奈良	日本橋通二三	本城德太郎	70	700
兵庫	祝町二ノ一八	河本大作	700	3,500
和歌山	東四道街一六	宇戸修太郎	110	700
島根	蓬萊町一ノ三 大新ホテル	影山泉造	40	550
岡山	梅ヶ枝町三ノ二 吉備洋行	三宅亨太郎	170	700
廣島	新發路一〇一 國通	廣瀬壽助	1,300	3,000

●吉林

愛媛	大馬路裕泰號	堀井覺太郎	70	250
島根	福綏街吉林バス	西阪質文	50	250
福井	河南街國立病院	永井人雄	70	300
山形	蓮花泡小池牧場	小池七三郎	107	300
岡山	新開門外五九	林精太郎(代理)	80	400
福岡	大馬路丸重洋行	岸原粂次郎	100	700
廣島	南大路 滿鮮杭木內	杉岡守一	100	700
佐賀	大馬路松屋旅館	多久島德松	50	500
長崎	新開門外 松屋呉服店	江木末八	100	600
兵庫	五緯路西安公司	高須元之祐	70	300
山口	恒昌胡同 吉林燐寸	西尾安雄	60	350
山梨	大馬路東洋醫院	齊藤源治郎	70	250
愛知	大馬路 名古屋ホテル	齋藤梅三郎	70	250
大分	新開門外 大同殖產內	河野皐	70	250
加能	二道碼頭 滿洲林業內	木下秀敎	55	200
三州會	新開門外 芝元洋行	芝元正次郎	200	800

●通化

埼玉	通化街公署	野口孝作	30

●圖們

德島	銀河路東本願寺	高橋保濤	90
三州	銀河街一三ノ二	中武盛一	160
鳥取 島根	春風路三六ノ七	辻谷太郎	53
和歌山 北海道	中秋街二四ノ三	小守玄守	51
樺太鄉土會	銀河街三一ノ三	小島喜作	79
富山	○春風街一四ノ一	中橋精治	49
佐賀	銀河街二二	小口卓次郎	72
長野	銀河路 高阪實雄內	關口龜壽	64

●佳木斯

福島	向陽大街 伊勢屋旅館內	玉野辰五郎	70	200
茨城	南崗大街	宮內嘉一郎	130	110
長野	臨江街三二	小林武夫	58	140
佐賀	向陽大街	酒井清秋	150	280
鹿兒島	南崗大街	有川忠義	100	500

●哈爾濱

神奈川		植田一夫 吉田四郎 安藤琴三郎
千葉	中國中道街二〇	岡野博一
茨城		軍司義雄
群馬	警察廳	竹內謙三郎
栃木	地段街五六	小柴九三
埼玉	石頭道街滿月堂	加島甲子太郎
福島	馬家溝文明街	宗像金吾
宮城	工廠街	佐々布武
岩手	地段街	柏田忠一
青森	中央市場	木村左馬輔
秋田	外國二道街五	藤原時次
山形	松茂洋行	赤星武房
靜岡	石頭道街	石川竹二

愛知	外國人道街	加藤 明		
岐阜	鴻業公司	野原 皆一		
山梨	取引所	島田千代治		
長野	地段街	寺澤 佳吉		
新潟	買賣街	牛木寛三郎		
富山	西本願寺	押野 慶淨		
石川	同	同		
福井	東本願寺	月輪 孝雄		
京都	地段街	粂田 彌一		
奈良	新城大街 中和洋行	山本 義之		
三重	中國十四道街	澤田 佐市		
和歌山	一面街(南海)	前川 良一		
大阪	地段街(和登)	日下 良吉		
兵庫	石頭道街	有賀 穰作		

●北安

熊本	東松村街 鹽田卯吉方	赤鉾林太郎	五〇	一五〇
福岡	同 山崎洋行內	山崎 清	六〇	一〇〇
山口	西松村街 森本組內	森本 保造	三五	九〇

●齊齊哈爾

長野	新馬路九號	大島 敏敬	六五	一五〇
長崎	正陽大街一四三	池田平八郎	三八	五三〇
廣島	正陽大街一七三	組式 可夫	一九五	二五〇
大分	新馬路九號	植山 伸雄	三六	三五〇
茨城	中央馬路一〇七	高橋 德治	四五	一〇三

●海拉爾

大分	西二道街	小野 碩太	二〇	
長崎	同	田上 虎雄	八〇	
熊本	西大街	廳井 一郎	四〇	
加越能	中央大街	三浦 幸治	四〇	
長野	同	棚橋 四郎	三〇	
群馬	舊頭道街	高橋秋三郎	三〇	
福島	交界街	堀 定四郎	二五	
北海道	西二道街	辻本 茂	三〇	

●錦縣

廣島	驛前	杉岡 嘉一	四八〇	一、七〇五
大分	銀座街五	自見 梅治	三二〇	六三〇
靜岡	三笠街七	八田健太郎	五〇	二〇〇
熊本	三保街	寺本 哲	五〇〇	五〇〇
福島	木村土地	鵜川 久介	八五	三三〇
福岡	鐵道北	松吉 春岳	三〇〇	七〇〇
三夜會	銀座街	久保 小市	二五	八〇
山口	三保街	青木 粂三	七五	二〇〇
長野	大和街	竹内 藤平	五〇	一五〇
長崎	聯合町內會	中川 貞利	一八〇	一、〇〇〇
鹿兒島	城內區東一街	宮內 昧八	三五〇	一、一〇〇
香川	三保街	井下萬次郎	二〇	八〇
岩手	同	田中 信一	四九	一三〇
宮崎	銀座街	津江 利通	一一〇	三〇〇

●清津

北海道	相生町八	室 直治	五〇	
東北六	北星町山ノ十	石川紋之丈	三五〇	
山梨	彌生町二	白砂三四郎	一八	
長野	相生町女學	阿部 吉助	三五	
新潟	北星町一八	中村 文作	一五〇	
富山	彌生町二	小竹松太郎	七三	
福井	北星町山ノ十四	松下和三郎	一〇〇	
岐阜	本町四丁目	加納 意久	四七	
滋賀	浦項洞二二六	山下坂次郎	六〇	
丹後	浦項洞八五	赤松 源三	八〇	
和歌山	新興洞三四	潮崎 長治	一二五	
兵庫	浦項洞山ノ一七 八ノ五	石田貞次郎	三五	
岡山	浦項洞一八	水島計次郎	六〇	
廣島	寶町五	佐々木光次	二九	
島根鳥取	常盤町一〇	藤田 勘一	九五	
山口	明治町三一	田中 源	六〇	
熊本	日賀田町一	柿本 藤吉	七三	
鹿兒島	旭日町二	四元嘉平次	二〇〇	

●北京

栃木	南夾道一五	黒根 祥作	五〇	二〇〇
秋田山形	官帽胡同一四 風間方	公平 萬	一三〇	
宮城	南河沿二〇 引地方	國分 習也	二五〇	六〇〇
新潟	東城船板胡同 石田旅館內	神兒島梧郎	一一五	一九〇
富山	東安市場 平樂園內	川瀨 平兵		
靜岡	崇內大街四三	鹽澤 七晟	八〇	
兵庫	王府井大街 大鶉鴿市胡同七		五〇	
奈良		堀內 干城		
廣島	二 東單西堂子胡同	白井 喜一	一五〇	七〇〇
愛媛	東單牌樓 信義洋行內	越智 丈吉	二一〇	
福岡	鎭江胡同一二	末次政太郎	一、一〇〇	一、一〇〇
大分	東單大街	伊東 豊作	一、三〇〇	一、三〇〇
宮崎	東四南大街二五	原口 統允	一、五〇〇	一、五〇〇
鹿兒島	二			
熊本	東單大街 東華藥房內	林 龜		
長崎	大雅寶胡同一三 五	寺田 粂作	二〇〇	八〇〇

佐賀	東單大街一七〇藤本洋行內	喜多卯七	150	600

天津

岡山	旭街四八ノ一	橋本磯太	50	300
熊本	常盤街	後藤捨生	75	250
山口	福島街四一	富成一二	50	300
靜岡	常盤街一四	根木鐵次	100	260
三重	福島街六七	森利八	60	400
兵庫	常盤街一〇ノ一	岩崎剛	130	400
岩手	南門街　萬德莊	野館吉次	60	100
山形	福島街民團內	西野操	80	150
宮城	春日街	和歌山今朝次	30	100
愛媛	福島街民團內	和田粂次	100	260

山海關

熊本	南門外	甲斐篤	50	150
大分	城內	岐部利生	30	100
茨木			25	50
宮城	南門外	菅野蓋平	25	55
青森	同	遠藤旨純	14	45

大同

福岡	城皇廟前街一五	古賀伴治	30	
長崎	東北隅大北街	桐山光次郎	250	
三州	同	松本嘉平	170	
北海道	東北隅大北街	大西彌助	124	
秋田	同	加賀谷庄次	60	
石川	仁和美街六號	森山勇作	50	

太原

德島	橋頭街一四	吉田省三	100	130
大分	首善街四八	光門右一	400、	500

三州	三聖巷	諏訪甚十	400	450
長崎	橋頭街	神島岩重	308	260
福岡	西省墻	吉瀨潔	300	400
奈良	南省墻	楠田信	50	55

濟南

京都	三大馬路緯二路	林田新次郎	40	150
岡山	二大馬路緯四路	安原順吾	110	180
山口	二大馬路緯三路	藤本近三	300	433
福岡	同	西木弘	100	703
大分	普利門	佐藤寛吾	150	378
三州	電燈公司內	小野原作一	250	424
愛媛	三大馬路緯二路	今井和次	40	333

青島

長野	海陽路五	鈴木格三郎	100
岐阜	堂邑路一六號	菱田莊吉	56
埼玉	奉天路青島神社前鈴木誠治方	關口內膳	30
東京	東阿路六號	平岩曼三郎	30
愛知	觀海一路一號	伊藤小三郎	75
靜岡	鐵山路	田邊郁太郎	46
山梨	熱河路八一號	小澤恒太郎	34
三重	堂邑路二號	乾善助	40
兵庫	市場三路電氣館前	細野庄平	80
山口	益都路七一號	松倉末雄	300
鳥取	寶山路四號	倉脇武治	30
岡山	湖南路七二號	津下信義	130
和歌山	山東路一八三號國際運輸會社內	木下千一	3
德島	高唐路一三號	加集孝樹	70
香川	德平路五六號	陣內正範	60

佐賀	奉天路	富永友太郎	70
熊本	黃臺路普導寺內	本原義岳	80
長崎	陽穀路七五	井出三次	30
大分	禹城路一二號青島救濟會內	房前由平	100
三州	武定路二四號	吉利平次郎	210
福岡	市場一路三一號	待島又一	130

上海

鹿兒島	北四川路A一二五	前園立衛	
熊本	靶子路一四一篠崎病院	秋田康世	300
福岡	達磨洋行	大內暢三	210
長崎	呉淞路	甘濃益三郎	300
愛媛	上海購買組合	鴨矢野信行	75
大阪	九江路隆華洋行	金銅鹿藏	60
愛知	乍浦和東語氣付	西川秋次	
福島	呉淞路日丸旅館氣付	關地豊吉	95

南京

東北六縣	中山東路	放送局長木內忠治	300	
富山	同	小野宗三郎	40	
兵庫	中山路	內藤四郎	60	
佐賀	遊府西街	片川榮一	50	
奈良	中山東路	堂山龜松	30	

蘇州

居留民會	城內景德路	小山光弘		850

杭州

福岡	仁和路六〇	希岡政太郎	30





街頭風景

・露人馬車夫

・滿人南京豆賣リ



—回教—



—喇嘛教—



—道教—

宗教

收穫



—麥—



—林檎—

開拓

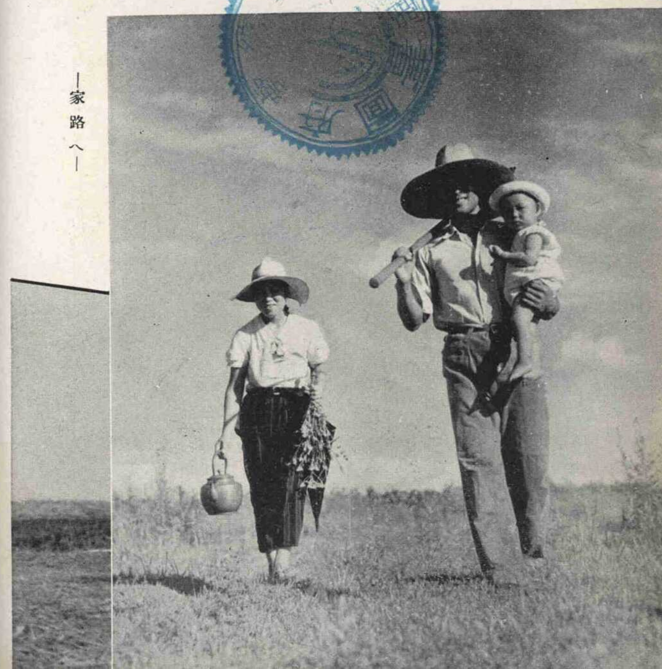


—耕作—



—訓練所—





—家路へ—

映畫

—滿洲映畫協會—







芝居

—滿映スタジオ—



—舞臺—



—隈取リ—

神社



―遼陽神社―

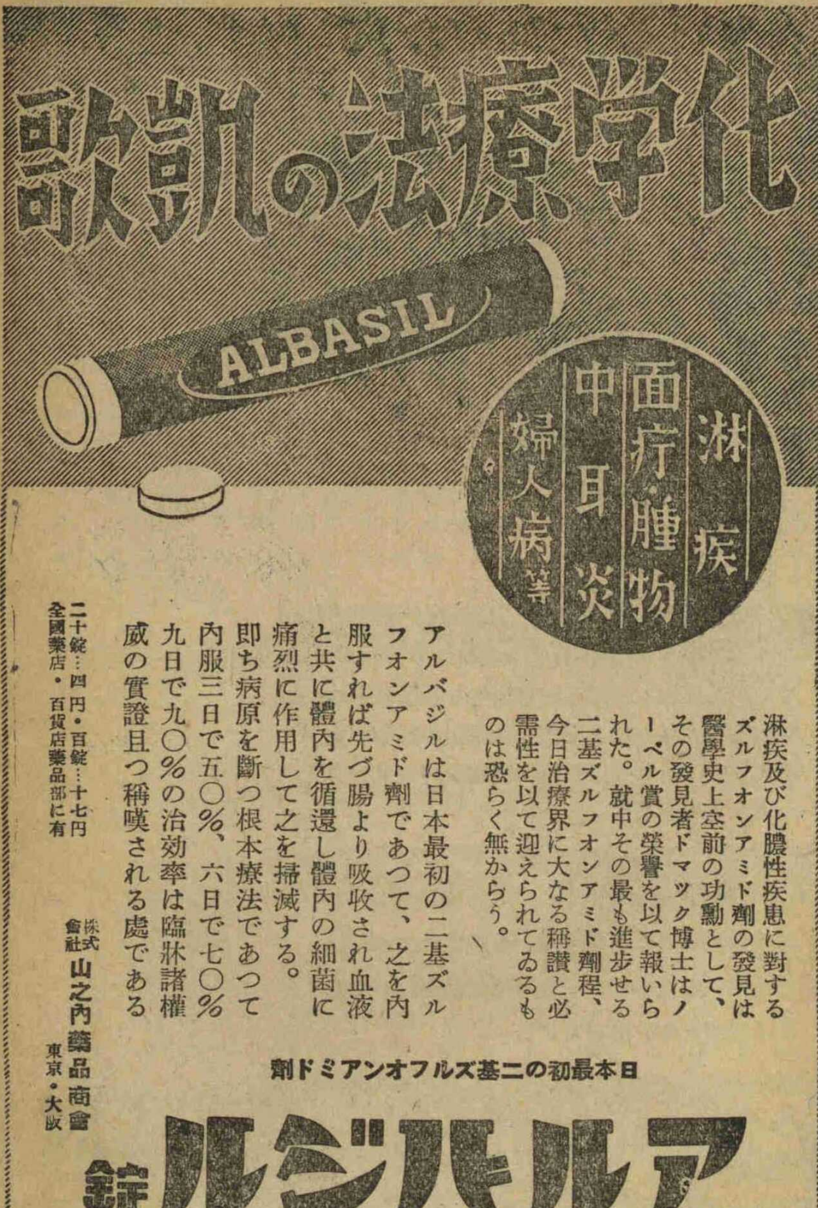


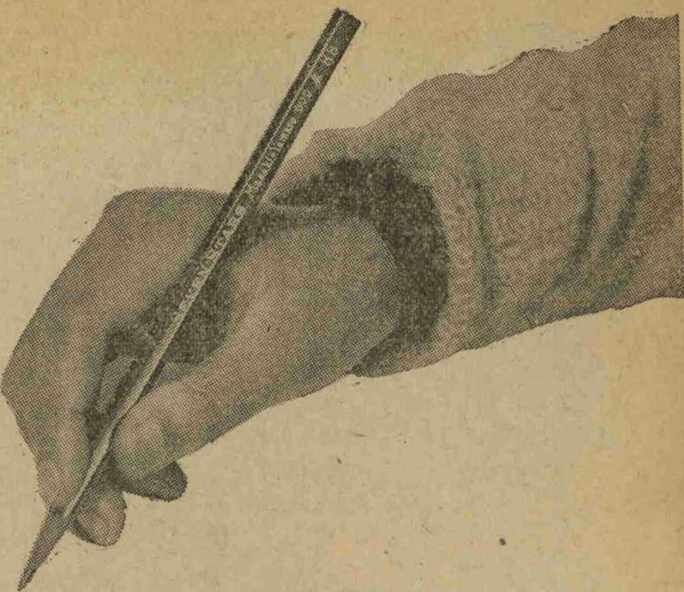
―大連神社―



―青島神社―

（昭和十四年十二月十九日
旅順要塞司令部檢閲濟）


化学療法の凱歌
ALBASIL
淋疾
面疔・腫物
中耳炎
婦人病等
淋疾及び化膿性疾患に對するズルフォンアミド劑の發見は醫學史上空前の功勳として、その發見者ドマック博士はノーベル賞の榮譽を以て報いられた。就中その最も進歩せる二基ズルフォンアミド劑程、今日治療界に大なる稱讃と必需性を以て迎えられてゐるものは恐らく無からう。
アルバジルは日本最初の二基ズルフォンアミド劑であつて、之を内服すれば先づ腸より吸收され血液と共に體内を循環し體内の細菌に痛烈に作用して之を掃滅する。即ち病原を斷つ根本療法であつて内服三日で五〇%、六日で七〇%九日で九〇%の治効率は臨牀諸權威の實證且つ稱嘆される處である
二十錠…四円・百錠…十七円
全國藥店・百貨店藥品部に有
株式會社 山之内藥品商會
東京・大阪
日本最初の二基ズルフォンアミド劑
アルバジル錠
AT—91





神社と忠靈塔

△神社

神社は日本國民總ての敬神崇祖の對象として國威發揚の先驅として來滿せる人々によつて夫々其地に奉祀され、凡そ日本人相當數の集團あるところその奉祀を見ない處なく、都市は勿論遼隔なる移民地にも氏神樣を分祀し日本精神訓育の道場として國民活動の源をなして居る。

現在滿洲における神社は七十餘社で祭神に總攬神たる天祖天照皇大神を奉齋するものが主で、開拓殖産の神として大國主神、明治天皇、事代主神、應神天皇、靖國神が合祀されてゐる。

△滿支鎭座の神社

名稱	鎭座地	祭神	例祭日
大連神社	大連	天照大神、大國主神、靖國神	五・一〇
關東神宮	旅順	天照大神、明治天皇	昭和十三年七月三日地鎭祭 一五年竣工豫定
金刀比羅神社	同	大物主神、崇德天皇	三・一〇 一〇・一〇
金刀比羅神社	大連	大物主神、崇德天皇	六・一〇
沙河口神社	同	天照大神、大國主神	五・一〇 一〇・一〇
惠比須神社	同	事代主神	一〇・二〇
關水神社	同	事代主神、崇德天皇	一〇・一七
柳樹屯稻葉神社	柳樹屯	宇賀魂神	八・一五
小野田神社	周水子	猿田彥神	六・八
周水神社	同	天照大神、明治天皇、大國主神	六・一
金州神社	金州	天照大神	五・二五 九・二五
普蘭店神社	普蘭店	天照大神	五・六 九・一七
貔子窩神社	貔子窩	同	五・二
瓦房店神社	瓦房店	天照大神、大國主神	六・四 一〇・四
熊岳城神社	熊岳城	天照大神、大國主神、明治天皇	九・九
大石橋神社	大石橋	天照大神、大國主神	五・一五
海城神社	海城	明治天皇	五・一 一〇・一
營口神社	營口	明治天皇、昭憲皇太后	五・三 一〇・三
鞍山神社	鞍山	天照大神	五・一 九・一五
千山神社	千山	天照大神、大國主神	九・二四
遼陽神社(本社)	遼陽	天照大神、豐受大神、神武天皇、應神天皇	四・三〇 九・四
煙臺神社	煙臺	天照大神、大國主神	五・二三 九・九
奉天神社(本社)	奉天	天照大神、明治天皇	五・一五 九・一五
蘇家屯神社	蘇家屯	明治天皇	一〇・一
撫順神社	撫順	天照大神、大國主神、金山比石神、金山比賣神	六・一六 一〇・一
惠比須神社	同	事代主神	五・一六
本溪湖神社	本溪湖	天照大神、金山彥神、大國主神、明治天皇	五・一〇
橋頭神社	橋頭	天照大神、明治天皇、大國主神	五・五 一〇・五
連山關神社	連山關	天照大神、明治天皇、靖國神	四・三〇 一〇・一〇
安東神社(本社)	安東	天照大神、應神天皇、天兒屋根命	五・一 九・一五
鷄冠山神社	鷄冠山	天照大神	五・一〇 一〇・一五
劉家河神社	劉家河	同	五・七 一〇・二五

草河口神社	草河口	天照大神	五・二二 九・二二
通遠堡神社	通遠堡	同	五・一八 九・一八
鐵嶺神社	鐵嶺	天照大神 明治天皇 大國主神 靖國神	四・三〇 九・一五
通化神社	通化	天照大神	五・二一 九・一七
鳳凰城神社	鳳凰城	同	五・一〇 一〇・一七
新臺子神社	新臺子	同	九・二一
開原神社	開原	天照大神 大國主神	九・九
昌圖神社	昌圖	天照大神	九・二〇
四平街神社	四平街	天照大神 大國主神 明治天皇	五・一五 九・一五
郭家店神社	郭家店	天照大神	五・一五 九・一〇
公主嶺神社	公主嶺	同	四・三〇 八・二一
新京神社	新京	天照大神 明治天皇 大國主神	五・一五 九・一五
范家屯神社	范家屯	天照大神	五・一〇 一〇・一〇
吉林神社	吉林	天照大神 明治天皇 大國主神	五・九、一〇 九・九、一〇
哈爾濱神社	哈爾濱	天照大神 明治天皇 大國主神	五・二五
齊齊哈爾神社	齊齊哈爾	天照大神 明治天皇 大國主神	五・一五 九・一五
滿洲里神社	滿洲里	天照大神	五・一五 九・一五
延吉神社	延吉	天照大神	四・三 九・八
通遼神社	通遼	明治天皇	
營溝神社	汪清縣	天照大神	九・一五
敦化神社	敦化	同	五・二二 九・二二
錦州神社	錦州	同	六・一七 九・一七
蓋平神社	蓋平	同	五・一〇 九・一〇
圖們神社	圖們	同	九・一五
佳木斯神社	佳木斯	同	五・一八 九・一八
護國神社	敦化		
蛟河神社	蛟河	天照大神	五・一〇 九・一〇
新站神社	新站	天照大神 明治天皇	五・一五 一〇・一五
百草溝神社	百草溝	天照大神	九・一五
新民新社	新民府	天照大神 明治天皇	五・一〇 九・一〇
大虎山神社	大虎山	天照大神 明治天皇	六・一五 九・一五
孫家灣神社	孫家灣炭坑内	同	春秋二回
頭道溝神社	頭道溝北山高地	天照大神	九・一〇
西安神社	西安	天照大神 豊受大神 大山祇大神	五・二〇 九・二〇
富錦神社	富錦	天照大神	五・一三
洮安神社	洮安	天照大神 明治天皇	
鄭家屯神社	鄭家屯	天照大神	九・一五
朝陽神社	朝陽	同	五・二五 九・二五
北票神社	北票		造營中
綏中神社	綏中	天照大神	五・二〇 九・二〇
溝帮子神社	溝帮子	天照大神 明治天皇	四・二五 九・二五
彌榮神社	永豐鎭	天照大神	九・二四
千振神社	湖南營	同	
綏稜神社	綏稜縣瑞穗村	同	
長城神社	山海關	天照大神	四・一五 一〇・二五
天津神社	天津	天照大神 明治天皇	四・一一 一〇・一一
伏見稲荷神社	同		
青島神社	青島	天照大神 明治天皇 大國主神	四月・十月
金比羅神社	同	大物主神 少彥名神	同
稲荷神社	同	藏稲大神 大宮賣大神 猿田彥大神	同
鶴卷水天宮	同		
石門神社	石家莊	天照大神 明治天皇	四・一一 一〇・一一
太原神社	太原	天照大神 明治天皇	四・三 一〇・三
南京神社	南京	造營計畫中	
上海神社	上海	天照大神 神武天皇 明治天皇	四・三 一一・ 一二・三
蘇州神社	蘇州	同	五・二〇 一一・六
杭州神社	杭州	天照大神	一〇・一〇、一一 四・一〇、一一 七・一〇、一一
漢口神社	漢口	天照大神 神武天皇 明治天皇	四・三 一一・三

△滿洲の忠靈塔

	・柱數	・建立年月	・場所
旅順納骨祠	二四、五四八柱	明治四十年五月	白玉山
大連忠靈塔	六、〇六四柱	明治四十一年八月	中央公園
遼陽納骨祠	一四、八四三柱	明治四十年十月	驛南方
奉天忠靈塔	三五、六四八柱	明治四十三年三月	千代田通
安東納骨祠	三、四一八柱	明治四十三年六月	鎭江山
新京忠靈塔	一、一八四柱	昭和九年十一月	北安路
哈爾濱忠靈塔	三、六七〇柱	昭和十一年九月	馬家溝
齊々哈爾忠靈塔	一、一二六柱	昭和十一年九月	商埠路
承德忠靈塔	一、九二三柱	昭和十三年五月	承德
佳木斯忠魂碑		昭和八年十一月	東南崗東山
錦州忠魂碑		昭和十三年九月	慶臙街
通化忠靈塔	二	昭和十二年六月	玉皇山公園

滿支の祭典

滿支に行はれてゐる諸宗教の中で民衆の信仰の中心をなしてゐるのは道教である。

しかし現今の信仰狀態を見るに道教、儒教、佛教を初め其他のものが混淆されてしまつてゐて、それが民衆の現實的、實利的、迷信的な特性によつて彩られ、何れの場合にも祈願の中心となるものは利殖、豐饒、繁榮、求子、安產、疾病惡疫その他の災厄或は天災などの救濟といつたやうなものである。供物などに對する觀念など至つて幼稚で、神の靈驗はその供物の多寡に比例するといふやうに神の意思欲望を自分等の水準に於いて忖度するといつた有様である。

寺廟聖地など道儒佛の三教ともそれぞれこれを有してゐるが、何れの宗教をも超越して祖先崇拜の觀念は日本と同樣である。

死者が偉大なる者であればその家族を越えて一般の信仰の對象となり得るわけで關羽が關帝に祀られ今尙ほ厚く崇信されてゐるなど其の一例である。

道教のうち滿洲に最も勢力のあるのは龍門派と稱せられるもので盛んに偶像を設け福祿壽を說き冠婚葬祭をも行つてゐる。寺院は通常「觀」「廟」或は「宮」とも呼ばれる。

彌陀や觀音を本尊として祀るところに佛教との著しい混淆がうかがへる。主神は玉皇と天后、關帝と娘々がその主なものである。然し玉皇には天后を配する外、天官、地官、水官の三神をも併祀し關帝には娘々を配する外、佛爺、龍王、火神、馬王、牛王、財神、藥王、神農、狐仙などをも併祀するといふ風で道教の廟觀中には宛然偶像の百貨店といつた感じのものがある。

娘々は古來大衆受けのする神樣で、道教の代表神ともいふべき有樣でこれを祀つた廟祀は滿洲到るところにある。中にも大石橋の娘々廟は最も古くて有名である。娘々廟と天后宮とは通常別々に祀られてあるが祭神は同じものと解されてゐる。關帝は關羽を祀りその廟は又老爺廟とも稱し娘々廟と同樣各地にある。武神で護國の神であると共に財神とされて大に人氣をもつてをり滿洲國ではその大祭を國家的に行ふことに規定されてゐる。

各省城、各縣城に孔子の廟(文廟)があり祭典も行はれてゐるが論語の精神など地に

墮ちてゐる今日、道敎の影響を受けて宗敎混淆にまきこまれ純粹の儒敎は非常に影が薄い。然し國家によつて孔子精神の宣揚に重心が置かれ祭典も國家的に行はれること に規定されて儒敎に光明が大に立ちかけてゐる。

滿洲の佛敎は昔日の勢力は全くなく臨濟禪宗が多い。寺院は「寺」又は「庵」などの稱號で呼ばれ又「廟」とも稱せられる。

喇嘛敎は盛に偶像を崇拜しその種類も多種多樣である。釋迦、阿彌陀、金剛菩薩、寶生佛、文珠、觀音、彌勒、大黑神、摩醯首羅、宗喀巴、龍樹、四天王などの像が普通のものであるが、其外に所謂祕佛なるところの非常に珍らしい像がある。奉天小西邊門外にある黄寺は滿洲の總本山格である。寺院は建立の事情によつて稱を異にし活佛の住持するものを佛爺廟、札薩克（旗長）の菩提寺を王爺廟と稱し、一旗の廟を旗廟、普通の廟を站廟と言つてゐる。この宗敎で行ふ年二回の大祭には跳鬼又は打鬼といつて各種の假面を被り、鬼神や天王母の跳舞が催され、或は競馬や角力が行はれて盛況は大したものである。

▽滿洲祭典地（陰曆による）

祭名	場所	例祭月日
天后宮祭	海洋島會灣東屯	自一・一 至一・九
跳祭	奉天小西邊門外喇嘛廟	自一・五 至一・一五
三官廟祭	大長山島會三官廟屯	一・一六
高足會	草河口	自一・六 至一・一六
火神會	安東元寶山	一・二九
祀孔會	佳木斯南門裡	二・一 八・五
眞武廟祭	撫順驛より八粁	自二・一 至二・二〇
關武聖人祭禮	洮南縣城内祜民西街	二・一七
孔子祭	吉林	二・一七
金銀庫祭	遼陽縣城内金銀庫	二・一九
老邊觀音老母廟祭	大石橋驛より一・五粁	自二・一八 至二・二一
觀音大士誕祭	大譚家屯會朝陽庵廟	二・一九
南海大祭	安東元寶山	二・一九
釋迦牟尼及觀音菩薩祭禮	洮南縣城内裕民西街	二・一九
跳塔	奉天小西邊門外喇嘛廟	二月中
跳塔	同	自三・一 至三・一五
三三廟會	崔家屯會三三廟屯望洋臺山玉皇廟	三・三
釋迦牟尼及觀音菩薩禮祭	洮南縣城内裕民街	三・三
東嶽廟祭	老爺廟附近	三・一五
皆子河會	皆子河會子河屯潮海寺	三・二〇（毎月一と十五の日）
文廟祭	新京南關	三・二一 九・一七
天后聖母降誕祭	大連市惠比須町天后宮	三・二三
娘娘廟祭	貔子窩會西街	三・二三
天后宮會	奉天大北關	三・二三
海神娘娘祭	安東元寶山	三・二三
天齊廟會	奉天小東關邊門	自三・二五 至三・二九
天齊廟會	遼陽城内天齊廟	三・二八
天齊廟會	齊々哈爾天齊街	三・二八
興盛廟祭	鞍山（驛より二粁）	自四・六 至四・一〇
湧泉寺祭	楊樹房會干和尙廟屯	自四・六 至四・一〇
佛誕廟會	佳木斯關帝廟	四・八
娘娘廟會	同	四・一八
藥王廟會	同	四・二八
佛爺廟祭	石河佛爺廟	四・八
楞殿寺會	營口市	四・八
天后宮	同	四・二八
夾河廟祭	夾河廟會龍母廟屯	自三・一 至三・一五
小白山望祭	吉林市外小白山	春分秋分日
永興寺祭禮	營城子	自四・三 至四・一七
娘娘廟祭	撫順（驛より一粁）	自四・八 至四・二〇
娘娘廟祭	奉天大南關什字街	自四・一五 至四・一八
娘娘廟祭	吉林北山	四・一八

娘娘祭	湯崗子	自四・一六 至四・一八
娘娘廟祭	大石橋迷鎭山	自四・一六 至四・一八
三宵娘娘聖母祭	洮南縣内裕民西街關帝廟内	自四・一七 至四・一九
娘娘廟祭	鐵嶺西門内	自四・一七 至四・一九
天仙娘娘祭	遼陽城内天齊廟	四・一八
安寧寺佛祭	奉天省奉集塔山	四・一八
三仙娘娘廟祭	安東元寶山	四・一八
娘娘廟會	齊々廟會公園南街	四・一八
娘娘觀祭	大屯阜豊山	自四・一八 至四・二〇
娘娘廟祭	通遼堡驛北方約三粁	四・一八
娘娘廟祭	四平街西方舊四平街	四・一八
娘娘廟祭	梨樹縣實買街	四・一八
娘娘祭	鄭家屯老爺廟内	四・一八
茂林廟祭	通遼(驛より三〇粁)	自四・一八 至七・一五
娘娘廟祭	綏化	四・一八前後五日間
娘娘廟祭	呼蘭	四・一八前後五日間
藥王廟會	奉天大南關大街南	自四・二五 至四・三〇
關帝、藥王、坎離宮、王皇閣祭	吉林北山	自四・二七 至四・二九
藥王廟會	柳條溝屯藥王廟	四・二八
藥王祭	遼陽城内藥王廟	四・二八
火神廟祭	陳相屯(驛より約三粁)	四・二八
藥王祭	安東元寶山	四・二八
劉家河娘娘祭	劉家河驛東南約一哩香雲寺	自四・一八 至四・二八
城子疃會	城子疃(驛より三町)	四・二八
藥王廟會	鐵嶺北關	四・二八
藥王廟會	吉林北山	自四・二六 至四・三〇
鳳凰山廟會	鳳凰山(驛より四粁)	自四・二六 至四・三〇
端陽祭	安東元寶山	五・五
喇嘛廟祭禮	葛根廟及王爺廟	五・五
五日祭	哈爾濱	五・五
老爺廟祭	鐵嶺西關老爺廟	五・五
關帝廟單刀會	吉林北山	五・一三
關公祭	安東元寶山	五・一三
關帝廟祭	開原舊附屬地	五・一三
關武聖人の祭禮	洮南縣城内關帝廟	五・一三
關帝廟祭	遼陽驛より約十五町	自五・一二 至五・一四
鄂博祭	鄭家屯鄂博山	五・一九
關帝廟會	齊々哈爾公園南街	五・二三 六・二四
護國般若寺會	新京吉林大街	五・二六
龍王廟祭禮	洮南縣城大北門外洮兒河南岸	六・二三
喇嘛廟祭禮	葛根廟及王爺廟	六・一五
阿拉街廟祭	王府驛東六粁	六・一五、一六
喇嘛廟會	臥虎屯驛西方一二粁	自六・一四 至六・一六
關武聖人祭禮	洮南縣城内裕民西街	自六・二三 至六・二四
關帝廟祭	梨樹縣實買街	自六・二三 至六・二四
關帝廟祭	松樹附近地内第七區	六・二四
關帝廟會	熊岳城舊附屬地	六・二四
關帝廟會	新京南關	自六・二九 至九・二八
盂蘭盆會	大連惠比須町天后宮	七・一七
喇嘛廟祭	大板上	七・一より一箇月
中元節	奉天各處墳墓	七・一五
靈祭	安東元寶山	七・一五
盂蘭盆祭	鐵嶺榮河河岸(北門外)	七・一五
中元節	吉林	七・一五
財神廟祭	貔子窩會財神廟	七・二五
孔子祭	吉林	八・一七
甘珠兒廟祭	海拉爾南一七、六粁	八・六より一五日間
千山祈禱會	千山	自八・二二 至八・二四
龍首寺秋	鐵嶺龍首山	九・九
觀音廟會	吉林北山及巴虎門内	九・一三
財神廟祭	梨樹縣實買街	九・一七
東、北陵祭	奉天	一〇・一
孔誕祭	哈爾濱孔子廟	一〇・一二

(以上は一例であつて未だに各地多くの祭事が催される)

▽支那祭典地（陰曆による）

北京

・寺廟又ハ祭名	・場所	・祭例月日
火神廟	外二區延壽寺街西通南柳巷	一・一、一五
白雲觀	西便門外南西一支里	一、一九
大鐘寺	西直門外	一、一五
三忠祠	東便門外	一
鐵塔寺	同	一
關帝廟	前門下	一

東嶽廟	朝陽門外	一・一五
三官廟	東西牌路東	一
精忠廟	内三區北新橋路北	一
財神廟	廣守門外約二・六粁	二
黃寺	德勝門外（最近は「打鬼」中止）	一三
城隍廟	前門外	一三—一七
黑寺	德勝門外	二三
雍和宮	内三區雍和宮大街	三〇
太陽宮	左安門内	二・一・二
雍和宮	内三區雍和宮大街	一
祭文昌廟	地安門大街帽兒胡同	三
觀音廟	正陽門下	一九
蟠桃宮	東便門内	三・一—一五
潭拓寺	石景山西	一—一五
東嶽廟	朝陽内外齊外大街	一五—二八
天臺山	西郊磨石口	一八
戒臺寺	蘆溝橋西北約一二粁	四・一—一五
西項（娘々廟）	西直門外一〇粁藍靛廠	一—一五
萬壽寺	西直門外三・四粁	一—一五
碧雲寺	西山	一—五
南頂	永定門外馬駒橋	一—八
天寧寺	廣安門外	八
天仙廟	西直門外	八
藥王廟	西直門外高梁橋外	一三
北頂	德勝門外土城東北	一八
東頂	東直門外	一八
造甲廟	廣安門外	二八
看丹廟	右安門外	二八
都城隍廟	西單牌樓成方街路北	五・一—一五
臥佛寺	崇文門外	一—一〇
南頂	永定門外	一
北頂	德勝門外	一
大興縣城隍廟	安定門内交道口大興縣街	一
中頂	右安門外草橋	六・一
善光寺	廣安門内	一
白雲觀	西便門外	二三・二四
馬王廟	新革門外	二三
關帝廟	永定門外	二四・二五
江南城隍廟	宣武門外南橫街東口	七・一五
鑑君廟	崇文門外花兒市	八・一—一三
白雲觀	西便門外	九・一—一九
財神廟	廣安門外	九・一五—一七
江南城隍廟	外五區南橫街	一〇・一
白塔寺	西四牌樓西阜成門内	一〇・二五

十一、十二月　見るべきものなし

天津

娘々祭	城内娘々宮	自一・一 至一・一五
皇會	同	自三・一五 至三・二五
蟠桃會	小稍直口福壽宮	五・五
城皇會	西馬路城皇廟	四・八
藥五會	市南五十里峰山廟	四・二八
盂蘭會	河東尙野坂池	七・一五

青島

海神娘々祭	太平路十九號天后宮	三・二五

山海關

姜女廟祭	山海關東方八粁	四・一八
孔子廟	山海關西街	三・一七 八・一七
三清觀	山海關西關	四・一八

大同

祀關岳	關五府	六・二四
祀孔子	文廟	春秋分日

杭州

彼岸回	三天竺	自二・一五 至四・一五
觀音回	同	六・一五
彼岸回	雲林寺 昭應寺 淨慈寺	自二・一五 至四・一五
城隍祭	城隍山	六・一九
觀音誕	東嶽廟	自七・一 至七・三〇

武漢

上九節	一・九
觀音節	三・一九
城隍節	三・二八
關皇節	五・一三
鵲橋會	七・七
中元節	七・一五

寺院

歸元寺——漢陽

寶通寺——武昌（洪山）

長春觀——武昌（大東門外）

賽馬場

・賽馬場	・經營	・創立	・用地	・開催期間	・場所	・乘物
奉天國立	治安部	昭八・八	十六萬五千四百坪	自四月至十月四十八日間	北陵西	自驛自動車二・五〇圓、馬車同四〇錢、バス自小西邊門一五錢、人力車同二〇錢
新京國立	同	昭一三・三	四十九萬平方米	自四月至十月(每土日祭日)四十八日間	興安大路賽馬街	自動車自驛一・二〇圓(一五分)、バス臨時市內より二〇錢(二〇分)
哈爾濱國立	同	昭八・八	四十五萬六千平方米	自四月至十月(每土日祭日)四十八日間	王兆屯	自動車自驛一・五〇圓(二〇分)、市內臨時バス自警察街二〇錢(四五分)
鞍山	鞍山賽馬倶樂部	昭一一・一二	十六萬坪	自四月至十一月三十九日間	自驛二粁	自驛馬車二五錢(四〇分)、同バス一〇錢(一〇分)
撫順	撫順賽馬倶樂部	昭八・八	五十一萬平方米	春秋四回四十日間	自驛三粁	自驛馬車五〇錢(二五分)、バス一〇錢(一〇分)、洋車二五錢(三五分)
營口	營口賽馬倶樂部	昭一一・一二	十萬坪	至五月至十月四十八日間	永世街五	自驛自動車一・〇〇圓、馬車五五錢、洋車四〇錢
安東	安東賽馬倶樂部	昭一二・一二	十七萬坪	自四月至十月四十八日間	自驛三粁	自驛自動車一・〇〇圓(七分)、バス一〇錢(一〇分)、馬車五〇錢(二五分)、洋車三〇錢(三〇分)
錦州	錦州賽馬倶樂部	昭一四・三	十五萬坪	春秋二期	金家屯	自驛バス片道一〇錢(一五分)

大連	關東州競馬會	昭一三・六	六萬八千五百坪	自四月下旬至十一月中旬年四回、一回八日	常盤橋起點約五粁五	電車五錢（二十二分）、バス一〇錢（一〇分）、タクシー七〇錢（一〇分）
旅順	同	同	八萬坪	自四月上旬至十月中旬年三回、一回六日間	驛起點約三粁二	馬車一・〇〇圓（一〇分）、タクシー一・五〇圓、（一五分）バス一〇錢二〇分（大連より往復）片道約一時間半二・〇〇圓。
金州	同	同	十萬坪	自四月上旬至十月中旬年三回、一回六日間	驛起點約四粁	馬車一五錢（二〇分）、タクシー六〇錢（八分）、バス自大連往復片道八〇錢（五〇分）
天津	英國	不詳	一五萬坪	自四月至五月	英租界	自驛自動車二・五〇圓
北京	西紳總會	光緒初年	周圍三里	春秋二期	北京西郊	自驛汽車五〇錢、洋車八〇錢
石門	市公署	昭一四・九	―	自九月至一〇月	石家莊休門	自驛洋車三〇分
上海大馬路	上海賽馬俱樂部	一八九六	一哩四分一馬場	五月及十一月	靜安寺路	
上海江灣	上海恒產會社	―	一哩二分一馬場	―	江灣鎭東部	
漢口	英會社	―	―	―	日租界附近怡和村	

ゴルフ場

ゴルフ倶樂部	リンクス	事務所	ホール	順路	料金
星ケ浦	大連市星ケ浦 開場大正五・五・一九	大連市星ケ浦	十八ホールス、六千百五十四碼、パー七十二	自大連驛自動車二十分（一圓）バス（十五錢）	ビジター日、祭日（四圓）、土平（三圓）（一圓五十錢、キヤデー（三十八錢）、（三十錢）、（二十五錢）（一ラウンド）レッスン（一圓五十錢）（一時間）
旅順	旅順市新市街	大連市關東州廳外事課內	六ホールス、一千一百七十二碼	自旅順驛自動車四分、馬車十分 自大連市バス一時間（一圓）	ビジター無料、キヤデー（十八錢）、（十五錢）、（十二錢）（一ラウンド）
鞍山	鞍山睦ケ丘開場昭和九・九	鞍山上臺町迎賓館內	十八ホールス、六千五百碼、パー七十二	自鞍山驛自動車十分（一圓） 自湯崗子驛自動車二十分	ビジター日、祭、平共（一圓）キヤデー（二十五錢）（一ラウンド）レッスン（一圓）
奉天國際	東陵コース 奉天市東陵 北陵コース 奉天市北陵 開場昭和一三・五	奉天市東陵區東陵 奉天市北陵街六角堂	東陵一八ホールス、六千八百四十碼、パー七十四 北陵九ホールス、二千六百九十九碼、パー三十四	東陵自奉天驛自動車三十分（片道凡五圓） 奉吉線自東陵驛徒歩十分 北陵自奉天驛自動車十五分（一圓五十錢）、バス三十分（十錢）	東陵—日、祭（五圓）平（二圓） 北陵—ビジター日、祭（五圓）、土（三圓） 平（一圓） キヤデー（二十五錢）（九ホールス）
撫順	撫順新市街撫順炭礦區內 開場大正二	撫順炭礦經理課內	十八ホールス、六千四百碼、パー七十二	自撫順線撫順驛自動車五分（五十錢）	ビジター日、祭（二圓）、平（一圓）キヤデーA（二十四錢）B（二十錢）C（十六錢）一ラウンド
新京	新京特別市興安大路鐵道西 開場昭和八・八	新京特別市興安大路鐵道西	十八ホールス、六千三百九十碼、パー七十一	自新京驛自動車十分（一圓）バス二十分（十錢）	ビジター日、祭（三圓）、平（一圓五十錢）キヤデーA、（五十錢）B、（三十錢、一ラウンド）レッスン（一圓五十錢、一時間）
哈爾濱	哈爾濱馬家溝 開場大正九	哈爾濱馬家溝	九ホールス、二千七百九十一碼、ボギー（三十七）	自哈爾濱驛自動車（一圓） 自驛前電車馬家溝終點下車 自終點馬車約三十分（十錢）	ビジター日、祭（二圓五十錢）、平（一圓五十錢）キヤデーA（二十五錢）B（二十錢）C（十五錢）（九ホールス）
安東	安東縣桃源 開場昭和七・三	安東縣桃源	十八ホールス、四千八百二十五碼、パー六十二	自安東驛自動車五分（八十錢） 馬車二十分（三十錢）	ビジター日、祭（一圓）、平（五十錢）キヤデーA（二十四錢）B（二十錢）

齊々哈爾	嫩江河畔	鐵道ホテル	九ホール三、一五〇碼、パー三六	自驛自動車三圓(三〇分)	ビジター、キャデー、レッスン二〇錢
錦州	高砂街開場 昭和一四・八	高砂街錦州ゴルフ同好會	九ホール三、一六〇碼、パー三六	自驛自動車一圓、バス一〇錢(十五分)	ビジター日、祭二圓、平日一圓、キャデー一ラウンド(九ホール)二〇錢レッスン一時間一圓
四平街	道東水源地	同上	九ホールス三、一〇〇碼	自驛一粁半自動車二圓(五分)馬車二〇錢(一〇分)	ビジター一日一圓キャデー一回六錢
北京	八寶山	北京ゴルフ倶樂部	九ホールス	自北京站自動車約五〇分	入會金三五圓會費毎月七圓
青島	港山大正九・八	同上 青島ゴルフ倶樂部	十八ホールス、六、二九〇碼、パー七二	自青島驛自動車三圓(一〇分)洋車五〇錢見當、馬車九〇錢見當	ビジター土日祭三圓平日二圓、キャデー四五錢(一ラウンド)
天津	佛租界兵營前	同上 東機局	十八ホールス	自天津驛自動車二圓(一五分)	―
上海虹橋考而夫場	上海西部虹橋路	虹橋考而夫總會	八ホールス	タクシーに依る	會費A百弗終身、B二〇弗一箇年半、C〇・五弗一回
上海楊樹浦	上海楊樹浦軍工路口	滬江考而夫協會	十ホールス	同右	入會金二百弗
上海惠霖頓夜	上海愚園路底	上海惠霖頓夜總會	九ホールス	同右	一回〇・五弗
上海維也納跳舞場	上海才登路維也納跳舞場内	維也納跳舞場	十ホールス	同右	一回〇・五弗
上海江灣	上海江灣競馬場内	上海江灣ゴルフ協會	九ホールス	同右	入會金六百弗
漢口	漢口西商跑馬場	同上	十八ホールス	―	―

運動施設

（主トシテ公共運動施設）

▽關東州

陸上競技	大連運動場
同	旅順運動場
蹴球	大連運動場
體操	同
ラグビー	同
水上競技	大連運動場プール
氷上競技	大連鏡池リンク
硬式庭球	大連中央公園コート
軟式庭球	大連北公園コート
排球	大連運動場
籠球	大連中學校體育館
野球	滿倶野球場、實業野球場

▽滿洲

新京

南嶺綜合運動場	南嶺
兒玉公園陸上競技場	兒玉公園
同 野球場	同
同 スケート場	同
牡丹公園庭球場	牡丹公園
白蘭水泳場	白蘭町
大同公園水泳場	大同公園
同 庭球場	同
白山公園庭球場	白山公園
大同公園籃球場	大同公園
同 排球場	同

奉天

國際運動場陸上競技場兼スケート場	萩町
同 庭球場	同
同 相撲場	同
千代田公園水泳プール	千代田公園
滿鐵野球場、蹴球場	萩町
民衆體育場大山グラウンド	同

撫順

永安運動場	南大街

營口

營口市運動場	吉野町
同	楞嚴寺前部家園子

安東

安東野球場	鎭江山麓
安東市水泳プール	鎭江山公園
鴨綠江スケートリンク	鴨綠江

鐵嶺

鐵嶺市民運動場

哈爾濱

八站綜合運動場

鞍山

市民運動場	神社下
製鋼所野球場	同
同 排球、籠球場	同
同 庭球場、プール	井々寮前

四平街

四平街運動場プール、庭球場、弓道場	北十三條通

遼陽

公衆體育場	中央公園

圖們

市民運動場	銀河街－仲秋街

佳木斯

佳木斯運動場	鳳陽街三段地

齊齊哈爾

市民運動場	嫩江河原
庭球場	龍沙公園
滑氷場	新馬路
滿鐵運動場	民宅街

滿洲里

協昭運動場	頭道街

錦州

市公署運動場	三保街
木村土地グラウンド	木村土地
市綜合運動場	榛名街

承德

忠靈塔前運動場	南營子

承德滑氷場　離宮内

▽中國

北京

北京市公共體育場　外城先農壇

天津

民國グラウンド　日界住吉街

リクレーションングラウンド　英界廣東路

山海關

民國グラウンド　鐵道南

濟南

忠魂碑運動場　六大馬路緯七路

濟南競技場　南圩門街

青島

青島體育場

一小グラウンド

第三公園グラウンド

石門

高野山廣場運動場　高野山姚山寺

杭州

省體育場　體育場路

市立公衆運動場　湖濱路

玉泉プール　玉泉寺前

湧金門プール　湧金門

杭高プール　貢院前

之江大學プール　閘口

漢口

廣雅公園體育場　中正路

【關東州體育協會】 大正十一年八月二十二日發會(全滿洲競技聯合)、大正十三年五月十六日改組(滿洲體育協會)、昭和十三年一月一日改組(關東州體育協會)、日本體育運動團體の一構成組織として關東州内日本側運動團體(陸上競技、水上競技、氷上競技、硬式庭球、軟式庭球、籃球、排球、蹴球、ラグビー、體操)を統轄し代表選手の推薦權を有する。

【大滿洲帝國體育聯盟】 大同元年四月アジアの黎明を祝福して民族協和の大理想の下に開催せる建國記念第一回大運動會と共に本聯盟の母體滿洲國體育協會を創設し爾來國內治安工作の進展に伴ひ漸次地方的に體育運動の普及を見るに至り陸上競技、足球、籃球、排球に堂々著しき發達を見、大同元年より短日月に整備しつゝある我國運とスポーツの進捗が將に正比例せるを立證するに充分なものがある。

康德元年七月、新年度活動方針の樹立に際し體協の組織機能と國內運動競技團體の現況に鑑み、組織を改變擴大して各種運動競技別協會に依る有機的聯盟組織とし地方事務局との圓滑なる聯絡に依つて全國運動競技團體の合理的統制機關とし逐次修正を加へ現在に及んでゐる。

越えて一昨年十二月の治外法權撤廢を機に體育運動團體に於てもその國策の根本趣旨に基き、兩國間に於ける運動競技者統制に關する協定を結び、從來滿洲に於ける二元的統制を渾然一體とし滿洲國內に居住する日本人競技者も名實共に民族協和の本質に從ひ、而して一德一心不可分關係にある兩國體育運動を一層密接にすると共に、兩國の並的向上を期し國民の資質向上に努めてゐる。

體育聯盟機構左の如し

大滿洲帝國體育聯盟

- 足球協會
- 拉式足球協會
- 陸上競技協會
- 野球協會
- 籃球協會
- 排球協會
- 硬式庭球協會
- 軟式庭球協會
- 滑氷協會
- 馬術協會
- 卓球協會
- 水泳協會
- 體操協會

各事務局

- 奉天省、吉林省、龍江省、熱河省、興安東省、興安西省、興安南省、興安北省、錦州省、安東省、濱江省、間島省、黑河省、三江省、通化省、牡丹江省 — 各縣體育會 各協會支部
- 新京市、撫順市、鞍山市、奉天市、哈爾濱市 — 各協會支部

【滿洲體育保健協會】 滿洲體育保健協會は社會體育の中心機關として精神的訓練を中軸とし國民の體力の向上と健康增進に資し併せて民族協和の實を擧ぐるを目的とし政府竝滿鐵會社よりの醵金に依り財團法人を設立し此の基金を以て先づ新京、奉天、撫順、牡丹江、哈爾濱、齊々哈爾、大連の七大都市に綜合體育館を建設のため設計準備を進め一部建築工事に着手せんとしつゝある。

【滿洲帝國武道會】 滿洲帝國武道會は皇帝陛下御登極の大典記念を卜し滿洲國の立場より日本古來の武道を廣く且健全に滿洲國內に普及發達せしめ、滿洲國に於ける指導的立場に在る日本人の心身鍛錬と兼ねて他民族の身心鍛錬竝に日本人理解の一助たらしめんことを目的として結成せられた。

康德五年度には、治外法權撤廢竝に附屬地行政權の移讓を契機として全滿各主要都市二十五箇所に支部を設置し、全滿武道關係團體の一元的統制を計り武道精神の宣揚竝に武術の普及發達を圖り、以て國民品性の陶冶と體育の奬勵に資し併せて民族協和の實を擧げ國民體力の向上精神鍛錬國力の充實體育保健の思想を扶植する上に於て極めて重要なる貢獻を爲しつゝある。

【滿洲角道會】 元天龍民政部囑託和久田三郎氏が産婆役で設立準備中の全滿相撲團體を打つて一丸とする滿洲角道會は、滿洲事變記念日を期し康德五年九月十八日新京忠靈塔角道場に於て發會式を行つた。

滿洲學生柔道聯盟	當番校
滿洲學生劍道聯盟	同
滿洲學生陸上競技聯盟	同

關東州內體育團體

名稱	事務所
關東州體育協會	滿鐵經理部
關東州陸上競技會	同
關東州體操聯盟	關東體育研究所
關東州水泳協會	滿鐵調査部
關東州蹴球協會	滿鐵文書課
滿洲ラグビー蹴球協會	埠頭文書課
滿鐵運動會大連支部	滿鐵福祉係
滿洲柔道有段者會支部	同
滿洲劍友會	大連道場
滿洲角道會大連支部	大連市役所
關東州弓道聯合會	中央公園弓道場
大連市民體育會	大連市役所學務課
滿洲體育保健協會大連支部	同
滿洲漕艇協會	滿鐵經理部庶務課
大連市民射擊會	春日池畔事務所
關東州卓球協會	滿日事業部
新東洋拳闘會	大連市伏見臺
大連獎學會體育部	大連早苗小學校
大連實業團軟式庭球聯盟	大連市山縣通
關東州學校體育聯盟	關東州體育研究所

スキー場

撫順老虎臺スキー場 （奉天より一時間十分）

撫順驛前から電車（片道廿錢）にて達する。スキー場は老虎臺停留場の直ぐ前にあり停留場からスキーをつける事が出來る。スロープは五百米位より種々あり初心者にも熟練者にも適する。

（相當の降雪時には可能）

◇設備　小型シャンツエ、ヒユツテ

遼海山スキー場 （連京線奉天より鐵嶺まで急行約一時間）

遼海山は海拔三四八米。地面六百米の七度乃至十度の傾斜あり、地面は凹凸岩石、樹木等の障害なく、絶好のスロープである。山小屋、蒙古包、貸スキーの準備あり、スキーはストツク、靴共一般七十錢、滿鐵社員五十錢である。

鐵嶺驛より遼海山までバス片道三十五錢。

土們嶺スキー場 （京圖線新京より一時間四十分）

土們嶺驛前の小山を中心とし周圍に展開し至るところ緩急樣々のコースありそ

の長さ約五千六百米より一千米、幅五百米に及ぶ所もあり雪量豐富雪質又良くゲレンデスキー場としては絶好である。

◇設備　ヒユツテあり、驛前で簡單な食事（支那料理）が出來る。

山城鎭スキー場（奉吉線奉天より五時間）

第一スキー場　驛より約一粁十五分にて達する。城子山（標高四百九十一米）の山頂を基點として東西のスロープ約五百米は絶好のゲレンデをなして居る。

第二スキー場　第一スキー場より約一粁陸嶺峠の北面一帶のスロープ。長短緩急樣々で雪量又豐富にして熟達者に好適である。

第三スキー場　第二スキー場より四百九十五米の山を基點として陸嶺を縱走し城子山を經て第一スキー場に至る約二粁のコースは連山を一眸に收めてスキーハイキングに恰好のコースである。

◇設備　第一スキー場山麓の寺廟を利用して總局の湯茶接待休憩所がある。

◇貸スキー　山城鎭驛に局員用貸スキーがあり餘裕ある場合は一般にも貸出して居る。申込は山城鎭驛

◇旅館　驛前に多來福旅館がありスキー客に限り一泊二食三圓程度に割引して居る。

南雜木スキー場（奉吉線奉天より約二時間二十分）

永陵參拜せんとする旅客の下車驛南雜木の南方に展開してゐるスロープで、長さ四〇〇米乃至七〇〇米、積雪量は最低一尺最高三尺に達し、ゲレンデの背後に連走する標高三七〇米の山嶺の肌では山スキーの快味を滿喫することも出來る。スキー可能期間は三月中旬まで。

◇貸スキー　（驛）　一日三十錢

◇宿泊　梅園旅館（二食付三圓晝食準備も出來る）

元帥林スキー場（奉吉線奉天より約二時間）

雪質も良くスロープも長く、雜木が非常に少いのでスキー最適地を爲してゐる。

吉林スキー場（新京より約三時間）

北山スキー場

1　北山スロープ

驛より山麓まで五粁、バス（二十分十五錢）馬車（三十分五十錢）の便がある。ヒユツテへは更に徒歩で七分（三百米）にて達する。緩急樣々のスロープを有し大衆的スキー場として家族連れにも適し吉林スキー場の中心をなすものである。

2　歡喜嶺、觀音澤、柏澤の各スロープは自ら一ブロックを形成して居る。北山スロープから尾根傳ひ或はスロープ傳ひに約五粁の所にある。

歡喜嶺スロープは雄大複雜、熟達者のテクニツクを樂しむに好適である。

觀音澤スロープは歡喜嶺スロープを背後にし廣大な低山スロープをなして居る。

柏澤は觀音澤に連なり初心者に好適なスロープである。

3　砲臺山スロープ

驛より馬車で二十五分（三粁卅錢）にて山麓に達する。玄天嶺と呼ばれる砲臺山の山腹に開けたスロープで初心者向きである。

◇設備　北山スロープにヒユツテあり山頂に古都の茶屋があり湯茶の接待をなす外休日には食事の用意もある。

◇貸スキー　北山鐵道局ヒユツテにあり一時間三十錢。

江南スキー場

松花江の對岸滑降一粁餘のスロープが大歲子部落を挾んで南北に相對し雄大で

吉林スキー場中第一とされて熟練者向きである。驛から馬車にて二十五分（三十五錢）更に徒歩にて三十分

龍潭山スキー場

吉林の次驛龍潭山驛から徒歩で約五分（吉林驛から馬車にて一時間）

山スキーの快味を滿喫するに絶好の山で風光又佳、スロープは概ね雄大で深林を縫走して凡ゆるテクニックを樂しむ事が出來る。山頂の龍鳳寺で湯茶の接待をする。

◇旅館（吉林）日滿、山陽、名古屋各ホテル、近江屋、東京、初音、松屋、大阪、金水、金千代各旅館共スキー客に限り最低宿泊料（三圓五十錢）の二割引。旅館の斡旋は吉林驛長、ツーリスト・ビユーローで特にやつて居る。

◇貸スキー　吉林驛備付一日三十錢

玉泉スキー場（濱綏線哈爾濱より約一時間半）

スロープが大きくうねりを描いてる上に素晴しい展望美と、白樺の林に包まれた驛東方約五百米の地點で起伏變化、粉雪の舞ふ痛快なスキー興味が滿喫出來る。純ロシア式のヒユッテは一泊一圓で、娯樂室、食堂、婦人室、浴室等完備し、貸スキーは一臺一日三十錢である。子供スキー無料貸與

帽兒山スキー場（濱綏線哈爾濱より約三時間）

驛より二十分の所にあり、初心者にも適す。變化あるスロープを持ちヒユッテ代用に蒙古包を特設してゐる。

◇露人經營の帽兒山ホテルがある一泊四圓程度。

扎蘭屯スキー場（濱洲線哈爾濱より約十時間）

昭和十二年度に開設、設備も徐々に完成されつゝある。氣候は一體に風少く溫度も零下二十度を下る事は少く大興安嶺を背景とした一大スキー場を現出して居る。

第一スキー場　驛より東方三粁餘の點に高度百五十米位より十二、三度の傾斜を持つたスロープ八百米位つゞいて居る。

第二スキー場　第一スキー場より北方及び西方に至る一帶。

第三スキー場　右の一帶より更に東北へ相當長い傾斜を持つ丘陵五、六箇所あり樣々のスロープをなして居る。

◇日本旅館が二軒ある。一泊二食五、六圓程度。

ハロンアルシヤンスキー場（白阿線）

溫泉で知られて居る此處はスキー場としても好適の地である。

その他のスキー場（相當の降雪時には可能）

歪頭山（安奉線姚千戸屯驛附近奉天より約一時間二十分）

山の中腹がスキー好適地。スロープの長さ約二百米幅員五十米、驛からの距離約一粁、休憩小屋、蒙古包あり。

大屯（連京線新京より四十分）

驛西方一粁の小山（徒歩廿分）を中心とするスロープは短いが積雪量は豐富である。

英額門（奉吉線奉天より四時間）

驛の直ぐ南側の丘陵が好ゲレンデをなし其他緩急のスロープ種々あつて初心者、中級者に適して居る。

○其他

欄頭、五龍背、亂石山等に行はれる。

徒歩旅行

徒歩旅行十則

1 自然を愛せよ、一木一草といへども濫に傷附けないこと。

2 火の用心及び辨當がら、空罐、空瓶の始末をすること。

3 危險な場所へは好んで近寄らぬやう。

4　行く先を必ず家人に知らせて置くこと
5　食事以外の休憩は五分か十分がよい。
6　歩き出しはゆるやかに、無暗に走つたりしないこと。
7　流れに足を浸してゐると後に脚が重くなる。
8　道に迷つたら高所に出て落着いて地圖をしらべること。
9　後日のための資料に記録を取つておくこと。
10　喧燥に亘らず朗かに。

ハイキングの服装と携帯品

服裝　帽子、上衣、ズボン等はいくら汚れてもかまはない着古したもので結構、ズボンはニッカースか半ズボンが輕くて歩きよい。ワイシャツは襟附のもので薺附、釦止のポケットを左右に取附たものが便利。

婦人は短かいスカートかニッカースがよい。手袋は軍手で結構。靴下は穴が開いてゐたりつぎの當つてゐないのならよい。

靴　靴は穿き慣した編上かズックの運動靴がよい。ハイヒールの婦人靴は良くない。

携帯品　杖一本でもよいが、水呑コップ、水筒、それに食糧の一、二食分位は携行すべきであらう。ナイフ、マッチ、磁石、地圖位のものは缺かされない。一寸した藥品の携行も是非心がくべきで時に雨衣の用意も必要である。リュックサックは防水のしてある小型のもので結構、要するになるべく輕裝がよい。

携帯品の値段

	圓
帽子（PKババリ）	二・〇〇
帽子（國防色）	一・五〇
リュックサック	四・〇〇――一〇・〇〇
靴	六・〇〇――七・〇〇
ピッケル	一・五〇――一〇・〇〇
水筒	一・〇〇――二・〇〇
飯盒	三・五〇――五・五〇
コップ（ニューム）	〇・二五
コップ（アルマイト）	〇・三〇
コッヘル	一一・〇〇――一七・〇〇

（スター運動具店調）

＝關東州地方＝

泉水屯、舊砲臺（一般向・日歸り）

・**コース**（南關嶺驛）―三・五粁（歩行三十五分）泉水屯……四粁（歩行四十分）大盥島……一・五粁（歩行二十分）老龍頭砲臺（李鴻章砲臺）……二・五粁（歩行三十分）模擬砲臺……二粁（歩行二十分）甘井子……船（二十錢）又はバス（三十錢）大連

・**汽車賃**　大連より二十五錢

三崎山（家族向・日歸り）

・**コース**（金州驛）―二・五粁（歩行三十分）金州城内……〇・五粁（歩行十分）天齊廟……一・二粁（歩行十五分）三崎山……二粁（歩行二十五分）龍王廟……三・五粁（歩行五十分）城内……二・五粁金州驛

・**汽車賃**　大連より五十錢

三崎山・南山（一般向・日歸り）

・**コース**（金州驛）―三崎山コースの龍王廟より城西を通つて南山に至る、南山・金州新市街間約二粁

・**汽車賃**　大連より五十錢

大和尚山（健脚向・日歸り）

・**コース**（金州驛）―二・五粁（歩行三十分）八里庄……〇・一粁乃木中尉碑……五・五粁（歩行一時間）石鼓寺……一粁（歩行四十分）山頂……五・七粁（歩行一時間）觀音閣……四・五粁（歩行五十分）響水寺……一粁（歩行二十分）朝陽寺……三・七粁（歩行五十分）八里庄……二・五粁金州驛

・**汽車賃**　大連より五十錢

平山（一般向・日歸り）

・**コース**（金州驛）―二・五粁（歩行三十分）金州城内……一・七粁（歩行二十五分）

三崎山……四・五粁(歩行一時間十分)平山山麓……〇・五粁(歩行三十分)山頂…三・五粁(歩行五十分)龍王廟……三・五粁(歩行五十分)城内……金州驛
・汽車賃　大連より五十錢

化石採取行（家族向・日歸り）

・コース（三十里堡驛）一一・二粁(歩行二十分)東山後屯……〇・八粁(歩行十分)化石採取地
・汽車賃　大連より八十五錢

小黑山（健脚向・日歸り）

・コース(1)（石河驛）一一・五粁(歩行二十五分)臺子山…〇・一粁(歩行十五分)臺子山屯…〇・五粁(歩行十分)棒樹屯……一・五粁(歩行二十分)西邏家溝……〇・五粁(歩行十分)東邏家溝……二粁（歩行一時間)小黑山
・汽車賃　大連より一圓五錢
・コース(2)（普蘭店驛）一三粁（バス二十五分三十錢)土城子……二粁(歩行三十分)土門子……三粁(歩行一時間）小黑山……以下(1)の逆コース
・汽車賃　大連より一圓二十錢

抱龍院（一般向・日歸り）

・コース（瓦房店驛）一　舊市街……三粁(歩行三十分)老皮堡……一粁(歩行十分)抱龍院……二・五粁(歩行三十分)老粉屯……一・八粁(歩行十五分)城内
・汽車賃　大連より一圓六十五錢

老虎山（家族向・日歸り）

・コース（王家驛）一　一・五粁(歩行二十分)溫家屯……一・五粁(歩行二十分)逍家店……一・七粁(歩行二十五分)甘泉寺……一粁(歩行二十五分)老虎山……歸路逆コース
・汽車賃　大連より一圓七十五錢　營口より二圓三十五錢

龍潭山（一般向・日歸り）

・コース（得利寺驛）一三粁(歩行五十分)龍潭山四・二粁(歩行一時間)得利寺……三粁(歩行五十分)梁家塋……一・八粁(歩行二十五分)驛
・汽車賃　大連より一圓九十五錢　營口より二圓十五錢　鞍山より二圓八十五錢

石棚子溝（一般向・日歸り）

・コース（萬家嶺驛）一閣子信號所……三粁(歩行五十分)侯家屯……二・五粁(歩行三十五分)石棚子溝
・汽車賃　大連より二圓三十錢　營口より一圓八十錢　鞍山より二圓五十錢

龍門湯（一般向・日歸り又は夜行利用）

・コース（許家屯驛）一一粁(歩行十分)陳家屯……三・五粁(歩行四十五分)北山根底……三・二粁(歩行三十五分)龍門湯
・汽車賃　大連より二圓五十錢　營口より一圓六十錢　鞍山より二圓三十錢

梨山（家族向・日歸り）

・コース（熊岳城驛）一　梨山簡易驛(汽車賃十錢)……一粁(歩行十五分)梨山…一・八粁(歩行二十分)西達子營……二・二粁(歩行三十分)古家屯……二粁（歩行三十分)正白旗…〇・三粁(歩行五分)熊岳城溫泉
・汽車賃　大連より二圓七十五錢　鞍山より二圓　奉天より三圓四十錢

望小山（家族向・日歸り）

・コース（熊岳城驛）一二・二粁(歩行四十分)望小山…〇・二・三粁（歩行三十五分）正白旗…〇・三粁(歩行五分)溫泉

青龍山（健脚向・日歸り）

・コース（熊岳城驛）一溫泉…〇・三粁(歩行五分)正白旗……三粁(歩行四十五分)逍家屯……二粁(歩行三十分)太平溝……

三粁(歩行一時間)望海寺

黄旗堡温泉（夜行利用日歸り）

・コース（蘆家屯驛）—〇・七粁（歩行十分)四臺子……一粁(歩行十五分)官家屯……四粁(歩行四十五分)黄旗堡温泉

・汽車賃　大連より二圓九十五錢　鞍山より一圓八十五錢　奉天より三圓二十五錢

石棚山（一般向・日歸り又は夜行利用）

・コース（九寨驛）—一・五粁(歩行二十分)小石棚……二粁(歩行二十五分)大石棚……二・五粁(歩行三十分)石棚山

・汽車賃　大連より二圓六十錢　營口より一圓四十五錢　鞍山より二圓十五錢

鹿山（健脚組・夜行利用日歸り）

・コース（蓋平驛）—三・五粁(歩行四十分バス十錢)蓋平城……六粁(歩行一時間半)鹿山山嘴子……二・五粁(歩行四十五分)鐵塔……四粁(歩行一時間)城内

平塔山戰跡行（一般向・日歸り）

・コース（營城子驛）—三粁(歩行四十分)對面溝……四粁(歩行一時間半、歸路三十分)平塔山

・汽車賃　大連より五十錢

攻城山・水師營（一般向・日歸り）

・コース（龍頭驛）—四粁(歩行一時間半)攻城山……六粁(歩行一時間半)水師營……二・五粁(歩行四十分)水師營簡易驛

・汽車賃　大連より往七十五錢、復(水師營)八十五錢

旅順戰蹟巡り（日歸り）

・コース(1)　家族づれ行樂（旅順驛)—一粁(歩行十五分)將軍山……二粁(歩行二十五分)大正公園……一・五粁(歩行二十分)後樂園及動物園……二粁(歩行二十五分)驛

・コース(2)　一般向（旅順驛)—六粁(歩行一時間半)二〇三高地……四粁(歩行一時間)椅子山堡壘……一・五粁(歩行二十五分)大案子山堡壘……一粁(歩行十五分)大正公園……二粁(歩行二十五分)驛

・コース(3)　一般向（旅順驛)—三粁(歩行四十分)露國墓地……三粁(歩行四十分)水師營南方高地堡壘……二粁(歩行三十分)松樹山堡壘……一粁(歩行二十分)松樹山第四堡壘……三粁(歩行五十分)白玉山……一粁(歩行十五分)驛

・コース(4)　健脚向（旅順驛)—一粁(歩行十五分)白玉山……四粁(歩行一時間)松樹山……一・五粁(歩行二十五分)二龍山堡壘……三粁(歩行五十分)望臺砲臺……一・五粁(歩行二十五分)東鷄冠山北堡壘……四粁(歩行一時間)市内……(バス五錢)驛

・コース(5)　健脚向（旅順驛)—〇・五粁(歩行十分)老虎尾渡船場……三・五粁(歩行五十分)露國營舍跡……四粁(歩行一時間)柏嵐子海岸……十粁(歩行二時間半)驛

大連郊外

・龍ケ丘コース（家族向）　大正廣場……淨源地……二粁(二十分)龍ケ丘貯水場……三粁(三十分)—星ケ浦……歸着

・王家屯水源地コース　磊山屯……二粁(二十分)高橋農園……四粁(四十分)王家屯水源地……七粁(一時間半)大西山水源地……五粁(一時間)……大正通

・星ケ浦コース　大連運動場……四粁(四十分)臨海浴場……一粁(十分)星ケ浦……一粁(十分)黒石礁……黒石礁電車路終點

二 奉天地方 二

龍首山（家族向・日歸り）

・コース（鐵嶺驛）一・五粁（歩行二十五分）奉天街道……〇・二粁（歩行五分）撫順街道……〇・七粁（歩行十五分）龍尾山……〇・七粁（歩行十五分）鎌倉山……〇・六粁（歩行十分）龍首山（慈清寺）……〇・一五粁（歩行三分）霧登山口……一粁（歩行二十五分）圓通寺……一粁（歩行二十五分）鐵嶺驛

・汽車賃　奉天より一圓十錢　自撫順二圓

彼薩寺山（一般向・日歸り）

・コース（歪頭山驛）—〇・三粁（歩行六分）記念碑……一粁（歩行二十五分）彼薩寺跡……二粁（歩行五十分）山頂……三・六粁（歩行五十分）歪頭山驛

・汽車賃　奉天より八十錢　撫順より二圓四十五錢

駱駝山・太子河（一般向・日歸り）

・コース（本溪湖驛）一粁（歩行十五分）神社山……三粁（歩行一時間）見晴臺（駱駝山）……二・五粁（歩行三十分）崔家浦……四粁（舟行一時間・舟賃十四人乘四圓）玉泉亭……一・五粁（歩行二十分）本溪湖驛

・汽車賃　奉天より一圓二十錢　撫順より一圓八十錢

平頂山（一般向・日歸り）

・コース（宮ノ原驛）—四粁（歩行一時間半）斗姥閣……二粁（歩行五十分）龍眼池〇・三粁（歩行五分）李武寺……一粁（歩行十五分）山頂……四粁（歩行五十分）宮ノ原驛

・汽車賃　奉天より一圓三十錢　撫順より一圓九十錢

松山・細河（家族向・日歸り）

・コース（橋頭驛）—〇・四粁（歩行七分）神社……〇・八粁（歩行十三分）忠魂碑……〇・三粁（歩行三分）見晴臺……〇・一粁（歩行二分）富士見亭……〇・五粁（歩行六分）朝陽寺……〇・七粁（歩行十三分）河水浴場……〇・七粁（歩行十三分）橋頭驛

・汽車賃　奉天より一圓四十六錢　撫順より二圓五錢

後山・細河（一般向・日歸り）

・コース（南坆驛）—〇・五粁（歩行五分）砂金採集所（細河）……〇・七粁（歩行六分）鐵橋……一粁（歩行十五分）南墳……三粁（歩行一時間十分）後山……二粁（歩行四十分）南坆驛

・汽車賃　奉天より一圓七十錢　撫順より二圓三十錢

老黃山・細河（一般向・日歸り）

・コース（下馬塘驛）—〇・八粁（歩行二分）細河……四粁（歩行一時間）二合目……〇・八粁（歩行一時間）山頂……三粁（歩行一時間）三閣廟……一・七粁（歩行三十分）細河

・汽車賃　奉天より一圓八十五錢　撫順より二圓四十五錢

五龍山（健脚向・日歸り）

・コース（老古溝驛）—三・一粁　露峯溪—〇・五粁洗耳臺—〇・二粁　雙龍瀧—〇・二五粁　聚仙峽—〇・四粁　不動坂—〇・二粁　佛爺廟—〇・五粁　權現坂—〇・三粁　龍泉洞—〇・一粁　見晴峠—七・二粁　五龍背驛（所要時間六時間）

・汽車賃　奉天より四圓二錢　安東より二十八錢

橋山戰跡（一般向・日歸り）

・コース（首山驛）—二・五粁（歩行四十分）首山堡……〇・五粁（歩行十分）淸風寺二粁（歩行三十分）橋山……一・八粁（歩行二十分）向陽寺……〇・五粁（歩行十五分）北大山……六粁（歩行一時間半）首山驛

・汽車賃　奉天より一圓十五錢　撫順より一圓九十錢　鞍山より二十五錢

太子河・東京城 （一般向・日歸り）

・コース （遼陽驛）一〇・七粁（歩行五分）太子河白塔公園……四粁（歩行四十五分）高粱橋……三粁（歩行四十分）新城（東京城）……三粁（歩行四十分）東京陵……一・五粁（歩行二十五分）太子河簡易驛

・汽車賃 奉天より一圓 撫順より一圓六十錢 鞍山より四十錢

土城址・湯崗子溫泉 （一般向・日歸り）

・コース （鞍山驛） 五粁 （歩行一時間二十分）千山神社……一・五粁（歩行二十分）鞍山站……〇・五粁（歩行五分） 土城趾……五粁（歩行一時間二十分）湯崗子溫泉……湯崗子驛

・汽車賃 奉天より往一圓四十錢、復一圓六十錢 撫順より往二圓、復二圓二十錢

石棚見學 （學生向・日歸り）

・コース （分水驛）一一・二粁 （歩行十五分）官屯……二粁（歩行二十五分） 山阻……〇・五粁（歩行十分）石棚

・汽車賃 奉天より二圓三十五錢 撫順より二圓九十五錢 鞍山より九十五錢

奉天郊外

・渾河鐵橋コース （一般向） 五粁（二時間）南十條……渾河鐵橋……柳林…長沼……南八條

・小河沿コース （一般向） 八粁（二時間）南十條……砂山……長沼……南塔……小河沿……バス乘場

・北陵コース 五粁（一時間）小西邊門……北陵……飛行場……小西邊門

・東陵コース 二粁（四十分）東陵驛……東陵ゴルフリンク……東陵……バス乘場

＝錦州地方＝

山大閣 （健脚向・日歸り）

・コース （溝幇子驛）……三〇粁 （溝北バス） 北鎮縣公署……八粁（馬車の便あり）大閣……山中コース約六粁……三粁北鎮廟……五粁北鎮縣公署……驛

二郎洞山・觀音洞 （健脚向・日歸り）

・コース （錦縣驛）一八粁（歩行二時間）二郎洞山……一・八粁（歩行二十五分）觀音洞……四五粁（歩行一時間十分）五甬碑……三・五粁（五十分）驛

女兒河 （家族向・日歸り）

・コース （女兒河驛）一〇・五粁 （歩行十分）苗圃……一粁（歩行二十分）自警村……一粁（歩行二十分）汲家果樹園……二粁（歩行三十分）種畜場……〇・五粁（歩行五分） 驛

陸軍病院慰問行 （一般向・日歸り）

・コース （興城驛）一一・五粁（歩行二十五分） 祖氏石坊……二粁（歩行三十分）國立園藝試驗場……〇・五粁（歩行五分）溫泉……〇・五粁（歩行五分）陸軍病院……四・五粁（歩行一時間十分）驛

・馬車賃 （驛より）祖氏石坊十五錢、園藝試驗場四十錢、溫泉四十錢、海岸八十錢

角山寺 （一般向・日歸り）

・コース （山海關驛）一二粁（ロバ二十分）天下第一關……四粁（ロバ二時間）角山……六粁（ロバ一時間半）驛

目的地	驟馬 片	驟馬 往	馬 片	馬 往	洋車 片	洋車 往
天下第一關	0・30	0・40	0・30	0・60	0・15	0・25
角山	0・40	0・70	0・60	1・00	0・40	0・70

＝新京地方＝

金錢堡釣魚 （一般向・日歸り）

・コース（新京驛）―（バス五錢）寛城子……一粁（歩行十五分）無電臺……四粁（歩行一時間）伊通河橋……二粁（歩行三十分）金錢湖……〇・三粁（歩行五分）金錢堡

淨月潭（家族向・日歸り）

・コース（新京驛）―（バス七十五錢）淨月潭終點……〇・五粁（歩行十分）腰站……〇・五粁（歩行十分）淨月潭

石碑嶺・淨月潭（健脚向・日歸り）

・コース（新京驛）―（バス四十五錢）皇帝御展望記念碑……二粁（歩行四十分）祀廟……三粁（歩行四十五分）兩半屯……一粁（歩行二十分）大觀山……四粁（歩行一時間半）淨月潭終點……（バス七十五錢）驛

九臺溫泉（家族向・日歸り）

・コース（下九臺驛）―約一粁（馬の便あり）小南山……九臺
・汽車賃　新京より一圓

土門嶺（家族向・日歸り）

・コース（土門嶺驛）―西山……大馬虎頭……驛
・汽車賃　新京より一圓三十二錢

半拉山門（健脚向）

・コース（四平街驛）―（汽車十四分）平東驛……半拉門……平東驛（以上歩行十二粁四時間）……汽車（四平街驛）
・汽車賃　四平街より十五錢

海豐屯梨園（健脚向）

・コース（四平街驛）―〇・五粁（歩行十分）南丘公園……海豐屯梨園……四平街驛（以上七粁歩行三時間）

＝吉林地方＝

江南・團子山麓（一般向・日歸り）

・コース（吉林驛）―三粁（バス十二錢）城内省公署……〇・四粁（歩行十分）渡船場……對岸江南公園……一・六粁（歩行十八分）東萊門對岸渡船場……三・六粁（歩行五十分）露國兵器廠址……一・四粁（歩行二十分）聖母ヶ丘……一・七粁（歩行三十分）鐵橋……二・三粁（歩行一時間）驛（鐵橋を渡ると假乘降場あり）
・汽車賃　新京より二圓三十一錢

小白山（一般向・日歸り）

・コース（吉林驛）―五・三粁（バス十五錢）臨江門……二・二粁（歩行二十五分）自來水……二・九粁（歩行四十五分）小白山……二・九粁東華門……二・七粁（馬車二十錢）驛
・汽車賃　新京より二圓三十一錢

歡喜嶺（健脚向・日歸り）

・コース（吉林驛）―五・三粁（バス十五錢）臨江門……一・五粁（歩行十八分奉吉線路進行）……三・三粁（歩行三十三分）歡喜嶺……〇・七粁（歩行十分）松の森……二・七粁（歩行三十五分）佛塔……一・七粁（歩行二十五分）北山麓……五・三粁（バス）驛
・汽車賃　新京より二圓三十一錢

龍潭山（一般向・日歸り）

・コース（龍潭山驛）―二粁（歩行三十分）龍鳳寺……一・五粁（歩行二十分）……松河江假驛

＝哈爾濱地方＝

松花江（家族向・日歸り）

・コース　松花江畔から近傍の丘の路を歩にまかせて逍遙する。

阿城（家族向・日歸り）

・コース（阿城驛）―俱樂部……芝生……

阿什河畔……製糖會社……城内……娘々廟……白城趾……驛（歩行約十粁所要時間二時間半）

・汽車賃　哈爾濱より七十六錢

玉　泉（家族向・日歸り）

・コース（玉泉驛）—驛を中心に四粁ばかりの範圍を自由に綠を踏んで散策する。

・汽車賃　哈爾濱より一圓十二錢

呼　蘭（一般向・日歸り）

・コース（呼蘭驛）—康德路……城市の東門……天主堂……關帝廟……娘娘廟……西崗公園……南門……石公祠……十字路……驛（約十二粁所要時間三時間半）

・汽車賃　哈爾濱より六十二錢（途中乘物バス馬車の便あり）

帽　兒　山（一般向・日歸り）

・コース（帽兒山驛）—〇・六粁（歩行十分）螢ケ丘……一粁（歩行三十分）附近丘陵一週……〇・七粁（歩行十五分）阿什河……六粁（歩行一時間半）帽兒山麓……驛

・汽車賃　哈爾濱より一圓八十二錢

聖域健康路（一般向・日歸り）

・コース（頭郷屯驛）—二粁（歩行二五分）護路軍碑……十五粁（歩行十五分）若松聯隊記念碑……三粁（歩行三十分）市立苗圃……三粁（歩行三十分）王兆屯（忠靈塔・志士之碑・二烈士之碑）……二・五粁（歩行二十五分）通道街……（電車・バス）……市内

・汽車賃　哈爾濱より八錢

＝牡丹江地方＝

仙境・横道河子

・コース（1）（横道河子驛）—露西亞寺院……露西亞墓地……綠ケ丘……近藤林業……小倉山……キャンプ澤……公園（所要時間三時間）

・汽車賃　牡丹江驛より一圓五十錢

・コース（2）（横道河子驛）—戀の峠……兜岩……砂滑り……公園……所要時間三時間（乘物なし）

・コース（3）（横道河子驛）—近藤林區……（ケーブルカー）……藤ケ峯（所要時間六時間）乘物驛—近藤林區間（側線七粁）林區—藤ケ峯間（ケーブルカー）

水の古都寧安（家族向・日歸り）

・コース（寧安驛）—市街……小島ケ丘……公園……西閣觀音寺……將軍墳……驛

・乘　物　汽車（牡丹江より五十八錢）（バス十錢、馬車二十錢）

古址東京城

・コース（東京城驛）—城内……阿堡水郷……十里石巖……南大廟……渤海宮殿址……城内……驛（所要時間六時間）

・乘　物　汽車（牡丹江より一圓二十六錢）バス（驛……阿堡水郷八粁三十五錢城内……驛四粁二十錢）阿堡水郷渡船五錢

鍬の小戰士寧安訓練所

・コース（東京城驛）—城内……三靈屯……寧安訓練所本部……東京城驛（所要時間六時間）

・乘　物　東京城驛……訓練所バス（十八粁七十五錢）

鏡泊湖八景めぐり（一般向・日歸り）

・コース（東京城驛）—（バス）張家水郷……名瀑吊水樓……四季通……鏡泊ライン……（バス）……驛

・バス賃及所要時間　驛……張家水郷（三十五粁一時間半一圓四十錢）張家水郷……鏡泊ライン（八粁四時間）四季通……東京城驛（三十粁一時間二十分一圓二十錢）

＝齊齊哈爾地方＝

富拉爾基（フラルジ）（家族向・日歸り）

・**コース** 齊齊哈爾驛……汽車(四二・一粁約一時間半)〔富拉爾基驛〕—徒歩……避暑場……舟遊……水泳場……農業修練所……種畜場

・**汽車賃** 齊齊哈爾より七十八錢

土爾池哈（トルチヘ）（一般向・日歸り）

・**コース** 〔土爾池哈驛〕—五粁（歩行一時間）……白土山

・**汽車賃** 齊齊哈爾より一圓四十九錢

扎蘭屯（ジャラントン）（家族向・日歸り）

・**遊覽コース**

（ア）驛—天拜山……スキー場……釣橋……溫泉浴場……遊歩地……ボート乘場……溫室……避暑食堂……驛

（イ）驛—釣橋……溫泉浴場……遊歩地……ボート乘場……避暑食堂……驛

（ウ）驛—觀瀾山……天拜山……スキー場……避暑食堂……溫室……驛

・**汽車賃** 齊齊哈爾より三圓十四錢

臥牛河（一般向・一泊）

扎蘭屯北方約六粁の地點で二日休み等には扎蘭屯より一寸足を伸ばして行けるハイキングの好適地である。

巴林（バリン）（一般向・一泊）

・**コース** 〔巴林驛〕—徒歩……避暑ホテル……河水浴場

・**汽車賃** 齊齊哈爾より四圓二十六錢（約六時間）

雅魯河下り（ヤール）（男性向）

・**コース** 〔巴林驛〕—阿魯河畔……河舟……哈拉蘇間

江橋

平齊線江橋は齊齊哈爾から汽車で二時間當地は蒙古地帶稀に見る景勝の地で杏花並にスッポンと瑪瑙で有名である。

葛根廟

・**コース** 〔葛根廟驛〕—三粁(歩行五十分)寺廟

・**汽車賃** 白城子より九十九錢

二郎廟

・**コース** 〔開通驛〕—馬車(五十分)往復一圓……寺廟

・**汽車賃** 白城子より一圓八十錢

＝北支＝

エルジアンアベニユー・李家花園（一般向）

・**コース** 天津日本租界—エルジアンアベニユー……李家花園(徒歩約二時間)

八里臺水鄉（一般向）

・**コース** 天津日本租界—八里臺（徒歩約四十分）

四方公園（一般向）

青島市街から東北一里、四方工場地帶に在る公園にて蓮池築山等あり（徒歩凡一時間）

浮山（健脚向）

青島東近郷の峻峰で一、二六〇呎、徒歩約三里三時間、一日のハイキングに好く高嶺に立てば展望よく山麓に多くの名勝あり。

九水（健脚向）

青島から東北約三里、李村河畔にある部落で、是から實に三里勞山々麓の溪谷に九水の勝地あり。

釣魚地

場所	最寄驛	距離	魚の種類	期節	最盛期の餌
●連京線					
老虎灘	大連	四粁	めはる、あぶらめ、ちぬ、鰈	自五月至十二月	小烏賊鰮共餌ごかい類
小平島	同	八粁	大口鰈、めはるあいなめ、ちぬ	自五月至十月	同
傅家庄	同	四粁	めはる、あぶらめ	自六月自十月	同
露西亜町海岸	同	一粁	太刀魚、めはる、あぶらめ	同	同
黒石礁	同	四粁	太刀魚	自七月至十一月	ごかい
龍王島	沙河口	二七粁	ちぬ	自九月至十月	えび
香爐礁	同	一・五粁	はぜ	同	ごかい
丁官寨南岸	大房身	一粁	ちぬ、めはる、あいなめ、かれひ	自八月至九月	
西海岸	金、州	六粁		自八月至十月	ちぬ
愛川村千島子	二十里臺	一〇粁―一二粁	ちぬ、めはる、あいなめ	自八月至十一月	
長島子屯	三十里堡	一四粁	ちぬ、鯔、鱸	同	
三道灣	同	一二粁	同	同	
石河海岸	石河	二粁	ちぬ、鰆、鯔、蟹	自八月至十月	
鹽田附近	普蘭店	同	沙魚	自七月至十月	
同頭河及復州河一帶	王家	五〇〇米―一〇〇粁	はや、鮒、鯰、すつぽん	自四月至十月	
復州河	松樹	一〇〇米	はや、鮒	自七月至十一月	
石頭河	萬家嶺	二粁	鮎	自八月至九月	
自頭道溝至八道溝間	熊岳城	七粁―一二粁	はや、鰻、鼈、鮎、鮒、鯉	自五月至十月	
馬圏子	蘆家屯	四粁弱	鮒	自四月至十一月	みみず
鹹魚圏	同	八粁	にべ、赤ぐち	同	たこ
鹽廠	同	一〇粁	ぼら	自八月下旬至十一月	
小河沿	同	四粁	鮒、鰻	自四月至十一月	みみず餡
海水浴場附近	沙崗	六粁	赤ぐち、海老	自三月至六月	
鹽田附近	蓋平	一〇粁	はぜ、すゞき、鮒、鯰、	自八月至十月	
海城河	海城	四〇〇米	鮒、鯉、はや、鯰	夏秋	
公園内	湯崗子	三〇〇米	鯉、鯰、鮒、はや	自四月至十月	練餌
鞍山河	千山	一粁	はや	自四月至九月	
安庄子沼	首山	同	鰭、鮒	自五月至十月	
太子河	遼陽	五粁	はす、鯉、川鱒鮒	自五月至九月	
房身	張臺子	北六粁	鰭、鮒	自六月至九月	
大房身鐵橋附近池	煙臺	南四粁	同	六、七、八月	
十里河鐵橋附近	十里河	東北一粁	鮒、鯰、はや、鰌	自五月至九月	
避溢橋下沼	渾河	北六〇〇米	鯉、鮒、鯰、鰭はや	自五月至十月	
古城子の池	虎石臺	東北四粁	鮒、鯰	同	
官公臺の池	同	北三粁	同	同	

小橋子河	虎石臺	南四粁	鮒、鯰	至十月
沙河子河	平頂堡	東北三粁	鯉、鮒、鯰、鮎、河鰡、はや	自六月 至十一月
中固河	中固	上下四粁以内	はや、鯰、鮒	自六月 至九月
開原河	開原	一粁	鮒、鯉、鯰	自六月 至十月
城内蓮池	同	八粁	鮒、鯰	同
蓮花泡	租勾子	西北八粁	鮒、鯰、すっぽん	自六月 至七月
三道河	虻牛哨	三粁	鮒、鯰、其他	自四月 至十月
紅山咀沼	同	同	同	同
廟子溝河支流	同	一粁―四粁	同	同
大泉眼	同	二粁五	同	同
馬泉口河	楊木林	三粁	鮒、狐鯉、はや	自六月 至十月
同	十家堡	西一粁五	鮒、鯰	自五月 至十月
同	蔡家	四粁	鯉、鮒、はや、鯰	同
老揚溝沼	大楡樹	西北六粁	鯉、鮒、鯰	自五月 至九月
大連泡沼	同	南四粁	同	同
東遼河	同	西南四粁	同	同
四馬架子沼	同	南三粁	同	同
大楡樹河	同	東北〇・五粁	同	同
朝鮮ダム	公主嶺	六粁	鯉、鮒、鯰、うぐひ	同
ロヤン湖	同	一二粁	鯉、鮒	同
二十家子	同	四粁	あぶらはや、鮒、砂もぐり、うぐひ	同

●安奉線

太子河鐵橋附近	本溪湖	二粁	はや、雨鯉、狐鯉、鮒	同
崔家浦附近	本溪湖	六粁	雨鯉、はや、はす	自五月 至七月
三日浦附近	同	一四粁	雨鯉、はす、はや、狐鯉、砂もぐり、いだ	自五月 至九月
水浴場附近	橋頭	一・五粁より	鮒、狐鯉、砂もぐり、鯰、ぎぎゆう、はす、うぐひ、はや	自四月 至九月
釣魚臺附近	同	六粁	同	同
細河古松子	南坟	四粁	はや、はす、鯰、砂もぐり、ぎぎゆう、狐鯉、うぐひ	自五月 至十月
長嶺子	同	三粁	同	同
五本松	同	二粁	同	同
驛前一帶	同	二〇〇米	同	同
驛南北地帶	下馬塘	南北二粁	狐鯉、砂もぐり、はや、はす、ぎぎゆう、鯰、かじか、うぐひ	自五月 至九月
驛附近一帶の渓流	連山關	上下流二粁	狐鯉、うぐひ、はや、鯰、はす、すっぽん、砂もぐり	自五月 至十月
	通遠堡	北四粁より一〇〇米	はや	同
	林家臺	―一粁	はや、はす、砂もぐり	同
草河	劉家河	東南より北一粁半	はや、砂もぐり、鰻、鯰、はす、めはる	同
小城場沼	同	西二粁	鯰、鮒	同
劉家河沼	同	東南一粁半	鱧、鮒、たなご	同
	秋木莊	東一粁	はす、はや、めはる、狐鯉、鰻、すっぽん	同
	四臺子	二粁以内	鯰、はや、はす、鰻、砂もぐり	同
草河	鳳凰城	西南四粁 東 二粁 東南二〇粁	はす、はや、めはる、鰻、鯰、砂もぐり	同

湯山城河	湯山城	二二二米	はや、砂もぐり、めばる、鰻、鮎、鯉	春夏秋	
蔡河	同	四粁	同	同	
附近沼澤	五龍背	二粁	鮒、鰻	自六月至九月	
第二蛤蟆塘河	蛤蟆塘	一粁	鮒、はや	同	
沼	同	北一二粁	鮒	同	
鴨緑江鐵橋附近	安東	一粁	鮒、狐鯉、鯰、鯔、砂もぐり、はや	自五月至十月	
三道浪頭	同	一二粁	同	同	
九連城(靉河)	同	八粁	同	同	
●旅順線					
海岸線一帶	夏家河子	四〇〇米	はぜ	自七月至十一月	ごかい
海岸沖合	同	二粁—二粁半	かにきす	自七月至九月	肉、魚類、ごかい
二つ山	同	西四粁	ちぬ	自七月至十一月	ごかい
二つ目	同	東一粁	同	同	同
三つ目	同	東二・五粁	同	同	同
五つ目	同	東三粁	同	同	同
七つ目	同	東三・五粁	同	同	同
九つ目	同	東四粁	同	同	同
猴兒石	營城子	三粁	ちぬ、めばる	自八月至十一月	
蟠旱砣子	同	二粁	同	同	
大黒石海岸	長嶺子	三粁	ちぬ	同	
大潮口海岸	同	一〇粁	同	自十月至十一月	
北海	同	一五粁	同	同	
同	龍頭	一〇粁	ちぬ、かれひ、太刀魚	自八月至十一月	
同	同	四粁以内	はえ(川魚)	自四月至十一月	
港内	旅順	〇・五粁			
老虎尾	同	一・五粁			
鎮頭子	同	一一粁			
柏嵐子	同	一二粁			
老鐵山	同	一六粁			
羊頭灣	同	一二・五粁			
雙頭灣	同	一三粁			
北海	同	一五粁			
台圖濤	同	一六粁			
●營口線					
砲臺附近	營口	六粁	はぜ	九、十月	
●撫順線					
沙寶屯	李石寨	東北三粁	はや、はす、鮒、鯰	自五月至十月	
李石寨河下流	同	北三粁	同	同	
舊搭灣	撫順	東二粁	鯉、鮒、はや、鯰、鱧	自五月至十月	
新搭灣	同	東四粁	同	同	
渾河	同	北一粁	鮒、はや、砂もぐり	同	
蓮池	同	東一粁	鮒、はや	同	
●奉吉線					
口前河	口前	二粁	鯉、鮒、鯰、はや、すつぽん	自六月上旬至十月中旬	魚んす化は練蜀鮒‖鯉、 肉‖つ鉤や餌黍‖蚯 獣ほ ‖ の玉蚓鯰

（港内—台圖濤）
- めばる、あいなめ　三、四、五月
- めばる、あいなめ、すゞき、かれひ、かに　六、七、八月
- ほんかれひ、めばる、ちぬ、すゞき　九、十、十一月

飲馬河	煙筒山	五〇〇米	鯉、鮒、鯰、はや、すつぽん	自六月上旬至十月中旬	同
柳河	梅河口	二粁	鮒、鯰、はや	同	同
蓮花泡	同	三粁	同	同	同
窪渾木河	同	五・五粁	鯉、鮒	自五月至十月中旬	同
牛喇嘛子河	營盤	二・〇粁	はや	同	同
碑樓子河		四・五粁	同	同	同
江南河		二・五粁	同	同	同

梅輯線

渾江哈泥河	通化	一粁	鮒、はや、砂もぐり	自六月至九月	同

京圖線

飲馬河	飲馬河	二粁三	鯉、鮒、はや、哈牙子（きゆうぎゆう）	自六月至九月	同 哈牙子＝蚯蚓
蓮花泡	同	三粁	同	同	同
樽心湖水泡	樺皮廠	一粁	鯉、鮒、鯰、はや	同	同
大水角泡	同	一粁半	同	同	同
松花江	哈達灣	一〇〇米	鯉、鮒、鯰、白魚、瀬花魚、すつぽん、哈牙子	同	同 白魚、瀬花魚＝蚯蚓、玉蜀黍の練餌
六道河	六道河	六粁	山女、川鱒	六月上旬 十一月上旬	全部蚯蚓
拉法泡子	拉法	二〇〇米	鯉、鮒、鯰	同	同
拉法河	同	一粁二	鮒、鯰、はや	同	同
嘎呀河	蛟河	八〇〇米	はや	同	同
大八家子沼	同	四粁	鮒、鯰、鰌	同	同 蝿＝鮭鱒
沙河（大石頭河）	大石頭	一粁	鮒、鯰、砂もぐり、はや、川鱒	自四月中旬至十月中旬	同

神仙洞淵	明月溝	三粁	川鱒、鮒、はぜ	自五月至九月	蝿＝鮭鱒
站附近	南溝	南三〇〇米—二粁	砂もぐり、川鱒、はや、岩魚	自六月至九月	同
布爾哈圖河畔	臺子溝	北東一粁	鰻、砂もぐり、やり	自五月至九月	同
玉芝ヶ池	茶條溝	四粁	鮒	自五月至十月	同

朝開線

圖們江	開山屯	二〇〇米	八つ目鰻、鮒、はや	自六月至九月	蚯蚓

京濱線

西蓮花泡	陶賴昭	約一粁	鯉、鮒、鯰、鰌	自五月至九月	蚯蚓、鮭鱒
蓮花泡	同	同	同	同	同
東蓮花泡	同	同	同	同	同
松花江（河沿岸及祠泉窩棚附近）	同	四—六粁	鯉、鮒、よろし、白魚、草根魚、鰉	自五月至十月	同
松花江	松花江	北五〇〇米	同	同	同
伊通河	一間堡	西南一粁	鯰	同	蚯蚓
水溝	同	驛前三〇米	同	自六月至十月	同
松花江	哈爾濱	道裡埠頭まで電車にて一五分	鮒、鯰、鯉、よろし、白魚	自五月下旬至十月下旬	蚯蚓、さなぎ

濱北線

松花江	三棵樹	北四粁	鯉、鯰、鮒	自五月下旬至十月下旬	蚯蚓
驛前	新松浦	附近	鯉、鯰、鮒、白魚、草根魚	自五月下旬至十月上旬	蚯蚓、さなぎ
太平屯	同	東一粁	同	同	同
呂家窩棚	同	東二粁	同	同	同
呼蘭河	徐家	西北一粁	鯉、鮒、白魚、黑魚	自五月下旬至十月下旬	同
渓盤泡	同	南半粁	同	同	同

小池	同	二粁	同	同	同
松浦沼地	新松浦	松浦街驛の東一粁西南一粁	鮒、鯉、胖頭魚草根魚	同	蚯蚓
呼蘭河	呼蘭	西南三粁	鯉、鮒、白魚、鯰、はや	自六月上旬至十月上旬	蚯蚓黄米面
釣魚臺	同	城内南門側	同	同	同
第二呼蘭河	秦家	南一粁	鯉、鯰、鮒、はや	自五月下旬至十月中旬	蚯蚓
●北黒線					
黒龍江	黒河	西方	鯉、鮒、鱬、白魚	至六月上旬至八月下旬	蚯蚓さなぎ
小黒河	同	東南七粁	同	同	同
●濱綏線					
阿什河	阿城	南及東北一粁—二粁	鮒、鯉、鯰、はや、すつぽん	自五月初旬至十月初旬	蚯蚓
沼	同	東北一粁—二粁	鮒、鯰	同	同
小海溝	同	東六粁	鮒、鯰、鯉	同	同
黄泥河	帽兒山	半粁—三粁	細鱗魚、鮒	同	蚯蚓かはり
●平齊線					
八面城	八面城	一粁	鮒、狐狸、はや		
招財河	曲家店	西二粁徒歩	鯉、鮒、鯰、白魚	自五月至九月	
東遼河	三江口	北一粁七月最盛	鯉、鮒、はや、黄昂魚（黄骨子）	自六月至九月	
西遼河鐵橋附近	鄭家屯	北五粁	鯉、鮒、鯰、砂もぐり	同	
洮兒河	洮南	北四粁	鯉、鮒、鯰、白魚	自八月至十月	
綽爾河	泰來	東北一〇粁	鯉、鮒、鯰、鱬白魚	自六月至九月	
同	五廟子	南五粁	同	自六月至九月中旬	

嫩江	江橋	北二粁五徒歩約三〇分	鯉、鮒、鯰、鱬、扁花魚、はや、ぎぎう、すつぽん	自六月至九月
嫩江支流	同	西方七粁	鯉、鮒、鯰、鱬、扁花魚、はや、ぎぎう、すつぽん	同
同	同	東南四〇〇米の間	同	同
江橋、大興間鐵道線路兩側に散在する沼地	同	鐵橋通過の際は所在官憲の許可を要す	鮒、鯰、鱬、ぎぎゅう	同
嫩江支流及大興江橋間線路西側沼地	大興	西二粁	鯉、鮒、鯰、鱬、扁花魚、はや、鰲、綠魚、黄昂魚	同
舊第三橋池	同	南六粁	同	同
舊第四橋池	同	南五粁	同	同
舊第五橋池	同	南三粁	同	同
孤店沼	橡樹屯	北三粁	鯉、鯰、鱒	自七月至九月
嫩江支流	齊齊哈爾	西南四粁	鯉、鮒、鯰、うぐひ、はや	自六月至九月
王屯	同	北五粁	鯉、鮒、鯰、うぐひ	同
●齊北線				
泊渡河	塔哈	北三粁	鯉、鮒、鯰、白魚	自六月至九月
大沼	寧年	西二粁	鯉、鮒、鯰、鱬、すつぽん	自五月下旬至九月中旬
烏裕爾河	克山	南二粁	鯉、鰟頭魚、白魚、鮒、うぐひ	自七月至九月
同	泰安	東南二粁五	鮒、鯰	自六月至九月
同	郭家	東南三粁	鯉、鮒、鯰、鱬	自五月下旬至九月
●寧墨線				
嫩江	拉哈	西五〇〇米	鮒、鯉、氣花魚、鰟頭魚、扁花魚、鯰、白魚、すつぽん	自五月中旬至十月中旬

納謨爾河	新安	北六粁	鯉、鮒、鯰、鱨、うぐひ	自六月 至八月
納謨爾河舊河床四箇所	訥河	南四粁	鮒、はや、鯰 川鱒(小)	自六月 至九月
同地池三箇所	同	東五粁	同	同
同	同	南六粁	同	同
布西附近嫩江本流	同	南二五粁	鯉、鮒、はや、鯰 うぐひ、川鱒(小)	同
老萊河	老萊	北六粁	鮒、鯰	同
同	伊拉哈	北五粁	同	同
嫩江	墨爾根	南北四粁	鯉、鮒、鯰、うぐひ、はや	自七月 至十月中旬
●濱洲線				
黒漁泡	廟臺子	西北半粁	鮒、鯰、鯉、白魚	自五月 至十月
頭道口子沼	昂昂溪	西一粁	鯉、鮒、鯰、うぐひ、	同
二道口子沼	同	西三粁	鯉、鮒、鯔、鯰	自五月 至九月
王痲泡子沼	同	北二粁	鮒、鯰	同
嫩江	富拉爾基	東二粁	鮒、鰲花、砂もぐり、鯉	同
雅魯河	碾子山	西四粁	鯉、鮒、鯰、はや、うぐひ、砂もぐり	自六月 至九月
同	成吉思汗	西三粁	鯉、鮒、鯰、白魚	同
雅魯河支流ペァーヤ河	巴林	西北一五粁	川鱒、たいめん	同
雅魯河	扎蘭屯	南北二粁	鯉、鮒、鯰、白魚、はや	自五月 至九月
同	哈拉蘇	南北一粁	細鱗魚、狗魚 川鱒	自五月 至八月
同	雅魯	南二粁	細鱗魚	自六月 至九月
雅魯河上流	博克圖	東南八粁	たいめん、川鱒	自九月中旬 至十月中旬
烏奴耳河	烏奴耳	西二粁	細鱗魚、たいめん	自六月 至九月
免渡河	免渡河	東南二粁	同	自七月 至九月
阿爾渾河	烏固諾爾	北四粁	鯉、鮒、鯰	自五月 至八月
同	完工	北三粁	鮒	至六月 至九月
海拉爾河	赫爾洪得	東一二粁	鯉、鮒	自七月 至九月
阿爾渾河	嵯崗	西北三粁	鯉、鮒、鯰、白魚	自七月 至八月
ムーツナヤ河	札來諾爾	西三粁	鯉、鮒、鯰、はや	自五月 至九月
北煤湖	同	北四粁	鮒	自六月 至九月
阿爾渾河	同	東北二〇粁	鯉、鮒、鯰	自五月 至九月
●京白線				
伊通河	小合隆	東二粁	鯉、鮒	自五月 至九月
新開河	華家	南一粁	鯉、鮒、鯰、砂もぐり、草根魚	自六月 至九月
伊通河	農安	東南三粁	鯉、鮒、鯰	同
松花江	七家子	東北二粁	鯉、鮒、鯰、白魚	同
川頭溝河	新廟	西南一二粁	鯉、鮒、鯰	自七月 至九月
松花江	前郭旗	北四粁	鯉、鮒、鯰、すっぽん	自五月下旬 至十月初旬
嫩江	大賚城	北五粁	鯉、鮒、鰲花魚、紅尾魚、鱷、鯰、白魚	自五月 至十月末
●白阿線				
洮兒河	索格香	西北七粁	鯉、鮒	自六月 至九月

洮兒河	葛根廟	西北三粁	鯉、鮒	自六月至九月	
王好心歸流河	王爺廟	北八粁	鮒、鯰、白魚はや	自五月下旬至九月上旬	
包拉根香子洮兒河	同	北五粁	白魚、鮒	同	
入公府洮兒河	同	北一二粁	鰡、川鱒	同	
歸流河	歸流河	西北二粁	白魚、鮒、すつぽん	自六月至九月	
歸流河支流	大石寨	西南四粁	鮒、鯰、草根魚	同	
洮兒河	德伯斯		鰔條魚、たいめん	四月、五月八月氷結時、は鰔條魚、五月以降たいめん	
德伯斯—索倫洮兒河	同	東五粁	川鱒、はや、たいめん	自五月至十月	
同	索倫	東一〇粁	同	同	
白海	同	西一八粁	同	同	
西口	西口	北一粁	同	同	
洮兒河	牛汾臺	西南一粁	川鱒、はや、たいめん	同	
同	白狼	東南二粁	同	同	
哈拉哈河	阿爾山	西北五粁	同	同	

●圖佳線

嘎呀河畔	石峴	南西一粁	鮒、砂もぐり	自六月至九月	蚯蚓
同	三道溝	西北五粁	いみんす、鰡、やり	自六月至十月	
大汪清河畔	汪清	一粁乃至五、六粁	柳根魚、やり、いゝみんす、砂もぐり	自五月至十月	毛針、河虫、蚯蚓
嘎呀河畔	廟嶺	東一粁西北方一粁半	赤腹いゝみんす、やり、砂もぐり	自五月中旬至九月下旬	蚯蚓、さなぎ、河蝦、毛鈎
嘎呀河鐵橋附近	三岔口	一粁半乃至三粁	いゝみんす、鮒	自六月至九月	蚯蚓
阿布達河畔	同	二粁	いゝみんす、柳下	同	同
駱田河畔	駱駝山	東西一粁	めはる、鮒、川鱒、うぐひ、砂もぐり	同	蚯蚓、
嘎呀河上流	春陽	西南一粁より	山女、岩魚、川鱒、砂もぐり、かじか	同	同
春陽站西方	同	西方一粁より一四粁の間	同	同	同
鹿道河畔及支流	鹿道	一粁より八粁	いゝみんす	解氷期より結氷期まで	蚯蚓、蛙、川虫
斗溝子附近	斗溝子	南北西方約二粁	鱒、莢魚	自六月至九月	蚯蚓
馬蘭河畔	馬蓮河	東南及東北約二粁	鮒、鯰	自七月至十月	同
千家屯濕地	東京城	南約二粁	鯉、鮒、鯰、川めはる	自六月至九月	同
下馬蓮河濕地	同	東北約六粁	同	同	同
上官地沼	同	西約一二粁	同	同	同
牡丹江河畔阿保附近	同	西南約十二粁	同	自八月至九月	同
牡丹江河畔	石頭	南約一粁	鮒、鱸、鯰、鱒、鯉、	自六月至九月	同、さなぎ（毛鈎も可）
同	溫春	南約一粁	鯉、鮒、鯰、ぎぎゅう	同	蚯蚓
新溫春鐵道附近沼池	同	南約一粁	鮒最も多し	同	同
海浪沼	同	西南約六粁	鮒、鯉	同	同

牡丹江河畔	樺林	北約二粁	鯉、鯰、すつぽん	自六月至九月	蚯蚓、すつぽん、鯖
同	柴河	西北約一粁	鯉、鮒、鯰、砂もぐり	自五、一五至九、一五	蚯蚓
五虎林河畔	五河林	北約二粁	鯉、鮒、鯰	自七月至十月	同
牡丹江支流	仙洞	站附近又は北西三粁	鮒、鯰、砂もぐり	自六月至九月	同
二道河子河河灣子舊水中	龍爪	北若くは西東北約一粁	鯰、鮒	自八月至九月	同
磁炭坑附近(烏斯渾河畔)	林口	東北約三粁	鮒、鯰	自六月中旬至九月中旬	同
西林口池	同	西方一粁半	鮒	五、六月頃	同
烏斯渾河畔	古城鎭	西約一粁	鮒、鯰、うぐひ	自六月至九月	同
倭肯河畔	勃利	倭肯站東北約一粁半	鯉、鮒、鯰	自五月中旬至十月下旬	同
同	倭肯	北方二粁	鮒、鯰	自六月至九月	同
鈴鐺麥河	長發屯	東五〇〇米	鮒、鯰	自五月至九月	同
●虎林線					
小穆稜河畔に散在する沼地	麻山	站前四〇〇米 西方四粁八青龍站前100米	鮒、鯰、はや	自六月至九月	同
穆稜河畔	滴道	四粁	鮒、鯰	自六月至十月	同
同	平陽	東約六粁	鮒、鯰、烝花魚、鯉	自五月至八月	蚯蚓、さなぎ、包米面、魚食
同	東海	西約一粁	鯉、鯰、鮒	自四月至九日	蚯蚓、豆粕
穆稜河及その支流	永安	東南100米より一〇粁の間	本流―鰉、鱒、鯉、すつぽん、はや、鮒 支流―鯰	自六月至九月	蚯蚓
舊河跡沼	同	東約一粁	鯉、鮒、鯰	自五月至九月	同
二道濤河	東安	東約八粁	鯉、鮒、鯰、うぐひ、鱸	自六月至九月	蚯蚓、さなぎ
穆稜河畔	同	東約一〇粁	同	同	同
●濱綏線					
螞蟻河	一面坡	五〇〇粁より一粁	鯉、鮒、鯰	自六月至九月	鯰は川虫、けら等、他は蚯蚓
蟻馬河畔	亞布洛尼	北約一五粁	鯉、鮒、鯰	同	蚯蚓、さなぎ
横道河子河畔	横道河子	驛前の清流一帶	山女、岩魚、川鱒、泥はや	同	蚯蚓、毛針
近藤林業二〇粁附近	同	東二〇粁	山女、岩魚	同	同
青林子河畔	山市	沿線西行一〇粁	鮒、鯰、川鱒	自八月至九月	蚯蚓
海浪河畔及附近沼地	海林	一・二粁	鮒、鯰	自六月至十一月	同
阿多工區附近河畔沼池	同	約六粁	鮒、鯰、川鱒	同	同
牡丹江河畔	愛河	東約三粁	鯉、鮒、鯰、うぐひ	自六月至九月	蚯蚓、さなぎ
愛河河畔	同	南約一粁	鮒、鯰	同	蚯蚓
穆稜河畔	穆稜	南北一粁	鯉、鮒、鯰、鱸、山女、砂もぐり	同	同
伊林河畔	伊林	北約一〇〇米	鯉、鮒、鯰、うぐひ、赤目、砂もぐり、泥はや	自六月至八月	蚯蚓、さなぎ
穆稜線					
三道河子	下城子	三道河子驛より約一粁	鯉、鮒、鯰、うぐひ、鱸、はや、はぜ、鱒	自六月自九月	蚯蚓
馬橋河畔	馬橋河	西南約一粁	細鱗魚、鮒	自五月至九月	蚯蚓、肉蝦
寒葱河	綏芬河	南一二粁	岩魚、河はぜ、泥はや	自五月至十月	蚯蚓
平房	同	南二四粁	同	同	同
南天明	同	南三粁	同	同	同
八道河子	同	西南一二粁	鯰、河はぜ、泥はや	同	同

●奉山線

距離	最寄驛	魚の種類	期節
驛西方二粁沼池	唐家	鯉、鮒、鯰	自五月至十月
驛西方二〇〇米巨流河	巨流河	鯉、鮒、鯰、鯔、砂もぐり	同
驛西方五〇〇米沼池	大虎山	鯉、鮒、鯰、鯔、はや	同
驛西方二粁沼池	大淩河	鯉、鮒、鯰、鯔、すつぽん、はや	同
驛西方一粁川	女兒河	鮒、鯰、うぐひ、鰻、はや	同
驛東方二粁沼池	陳家屯	鮒、はす	同
驛東方八粁海	興城	せいご、めはる、ちぬ、ぐち	自六月至十月
驛東方四粁川	同	せいご、鮎、鮒、はや、すつぽん	自五月至十月
驛東方一粁海	壺盧島	めはる、すずき、せいご、ちぬ、ぐち	自五月至十月

●錦古線

距離	最寄驛	魚の種類	期節
驛北方一粁池	薛家	鮒	自五月至十月

●阿北線

距離	最寄驛	魚の種類	期節
驛北方一粁半沼池	盤山	鯉、鮒、鯰、鯔	同

●北鮮線

場所	最寄驛	驛よりの距離	魚の種類	期節	餌
淸津附近海上	淸津	三乃至五粁	かれひ、あぶらめ、めはる、ほうぼう	常時	海蟲、鰮、鯖
			たらのこ	八月	同
			太刀魚	八、九月	鰮、友餌
			うなぎ	九、十、十一月	海蟲、鰮、鯖
松洞	輪城	四乃至八粁	やまめ	自五月至十月	鮭卵
南汐洞	同	六乃至10粁	同	同	同
三巨里	石幕	二乃至10粁	同	同	同
輪城川	章興	一粁	同	同	同
虚通洞	同	七粁	同	同	同
富寧川	富寧	三乃至四粁	同	同	同
富寧八潭	同	二―六粁	同	同	同
虚通洞	同	六―七粁	同	同	同
嚴賢洞	同	四―八粁	同	同	同
白沙洞	同	八―一〇粁	同	同	同
廣岩洞	同	八―二〇粁	同	同	同
橡坪川	古茂山	八―一〇粁	同	同	同
舞袖谷	同	同	同	同	同
茂山洞	全巨里	驛附近	同	同	同
新明洞	同	二―三粁	同	同	同
同	同	同	岩魚	自五月至十一月	同
葛麻洞	同	同	同	同	同
同	同	同	山女	同	同
圖們江岸	金生	三粁	鮒	自六月至十月	蚯蚓
同	高嶺鎭	同	同	同	同
驛西南方楡林	同	二粁	同	同	同
圖們江岸	水口浦	一粁	同	同	同
馬牌(圖們江岸)	同	三粁	同	同	同
圖們江岸	黄坡	〇・五―一粁	黄魚	自九月至十一月中旬	鮭卵
峰雲川下流	農圃	一・五粁	やり	自六月至十月	蚯蚓
圖們江岸	新乾	一粁	黄魚、いゝみんす、やり	自五月至十月	鮭卵、蚯蚓、こほろぎ

將臺地	新阿山	三粁	鮒	自五至十月	蚯蚓
圖們江岸	同	二—三粁	鮒、やり	自六至十月	蚯蚓やりの肉、毛針も可
赤池	四會	同	鮒	同	蚯蚓
青鶴川	青鶴	四—五粁	山女	自五至十月	鮭卵
雄倘川	雄倘	二—四粁	同	同	同
寛谷洞	寛谷	二—五粁	同	同	同
龍岩洞	同	六—八粁	同	同	同

【滿語名魚類の解說】

白魚 (Pai-yu) 滿洲國人は白色なる魚類を總て白魚と稱してゐるが普通白魚と謂ふのは體型扁平にして口部の上方へ突出してゐるのが特徴である。體長普通〇・六米前後より一米に及ぶものがある。

黃昂魚 (Huang-ki-yu) 黃鯝魚にして白色、身幅三糎以下長さ三〇糎を越えず、鯉魚科に屬し滿人は黃骨子(Huang-ki-tzu)とも呼んでゐる。

鯊魚 (Sa-yu) 鯉魚科に屬し和名(カマツカ)と稱するものにて滿人間には沙魚(Sha-yu)、鮀魚(Juo-yu)、沙鮀魚(Sha-tuo-yu)、沙鯝魚(Sha-ku-yu)、の數多の名で呼ばれてゐる。

外觀は(ハゼ)に似て長さ二〇糎位。細鱗で體瘦せ頭長く吻尖り眼は小さく鰓蓋に近く上にあり口は脣厚く短き鬚を有してゐる。體色は褐色の地に同色の濃き斑紋散在し背鰭、尾鰭にも多少の黑星あり背鰭は高く尾鰭は岐を成してゐる。水底にあつて這ふ如く移動して餌を求め石礫の上に伏し半身を砂中に沒する事ありて和名を俗に(砂モグリ)と稱してゐる。肉は美味である。

扁花魚 (Peu-hua-yu) 鯉魚科、體型扁平にして體色は黑味を帶び肉味は淡白にして滿人は白魚に次で賞味する。硬子魚又は魴とも謂はれ露人はレシチと呼んでゐる。

ギギユウ ギギ科、滿人は𩵼牙子(Gai-ya-tzu)と呼ぶ體型は鯰に類似してゐるが體は小にして背部に鋭き棘を有し、體色は黃色を帶びてゐる。之に類するものに牛尾魚がある。

發綠魚 (Fa-lu-yu) は哈魯魚(Ha-lu-yu)とも謂ふ。和名(ヒガヒ)と種類を同じく外形は一見鮒に似てゐるが口甚だ小さく、下脣は角質を成し口を閉ずれば上脣に裹まるゝこと恰も鳥の嘴に於ける樣で、これが此魚の特徴の一である。

他の特徴は生殖期に於て體外に長く突出する輸卵管を具へてゐることで、此の點よりみれば(タナゴ)に類似してゐる。

鰟頭魚 (Pang-tao-yu) 鯉魚科、鏞魚、胖頭魚とも謂ふ。體型丸く體長普通五〇糎時に一米に及ぶものがある肉は白色にて軟質其の味は餘り良くない。

鰲花魚 (Ao-hua-yu) 本名は鱖魚(Chueh-yu)と稱し又𩶘魚(Pei-yu)、水豚(Thuei-tzu)とも呼ばれる鱸科にして體型は鱸(スズキ)(カハメバル)に類似し口濶く背鰭大にして刺あり鱗は細小にて體色は灰色に薄黃色を帶び大なる黑斑點を有してゐる。體長普通三〇糎にして肉は美味である。

狗魚 (Kou-yu) 狗魚科、體型圓筒狀にて體色は背部黑色體長四五糎より大なるは一米に及び、其の肉は白色にして脂肪に富んでゐる。滿人は鴨魚(Ya-yu)とも呼び、露人はシチウカと稱し其の卵を特に珍重する。

者羅魚 (Ja-la-yu) 鮭鱒魚、和名(アムールイト)にて體型丸く頭部は大にして鱗は細く背後及頭部に暗黑色の小斑點が散在し皮膚は稍淡紅色を帶びてゐる。肉は淡紅色を呈し脂肪に富み常に急流に棲息し五月頃支流に上り產卵する。

產卵期になると全身は赤色を帶びる體長普通七十糎內外で時に一米に及ぶものがある。露人は之をタイメンと呼稱してゐる。

細鱗魚 (Shieh-ling-yu) 鮭鱒科、ファーレルの一種にして體型小にして色は幾分淡紅色を帶び、急流に多く棲息する。露人はレノークと呼んでゐる。

草根魚 (Tzao-ken-yu) 和名(ソウシイ)鯉魚科、體型は鯉に類似して細長く體長普通六〇糎前後、時に一米位に達するものもある。

滿人は之を草根と呼び、露人はアムールと稱してゐる。

紅尾魚 (Hong-wei-yu) 鮭鱒科にして滿人は擣子魚(Tao-tzu-yu)とも謂ふ。

體型は(マス)に似て鱗片は夫れより大きく肉厚く稍丸味を有す體長一米位に達し、體高は少しく濶く吻頭尖り體色銀白を呈し斑彩なく各鰭は赤色を帶びるを以て此の名がある。

鰔條魚 (Shen-tiao-yu) 鯉魚科、和名(イトウ魚)に類似し體型圓長にして普通一米前後時に一米三〇糎を超ゆるものがある。

●青島

場所	釣の種類	魚の種類	期節	最盛期の餌
膠州灣內外	陸釣	大ちぬ	四月	死海老
同	同	小ちぬ、めばる、あぶらめ雜魚	五月	ごかい
同	同	ちぬ、すずき	六月	死海老、鰌
同	同	小ちぬ、めばる、あぶらめ、小さは	八月	さより流れ
同	同	はぜ、かれひ、小ちぬ	十月	
同	舟釣	ひらめ、さわら、こち、こぎ	四月	鰯
同	同	さわら、ひらめ、太刀魚、こち、こぎ	五月	鰌
同	同	すずき、ひらめ、めばる、さわら、赤たひ、しこたひ、ころたひ等	六月	鰮
同	同	小さは	八月	
同	同	ちぬ		生海老
同	同	はぜ、小ちぬ	十一月	生海老、死海老

狩獵

獲物別獵場（最寄驛名）

雉子 瓦房店、王家、得利寺、松樹、萬家嶺、許家屯、熊岳城、蘆家屯、湯崗子、立山、遼陽、奉天、新臺子、亂石山、得勝臺、鐵嶺、平頂堡、開原、馬仲河、昌圖、滿井、泉頭、雙廟子、虻牛哨、楊木林、大楡樹、大屯、新京、火連寨、本溪湖、橋頭、南坎、下馬塘、祁家堡、草河口、劉家河、秋木莊、鷄冠山、四臺子、五龍背、安東

雁 龍頭、旅順、二十里臺、普蘭店、九寨、分水、立山、遼陽、蘇家屯、新臺子、得勝臺、鐵嶺、平頂堡、開原、營口、楡樹臺、孤家子、深井子、五龍背、安東

鴨 大連、旅順、二十里臺、瓦房店、分水、立山、遼陽、新臺子、亂石山、得勝臺、鐵嶺、平頂堡、開原、大楡樹、大屯、營口、楡樹臺、孤家子、橋頭、劉家河、五龍背、安東

鴫類 大連、龍頭、旅順、九寨、湯崗子、立山、遼陽、新臺子、亂石山、得勝臺、平頂堡、營口

鶉類 大連、龍頭、旅順、二十里臺、普蘭店、松樹、許家屯、湯崗子、立山、亂石山、得勝臺、平頂堡、開原、馬仲河、昌圖、祁家堡

山七面鳥 龍頭、旅順、遼陽、亂石山、開原、金溝子、馬仲河、滿井、楡樹臺、孤家子、深井子、李石寨

白鳥 金州、九寨、營口

鶴 平頂堡、營口、安東

鷺 營口

兎 龍頭、二十里臺、普蘭店、王家、得利寺、松樹、萬家嶺、許家屯、熊岳城、湯崗子、千山、蘇家屯、渾河、亂石山、鐵嶺、平頂堡、金溝子、馬仲河、昌圖、滿井、泉頭、虻牛哨、楊木林、大楡臺、孤家子、深井子、橋頭、南坎、祁家堡、秋木莊、四臺子、五龍背、瓦房店、立山

猪鹿 南坎、安東

獵場案內

獵物・獵場・季節

旅順線

△龍頭（大連 四八粁）

獵物	獵場	季節
山鶉、山鴫	附近の山野	九月中旬—四月下旬
兎		八月十五日—五月三十日
鴨、雁、山鳩	三澗堡附近	十月—三月

△旅順

獵物	獵場	季節
鶉、鴫	大孤山、老鐵山	九月—十月
雁、鴨	雙頭山附近	十月下旬—二月中旬

連京線

△大連

獵物	獵場	季節
田鴫	欒家屯方面	九月—十月
山鴫	傅家庄	九月—十月
鴨	臨海浴場、甘井子	十一月—三月

△二十里臺（大連四六粁）

雁、鴨、鶉　愛川村方面　十、十一、三、四月

兎　驛西北八粁の大連堡小連堡附近

△普蘭店（大連七七粁）

兎　附近一帶の野畑　九月—四月

△瓦房店（大連一〇五粁）

兎、雉子、鴨　驛東方約四粁の炸子窩附近

△王家（大連一一二粁）

雉子、兎　驛より約八粁の劉家溝瓦房窩溝附近　苦力賃一圓見當　十月—三月

△得利寺（大連一二四粁）

雉子、兎　驛の附近一帶　苦力賃七十錢　十月—三月

△松樹（大連一三〇粁）

雉子、山鶉　驛附近の廣野　苦力賃一圓見當　九月中旬—四月

兎

△萬家嶺（大連一四六粁）

雉子　驛の西方約六粁の閻河店地方

兎　西方二四粁を隔る紅土嶺附近

△許家屯（大連一六〇粁）

雉子、山鶉　李劉溝半句子矮家溝拉子山附近　苦力賃七十錢見當　十一月—三月

兎

△九寨（大連一六八粁）

雉子、鴨　相紅旗水喬子の海岸一帶　三月—四月

白鳥　九月—十月

△熊岳城（大連一七八粁）

雉子、兎　驛より八粁熊岳城河口附近

△蘆家屯（奉天二〇八粁）

雉子　驛の東方約一六粁の山野　十月—三月

鴨

△分水（大連二四七粁　奉天一四九粁）

雉子、鴨　驛北方約一六粁滾（コン）水泡附近　苦力賃一圓見當　三、四、九、十月

△湯崗子（大連二九二粁　奉天一〇三粁）

雉子、山鳩　驛西北約四粁中所屯附近

鴨　西方八粁騰鰲堡附近

兎　東方約四粁千山河附近　苦力賃一圓見當　十月—三月

△立山（奉天八四粁）

雉子、山鶉　驛より八粁櫻桃園附近　九月—四月

兎　驛より一粁半水源池附近

雉子、鴨　驛より二四粁太子河附近　三月—五月

△遼陽（奉天六四粁）

山七面鳥　驛舍西方の耕地　十二月中旬—一月下旬

雉子、鴨　驛西南三粁廠房八粁新立屯附近　三月中旬—四月中旬

鴨　附近の沼地　四月中旬—五月上旬。八月中旬—下旬

雉子　糯米子、丁莊子小屯子驛より六粁附近　十月—四月

△奉天

雁、鴨　渾河畔、沼地　三月下旬—四月上旬

鴨　驛西北方大窪、鎮相屯附近　九月上旬—下旬

雉子、兎　東陵附近　十月中旬—三月

△新臺子（奉天四四粁）

鴨、雁、鴫　驛北方八里庄附近　十二月—二月

雉子、山鳥　驛東方八粁

△亂石山（奉天五二粁）

雉子、山鶉　驛東方一帶　十月—四月

鶉、兎　西方の荒地　十一月—三月

鴨、鴫　西南方四粁の沼地

△得勝臺（奉天六一粁）

雉子、山鶉　驛より四粁乃至二〇粁一帶の山野附近　九月—四月

田鴫　附近の沼澤　四月—五月

雁、鴨

△鐵嶺（奉天七一粁）

雉子、兎　驛より約二〇粁柴河上流一帶　十月—十二月

雁、鴨　柴河下流

△平頂堡（奉天八二粁）

雉子、兎　山麓の附近　十一月—三月

鴨、雁　苦力賃一圓見當　三月下旬—十月中旬

△開原（奉天一〇四粁）

雉子、山鶏　驛東方一二粁馬家溝驛東北方一二粁王大樹附近馬車の便あり　九月—四月

△金溝子（奉天一一五粁）

山七面鳥、兎　驛附近の原野　三月—四月

△馬仲河（奉天一二五粁）

兎、雉子、山鶏、山七面鳥　驛北方一二粁十八家子附近

△昌圖（奉天一三六粁 新京一六八粁）

山鶏、兎、雉子　驛東方約四粁石山橋山方面東北約八粁哈什廟溝孤楡樹附近　十月—三月

△滿井（奉天一四三粁 新京一六一粁）

雉子、山七面鳥、兎　驛東方約八粁張家外子驛東方二〇粁我勾附近　十一月—二月

△泉頭（奉天一五〇粁）

雉子、兎　驛より約八粁を隔る雑木山　十一月—二月

△雙廟子（奉天一六一粁 新京一四三粁）

雉子　驛の東方三二粁蓮花街附近苦力賃一圓見當　十一月—三月

△虻牛哨（奉天一七六粁 新京一二八粁）

雉子、兎　驛東方約八粁の丘陵地一帶　十月—四月

△四平街（奉天一八九粁 新京一一五粁）

雉子、山鶏　驛より二二粁拉山澄子溝、下山臺方面馬車自動車の便あり　十一月—一月

△楊木林（奉天一九五粁 新京一〇九粁）

雉子、兎　驛の東方約二〇粁邊裏山附近苦力賃七十錢　九月下旬—三月

△大楡樹（奉天二三四粁 新京六九粁）

雉子、兎　驛南方約四粁東遼河の鐵橋附近　十月—二月

鴨　驛前面の水田東遼河の流域　三、四月

△大屯（新京一九粁）

兎　大山の南西側　十、十一月

△新京

鴨、雉子　驛西方約八粁の小池附近　三、四月

雉子、兎　吉長線の土門嶺九站間一帶

營口線

△營口（奉天一七九粁四）

雁、鴨、鴫　驛より大官屯、鴨島　三月中旬—四月中旬

白鳥　西砲臺、大高坎田庄臺　九月中旬—十月中旬

撫順線

△楡樹臺（奉天一二粁）

鴨、雁　驛より約二粁全家灣附近　十一月初旬—十二月初旬

山七面鳥、兎　農場　二月—四月

△孤家子（奉天一九粁）

雁、鴨、山七面鳥　渾河の畔　十月下旬—二月下旬

兎　附近の耕地

△深井子（奉天三三粁）

雁、山七面鳥　李石寨、牛相屯附近

兎　東陵方面

安奉線

△火連寨（奉天七一粁）

雉子　舊大嶺附近　十二月—二月

△本溪湖（奉天七七粁）

雉子　稲金方面は驛より二粁以南沿線一帶火連寨方面は驛より二粁以北牛心臺方面約一二粁以東の山地一帶　十二月—二月

△橋頭（奉天九三粁）

鴨、鳩　驛より四粁乃至八粁遼陽街道楡樹林子忠魂碑附近　三、四月

雉子、兎　釣魚臺磔馬票街道一帶　十月—四月

△南坆（奉天一〇八粁）

雉子、兎　驛の東方約二粁東溝北方四粁金杭　十月—四月

野猪

△下馬塘（奉天一一八粁）　驛の南北約二粁蘞南坎西方約四粁臥龍溝附近

雉子　驛附近一帶苦力賃一圓見當　十月初旬—三月

△祁家堡（奉天一三六粁）

雉子、鳩　山鶉、兎　附近の山地一帶　十月—三月

△草河口（奉天一四七粁）

雉子　附近の山地一帶　十一月—三月

△劉家河（奉天一七五粁）

雉子　附近の山地、草河沿岸　十一月—二月

鴨　四月、五月

△秋木莊（奉天一八一粁 安東九四粁）

雉子　驛より四粁黒坑瓦房屯附近　十一月—三月

兎　大茬溝方面

△鷄冠山（安東八〇粁）

雉子　驛西南四粁遼家溝老虎嶺、羊草溝、沙子溝　十一月

△四臺子（安東六九粁）

雉子、兎　附近の山地

△五龍背（安東二四粁）

兎、狼、狐　雉子、雁、鴨　丁義山麓一帶驛附近の水田　苦力賃七十五錢　十月—五月

◎凡例　鳥獸の棲息數は多數を（特）以下（A）（B）（C）の順とする。

奉山線 錦古線

△巨流河　南方水地　水鳥（A）
北方深く　山鶉、雉（B）

△新民　附近一帶水地　水鳥（A）

△錦縣　北方一帶水地　水鳥（B）

△興城　南東方深く　鶉（A）

△山海關　南方水地　水鳥（B）
北方山野　山鶉（B）雉子（C）

△承德　熱河一帶　熱河山鶉（C）

奉吉線

△南口前—梅河口　鐵道西北方一帶淺く　雉子（A）

△英額門　驛南東方山地　雷鳥（C）

平齊線 大鄭線

△三江口　北方水地　水鳥（A）

△三江口—大平川　鐵道沿線兩側一帶廣く

△通遼　雉子、山鶉（A）

京白線 白阿線

△白城子—安廣　安廣を中心とする附近一帶　山鶉、雉子、鶉、猫足（〃ラウス）黄羊、獐（特）

△阿爾山　興安嶺一帶　山鶉（特）雉子（A）猫足（〃ラウス（A）黄羊（特）山七面鳥（特）

京濱線

△陶賴昭　西方水地　水鳥（A）

△哈爾濱　哈爾濱を中心とする水地河川　水鳥（B）
同じく原野　雉子（A）

京圖線 拉濱線

△飲馬河　北方水地　水鳥（A）

△吉林、拉法　京圖線、拉濱線にて圍む山地（長白山脈）　雉子（特）

雷鳥、山鶉、猪、獐(B)

濱綏線

△鐵道沿線　北方山地全般(長白山脈)
雉子(特)
山鶉、雷鳥、猪、滿洲赤鹿(B)

濱洲線

△巴林　大興安嶺
黑雷鳥、大雷鳥、エゾ雷鳥
雉子、山七面鳥(特)
山鶉、猫足(グラウス)滿洲赤鹿、猪、獐、黄羊(A)

齊北線 北黑線

△寧年　附近平野
山七面鳥、雁、鴨、山鶉、鶉(特)

△北安　北黑線沿線一帶(小興安嶺)
黑雷鳥、エゾ雷鳥、鶉(A)
雉子、山鶉、黄羊、獐(特)

平梅線一帶

雉子(A)

禁獵地域

定められたる禁獵區並に公道、公園、廟宇社寺境內、墓地、市街その他人家稠密なる場所や建物、人畜、汽車、電車若くは艦船に銃丸の達する處ある所での狩獵は禁ぜられてゐる。

尚日出前及び日沒後は銃獵を爲すことを得ず。

狩獵鳥獸

滿洲國の鳥獸保護法施行規則に依り定められたる狩獵鳥獸の種類は次の通り

鶉、五位鷺、蒼鷺、鷲、鷹、隼、鶚(ミサゴ)、雉子、沙鷄、半翅(ヤマウヅラ)、鶉、鷓鴣、雷鳥、野鴨、鵠(ハクテウ)、雁、秧鷄(クヒナ)、鷭、鴴(チドリ)、鷸(鴫)、鴇、(ノガン、山七面鳥)、鳩鴿(ハト)、魚狗(カハセミ)、鶫(ツグミ)、烏鴉(カラス)、松鴉(カケス)、鵲、老西兒(シメ)、蠟嘴雀(イカル)、交喙(イスカ)、花鷄(アトリ)、金翅雀(ヒワ)、金翅兒(カハラヒワ)、雀、花眉子(カシラダカ)、黄道眉(ホホジロ)、紫背兒(ノジコ)の鳥類

獸類(獺、黑貂、牝鹿を除く)及び各種鳥類の狩獵期は滿洲國では九月一日より四月三十日まで、關東州では八月十五日より四月三十日まで、但し鷸(鴫)に限り何れも五月三十一日までとなつてゐる。

獸類は十一月一日より三月三十一日まで狩獵することが出來る。

旱獺(タルバカン)は八月一日より九月十日に至る間、牡鹿は四月一日より六月三十日までの間に限り狩獵を許されてゐる。

牝鹿は一切捕獲を禁止せられてゐる。雀、烏鴉、野猪、狼、鼠、兎、獐の鳥獸は一年を通じて捕獲することが出來る。

溫泉

滿洲の溫泉

滿洲の溫泉は大約三十餘箇所を算してゐるが交通不便であつたり、溫泉場の設備が整はない爲め、大部分のものはその地方の滿蒙人に利用せられてゐるのみで、日本人に知られ利用せられてゐるものは甚だ僅少である。所謂名溫泉として一般に膾炙されてゐるのは滿鐵沿線の湯崗子、熊岳城、五龍背の三溫泉であり、之等は滿洲では設備最も完備し利用者も甚だ多い。この他に奉山線沿線の興城溫泉も近年頭角を現し、種々話題となつてゐる。興安嶺下の阿爾山(ハロンアルシャン)は特異な溫泉場として關心を向けられてゐる。興城、阿爾山の兩地には鐵道總局直營のホテルを設置してあり、また京圖線沿線の九臺溫泉は冷泉を加溫したもので、昭和十二年夏以來設備をなし新京方面を初め一般の人々に呼びかけてゐる。

安奉線本溪湖驛の東方に當る狗兒湯(溝兒湯)溫泉は滿鐵に於て附近の山野を買收し溫泉鄕としての設備を施す計畫を樹てられて居り、溪城線(本溪湖の街はづれ明

山驛を起點とす）による交通の便が開けてゐるからやがて賑盛に向ふものと思はれる

▽溫　泉　名

名稱	位置
五龍背	安奉線五龍背驛附近
湯崗子	連京線湯崗子驛附近
熊岳城	連京線熊岳城驛の東南二粁半
興城	奉山線興城驛の東南四粁
阿爾山（興安溫泉）	白阿線阿爾山驛附近
安北湯	連京線松樹驛の東二〇粁
剪子湯	同上溫泉の東北八粁
龍門湯	連京線許家屯驛の東南東六粁
思拉堡	連京線蘆家屯驛の東南七粁
倪家臺	連京線鞍山驛の東一五粁
湯河沿	連京線遼陽驛の東南二五粁
狗兒湯	安奉線本溪湖の東北方、溪城線、溫泉寺驛附近
湯池溝	安奉線草河口驛の東北二八粁
湯池子（鳳城縣）	安奉線鳳凰城驛の北北東九粁半
廟嶺溝	安奉線鷄冠山驛の西南二五粁
東湯	安東線湯山城驛の東北一〇粁半
湯池子（安東縣）	安奉線牛龍背驛の東二〇粁
勾湯	安東省岫巖縣縣城の西北一六粁
湯池溝	安東省岫巖縣縣城の北微西九粁
白頭火山溫泉	白頭山中
（イ）硫黃溫泉	火山の頂上から西南八粁の中腹
（ロ）湯水長溫泉	火口湖天池から北方側の中腹
（ハ）白溫泉	火口湖天池から北へ四粁の中腹
（ニ）天池及三池淵	白頭山火口湖の一部分
烏雲和爾冬吉火山藥泉	（今は冷泉）北黑線龍鎭驛の西一〇粁
湯山	興安西省林西と經棚との間、林西の西南二七粁
英金河上流熱水塘	熱河省赤峰の西一〇〇粁
毛金壩山熱水塘	熱河省承德の北微東五三粁
湯上（頭溝村）	熱河省承德の東北三〇粁（道程七〇粁）交通不便
默泌	熱河省平泉の北微西四五粁
淩源熱水塘	熱河省淩源（建昌）北北東一五粁
建平熱水塘	熱河省建平の東北東二五粁
瓜地	熱河省豐寧縣城の北北西五三粁
熱水溝	同上溫泉の南一粁
湯山	奉山線綏中縣驛の北北西一四粁
九臺（冷泉）	京圖線下九臺驛の東南一粁

【溫　度】　滿洲の溫泉は一般に溫度が低く、攝氏六十五度以上のものは稀であつて普通六十度から四十度或はそれ以下の溫度のものが大多數を占めてゐる。

湯崗子　攝氏七十三度半
熊岳城　攝氏五十度内外
五龍背　攝氏五十七度
興　城　攝氏七十度内外
阿爾山　攝氏四十六度以下各種

【泉　質】　滿洲の溫泉は何れもアルカリ性で酸性のものは殆ど無い、溫泉中の鑛物有含量は極めて少く一リットル中に一グラムの固形分のあるものすら少い。

・湯崗子　無色透明のアルカリ性に多少のラヂウムを含有
・熊岳城　無色透明で微かに硫化水素の臭氣と弱アルカリ性の反應がある。
・五龍背　無色透明で微かな硫化水素の臭氣を帶び、弱アルカリ性の反應があり、手觸りは滑かである。
・興　城　無色透明で少量の浮游物があり反應は弱アルカリ性。
・阿爾山　無色透明であるが僅に褐色の沈渣を生ずることがある。微かに硫化水素の臭氣があり反應は弱アルカリ性。
・九　臺　炭酸含有土類の炭酸鑛泉であつて硝酸鹽、クロール鹽、重炭酸亞鹽化マンガン、燐酸鹽、メタ硫酸等を含んでゐる。

【特　効】　滿洲の溫泉は概して日本內地の溫泉に比しその含有成分の濃厚なるもの甚だ少く、その溫度の高いものも少い爲め日本內地の溫泉に較べ醫療上の効用に就いては劣るが、併し割合に溫泉の數が少い爲め滿洲に於ける溫泉の利用價値は貴重な譯である。重なる溫泉の適應症は

・湯崗子　リウマチス、濕疹、腺病、婦人病、脊髓病、胃腸カタル

・熊岳城　リウマチス、濕疹、神經衰弱、婦人病、腺病、痔疾によく、砂湯は胃腸病、痔疾に特効がある。

・五龍背　皮膚病、神經痛、リウマチス、痔疾、胃腸病、婦人病

・興　城　神經痛、リウマチス、胃腸病、神經衰弱、貧血症、婦人病、創傷、濕疹、痔疾、腺病、喘息

・阿爾山　野天に在る四十有餘の湧出口には一泉毎に浴槽の傍に蒙古語、西藏語、滿洲語で記した效能書の古い石柱や木柱を立てゝあるが西紀一九二四年の夏に露西亞語の效能書と攝氏の溫度とを追補され、また近年日本語で追記されてゐるところもある。それによれば頭の病を治す浴槽、目にきく溫泉、耳、鼻、口、腹、膀胱、脚氣等々と一つ〳〵別々に效能書を注意して入浴することになつてゐる。

要するにリウマチス、皮膚病、痔疾、婦人病、胃腸病等に特效がある。

・九　臺　內用＝各種貧血、消化不良、萎黃病、佝僂病、胃酸過多
浴用＝官能性神經疾患、神經性心藏病、婦人病、男子生殖器諸病、皮膚病等

北鮮の溫泉

清津の西方約四十八粁、朱乙川の溪流に沿ふて朱乙、かねたの溫泉鄕があり、甫老川畔には城町溫泉がある。何れも景勝優れ朱乙、かねたには旅館其他の設備も整つてゐるが城町溫泉には旅館其他の施設なく、甫上洞の露天溫泉も水害のため埋沒してゐる。

かねた溫泉　朱乙驛より三粁、バスの便がある

朱乙溫泉　朱乙驛より一一粁、バスの便がある。清津驛よりかねた、朱乙溫泉行バスも出てゐる。

【泉質竝に溫度】　アルカリ性鹽類、ラヂウム含有。溫度五十五度。

【特　効】　胃腸病、神經衰弱、リウマチス、外傷、性病等。

兩溫泉とも泉質は大體に同樣である。

城町溫泉　朱乙驛より約二〇粁。

支那の溫泉

溫泉に惠まれてゐる日本に比べては數に於ても質に於ても、支那の溫泉はあまり問題にはならない。それに事變下の現況では一般に溫泉の利用も思ふまゝに出來ず、設備もあまり整つてゐないやうである。併し溫泉好きの日本人の進出により今後は北支、中支の溫泉場の規模なり經營なりの上に相當の變革を來すと共に將來益々開發せられることは容易に想像出來る。支那には殆ど各省に溫泉は散在してゐるやうであるが大體によく知られてゐるのは北京、山東、南京方面の小數に過ぎない。

【湯山溫泉】　北京の北方約三十粁、明の十三陵に行く途中、小湯山の東麓に湧出してゐる溫泉、清朝の離宮もあり、林泉としても支那式庭園の代表であり、立派な人工的溫泉である。西洋風な柱廊のある病棟がつづいて居り、外國人の利用するものも少くない。溫度は東池が攝氏三十九度、西池が五十度。泉質は兩池稍異るが弱食鹽性にして出血性諸病、滲出性諸病、榮養障碍、慢性皮膚疾患、神經興奮症等によし。

【密雲の溫泉】　北京の遙か東北方に當る密雲方面の山中には數箇の溫泉があるが、交通不便のためあまり一般には知られてゐないやうである。

【孤石塔溫泉】　京山線北戴河驛の北方三十三粁餘、角山中の孤石塔に湧出する溫泉。飲用すれば胃腸その他の疾病を能く癒し沐浴すれば癰疽患者に特によく、皮膚病その他の疾病にも効果がある。

【湯山溫泉】（山東）　王哥庄から約二十粁

に當る湯山村にある。青島から自動車で約二時間半、高溫度の溫泉である。胃腸病、神經痛、リウマチス、外傷に効能顯著である。

【嶗山溫泉】 青島市外約四粁餘にある。

【天齋淵溫泉】 膠濟線淄河店驛の西北約十粁、淄河の右岸、牛山の麓に天齋淵の溫泉は湧出してゐる。

【湯村溫泉】 青島の東北約二百十粁の湯村は平凡な僻地であまり世に顧みられないが單純泉で、五箇所から微溫湯がブク／＼湧出してゐる。

【湯水鎭溫泉】（南京） 南京の麒麟門から二十八粁餘、華中都市バスにて五十分、杭州に通ずる街道に沿ふ湯水鎭近く溫泉がある。泉量はあまり多くはないが無色透明にして多少の硫黃とラヂウムを含んで居り、溫度八五度、胃腸病、皮膚病に特效ありと云はれ南京附近唯一の溫泉として知られてゐる。赤土の低い丘の麓から湧く湯を汲んで使用してゐるが、風呂は個人風呂で、支那人は悠暢に一日中湯につかつたり、出て食事をしたりなどして享樂してゐる。

宿泊設備　湯山閣ホテルあり收容人員三十名内外　一泊六圓—十二圓程度

【從化溫泉】 廣東の西北方約八十粁に溫泉地「從化」がある。淸らかな溪流の河原のところ／＼から熱湯が湧き出てゐる。景色が良く、最近開發せられて日本式の旅館も出來てゐる。

避暑地と水郷

星ヶ浦（大連西南四粁）

大連富士を背に渤海の蒼海原に面する東洋有數の海濱遊園地、滿鐵經營の公園があり脫衣所、洗體所、兒童運動具、貸舟等の海水浴の設備が完備してゐる。

避暑滯在設備としては星ヶ浦ヤマトホテル、同分館、同貸別莊、家族會館、大連觀光協會設備ビーチハウス等がある。

◇星ヶ浦ヤマトホテル分館
▲一人室三圓乃至四圓▲二人室一人四圓乃至五圓、二人五圓五十錢乃至七圓▲疊敷一室三圓乃至五圓▲日本間四圓乃至六圓

◇星ヶ浦貸別莊
自六月一日至九月三十日、四百三十圓乃至六百六十圓

◇星ヶ浦家族會館
▲一般休憩　大人十錢、小人五錢（六歲未滿無料）▲專用休憩室　室に餘裕ある場合宿泊又は貸切の需めに應じてゐる。

◇大連觀光協會ビーチハウス
自七月五日至九月五日、甲乙兩種あり料金は▲一日二圓三十錢、二圓八十錢▲一週間十四圓五十錢、十八圓▲全期間百圓、百二十五圓

老虎灘（大連南方）

老虎灘の名の由來する猛虎踞まるに似た懸崖をはじめ奇岩奇景に富み水淸く魚多く汐干狩にも適する。

街村の前の海は靜ヶ浦と共に海水浴場であるが、靜ヶ浦には脫衣所、貸ボート等の設けがあり、近くには水產試驗所がある。料亭一方亭、千勝館、月の家、嘯月等がある。

傅家庄（大連西南二粁）

大連桃源臺よりバスの便があり（片道十錢、三十分）白砂にして水淸き佳景の海水浴場、釣魚にも適する。

海上一哩先に浮ぶ無人島も絕好の淸遊地である。

夏家河子（大連より約二〇粁、三〇分）

滿洲の湘南と稱せられる程有名な海水浴場で夏期には大連より海水浴客のため每日臨時列車が往復して居る。渤海に面し白砂遠淺で婦女子の遊泳に適し、滿鐵經營の下に諸種海水浴場設備が完備し、貸間宿泊所としては水明館、碧漣館彩秀閣などがある。

（開館期間自六月初旬至九月初旬）

◇個人宿泊料
一日一人七十錢（四疊半）乃至四圓（十二疊）▲一日三食一圓▲寢具使用料、宿泊所備附のものを使用す

る場合は一日一組（敷蒲團、毛布又は掛蒲團各一枚枕一箇）十五錢、蚊帳一張五十錢▲自炊設備使用料一日十錢燃料を含まず（但し食器類は各自携行のこと）

◇團體宿泊料
一日一人學生十錢、一般二十錢▲食費　學生一日三食六十五錢、一般團體其他は個人食費に同じ▲收容人員五十名、百名、百五十名の三箇所

◇天　幕　一日使用料三十錢

◇海濱浴場　一回劵大人五錢、小人三錢▲十一回劵大人五十錢、小人三十錢

◇貸別荘　自六月十日至九月十日
ABCDE型の五種あり料金八十圓より百七十圓まで

◇有料脱衣所　一日大四十錢、小三十五錢

黄金臺（旅順乃木町よりバスの便あり約十分）

東洋のニースと呼ばれて居る事だけでもその風光が想像出來る。黄金山南麓の美しい山肌に抱かれた海濱露治時代より夙に別荘地、避暑地として有名である。現在ではヤマトホテル別館及び貸別荘十九棟がある

◇ヤマトホテル黄金臺別館宿泊料
米式（食事附）一人九圓乃至十二圓▲歐式（食事なし）一人五圓
二週間一割引、三週間一割五分引、四週間以上二割引

◇黄金臺バンガロー
自六月一日至九月三十日、二百八十圓乃至五百四十圓▲パイプハウス使用料一日一圓五十錢、一月三十

杏樹屯（大連より六〇粁約二時間餘）

金福線中間驛「杏樹屯」海岸は一方に斷崖が聳え、崖の下は五十餘町の白砂、斷崖から沖へ向つて幅十數町の暗礁が突出し、沖合遙かに點々と浮ぶ島嶼、傳說の駱駝岩は悠久の影を清澄な水に浮べ、海水浴に釣魚に又林間生活に好適と云ふ總てに惠まれた浴場である。

明媚なる風光清澄なる海水を持つ絶好の新海水浴場として近來浴客の絶讃を浴びその將來性をはつきりと裏書きされた。

脱衣場、シヤワー、遊歩場、遊園地、相撲場、サンドスキー場等の設備も整ひ又公衆電話も新設され一段と便利を加へた。

松樹（大連より一三〇粁約二時間半）

驛より南方五百米清流あり釣によく靜寂な雰圍氣は夏のキャンプに好適である。驛にはビューローの貸天幕がある。

沙崗（大連奉天間の略中間）

驛から西方約六粁佃家屯の附近の海濱は蜿蜒數里の遠淺で近年海水浴場として認められるに至つたところで設備も出來て居る樹間はハイキング、キャンピングにも好適である。ビューローではビーチテント、ビーチパラソルを設けて居る。

連山關（奉天より一二七粁三時間餘）

分水嶺に近く海拔三百三十米、翠巒に圍まれ夏涼しく清流細河は釣に水遊びに良く、滿洲第一の山間避暑地とされて居る。

鬼つつぢ、福壽草、野生芍藥、梨、杏が多く高山植物の採集地として良い。驛西方十二粁にして日清日露役の激戰場摩天嶺がありその途中に仙境石家沿の觀音堂がある。又ビューローのサンマーハウスがある。

下馬塘（奉天より一一八粁約三時間）

祁家堡分水嶺に源を發して峽谷美しき細河の流は驛前に來て川幅やゝ廣く、このあたり一帶釣魚地として定評あるところ、驛よりの距離僅かに百米にして、婦女子にも容易に釣魚の快を味はふことが出來、魚の種類もまた多い。白沙の河原のキャンピング、或は水泳に、附近の山へのハイキングに、硅岩露頭の懸崖にロッククライミングを試みるなど、この地ならでは味はへぬものがある。

本溪湖（奉天より約二時間五〇分）

本溪湖驛より二粁、徒歩約三十分にして太子河驛に至る。こゝより溪城線により太子河の左岸に沿つて、車窓に沿線の風光を愛でつゝゆけば、その昔さる仙人が、三日三夜その風景に見とれたと云ふ三日浦へは五十分、崔家浦には二十分で達し、こゝより遊覽船で河を下る。

途中船をとゞめて釣魚の快を味ひつゝ、船上即席料理に舌鼓をうつも亦更に興趣を添へるであらう。

遊覽船は豫め本溪湖驛に準備方依賴し置く必要がある。尙三日浦、崔家浦よりの河下りは、日曜日に限られてゐるが、鐵橋附近の船遊は平日でも出來る。

遊覽船	一四人乘	一七人乘	三〇人乘
鐵橋附近	三・〇〇	三・五〇	七・〇〇
崔家浦	四・〇〇	五・〇〇	八・〇〇
三日浦	五・〇〇	六・〇〇	一〇・〇〇

本溪湖より驛鐵橋まで

馬車（三人乘）	・二〇錢
人力車	二〇錢

辨當	・四〇	・七〇	一・〇〇

南坟（奉天より一〇八粁約二時間半）

河水豐かに淀み、巖に沿うて流れるところ必ず水車かゝり、細河峽谷の風光まことに美しく楊柳の村の、物柔らかに素朴な風景をもつ詩境南坟は都塵を拂ひ、一日の清遊を試みるに、好適の地である。靜かな細河の清流に糸を垂れ、或は水泳に、キャンピイングに、または數人寄つて水車干しに興ずる等、樂しい一日を過すことが出來る。

こゝはまた有名な南坟南瓜の產地でありトマト、西瓜など美味なものを多量に產して、遊客を喜ばせてゐる。

橋頭（奉天より九三粁餘約二時間二〇分）

この地に遊ぶものまづ驛前を左折し山紫水明の水鄉橋頭の全貌を展望し、降つて朝陽寺に詣で、山裾をめぐつて細河河畔に出で水車を見て水泳場に行く順序を薦めたい。山と河を繫ぐ恰好のベビーハイキングコースである。

清流にボートを浮べ、或は水泳に、釣魚に、又は白砂の河原に渡つて遊び、鶯谷の幽邃境に山鶯の聲を聞くなど夏日も尙短きを嘆ずるに至るであらう。

貸ボート	一時間	四〇錢
休憩所	一人一日	五錢
使用料	貸切	五圓
淸樂莊	一人一室	五〇錢
	二人一室	六五錢
	三人以上一室	八〇錢

吉林（新京より一二八粁急行約二時間）

市街上流約三邦里附近は斷崖の絕勝、山峽の湖景等眞に「滿洲ライン」の名に相應しく、此の松花江上に船を浮べたものでなければ山水の吉林を語る資格なしと云はれる。松花江の鵜飼は滿洲色の豊かなもので燦々たる陽光を浴びた純白色の鵜が時には二尺に餘る鯽、鯉、鯰などを啣へてしぶきと共に躍り上る壯觀は內地の鵜飼とは全然趣きを異にした大陸的なものであり、五月から十月中旬まで行はれる。料金は一人一圓で他に貸切船も用意されてゐるから、希望はビューローか觀光協會へ申込めばよい。またビューローのサンマー・ハウスも本年より開設された。

哈爾濱スンガリー

キタイスカヤの人波を縫うて色とりどりの行人の顏を見較べながら松花江に出づれば涼風が快く頭髮を撫で、江岸に立つて四顧すれば下流遠く江面を壓する松花江の大道橋を望む。江上に浮ぶ無數のボートや林立する帆船や、江防艦隊等が遺憾なく大江の風貌を發揮し、對岸から太陽島にかけて人魚の群れ遊ぶ樣、正にエキゾチックな裸

證健康美の競進會だ。自らボートを操つて中流に放歌するもよし、水浴に半日の行樂を費すのもよければ、魚釣に俗塵を避けて冷たいクワスに渇を醫するのも亦よい。哈爾濱をそこはかとなく柔かい情緒に包むものは夏の綠樹とこの大松花江の流である。

呼蘭（哈爾濱より三三粁約一時間餘）

一日の淸遊には最も好くしかも勝れた行樂地である。こんもりとした白楊の林、芝生の丘、花圃には季節の花開き、淸楚、閑雅な西崗公園がある。

石人城の傳說で有名な石人像はこの園內に祠られてある。

石公祠のある小丘に立てば、呼蘭河眼下を流れ河の彼方に綠一色の平原は伸びて一望千里その中を蜿蜒蛇行する呼蘭河は、白く水面を光らせつゝ野に消える。近くは巧緻遠くは雄大、まさに絶景である。石公祠はその昔善政一世に高かつた鎭守使石將軍を祠るところ。

橫道河子（哈爾濱より二七〇粁、牡丹江より八二粁牡丹江より約二時間）

綠の山々に包まれた中に牡丹江支流橫道河が流れる山紫水明の別莊地。樹間の逍遙、水上の舟遊は夏を忘れさす事が出來る。牡丹江鐵道局の宿泊設備がある。

自七月三日至八月三十一日 ▲室料洋式ベッド一臺一夜四十錢、寢具一夜三十錢▲休憩自八時至二十時五錢所持品保管の便あり ▲食費朝二十錢、晝三十錢、夕四十錢

一面坡（牡丹江より一二九粁六時間）

蜿蜒河上流の狹長な山峽にあり、人口三萬餘を有し、西の扎蘭屯に對する東の避暑地として有名であり將來を期待されてゐる。市街は線路を挾んで南を商店街、北を鐵道街に分け、商店街は滿人街と露人街とに分れ日本商店は滿人街の間に散在してゐる。蜿蜒の淸流に臨んだ鐵道街及び其の附近は鬱蒼と木立に圍まれ自ら公園の趣をなし河は釣魚、水浴、舟遊等に好適である。

鏡泊湖（東京城驛より張家水鄉三五粁バス一時間半、それより鏡泊ライン八粁）

地形上便宜上、南、中、北の四湖に區分されて居り、上湖は夏深き綠の中を流れて詩情橫溢せる風景を呈し、釣魚に打網に或は又狩獵場としても絶好の場所である。南湖の東岸は彼の鏡泊學園の跡や石頭河漁村の所在する所。中湖上には道士山を始め幾多の島嶼點在して頗る絶景。北湖は北湖島より直角にカーブして東南より西北に延び張家水鄉に至つて初めて流れを現はし、吊水樓に落下する迄延長十二粁四季通に到る。

浪の様に緩い丘を越えて約五〇米の高さから眼下に見下す鏡泊湖は鏡の樣に淸澄で、對岸に迫る老黑山の峻峯を倒影し、春夏秋冬趣にする風光は四季を通じて將に一幅の墨繪である。今此の地は自動車道路の終點となり、之より一粁半瀑布への徒步旅行コースが設けられてある。

湖の最北端、湖水が再び牡丹江に落下するところ即ち天下第一の名瀑と銘された吊水樓瀑布があり、水量極めて豐富にして嚴冬素雪の間にも凍結せずと云ふ。

又吊水樓より四季通迄の間約四粁の急流を鏡泊ラインと稱し、兩岸には熔岩累積して懸崖を爲すところ或は水流に巨岩蟠居して水煙煙り、ラインの終端には龍岩島あり又河は水浴に、釣魚に、キャンプに手頃な淸遊地である。

富拉爾基（哈爾濱より二八三粁約八時間昂昂溪の次驛）

沖、橫川兩烈士の爆破期して成らず、無念の魂をハルピン露兵刑場に殘し護國の鬼と化したことは、この地に遊ぶ者又嫩江の大鐵橋を通過する者の常に想起合掌するところである。

鐵橋の右下より北方に續く河原及び水邊は水浴場にして釣魚、キャンプ、舟遊の人

人によつて一面避暑風景が描き出されてゐる。避暑場の敷地は大規模に區劃され、青絨毯の平地に數箇のバンガローが楡樹に圍まれて見え北方遙かに續く草原には名產富拉爾基の馬が大群となつて疾走し止つては悠々と草を喰んでゐる。

人も知る馬乳酸（クミス）の產地にして施療病院のクミス療法は全滿一の定評があり結核の多い滿洲に於ては理想的な療養所であらう。

扎蘭屯（哈爾濱より四一五粁約十一時間）

海拔八百米の中腰扎蘭屯盆地の中間を流るゝ雅魯河の紆餘曲折は網の目の如く此盆地に根を張り、楡樹繁茂して風光に一段の光彩を添へる。避暑場開設中の扎蘭屯驛は遊覽客の夥しい雜沓によつて殷賑を極め、ホームの客を物珍しく出迎へる露西亞娘の美しいポーズは先づ第一にエキゾチックな感覺を與へ且つ絢爛たる花壇の色彩に幻惑され陶然とする。

水浴場附近にはビーチコートの女、海水着の女等美しい半裸の姿が惜しげもなく歩き廻り、燦々たる陽を浴びて赤い海水着が楡樹の緑を縫つてゐる。老楡樹に圍まれた水浴場は滿々と淸水を湛へ幾多の貸ボートが遊覽客によつて樂しまれてゐる。

此の附近一帶は遊歩地逍遙地帶で遊歩道路、ベンチ、泉水、噴水、橋梁、水浴場等の設備が出來てゐる。

遊歩地帶の盡きる所扎蘭屯の東南端雅魯の支流小川の邊りに滾々として湧出する淸水は極寒時に於ても尙結氷せず最近に至つて全滿唯一のラヂユーム含有鑛泉として溫泉場設定の運びに至らうとは誰しも夢だに考へないことであつた。

扎蘭屯は一體に氣溫良好であり植物園竝に溫室等大規模に計畫され熱帶植物がすくすくと成長してゐる。

巴林（昂昂溪より二〇七粁餘五時間弱）

丘陵性の興安嶺の山峽を靜かに流れるヤール河に沿ふ扎蘭屯と巴林は、共に滿洲の上高地とも言ふべき屈指の避暑地であると同時に、冬暖かく自然に惠まれた避寒地でもある。

ヤール河ではタイメン、フアレルの珍魚及び紅鱒が釣れ避暑滯在に一入興味を深くする。

共に滿鐵設備のバンガローを有し、又巴林には列車ホテルが設けられる。尙夏期間中は齊々哈爾・扎蘭屯間に臨時列車、扎蘭屯・巴林間には臨時遊覽バスが運行される。

◇興安嶺避暑家屋

富拉爾基、扎蘭屯、巴林

期間　自六月一日至九月三十日▲室料　一室季節中三十圓—一一〇圓、日貸四〇錢—一圓五十錢▲富拉爾基、扎蘭屯には疊敷休憩所、食堂、浴場、賣店、ボート案內事務所等を設置

◇巴林列車ホテル

四月一日—九月三十日　▲團體乘車の旅客にして四十五名以內を原則とするも驛長の認めたものに限り一般個人の宿泊にも應じる。▲料金　團體寢臺一箇一泊一圓、個人同上一圓五十錢、一室貸切A寢臺四箇備附室一泊四圓五十錢、B寢臺二箇附一泊二圓五十錢

阿爾山（白阿線終點驛白城子より十二時間）

別名を興安溫泉と呼ばれ蒙古語ではハロンアルシヤンと言ひ、ハラハ河支流アルシヤンにあり海拔凡そ千五百米に在り、雄大な興安嶺の山懷に抱かれた溫泉鄕で四十の溫冷泉が湧出して居る。

滿鐵經營阿爾山ホテルがあるが附近の露人住宅に於ても夏期の部屋貸に應じてゐる。

◇阿爾山ホテル

料金　洋室五圓、和室五圓—六圓五十錢（朝食含む）▲食費　朝食一圓、晝食一圓五十錢、夕食二圓

興城（錦縣より七一粁約一時間十分）

「海と溫泉の興城」は街の東南四粁にあり、驛と溫泉の間に定時バスが運行されて居る。北に首山、南に海を控へた平和鄕で古

來靈泉としての名高く史實に富んで居る。海水浴場は溫泉の南方四粁、驛からバスの便があり、遠淺で婦人子供に向く。鐵道總局竝にビューローのサンマーハウスがある。

山海關（奉天より四一九粁急行七時間十分）

前面に渤海を控へ、背後に高嶺を負ひ蜿蜒たる長城が海に沒する此所は海水浴場として好適で、綠の樹間にはバンガローが點在し眞夏ともなれば濱邊には色とりどりのビーチパラソルが華やかな水着と共に姸を競ひ、由比ケ濱の岩附近では釣も出來る。

十時―十九時の間北交バス一時間毎に運轉、片道十五錢、洋車及驢馬四十錢

秦皇島（山海關より一七粁約二十分）

渤海に突出した一小半島にあり次揭北戴河と共に北支の避暑地として有名である。

南に坦々たる大道が海岸を駛つて居り兩側に夏を目當の料理店雜貨店が多く東海岸の海水浴場にはバンガローが散在して居る

北戴河（山海關より三五粁約四十分）

渝河の渤海に注ぐところ俗に戴河と言ひ、所謂北戴河海岸へは驛から海濱支線が通じ二十分にして達する。北支隨一の避暑地にして三方海を繞らし西山東山をバックに風光絶佳、三伏の炎暑の候と雖も華氏八十度を超える事がない。旅館はパイン・ヴイラ、ヴイラ・クライン、同福飯店、ゴルドーホテル、海濱賓館、パークホテル、クラーホテル等あり、北京、天津の一流旅館に比して遜色なく何れも長期宿泊に應ずる。又ビューローの休憩所、華北交通の簡易ホテル其他貸別莊等もある。

◇海濱簡易ホテル

期間　六月二十日―八月二十日▲室料　和室一人一日一圓、一人增す每に二十錢、最高一圓六十錢、洋室一人一日一圓、一人增す每に三十錢、最高一圓九十錢▲食費　朝晝三十錢、夕四十錢、▲天幕　アンペラ莫蓙附一日三十錢

青島（北京より七八八粁約十九時間）

忠の海海水浴場（第一海水浴場）は東南に會姓岬が突出し外洋を遮り、衞門岬と灣曲して遠淺である。白砂綠蔭の間に脫衣場（官有七一個、個人所有二百餘個）キヤバレー、ホテル等あり、夏季避暑地の樂天地である。

青島のメインストリート山東路よりバス（一號線）にて約七分料金十錢、他にタクシー一圓五十錢、洋車三十錢、馬車六十錢の便あり。

ビューローのサンマーハウス

ツーリスト・ビューローでは簡易快適な避暑法として綠蔭に、水邊に、バンガローとキャンプ生活を奬め、大自然の懷に抱かれて健康と心の糧を培ふやう、七、八、九月に亙つて興城、連山關、橋頭、沙崗、松樹、吉林、哈爾濱の各地へサンマーハウスを設け、一般の使用に供してゐるが要項は次の如くである。

◇興　城　バンガロー（六疊）四棟、同（四疊半）三棟、天幕七張、ビーチスタンド一人用五箇、炊事道具十三組

◇連山關　バンガロー（六疊）二棟、同（四疊半）二棟、天幕四張、炊事道具八組

◇橋　頭　ビーチテント四張、ビーチパラソル二本

◇沙　崗　ビーチテント六張

◇松　樹　天幕四張、炊事道具四組

◇哈爾濱　バンガロー（四疊半）一棟、天幕八張、ビーチスタンド二人用十箇、同一人用十箇、炊事道具九組、浮プール一回大人十錢、小人五錢

◇吉　林　天幕四張、炊事道具四組

バンガローには疊表、籐製テーブル一脚、椅子二脚電燈（二〇ワット）、寢具用毛布二枚その他を備附け、天幕にはグランドシーツ、折疊式ランプ、寢具用毛布二枚を備附けてある。

（貸附料金）	半日	一日
バンガロー（小）	八〇錢	一圓三〇錢
同（大）	一圓	一圓五〇錢
天幕	四〇錢	五〇錢
ビーチスタンド（二人用）	一回	三〇錢
同（一人用）	同	二〇錢
ビーチテント	同	二〇錢
ビーチパラソル	同	一〇錢
毛布（備附品外一枚）	同	一〇錢
炊事道具	同	二〇錢

戰跡

旅順線

旅順　半島の腥氣徐ろに去つて茲に三十歳、東亞の平和は日露戰役の賜である斯くて我等が骨肉近親の碧血と死屍に蔽はれた旅順の山と海、野と河は永遠に靈場であらねばならぬ。

【戰利記念品陳列館】　建物は元露軍下士集會所であつたのを其儘利用したもので、わが砲彈の跡を存し、小さい乍らもよく充實した參考館である。現在各所の戰蹟は爆破を受けた其儘ではあるが、爾來歳を閲すること三十餘歳、然も戰跡に植林されてからは、その俤を異にするものもあるから、戰蹟巡覽に向ふ人は茲に立寄つて充分なる當時の豫備知識を得られんことを慂める。

【閉塞隊記念碑】　第三回の港口閉鎖に戰死した我が勇士の屍を露國側で手厚く葬つて置いて吳れた好箇の記念碑であり、こゝに櫻樹を植ゑて櫻山公園と稱してゐる。

【白玉山】　旅順の中央に聳え、新舊市街の中間に當り山頂に碧空を突いて聳える表忠塔は工費二十五萬圓、二箇年五箇月を費して明治四十二年十一月竣功したもので、塔頂の砲彈臺には乃木、東郷兩將軍の表忠記が刻まれてゐる。後方の納骨祠は旅順攻圍戰に於て護國の鬼と化した二萬四千五百四十八柱の遺骨を奉祀してゐる。

【東鷄冠山北堡壘】　旅順の防禦堡壘中の模範築城で、備砲數二十四、五門を有し、第一回の總攻擊には全滅の苦杯を嘗めた處である。その後我軍は地下坑道を掘り、敵の陣地を地下より大爆破、以後ベトン內部で露軍と數米の間に對峙し、一米又一米と戰友の屍を超えて進み、言語に絶する肉迫戰を演じ、我軍の死傷兵は九百、敵の守兵も殆ど戰死した激戰地である。

【望　臺】　旅順背面第一の高峰で露軍の防戰最もよく努めた處、名著「肉彈」の著者櫻井忠溫氏が傷を負つて轉落したのは此の山である。

【松樹山堡壘】　山頂に近く右方に見える永久堡壘で砲二十七門を備へてゐた。この堡壘への攻擊は三條の坑道を穿つて大爆破をなしたもので、有名な白襷隊の突入したのは松樹山補備臺である。

【二龍山堡壘】　我軍は第一回の總攻擊後、二龍山攻略の支障となる鉢卷山を占領し、第二回を經、第三回の總攻擊には比隣各堡壘の集中砲擊を受け、我が前進選拔部隊の過半が地中に生埋めとなり、當時殘存した敵兵が三名に過ぎなかつたのをみても如何に稀な苦戰であつたかゞ判る。此處の占領はやがて旅順開城を促したものだと云はれてゐる。

【爾靈山（二〇三高地）】　此の山の攻擊で護國の鬼となつた將士の數は七千五百、旅順攻圍戰中最大の犧牲を拂つた聖山である。北方の斜面中腹には、乃木中尉戰死の碑があり、山頂には乃木將軍の有名な「爾靈山之詩」碑が聳え萬人に仰がれてゐる。

【水師營】　開城に際し、一月五日、わが攻圍軍司令官乃木大將と露國關東軍司令官ステッセル中將との會見の地である。當時使用した民家は、目下戰蹟保存會の手に委され彼の唱歌に名高き棗の樹は、今も庭にあつて綠濃くさかえてゐる。

【露國忠魂碑】　市外小案子山東麓にあつてわが政府が建立したもの、明治四十一年六月十日の竣功、露國一萬四千六百三十一の英靈が永へに眠つてゐるのである。除幕式には我國より乃木大將勅命を奉じ、これに對し露國皇帝も同様はる〳〵と名代を派遣された。これは又實に敵にもあつき武士道の精華を世界に示した我等の誇である。

【日清戰役の跡】　日清役當時は海邊の防

備に主力を致し背面は白銀山の西南約二百米附近から松樹山に亙る各堡壘の間と、松樹山から劉家溝の西北端に連る高さ二米、上部の厚さ約一米の胸墻が築設されてゐた日露役に支那圍壁と呼んだのは卽ちこれで港は北洋提督・丁汝昌の麾下に屬する艦隊の根據地で、黄海の制海權を握つてゐた。

視察順路 左記の各項は驛を基點とする

イ 二日行程…第一日 閉塞隊記念碑—白玉山表忠塔—博物館—大正公園—大案子山—二〇三高地—港口 第二日 戰利記念品陳列館—東鷄冠山北堡壘—望臺—盤龍山—二龍山—松樹山—水師營—露國墓地

ロ 一日行程…白玉山表忠塔—戰利記念品陳列館—東鷄冠山北堡壘—水師營—博物館—二〇三高地

ハ 半日行程…A…白玉山表忠塔—東鷄冠山北堡壘—戰利記念品陳列館

連京線

金州【三崎山】 金州西門を出て西南約三百米のところ鐘崎、山崎、藤崎の三士が死に就いた地に一本の楡の木の下に柵を繞つて碑が立つてをり、山上東端に三烈士の石碑が立つてゐる。蓋し三崎山とは三士の姓に崎の字あるに據つたものである。城內より碑まで一・六粁。

日清の役にあたり、我が第二軍の通譯であつた此の三志士は明治二十七年十月二十三日花園口に上陸し、金復二州の敵情を探るべく變裝して碧流河畔に出たが、悉く淸兵の爲に捕へられて金州の獄に繫がれ、同月三十日の日暮れ時、西門外刑場の露と消えたのであつた。翌二十八年二月七日漸くにしてその遺骸を發掘し、この岡の上に「大日本志士(各姓名)君捨生取義之碑」三基を建てたのであるが、遼東還附の事あるに及んで此の碑を東京泉岳寺に移し、後大正二年今の「殉節三烈士碑」が建設された。

【南 山】 金州驛西八百米。百米に足らぬ低い山で緩傾斜であるから登山極めて容易である。山腹には日露戰役後金州の滿洲人士が我軍の忠烈に感激して建てた昭忠碑があり、頂上近くには鎭魂碑、山頂には戰蹟塔が聳えてゐる。

日露の役に當り露軍は之に三段の散兵壕を掘り鐵條網を張り年歳を支へ得る防備の施設と自信を有しフォーク將軍の率ゆる東部西伯利狙擊步第四師團之を死守したるに對し我が奧大將の第二軍は筑紫、平遠、赤城、鳥海の四艦の協力を得て、明治三十七年五月二十六日の未明から總攻擊を開始し惡戰苦鬪の結果終に同日の日沒時に至つてこの堅壘を占領したのであつた。この戰鬪の如何に悽慘を極めたかは我軍の死傷者が四千三百八十七名に及んで實に全員の九分の一に相當したのを以ても想像し得る。

【乃木少尉の碑】 驛の東二粁。八里庄の警察官派出所の裏手、櫻林の中に乃木勝典少尉の碑が立つてゐる。明治三十七年五月二十六日少尉が金州東門外に傷き此地に於て歿したのである。この一帶大和尙山麓の村は八里庄も七里庄上溝も陳家屯も淸流のせゝらぐほとりに連つた平和な村里で杏花の名所として知られてゐる。

【王 家】 五家驛の東北畑地は奧軍前衞の砲列を布いたところである。驛北約六粁囘頭河右岸の龍王廟は我軍の最も苦戰した地で記念碑が立つてゐる、又驛北四粁の老狐山は頂上に高麗城址と傳ふる高さ約一・二米の石壁が殘つてゐるが、我軍が砲を山頂に引上げて龍王廟に據る强敵を側射敗退せしめた戰場として傳へられてゐる。

得利寺の會戰は明治三十七年六月十四、十五日の戰で、敵將スタケルベルグの率ゆる三箇師團が旅順救援の目的を以て南下し來るを我が奧軍の三箇師團が迎擊せんが爲北進し瓦房店の接戰に始まつた遭遇戰であつて、王家と得利寺との中間なる龍王廟の丘陵で行はれたものである。彼我の砲門實に三百、一大激戰で我が死傷一千餘、敵の死屍二千を算したが、この戰には敵は豫め

實測を正確にせること丶て射程確實で我が損害多く又騎兵の白兵戰行はれて我が一箇中隊全滅の苦戰あり、漸く敵の敗退するに及んで得利寺の一天急にかき曇り、雷雨しげく追擊困難にして敵に遁走の好機を與へたところである。

【太平山】驛西六粁の太平山は日淸役に乃木旅團苦戰の地東北十二粁の紅旗山、その南の靑龍山及び牛心山は共に日露役の大激戰地で敵將クロパトキン負傷し此の地の敗戰は大石橋陷落の原因を成した。

【海　城】日淸戰役に我が桂中將の率ゆる第三師團は明治二十七年十二月十三日海城を攻略したのであるが、岫巖、析木城を經て此處迄の行軍は路面氷結して人馬を苦めしこと甚しかつた。同月十九日には海城の西南紅瓦寨へ進出して敵軍を擊退した。

日露戰役には、海城の敵軍は堅牢に造れる防禦陣地を棄て丶遁走した爲、我が第二軍は一戰をも交へずして明治三十七年八月三日之を占領した。

【首　山】日露戰役には敵の西比利亞第一軍團この丘陵に據り向陽寺、新立屯等にも陣地を築き第二軍團その東に連つて遼陽街道を扼したが交戰三日にして明治三十七年九月二日我が奧軍の手に歸し遼陽攻擊の根據地となつた。第三十四聯隊の關谷聯隊長、第一線右翼の橘大隊長等の勇戰討死したのはこの戰闘で、今も軍神橘中佐の名は一小丘橘山の名を生み、山上の關谷大佐の碑と共に中佐戰死之處の碑を留めてゐる。

【遼　陽】驛の南一・五粁に弔忠魂碑がある。碑の高さ十三・五米日露戰役に蓋平沙河間に於ける戰歿者一萬三千三百餘名の靈灰を納めてゐる。驛の東南四粁餘、城の南門外にある玉皇廟は遼陽戰に當り露軍が閉鎖堡及び角面堡等を設け半永久的に築城をなした所、我が第四軍が多大の犧牲を拂つて明治三十七年九月三日の夜奪取した戰場である。驛の西方三十五粁の黑溝臺は三十八年一月二十五日露將グリッペンブルグの率ゆる百二十箇大隊が我が滿洲軍の左翼立見支隊を包圍し危殆に瀕せしめたが我が援軍到つて漸く擊攘するを得た所である。

遼陽の大會戰は露軍の十三箇師團に對し我の十箇師團を以てしたもので、明治三十七年八月二十三日第一、二、四の三軍は遼陽總攻擊の準備成り八月三十日攻擊を開始し九月四日南門を占領するまで六日間の激戰が行はれた。堅固なる陣地を構築されてゐたから敵の抵抗頑强にして死傷者續出し慘憺たる戰闘であつた。

【煙　臺】驛東三粁の東煙臺は明治三十七年十月から翌三月に亙り我が滿洲軍總司令部を置き沙河戰及び奉天戰を統帥した地で記念碑が建てられてある。

炭坑を距る北西約十粁平野の間に單獨直立せる小邱は有名なる三塊石山にして、邱上三箇の奇岩直立す故に此名あり、沙河會戰の際アレキサンダー第三世名譽聯隊の守備せし露軍の中堅にして我が姬路師團の勇戰奪取した所である。

寺山は炭坑を距る北西約六粁石碑山とも稱し沙河會戰の當時ザルバエフ中將の主力此處に據りしを我が岡崎旅團が陷せし所。

饅頭山は炭坑を距る南約十粁太子河右岸に屹立せる一小邱にして遼陽會戰の際黑木軍の第二師團が露軍の左背側を衞れる第十七軍團の一部を驅逐して山上を占領したる激戰場にして死傷の多きこと遼陽に亞げりと。其他磨盤山、仁平山等何れも戰蹟として著名である。

【沙　河】日露戰役に著名なる沙河會戰沙河對陣の行はれた地である。明治三十七年十月十日から戰端を開き兩軍は沙河を挾んで相對し數月の嚴冬を送つた戰線の中央で、驛現在の建物は當時彼我砲火の集中點となつたが大破を免れ、多少の修理を加へた記念す可き建物である。

驛の東南五粁、後臺山(勝山)は我が第二軍の戰場である。驛より約五百米、沙河鐵

橋北岸の松林は地獄松原と呼ばれ、彼我の死傷算なく慘烈を極めた所である。驛東六粁には我軍の苦戰した萬寶山がある。

奉天・滿洲事變　滿洲事變は昭和六年九月十八日午後十時三十分突如として奉天、文官屯間の柳條溝に於て、我が滿鐵線を爆破したるに端を發した。

當時、虎石臺獨立守備步兵第二大隊第三中隊は文官屯附近に於て、夜間警備演習中で、河本中尉の率ゐる線路巡察兵が線路上を南進して、北大營南方六、七百米附近に達した時、突如後方に一大爆音を聽き直に引返したところ、數名の中國正規兵が北大營方向に逃げるのでこれを追擊して爆破地點の北方二三百米、北大營構內に連る高粱畑に達すると忽ち兵力二、三中隊を下らぬ部隊の射擊をうけたので、直ぐ文官屯附近にある所屬第三中隊長に急報すると共に之に勇進應射した。第三中隊長は直に携行せる警備彈を以つて北大營西南地區により河本中尉を援護した。因にこの北大營は奉天軍の精銳王以哲旅團の兵營で、當時八千乃至一萬の兵力と稱されて居た。

獨立守備第二大隊長島本中佐は、第三中隊長の報告に接して中國軍の有力なる部隊が攻擊前進を企圖し、既に兩軍間の戰鬪の事態を惹起して居るのに鑑み、今や我が寡兵を以て十數倍の敵に對抗するには迅速なる攻勢以外我が軍民の自衞と國威保全との途なきを察し、斷然機先を制して攻擊に決し、大隊本部及び第一、第四中隊は列車に搭じて午後十一時五十分柳條溝に下車、既に北大營西北の一角に地步を占めて居た第三中隊に連繫して攻擊を開始した。

北大營の兵舍は、中隊每に煉瓦造の平屋根を占めて竝んで居るので、一棟づゝ猛擊して之を奪取し、突擊に次ぐに手榴彈を以てして、逐次敵の抵抗を打ちまくつて行つた。數時間に亙る頑強な敵の抵抗を排除して、拂曉には逐次北大營東北地區に進出し午前五時三十分頃には同營全部を完全に占領するに至つた。この戰鬪に於ける我軍の戰死者二、負傷者二十二で、我軍の埋葬した敵屍は三百二十に達して居る。

當時奉天にあつた第二師團の平田聯隊は事變を知ると直ぐ緊急集合をなし奉天城と兵工廠の占據東大營竝飛行場を始末するため、夜半から行動を開始し、夜明迄には城內全部を占據した。又夜明けと共に、遼陽から多門師團長以下同地の步兵隊、海城から野砲隊が續々到著したので、師團長の指揮で午後二時迄には、東大營の飛行場、兵工廠等全部我が手に歸した。この間中國兵は機先を制せられ、遂に潰滅して東方に逃走した。

・日露大會戰　奉天の大會戰は、奉天を中心に半徑十二粁の圈內、總て當時の修羅の跡である。クロパトキン大將を總帥とする露軍は、從來の敗戰から一擧に奪回してわが軍に致命的の打擊を加へんとし、東は撫順馬群丹から、西は黑溝臺遼河に亙る實に八十餘粁の間、渾河を前にして彼我對陣した。我軍は既に沙河の冬營中に全軍の集中を終り、明治三十八年二月二十六日、大山總司令官より命令一下、奉天總攻擊の火蓋は切つて落され奮戰激鬪の後、三月十日、遂に奉天城頭高く日章旗を飜へし、わが名譽ある國史を飾つたのである。この會戰に參與した兵は、わが軍の二十五萬に對し敵三十二萬の多數で、わが軍死傷七萬、敵は九萬と算せられてゐる。鹵獲の主なるものは、軍旗三旒、砲四十八門、俘虜二萬二千。

【亂石山】　亂石山は滿洲事變に際し日本軍警の奮戰した所で記念碑がある。碑文に曰く「昭和六年十月二十一日夜日本軍及び日本鐵嶺警察隊は王以哲軍に屬する千二百餘の一團を迎擊之を潰走せしめたり」と。

尙此の記念碑の約十五米東方には亂石山居住民一同建立にかゝる王以哲軍戰歿者之墓がある。

【昌　圖】　驛西三粁、山上に日露戰役に於ける「滿洲軍最終陣地記念碑」が立つてゐる。列車が驛に入る前、線路の西沿に其の道標が立つてゐる。

【旗盤山】　驛の東約四粁、天橋山に次ぐ高い山で昭和七年九月附屬地を襲撃せる匪賊討伐のため出動せる警官隊が苦戰奮闘の末水間巡査部長以下四名枕を竝べて戰死せる所山頂に四勇士の記念碑を建立してある

泉　頭　・日露休戰締約地　驛南二粁西沙河子は明治三十八年九月十三日、福島少將とオラノフスキイ少將と會見し日露の休戰條約を締結したる地で日露戰史の最後の頁を飾るべき最も記念深き所である。

顧るに日露戰役は開戰以來二十箇月を閲し、我軍の全兵力動員總數は約百萬人、我が損害は死者八萬四千餘、傷者十四萬三千陸軍軍事費は十三億七千五百萬圓と註せられ其の大多數が滿洲の地に於て費された。

【四平街】　四平街は明治三十八年十月十三日、我が滿洲軍參謀福島少將と露國滿洲軍參謀オラノフスキイ少將が撤兵手續及び鐵道受渡順序を議定したる日露戰史上記念すべき地である。

新　京　【南　嶺】　附屬地から南方四粁餘の丘陵で、兵營は前淸朝時代咸豐年間（八、九十年前）に設けられたるものにして、事變當時支那砲兵、步兵各一旅、外に機關銃隊、迫撃砲隊、輜重兵隊、自動車隊等四千四百の軍隊があつたが、昭和六年九月滿洲事變勃發するや、長春駐屯步兵第四聯隊第二大隊長黑石少佐は九月十九日午前三時から行動を起し、二箇中隊及び機關銃隊一箇小隊を率ゐて先づ砲兵營を攻略し、折柄來援の公主嶺獨立守備隊第一大隊と協力して步兵營に向ひ激戰九時間の後南嶺一帶の全陣地を占領した。此の戰闘に於ける我軍の損害は守備隊側倉本少佐を初め戰死三十八名、負傷三十九名、四聯隊側戰死五名、負傷十六名、合計戰死四十三名、負傷五十五名で敵の損害は三百餘名に上つた。

【寬城子】　寬城子の兵營は曾て露國兵營であつたが、其の後吉林督軍麾下の兵營となつた。大正八年七月寬城子街道を通行中の一滿鐵社員に對し支那兵多數が暴行を加へ、瀕死の重傷を負はしたのに端を發し日支兩軍の衝突となり所謂寬城子事件を惹起した。昭和六年滿洲事變に際しては、我が步兵第四聯隊本部が十九日未明武裝解除に向ひたるに敵は之に抵抗し、戰闘は午前五時から十一時迄繼續した。我軍の戰死二十四名、負傷四十三名を出し、敵は兵數六百名の中戰死傷約四十名、捕虜三百八十六名を算した。

寬城子、南嶺とも敵は白旗を掲げて降伏を裝ひながら、不意の攻撃を行ひたる爲我軍の損害は比較的大であつた。

營　口　線

【營　口】　驛から二粁、郊外牛家屯に營口防衞記念碑がある。これは明治三十八年一月露將ミスチエンコが騎兵三千を提げて我が乃木軍の北進を防ぎ、海城大石橋方面の鐵道を破壞し、更に兵站部を置ける營口を奪取して我軍物資補給の道を絕たうとした時に際し、我軍は僅か一箇大隊の寡兵を以てよく防備して營口を危地より脫し、敵軍を退却せしめた記念の戰場である。今も碑の附近に往時を語る塹壕が殘つてゐる。

撫順・安奉線

【撫　順】　撫順城一帶の地は日露戰役奉天會戰の最右翼に當り川村大將の率ゆる鴨綠江軍が惡戰苦鬪して天險に據り抵抗する敵將カタリンスキイの西比利亞第三軍團を擊破したところである。占領は明治三十八年三月十日。

吳家屯　【萬寶山】　驛の南二粁明治三十七年十月沙河會戰の追擊に際し第四十一聯隊を基幹とする山田少將の支

隊夜襲を以て之を占領せしも露軍ノウキコフ支隊長及びプチロフ支隊の猛烈なる回復攻撃を受け鵜澤聯隊長以下殆ど全滅して敵手に奪囘せられた。其後再び我軍が奪出したが後援續かず遂に守備を撤して退却の已むなきに至つたのである。之れ沙河城を通じて我が唯一の敗戰で我が死傷四百五十に對し敵は三千の多きに達した。

石橋子 【沙河の會戰地】 沙河の上流に位し沙河平野の漸く盡つて峽谷となる其の入口にあたる。敵將スタケルベルグの率ゆる歩兵七十三大隊砲百五十餘門が康大人山から沙河を渡つて平臺子、石橋子に迄進し此地の响山子の墳塋前に於て分れて大嶺土門子嶺に向つたゲルングロス中將の軍團と孩兒嶺から本溪湖の背面に向つたイワノフ中將の軍團及び威寧營から太子河を渡り本溪湖の東南方に迂囘したレネンカンプ大將の軍團の運動が沙河戰の動機となつたのである。明治三十七年十月敵の此の主力の襲來に對し此の附近大嶺に於て梅澤少將の率ゆる三大隊の寡兵がよく防戰、人間の持ち續けられる最後の力まで賭し全滅に瀕しつゝも敵の大軍を辛くも破つたことは、其後の戰況を非常に有利に導いたのである。

【大嶺の隧道】 安奉線に入つて最初の隧道である。此の隧道の上は梅澤旅團奮戰の地で隧道の前後にいづれも線路の左側にその導標が建てゝある。梅澤少將が近衞後備歩兵一聯隊の兵を以てゲルングロス中將の軍團に當つたのであるが隧道の東口にある娘々廟の僧が露軍に内應し山上から合圖して我が兵力を内報した爲一時苦戰に陷つたといふ。大嶺の戰蹟は一名軍旗山と稱する。

【本溪湖】 本溪湖は沙河大會戰の攻撃目標であつた。そして兜山はイワノフ中將の軍團によつて奪取を圖られ我が守備苦戰頑守し救援の島村旅團奮戰して前後五日の戰に彼我の死傷七千を算した。

【宮　原】 驛の東北西粁半、唐家庄子附近の地、小山の上に木標が立つてゐる。島村旅團を基幹とする諸隊が本溪湖東方高地にある優勢な敵の攻撃を受け、連日惡戰苦鬪、一部敵の奪取するところとなり危急且夕に迫つた時、閑院宮載仁親王殿下の騎兵第二旅團は橋頭を發し敵の背後を迂回、唐家庄子東方高地に展開し其の機關銃隊がレネカンプ支隊の騎兵二十中隊を撃退した所である。宮の御武勲を永久に偲びまつる爲此の戰場を宮の原と稱する。

【橋　頭】 驛の南方一帶の臺地（白雲臺）は明治三十七年七月露國第十軍團の歩兵約一箇師團砲兵半箇旅團の陣地を布いたところその陣地跡に今「大日本第一軍忠魂碑」が立つ。驛西六粁の楡樹林子にも忠魂碑があり又驛西二十粁の塞坡嶺も皆共に同年七月中旬から八月下旬にかけて第十二師團激戰の地、就中橋頭は木越旅團奮戰の地として傳はる。驛南一粁、白雲臺南麓なる朝陽寺は楡樹林子の戰に井上第十二師團長駐屯し越えて宮ノ原の激戰に際しては閑院宮殿下御駐泊の寺として著聞されてゐる。

【連山關】 摩天嶺驛西十二・三粁、遼陽街道を扼した峠で我が箱根の險に似る。日清、日露の戰場として名高い。日清役には黒龍江將軍依克唐阿、敗兵を收容してこゝを守り我が第五師團の今田大隊之を一旦占領したが戰略上退却したところ、又日露役には第二師團戰鬪を交へずして占領したが露軍東部支隊長ケルレル中將麾下の優勢な軍が明治三十七年七月四日及び十七日の兩度、曉霧に乘じて我が前哨に來襲し、擊退されたところである。こゝを亦五峰嶺とも呼ぶ、五箇の特立した巖石のあるが爲である。嶺下に五峰觀と呼ぶ古い關帝廟がある。嶺上に日露役の戰跡碑あり、更に行けば丹朱の華表と石造の獅子とを置いた立派な蟠龍寺がある。關帝と娘々とを祭つてゐる。

【蛤蟆塘】 日露戰役の戰場は驛の東二・五粁のところ、鴨綠江岸に敗れた露將ザスリチの軍團が明治三十七年五月一日こゝの

高地を收容陣地として退却掩護したるを我が木越旅團之を追撃して東西南の三方面から包圍し蛤蟆塘の谷底に追ひ込み劍尖敵背に擬して聯隊長以下多數の將校を生擒した

【九連城】驛の東方十六粁。此地は日露陸戰の第一戰の行はれた所で、この戰勝はその後の諸戰を好調子にした導因といつてよい。明治三十七年三月中旬から露將ザスリチ中將の一箇師團半、この附近一帶に陣地を構築して我軍の渡河前進を拒止せんとした。我が第一軍は四月二十九日より渡河を始め五月一日拂曉から全線に亙つて攻擊を開始し九連城一帶の高地を占領したのである。死傷者我軍七百六十一名、敵は俘虜を合して二千八百九十七名、日露陸戰劈頭の勝利であつた。今九連城東北方の高地に記念碑が建てゝある。朝鮮新義州より望見せられる。

京濱・濱洲・寧墨線

【哈爾濱附近】北滿の大都・哈爾濱附近は比較的平穩であつたが、滿洲國國家成立近しと見た學良は新政府樹立を妨げんとして丁超、刑占淸、李杜等をして反抗せしむるに至り、在哈邦人は極度の危險に襲はれ、皇軍の出動を要請した。依つて昭和七年二月三日から五日に至り戰鬪は續けられて、遂に一萬四千の敵を驅逐して哈市を占據した、我軍の死傷九十六。叛軍は破れて濱綏沿線地方に現れたが、三月皇軍出動討伐に再起不能となつた。

【安　達】昭和七年八月二十九日步兵第五十聯隊畠山大隊はこの附近を占領せる李海靑軍一萬を攻擊し、激戰三日遂に之を擊破し、李海靑を負傷せしめ大打擊を與へた。

【騰庫勒】虎爾虎拉站北方約一粁の地にして昭和七年十一月十日岡原支隊奮戰の場所大興安嶺作戰の前衞戰として蘇炳文軍主力に一大鐵槌を加へたる激戰地にして北方高地上に犧牲者二十勇士の記念碑がある。

【拉　哈】昭和七年十月蘇炳文軍の背叛に伴ふ黑龍江省中原の擾亂に際し、拉哈警備隊は三百に滿たざる寡兵を以て一部を停車場、主力を以て拉哈市街を守備し、敵將徐子鶴五千の重圍を受くること半月、この間よく孤軍奮鬪屢々敵の虛に乘じて攻勢に轉じ敵に殲滅的打擊を與へ敵をしてチチハル襲擊の企圖を放棄し遠く敗退するの已むなきに至らしめた。

【訥謨爾河畔】昭和七年十月黑田支隊は種村支隊を伴ひ、北方に敗走せる樸炳珊軍三千を急追し、十一月四日遂に一千五百の敵主力を訥河南方に包圍殲滅し、馬占山をして最後の雄圖を放棄し、當時海拉爾に在つた蘇炳文の許に奔らしむるに至つた。

【克山城】平松旅團主力は齊克沿線の兵匪を掃蕩しつゝ、昭和七年六月七日克山に入城以來此地に駐屯屢々附近の討伐に從ふ。此間敵は前後三回に亙り克山城を攻擊し來り、其の一部は城内に侵入彼我白兵戰を演ずるに至りたるも我兵の勇敢なる反擊に遭ひ、合計四百五十の死體を棄て潰走した。

齊北・濱北・平齊線

【泰安附近】昭和七年十月蘇炳文軍の背叛に伴ふ黑龍江省中原の擾亂に際し、我軍約八十名の中島支隊は敵約六千餘の猛攻を受け、一部を以て泰安停車場を、主力を以つて兵營を死守し健鬪實に旬日の長きに亙り隊長以下相次いで斃れ、彈藥も亦漸く缺乏を告げしにもかゝはらず、孤軍奮鬪其任を完了す。而も急を知りて馳せつけたる黑田、宍戸、種村支隊中宍戸隊に屬する川崎騎兵中隊は敵の重圍を突破して泰安兵營に入らんとし不幸千餘の敵の包圍に陷り隊長以下一名の生還者を除き全員呼裕爾河畔に恨みを呑んで悲壯の戰死を遂げた。

【大荒營】呼蘭站東北約三十二粁にあり昭和七年七月八日我が兩角隊は慶城方面より南下せる馬占山軍別動隊匪賊一千名の頑強なる抵抗を擊破して之に殲滅的打擊を與

へ、馬占山をして越江及び吉林軍との提携を斷念せしめ、急遽胞子會附近より東北方の山地に遁入するに至らしめた。

【安古鎭】（海倫附近）　昭和七年七月二十七日歩兵第十五聯隊田中隊は馬占山軍主力を劉家店に迎撃し山林大濕地帶を急迫二晝夜遂に西北河畔山神廟に於て之を撃滅した

【大興附近】　昭和六年十月張海鵬軍に逐はれた馬占山軍は嫩江橋梁を破壞して北方に退却し大興東南方高地を占領した。依つて嫩江支隊は此の破壞橋梁修理を掩護中、十一月四日突如敵軍の挑戰をうけ、小數の兵力を以て惡戰苦鬪苦境に陷つたが、後續部隊の來着と共に一齊に攻撃前進し遂に敵を遠く西北方に撃退した地である。此の戰に於て支隊の將兵四百名中戰死者四十七名、負傷者百三十餘名を數へた。

大鄭・錦古線

【新立屯驛附近】　昭和七年一月十一日不破騎兵部隊は當驛を去る東北十粁の地點五臺子に於て敵兵二千有餘の重圍に陷りしも、隊長以下八十六騎は遂に之を撃退し、此時不破部隊長以下十四名壯烈なる戰死を遂げた。

【熱河討伐】　熱河方面は滿洲國たること顯著なるに拘らず反滿工作の巢窟となり省長湯玉麟及びその他の雜軍は張學良と通謀してわが軍の後方擾亂を圖つたため、昭和八年二月下旬より日滿兩軍は一齊進撃行動を開始し、三月なかば、遂に彼等を關外に討伐驅逐した。我軍の戰死傷者三百八十九名。

かくて敗退せる支那軍は尙も執拗に挑戰を反復したるため、皇軍は再度北支に進出するの已むなきに至り、その先鋒將に北京に迫らんとするや、支那側は停戰希望を申出で五月三十一日塘沽に於て停戰協定成立し、東洋和平の曙光をみるに至つた。

【公營子附近】　昭和八年四月二十日、長城線に於ける戰雲急なる時、我が兵站部員は兵器、糧秣輸送の任務を帶びて寡兵克く數粁に亙る長蛇の如き馬車列を督勵掩護し、黃塵渦巻く四百餘粁の惡路を進行中兵匪、土匪の襲撃を受けたるも良く之を撃退しその任を全うした。驛北方一粁。

奉山線

【繞陽河驛附近】　昭和六年十一月二十七日奉天獨立守備隊第二大隊は鐵道警備の命を受け第一輸送列車に乘じ、當站東方約五粁附近に達するや、前方にあり我が裝甲列車は、敵裝甲列車と遭遇戰鬪開始、此時裝甲列車は極力攻撃前進を續行せしかば、敵は線路橋梁を破壞して繞陽河に據り、尙頑強に抵抗した。この時大隊附板倉少佐は敵の砲彈破片腹部を貫通して名譽の戰死を遂げたるも全員よく戰ひ遂に之を撃退した。

【大凌河驛附近】　昭和七年一月二十五日舊正規兵を含む約一千の匪賊大凌河守備隊を夜襲した。當時歩兵第七十三聯隊第五中隊中村少佐以下五十二勇士守備に任じ、中十一名は鐵道橋に派遣せられた。中村少佐はこの時壯烈な戰死を遂げたるも各將兵の奮鬪により敵を南方及び西方に撃退した。

【山海關】　昭和八年一月山海關に於ける滿洲國警察隊と何柱國軍との間に衝突を惹起、遂に戰ひ開かれて我が守備隊之を救援、敵を撃退、關外に撤退せしめた。

【滿洲事變の結末】　事變勃發後、皇軍は廣漠たる滿蒙の地に作戰死鬪を續くること滿二箇年餘、戰鬪回數は一千回を突破し、有力なる部隊を以て行つた作戰は二十數回に及び、事變以來の犧牲又少なからず、戰死者二千五百六十六名、戰傷者六千九百六十九名に達し、本事變に使用した陸軍豫算は昭和八年度末までを合して約三億六千萬圓に達し、突發的事變のため宣戰布告による戰爭ではなかつたが、滿洲國建國により大陸の地圖は爲に一變し、東洋の基礎茲に確固不動のものとなつた。

上海附近

【八字橋】 陸戰隊本部西北方約一粁半の虹口クリークに架けられた橋梁及附近一帶の地で、曩の上海事變に於ては我陸戰隊の激戰地、今次事變でも敵は堅固なる陣地を築き閘北と共に主要陣地と爲し有力部隊を以つて八月十三日突如不法攻撃をなした。我方は之に應戰、敵は直ちに西八字橋を爆破し山砲、野砲の攻撃を始めた。我方は迫撃砲を以て應戰之を西方に撃退したが十五日には夜襲し來り、十六日には特志大學方面より有力部隊が逆襲した。之に對し橋本部隊は寡兵を以て蜒蜒二里に亙る第一線を死守敵に多大の損害を與へた。然しこの戰闘に於て貴志、甲斐、城各部隊長は名譽の戰死を遂げられた。

【商務印書館】 北停車場と陸戰隊本部を結ぶ中間、寶山路にあり、敵の閘北陣地の重要據點で曩の上海事變に於て、我が攻撃により徹底的に損害を蒙り、修復せるところ、再び彼等の據るところとなつたもので、附近の密集せる大家屋に構築された陣地は、幾度か我が方の砲撃、空爆によつて損害を與へたが、敵は數回に亙り、新手の有力部隊を得て租界線に迫り、八月二十一日などは同方面正面の寶興路、虹口路、東虬江路一帶に再三夜襲を敢行し來り更に二十三日拂曉には敵の猛撃で一時は我が戰線は危しとさへ思はれてたが、皇軍はよく耐え之を死守した。

以後同方面の中央軍は呉淞方面に移動し、保安隊が據つたが、大場鎭の陷落で全線退却し、十月二十七日にはさしもの堅陣も寶山路より西進した大西部隊、佐野部隊の聯撃により占據した。

【赫司克路ポケット地帶】 邦人密集地帶に近い靶子路、北四川路が交叉する地帶である。南方は共同租界で外人義勇隊の警備區域を爲し北四川路方面よりの我が攻撃は不自由を極めたが、空軍の巧妙なる聯擊による爆擊でさしもの堅陣も崩壞するに至つた。十月二日陸戰隊土師部隊は路上のトーチカを占據、老靶子路方面より北進の佐藤部隊と共に敵を上海印刷所附近に包圍し、肉彈戰を以て奪取した。

【鐵路管理局竝に北停車場】 鐵路管理局は赫司克路の西方にあり、八階建の堅固なるコンクート造りで、それ自身堅固なる要害であつた。事變突發後は北停車場と同様、共同租界に接近する特殊地域を利用し、敵の右翼部隊がこれに據つてゐた。土師部隊は閘北總攻擊後幾多の犧牲を拂つたが十月二十七日には遂にこれを占據した。

一方北停車場は管理局と同様閘北戰線の最右翼として共同租界南市より絶えず新手の兵を入れて執拗なる抗戰をなしたがこれも前者と同日土師部隊によつて占められた。

【楊樹浦】 共同租界東部方面就中楊樹浦、黃浦江沿岸は我が國の船會社、棧橋、倉庫、紡績工場竝に住宅等が多數に存在してゐる。八月十三日以後は逸早く、陸戰隊が警備の任についた。然し敵は有力なる大部隊を以て租界侵入を企て、こゝに幾度か彼我の間に激戰が行はれ敵の銃砲彈竝に空爆により火災を生じ、內外人所有の建築物も大部分烏有に歸した。戰闘の最も熾烈であつたのは八月十七日の敵夜襲で、翌十八日迄延長十六時間ブッ通しに行はれ、我が陸戰隊は裝甲車を先頭に公平路を北進、渡邊部隊長指揮による砲兵は敵の第一陣地西華德路を砲擊、白兵戰の結果敵の第一陣地を占據。翌八月十九日より二十日拂曉に至つては、敵は我に十數倍する勢力を以て最右翼の最前線柴北部隊を攻擊し來たが、同隊は勇戰奮闘これを擊退。八月二十一日夜には敵は楊樹浦方面西部に戰車を先頭として、迫擊砲、機關銃を以て同地警備の月岡部隊の正面を襲擊し來り、我方は直ちに

反撃を加へたが、敵は幾度も執拗なる夜襲を試みた。此戰鬪中大淵部隊長以下數名の陸戰隊勇士は公平路に於て、敵戰車三臺を捕獲した。二十二日夜には滙山公園北方地區の敵三六師の有力部隊の逆襲を受けたので我が土師部隊は之を反撃租界外に退けた。

【飯田棧橋（虬江碼頭）及東部軍工路】

國民政府は國權囘收の一手段として虬江碼頭を大々的に建設し租界の繁榮を市中心地區に吸收せんとし、碼頭工事半ばにして今次事變に至つた。北支事變起るや蔣介石は我軍の上陸を虞れ黃浦江岸殊に東部軍工路、市政府附近に陣地を構築し、上下する日本船を射撃した。九月六日飯田支隊長は軍工路の開放、公大飛行場の確保と云ふ任務で主力は滬江大學附近に、中村部隊は虬江碼頭に上陸した。敵の抵抗極めて頑强で攻戰八日、飯田部隊長初め幾多の犧牲を拂ひ壯烈悲壯を極めたが、森原大尉よく部隊長の遺志をつぎ力攻更に五日間、九月十三日午前遂に軍工路の堅陣を突破し、市政府に進出し日章旗を高く樓上に掲げた。

軍工路の敵陣地は滬江大學東北約五百米附近クリークを右翼とし道路に沿ひ本陣地を築き鐵條網を張り其前方畦を利用し數線に陣地を構築して居た。軍工路敵陣地突破により我陸海軍の公大飛行場の使用と吳淞上陸軍と上海との連絡が可能となり其功績は殊に偉大なる爲め、飯田部隊は松井軍司令官から感狀を授けられ其名を永く戰史に止めることゝなつた。飯田部隊奮戰の地として行人の涙をそゝるものは虬江碼頭職員官舍跡（飯田部隊長戰鬪指揮に當れる所）、飯田棧橋（中村部隊奮戰の地にして飯田部隊數百の死傷者を收容せし所）、飯田部隊長以下の墓地及び此附近の軍工路である。

【市政府・市中心地區・松井通】 市中心地區は國民政府が國權囘收、租界解消の目的を以つて立案した大上海都市計畫に基き建設途中にあつたもので、市政府、圖書館、博物館、病院、大運動場等があり事變前上海市政は既に此所に於て執行して居た。

事變勃發するや此附近一帶は支那中央軍の據る所となり、市政府は敵軍戰鬪據點となつて居た爲め我が艦砲射撃の目標となつた。

九月十三日森原部隊軍工路陣地を突破し敗敵を追つて同日晝頃市政府一帶の地區を占領し、片山部隊また北方殷行鎭方面から前進して、市政府北方音樂學校附近に進出し、江灣附近の敵と相對峙するに至つた。この日片山部隊と共に躍進した細見快速部隊は重疊する敵陣地を蹂躪して、復旦大學附近に至り又一隊は其美路（松井通）を南下して海軍陸戰隊と連絡を取つた。

市中心地區の各道路は國民政府の功勞者又は政策、主義等を表徵する名稱を附してあつたが將兵の記憶に不便なりとし赫々たる皇軍の戰捷を後世に記念するため加納、倉永等上海戰歿部隊長の名や關係ある地名、人名を取つて日本式の名稱がつけられた。

其美路は將來大上海建設の大動脈であり、また軍事上からも極めて重要な道路なので、軍司令官松井大將の名を冠し之を松井通と名付け、小野部隊が戰鬪の餘暇を利用して路幅五十米に擴張し、昭和十三年十月一日其第一期工事を完成し開通式を行つた。

【江　灣】（江灣鎭・江灣競馬場・復旦大學）

江灣鎭は上海防備上の要衝である。從て昭和七年の上海事變に於ても江灣は有名なる激戰場であつて林少將、空閑少佐の壯烈な最期は今尙國民記憶に新たであり、其墓標は行人をして躑躅低徊去る能はざらしむるものがある。

今次事變に於ても此地は再び敵の嚴重なる防備を施す所となり、市政府附近に進出した我が片山部隊は江灣鎭、復旦大學、競馬場一帶に數線に構築した堅陣を寡兵を以て

突破するは徒らに犠牲を拂ふ結果となるを慮り力攻を避けて對峙し後に谷川部隊到着するに及び之と交代して大場鎭攻擊に參加した。谷川部隊亦對陣約一ヶ月の後、主力軍の北方よりする大場鎭攻擊と共に之に呼應して猛然立つて攻擊を開始したが、敵は復旦大學等の建物を利用して頑强に死守した。十月二十六日大場鎭陷落するや前線總崩れとなり潰走を初めたので谷川部隊は直ちに急追を開始し、敗敵に多大の損害を與へつゝ蘇州河の線に敵を壓迫した。

江灣競馬場は一名萬國體育場と言ひ最近まではゴルフ場として使用せられて居た。

復旦大學は抗日教育の徹底せることに於て有名であり、學生は事變の開始と共に頻りに抗日運動を行ひ中には第一線に從軍したものも尠くない。同大學の防備は極めて嚴重で正規軍之れに據り最も頑强に抵抗をした。我が軍は文化機關を破壞するに忍びずとなし校舍を砲擊することなく死守する敵を猛攻したので非常に苦戰をした。維新政府樹立せらるゝに及び此校に維新學院を設け更生新支那に於る日支提携の官吏養成機關となつた。

【吳淞附近】（鐵道棧橋・倉永部隊長墓・吳淞鎭・白川橋・吳淞砲臺・松井軍司令部跡・寶山城）

上海派遣軍が八月廿三日未明敵前上陸を敢行したのは鐵道棧橋附近である。同日果敢な敵前上陸を決行したのは倉永部隊、鷹森部隊を主とするもので、之に海軍陸戰隊竹下部隊及陸軍船舶部隊櫻井部隊が協力した。江岸には敵が陣地を築き死守し、上陸部隊の猛擊にも一歩も退かず陣地內に格鬪して戰死したもの數知れず敵乍ら天晴れな抵抗を爲した。（上陸地點附近に敵前上陸の碑及び納骨塔竝に上陸戰鬪の際に於ける戰死者の碑がある）

上陸軍は次第に地歩を擴め縱深約千米、幅約二千米の地區を確保したが敵兵約十萬十重二十重に我を圍み我が軍寡兵之を如何ともすること能はず攻守所を變ふる有樣で、倉永少將、矢住部隊長以下多數の犧牲者を出すに至つた。（倉永少將の碑は軍工路西側に近くあり、此附近が倉永部隊本部のあつた所で同地で戰死した勇士の墓が並んで居る）

當時吳淞鎭永安紡績には優勢なる敵が迫擊砲、機銃を配置し我が軍を惱ますこと甚しかつたので局面打開の必要上八月三十一日未明鷹森部隊主力を抽出して吳淞鎭北側江岸に敵前上陸を決行し、同時に棚橋部隊を以て鐵道橋から吳淞鎭西側に突進せしめ艦砲射擊及陸海飛行機により吳淞鎭を完膚なき迄に破壞した。

この第二次敵前上陸部隊は頑强なる敵を擊破しつゝ戰果を擴張し九月四日金田部隊は吳淞砲臺（吳淞砲臺は黃浦江口を扼する要害で阿片戰爭に於て英艦と交戰せる歷史を有し、前回の上海事變にも我軍に抗し停戰協定の結果之を毀却したものである。今次事變に於ては砲臺としての活動は出來なかつたが、迫擊砲機銃を備へ約一千の兵を配し、堅固なる野戰陣地として頑强に我に抵抗したのである）及び附近一帶を占領し、中島部隊は泗頭クリークの線に進出し金家宅に激戰を交へ九月六日金田部隊は寶山城を占領した。

同日羅店鎭方面から長驅獅子林砲臺を屠り、寶山城附近に進出した淺間部隊は吳淞砲臺棧橋に上陸した天谷部隊と寶山城外に於て歷史的握手をした。（寶山は寶山縣城で人口約二萬、此地方に於ける經濟都市であり海底電線の水陸接續點であつた。事變勃發と同時に支那正規軍此處を占據し良民を虐待した爲め殆んど全部避難して仕舞ひ窮民約五百が殘つて居た。鷹森部隊の攻擊愈々猛烈となるや支那軍は總退却に決し人民の同行を促したが人民は此上苦しめらるゝよりは日本軍の手にかゝり死んだ方が樂だと云ふので日本軍に虐殺せられるのを覺悟で踏み止まつた。併し日本軍寶山城を占領して入城するや窮民五百名に醫藥糧食を給し一指をも觸れることが無かつたので地獄で佛に逢つた如く喜び治安維持會を結成し日本軍保護の下に秋の收穫に從事した。寶山縣城には永く我が野戰病院を置いた）

江上に久しく上陸の機を待つて居た松井軍司令官は寶山城攻略と共に上陸し水產學校を司令部とし上海戰線の指揮に任じた。

當時支那側の抵抗は徹底的で一木一草鷄一羽も日本軍に渡さじと頑張り、後退に當つては民家を悉く燒却した爲め、皇軍は敵地を占領しても家屋の無いのに非常に苦勞した。荒廢の水產學校が之でも一番よい建物であつたことを見ても當時の戰況の一斑を知ることが出來る。

吳淞クリークに架する白川橋は前回の上海事變の後出來たもので當時の軍司令官白川大將に因み名付けられたものである。今次事變に於て敵は之を全部燒き落して仕舞ひ、鐵道橋も吳淞鎭に近い方を破壞して日本軍の北方進出を阻止した。八月三十一日鷹森部隊の主力吳淞鎭北方地區に敵前上陸をした時、之に策應して棚橋部隊はこの橋梁に沿ふ地區から攻擊し、其の決死部隊はトロツコに乘つて鐵道橋の破壞地點迄猛進しそれからクリークの敵岸に飛び込み手榴彈戰を交えて堤防を占領した。

吳淞鎭一帶を占領後松井謙部隊は元白川橋の燒殘り橋脚を利用し軍橋を架設し、白川橋の因緣を知らなかつた爲めその部隊長の名を取り、之を松井橋と命名した。完成後間もなく松井軍司令官此の橋を渡り松井橋の名稱を見、軍司令官の姓を以て名付けたるは怪しからぬことなりと大いに不興の面持にて水產學校軍司令部に歸還するや直に副官に命じて紙と筆とを持參せしめ卽座に「白川橋」と自書し直ちに之を橋に貼りつけよと命ぜられた。今橋に彫りつけてある「白川橋」の字は卽ち之である。

【月浦鎭・叔里橋・獅子林砲臺】 九月四日吳淞砲臺磯橋附近に上陸した天谷部隊は同月六日淺間部隊と寶山附近に會し泗頭クリークの線に態勢を整へ、愈々九月七日よりクリークを越えて攻擊前進を開始し、安達、淺間兩部隊を以て月浦鎭を攻擊した。敵はクリーク、村落を利用して數線に堅固なる陣地を構築し頑强なる抵抗を爲し天谷支隊は死傷續出する有樣であつたが晝夜健闘六日、十二日遂に月浦鎭陣地を突破し更に戰果を擴張し軍工路（寶山―月浦鎭―羅店鎭）道に沿ひ戰闘を交へつゝ前進、特に叔里橋に於て激戰數日の後敵を擊破し、九月下旬羅店鎭附近に進出し永津、和知部隊突出の動機を爲し戰勢に一轉機を劃するに至つた。

獅子林砲臺は月浦鎭の東北揚子江岸に位置し江岸防禦陣地の據點を爲し前回上海事變の際に彼我の戰闘を交へた所で停戰協定により備砲を破壞した所である。

今次事變に於て敵は一部の步砲兵を配置して之を守つたが羅店鎭から南下して來た淺間部隊は八月三十一日之を占領した。

【楊行鎭・吳家宅・松井軍司令部跡】 九月四、五日の夜吳淞附近に上陸した藤田部隊後續の田上、石井部隊は鷹森部隊と交代して泗頭クリークの線に進出して警備につき九月七日から田上部隊は吳淞砲臺―楊行鎭―劉家行道に沿ふ地區から、石井部隊は其南方吳淞クリークに亙る地區から、一齊に進擊を開始しクリークと村落とを點綴する世界に其類を見ざるクリーク地帶陣地突破に多大の犧牲を拂ひ惡戰苦闘一週間九月十二日遂に田上部隊は楊行鎭を、石井部隊は吳家宅を占領し、更に西方陣地帶の攻擊を續行した。泗頭クリークから荻徑クリーク迄は約十五粁の縱深を有するクリーク陣地帶であつたのである。

楊行鎭西側楊家宅は田上部隊が陣地占領後、藤田部隊司令部が此所に位置し部隊の戰闘を指揮した所で、田上部隊が劉家行を取り愈々大場鎭總攻擊の態勢を取るや、藤田部隊は劉家橋に進み、松井軍司令部の戰闘司令所を此所に移した。卽ち此地は大場鎭總攻擊の最高統帥司令所で我が軍大場鎭を突破し蘇州河の線に進出するや軍司令部は周村（大場鎭南方）に轉移した。

【劉家行・顧家宅・金家灣・王丸房・荻徑クリーク】 月浦鎭、楊家行、廟村の堅陣を喪つた敵は、荻徑クリークの線殊に劉家行、顧家宅の線に本陣地を構え頑强に死守

した。楊家行、廟村を奪取した田上、石井兩部隊は馬を憩ふ暇もなく連日の雨を冒しクリーク村落を點綴する縱深十粁の陣地を朝に一村、夕に一クリークと突破し随所に激烈なる白兵戰を交へ火燒場、金家灣、楊木橋、王丸房に於ては戰鬪殊に慘烈を極め一夜にして敵は五、六回の逆襲を試みると云ふ有樣で、我が軍の損傷も甚しく石井部隊の一隊の如きは隊長傷き以下殆んど幹部は死傷し田上部隊亦金家灣奪取の爲に多數の死傷者を出した。

かくして惡戰苦鬪三週間九月三十一日、田上部隊は荻徑クリークを渡つて劉家行を占領し、石井部隊亦十月一日頋家宅の敵本陣地を突破し茲に大場鎭總攻撃の端を啓き赫々たる武勳を戰史に留めた。

荻徑クリークの兩岸には鐵條網を張り廻した堅固な陣地があつた。工兵隊と歩兵隊との緊密な淚ぐましい協力により、決死の工兵が彈丸雨飛の中を躍り出て輕架橋を渡す、待ち構へた歩兵は工兵に默禮して其橋を渡つて敵陣に突入する、橋が流されそうになるので工兵は水の中に飛び込んで下から橋を支へると云ふ有樣であつた。

田上部隊長は「泗頭クリークの線出發以來多數の部下を喪ひ上陛下に對し奉り下國民に對しても申譯なし、然し赫々たる部隊歴史の面目にかけても速かに我が部隊に課せられたる重大使命を達成せざるべからず。我が軍劉家行を占領せば眞先に軍旗を奉じて陣頭に進むべし」と覺悟を極めて居た。九月三十一日我が第一線が荻徑クリークを越へて劉家行に突入するや田上部隊長は今井少尉に軍旗を捧持せしめ、金家灣本部から劉家行に急進した。沿道にある傷者は跪坐して軍旗を拜し傷付かざるものは思はず立つて着劍捧銃をし淚潸々として下り其の情景は誠に感激の極みであつた。

【羅店鎭】(川沙口鎭・白壁の家・劉家鎭)

昭和十二年八月二十三日山室部隊は吳淞方面の敵前上陸に相應じ揚子江岸川沙口鎭に敵前上陸を敢行し若干の死傷者を出したが、直ちに進撃を開始し所在の敵を撃破した。中村部隊三十名は急進して上陸當日早くも羅店鎭に入つたが三、四千の敵の重圍に陷り奮戰格鬪全滅した。和知、永津兩部隊は至る所に優勢なる敵を撃破し屢々壯烈なる白兵戰を演出して、八月二十六日遂に羅店鎭を占領し、淺間部隊は更に長驅して劉家鎭南方地區に進出した。然るに敵の兵力益々增加して我が軍の二十數倍に上り、頻りに重砲、迫撃砲を以て我が軍を苦しめ我が軍は一箇月間羅店鎭附近に於て敵の重圍に陷るに至つた。此惡戰苦鬪の間和知、永津兩部隊は屢々奇計を以て敵を反撃し敵をして端倪するの暇なからしめ、淺間部隊は吳淞方面友軍の危急を救ふため南方に突出して敵中を進撃獅子林砲臺、寶山方面に進出した。

和知、永津兩部隊の羅店鎭籠城間の近接戰鬪は激烈を極め彼我二、三十米の近くに對峙俗稱「白壁の家」の如きは、談話手に取る如く聞え時に女人の舞踏するものすらありしと云ふ。然して敵の防禦施設日を追ふて堅固となりしを以て、九月下旬全線突出に當りては坑道戰、戰車竝工兵の突破戰により、戰鬪實に熾烈を極はめた。約一箇月の戰鬪により、敵に與へたる損害數萬に及びたるも我が軍の蒙りたる損害亦尠からず、隊長以下幹部殆んど死傷せる部隊もあつた。山室部隊司令部跡、和知部隊本部、永津部隊本部及白壁の家等何れも當時の戰況を語り繼ぐべき遺跡である。

【大場鎭附近】(唐橋)　大場鎭は上海防衞の要衝で江灣、南翔を連ねる線には事變勃發と共に堅固なる陣地帶を構築し本式のトーチカ迄造り斷乎とし日本軍を此線に拒止し上海を防衞しようとした。

石井、田上兩部隊が劉家行　家宅を占領したのを契機として軍は百八十度の大旋回

を爲し、一部を以て羅店鎭西方地區から廣福附近に亙る敵を牽制攻擊すると共に、南翔から大場鎭、江灣にかけ深さは蘊藻濱クリークから、京滬線附近に亙る一大陣地帶に對する所謂大場鎭總攻擊の態勢を整ふるに至つた。即ち南翔方面には主として山室部隊、南翔から大場鎭にかけて吉住部隊、藤田部隊、大場鎭以西には伊東部隊之に當り江灣は東正面から谷川部隊が攻擊することゝなつた。之等諸部隊の攻擊準備は連日の雨天と頑强なる敵の抵抗とにより極めて困難を極め、加納少將以下多數の犧牲を拂ひ十月中旬遂に全線に亙る總攻擊を開始し、吉住部隊は激戰の後仙師廟附近の敵堅陣を突破して京滬線に迫り、藤田部隊は馬橋宅、走馬塘クリーク南北地區に於て激戰、十月二十四日大島部隊は大場鎭の一角を占領、伊東部隊また奮闘激戰、福井部隊、飯塚部隊（加納部隊）相前後して十月二十六日大場鎭を完全に占領、津田部隊は二十五日廟行鎭を占領し大場鎭東側地に進出、谷川部隊は二十六日江灣の敵を擊破し各部隊全線に亙り總追擊に移り、二十七日蘇州河の線に進出し數萬の敵を大場鎭及其南方地區に擊滅し赫々たる武勳を上海戰史に留めた。

【蘊藻濱クリーク・加納少將戰死跡】 蘊藻濱クリークは大場鎭總攻擊の態勢を整へた線でこのクリーク渡河には我軍は多大の犧牲を拂つた。クリークの南岸に敵は數線の陣地を設け頑强に死守した。友田恭助伍長は渡河部隊として彈丸雨飛の中で敵前渡河の眞最中に敵彈に斃れたのであり加納部隊長、吉川部隊長以下多數の勇士は渡河後、小宅、曹宅附近に壯烈悲壯の最期を遂げた。

又張沿宅附近は津田部隊、田灣附近は福井部隊、本道上の唐橋附近は石井部隊の激戰渡河した所であり、西方陸家橋、頓悟、陳家行は伊佐、脇坂部隊等極めて激烈な戰闘を交へた所である。

蘊藻濱クリーク南岸の敵陣地の跡は上海街道上該クリーク附近に殘つて居るし、大場鎭とクリークとの中間にある馬橋宅等は相當な部落であつたのに全村廢墟となり竹藪は悉く銃彈の爲切斷せられ物凄い激戰の跡を殘して居る。加納部隊長の戰死の地は上述橋梁の下流約五粁の小宅で廟行鎭の北方約二粁にある。

【大場鎭表忠塔及大場鎭飛行場】 この附近が大場鎭戰線中戰の最も激しかつた所であり江南戰線最大の激戰地であるので、小丘を利用し表忠塔が上海派遣軍將兵一同によつて建てられた。其の題字及び碑側の漢詩は當時の軍司令官松井大將の揮毫になるものである。境內にあるトーチカが敵軍の工事半ばにして放棄したものである。

大場鎭飛行場は占領後軍により構築せられたもので其規模極めて廣大で爾後の諸戰闘に於る我軍の活躍に偉大なる寄與を爲したものである。此附近は主として福井部隊、飯塚部隊が大場鎭攻擊の爲奮戰した所である。飛行場並に表忠塔は後世天下に上海派遣軍の偉績を傳ふる好箇の記念物である。

【廟行鎭・林少將碑・空閑少佐碑】 廟行鎭は前回上海事變の際爆彈三勇士の奮戰により人口に膾炙して居る。三勇士の碑は上海事變後有志者により此地に鄭重なる墓碑を建てたのであるが、今次事變前抗日支那人により、いつの間にか毁却され其の附近に仰々しい大規模の支那軍戰捷記念碑が建てられた。今次事變大場鎭占領の時我が爆擊により支那軍戰捷記念碑を破壞し、三勇士の英靈眠る廟行鎭には三勇士の原隊の勇士により嚴肅壯嚴なる三勇士の碑が建てられた。同じく上海事變により雷名を轟かせた林少將戰死の地には立派な碑が立てられ、又悲壯を極めた空閑少佐自決の地にも日本武士道を傳ふべく碑が立てられ皇軍の精華を永く語る事となつた。何れも廟行鎭東南方本道近くにある。

【蘇洲河畔及び虹橋飛行場・龍華】 十月

二十六日大場鎭附近の敵陣地を突破した我が軍は一擧蘇州河の線に急追したのであるが、敵は豫てより其南岸に堅固なる陣地數線を構へ、加ふるに外國權益の建築物を巧みに利用、配備せる爲、蘇州河の要害と相俟ち我軍の力攻空しく再び此線に對陣の止むなきに至つた。此間鷹森部隊、田上部隊の一部決死隊は豐田紡績工場附近に於て果敢なる敵前渡河を敢行したが豐田紡績及其附近の敵は設備したる銃火を以て之れに應じ、寡兵遂に敵陣地を貫くことが出來ず殆んど全滅の悲運に立至つた。其後吉住部隊は江橋鎭南方地區、藤田部隊は新北涇、金家宅附近に於て渡河準備を整え、十月三日遂に果敢なる敵前渡河を敢行し前岸に地歩を獲得したが、敵の抵抗尚頑強にして、其後の戰況は依然遲々として進まなかつた折も折、十月五日突如「日軍百萬上陸杭州灣北岸」のアドバルン蘇州河畔に揭げられ我軍の士氣百倍せるに對し敵軍の士氣は阻喪し、遂に蘇州南岸の敵陣崩壞の端緒となつた。爾後我軍の猛擊に依り敵は逐次に南方に後退し、七日には我が脇坂部隊虹橋飛行場を占領し、川並、鷹森兩部隊は龍華飛行場及龍華鎭一帶を占領し茲に我軍は完全に上海全市を掌握するに至つた。

【南　市】（日暉港クリーク・黄浦江岸トーチカ陣地・黄浦江閉塞跡）佛租界に南接する縣城及附近一帶の支那人街で往昔の上海とは當地を指し、開市と共に租界地區が發達したのである。

今次事變勃發するや敵は盛に南市に防禦施設を施し、江岸及市内重要地點には堅固なる本格的トーチカを構築し、日清汽船數隻を黄浦江に爆沈して閉塞し楊虎警備司令部を龍華に置き上海北部戰線、浦東に對する一大策源地を爲すに至つた。

十一月七日龍華一帶を占領した川並、鷹森部隊は更に頑敵を掃蕩して八日日暉港クリークの線に進出した。敵は該クリークの對岸に堅固なる永久的陣地を設け悉く橋梁を破壞して我軍の進擊を阻止した。

我軍は無辜の民衆を傷くるに忍びず九日飛行機により支那軍の撤退降伏を要求するの傳單を撒いたが、敵は應ふるに銃砲を以てしたので遂に同日正午を期して總攻擊を開始し陸海飛行機爆擊と相俟ち愛甲、松本等の部隊は本道に沿ふ地區から敵前に渡橋を架し敵陣に決死突入し、江岸に沿ふ地區を鷹森部隊の一部突入し造兵廠其他重要建物を逐次占領し、激烈なる市街戰を展開し十二日に至り全市を完全に掃蕩し盡した。

【浦　東】　黄浦江右岸一帶を總稱した支那街で日清、郵船其他日本側の棧橋、倉庫工場等がある。

事變勃發するや張發奎麾下の約二箇師が浦東に居て我が軍の背後を惱した。十月十一日我が南市攻擊と相前後して我が津田、安田の陸海兩部隊は同時に浦東に上陸したが敵は閘北、南市の如く頑強な抵抗をすることなく撤退したので大なる市街戰を交へることなく十二日一帶の掃蕩を完了した。

浦東は民家の破壞が尠かつたので掃蕩戰終了するや、支那民衆は早くも復歸し十二月には蘇錫文を中心とする大道市政府（維新政府に合流し現在の上海市政府となる）樹立せられ、事變前よりも寧ろ殷盛を極むるに至つた。

南　京

【光華門】　〇〇部隊は、十一月二十日蘇州出發、途中、無錫、常州、金壇、天王寺方面の頑敵に遭遇しつゝ之を擊破、夜を日についで追擊し、十二月五日午前六時湻化鎭に到着、直に其の前面の大理山及び青龍山の各西南高地の敵に對し攻擊を開始した。翌六日朝には其の第一線陣地を突破し、脇坂部隊は其の先頭を以て九日午前五時十五分光華門前方約二百米の丁字路に到着した。

光華門前面に我が部隊が到着するや沿道にある電柱の街燈は一齊に點火され、城壁の上からは敵は熾に照明彈を落下し、數十の機關銃は火蓋を切つて雨霰の猛射を我が軍に浴せて來た。先頭にあつた伊藤部隊は直に堤防の線に展開し、光華門に對する攻擊の準備に移り、他の部隊は防空學校西北端附近に集結し通濟門に對する攻擊を準備し、更に他の部隊は豫備隊として防空學校給水塔附近に集結した。

斯くて未明に及び脇坂部隊長は、防空學校の東端に○砲二門を置き、光華門の破壞射擊を命じた。射擊を開始するも纔に門扉を破壞したる程度に過ぎない。門内は土嚢や木材が一杯積まれてあるので突擊路は開き得ない。配屬の工兵と步兵の破壞班が協力して之に當つたが、藥量少く滿足な成果を擧げ得なかつた。

光華門の東南方約千米、七甕橋附近には敵が充滿して、○○部隊本部と脇坂部隊との連絡が絕たれてゐたので、十日朝○○副官が輕裝甲車に乘り、○砲彈藥を滿載して決死の連絡に當り、部隊長はこの彈藥を以て午後三時城門に對して破壞射擊の續行を命じ、同時に堤防附近に待機せる伊藤部隊長は午後三時五十分を期して光華門に突入すべき命令を與へた。熾なる○砲の射擊にさしもの門扉も四散し、土嚢はくづれ、遂に通路は開かれたが、敵は我に對し、間斷なき迫擊砲の射擊を浴せ、防空學校東北端附近に位置した部隊本部に數十發落下し、戰鬪指揮は一時中絕の止むなきに至つた程であつたが、伊藤部隊長は斷乎任務に向ひ、前進の決心をなし、先づ其の一部に對し光華門に突入を命じ、同隊は午後五時門内に突入して日章旗を樹てた。續いて他の一隊更に次の一隊と各隊を矢繼早に突入せしめ、先進部隊の戰果擴張に努めしめたが、これまで數十回の戰鬪に於て兵力を減少し、各隊を合して纔に七十名に過ぎなかつた。敵は我の城門突入を知るや、城壁上より盛に手榴彈を投下する、門内近くの家屋に機關銃を備へて猛射を浴せる、城門内北側の道路上には對戰車砲を備へて城門を縱射するので、我が軍の死傷は續出した。

この時○○部隊長は脇坂部隊が光華門に日章旗を樹てた事は天聽に達したる趣を隊長に通報したので、隊長は直に伊藤部隊長へ其の旨を傳へ且「部隊は全滅を期して光華門を確保せよ」と電話を以て命じた。部隊長は速かに「誓つて城門を確保す」と答へ、豫備隊たる一隊を率ゐて門内に突入した。

門内に突入するや部下に對し「お前達の忠勇は天聽に達した。部隊は全滅を期して光華門を確保す」と叫び自身は敵彈の一番屆き易い危險な扉の附近に位置し、副官や兵に對して「お前達は若い前途有爲の者であるが、俺はもう老先短い。お前達は安全な箇所に下つて居れ」と部下を庇護し、最も危險な場所に座して動かず、傳令林上等兵外一名が安全な場所に下さうとした時手榴彈が飛來り伊藤部隊長の右前額部と右足に命中、一は兵の腹部を抉り、林上等兵の左眼をつぶした。林上等兵は鮮血に染まりながらも馳けよつて部隊長を介抱しやうとすると「いや俺はもう介抱をするに及ばぬ」と云ひ、佩用の軍刀と前上海事變において拜領した恩賜の義眼をはづして林上等兵に托し、重傷を負へる一人の兵を抱へ「御苦勞だつた。俺もあとから行くぞ」と慰めてゐたが、午前九時敵彈再び部隊長の前額部に命中、遂に絕命するに至つたのである。

爾後、門内突入せる兵は死傷續出したが、部隊長の遺訓をよく守り、飽く迄城門を確保し續け、明けて十一日敵は門内に催涙瓦斯を放ち、木材に石油を注ぎ火をつけて投下し、戰車の襲擊前後三回に及んだが、部隊は三段の散兵をつくり、城門を確保して一步も敵に讓らない。

同日午前九時三十分頃我が軍の飛行機が城壁に爆彈を投じたので此の機會を捉へ、

城壁上に梯子を掛け、輕機關銃二、重機關銃一を上げ城壁を占領したが、忽ち反覆する敵の逆襲に逢ひ、見る見る内に彈藥缺乏し、其の大半は死傷して門内に撤退するの止むなきに至つた。

この夕刻城外飛行場に〇〇砲二門到着し射撃を開始し、城内の東側に破壞射撃を實施し、翌十二日隊長は〇〇部隊長に〇〇部隊を合せ指揮せしめ、十三日拂曉を期して突撃を實施すべく命令を下した。十三日未明〇〇部隊は城門東側の突撃路より、〇〇部隊は城門より夫々突撃を開始し、午前四時遂に城門及び其の附近一帶を占領した。

防空學校東北部にあつた〇〇部隊長は軍旗を捧じ光華門上に前進した。時正に午前五時、城壁上にて皇居遙拜をなし、茲に首都南京攻略の一番乘りは見事に達せられたのである。

【中華門】 十一月五日杭州灣上陸、同月十五日崑山を占領、續いて蘇州方面に向ひ追撃の態勢にあつた谷部隊は南京方面に轉進を命ぜられ、十八日崑山を出發した。

連日の降雨のため道路は惡化し、加へて敵のために橋梁は破壞せられ、前進甚だ困難なる狀況であつたが、我が軍の勇猛はよくこれ等の艱苦を忍び、缺乏を克服して難戰を重ねながらも遂に十二月八日正午頃牛首山東南地區に到着した。

翌拂曉より竹下部隊を右に、岡本(安)部隊を左に展開し、將軍山及び牛首山附近の敵陣地に對して攻撃を開始し全山岩石を以て覆はれ、天塹の嶮を恃んだこの要害を奪取するには相當の苦闘を重ねたが、勇猛果敢な夜襲の決行により遂に九日午後之を占領するに至つた。牛首山の占領によりこの方面の敵の防禦線の一角は崩壞し、動搖の兆が現れたゝめ我が軍は一齊に追撃に移つた。然るに牛首山以北の高地帶は埋設地雷或は障碍物を設け、其の上數線の陣地を構築されてゐたが、夜間であつた事と敵に追尾して進んだので比較的迅速に攻撃が進捗したのである。

これより先、岡本(鎭)部隊と猪木部隊は逐次新陣地を奪取しつゝ、九日夕刻には、主力の左翼方面に進出し、十日に至つて主力追及中の長谷川部隊が到着したので、谷部隊長は一番右にあつた竹下部隊を最左翼に轉進せしめた。其處で各部隊は最右翼岡本(安)部隊、其の左が長谷川部隊、其の左は岡本(鎭)部隊、最左翼は竹下部隊及び猪木部隊といふ態勢で攻撃を續行した。

長谷川部隊方面に於ては夜間攻撃を續行し、午後十一時頃雨花臺西南方高地の最高峰を其の一隊が占領した。敵は十數回の夜襲を反覆し、ために隊長等も傷つき、八十餘名の死傷者を出したるも、克く其の高地を確保し、南京城に對する谷部隊攻撃の重要なる據點を我が手に收め得たのである。

斯くして各部隊は十一日夜南京城壁南方の雨花臺東西高地の線に、更に十二日午前十一時頃には各部隊一齊に城壁南側のクリークの線に進出し、城壁に對する攻撃目標を最右翼の岡本(安)部隊は中華門、長谷川部隊は城壁の中間、其の左岡本(鎭)部隊は城壁西南端、最左翼竹下部隊は水西門方面に選定した。竹下部隊及び猪木部隊は十日午後水西門方面に向ひ攻撃前進せんとした所進路が無いため更に左方に迂回し、揚子江の右岸に沿ひて北上し、其の途中、十三日水西門より退却する約一萬の部隊に遭遇して敵約二千を殲滅、軍旗二旒を奪取し、午後敵の退路を遮斷するため下關方面に前進、十四日同地に進出した。

城壁攻撃のための我が砲兵隊の主力は、雨花臺西南方安德門附近に進出し、中華門附近に一箇所、城壁西南に一箇所、其の中に一箇所、合計三箇所の突撃路を開設する計畫であつたが、都合により全力を西南角に向け突撃路の開設を實施した。

十二日午前十一時頃、クリークの線に到着した長谷川部隊は、砲兵の破壞攻撃も効

力がないため城壁を登る事を計畫し、當時偶々クリークを流れて來た一艘の小舟を捉へ、安藤伍長、中津伍長等の七名が斥候として出る事になつた。この斥候は敵の斜射、側射を受けながらクリークを渡り、豫め準備の梯子を登つたが、梯子が城壁上に屆かないので城壁の煉瓦の間から生えて居た小さな枝を頼りに登攀して、午前零時二十分初めて城壁上に日章旗を飜した。更にこの小舟により次々と梯子を登つて午後二時三十分には十數名の者が城壁の上に登り、これを確保したのであつた。此の時敵は中華門と城壁西南角の城内から我に對し數回の逆襲を繰返して來たが、勇敢なる我が將士はよく應戰して、城壁上にあつた煉瓦を少し宛崩して掩體をつくり漸く戰果を兩側に擴張することが出來た。かくて午後四時頃になつて歩兵の一隊と、機關銃隊を城壁の上に昇らせ、兩方面に戰果を擴張して遂に占領したのであつた。

一方城壁西南角に向つた岡本(鎭)部隊は午後四時過敵の十字火を冒してクリークを渡河し、砲兵の掩護射擊の下に一部隊は先づ城壁に突入して午後四時四十分之を占領した。

中華門に向つた岡本(安)部隊は十三日午前一時に至り之を占領することが出來た。

この頃城内の敵は頑强に抵抗しながらも退却の兆があつたので午前九時乃至十時頃各部隊より追擊隊を出し、逐次城内を掃蕩しながら清涼山に向つて前進し、午後三時には同山一帶を占領した。續いて下關方面に敵を掃蕩し、一部は夕刻下關に進出して、東方より進攻した中島部隊の一部と確實に連絡することが出來た。

この戰鬪における谷部隊の損害は甚しかつたが抗戰した敵は第八十七師、第八十八師及び教導總隊所謂中央軍の最精鋭と稱せられたもので、敵の損害は遺棄屍體のみにて一萬五千餘に達した。

【南京攻略戰果】南京攻略戰において敵約十萬に與へたる損害は約八萬、我が損害は死傷者約四千である。

一、敵の遺棄屍體　五三、八七四

一、鹵獲品　重砲一〇八門△野山砲一九門△迫擊砲七九門△高射砲三七門△曲射砲一九門△機關銃四一一門△輕機關銃九五六門△自動小銃一三六挺△小銃九、三三四挺△拳銃一一五挺△戰車一〇輛△飛行機六機△自動車三六輛△手榴彈七七、八五〇發△重砲彈八、二一六發△野山砲彈一、〇二六發△迫擊砲彈六二五七二發

海杭沿線

【金山衞城】松江驛より三十粁餘、杭州灣の中樞に位し、昭和十二年秋日軍百萬上陸で抗日軍の膽を奪ひ、上海攻略作戰上の大ホームランを蹇つ飛ばした歷史的敵前上陸の行はれた所で、皇軍は此所より直ちに北進し、松江市破壞後一は東進して上海の背後を突き、一は西折して嘉善方面の敵を破り、大いに戰果を擧げた戰史發祥の地である。

【覓橋】上海より一七九粁、中國空軍空の犧牲者の靈を祀る共同墓地に隣接して、近代的防空壕があり、此附近一帶は支那事變當初卽ち昭和十二年八月戰史に輝く我渡洋編隊が、暴風雨を衝いての第一回爆擊を敢行した所で、强靭を誇る近代的建築物も皇軍荒鷲群の猛擊に一たまりもなく壞滅し去つて、今は鬼氣迫る廢墟が皇軍の正確、壯絕な爆擊を物語つてゐる。

【杭州】昭和十二年十一月五日、我陸軍部隊は杭州灣金山附近に敵前上陸を敢行し、破竹の勢を以て驚異的進擊を續行、十一月十日には上海を包圍占領し、續いて十二月十五日南京を攻略するや踵を返して杭州に迫り十二月二十四日夜攻擊にうつり、翌十五日に堂々入城するに至つたもので、戰禍は比較的僅少であつた。

古蹟古物名勝天然記念物（假指定）

種類	名稱	地點
古蹟	關帝廟	吉林市北山
同	敖東城	敦化縣城東二里許牡丹江西岸
同	蘇密城	樺甸縣四區
同	保雍寺	伊通縣柴市場街路北
同	公主陵	懷德縣高家崗村
同	龍灣塔	農安縣城大西門外
同	關帝廟	榆樹縣七區秀水甸子鎭
古物	吉林宮將軍碑	同
同	大金得勝陀碑	扶餘縣三區石碑崴子
古蹟	舊城	依蘭縣城北商埠區內
古物	太虛洞古碑	賓縣二道河子車站東北十二粁松峰山太虛洞內
古蹟天然記念物	松峰山太虛洞	賓縣二道河子車站東北十二粁松峰山
古蹟	古墳墓	慶城縣城西南石人溝村東四粁
名勝天然記念物	興凱湖	密山縣鳳凰城警察署所屬
古蹟	靈寶寺	琿春縣城西二道荅子
同	馬碑石椿	和龍縣月晴村馬牌屯
同	般若洞萬壽觀	莊河縣塔嶺區和睦村頭道溝
同	忽必烈塔	鳳城縣鳳凰山內城村
天然記念物	湯泉	鳳城縣二區東湯村
古物	好太王碑	輯安縣河西村東崗
古蹟	將軍塚	輯安縣城東龍山之陽
同	噉宍塚	輯安縣河西村西崗甲
同	文字塚	輯安縣一區大荒溝村
古蹟	環文塚	輯安縣大荒溝村羊魚頭甲
同	角抵塚	輯安縣河西村東崗甲
同	舞踊塚	輯安縣河西村東崗甲
同	三室塚	輯安縣河西村
同	五盔墳	輯安縣河西村西崗甲
同	臨江塚	輯安縣河西村東崗街
同	太王陵	輯安縣河西村東崗
同	千秋塚	輯安縣蔴線溝下流之東
同	四神塚	輯安縣河西村
名勝天然記念物	文華洞	撫松縣馬鹿溝（松江村）
同	仙人島	長白縣東南里許鴨綠江右岸
同	溫泉	長白縣十八道溝東崗坂下
古蹟	都城隍廟	奉天市中街路北
同	長安寺	奉天市大北門內
同	眞武廟	瀋陽縣三區學禮村十里河
同	寶寧寺	瀋陽縣三區學禮村附近紅寶石山
同	千佛寺	瀋陽縣八區廣民村灘村河東首
同	朝陽寺	瀋陽縣二區大義村沙河子村西
同	河東夫子祠	瀋陽縣九區平安村二臺子村北處路北
古物	碑碣	撫順縣四區薩爾滸村東山
古蹟	高衛山塔	撫順縣衛城北門外高衛山頂
名勝	本溪湖	本溪縣大堡村
同	狗兒湯	本溪縣三區山城寨村
古物	西平寺碑	遼中縣茨榆坨區學校院內
古蹟	耀州城	海城縣四區岳州村
同	孫都督墓	海城縣城東南玉皇山麓
同	金塔	海城縣二區梁家隅子
同	銀塔	海城縣二區蟒洞峪
同	鐵塔	海城縣二區析木城
同	龍臺（烽燧臺）	海城縣四區龍臺鋪
古蹟	廟山臺（烽燧臺）	海城縣四區廟山臺
同	新臺（烽燧臺）	海城縣八區東新臺子
古物	古鐘	海城縣八區騰鰲堡保安寺院
同	古點	海城縣城內公園
同	三學寺碑	海城縣城地方法院內
同	同	同
同	同	同
同	同	同
同	保安寺碑	海城縣城佛教會院內
同	同	海城縣八區騰鰲堡村保安寺內
同	同	海城縣八區騰鰲堡村保安寺內
同	興盛寺碑	海城縣八區騰鰲堡村興盛村內
同	鎭河寺碑	海城縣五區哈達碑村鎭河寺內
天然記念物	石棚	海城縣三區石棚峪村西南嶺上
名勝	海城公園	海城縣城內
古蹟	海雲寺	營口縣夏家屯村迷鎭山上
同	上帝廟	蓋平縣城西門內路北
同	鐵塔	蓋平縣城東三里許門家屯
天然記念物	古松	蓋平縣接官廳村前後松樹溝
名勝	溫泉	蓋平縣三區陳家屯正白旗村南麓岳河沿
同	同	蓋平縣三區龍門湯村北河沿
同	同	蓋平縣二區蘆家屯村黃旗堡東嶺山寺山下
同	赤山	蓋平縣城東南三百六十粁郭家屯村
天然記念物	臨突山	蓋平縣徐家屯村塔子溝
古蹟	古塔	復縣四區舊城村
同	復州舊城	同
同	遼濱塔	新民縣八區吳長崗村遼濱塔屯

古蹟	巨流河城	新民縣一區茶棚庵村巨流河屯
同	圓通寺之白塔	鐵嶺縣城內
同	秀峰塔	鐵嶺縣龍首山山巔
同	慈淸寺	同
同	圓通寺	鐵嶺縣城內
名勝	龍首山	鐵嶺縣城東郊
古蹟	法庫門	法庫縣城北大股囊頭
同	寶塔寺	康平縣齊家村小塔子屯東街路北
同	崇壽寺前古塔	開原縣城內西南隅
古物	銅眞武像	縣城東北隅上帝廟內
古蹟	青雲石佛寺	昌圖縣八面城東南隅
同	金山寺	昌圖縣東大臺廟屯紅土山上
古物	古碑	西豊縣六區田太村
天然記念物	神樹	同
古物	合里哥謀克印	西安縣四區梨樹鎮鄉間
天然記念物	寒葱頂上	東豐縣九十區分界處
同	柳樹泉眼	東豐縣四區國林村
古蹟	摩崖石刻	海龍縣七區楊樹河村九紅十八鍋山
同	皇寺	興京縣老城東
名勝天然記念物	噴水泉	濛江縣一區三道濛江
同	龍潭	濛江縣一區西泊子
同	同	濛江縣四區龍泉鎮村
同	月牙泡	濛江縣一區城東
同	溫泉	濛江縣三區湯河鎮村金坑
同	吊水湖	濛江縣一區吊小湖
古蹟	大廣濟寺塔	錦縣城北街
同	雙塔	北鎮、縣城東北隅
同	北鎮廟	北鎮縣城西二十粁
古物	石坊	北鎮縣城中街鼓樓前
古蹟	上帝廟	黑山縣城內東北隅
同	奉國寺	義縣城內東街路北
同	萬佛堂	義縣六區萬佛堂村
同	碑塔又名嘉福寺塔	縣城內西南隅
同	佑順寺	朝陽縣城內中街
同	南塔	朝陽縣城內
同	北塔	朝陽縣城內
同	金塔	錦西縣城北二百八十粁安昌峴村
同	烽燧臺	興城縣城東二十粁四家屯村
古物	祖氏石坊	興城縣城內南街
天然記念物	溫泉	興城縣城東南十六粁
同	鍾乳洞	興城縣城西北二百六十粁碾溝新臺門村
古蹟	歪塔	綏中縣前衛
同	姜女廟	綏中縣六區老軍屯村
古物	石影壁	綏中縣前衛
同	妙法蓮華經	綏中縣前所初級中學校
同	羅漢像	同
同	礫砂碑	同
名勝	朝陽洞	豐寧縣第一區窄嶺村
古蹟	吾山塔	隆化縣縣城西山
同	興隆寺	隆化縣城西南第一區臺吉營子五峰山距縣百六十粁
同	安州古城	隆化縣城東北隅
古物	石刻佛像	隆化第一區少府村北山古名石佛口距縣八十粁
同	達魯花赤竹君碑	赤峰縣赤峰烏丹警察署門前
同	烏丹關帝廟院內古碑（即全寧路新建儒學記碑）	赤峰縣赤峰烏丹關帝廟
古物	張國公碑	赤峰縣赤峰東國公府村
同	石幢	建平縣城北古惠州城
古蹟	秀塔	凌源縣城西十八里堡
名勝天然記念物	平泉	平泉縣署東喧嘩街
古蹟	東寧塔	寧城縣第二區大寧城內
同	溥仁寺	承德縣離宮東
同	溥善寺	承德縣溥仁寺後方
同	普樂寺	承德縣離宮東北
同	安遠城	承德縣離宮東北山麓
同	普佑寺	承德縣安遠廟北
同	普寧寺	承德縣離宮東北獅子溝
同	須彌福壽廟	承德縣離宮北方
同	普陀宗乘廟	承德縣須彌福壽廟西
同	殊像寺	承德縣普陀宗乘廟西
同	羅漢堂	承德縣殊像寺南

記念物統計

	古蹟	古物	名勝	天然物
吉林省	一三五	四五	一九	二四
龍江省	四〇	四	二	三
黑河省	四	｜	二	一
三江省	六	｜	八	｜
濱江省	三	三	一二	｜
間島省	四二	一六	二	七
安東省	五一	一九	八	一九
奉天省	二七	七六	三三	二三
錦州省	九二	四八	三	七
熱河省	六八	七八	八	四九
新京特別市	一	七	｜	｜

名勝・舊蹟

連京線

大連附近〔老虎灘〕 大連市の南方、灣を抱いた景勝の地、釣魚、汐干狩、海水浴場として知られてゐる。大連常盤橋から南する市内電車の終點。〔傅家庄〕老虎灘への途中、桃源臺から西南約三粁、風景良く、釣魚竝に夏の行樂地、バス桃源臺、傅家庄間片道一〇錢。〔星ケ浦〕大連の西南約四粁、瀬戸内海を偲ばすやうな纖細なる風光の地、海岸遊園地を成し、好適な海水浴場、傳說の黑石礁があり、市内電車は此處まで延びてゐる。〔旅大八景〕黃海海岸を傳ひ旅順と大連とを結ぶ四十七粁二九の海岸道路、自動車を驅れば一時間で走破することが出來る。沿道の風景實に麗しく、黑石礁、凌水寺、小平島、蔡大嶺、老座山、龍王塘、玉の浦、白銀山を選んで旅大南道路八景としてゐる。大連から定期バスの便があり、所要約一時間二〇分、片道料金一圓。南道路がもつ海岸線の女性美に對し所謂旅大の裏道路たる北道路は雄大な男性的山野の眺望を有してゐる。距離は五十三粁〇七、隨所に古代滿洲の遺趾史蹟に富み滿洲色の濃厚な磊山屯、大東溝、牧城驛、雙臺溝、玉仙臺、長春庵水師營、火石嶺の八景を抱いてゐる。定期バスがあり、所要一時間二〇分餘、片道料金一圓。

旅順附近〔旅順〕 四周丘陵で包まれ碧水深き海灣に臨み、山紫水明にして風光頗る明媚で市街全てが公園の趣きがある。大連から汽車で一時間半(五九粁七)二等一圓七〇錢三等九五錢、毎日曜及び祝祭日には二割引往復券を發賣してゐる。戰蹟視察觀光バス竝に馬車の便がある。(戰蹟の項參照)

〔鴻臚井の遺蹟〕 黃金山の西北麓、旅順港口に極めて近く海岸から半町ばかりの所にあり、忻井とも云ふ千二百餘年前、唐の開元二年、鴻臚卿崔忻が朝命を奉じて渤海に使する途上、新井二口を鑿つて碑を建てたものである。碑石は我が千代田城懷遠府に藏せられてゐる。見學には海軍當局の許可を要する。〔明代の古墳〕 黃金山には明代に旅順の守將で清軍に討たれ自刎した黃龍及び其の部將李維鸞、項祚臨、樊化龍、張大祿、尙可義の六忠士を合葬した古墳がある。〔老鐵山と牧羊城〕 老鐵山麓を越える峠には有史以前の石塚が殘つてゐる。また峠を降れば石斧を始め石器、銅器、土器等の出る刁家屯の村がある。更に進めば漢代の古城址、牧羊城の遺蹟がある。

金州附近〔金州城〕 元代既に土城があつたらしいが現存の城は淸朝(西紀一七八三年)に修築したものである。孔子を祀る文廟は明の金州衞儒學の舊址、淸朝となつては甯海縣學や金州書院の置かれたところである。境内にある「遼東金州先師廟碑記」「元張百戶墓碑」など貴重な史料がある。

城内諸寺廟多き中に天后宮は特に輪奐の美に富む。西門外に在る玉皇廟前の路傍に鐵牛と稱するものが半ば土中に埋れ横はつてゐる。北門外にある天齊廟は邦人間には「地獄極樂のある寺」として知られてゐる。大連から金州驛までは三二粁五、汽車賃は二等九三錢、三等五二錢、大連、金州間のバスは三五粁で料金五〇錢〔釣鯨臺と龍王廟〕 北大河を渡り道を西北に進めば暫くにして「釣鯨臺」と刻んだ巨巖に至る。往昔釣魚遊覽の地であつたものと思はれるが、今は海岸からかなり離れてゐる。尙進めば龍王廟のある小丘に達す。此處から渤海を望めば景觀壯麗である。〔大和尙山〕 海拔六百六十六米餘の高山で金州平野の東側を劃して立つ。山中の風景佳なると寺觀多きにより千山及び安奉線の鳳凰山と共に滿洲の名山である。南端には鳳凰山が三百九十三米餘の高さで翼を成してゐる。その昔、高勾麗はこゝに築城して遼東半島の咽喉を扼してゐた。卑沙城

と呼ばれ後に大黑山城と呼ばれたものである。朝陽寺から約五百米にして響水寺がある。金州驛から八里庄を廻つて六粁、馬車で行ける。（三崎山は戰蹟の項參照）

二十里臺附近（平山）　二十里驛臺の西南六粁に聳えてゐる平山は海拔三百十米、頂の西北面には鐘乳洞があつて之を佛爺洞と呼んでゐる。深さ十五米ばかりの洞穴の奥に巨大な佛像が一體刻まれてあり明代から知られてゐる。驛からの道は良く、山を南に下れば六粁にして金州城に出る。

三十里堡附近（化石採集地）　驛の西方一粁餘、東山後屯の普通學堂から金州街道に出て南行すること半粁坂道の下りに沿つて含化石頁岩の斷層が數百米に亙つて續いてゐる。頁岩は厚く紅紫色を呈して無數の化石を含んでゐる。化石は古生代カムブリヤ紀のレドリキア・シネンシスといふ三葉蟲が多く、其他にヒオリテス及び腕足類の一種オンレラ等の貝類もある。

石河附近（石河城址）　驛の西方約二百米、樹木茂り石壁を存して古城の趣が深い、こゝは既に明代の初に於て知られてゐた驛堡の一であつて城壁は清初に至り改築せられ約三百年を經過してゐる。當城は金州城北方の押へとして重要な防禦地であつた。驛東約七百米の臺子山頂に烽火臺がある。城の南門外の佛爺廟は古名を石堡寺と稱し明代の創建と云はれてゐる。

普蘭店附近（孛羅鋪城址）　驛の東北二粁、舊普蘭店と稱する村落に明代の古城址がある。城壁は石築にて南門の上部の石額に「孛羅鋪」なる文字が刻まれてある。孛羅なる語は蒙古語として考へられ普蘭店なる地名は之より轉訛したものである。城址の東方臺子山の頂上には烽火臺の跡があり城の背後に當る低く平な悖々山の上には古墳と稱せられるものがある。

（劉家屯の蓮實）　普蘭店の東北四粁、劉家屯には泥炭層があり、古碑によれば二百年前に一大蓮池のあつた所で今日その泥炭の上層から古い蓮の實が發掘される。この蓮の實は外種皮が既に硬化してゐるが發芽能力に於ても數量、性質の點でも有史以來の最高度を有する種實として世界の植物學界に珍重されてゐる。

瓦房店附近（瓦房富士）　驛南方四粁にある瓦房富士は海拔二百六十米、山形が凡富士山に似てゐるのでこの名がある。抱龍院は、驛西方四粁餘、抱河口屯に在り邦人間には牡丹寺と稱せられ山を五臺山といふ また驛の西北一粁の山巓に東西二十四米、南北七米半、幅一米の石壁があり、壁內到るところから煉瓦及び裝飾用瓦等の破片が出る。何家太山の遺蹟といはれてゐる。

（復州城）　瓦房店西方四十粁にある復州城の城壁は乾隆三十一年の建設と云はれ城の中央は城隍廟、城外東南隅に永豐塔と呼ぶ古塔がある。塔は遼、金時代の築造と云ふ。（五湖嘴地方）　三十里堡驛に下車して西北方十粁餘の三道灣から更に海路八粁、アダムス灣を渡つて赴くが最も近い。此處には烽火臺の臺子山があり金家城子には土築の古城址がある。高麗墳と稱する古墳、窯陶址等多くまた三稜山麓には石斧其他の遺物包含層がある。

王家附近（甘泉寺）（湧泉寺）　驛の西北約一粁半、囘頭河の左岸にあり山を大明山と稱し全山巖石で覆はれ樹木茂る奇觀である。甘泉寺はその南麓にあり殿內の岩窟には觀音菩薩を本尊として祀り、康熙年間の開基といふ。

得利寺附近（龍潭山の古城址）　驛の西に間近く聳えてゐる龍潭山は海拔四百四十三米餘、こゝには古く得利嬴城（又は德里英城）の城址がある、當城は元の遼東平章劉益が表を上つて明に降り明は此處に定遼を設けたところである。城はもと高句麗の築城にかゝるもので門內の龍王廟前の龍潭池は往昔城兵の飲料水を求めたところである。山は奇巖突兀として聳え春季五、六月

の候は躑躅美しく鈴蘭香り、また蕨狩にも好適の地である。驛の西北八粁、龍潭山の西に並ぶ龍虎山の山腹に〔得利寺〕が在る。

寺は明代に榮えたが今は僅に山間に仙境を成して立つばかりである。岩窟内に羅漢を始め多くの佛像が懸つてゐる。

萬家嶺附近　〔ドルメン〕〔石棚〕　驛の南方、三臺子に在る。驛南の關子信號所に下車して東へ四粁進むが最も近い。このドルメンは石棚廟と稱して娘々を祀れる乾隆年間創始の廟屋内にあり、面積十五疊敷位に當る巨大なものである〔小寺廟〕　驛西方三粁、石道河の淸流に沿うた寒村廟嶺にある。今から三百餘年前、乾隆年間の創設にかゝり娘々廟、五齊廟、十殿、自君廟を合祀したもので、地獄極樂の偶像がある。

許家屯附近　〔官馬山〕　驛西百數十米のところ、唐の太宗が軍を此處に駐め馬を山麓に放つて休養したといふ傳説に因りこの山名がある。山頂に立てば遙に渤海を望みまた山の四周の展望も美しい。

九寨附近　〔ドルメン〕〔石棚〕　驛の西南、大石棚丁場を過ぎて西すれば石硼山〔舊名蛾眉山〕と呼ぶ臺地の頂に達する。ドルメンを利用して廟の建物となし古雲寺と稱して娘々を祀る。上部の覆石は一邊の長さ八米四、他の一邊は五米四、厚さ五十四糎の花崗岩で、その支石の高さは二米三八・五で、古代巨石文化の跡を偲ぶことが出來る。〔歸州城址〕　驛の西方十二粁の地、浮渡河〔龍口河〕の河口に近い。遼代の古城として最南端に位し元この歸州の治所は歸勝縣といはれ金代には歸勝鎭と稱せられ史上著名な城である。

熊岳城附近　〔古代住居址〕　驛の東南約二粁半、熊岳河右岸、溫泉附近の地凡そ一粁餘に亙つて古代住居址がある。漢代とも六朝以後とも云はれ有紋磚、無紋磚の破片、土器破片、石片等は今でも容易に包含斷層で採集することが出來る。其他漢の五銖錢、銅鏃等を出すこともある。この界隈にはまた貝塚や塼棺が多い。〔熊岳城〕驛の西南約一粁半、熊岳河の右岸に在る。

遼の廬州熊岳縣の遺址で後淸の太祖によつて攻略せられ城壁は乾隆四十三年に重修せられたものである。今南門だけに門樓が殘り、また東部の壁上に魁星樓らしき遺物がある。城內に元代の創建に係ると傳へる古刹道林寺がある。〔望小山〕（望兒山）と〔天然橋〕　驛の東北三粁餘、附近の平野中に島嶼の如く礫岩の孤立が六箇點在してゐる。その塔あるものを望小山といひ塔は俗に水難塔といふ往昔一人の寡婦その子擧に應じ渤海を渡つて京に上つたまゝ還らず寡婦日夜歸帆を眺め遂にこの丘頂で悶死したといふ傳說によりこの山に望小山の名が起つた。望小山の續きの孤丘は岩骨の一部が穿たれて天然橋をなし奇觀を呈してゐる。

〔黄旗山〕　城南一粁餘に當る黄旗山は寶泉山ともいひ山一面の松林で老松の枝振り良く山頂に關帝を祀る石廟あり風景絶佳である。その麓に紅梨を栽培せる一大梨園がある。七十年前、淸朝に仕へて盛京將軍等に封じた韓思合の隱遁經營したところである。〔觀寶山望海寺〕　驛東方十二粁靑松一山を包み山上より一望千里の風光甚だ佳良寺は大巖洞の中に在り喇嘛趙法師の建立に係ると傳へられてゐる。〔蘆家屯〕　古の蘆州で知られた地である。附近の古塚からは往々古代の刀貨、五珠錢、埴輪等が發掘せられる。

蓋平附近　〔蓋平城〕　驛東三粁半、大淸河の北岸に在り、城は明代以前既に土城があつたのを明の洪武五年と淸朝年間に修築を加へられた。今も舊城守尉府の建物や其他古色を帶びた寺廟が多い。特に元眞觀は築城前から存在してゐたと傳へられる古刹で西門に近く在り二十一體の稀に見る結構雄大典雅な佛像を安置してある。

〔鐵塔嶺の佛塔〕　城東三粁餘、八蜡廟南方高地の南端にあり、もと鐵製であつた爲

め鐵塔嶺の名を生じたものである。唐代創建といはれるが年代不詳である。〔青石關〕城北八粁青石嶺低所の岩石を開鑿した一の切通しで數十間の山道を成し關門を設けてゐる。明代に重修したもので城東の石門關、城西の連雲島關、城南の陽關嶺と共に蓋平城北方の守りであつた。青石關の西部には烽火臺が立つてゐる。〔石城山〕城北十二粁、青石關を過ぎ高麗城子の傍に立つ山で石城を存し高麗城と呼んでゐる。石壁蜿蜒として山の背に連ること實に八粁餘に及ぶ大城址である。

太平山附近〔烽火臺〕太平山附近には烽火臺多く、その中でも驛西一粁にある拉々山の路臺は甎築で完全に殘つて居り、烽火臺研究には標本的なものである。驛東には田家屯、驛の東南には商家店、驛の南方太平庄には破臺子の路臺があり、破臺子の東方山上には圓臺子の路臺がある。

大石橋附近〔蟠龍山〕大石橋市街の東北に位し遼河平原の眺望雄大にして公園内に杏樹多く風致に富む、同山には土石器を出す遺物包含層がある。〔迷鎭山の娘々廟〕驛の南六粁、野原の中に孤立した山で俗に瞭高山、晾甲山とも言ふ、寺名は海雲寺、雲霄、瑤霄、瓊霄の三娘々を祀り、福壽、治眼、授兒の女神として廣く尊信を受けてゐる。滿洲到る處に娘々廟はあるが當廟は最も名高い。〔岳州城〕驛の北方二粁餘、岳州城は遼代の耀州の城址で僅かに城壁を現存す、唐代獨木關の遺址とも傳へられるが詳でない。蟠龍山の頂づたひに朝陽寺山があり、山容魁偉、奇岩に富み春秋風光絶佳な勝地である。〔聖水寺〕驛の南東約十二粁、聖水寺村に在り景觀美事である。〔紅旗山〕驛南方四粁、老松杏樹繁茂し花季の行樂地である。

營口附近 河北線の河北驛は舊市街の對岸にあり、こゝから下流六粁餘のところに往時海賊に備へた支那の舊砲臺が遺つてゐる。同治九年の築造であるが今は只城壁と砲身二つばかりを殘すのみで荒廢してゐる。

分水附近〔分水のドルメン〕分水驛の東南六粁に當る石硼峪の丘上に稀に見る完全なドルメンがある。〔他山の毘盧寺〕他山驛で下車し東南三粁餘に毘盧寺がある。明代の創建に係る古刹である。

海城附近〔海城〕海城はその名の表す如く往昔海に臨んでゐた地で遼河の冲積作用により次第に海岸から遠く離れるに至つた。八百年前、遼時代に海州と呼ばれた所である。驛から東二粁にある城壁は高さ八米二の磚築で城内に在る寺廟の數は三十餘の夥しきに達してゐる。中でも三學寺の境域は宏壯である。〔欄枸山〕城の東門外六粁全山奇巖突出し老松多く山下には楊柳河の清流があり風景が良い。山上南端に三官廟がある。〔英城子〕海城の東南十二粁、唐代、高勾麗の安子城址と想定されてゐる。〔析木城〕海城の東南約二十三粁、朝鮮街道上に在る。城は元代既に廢棄し今は只山間の一部落を留むるのみで荒廢してゐる。村の附近に有名な鐵塔、銀塔、金塔の三佛塔がある。金塔は遼東七塔の一に數へられる美塔である。また析木城の東南五粁餘に二箇のドルメンがある。土人之を姑嫂石と呼んでゐる。〔牛莊城〕驛西二十八粁、遼河の左岸にある。今は殆んど破壞してゐる。〔甘泉舖の東廟と西廟〕甘泉舖は南臺驛北約四粁、もと藍泉堡と稱した村である。東端の關帝廟を東廟と稱し、西部の慈化寺を西廟と呼んでゐる。明の萬曆年間の創設に係る古刹である。また南臺驛の東十粁餘の山城子には烽火臺が殘つてゐる。

湯崗子附近 湯崗子驛に近き小丘の上に娘々廟がある。丘上からは溫泉場一帶の展望が良い。千山の西麓、上石橋子まではこゝから十六粁ばかりあり、以前は當地から馬背によつて千山登山を試みられてゐたが現在は大孤山からが便利である。

鞍山附近〔鞍山堡〕千山驛の南方一粁餘、東鞍山山麓、鞍山河右岸に鞍山堡がある。もとは鞍山驛城、鞍山站とも稱してゐた。明の洪武二十年に驛を設けられ明の神宗の時、城堡を建設せられた所で昔は遼陽街道上の重要な驛站として繁榮したが今は衰微してゐる。堡内に娘々廟があり西鞍山上には烽火臺の跡が殘つてゐる。〔千山〕

湯崗子驛、千山驛等を列車が通過するとき車窓東方に望まれる鋸山の稜線を空際に劃してゐるのが千山である。湯崗子驛の東二十粁に當り、山は外觀の複雜な割合には淺いが山谿と寺觀との諧調が甚だよくとれて眞に滿洲の名山として推奬するに足る。

山の範圍は東西十粁、南北十三粁、南中北の三嶺が竝び南北二峽がその間に溪谷を作つてゐる。北嶺には奇峰五佛頂、南嶺には千山最高の仙人臺が聳え全山花崗岩の風化面白く且つ松柏は峰に這ひ谿を埋め春は梨花、秋は紅葉に一入の美を增す。湖は四十八溪をなしこゝ幽邃閑雅の境を占めて立つ五大禪寺と二十五院とがある。頂山には五體の石佛がある。五佛頂は卽ち之である。

海拔約四百八十五米。龍泉寺は五大寺中の最大の伽藍で唐代の開基と傳へられてゐる。祖越寺は千山諸寺廟中最古のものと言はれるが今は本堂だけで振はない。羅漢洞の下にある大安寺の風光は千山第一に推されて居り背後に群峰重なり巨巖老松の趣多く、南方は展けて連山を望む。仙人臺は千山の最高峰で海拔六百六十米餘、頂上には五體の佛があり五佛頂は卽ちこれである。

千山へ登山するには普通鞍山と湯崗子との二地からであるが鞍山から山麓の大孤山まで電車で容易に達する。

〔烽火臺と石圍〕鞍山驛の南一粁半餘、新臺子村の西端に煉瓦造の烽火臺の跡がある。また立山驛に下車、櫻桃園の山腹にある圓形と方形との石圍(ストーン・サークル)は石器時代の遺蹟である。

遼陽附近〔遼陽〕滿洲最古の都城の一で、久しく滿洲に於ける政治の中心地であり且つ朝鮮、支那本土に通ずる舊交通系統の中樞に衝つてゐた。この地の名は戰國以後史上に現はれること多く遼陽城の研究は同時に滿洲歷史研究の大きな部分を成すものである。

〔白塔〕白塔公園は元の廣祐寺の境內を利用したもので風致ある白塔のもと閑寂な境地を成し遼陽神社が建てられてある。白塔は廣祐寺の佛塔であるが堂宇は亡びて塔を殘してゐるのみ。廣祐寺は俗に白塔寺と呼ばれその創建は金代の初、世宗の母后によつて創建せられ後大定初年世宗によつて增大されたものと云はれる。

〔遼陽城〕城はもと東北二城に分れてゐたが北城は破壞せられて今は長い土壁を存するのみである。本城は明の洪武五年に改築されたものであるが城濠は埋もれた箇所が多い。城內の東北部丘上の觀音閣は康熙年間の創建と云はれ、俗に此處を「金銀庫」と呼び明代の金銀庫の遺址とされてゐる。

文廟街の孔子廟は明の洪武年間に創められ境內廣大で文廟中稀な古廟である。この外に明代の古刹萬壽寺、長安寺等の寺院がある。大西門外の關帝廟は俗に老爺廟と呼び元代の創建で滿洲に於ける關帝廟の建築物中最古のもので、廟前の照壁は甚だ珍しいものである。城南の喇嘛園には蓮花寺があり創建年代は不明である。〔東京城〕遼陽城の東北五粁餘にあり金の東京に因んだものと云はれ、また築城の年代より名附けたものか新城とも稱されてゐる。本城は淸初天命六年に高宗皇帝が築いて一時都した處だが今はその跡方もなく頽れてゐる。城內西部の岡上に立つ三官廟は淸初の創建にかゝる。〔東京陵〕遼陽城の東北六粁五餘、陵は孤立した小丘の上に立つ、順治十一年の建設に係る「壯達汀漢把免魯親王碑」の大石碑が老松の下に立つてゐる。東京陵の山は積慶山と稱し俗に墳上といふ、莊

王舒爾哈齊墓が最も規模大きく、その左後方に褚英墓、右方に貝勒稚爾哈齊墓と貝勒巴拉墓、また丘の東角に穆爾哈齊墓と達爾察墓がある。南麓の千佛寺は明代の創建で二百年を經た古刹である。〔**壁畫古墳**〕 太子河岸には古墳が多い。就中、大正八年發見せられた石槨は珍しい壁畫を存して學界の注意を惹いた。之は驛北、迎水寺村の北で驛から四粁餘の太子河鐵橋の東約一粁、堤防の傍の畑中に存してゐたものである。

この古墳は後漢時代又は三國の初期を下らない漢族關係のもので一千七百年前のものと推定されてゐる。今、旅順博物館前庭に置かれてあるが壁畫は湮滅してゐる。

煙臺附近 〔巖州城〕〔燕州城〕 煙臺炭坑の東南十六粁、太子河右岸の石城山々上に在り高勾麗時代に築かれた白崖城である。唐の太宗之を攻略して岩州となし渤海の時に白岩城、遼代に白岩縣、金代に石城縣とされたと傳へてゐるが城史城名に就ては學說區々としてゐる。もと一門を開いたといふが今は其の跡を認めぬ。また張臺子驛に下車、黑英臺の東に在る村落に公主の墓陵が存してゐる。

奉天附近 〔**黃寺**〕 奉天小西邊門外、瀋陽公園の北にある。皇寺ともいひ本名は蓮華淨土實勝寺と稱し崇德三年建立、滿洲に於ける數多き喇嘛教寺院中、勅建喇嘛寺の總本山ともいふべきものである。〔**西塔**〕 奉天城外の西方に護國寺塔といふ都城鎭護のための勅建にかゝる四座の喇嘛塔がある。西塔はその中の代表的なもので西塔大街に沿ひ延壽寺の境內に古色蒼然たる姿を聳立させてゐる。〔**奉天城**〕 當城廓は既に元初に創建されたと傳へられてゐるが清の太祖が天聰五年に現存のものに改築せし洵に清朝興隆の歷史と共に忘るべからざる發祥の帝城である。而して天命十年(西紀一六二五年)太祖高皇帝が遼陽から遷都して以來順治元年北京に遷するまで十九年間の皇城で宮殿建築の一部は太祖の時に初まり、太宗の天聰六年に完成し後に乾隆帝が大增築したものである。奉天城は故宮殿を中心として方形の內城とそれを圍む不整楕圓形の邊牆とからなつてゐる。內城は甎築で城壁の長さ六粁、高さ十米六六糎、厚さ五米四五糎、八門を開いて內はこれ等に通ずる大道が井字を爲してゐる。故宮殿は奉天驛より四粁、大西門から入れば眞直ぐに進んでその前に出ることが出來る。宮殿の一般拜觀は禁止されてゐる。

邊城は周圍十六粁の土壁であつたが今は破壞されて概ねその形を失つてゐる。邊牆と內城との間も民家稠密して居り近年交通通信上の障害から大南門と小東門を除く他の六樓門竝に十字路の鐘樓、鼓樓は全く取毀されて昔日の威風はないが、城廓は尙嚴かに城の固めを示し清朝の昔を語る宮殿の甍と共に今も都城の匂を高めてゐる。〔**小河沿**〕 外城の東南隅にあたり大東門を出て南すれば小河沿に至る。これは舊運河の跡で本名を萬泉河といひ小瀋水とも呼ばれてゐる。橋の布置面白く蓮を植ゑてあり花時は紅白の蓮花が美しい。夏季滿人の遊園納涼地となつてゐる。舊曆七月十五日には流燈會の舊習が行はれてゐる。〔**法輪寺**〕 西塔と共に護國寺塔の一である喇嘛の北塔はこの寺に聳えてゐる。天地廟には涅槃寂靜相を表現せる怪奇な男女交歡の像(天地佛)を存置してゐる。〔**北陵**〕 奉天驛の北方六粁。淸明第二代太宗文皇帝の陵墓で隆業山昭陵と稱す。境域の周圍約八粁、磚道の兩側に竝ぶ石獸は有名である。隆恩門內の拜殿の背後には「太宗文皇帝之陵」の碑文ある明樓があり、半圓型の壁に圍まれて寢陵がある。順治元年、太宗文皇帝の靈柩を葬りなほ孝瑞文皇后をも合葬してゐる。〔**東陵**〕 城內から東方約十四粁のところに在る天柱山福陵と稱へ淸の太祖高皇帝を葬つたものである。渾河の右岸に臨み全丘老松を以て蔽はれた中に朱壁綠瓦が聳えてゐる。

天然風水の勝はかの昭陵及び肇祖、興祖景祖、顯祖等の遠祖を葬つてゐる永陵よりも遙に秀でてゐる。その結構は北陵と全く酷似してゐる。

東陵へは奉吉線の東陵驛に下車するの便があるが、奉天驛前より總局經營の奉撫線バスによれば約一時間、料金片道三十錢である。

北陵及び東陵の拜觀は監督官廳の許可を要することになつてゐるが、北陵は奉天驛前ツーリスト・ビユーローで東陵は市公署内觀光協會で便宜取扱つてゐる。

撫順方面　撫順線の奥、渾河の流れを遡れば興京あり、永陵あり、薩兒滸山あり明清兩民族の古戰場多く清朝の興祖奴兒哈赤の大業を偲ばしむる遺蹟に富む。〔撫順城〕撫順新市街の東北から渾河に架る永安橋を渡り更に北へ進めば城廓に達す。撫順驛から城内まで約四粁。撫順城の東郊に奉吉線撫順城驛がある。撫順城は古の撫西城で明の洪武二十一年に千古所を置きまた撫順關と稱してゐた。この城は高麗の鎖陽城で唐の薛仁貴に攻略せられて後、撫順城と改め高麗が受撫歸順の意を示したと言はれてゐる。萬曆四十六年、清の太祖は撫順城を攻め落し翌年薩爾滸山に於て明の攻擊軍に對して防戰し大勝した。その後諸官衙を置かれ商業も殷盛であつたが宣統三年諸機關を千金寨に移轉してからは頓に寂れてしまつた。〔高爾山〕撫順城の北門を出れば高爾山（萬山或は連山）と稱する丘崗があり、その丘腹に觀音閣、丘上の古塔が聳えてゐる。觀音閣は康熙二十六年の創建、寺境よりの展望はよい。古塔は唐代の建立と云ふも不詳、日露戰役の際兩軍の彈雨を浴びて甚しく破損してゐる、丘の東麓に小廟朝陽寺がある。

撫順驛から城郭外を經て奉吉線撫順驛までバスが通じてゐる。料金片道十五錢。

もとの千金寨の南、千山臺に大悲寺が在りこの山巓には烽火臺の跡がある。驛から山麓附近までバスの便がある。〔古陶窯址〕大官屯、松田橋外に陶窯址があり往年古陶器を採集せられた。楊柏堡河のこの臺地はまた石器時代の遺蹟である。

奉天以北連京線方面　〔蒲河城〕虎石臺驛東方十二粁餘に在る蒲河城は明代、正統二年に築かれた土城、遼東十八城の一で清の太祖が明を征し降した城である。現在その土壁は荒れて上部は總て崩れたまゝ南西北三方に殘存してゐる。〔懿路城址〕

新臺子驛の東六粁餘に人口六千の大きい村落があり此處に懿路城址が在る。遼代、興州の故地である。

村落の北に塔山（元主山）と呼ぶ小山があり明の正統三年に建立した高さ約五米半の石塔が立つてゐる。〔汎河城址〕得勝臺驛の南五粁餘鐵道線路の西に近く沿ひ今は大汎河と呼ばれる村落が城址である。明の正統四年に左中千戸所を置いたところである。また同驛の北二粁半餘に遼の新興縣の遺址がある。大安寺は得勝驛の東南約八粁、殷家屯にあり明の萬曆二十二年建立の古寺である。〔帽峰山〕〔茂風山〕鐵嶺驛の東南約四粁半に在り、山の形が帽子に似てゐる爲めこの名がある。また鉢卷山とも云はれてゐる。樹木多く幽邃閑雅な山で東西して朝陽寺がある。山頂に石棚と稱するものがあるけれども之は人爲的のドルメンではなくて自然の大岩石である。この山からは石斧その他の石器が出る。また唐の太宗が高勾麗軍を擊つた古戰場とも傳へられてゐる。

鐵嶺附近　〔鐵嶺城〕明の洪武二十六年の築造に係り元は東西五町四六間、南北六町二六間の方形に城壁を繞らし外濠を掘り東西南北の四門を開いてゐたが城濠は埋沒してその跡なく、城壁はその磚瓦を以て多く道路、排水溝等の築造に充てたが爲めに今は殆ど元の姿を失ひ城内と城外との區分は不明となつてゐる。城内の略ぼ中央は十字街をなし鐘樓が立つてゐる。清の乾隆五十年の建立で八角形の三層樓である。

〔圓通寺と白塔〕城内西北隅に圓通寺あり俗に白塔寺と呼ぶ。創建年代不明の古刹であつたが明の天順年間及び萬曆年間に重修したものである。鐵嶺、開原、昌圖、撫順の各縣に散在せる道觀の總本山格である爲め道士の來宿する者が多い。寺の背後に聳えてゐる塔は八角十三層で金代の大定年間(西紀一一六一—一一八九年)の創建と看做され明の萬曆十九年に一品夫人李門宿氏を初め多くの夫人達が寄つて白塔を重修したものである。〔看花樓〕東門外、東門大街の萬盛德なる商戶の院內に在る。之は明の武將李成梁の故宅の樓址で今は甚しく荒廢してゐる。李成梁は明の萬曆年間、寧遠伯に封ぜられ寇賊を討つて武勳大なる名將であつた。〔龍首山〕鐵嶺驛から東へ一粁餘に當る龍首山は標高僅に一百米ではあるが頂上からの眺望は頗る廣濶である。往時この山麓一帶は渺茫たる湖沼を成し「鷺湖」と稱せられてゐた。この湖と美女を繞る悲戀のロマンスも口碑に殘されてゐる。景勝龍首山の名が喧傳され出したのは明朝の碩學陳循氏が滿洲へ流謫される時、特に景勝地をといふ切なる願ひから配所を鐵嶺とされたのに初まる。山頂には陳氏の寄食したといふ慈淸寺がある。〔慈淸寺と佛塔〕慈淸寺は唐代の開基と傳へられる古刹である。慈淸寺と竝んで龍首山上に巍然と聳えてゐる佛塔は高さ二一米、八角九層で塔身の錚の錆が歷史を語つてゐる。民國十六年の改修によつて稍々風致を損したがその際黃金佛一體と圓形の銅鏡一面、更に塔の由來を刻んだ銅板二枚を發見されてよりこの塔が明の弘治二年(西紀一四八八年)の建立にかゝりその後萬曆十九年(西紀一五九一年)時の鎭守總兵寧遠伯李成梁氏(朝鮮役に有名なる明軍の將、李如松の父)が明の神宗皇帝の勅命を奉じて蒙古討征の際、武運長久祈願のため重修したことが明かになつた。〔龍尾山の佛塔〕龍尾山は龍首山の南端峰、傳說の龍首山の龍尾に當るところである。嘗て淸の聖祖が駐蹕せられたといふ言ひ傳へに依つて駐蹕山とも稱へられてゐる。この山の佛塔は南塔と呼ばれ六角九層である。〔七里屯〕鐵嶺の東方五粁、杏花、梨花の名所である。〔法庫門〕鐵嶺の北約六十粁淸代柳條邊牆の一邊門で數十年前までは蒙古貿易に榮えたが今は衰へてゐる。〔中固城址〕中固驛の南二粁五、明の永樂五年に創設、撫順站を置き遼東十八城の一をなしてゐた。もとは城壁、城濠及び南北の二門を有してゐるが今は僅かに南部に城廓の一部を殘留するのみである。この地に老母廟があり明代の古刹で觀音を祀る。

開原附近〔開原城〕驛の東北約六粁に在り、南滿洲最古の都市の一つで奉天城と同時に建てられたものである。初め元の金の咸平府をそのまゝ踏襲してその治所を開原縣城に置いた。至正二年(西紀一三四二年)之を咸平縣と改稱、更に至正二十四年開元路の治所を今の農安から開元に移してから咸平の別名を開元と呼ぶことゝなり開元が對音の關係から開原となつたものと云ふ。開原城は遼河の支流なる淸河の北岸に立つて居り明の洪武二十五年土城を改めて磚城としたのである。一・六粁四方の城壁は今尙殆んど完全に殘つてゐるが門樓を存しない。北部の金線河に架る趙氏虹橋を渡れば眞武廟がある。明の正統の初年の創建にして境內に古碑多く廟內には銅製金塗りの巨大な神像がある。鐘樓の南には康熙初年に創建された關帝廟がある。城の西方に隣接して明代の土城壁が殘存してゐる。〔石塔寺と白塔〕石塔寺の寺名は金代に西塔寺と呼んだのを訛つて石塔寺と言ふやうになつた。金の正隆元年乃至大定三年の創建と云はれてゐる。白塔は寺の前に立ち八角十三層の磚造、金の大定三年の創建と傳へられ今は破損し相當荒廢してゐる。石塔寺に東隣する觀音堂は創建年代不詳の古刹である。〔威遠堡門〕開原城の東二十粁、淸

代邊墻の邊門所在地であるが明代の邊墻はこゝより遠く東北方に當る。この地は當時二十箇の墩臺を管轄してゐた。驛の西南八粁に突出した小山を成してゐるところは高臺子の烽火臺である。〔墩臺〕 金溝子驛の東方、開原へ通ずる街道の中間に前三臺子の村落がある。その山上に墩臺がありまたこの山續きの北方にも三臺子、後三臺子の各村落と墩臺とがある。何れも土墩である。開原城防備の要所として明代邊牆の墩臺の一つと云はれる。また馬仲河驛の南六百米に清代邊牆の一部分が遺つてゐる。馬仲河驛の南西粁に在る馬千總臺邊門は威遠堡門、法庫門等と共に清代の邊牆に開かれたる邊門の一つである。また馬仲河驛の南方三粁の大營盤城址は高麗城址と傳へられるが今は荒廢し耕地となつてゐる。

昌圖附近〔昌圖城〕 驛の西方十粁(乘合バスにて約三十分)昌圖城は明代に遼海衞を置いたところであるが明、清興亡の間、蒙古博王旗の領となり今から百年前、嘉慶年間に墾田を始め漢人の集住するもの次第に增加して今日の發展を見るに至つた。漢人植民の初この地に楡の木が多かつた爲め楡樹城とも呼ばれてゐた。城外東南に文廟がある。驛の西北の鉢卷山には明代邊牆上の墩臺の跡がある。〔邊牆〕 昌圖、滿井、泉頭の間には滿鐵線路近くに明代の邊牆と清代の邊牆とが竝んで遺つてゐる昌圖では滿鐵舊附屬地の南方に清代の長柵の跡が土手を成して殘つて居り、また驛東數百米の清陽堡はこの附近の明代邊牆の十三臺の墩臺を管轄した地である。昌圖城の西南六粁に〔跑馬城址〕があり今は荒廢して畑地となつてゐるが往年こゝは蒙古人の競馬場のあつた所といふ。〔天橋山〕 驛の東西粁餘、この山頂より開原、泉頭一帶を指呼することが出來、山容は奇巖重疊、急坂にして眺望絕佳遊山の好適地である。

泉頭附近〔邊牆〕 山海關を基點として奉天、泉頭を經て遠く黑龍江省に走つてゐる邊牆は今から二百七、八十年前の明時代に蒙古と滿洲の境界として掘鑿されたものである。泉頭驛の西北方一粁餘に當る小高い山にその跡がある。〔墩臺〕 滿井から泉頭に亙つて五支里(三・三粁餘)毎に墩、十支里(六・六粁餘)毎に臺がある。墩と臺との導路として老壕がある。墩臺は今から千二百年前、卽ち唐時代に外敵襲來の際之に烽火を揚げて合圖としたと言はれてゐる。驛の東方四粁の地點に大墩臺があり、同墩臺には日露の役に露軍が利用して穿つた塹壕の跡が殘つてゐる。

四平街附近〔半拉山門〕 虻牛哨驛の東北十二粁にある清代邊牆上の一邊門にして、この地は山水の眺めが美しい。〔買賣街〕 楊木林驛の西十二粁、通稱を梨樹といひ梨樹縣の縣公署所在地、舊名は奉化である。市街は土牆を繞らし井字形を成してゐる。この北方六粁に古昭蘇城といふ金の古城がある。偏臉城とも呼ばれてゐる。〔三面城址〕 郭家店驛の西南に當り、東西に走る臺地がその西方で盡きる端に三面城址がある。今は荒廢して土壁の跡を僅に殘し古瓦の破片が散亂してゐる。

公主嶺附近〔公主陵〕 驛の北五粁餘東西に走る丘陵の南面に古廟があり、その背後に二基の墳墓がある。二百年前、清の太宗の公主(皇女)が蒙古達爾罕王家に降嫁し帝都から來る途中、病を得てこの地に薨じた爲め此處に祀つたと傳へてゐるが、信ずべき說としては嘉慶皇帝の姪嬬端公主の墓で道光年間の造營と言はれてゐる。

新京附近〔長春〕 百三十餘年前、清の嘉慶七年蒙古郭爾羅斯前旗に屬する放牧地で漢人の開墾によつて初めて現在の新京の北方六粁半餘に「長春堡」が出來、清國道光五年、現城內に長春廳が置かれたのに始まり爾來滿洲國の創建まで長春の名を傳承した。〔長春城〕 今から六十數年前、同治四年に匪賊防備の爲め市民の醵金により周

圍十粁の不規則な長方形の城廓を築いたものであるが現在城壁の大部分は破壞してゐる。〔石碑嶺〕 驛の東方十二粁、こゝには八百年前から在るといふ金の創業の功臣、完顏婁室の古墳があり今は碑文の龜趺が三箇遺つてゐる。

北滿方面 〔雙城堡〕 南に遼陽、北に雙城堡と往時から殷盛を唱へられたところ市内には結構雄大にして雅趣に富む關帝廟があり、また公園の一角の魁星樓は一名を北門と呼び、華麗壯大な樓閣である。この地に韓光弟將軍の墓がある。

安奉線

陳相屯附近 〔塔山〕 陳相屯驛の東北沙河の流れを距て舊名龍虎山の山麓に安寧寺がありその佛塔が山上に立つてゐる。寺の碑記によれば唐代の建設とされてゐるがこの種小塔の比較研究に從へば金時代の建造とも推定されてゐる。〔奉集堡〕 陳相屯驛の東四粁、漢魏以來の古縣に屬するところ、城壁の煉瓦は取去つて土城となつてゐる。清の太祖が明の守將李秉誠を破つた古戰場である。

石橋子附近 〔騎山子の王墳〕 石橋子驛を出て暫し行けば車窓左手に老松の林で圍んだ墳墓が見える。清の太祖が帝業を興した際に軍功のあつた安平貝勒杜度の墳塋で碑は雍正元年の勅建に係る。

本溪湖附近 〔龍洞〕 滿洲街道を西に行けば本溪湖の街の盡きるところ左手の山腹に鐘乳洞が四、五見える。更に進めばそれと相對する山の麓は龍洞と呼ばれる石灰岩の洞窟がある。〔穎親王の墳墓〕 太子河を渡れば河岸小丘上に和碩穎親王の墓がある。碑は康熙十一年の勅建に係る。この墳墓は初め遼陽城附近にあつたのを水害の爲此處へト葬したものである。

宮ノ原附近 〔平頂山〕 驛の東五粁、海拔三百八十二米、硅岩から成る山で山頂には二つの池があり昔は奇魚が多數棲んでゐたが今は僅少となつてゐる。山腹に李武寺がある。驛の西方約四粁にある雙泉寺は古い禪林で、寺境幽靜閑雅である。

橋頭附近 〔朝陽寺〕 驛の南約一粁にあり、山名を仁山と呼ぶ、白雲臺の斷崖の直下にある禪林で約百年前の建立と傳へられてゐる。日露戰役の際閑院宮殿下御駐泊の由緒を有す。〔釣魚臺と細河の溪谷〕 釣魚臺は橋頭驛南六粁、只一つ獨立した岩石の臺を成したところ臺上に普濟寺が立ち、細河の水の碧潭に臨み、風景絕佳である。

〔南坟〕 南坟はもと南墳と書いた。南坟驛西二粁餘、細河の對岸に清朝創業の功臣甘肅巡撫豐惠山の墳塋があり、この地に祭田があるによつてこの地名を生じたものである。その墓碣は康熙二十六年の建立である。

連山關附近 〔舊連關山と諸驛〕 驛の東南約一粁、山隘を擁したところは古來朝鮮から支那に通ずる街道の最要衝地點で明時代には關門を設け遼陽に向ふ朝鮮入貢使が停つた所である。當時こゝは華夷の分界點とされ一名鴉鶻關又は東關とも言つてゐた。清朝に及んでは關を廢し驛站を置いた。〔石家沿の觀音堂〕 連山關から摩天嶺河に沿ひ摩天嶺への街道を行けば西一粁に在る。

摩天嶺は五峰嶺とも呼ぶ、嶺下に五峰觀と呼ぶ古い關帝廟がある。嶺上の蟠龍寺には關帝と娘々とを祀つてある。

通遠堡附近 〔舊通遠堡〕 驛の北二粁半、明代に山寨を築き前後衞として戍兵を置いたところ、今は城壁を破壞して部內は田園となつてゐる。雙泉寺がある。北方の煙臺山と南方の龍鳳山とには往昔狼火臺を築いてゐたと傳へらる。

秋木莊鷄冠山附近 〔雪裡站城〕 秋木莊驛の東南、鷄冠山驛の東北十粁の地點にあたる。明代からの驛站であるが甄築の內城の西北部分と土壁の外城の西南部分と

が殘存してゐる。

鳳凰城附近 〔**鳳凰城**〕驛の東北一粁城壁は明の成化十七年始めて築造し、後に清の康熙二年重修して現存のものとなつた。大きな檜の老爺廟や古木のある上帝廟が一きは古めかしい氣分を釀してゐる。町の東端に近い文廟は清の光緒年間の建築である。〔**鳳凰山**〕驛の南に聳え鐵道線路に沿つて行けば二粁で登山口に着く。山の高さは九百三十米、一帶の奇巖怪石は悉く花崗岩から成り景勝絶佳である。山中には寺觀が多く總ての寺觀を巡るには半日以上を要する。鳳凰山の特長は大和尚山や千山などに比し女子供の登山にも容易なこと、山中淙々たる清流の絶えぬこと、殊に秋紅葉の美しいことである。〔**メンヒル**〕鳳凰城の西南三十二粁、石柱子にある。花崗岩で高さ八尺五寸、中央部分の幅一尺七寸、厚さ八寸の單立石（メンヒル）であつて、巨石文化の遺物で非常に珍しいものである。

高麗門附近 清初に朝鮮に對する防備として築かれた長柵がこゝを過ぎてゐる。當地はその邊門の一つで高麗門又は鳳邊門と呼び釣魚臺なる地名も存してゐた。現在の市街はその所在地であつたと謂はれる〔**高麗城址**〕驛西北二粁餘、大石城であつたが城壁の一部分と礎石を遺し城門の跡を僅かに留む。高勾麗時代の築城で史上に著はれてゐる烏骨城址である。〔**靑峰山**〕驛北二粁餘、鳳凰連山の一部で山頂奇巖突兀とし風致に富んでゐる。また驛の北三粁足らずの山麓附近に一面山の土城址がある。〔**湯山城**〕湯山城驛の附近、古は湯站と呼ばれ遼陽に通ずる朝鮮街道の驛站の一つで城址は村外れ滿洲小學校の裏手にある。九連城、鳳凰城の中間の城で朝鮮國境九城の一と謂はれてゐる土城である。石碑嶺は湯山城驛の西南八粁多數の石塚がある。

安東附近 〔**九連城**〕蛤蟆塘驛の東方十六粁、安東から鴨綠江上流十三粁。もと九連城を連ねてゐたといふが殆ど遺蹟なく僅に一小土城の跡があるのみ。漢代から三國時代にかけての安平口も唐代に築かれた泊汋城（博索城）もこの九連城に當ると見做されてゐる。安東から行くよりも蛤蟆塘驛からの方が道がよく便利である。〔**鎭江山**〕安東新市街の背後にあり山は公園となつてゐる。眺望雄大、櫻の名所として喧傳されてゐるが四季を通じて遊覽客が多い。〔**元寶山**〕安東市街東北の背後に聳ゆ、邦人間には安東富士と呼ばれ日露役の古戰場にして山の前面は公園となつて居り眺望佳良園内には由緒深い天后宮がある。

京圖線

東新京附近 〔**清眞寺**〕商埠地にあり、清の道光二十二年の建造に係り俗に回回塔と呼び結構雄大である。〔**大城子**〕東新京の北約十粁、往昔高麗の駐兵した處と謂ふ。周圍約二粁の土墻を繞らしてゐる。

卡倫附近 〔**卡倫**〕清の康熙年間に鎭臺を設け要關となつてゐた。卡倫は滿洲語を漢字に當てたもので邊臺を意味する。市街の南に在る。興眞寺は清の嘉慶年間の建立である。驛の南約二粁に在り三粁の土城は〔**小城子**〕といつて高麗の屯兵した處と謂はる。

〔**飮馬河附近**〕この地は曾て驛馬河と稱してゐたが清の高宗東巡の折、馬に水飼ふた古事によつて飮馬河と改稱したと傳へらる。飮馬河驛の東南八粁に前清の旗人郭臺嶺催の墓があり墓前に巨人阮翁仲の石像及び牛羊等の石像がある。

〔**下九臺附近**〕この地は往時晒網哈臺と稱し附近に柳條邊墻の跡がある。驛の東二粁半餘に清の聖祖が東巡の際駐蹕せる裕泉寺がある。また營城子驛の南方に鎭臺のあつた土城址がある。

土們嶺附近 附近一帶は風光明媚で驛の東北四粁の瑪琥山嶺には石廟數箇あるが

年代不詳。〔烏拉城跡〕孤店子の附近松花江の東岸にある。吉林烏拉（現在の吉林）に對して打性烏拉と呼び遼金時代は地方文化の一中心をなしてゐた。約十粁の土城が繞つてゐるが大半は壞れてゐる。烏拉城の北方點將臺の上に三宵殿が建つてゐる九站驛の南方十二粁にある〔行營跡〕は清の高宗東巡の際、駐蹕したところである。市街の東方八粁、三道嶺麓に德將軍の墓がある。

吉林附近 〔吉林〕遠く二千年の昔鷄林と呼ばれ高勾麗の築城した所、次いで渤海國が興り吉林烏拉（滿洲語で大江に沿ふ意）と改めらる。日本よりの入唐者が千二百年の昔この地を踏んだ史實が殘つてゐる。

明末、長白山麓に發祥した一世の英傑、愛新覺羅（清朝の太祖、即ち現滿洲國皇帝の祖）が率ゐた所謂滿洲八旗の子孫は今に旗人と呼ばれこの地に住んでゐる。明代に征東水軍が駐屯し清の順治年間造船所を設けてより船廠と呼び寧古塔將軍がこの地に移駐して吉林と改稱した。〔北山〕吉林驛より西方約五粁、山の中腹より輪奐の美を極めた關帝廟、藥王廟、坎離宮、玉皇閣の四廟が蒼々たる楡樹の間に隱見してゐる。每年舊曆四月の大祭には山中の諸廟は一齊に開帳し全山賑はふ。吉林東萊門外の天壇胡同に〔文廟〕があり、北大街に回々敎の〔清眞寺〕がある。〔靈仙府〕巴虎門外西北約五百米、望靈山麓にあり堂宇、樓門の軒には無數の怪奇な獸頭の戯れる彫物があり數ある吉林の廟宇中に異彩を放つてゐる。

〔玄帝觀〕北極門外天嶺（砲臺山）の頂上の廟宇が悉く黑色を以て彩られてゐる。

〔萬壽宮〕西門外に見える黃金色の甍が萬壽宮で、清の乾隆三年の創建と傳へられる。清朝名筆家鐵保の碑石を保存してゐたが大正十二年、北山に移された。〔圓山子〕

吉林驛を出て松花江の鐵橋を渡つて右側に見える山で高麗城址と傳へらる。今も石器、土器等の古物が發掘されてゐる。〔小白山〕吉林省城の西南四粁餘清の雍正十一年山上に正殿、祭器樓、碑樓等を建立長白望祭殿と呼び每年春秋吉林將軍は清朝發祥の聖地長白山を望祭したと傳へらる。今は山頂の廟宇は頹廢し正殿のみ殘つてゐる。また吉林の東八粁の江沿に阿什哈達の小部落は明將が女眞征伐の砌兵站を設けたところと傳へられる。〔龍潭山〕龍潭山驛より數百米で山麓に至る。山は一名、尼什哈山（小魚の謂）といひ海拔四百六十米、山頂には乾隆年間に雨乞ひしたと傳へられる龍鳳寺がある。寺の西北に龍潭と呼ぶ底知れぬ池があり一名水牢とも稱せらる。この邊り景勝に富む。〔天崗〕驛より二粁に關帝廟がある。建立年代不詳、驛の南八粁、天橋崗の崗上からの眺望は西は老爺嶺、東は江密峰の間を一目に收め絕佳である。

敦化附近 〔敖東城〕敖東城は唐代の舊址で敦化の舊名である。今は全く荒廢して牡丹江の左岸に僅かにその名殘を留めてゐる。東北約一粁のところ延吉街道の北側に渤海時代からの古城址がある。阿古敦城と云ひ二重の土塀を圍らしたものである。〔銅佛寺〕町の名は銅佛寺と呼ぶ古刹より出たものである。市街の北方、兵臺地に城址がある。

北鮮線

〔鏡城〕太古肅愼時代より諸民族の興亡去來の地として知られ受降樓の舊跡がある。〔白泉寺〕金生驛より半粁、朝鮮古來の寺院にして、山上よりの眺望が佳い。〔會寧〕古來北邊六鎭の一に數へられ、文祿の役、加藤清正は長驅この地まで軍を進めたのであつた。また清朝發祥の地はこゝであるとも傳へられてゐる。〔輸城〕往時より要害の地にして加藤清正の古戰場や石城跡があり史蹟に富む。また〔穩城〕は高勾麗、女眞時代から國防の要鎭であつた。〔承良〕驛の東南二粁に松林叢生し山上からの眺望佳良、これを龍堂と呼び李太祖時代に馬術、

弓術の練習をしたところと謂はれてゐる。

圖佳線

〔東京城〕 東京城驛から四粁に東京城址がある。千二百年前滿洲族(古代靺鞨族)の作つた渤海王國の上京のあつたところで現在市街の周邊四粁四方に亙つて當時の土壁が殘され、街の西方に當時の宮殿跡や或ひは清時代に建立された南大廟中には渤海時代の燈籠、梵鐘が保存され當時の文化を偲ばせる。

〔鏡泊湖〕 東滿の神祕境たる鏡泊湖は東京城の西南方に當り周圍百十八粁、千古の大自然林に圍繞せられた幽邃境である。この湖には魚族が頗る豐富である。湖の水が牡丹江に流出する口に吊水樓瀑布が懸り甚だ壯觀を呈し、これに四季通、張家水鄕、鏡泊ライン、白崖島、眞珠門、大頂子、高麗城址と湖畔の七景を加へて鏡泊八景が設定されて居る。〔寧安〕 別名を寧古塔と稱し東京城と同樣に渤海國以來の古都で市街は內外二重の城壁に圍まれて居る。

市街西方牡丹江に臨み寧安公園及び殉國の勇士を祀る小島ヶ崗があり、その西端に康熙三年建立の西閣觀音寺があり、昔寧古塔の街を水難より免れしめたと言ふ傳說がある。この對岸依田大橋を渡つた鐵道線路の西に淸の黑龍江將軍傅察薩布素氏の碑があり建國大學稻葉博士が最近發見されたものである。

奉吉線

〔元帥林〕 高麗營子と呼んでゐたが張作霖がこの地を自分の墓地に遺言してから元帥林と改稱したものである。張學良は昭和四年、陵墓建設に着手したが、滿洲事變によつて中絕した。陵は驛の南方約一粁、水龍臥と稱する丘の上にあり、今は廢墟となつてゐるが前に運河の淸流を隔てゝ鐵龍山が聳え立ち景勝の地である。

〔鐵龍山、薩爾滸山〕 運河を隔てゝ元帥林と相對する鐵龍山と營盤驛の東方にある薩爾滸山は兩山とも明、淸の興亡を賭しての大激戰サルホの戰蹟地である。この戰に於て淸の太祖弩爾哈赤は明將杜松の率ゐる大軍を擊破し淸朝確立の第一歩をこゝに樹立した。山上に城址がある。〔碑樓子〕 營盤驛を距たる東南一粁に碑樓がある。淸の太祖が明軍擊破を記念すべく建てたものである。

平梅・梅輯線

西安附近 〔龍首山と維摩羅詰公園〕 龍首山は西安の市街の東南隅にあり附近一帶の眺望が佳い。この山の西側の公園內には佛殿、涼亭、魁星樓等があり絕好の行樂地である。〔葉赫東城〕 龍首山に在り內外二城に分れ周圍約二粁半、明末の葉赫部の居城と傳へられてゐる。今は城址と四つの門を遺してゐるのみである。〔柳河縣城〕 柳河驛の西南四粁、西門外の柳河橋附近の風景は佳良である。東門外には娘々廟がある。

濱洲線

哈爾濱 〔極樂寺〕 極樂寺は新市街と傅家甸との中間にあり市內唯一の支那寺院(西暦一九二二年創建)でこの南方數百米に文廟がある。〔露西亞寺院〕 哈爾濱の市街美に大きな役割を果してゐるもの〻一つは露西亞寺院の大伽藍である。今尙帝政露西亞の夢を漂はせその名殘を留めてゐる。

〔興安嶺〕 濱洲線中の景勝地帶興安嶺の中でも扎蘭屯—興安間は最佳境である。夏季は山も草原も綠の絨毯となり、其間を草花で彩られる。白樺の疎生せる丘陵性の興安の山々の異色ある風景は何人をも魅せずには措かない。〔海拉爾〕 由來バルガ或は呼倫貝爾蒙古の中心地として有名な所、市內には關帝廟孔子廟がある。〔甘珠兒廟〕 海拉爾南方(片道自動車で一日、馬車で三日行程)にあり興安北省に於ける最大の喇嘛廟である。乾隆四十九年淸の高宗帝の聖旨により壽寧寺の名を賜り、後に西藏から甘珠兒經典を招來してより甘珠兒廟と俗

稱してゐる。例祭は舊暦八月六日より十五日まで廟市と共に名高い。

濱北・北黑・齊北線

〔呼蘭〕北滿屈指の歷史を誇る古都で金時代に始まり經濟文化の中心を持續してゐたが哈爾濱の發展と共に漸次勢力を奪はれた。町の西方に西崗公園があり石人城の傳説で有名な石人はこの園内に祀られてゐる。

〔石公祠〕風光明媚な呼蘭河の沿岸の小高い丘にあり、鎭守使石中將の德を慕ひ、市民の建設した祠で環境雅致に富む。〔關帝廟〕呼蘭市内にあり前淸時代の建設にかゝり堂宇の結構善美は全滿有數のもので當時の建築美術の粹を集めてゐる。市内にはその他娘々廟、天主堂、淸眞寺などがある。

〔綏化〕呼蘭と共に北滿の古都で寺院が多い。娘々廟は綏化の名所を代表するもので外に祖師堂も有名である。〔海倫〕馬占山が假政府を立て蟠居してゐた所として知られ市内には娘々廟、祖師堂、聖朝廟がある。〔璦琿〕露西亞の滿洲侵略史の第一頁を飾る彼の璦琿條約で有名な所である。我國にとつては日淸協約に依り商埠地として開放された緣りの土地である。

〔齊齊哈爾〕淸朝が露西亞の勢力の東侵に備へて建設した都市で二百數十年の歷史を有す。驛の西方四粁に龍沙公園(一名、倉西公園)があり嫩江を隔てゝ北滿の大曠野を望む景觀は極めて壯大である。

平齊・京白・白阿線

〔洮南〕洮南はもと沙鷄街毛頭(サチガイモト)と呼ばれてゐた。サチガイモトは楡の木の意で荒寥たる原野に一本の楡の大樹が茂り立ちこゝに疲れを息める旅人の數が增して日を定めて市が立ち何時となく部落を成してその名を大樹に因んでサチガイモトと呼ばれるやうになつたとの口碑を傳へてゐるが傳説の楡の木は齢盡きて枯木となり、北門内の民家の屋根に亘龍のやうな姿を覗かせてゐる。〔雙塔子〕雙塔子洮南の東北二十粁。は高さ六米餘の異樣な一對の喇嘛塔で附近の楡の木の茂みと共に賞すべき野趣がある。〔鄭家屯〕鄭家屯驛の西方五粁に鄂博(オボ)山がある。一望千里の曠野中にある高さ二十三、四米の小丘で山頂に蒙古王領の達爾罕(ダルハン)旗と博王(ボワン)旗との境界の標識を爲す鄂博(オボ)がある爲めにこの名がある。鄂博とは蒙古人の尊崇する神を祀りまた境界線を示す役目を勤めるもので石や木を積み重ねた極めて原始的な祭壇である。

〔扶餘縣城〕前郭旗驛の北方、第二松花江を隔てゝ六粁の地にある。扶餘はまた伯都納(トナ)と謂ひ上古の肅愼(扶餘族)の地である。明の時代に至り蒙古族の侵略を受けて之に占據せられた。而して金の太祖が寡兵を以て遼の大軍を擊破しこの地に於て國礎を固めたことは史上有名である。また長春嶺の東南、石碑崴子に在る得勝陀は七百餘年前、金の世宗が遼の誓師處を伐つた時に建立した記念碑である。扶餘縣城南門外に在る老爺廟は高麗時代の建築でこの外太陽廟は堂宇の華麗を以て名高い。また回教の淸眞寺もある。

〔阿拉街(アラカイ)廟〕京白線王府驛の東方六粁にあり、蒙古郭爾羅斯(ゴルロス)前旗王の家廟で本名を崇化禪寧寺と稱し喇嘛教の寺院で堂宇極めて壯麗で廟祭には市も立ち殷盛を極む。

〔農安〕農安縣、扶餘縣一帶は滿洲最古(紀元前三世紀)を誇る所謂扶餘文化の發祥地である。城の内外には古代の陶磁器及び煉瓦、屋根瓦等の破片が多い。

〔龍安塔〕農安縣城西門外。八角、十三層高さ約七十八米の塔で遼代の建設と謂ふ。

〔葛根廟〕白阿線葛根廟驛の北方三粁、景勝の地にあり明代の創建と傳へらる。蒙古札薩克圖旗王家の菩提寺で規模の雄大、堂宇の壯麗は大鄭線通遼驛西方の茂林廟と

併稱されてゐる。喇嘛廟で僧侶約一千名を有する。

〔王爺廟〕 王爺廟驛の附近にある喇嘛の王爺廟は今は荒廢して見る影もない。王爺廟驛の西北四十粁、蘇鄂公府に滿洲建國の人柱となつた中村少佐、井杉曹長の靈を弔ふ記念碑が建てられてゐる。

〔阿爾山〕 白阿線の終點、阿爾山は大興安嶺を東から西に越えた斜面の高地にあり幾多の神秘と傳說に彩られた蒙古の聖地でまた溫泉鄕である。

大鄭・新義線

〔茂林廟〕 通遼驛から三十粁西方にある茂林は莫林とも書く。喇嘛教の古刹で乾隆三十一年の開基、堂宇は總て西藏式でその壯麗は內蒙古隨一の稱がある。

〔阜新〕 阜新縣城の西二十粁に當る王府には蒙古王族の邸宅や、喇嘛廟等があつて蒙古色豐かである。城西三十五粁には喇嘛僧二千を有する瑞應寺、城南十五粁には紅葉の名所、吉慶寺等が散在してゐる。

義縣附近 〔義縣城〕 驛から三粁、大凌河に面し遼西に於ける有數の古城で約五百年前に改造されたものである。〔大佛寺〕 本名は奉國寺義縣城內東街にある。本堂大雄殿は遼の開泰九年（今から九百餘年前）の建立で佛寺としては滿洲最古の木造建築物として國寶的價値を有するものである。

〔嘉福寺〕 佳福寺とも云ふ。城內西南隅に在り境內には俗に義縣の白塔と謂はれてゐる磚塔がある。前記の大佛寺と共に遼の開泰九年の建造で高さ六米餘、遠く數里の地から望見される。〔萬佛洞〕 縣城北門外西北約十粁の山中にあり大凌河はその下を環流してゐる。北魏の太和二十三年（今から約千四百三十年前）に建造されたもので京包線大同の石佛と同時代のものである。洞內の佛殿には大小の佛像數百體を安置し頗る偉觀を呈してゐる。

錦古線

朝陽 朝陽驛の南方約三粁、大凌河谷に位し景勝、要害の地である。遠くは燕がこゝに城を築き五胡、十六國時代の古都であつた。〔三座塔〕 朝陽城內に在り遼金時代に建てられた三基の塔の中の二基は現存してゐて、契丹文化約千年の歷史を傳へてゐる。驛西十數粁の山上には由緒なほ不明の古塔が一基ある。〔佑順寺〕 朝陽城內の中央部に廣大な境內を占めてゐる。清の乾隆帝の欽定にかゝり廟內には二百餘の喇嘛僧が住んでゐる。〔鳳凰山〕 朝陽の東南十三粁餘、大凌河の彼岸に巍峨として聳ゆ。山頂に一塔あり諸峰之を抱くが如き景觀を呈し山中の朝陽洞には臥佛像がある。朝陽の西方山に三塔のあるのを三塔山といふ。

凌源 二百年前、蒙古人によつて建設された市街である。市內には宏壯なる寺廟がある。〔長壽山〕 凌源の東北二百四十粁山上に元の雲峰眞人康太眞の墓碑があり山麓には玉觀の舊址がある。〔魚の化石〕 凌源の北十二粁の所は附近一帶に侏羅紀（百萬年前）の化石層が露出してゐる。

〔瑙瓔山〕 平泉驛の東方二十粁。山腹の洞に泰山神を祀る。二泉あり一は高巖より一は山麓より湧出で山下を遶つてゐる。

承德 熱河地方は古く慕容氏燕國の勃興以來遼金の根據地となり元時代には大寧路に屬してゐた。淸朝康熙帝の塞外巡幸によつて隙地の墾耕を諭し農民を招致しまた木蘭圍場の卷狩に從ふ者も此處に集り行宮以外に諸種の商舖軒を列ね塞外第一繁華街を現出した。淸朝の雍正元年こゝに初めて熱河廳を設け直隸蒙古八旗を統轄せしめ赤峰朝陽方面より北京に通ずる要衝となつた。〔避暑山莊〕 所謂熱河離宮であつて淸の康熙帝が塞外巡狩の際この地の環境及び景勝の非凡なると、塞外經綸上好箇の地點たるに鑑みて康熙四十二年に工を起し次の

乾隆帝がその末年に完成したものである。

清朝の中期以後、營繕行屆かず逐年朽破しその後心なき軍兵の蹂躙するところとなり急激に荒廢して誇りし輪奐は全く見る影もなき姿となつたのである。併しその規模の廣大と結構の美は往昔の盛觀を想ひ起すに難くない。山莊の周圍は十粁餘、東亞稀覯の舊蹟である。〔喇嘛廟〕避暑山莊外、武烈河を隔てゝ獅子溝竝に棒錘峰下の山丘に建造された喇嘛廟及び寺園を八大寺と謂ひ八大處とも稱へてゐる。孰れもその規模宏大華麗を極めたものであるが今は山莊と共に極度に荒廢してゐる。その背後の丘阜に倚つて建つ寺廟中、普寧寺、須彌福壽廟、普陀乘廟等は結構壯麗にして偉觀を呈し棒錘峰下の伊犁廟と共に熱河に於ける代表的な建造物として誇つてゐるのみでなく、東洋美術の豪華版としてその極致を示してゐる。山莊竝に八大寺その他の伽藍は最近滿洲國の保護建造物となり復原修築することゝなり、既に着手されてゐる。

詳細に視察するには一週間以上を要するが大觀するには一日でもいゝ。案内料は一名に付き離宮三十錢喇嘛廟三十錢(學生團體十錢、普通團體十五錢)。寺廟拜觀料五十錢、喇嘛廟巡拜乘物(駱駝)四人乘一圓五十錢(羅漢山裏、棒錘山麓一周)

その他承德附近には文廟、關岳廟、城隍廟、清眞寺、酒仙廟、五火神廟、五指山、僧冠峰等の名勝舊蹟が散在してゐる。

〔灤河下り〕 承德から河北灤州まで三百三十餘粁、風景の最も勝れてゐるのは下板城から國境の喜峰口を過ぎ撒河橋までの間である。常水時下航四日、一艘五、六人乘り貸切三十圓前後。**〔雙塔山〕** 雙頭山驛の南方に大小二峰矗立すること百餘丈、その一峰は中間に三孔あり東塔の嶺に古廟があるが何人の建立か不詳。**〔豐寧〕** 承德の西北百粁、遼金時代の土城址にして灤河の支流興州河の上流谿谷中にある。**〔隆化〕** 承德の北方五十五粁、この地は康熙帝の長姑淑慧公主が巴林王に降嫁されたとき化粧料として下賜された。康熙四十二年、こゝに行宮を建設せられた。**〔圍場〕** 承德の北方百三十五粁、もと木蘭圍場と稱し清の皇室の御獵地である。**〔全寧〕** 烏丹城、赤峰の西北八十粁、元代に於ては魯王の封地で全寧路の首府で蒙古名を波羅河屯といふ。波羅は青黑の意で烏丹城の名は之より出づ。城内の老爺廟は乾隆十二年に建てられたもの古城址は烏丹城の西方にある。**〔大板上〕**

林西の東八十粁にある大巴林旗のことである。約二百年前成吉思汗の後裔が入り代々盟長を勤めてゐる。こゝの喇嘛廟は内蒙古西部地方を代表するもので舊暦七月一日から一箇月間に亘つて行はれる廟祭と同時に廟市を開き、特種の殷盛を極めてゐる。

〔寧城〕 赤峰南方八十二粁、遼代中京の跡で南方に大明城址があるが今は全く廢れて殆ど見る影もない。たゞ當時の盛榮を物語る三基の白塔が畔中に寂しく屹立してゐる。**〔建平〕** 朝陽西北九十二粁、清の光緒三十一年縣を置き宣統三年土壁を築いた。

奉山線

〔塔灣〕 皇姑屯驛の西北三粁餘の丘陵の上に八角十三層の古塔がある。遼時代の建立と傳へらる。**〔巨流河〕** 驛の北四粁に巨流河城がある。清朝初年の築造で古くは唐、高勾麗時代の古戰場として知られ清の康熙雍正年間、相繼いでこの地を塡築して漸く坦路となつたと傳へらる。**〔王瞻石〕** 高山子驛から十二粁の所にあり清入關の時功臣王誥がこゝに殉節したと傳へらる。**〔閭山〕** 醫巫閭山は奉山線四大名勝の一つである。

溝幇子驛より二十八粁北鎭縣城の西にあたり蜿蜒と連なる秀峰は滿洲隨一の稱ある仙境閭山である。山中に四大古廟、四十有餘の寺觀が點在しこの山一帶は聖域として古く舜の頃から知られ遼朝以來樹木の伐採を禁止してゐたので老樹繁茂してゐる。遼の帝王の陵墓もあり東麓の北鎭廟は閭山の

山神を祀つてあつて閭山總寺廟中の中心を爲すものである。〔石山站〕驛の北八粁、北大山の山頂に古刹がある。明代の建築と傳へられ四圍の風景絶佳である。〔大淩河〕太淩河の東方にある。この地一帶は明代に北防第一線としての要地であつたが明末淸の太祖弩爾哈赤に攻め陷された所である。〔雙羊店〕雙羊店驛の北二粁に錦州八景の一なる紫金山がある。

〔錦州城〕錦縣驛から南約一粁半、古く唐代から知られ弘治十一年に時の參將胡忠併が舊城壁に修築を加へたものである。

〔廣濟寺〕錦州城內の中央に在り大佛寺とも言ふ、寺前の寶塔は高さ百十八米、八角十三層、千二百年前遼の道宗年間の建立で滿洲に於ける大塔の雄である。〔古塔寺〕廣濟寺の大塔に對する小塔にして城內西南隅にある。また錦州城の北、二郎山に望海觀がある。〔觀音洞〕錦州城北十粁の山中に二洞があり、中間に觀音閣が建ち傍に龍湫と呼ぶ泉がある。松樹の點在に風致を添へてゐる。〔小洞寺山〕小洞寺山城北十三粁餘にあるは仙境で自然石の門成に洞がある。東洞に石佛、西洞に石榻があり淸の同治年間、高士が登仙した地といふ。なほ乳峰山、十三山、望海山、小洞子山、白雲山、牛心山等の名所がある。また錦縣を中心とした附近の名勝には錦州八景があるが多くは交通不便の地に在り探勝は容易でない。〔陳家屯〕驛の西北十粁の山上に臥佛寺があり驛の西四十粁には普陀寺がある。浙江の普陀山に彷彿した景觀を呈してゐる。〔西海口〕高橋驛の東南十粁の海岸、西海口は蒙古人の神祕境としてゐるところで每年舊曆五月五日前後には多數の蒙古人が水浴に來て賑はふ。附近に筆架山の名勝がある。〔虹螺山〕高橋驛の西北十六粁餘に當る小虹螺山には龍泉寺、望海寺、朝陽宮や虹螺女の梳粧樓などがある。更に十粁に大虹螺山がある。金の時代こゝに虹螺寨を置きまた明代には築城して邊防に備へたと傳へらる。錦西驛附近の連山明代に關所を設けて朝鮮より入貢の道としたところである。また壺蘆島線の終點、附近一帶の海は風光明媚である。

興　城　地名を寧遠とも稱し古來地勢上要害の地として知られ明代には廣寧の衞地となり、明の宣德の頃に寧遠衞城を築かれた。明末の英傑袁崇煥が滿洲王弩爾哈赤の大軍を阻止し一時明朝の滅亡を支へたのはこゝである。今の城廓は驛の南六百米、近世の築造であるが錦州に次ぐ立派なものである。〔祖氏石坊〕興城南門に高さ約十一米の石造の牌樓が二基ある。その彫刻は頗る精巧、明の英傑祖太壽の一族が建立したと傳へられてゐる。〔首山〕興城驛の東四粁半餘、遠く望めば三峰並峙して人首の如しといふ所からその名がある。秦將軍李信がこゝに屯兵したと謂はれ中峰の頂上に墩臺がある。山中に古刹朝陽寺があり南に近く渤海の靑波を控へ山上からの眺望は廣濶絶佳。〔興城溫泉〕驛の東南四粁、古來靈泉の名高く唐の太宗遠征の砌、傷病將卒はこゝに療養し淸の乾隆帝は東巡の折に湯治した史實がある。〔菊花島〕興城の南二十粁の海上に浮ぶ小島、島には大悲閣、八寶琉璃井、唐井洞、石佛寺、唐王城などの舊蹟が多い。戰國の世、燕の太子丹、また明の祖太壽が逃入したのはこの島である。

〔白廟子〕驛北二粁に白廟があり東辛莊驛に近い鳳鳴山の山頂には娘々廟がある。●

〔綏中縣〕縣城はもと中後所と稱し驛の北約一粁半餘にある。現在の城は唐末の建築で東西南の三門を有し北門は無い。南門飛樓に「關外第一縣」の大扁額が懸つてゐる

〔前衞〕市街は城壁に圍まれ長城外の小都市である。北方連嶺のうち三山は長城外の主要嶺で山中松樹多く山上の眺めは雄大壯麗である。また〔前所〕は明の宣德年間千戶所を置いたところである。〔萬家屯〕滿支國境に近く驛東の老軍屯は淸朝皇帝が

滿洲巡幸に出關の際通過された道筋に當つてゐた。驛の西四粁餘に美女祠がある。長城の築城にからまる悲戀物語の主人公孟姜女を祀つてあると謂ふ。

京山線

山海關　古來北方より中原を窺ふものはこの地を脅かすをことゝし隋末より唐宋時代は常に干戈の巷となつた。明の太宗洪武年間に三十二關を築造しまた別に山海關城を築いた。今の城廓は卽ちそれである。東門樓上には明の蕭顯の筆になる「天下第一關」の大額が興亡幾星霜、老大國の歴史を祕めていまに懸つてゐる。〔萬里長城〕 山海關にある長城は千三百年の昔、隋の煬帝の築いた所である。〔角山〕 山海關の城北三粁の地、角山上に棲賢寺があり境內の靈泉は萬病を癒すといふ。この東北約三粁に玄陽洞の洞穴があり佛像を安置してゐる。〔二郎廟〕 角山の西南約二粁に秦の大將軍李永の二子二郎王を祀る二郎廟がある。乾隆三十年の建立で四周聳張して山水の風致秀れた佳境である。その西約三粁五泉山の山頂に五泉寺がある。

秦皇島　この地はもと藻塘子と呼ばれた一寒村で海岸から僅に突出した一小島であつたが清の光緒二十四年小海峡を埋立てて陸と連絡したものである。〔湯河寺〕 秦皇島驛から二十粁湯河寺の院外に溫泉湧き四圍淸幽で、春季は梨花の行樂地として良い。〔留守營〕 留守營驛の西五粁餘に淸泉寺がある。側に奎星閣、玉皇閣が建ち山林幽密にして高臺より望む南海の眺めは格別勝れてゐる。〔昌黎〕 昌黎驛から約六百米に縣城がある。金の世宗が大定三年（西紀一一六三年）の築城にかゝる廣寧の古城。

この附近には韓文公祠を初め名勝舊蹟がある。また後封臺附近に興隆山の石佛洞や鳳凰山の淸境がある。〔安山〕 驛の背後に景勝地九龍山がある。また驛西北に千松嶺があり境內に馬蘭坡、桃花峪の諸勝がある。

驛の東北一粁半の淸峰寺に年代不詳の十八羅漢、如來佛の石像がある。

石門驛から六粁半に書院山があり、山勢逼つて屏風の如き下に朝陽洞がある。また武山の山腹崖壁に閣黎洞があり、このあたりは遼金の時、土民が兵を避けた處であるといふ。灤縣附近の灤水龍翔、岩石虎踞、偏涼虛閣、橫井浮烟は〔灤洲四景〕として知られてゐる。雷莊附近の黑口舖に孤竹臥城がある。碑家店驛の近くに鮮卑仲吉の墓があり、また驛の後方約一粁半の萬福山に三皇藥王閣がある。明の萬曆年間の建立と謂はる。開平鎭は開平驛から約一粁半のところ、漢の石城故址である。〔唐山〕 唐山驛の西方六粁の處に彌勒洞堂がある。彌勒洞は唐の太宗東征のとき築かれたといふ石城。また唐山の東麓に姜將軍の墓がある。

元代に建立された興國寺及び仙茶と甘冽の泉とは有名である。胥各莊縣城南關外の玉皇閣に龍を刻んだ石塔がある。胥各莊驛から十數粁にある藥王廟は靈泉をもつて知られてゐる。〔唐坊〕 驛の西南五粁餘、富家莊の藥王廟には肉胎像がある。涵宏僧の遺蛻といふ。〔蘆臺〕 五代の時、劉守光は蘆臺軍を置き淸末に駐在所を設けて兵を置いた。蘆臺場に鹽姥廟があり市內に寺廟が多い。〔軍糧城〕 また梁城ともいひ、五代劉仁恭は嘗てこゝに築城してこの附近を開墾したものである。

天　津　古の春秋戰國時代に於ける燕國は今日の天津、北京一帶の地方をさしたものである。天津の名稱は明初、天津三衞鎭を設置したに始まり明の永樂二年（皇紀二〇六四年）城を築いて天津衞を置き、爾來各地より移住するもの次第に增加して市街を成したものである。〔李公祠〕 天津市內にあり、清の光緒三十一年の勅建にかゝり北洋大臣たりし李鴻章を祀る。また城內の鼓樓は明の永樂二年天津城廓と共に建てられたものである。

回々敎の會堂である〔清眞寺〕の宏壯な建物は天津城外の一偉觀である。〔海光寺〕康熙四年、僧成衡の創建に係り聖祖の勅額により海光寺と稱するに至つた。〔桃花堤〕天津總站の北に當り、陽春桃花の名所である。〔新河桃林〕新河驛から約一粁半、新河河沿にあり、數萬株の桃林があつて開花の候は賑はふ。〔豆張莊〕驛から五粁餘の黃花鎭に玉皇閣がある。唐以前の建築と傳へらる。郞坊驛東六粁半餘に黃帝遺跡と傳へられる〔安墟舊址〕がある。また萬莊驛近くに物見臺があり、樓上に懸る古鐘は大安年間の鑄造と謂はる。〔豐臺〕金代の郊臺であるが當時豐宜門(南門)外にあつたので豐臺と稱す。元代には花卉の栽培所で元人の園亭は多くこゝにあつた。

豐臺驛から二粁半餘、大井村に高さ三丈餘の古銅佛が一體ある。年代は不詳永定門驛の南に燕墩がある。東便門驛の對岸〔蟠桃宮〕附近は春から夏に河遊びの人々で賑はふ。

北　京　北京の名稱は明代に始まるがそれ以前にこの地は既に遼、金、元三朝の古都であり、更にその沿革を尋ぬれば遠く周代に遡る。現在の內城は大體に於て元の大都の舊を襲用したもので、明の永樂十五年(皇紀二〇七八年)從來の土城を磚城に改めた。その城壁の高さ約十米、周圍約二十四粁で稍々長い方形を成し周圍に九門を有し、外城は卽ち羅城で、明の嘉靖四十三年(皇紀二二二四年)に竣成。周圍十八粁餘の長方形で城壁の高さ約六米、周圍に七門を有してゐる。

皇城は正陽門內に突出してゐる中華門から天安門に亙る一部を正面とし、周圍約十粁四の地域を前清皇城としてゐたが墻壁は取壞され今では只その地名を存するのみである。〔紫禁城〕大體、明の永樂十八年(皇紀二〇八一年)の竣功であるが、明淸兩朝にて屢々修繕增築せられ古い建物は比較的少い樣である。〔午門〕(歷史博物館)紫禁城外朝の正門で東西に兩廡を附してゐるのが特徵であり尙ほ城門としては世界最大の建物であると謂ふ。〔外朝の諸大殿〕(古物陳列所)外朝は紫禁城南半の一郭で主として天子の朝儀を行はれた所でその中央三分の一は專ら天子大朝の場所で東西の兩部は天子學問關係の用に充てられた所である。午門の北に五座の金水橋があり、之を渡れば太和門がある。門を入れば遙に高く三層の白石基壇の上に太和、中和、保和の三大殿がある。この他に天子が春秋の經筵を行はれた文華殿、また傳心殿、文淵閣、武英本殿、浴德堂等もある。〔內廷の諸宮殿〕(故宮博物院)紫禁城の北半部は內廷で明淸兩朝を通じ帝后は日常生活の大部分を此處で送られてゐた。この一郭の內中路は內廷に於ける帝后の正殿たる乾淸、坤寧の兩宮及び交泰殿が主になつてゐる。〔太廟〕(故宮博物院太廟分院)太廟は天安門の東にあり、紫禁城前の左に配せられ淸朝帝后の神位を奉祀した所である。太廟の西は舊〔社稷壇〕で、民國三年始めて中央公園として開放せられ今は北京公園と稱してゐる。〔景山〕北京內城の中央に位し山中に石炭を埋藏してゐるといふ傳說から俗に煤山とも稱してゐるが景山の名は萬民景仰の意味で東麓に近く明崇烈帝の縊死せられた槐樹が今なほ存してゐる。流賊李自成の軍にこの帝都を蹂躪され明朝三百年の社稷は實にこの山下に絕えたのである。この山上より俯瞰すれば紫禁城の壯觀一目の中に集り、北京の大觀を悉く指呼の間に知ることが出來る。

〔西苑〕紫金城の西苑は卽ち太液池で南中、北の三海に分れてゐる。南海東岸の流杯渠は流觴曲水の遺址として珍しい。中海の西岸に近く卍字廊、居仁堂、懷仁堂、紫光閣等がある。北海の瓊華島は一に白塔山と稱し山上の喇嘛塔は淸初の創建にかゝる。北岸の五龍亭、極樂世界、萬闡佛樓、福寺、小西天、大西天、九龍壁及び北門內

の先蠶壇等何れも一覽すべき場所である。
景山の西方の〔大高殿〕は天子祈雨の靈場で門前の雨亭は人工の極を盡したものと稱せらる。後門外に〔鼓樓及び鐘樓〕がある。この邊は元の大都時代に於ける中心地で、中心臺とも稱してゐる。これ等は夜間市中に時刻を報じ、非常時の警報臺となつてゐたもので此處に懸けられてゐた鐘に絡まる傳說の鑄鐘娘々廟は樓西の胡同中に殘つてゐる。〔國子監〕成賢街にある。元、明、清三朝の國學の舊址、北に設けられた辟雍は周代天子の學宮たりし舊制に據り清の乾隆末に建てられたものである。孔子廟の東にある喇嘛廟〔雍和宮〕は康熙朝に於て雍親王府であつたが、雍正帝入りて大統を繼がれるに及び龍潜藩邸となつたもので之を喜捨して喇嘛の道場とした。廟東の柏林寺は元刹で北京著名の禪寺であり、廟の東北隅には舊離宮の跡もある。〔文天祥祠〕この邊が卽ち元代の柴市で文天祥授命の地であると謂ふ。祠後の小樓は文山公絆の舊址であると傳へられてゐる。〔隆福寺〕明代景泰三年の勅建で、この隆福寺街は前門外の琉璃廠と共に書影で有名な所である。〔護國寺〕元代開基の古刹で元明の碑數基を有す。隆福、護國兩寺は古くから東廟、西廟とも稱せられ廟市を以て知られてゐる。

〔白塔妙應寺〕阜成門内の喇嘛廟で、寺後の白塔は遼の壽隆三年（皇紀一七五七年）に佛舍利を奉藏する爲め建てられたもので、その東にある。〔歷代帝王廟〕は嘉靖初年の創建で當初は創業の君王のみを祀つたがその後屢々改變があり清末に於ては無道の帝王、弑に遭つた帝王、亡國の帝王を除いた歷代の帝王は何れも此處の正殿に祀られてゐた樣である。〔萬松老人塔〕西四牌樓の南磚胡同にある七級の磚塔。この塔の創建に就ては判然しないが明の萬曆三十四年及び清の乾隆十八年の重修を經てゐる。〔天壇〕明の永樂十八年（皇紀二〇八〇年）の竣工で内外二墻に圍まれ外墻の周圍は約六粁、城内の面積は約八十一萬坪と算せらる。北京に天子の祭壇はこの外に地壇、社稷壇、日壇、月壇、先農壇及び先蠶壇があるが、天壇は實にこれ等の首位にある。天壇の主體である圜丘は祈年殿の南にある天壇の西に先農壇がある。〔法源寺〕唐の太宗の創建太宗が高麗親征の際に於ける戰死者の菩提を弔ふ爲めに建立したものである。〔謝疊山祠〕法源寺の後街にあり宋の忠臣また文章軌範の編者として名高い文節公謝枋得（疊山）の祠である。
〔萬柳堂址〕廣渠門内拈花寺の傍にある。清の康熙初年、馮益都が別業を此處に營み柳萬株を植ゑて元の廉希憲の故事にならひ、萬柳堂と稱した所で、當時名流遊宴の地であつた。〔藥王廟〕北京には藥王廟の大なるものが四箇所あるが、この中で崇文門外のものは明代に武清侯李誠銘の創建にかゝるもので宏大な戲樓を有しており廟の西に天慶寺といふ古刹がある。〔清眞寺〕回教の寺院は北京に凡そ四十箇所あるが代表的なものとしては牛街の西寺と敎子胡同の東寺とが大きく且つ古い歷史を有してゐる。
〔東嶽廟〕朝陽門外にある。支那五嶽の一なる泰山の神を祀り元の延祐年間（皇紀一九七五年頃）の創建である。〔日壇〕日壇は每年春分の朝、天子が太明を祀られた所、明の嘉靖九年（皇紀二一九〇年）の創建である。〔二閘〕通惠河中に慶豐閘があり北京から第二の閘に當るので俗に二閘と呼ばれ、前淸時代から都人遊覽の場所であつた。康熙帝公主の陵も程遠からぬ所にあり。
〔架松〕清初興國の元勳、肅武親王豪格一家の坟墓で城内には澤山の老松が茂り風致を添へてゐる。
北京の西にある翠黛の連峰は〔西山〕と總稱せられる太行山脈の一支脈で附近は隋唐時代から佛寺の造營せらるゝもの多く、「西山三百寺」「西山五百寺」等の稱さへあ

る。現存するものでも二百寺以上に達する。

〔萬壽山〕 頤和園と稱し清朝の離宮、北京の西北約十粁の地にある。この山は元代から甕山と呼ばれ、乾隆十四年に江南諸名園の布置結構に象り離宮を造營して好山園と稱したのが此處に離宮を設けられた濫觴である。乾隆二十五年に皇太后の萬壽節を祝する爲め帝は圓靜寺の故址に大報恩延壽寺を建て、甕山の名を改めて萬壽山とされた。〔昆明湖〕 古くから西湖、西海または太泊湖として知られた湖で乾隆年間、離宮の造營と共に漢武帝昆明池の名に因んで今の名に改め滿洲八旗の精銳をして此處で水戰水技を練習せしめたのである。湖心の龍王廟は昆明湖の水神を祀り東堤に亙る「十七孔橋」は蘇州寶帶橋を模したものと謂はる。

〔玉泉山〕 萬壽山の西約三粁にあり、靜明園と稱する前清の離宮址である。此處は金の章宗の時既に行宮を設けられた所で元明兩朝にも行宮の設けがあり清に入つては康熙十九年に離宮を造營せられた。山後の東嶽廟內に琉璃塔があり、北峰に妙高塔がある。玉泉山の北に明朝第七世の天子景帝の陵がある。また萬壽山の東北にはもと圓明園の大離宮があつて周圍七十支里（四十六粁餘）と稱せられた。康熙、雍正、乾隆の三朝に亙つて造營せられ、輪奐の美を極めてゐたが咸豐十年（皇紀二五二〇年）英佛聯合軍の北京侵入の際、燒拂はれてしまつた。〔臥佛寺〕 唐代の創建、清の雍正帝が十方普覺寺の名を賜ひ、今それに依つてゐる。後殿に安置せられる銅の臥佛は長さ六米餘、釋尊涅槃の像で周圍の脇寺と共に出色の作である。〔碧雲寺〕 臥佛寺の西約二粁、元の耶律楚材の裔阿勒彌がその宅を喜捨して建立したもの、後臺の金剛寶座は乾隆十三年、西藏僧の齎せる印度須彌山の金剛寶座の型に依つて築造したものである。

民國十四年三月孫文の北京に客死するや其の遺骸を此處に移して安置し後南京に遷葬したのである。

碧雲寺の西南の〔香山〕は古く遼の中丞阿里吉が私宅を喜捨して建てた香山寺があつたが金の世宗の大定二十六年（皇紀一八四六年）之を重修して清の乾隆十年に離宮として靜宜園と名づけられた所である。東北の一郭に昭廟の廢址があり立派な七級の琉璃塔が殘つてゐる。〔西山八大處〕 香山の西に當り翠微、平波、盧師の三山鼎立する間に八箇の刹が連つてゐる。これが俗に八大寺と稱せられるもので多くは明代の創建であるが古くは隋、唐の開基に係るものもある。麓の方のものから示すと長安寺、林官寺、三山庵、大悲寺、龍王堂、香界寺、寶珠洞の順で東方に離れて祕魔崖の一古刹がある。紅山口を越えて西山の陰に下ると黑龍潭がある。この他景勝寺院等見るべきものが多い。〔蘆溝橋〕 彰儀門外約三粁には五顯財神廟があり、同門外十六粁西には永定河に架せられた蘆溝橋がある。マルコポーロの旅行記によつて紹介された名橋で、金の大定二十九年（皇紀一八四九年）に起工し、四箇年を工事に要したものである。

〔南苑〕 北京南郊永定門外にあり、元の飛放泊の舊址で歷代の遊獵地である。明初にその地域を擴大して圍垣を設け南苑と稱した。永定門車站の南に燕墩がある。

〔地壇〕 北京北郊の安定門外にある大壇で明の嘉靖九年（皇紀二一九〇年）の創建である。〔元の土城〕 內城西北角の北に起り、內城の東北角に連る延長約十三粁の土城は曾て元大都の北半部を圍んだ墻壁であつた。また薊門は西直門の北約四粁、元の土城の一門をなす所でこの邊が所謂、薊丘の地であると言ふ。薊門烟樹は北京八景の一になつてゐる。〔明十三陵〕 北京の北約五十粁、南口の東北約十三粁にあり、明の成祖以來北京に卽位した十五世、十四帝の中で王禮を以て西山に葬られた景帝を除き

たる十三帝の寢陵である。

京包線

南口から八達嶺に至る約二十粁の隘路は即ち居庸の溪谷で南口をその關口とし、これを居庸關及び上關を加へて居庸三關と稱せられるが、かの八達嶺と共に燕都の北門を扼する要害である。〔三堡〕驛の西北に石佛寺山、五貴頭山の二峰があり、古蹟としての石佛は石佛寺山隧道の北口外にある。

西撥子驛の東三粁、〔岔道城〕は明の永樂年間には重兵が駐し嘉靖三十年城並聯を築いた。康莊驛の北奇泉寺、大醐山、佛塔口があり口内には白塔の屹立する白塔寺がある。〔懷來〕城外西北隅の廣慈寺は俗に皇寺と謂ひ清の順治五年の建立で内に行宮があり巡幸の避暑地となつてゐた。〔土木堡〕城内には景泰の初め頃建てられた顯忠祠がある。堡北約一粁に寶殿山がある。

〔下園〕驛の左右に鷄鳴玉帶の兩山がある。鷄鳴山の腰にある永寧寺は遼の聖宗太平四年の建立である。花園は上下二園に分れ遼の蕭太后が花を植ゑたところであるが今はすつかり荒廢してゐる。〔宣化〕明の初、左右前三衞となし巡撫都察院を設けてこゝに駐した。今の城は元の宣德府の舊址であつて明の洪武年間に谷王が擴張したものである。〔柴溝堡〕明の正統二年に堡城を築き萬曆年間に擴張したものである。また玉泉閣は明の萬曆年間の建設である。

〔西灣堡〕驛の東南三粁餘の慈化寺は唐代の建立。驛の南二十粁の枳嶺兒は昔高臺を設けて監視したところで邊境の要塞であつた。山上の眺望よく風光明媚である。〔永嘉堡〕驛を距る四粁の堡城は明の嘉靖三十七年の築造で驛の南二十四粁に玉泉山がある。〔天鎭〕縣城は驛の南三粁餘にあり縣城西街の慈雲寺は唐時代の建築で關北の巨刹である。〔聚樂堡〕聚樂城堡は驛の北四粁にあり、明の天順三年大同鎭城が孤城であるため東に聚樂、西に高山の二堡を築き左右の補衛としたものである。

大同　もと北魏がこゝに都して名を萬年または平城と云つた。遼の時代に入つて西京、大同府、大同縣を設け元、明、清の歴朝は何れも大同縣を置いてゐた。城廓は驛の南三粁にあり市街全體が考古學上極めて貴重な資料とされ城内には千五六百年前の木造建築十數箇あり城内の九龍壁、上華嚴寺、下華嚴寺は有名である。〔雲崗の石佛〕大同の西約二十粁にある。石佛は敦煌の鳴沙山、龍門、天龍山等と共に著名で世界的に知られてゐる。石窟は北魏時代（皇紀一一二〇年頃）の作と推定される。

〔堡子灣〕驛の東南祁皇墓は北魏の桓帝皇后祁氏の墓である。〔佛爺洞〕福生莊驛の東南八粁、山に依つて石を穿ち二室に分れ内に多數の佛像を安置してある。〔白塔〕清の聖祖が葛爾丹を親征した時駐蹕したところで七層の白塔が存してゐる。

厚和　もとの綏遠であつて新城（綏遠）と舊城（歸化城）に別れてゐる。〔大招〕舊城大招街にある無量寺で大雄寶殿を中心にして最盛期には喇嘛が數千人ゐたと云ふ。〔小招〕小招街にある宗福寺で清の康熙年間重建築であるが頽廢甚しい。〔錫拉圖招〕小招の西數百歩の處にある延壽寺で創建年代は詳でないが康熙三十五年錫拉圖呼圖克圖が奏請して重修しその後火災に罹りまた重修したものである。その東南西粁の〔卓爾齊招〕は康熙年間に達爾班卓爾齊が個人で建立したものである。歸化城東の〔五塔招〕は建立年代は詳でないが乾隆年間に重修したもの、城北二十粁の〔大青山〕は即ち庫々和屯で蒙古語で青を庫々、城を和屯と云ふ意味から青城と解し古くは陰山と稱した。〔百靈廟〕綏遠城の西北、烏蘭察布盟にあり内蒙の聖地として知られまた天然の要害をなして居る。廟は約二百年前に開眼され民國二年兵火に罹り今日あるのはその後再建されたものである。イバガインゴールの清流の河西の地區には眞白な喇嘛寺、西藏式の大伽藍があり、蒙古高原に於

ては稀に見る山紫水明の地である。〔沙爾泌召〕 磴口驛の東北約十二粁、崖によつて建てられ西藏の拉薩寺に倣つた喇嘛寺である。〔包頭〕 包頭は元來蒙古語で「土地相會す」といふ意味を有し丁度この附近が烏蘭察布盟の東西兩公旗、伊克昭盟の達拉特旗及び歸化城土默特旗の四旗地の會するところであるからこの名がついたと云ふ。

包頭の西南四十粁に匈奴に嫁した哀話の佳人〔昭君墓〕がある。包頭の東門外の丘上の〔轉龍藏〕は樹木鬱蒼として風景清幽、龍王廟がある。〔廣覺寺〕 俗に五當召と謂ひ磴口驛から西北四十四粁餘であるが包頭から行くのが便利である。寺は清の乾隆年間の建築で喇嘛千餘人居住し內蒙中最大の寺である。

膠濟線

青島 光緒十七年始めて砲臺を築いて鎭守軍署を置き衙門及荷揚場を造營したが當時なほ寂寥な村邑にすぎなかつた。

獨逸根據地となるや一躍黃海沿岸の主要市場として登場したのである。〔第一公園〕 もと獨逸の植物育成試驗場の跡である。園內には世界各地の花卉樹木を集め山腹に日獨戰役の忠魂碑が巍然として聳えてゐる。

〔旭山〕 青島隨一の高所で外海の風光を一望に蒐める佳勝の地である。獨逸はこの要塞に砲臺を設け日軍を惱ました。今尙ほ彈痕の跡を止めてゐる。萬年山には海面防禦の永久砲臺の跡があり、忠の海は波穩かに水碧く澄み白砂の海水浴場である。

〔嶗山〕 山東省の東部に連亙する一大山系の主峰で海拔千二百米餘、秦始皇が玆に登り遙か渺茫の東海を望んで蓬萊島に不老不死の靈藥を求め、また吳王夫差は靈寶度人經の貴書を得たのもこの山である山中には九水、北九水、大嶗觀等の景勝がある。

〔女姑口〕 白沙口沿岸一帶の風景美しく河口に女姑山が孤立し頂上に仙女を祀る女姑祠が建つ山北に漢の武帝の建てた明堂の遺址がある。

〔城陽〕 城陽驛の東北二十粁に卽墨城がある。史上に殘る卽墨の古城は現城の西北四十餘粁にあり、俗に朱毛城といひ田單が火中の計を用ひて燕軍を破つた故址、また漢楚相爭つた頃齊王弟田横は屢々項羽と爭つた故地である。不其城の遺址は驛を過ぎて車窓から東北の稍々小高い丘上に見える。驛の東北二十八粁の粥敷城は唐太宗が高麗征伐の際に築いたものといふ。〔膠州〕 縣城は明の洪武年間（約五五〇年前）に築城されたもの、古城は現城の西北にあり元の至正十七年（皇紀二〇一七年）毛貴の亂に破壞されて今の處に築城されたものである。驛西約四粁に西漢の庸生の故里また近郊に計斤古城の遺跡などもある。

〔高密〕 縣城は驛の西南一粁餘、元の至正十二年に築かれ、明の嘉靖二年に石城に改築せらる。驛の西南三十二粁に項羽の將龍且の築いた龍且城址がある。〔蔡家莊〕

驛の西四粁餘に漢成帝が淮王を封じた高陽故城がある。〔柞山〕 驛東南約四粁に峡山、柞山、星星山が鼎峙し、欝翠幽邃の景勝地である。驛北二十粁に大小營城がある。

〔濰縣〕 縣城は驛北一粁半餘、漢初に築き明代に石城に改めたといふ。城內には石佛寺があり、宋の咸平二年僧元德の建立に係る城東北一粁餘に、王淸宮があり成吉思汗の聖旨碑やその他の古碑が多い。

〔益都〕 驛南一粁半餘に靑州城がある。漢代の益都城は今の壽光縣內にあつたが後に廣固縣に移され、宋に至つて劉容之を陷れ、城を陽水の北に築いて東陽城と稱し、更に陽水の南に移して南陽城と名づけたのは卽ち今の城である。〔滿州城〕 益都驛より一粁餘にあり俗に北城と呼び北に洋水滸れ滿洲八旗の居城であつた。益都縣城の西北四粁の〔法慶寺〕は膠濟線中最も著名な佛殿である。〔穆山〕 普通驛の西南十六粁にあり齊宣王が始めて孔子廟を立てた所で

ある。〔臨淄〕淄河店驛の西北十粁、臨淄城は齊の都であつた。西北更に二粁に周代に太公望の都した營邱の址がある。〔昌圖古城〕張店驛の南三粁餘、昔燕昭王が樂毅を封じて昌圖となした所である。

〔淄川〕縣城は崇禎十一年の築造、縣城の東北に反蹤城の址がある。魏の頃遼東の歸順民が居つたといふ。城内に龍興寺、普照寺があり、城北の瓦村莊には法王院がある。〔博山〕この地は明の頃、青州兵備道であり、前清の雍正十二年以來博山縣署の所在地であつた。東門外の怡園が范泉書院の故址である。驛の西南十二粁には青石關と俗に稱する長城があり、驛西四粁餘の岳陽山下に石棚砦がある。〔周村〕驛北十二粁の於陵は戰國時代陳仲子の居つた遺址であり、長山縣場内に陳仲子の祠がある。

〔明水〕明水鎭は驛北約六百米にあり、隨所に淸水が滾々と湧出して所謂明水七十二泉として知られてゐる。〔樂盤城〕棗園莊驛の南二粁に樂盤城がある。齊孝王と陽邱の餞別せし所。〔龍山〕龍山上の妙眞寨は宋末、李金の妻妙眞の武勇で知られた所、寨址はなほ存す。〔王舍人莊〕驛北に龍山佛峪の勝地がある。

濟南

〔大明湖〕濟南城の三分の一を占め周二里、淸水を湛へた湖上や湖畔には歷下亭（李白、杜甫の詠懃した所）李公祠、張公祠、鐵公司、匯泉寺、曾公祠、北極臺、百花隄、北渚亭、天心水面亭等の古蹟勝地が點在し又隨所に文人墨客の大明湖の風光を賞した詩句や、題詠が碑記に殘されてゐる。〔趵突泉〕城内南關、呂祖閣の境内に湧出する趵突泉は七十二泉中の第一泉の稱がある。城の東南隅の黑虎泉は水量豐富で釣魚臺は太公望が釣を垂れた所であると謂ふ。〔千佛山〕省城の南三粁餘、歷山または舜耕山ともいふ、山上に舜帝祠があり、山中の石崕には多數の佛像が彫まれてをり隋の開豐年間のものといふ。〔開元寺〕

城南十粁大佛山上にあり唐の開元年間の建立巖上に刻像が多く六朝時代の作といふ佛像がある。〔龍洞〕省城東南二十粁、泰山支脈中の奇巖の壁立した中に龍洞寺があり東一粁半許りに東龍寺と呼ぶ般若寺がある。共に附近は紅葉の佳勝である。城南十粁の〔玉函山〕は山中に諸勝多く、山頂に碧霞殿がある。

津浦線

〔楊柳靑〕街の北約十粁に宋の咸平年中（皇紀一六六〇年頃）に築かれた當城がある。呂彭城は東北十粁許りにあり、文昌閣は驛より二粁、明代の創建である。〔靜海〕金時代から榮え、當時は靖海と云つた。鳳凰臺は西八粁、移興寺は十六粁にあり、共に唐時代の創建に係る。〔陳官屯〕驛の北方四粁餘にある臥佛寺は殿宇頽廢してゐるが堂中に九尊の銅佛があり、何れも高さ十二米許りの立像、その中の一尊は殿前に橫臥し高さ六米餘。〔靑縣〕街の南方十二粁にある盤古溝には盤古氏の墓が水中にあつて石棺が鐵の鎻で繫いであつたと傳ふ。溝の北岸にある盤古廟は明の弘治十六年に重修されたものである。峭帆亭は盧臺故城の中にあり、運河の兩岸にある周公祠は淸の光緖十五年の建立である。〔興濟〕驛の東にある高臺は豐臺と云ひ古の望臺の址である。驛の下にある娘々墳は明の弘治皇后の父母並にその祖先の墳墓であるが今は僅にその址を遺すに過ぎない。〔滄州〕滄州は舊蹟に富み觀光地としても知られてゐる。

附近には馬落坡、望海市臺、鐵獅、盟亭水月寺、包孝肅祠、聞遠樓等がある。〔泊頭鎭〕の附近には遇士亭、周尹吉甫墓、不疑墓等がある。〔東光〕魏文帝燕友臺は魏の文帝が燕と友好を結ぶ爲めに築いたもの、天胎山は城の南にあり、風光に惠まれ城内には普照寺鐵佛がある。〔連鎭〕山雨樓が明知縣にある。廣川臺は景州城の東にあり、自來鐘に城隍廟の傍にある。この鐘は明代からあるが何處から來たものか

判らないので自來鐘または飛來鐘とも稱してゐる。〔桑園〕 老君堂西古松は枝幹蒼勁、上に一大鐵鐘を懸け、由來は古いやうである拓鎭の東南二十粁に孫臏廟がある。

〔德縣〕 董子讀書臺、唐の貞元五年に建立された永慶寺等がある。城の北門外には十二連城、城の北郭には濯錦園がある。

〔黃河涯〕 驛の西八粁には陳公堤がある宋の天喜五年に陳老佐が洪水を防ぎ堤防を築いて水を西に走らせたものである。崇興寺は清の雍正五年本旺の草創にかゝり、黑龍潭は旱魃の年に鄉人が雨乞をすると必ず雨が降るといひ清の同治年間に河の上に樹屛と一廟を建てた。〔平原〕 驛から十二粁餘、縣の西方に桑邱城がある。驛から二十粁には北齊の時代に改建した平原故城があり、漢舞陽侯樊噲の墓は驛から一粁餘、城の南側にある大塚である。顏魯公祠は東門內驛から一粁餘、明の弘治十五年に知縣の朱良が建立したもの、附近に興泉寺千佛塔がある。〔張莊〕 驛から二粁に黎吉寨がある。明から清まで皆官驛を置いた所である。〔禹城〕 驛から約四粁にあり、唐時代に始めて禹城と名づけらる。西門內にある禹廟の創建は不明なれど明の萬曆二十七年と天啓四年に重修してゐる。興雲寺は唐時代に建立、明時代に重修された。城內文廟の東に泰禹樓、縣の西關に三皇廟がある。〔晏城〕 街の東、齊河縣城を距る十六粁餘にあり、淸の道光年間に金華寺の側に移した。金華寺は戰國時代の齊王后無鹽氏の故宮、舊高唐は齊河縣の西四十粁の倫鎭にある。驛からは四十四粁、蘇東坡が曾て此處を過ぎ祈願して世嗣を得たと傳へらる狀元碑は鎭の西、二神廟の內にある。〔岱廟〕 泰安城內の岱廟は泰山の神靈を祀る。

境內にある秦の始皇帝が自家功德を頌した秦碑の殘缺は泰山最古の遺物であつて名高い。〔崮山〕 驛から二十四粁に長淸塔がある。驛の西南二粁には五峰山があり、山中には寺廟が多い。張夏驛から八粁餘の〔透明洞〕 は盤郡山臥虎嶽の內にあり幽勝の境地である。

萬德驛附近にある、〔靈巖寺〕 の建築は甚だ古く四季を通じて景勝の地である。

〔泰山〕 泰安の北方四粁、帝王行幸の事蹟は竹帛に垂れ、宗教と政治に併用された記錄を多く殘してゐる名山である。泰安城より山麓まで一粁餘。絕頂まで約八粁である。轎で登りが約六時間下りは三時間。

東北堡附近の〔波羅山〕 山中に七十二箇所の寺觀があり、一日の遊覽に適す。〔徂徠山〕 大汶口驛の東二十四粁、巨石巉巖の頂上に光化寺があり、元代の碑が多い。徂徠山の南二聖宮には唐の竹溪六逸の遺跡がある。〔鴕羅山〕 吳村驛から十四粁、岩山の上に石門寺がある。また驛の北十粁には九山があり、山中によく千人を容れるに足る顏子洞がある。〔曲阜〕 周初は周公の子伯禽を曲阜に封じて魯國を建てこゝに都した漢は魯縣、隋は曲阜縣を設けその後一時城を東方に移したが明、淸の時代に現在の城に據つた。縣城は驛の東方約八粁、孔子の生誕と終焉の聖地として有名で、城內に文廟がありその他遠近に孔林尼山、啓聖王林、防山、泗水、沂水など孔子に關する遺蹟が多い。文廟の東北には顏子廟があり、顏回陋巷の故宅と傳へらる、宋の熙寧年間にこゝへ顏樂亭を作り元の元貞年間に始めて廟を建てた。〔兗州〕 春秋時代は魯の地、戰國時代は楚の國に屬し薛郡であつた。忠孝晉祠順賢、石佛寺靈石、嶽雲樓、府城、天仙行宮等名勝舊蹟が多い。〔濟寧縣〕 この地は周代では任と郝の二國であつた。城の東南四十粁餘に承匡山、城北十粁に樊子故里、城東には任子故里がありその他遠近に太白酒樓、南池、鐵塔寺晉陽山、鳳凰臺、蘆溝泉、南湖等の名勝、舊蹟がある。〔鄒縣〕 古くから聖賢達が釣遊したところで遺蹟は甚だ多い。伏羲畫封處、昌平山、四基山（孟子の墓のあるところ）、小邾子故城、

匡詰梵語、尼山、孟子廟、嶧山等がある。

〔紀王城〕兩下店驛東方二粁、春秋時代邾文公が都を遷したところ、故宮の遺址がある。驛から二粁半餘、嶧山五峰の下に玉皇宮がある。〔滕縣〕城の西北染山の上に伏羲廟があり、城東には龍泉寺塔が聳えてゐる。微山湖は城南六十粁に當る。〔官橋〕驛の南に薛城があり、東南二十四粁の老君山には懸崖に彫つた十八羅漢がある。

〔臨城〕驛から十六粁に戚城がある。漢の高祖の寵姬戚氏の家が此處にあつたので高祖が城を築いたといふ。驛の東北十粁靑山の山中に白雲、朝陽の二洞がある。驛西南十二粁の十字河の傍に禹王臺があり、禹王治水の功を記念する爲め築かれたものらしい臨棗支線齊村驛附近には許田泉がありその後には荀卿寺、亭臺の遺跡がある。

〔棗莊〕驛から四十粁餘に晋時代蘭陵郡を置いたところで昔は繁榮を極めたといふ。嶧縣城東の匡丞相祠は宋の宣和年間の建立である。〔韓莊〕驛の東北十六粁餘今の陰平集に漢袁安舊治がある。この附近に劉伶古臺などの名勝がある。茅村驛から四粁〔峒山〕上に古刹あり山下の古洞は深邃である。〔徐州〕項羽が自ら西楚霸王と稱して都をこゝに置いてゐた。城內の黃樓は宋の蘇軾が守となつた時に增築したもの子房山は漢の張子房が農事を開拓し、雲龍山は唐の張天翼が隱退したところでその他放鶴亭、快哉亭等の舊蹟があり、城の東北二十粁には名橋として知られた荊山橋がある。

〔三舖〕驛の西南五粁に聖人廠がある驛西八粁に飛來佛石像、天門寺、驛西南六粁に龍泉寺がある。〔皇藏峪〕曹村驛の西八粁餘、皇藏禪房と名づける寺は漢の平帝が嘗て新莽の亂を避けたところである。

〔符離集〕附近に禹廟臥佛寺、高皇山（漢の高帝の廟がある）大谷山、黃花洞等の舊蹟がある。〔南宿州〕驛の西六百米に縣城がある。東門甕城內に唐張巡、許遠を祀る二忠祠があり、北城上には扶疏亭がある。城の西北四十粁の相山の下には漢の相縣城址がある。〔固鎭〕古の穀陽縣で漢時代に縣を置き金代に鎭を設けたところである。

この西約八粁に當る霸王城は項羽屯兵の壘であつた。

〔曹老集〕驛から二十八粁に縣城がある附近に禹墟、柴王城、塗山等があり、塗山の西の峰には禹廟、東の峰には無量佛殿がある。また〔蚌埠〕驛から十六粁に禹王宮があり驛から十二粁餘に棲巖寺がある。

長淮驛附近の〔十四王妃墓〕は明の太祖の先代の墳墓で後に天下追封爲王と王妃との塋域を建てゝ祀つてある。〔門台子〕驛の西南十二粁にある。縣城の北に明の太祖が曾て幼少の頃修行したといふ龍興寺がある。また驛南十六粁には明の太祖の父の陵、明陵がある。〔臨淮關〕本薦梁臨淮舊城の地、莊子臺の前の俗に莊臺寺といふ開元寺は唐の玄宗の時、開元年間に詔して州縣に各大寺を一箇寺宛建立したものゝ一つである。寺後の南華堂は明の嘉靖十三年に湯榮が創建したものであるが火災に罹り萬曆年間に重建したが今は廢れてゐる。驛から四十八粁の禪窟寺、離山上の雲寺、方山麓の樣梯寺など何れも佳境である。

〔石門山〕驛の東南約三粁、塗山の支脈にして、谷の景色は絶佳、驛の西南八粁には燃燈寺がある。

〔明光〕驛の南四粁、李墓は明の太祖の妹が李姓に嫁したのを葬つた墓。都梁宮は隋の時代に都梁宮三百六十を建てたときの一つ。また傳說の望夫石もある。〔管店〕驛を距る五十二粁の釣魚臺は隋の煬帝の造つたところと傳ふ。沙河集驛の西南十粁にある一寺は元代の創建といひ當時寺後の洞內に米層があつて寺僧が取つて食してゐたと傳ふ。〔　州〕この地は春秋時代に吳と楚が戰を交へたところで附近の風光には賞すべきものがある。城西の淸流關

は宋の太祖が周師を率ゐて李景の兵を破つたところ、南門の內にある南橋は元の至正年間に拓き通濟橋と名づけられ橋の右に大聖塔がある。瑯琊山の開化禪寺この他に、醉翁亭、豐樂亭、茶仙亭、城內には懷嵩樓の遺蹟がある

〔花旗營〕驛から二十四粁にある烏江は西楚の覇王項羽の死んだところで覇王祠がある。〔浦鎭〕明初江浦縣治を置いたので舊城が殘つてゐる。浦子口城は明の洪武四年應天衞がこゝに築城したが今は頹廢してゐる。東南浦子山上の中敵臺は民國二年に重修したものである。〔浦口〕驛の西十二粁餘に江浦縣城があり城の西南四十粁に諸落山がある。項羽が戰に敗れて東城に走つた際漢の兵が之を追ひ陣を造つたところ。

縣の西南二十四粁陽泉は梁の昭明太子が曾て浴したので太子泉と稱され、明の太祖は香泉の名を賜つた。

南　京　古く春秋時代は吳に屬し戰國時代は楚に從ひ初めて金陵邑を置いた。明の成祖の時に南北兩京をたてゝ南京と稱した。〔南京城壁〕支那第一の大城と稱せられるもので明の太祖が七年間を費して築きあげた大營造物である。〔貢院の跡〕南京市政府は歷朝科學の登龍試驗場であつた貢院の跡である。明の永樂年間、明遠樓〔市政府の表門〕を中心として建てられたものである。〔靈谷寺〕鐘山の東南にあり、梁の武帝は寶誌禪師のために塔を建て開善寺と呼び宋は太平興國寺と稱し後に蔣山寺と改む。明に至つて靈谷寺と稱し三巨刹の一と謂はれてゐたが淸以來衰頹に委ねられてゐる。〔草堂〕鐘山の北にある。南北朝の時周顒が隱居してゐた所である。

〔玄武湖〕鐘山の南方にある。南京太平門內にある〔覆舟山〕その南の〔樂遊苑〕は今は址方もなく荒れてゐる。毘盧寺東南の荒墟が卽ち有名な明の故宮で太祖洪武帝の紫禁城の遺址である。〔淸涼山〕漢西門から約一粁半餘、唐代は淸涼大道場となり宋代は廣慧禪寺と呼ばれてゐた禪宗の大道場である。唐代には日本から空海上人以下多數の僧侶が留學して參禪してゐた。水西門內にある〔冶城山〕は吳王夫差が佩劍を鑄たとの傳說の地である。中華門近く丘陵に雨花臺がある梁の武帝の時、名僧雲光法師がこゝに坐つて法を說くと天が感動して花を雨のやうに降らしたと謂ふ。〔釣魚巷〕秦淮斜巷の中心地、河岸には無數の畫舫を艤し岸上には妓院酒樓が竝んでゐる。孝陵の右手鐘山腹の〔中山陵〕は孫文の遺骸を北京から帝王の禮を以て運んで葬つたものである。〔鷄鳴寺〕梁の武帝が早朝、瑯琊城に行幸した時こゝに至つて始めて鷄鳴を聞き、因つて同泰寺を鷄鳴寺と改めたと傳へられてゐる。六朝累代の居城であつた建康宮の故址である。〔鼓樓〕明の洪武十五年の建造で樓上に聖祖の戒碑を安置しまた關壯繆を祀つてゐる。

鷄鳴寺と鼓樓との間に高く聳えてゐる〔北極閣〕は元の至正年間に創立した觀星臺の遺跡である。〔莫愁湖〕水西門を出ると艷史に名高い莫愁湖がある。宋代の美妓盧莫愁がこゝに住んでゐたので莫愁湖の名が起つたと謂はる。〔大報恩寺〕城南聚寶門外の古長干里にある吳の大帝の創建で阿育王塔を置き江南に於ける塔寺の始めであると言はれ梁の武帝は之を重修し、宋に天禧寺、元に慈恩旌忠寺と稱した。後に燒けて明の永樂十年に再建して今の寺號となつた。〔明孝陵〕鐘山の麓の大山陵は卽ち孝陵で明の太祖とその妃とを併葬してある。

朝陽門から麒麟門までの間に所謂十三陵があり、その中には吳大帝、宋の武帝、文帝、晋の元帝、明帝、成帝、哀帝の陵がある。

〔獅子山〕儀鳳門の內の小山が卽ち獅子山で晋の元帝が盧龍山と呼んだ山であつて今の名は明初から用ひられてゐる。古來軍事上の要所とされてゐる。故宮の東北に王安石居の室であつたといふ半山寺がある。

蘇東坡が屢々遊んで詩を賦したところである。

京漢線

〔戒臺寺〕 長辛店驛の西二十粁の山麓にある。院宇は宏壯で夏季の避暑に好適の佳境。〔良鄕縣〕 春秋時代、燕の中都として殷盛を極めてゐた。縣の東二粁、燎石岡には隋代の建築にかゝる多寶塔がある。縣の東北には廣陽城があり、漢はその屬廣陽國を置き小廣陽と云つてゐた。琉璃河の鐵橋の右方遙に明の永樂年間の建造になる石橋が架つてゐる。〔涿縣〕 古の涿鹿の野秦上谷である。

明の景泰(皇紀二一一〇年)頃の初めに築いたもの、城の北には二つの塔が聳えてゐる。縣城の西四十粁、石經山麓の西域寺は唐代の建立である。宋の太祖の碑文を存してゐる。〔定興縣〕 驛の西二粁に縣城がある。金の大定七年(皇紀一八二七年)の築造で縣の易上村には唐時代に建立した聚泉寺がある。〔固城鎭〕 驛の近くに明の萬曆年間に建立した觀音寺がある。驛の西一粁餘の鐵瓦寺も萬曆年間の建立で瓦が皆鐵瓦である。

〔徐水縣〕 縣城はもと南北二つあり共に五代の築城であるが南城は無くなつて遺址もなく北城は明の景泰年間に重修したものである。縣の西二十六粁の班姬山は隋の煬帝東征の時、山上に班姬を置いたので廟に名づけたと謂はれてゐる。

〔保定〕 城は驛の東約八粁、明代の建造で城の東隅の三陵は宋の太祖が卽位の際その四世の祖を祀つた陵である。この他に萬卷樓、永寧寺、靈雨寺、百花嶼、劉守眞廟、蓮花池、大慈閣、淸苑河、廣養城、千里長堤、郎山等の名勝舊蹟がある。

〔方順橋〕 驛の附近にある方順橋は隋の文帝開皇年間の建造でこゝから約四粁に當る丹朱城は堯朱丹の故居に因んで名づけたものである。〔望都縣〕 城は唐の武德年間に初めて土城を築いたのに創る。北關外の帝堯廟は元の世祖至元三年の建廟、城內西隅の壽聖寺は元の至元元年(皇紀一九二四年)の創草、明代に重修して居る。城東六粁、荊城村には唐代創建の甘露寺がある。〔定縣〕 昔土城であつた定州城は明の洪武年間に塼を用ひて重修された。城南の開元寺の瞭敵塔は宋代の創建である。〔正定縣〕 城の東北隅の開元寺(舍利寺)は唐の開元年間の建立、この他に天寧寺、崇因寺、隆興寺、滹沱河神廟等の寺廟がある。

〔石家莊〕 縣西六粁の抱犢山は韓信が趙を伐つてからこの山に登つたといふ。山の南には蛟龍洞がある。驛から六粁、縣の西北二十四粁に當る西屛山は一郡の勝地で東には黑風洞がある。驛の北西十四粁の趙陵は口碑によれば漢代南越の王趙佗親の塚であると。風景佳良。〔元氏縣〕 驛の西三粁餘に城がある。舊城は土城であつたが明の萬曆三十年に始めて磚城に改築した。城內の開花寺は隋の開皇年間の建立。また同地附近の封龍山は山勢奇勝を以て知らる。

〔高邑縣〕 縣城は明の洪武の初に舊址を重修した。縣の西北にある乾明寺は唐代の建築で寺の右に乾明塔がある。鎭內驛の西北三十二粁餘に千秋亭がある。その北三粁餘の王莽城は俗に王莽が都を建てたところと傳ふ。〔內邱縣〕 驛の東二粁に縣城がある。城の遠近には經閣寺、長春觀、郭巨塔靑山、鵲山、白銀山、泜水、思親山等の名勝舊蹟がある。〔順德〕 殷の邢都秦の鉅鹿の地、宋代に創建、明代に重修した堅固な城壁がある。城の內外には響地、豫讓祠、双列祠、開元寺等の舊蹟がある。〔沙河縣〕 縣城は明の成化十八年に重修された。附近には宋文貞公祠、梅花亭、檀臺等の舊蹟があり、また蓮花池、蘇秦亭、磬口山、五指山、廣陽山等遠近にある。

〔邯鄲縣〕 驛西約二粁の城內には趙の武靈王が築いたといふ叢臺がある。附近に呂

仙祠、邯鄲宮など舊蹟が多い。〔彰德〕城外の天寧寺は隋代の建築で淸の乾隆年間に重修したもの、城の內外には飛仙臺、陷馬泉、曹洪故宅、魏徵故宅、韓忠獻公祠や袁大總統の墓もある。〔湯陰縣〕縣城は明の洪武三十年の築城である。驛から四粁に明代の潞王墳があり、墳園外に潞藩城の牌坊がある。〔新鄕〕驛から四粁に縣城がある。縣東一粁餘の岳忠武廟は明の萬曆四年の建築、城內には崔珏廟がある。〔滎澤縣〕城は驛を距る八粁縣の西北の石門は漢の靈帝の建寧四年の建造。縣の東南には平桃城、西には廣武山がある。

〔鄭州〕禹の時代の豫州の地で五代朝の後周の帝都である。鄭州城は驛から二粁餘。縣の北郊外には宋の熙寧年間創建に係る崇聖寺がある。縣の東南二粁半餘には僕射陂がある。〔秋帝寺〕謝莊驛東南四粁伯夷叔齊を此處に祀る。〔新鄭縣〕縣東南には華城があり、華陽臺と云つてゐる。縣の西北にある古鄭城は鄭の武公が始めて都したところである。

〔確山縣〕城は驛から約二粁。縣の西三十二粁の南泉寺は寺中に多く牡丹を植ゑ、俗に牡丹寺と云ふ。縣の西北六粁には隋代に建立した北泉寺がある。縣の南一粁餘の蟠龍山には明の崇王の墳がある。〔信陽州〕城は驛から二粁、城內の朝陽塔は明の正德年間の建築。その他附近には景賢祠、雨相祠、環翠堂、下梁城、何先生祠等がある。

武漢三鎭〔漢口〕漢陽、武昌と共に上海に次ぐ支那の政治、産業、文化の中心となつてゐる。支那四鎭の一つと言はれた漢口は一八五八年天津條約によつて外國に開放された以後に發展したものである。

〔漢陽〕縣城の北隅鳳棲山の上にある秋興亭は唐の賈至の建てたものと云はる。縣城の北、大別山にある太平興國寺は唐の太宗時代の建築で、宋の太平興國年間に重修し今の名に改めた。縣城の西約六粁の歸元寺は石榴花塔の西南馬家湖上にあり、內に五百羅漢殿がある。大別山の東麓には晴川閣があり江を隔てゝ黃鶴樓と對峙してゐる。縣の北、鳳棲山には周程濂朱の四先生を祀る六先生祠があり、明の正德年間に楊時黃榦を增祀した。

〔武昌〕三國時代、吳の孫權が都した鄂城の前衞として築城されたと云はれ、堅固な城郭をもつた古都である。漢陽門內の黃鶴樓が著名になつたのは六朝以前である。

布政司の前には唐の牛僧孺奇章臺の故址楚觀樓がある。縣城の東には鳳凰臺、黃鶴樓の西には石鶴亭〔石照亭〕がある。金口廻峰寺の左には陶公祠がある、晉の陶靖節が塗口を過ぎた時作つた詩は江上吟詩と傳へられてゐる。

中支方面

上　海〔上海〕揚子江を遡る六十哩の吳淞から更に黃浦江を上ること十二哩、黃浦江口から約一時間の航程に位置するのが上海である。上海はもと吳淞江の南岸にあつた寒煙蕭條たる漁村上海浦からその名稱が出たと云ふ。上海浦が上海鎭に成長したのは宋の熙寧七年、今から約八百六十餘年の昔で、この時から上海が知られ、それまでは華亭海と呼ばれ、或は申江とか滬城といふ別名で知られてゐた。一八四二年、阿片戰爭の結果、英國は支那に迫つて上海を自由貿易港として開港させ、僅か百年足らずの間に膨脹の一途を辿り、今日では北は寶山縣境から、東は浦東を含む廣袤八十方哩を擁するに至つた。市街は共同租界及佛租界を中心に、城內、南市を含む支那人街さきの上海事變で有名となつた閘北、更に浦東の工場地帶によつて組織されてゐる。

上海が世界列强にとつては、自己勢力の角逐場であることは著名である。人口約三百六十萬、我が居留民は四萬、大部分は吳淞路、北四川路地方に居住して商業を營む外、東部の楊樹浦、浦東方面には紡績其の

他の工業に從事して、確固たる地盤を占めて、既成英國勢力に反撃を加へつゝある。
　曩に上海事變が勃發し、その記憶未ださめやらぬ間に今回再び暴戻なる支那側の挑戰を受けて戰塵の巷と化し、吾が國民は幾度か迫擊砲及び空爆の洗禮を受けるに至つた。上海には名勝舊蹟としては特筆すべきものなし。

杭州　禹貢の世には禹貢又は餘杭、秦漢時代は錢唐と稱し、唐時代は錢塘、宋の時代は臨安、元は杭州路とし明、淸時代は杭州府、民國に入つて杭州市と改稱した。
〔西湖畔の名勝〕　支那全土隨一の稱がある。湖は白沙堤と、蘇東坡の築造したと傳へられる蘇堤と、金沙堤の三堤によつて西湖、北裏湖、西裏湖、南湖に分れて居り、その周圍十三粁、三面山を繞らして秀峰翠を競ひ、碧水滾々と流れ、四季共に格別の趣がある。附近には西湖十景を始め靈隱寺、天竺寺、岳飛の墳その他名勝、古蹟頗る多く古雅な香を放つてゐる。〔昭慶律寺〕　杭州驛西北方四粁、晉の高祖天福元年越王錢元瓘の建立である。〔保俶塔〕〔寶石塔〕　驛西北方五粁、塔は吳宰相、吳延爽の建立で最初九層であつたのを宋の咸平年間に重修し七層とした。
〔斷橋殘雪〕　驛西北方約五粁白沙堤の東端にある。淸の康熙帝南巡の砌西湖十景の一とせられた。斷橋より白沙堤を西行し錦帶橋を渡れば孤山の東部入口に到る。この平湖秋月は西湖十景の一である。驛西方約六粁、孤山の北部にある〔放鶴亭〕は元人陳子安が建てたもので、また中山公園西側の一部を占む〔文瀾閣〕は淸の乾隆帝の勅建で四庫全書を藏してゐる。〔鳳林寺〕驛西方七粁餘、葛嶺の西下にあり俗に喜鵲寺と呼ばれ、唐の元和二年の建立、開山は道林即ち烏窠禪師である。〔岳王廟〕
　鳳林寺の西方にある。有名な宋の忠臣岳飛を祀る。この他に淸漣寺、雙峰插雲、飛來峰、韜光、下天竺、中天竺、上天竺、淨磁寺、雷峰塔遺址、汪莊、錢王祠、石屋寺烟霞洞、虎跑寺、六和塔、湖心亭等名勝舊蹟が甚だ多い。
〔錢塘の大潮〕　舊曆八月十六日の大潮は錢塘の呼び物で浙江の名勝として數へられてゐる。會稽山下に山蔭の蘭亭がある。晉の王羲之の蘭亭曲水の遊びで普く知られてゐるところである。

蘇州　古名を姑蘇または平江といふ先秦の吳の都城であつて越王勾踐と吳王夫差の輸贏を爭つた地として知られてゐる。
　太湖の東岸に近く大運河と蘇州河との會合點に位し風光明媚な水鄕である。城の內外には名勝舊蹟が多い。盤門大街の瑞光寺塔下を過ぎて東に進めば壯麗なる孔子廟がある。廟の東方の幽雅な古庭園は滄浪亭である。怡園、拙政園、獅子林、遂園、南園は城外の留園、西園と共に名園として知られ寺觀には道教の大寺院〔玄妙觀〕があり、唐時代の開基で俗臭を帶びてはゐるが賑つてゐる。その北方には江南最大の建物と云はれる報恩寺の大塔がある。一名〔北塔寺〕と呼び吳王孫權が建立した寺址で後方に聳える九層の塔は明代の建設である。城の東方には雙塔寺があつて唐代以來の奇異な形の塔が古の俤を留めてゐる。閶門から白樂天が郡守の時築いた白公隄を西行すること四粁にして〔虎邱〕がある。吳王闔閭の墓址にして多くの傳說が殘され山上には雲巖寺があり堂內の梵鐘は東山帝の代我國から贈つたものである。こゝから稍々西に行けば寒山寺に達す。寺は唐代の創建にかゝる古刹であるが、平地にあつて規模小さく、堂宇は新しく、さほどの趣はない。
　文徵明の碑等に僅かに「夜半鐘聲到客船」の昔を思ひ浮ばしむ。〔靈巖山〕　蘇州の西方へ、運河によつて約二十粁に當り昔吳王夫差が美姬西施を擁して榮華に耽つた館娃宮址がある。山上に怪巖奇石多く中腹には靈巖寺があり。山上から太湖の風光を望めば絕佳。靈巖山の東北には山中奇岩怪石に富む天平山があり、麓に宋の范仲淹を祭る白雲寺がある。
　吳王榮華の姑蘇臺は蘇州の西三十支里にあり又官女をして採蓮せしめたと言ふ採蓮池は日本租界から運河を南行すれば達するを得。
　城東南五支里澹臺湖と大運河との交界に架せられてある寶帶橋は長さ千三百尺橋脚五十三の大石橋で唐の王仲舒が寶帶を賣り修理したので此の名がある。

都市

（　）內は鐵道線名

滿洲及關東州

大連（連京）

大連は全滿洲を背後地として、そこで產出する豐富な特產物を輸出する大貿易港であり諸施設完備せる近代都市である。今市街となつてゐる地は青泥窪(チンニーワ)と稱し極めて淋しい漁村が散在して居たに過ぎなかつたが一八九九年（明治三十二年）露國が此處にダールニイ市を建設し未だ完成を見ずして日露戰によつて我軍の占領するところとなり明治三十八年「大連」と命名され露治時代の市街計畫を踏襲し、一九〇三年に四萬餘の人口は三十六年後の今日五十四萬七千百三十九人（内內地人十六萬四千三百六十五人、半島人四千三百三十六人滿洲人三十七萬六千八百九人、外國人一千六百二十九人、昭和十四年六月現在）を數ふるに至り極東に於ける自由港として又大陸の關門、歐亞連絡の要衝なる大連港は年九百萬瓲の貨物と八十萬の旅客を呑吐する新興滿洲國の大玄關として搖ぎなき基礎を築くに至つた。

大連港の消長が滿洲に於ける我が經濟的活動のバロメーターとなることに關しては今更呶々を要しない。

〔視　察〕普通團體及學生コース（乘物タクシー又はバス）山ノ茶屋―忠靈塔―大連神社―大廣場―滿洲資源館―大佛―星ヶ浦（晝食）―露天市場―油房―碧山莊―埠頭、所要時間タクシー三人乘五圓、バス二五人乘三〇圓、大連市內定期觀光バス、所要時間六時間半、發車午前九時半、料金大人一圓八〇錢、小人九〇錢。

〔土　產〕支那製品（玩具、文房具、反物、茶、桑麵、麻雀）、寶石、洋酒、硝子、陶磁器、煙草、寫眞機、望遠鏡等。

〔視察斡旋〕驛鐵道案內所、ツーリスト・ビューロー（伊勢町、連鎖街、監部通、三越內、ヤマトホテル內）大連觀光協會（市役所內）。

旅順（旅順）

元獅子口と稱へられ唐代日本の使節なども往復の途次立寄つてゐた處であるが明朝に到つて南方移民の渡來するもの多く、船舶の寄港頻繁を極め水陸行旅の順路に當つたので旅順の名を稱ふるに至つたと云ふ。

日清日露の兩役起るに及んで二度まで戰亂の巷と化したが、平和克復するに及んで軍政署、關東都督府、關東州廳等の所在地として在滿若くは州內の日本行政機關の中樞地であつたが昭和十二年關東州廳も大連に移轉した。然し永久に日本人が忘れることの出來ない戰蹟地として、また避暑地避寒地として旅順の名は高い。

市街は中央を龍河によつて二分せられ、東を舊市街、西を新市街と呼ぶ。舊市街は大體に於て旅順の商業區で、乃木町、青葉町迎橋一帶が賑つてゐる。新市街は工科大學を始め官衙學校多く且つ住宅區である。人口は日本人一萬二千六百八十七人、半島人百三十九人、滿洲國人一萬九千六百七十八人、外國人十五人、計三萬二千四百七十六人である。（昭和十四年二月現在）。

〔視　察〕戰跡旅順參照

金州（連京）

古來遼東半島の都城として地方の中心であつた。それ故どことなく落附いた城內の氣分が漂ひ附近は名所に富み風景勝れてゐる。新市街は工業都市としての性質を有し金城線の基點であり驛から城內へ通ずる街路を中心に略扇狀の市街が計畫されてゐる。此の地は萃果の產地とし又日露戰蹟として名高い。人口約十六萬、日本人約三千人。

〔視　察〕（半日行程）城內―天齊廟―三崎山―南山（一日行程）南山―露國墓地―城內、天齊廟―永慶寺―三崎山―龍王廟（大和尙山一日行程）八里莊乃木中尉

墓—山頂城跡及太鼓寺—朝陽寺—響水寺

〔土　產〕果物、初茸、蛤、漬物、繪ハカキ等

大石橋　（連京）

營口線の分岐點で、鑛脈の雄大、鑛質の優良な點で世界無比と稱せられるマグネサイトと滑石の產地であり、驛の南方里餘の迷鎭山にある娘々廟（ニャンニャンミョウ）の娘々祭（舊曆四月十六日—十九日）は參詣の善男善女無慮五十萬、全滿年中行事中最大のもので遠く日本內地に迄知られてゐる。人口十三萬二千、邦人三千五百餘。

營口　（營口）

今日十五萬九千四百九十七人（滿人十五萬二千四百三十九人、內地人五千六百三十八人、半島人一千三百五十四人、外人六十六人、昭和十四年一月調）の人口を有する營口も百十餘年前は海中であつた。それが海岸線の隆起と遼河による泥土の堆積のため道光初年に至り陸地として出現し、海港の性質を帶ぶるに至つて村落を形づくつた。爾後上流に在る牛莊城及び田莊臺が河口港としての價値を減じその商勢が次第に營口に移り遂に今日の大をなしたものであり、市街は河口から十三浬の處にあり河岸に沿うた狹長な街にして新舊市街に分れてゐる。營口港は今も沿岸貿易に於ては大連安東二港に比べて特殊の勢力を有し輸出入總額の四割乃至五割は該貿易で占めてゐる。

〔觀　察〕楞嚴寺、油房、東亞煙草會社製造所、滿洲タルク會社、田莊臺營口農村、東稅關附近海岸、支那街、滿鐵埠頭附近海岸、河北驛、防衞記念碑、遼河巡覽（團體は驛ビューローに申込めば小蒸氣船乘用の便もある）

東稅關—河北驛渡船三等一〇錢。遊覽用舢板（サンパン）（東稅關—西稅關）二〇錢。

〔土　產〕支那綉物、關東人蔘、繪葉書、銀製アイスヨット、蛤細工カフス釦、帶止等。

〔視察斡旋〕驛內ツーリスト・ビューロー

鞍山　（連京）

當市街は製鐵所あるがために興された純粹な鑛業都市である。故に製鐵事業と其の盛衰を共にすべき運命にある。大正六年鞍山製鐵所は出銑量百萬噸とその事業に伴ふ人口十五萬を目標として工場及び市街を設計されたが世界大戰終熄して製鐵業に影響を及ぼすや急轉直下總てが緊縮されたのであつたが、昭和八年六月一日を以て製鐵所は滿鐵より昭和製鋼所に讓渡され獨立企業として經營せられることになつた。

昭和製鋼所の誕生は鐵都鞍山として滿洲に於ける一大商工業都市に急轉向し昭和十四年七月現在にて人口十五萬八千餘（內地人三萬五千三百餘人）を數ふるに至つた。

〔觀　察〕驛—製鋼所—忠魂碑—市街—驛　料金馬車四時間一圓二〇錢、人力車七五錢、自動車一〇圓。

〔土　產〕繪葉書、鞍山名所煎餅、鐵羊羹

〔視察斡旋〕ツーリスト・ビューロー（北二條町）

遼陽　（連京）

滿洲最古の都城の一で久しく滿洲に於ける政治の中心地であり且朝鮮支那本土に通ずる舊交通系統の中樞に衝つてゐた。此の地は戰國以後史上に現はるゝこと多く遼陽城の研究は同時に滿洲歷史研究の大きな部分を成すものであり、その附近は史蹟に富み舊都の面影を遺すものが多い。遼陽は特に白塔のある地として又日露役の激戰地として世人に廣く知られてゐる。昭和十四年一月に於ける人口は九萬二千六百五十七人、內內地人は五千九十五人である。

〔觀　察〕驛—白塔—天齊廟—金銀庫—魁星樓—孔子廟—玉皇廟—蓮花寺—關帝廟—忠魂碑—（所要時間馬車四時間。

〔土　產〕白塔煎餅、繪葉書、白塔饅頭、葡萄飴

奉天（連京）

六條の鐵道を放射せしめ運河の水路を加へ滿洲稀に見る惠まれた地點である。治外法權撤廢に伴ふ滿鐵附屬地行政權移讓と同時に、市政區域を擴大した奉天は昭和十四年十月末現在人口八十八萬四千百八十二人（滿洲人七十五萬一千九百四人、日本人十一萬百五十三人、半島人二萬一千六百一人、外人六百六十六人）を數へ更に在奉苦力十六萬三千二百二人を加ふれば優に百萬を突破し、全滿一の大都市である。滿蒙に於ける交通、經濟、工業の心臟部としての役割は北支既に明朗化した今日愈々確固たるものとなり人口三百萬を抱擁する「大奉天」の建設に着手してゐる。古來この地を相して城を置き又都するもの、遠く渤海の時代より元、明、淸の諸代、名も瀋州、瀋陽、盛京、奉天と變遷し滿洲事變の起るまでは瀋陽の故名に復して張學良が東北四省の覇權を握つた土地、新に滿洲國の創建となつて首都は新京に移つたが今尙人口一千餘萬の奉天省公署の所在地であり、滿洲第一都として貫錄と實力を遺憾なく發揮してゐる。又日露戰役に於ける兩軍の雌雄を決した屍山血河の巷として、更に滿洲事變發生の地として永遠に我が光輝ある歷史に大書せらるべき記念の地である。一度日々二萬の乘降客を呑吐する奉天驛前に立てばあらゆる人種と交通機關は蝟集去來して大奉天の繁榮振りを如實に物語つてゐる。

〔視　察〕定期遊覽バス、長コース大人二圓二〇錢、小學生以下一圓一〇錢。驛—忠靈塔—國立博物館—北陵—北塔—柳條湖—北大營—天齊廟—城內—同善堂—奉天神社—鐵道總局—鐵西工業地區—南部住宅街—驛

短コース、大人一圓五〇錢、小學生以下七五錢。驛—忠靈塔—北陵—北塔—柳條湖—北大營—城內—奉天神社—驛。

〔土　產〕毛皮、支那反物、雜貨、麻雀、トランプ、寶石類、露西亞菓子、撫順琥珀細工、同石炭細工、寫眞帳、繪葉書、高粱餅、甘栗等。

〔視察斡旋〕驛構內「鐵道案內所」、「ツーリスト・ビユーロー（驛前、城內小西門大街、ヤマトホテル內）、奉天觀光協會。

撫順（撫順）

撫順の市街は全く炭礦あるが爲に興つた鑛業都市で、石炭の埋藏量十億瓲、世界無比の露天堀と重油工業發電所等を持つてゐる。當市は日露戰役後日本人の集住するに至る迄は千金寨に僅々四、五十戶の滿洲人部落があつたばかりでそれが滿鐵の炭礦經營に依つて一市街を形成して今の舊市街と

ピン、帶留、簪玉、カフスボタン、パイプ、首飾、數珠等)、油と炭の參考標本、化石(第二露天堀其他に於て化石を含む頁岩を容易に採集し得)、繪葉書

〔視察斡旋〕 鐵道案內所、ツーリスト・ビューロー(驛前通り)

〔土產〕 牛肉味噌漬、繪葉書、モダン羊羹、深山餅。

鐵嶺 (連京)

北に柴河流れ東に龍首山の聳つ麓、三基の佛塔に護られたる鐵嶺の町は平和である。史上古く渤海時代は富州、遼代は銀州の名に現はれ明代に至つて鐵嶺衛が置かれた地である。こゝは綿糸布の產地で鐵嶺綿布の名に廣く知られ三十餘軒の綿糸布商が城內に在る。

鐵嶺は其の後方地域として特產物多き東山地方を有し、遼河水運の盛であつた頃は商勢甚だ振つてゐたが鐵道開通後、地の利を得て開原が特產市場として活躍するに及び繁榮を奪はれるに至つたとは雖尙相當に特產の出廻を見又當地方は滿洲に於ける米の一產地である。市街は附屬地、商埠地、城內の三に分たれ昭和十四年一月現在人口約五萬七百七十三(內內地人三千餘人)を有する。

〔視察〕 驛—龍首山—鐵嶺公園—圓通寺の白塔—所要時間馬車にて約三時間

人力(龍首山五〇錢)馬車(龍首山七〇錢)自動車(貸切五圓以上)

四平街 (連京)

北滿の動脈たる平齊、齊北、北黑各線に依りて北滿東部內蒙古への入口貨物中繼市場としての位置を益高めてゐる。もと荒原中の一小部落であつた當地が交通に依つて成長し特に四洮線(現平齊線)開通後著しく擴充した都市となり滿洲建國後の發展は更に目覺しく市況は活氣を呈し頗る殷賑を極めてゐる。

またこの地の冬の寒さは所謂日溜りとも云ふべき地の利を占めて凌ぎ良く、春は杏花に梨花に昔ながらの名が高く殊に梨花は「梨樹」なる地名がある如くその美しさは隨所にみられる。

三十年前農家の點在するに過ぎなかつた此町は最近六萬一千六百餘人(內地人七千七百餘)を數へ郊外を合せると八萬を遙かに越える人口を有する樣になつた。

〔視察〕 驛—中央大街—南ヶ丘公園—四平街神社—四平街公園—忠靈塔—原種圃—昭平橋—驛(馬車所要二時間半、六〇錢。自動車所要時間五〇分、三圓)

〔土產〕 ホームスパンネクタイ、繪葉書、瑪瑙工作品。

〔視察斡旋〕 ツーリスト・ビューロー(驛前)

【視察】定期遊覽バス、大人一名一圓五〇錢、小人七五錢、コース、驛前―新京神社―忠靈塔―寬城子戰跡―日本橋通―舊國務院―宮廷府―淸眞寺―大同廣場―協和會館―南嶺戰跡―建國廟―安民廣場―國務院―南新京―興安大路―大同大街―寶山―新京驛。
（遊覽バス三時間半、貸切バス三時間、馬車五時間半、タクシー二時間）

【土産】豆麵、香木人形、新京人形、スツポンホルモン葡萄酒、刻磁器、滿洲煎餅、忠靈塔煎餅。

【視察斡旋】ツーリスト・ビユーロー（驛前、三中井デパート內、ヤマトホテル內、興仁大路郵政局內）、驛構內鐵道案內所、新京觀光協會（驛前）滿洲事情案內所（中央通六）。

安東（安奉）

滿洲國東邊道の重要門戶として鴨綠江の河口を遡ること二十六粁、元寶、鎭江の諸山を背後に控へて右岸に市街を竝べ新義州に對する國境都市である。附近は淸朝同治年間（慶應）に至つて山東及び遼東沿岸方面より移住した漁農民により初めて一部落をなし、地名を沙河子又は沙河鎭と稱へた。その後移民の增加と共に開拓の業勃興し、安東縣衙が置かれ材木の取引も盛んに爾來發展して今日の沙河鎭をなし縣衙の置かれて以來安東縣の俗名を以て稱ばれてゐる。市街は新舊二つに分かれ舊市街は滿洲國人商家の櫛比する處、新市街は舊市街に接し驛を中心とした近代式の井然たる街衢をなしてゐる。安東市は朝鮮鐵道の接續により事實上歐洲への關門の一として重要なるのみならず鴨綠江竝に海路による交通の惠を充分にうけ農林產に富む背後地を控へ、滿洲三大港の一として大連に次ぐ主要貿易港であり目下滿洲國、滿鐵によつて大東港築港計畫が着々進んでゐる。

昭和十四年六月に於ける人口は二十一萬四千九百七十二人（內地人一萬七千七百九十人）で漸增の傾向にある。朝鮮と一葦の流を隔てた此處では滿人の紺衣に鮮人の白衣を散見せしめ、滿鐵沿線都市中唯一の異色となつてゐる。

【視察】馬車にて三時間行程…驛―鎭江山―鴨綠江製紙會社―鴨綠江製材會社―鐵橋―滿洲街―驛

【土産】毛皮類、寶石類、ダイヤ、ヒスイ、アレキサンダー、麻雀、露西亞毛布、飴栗羊羹、石炭細工等

【視察斡旋】ツーリストビユーロー、安東觀光協會（商工會議所內）、驛構內「鐵道案內所」。

本溪湖（安奉）

撫順、鞍山と共に滿洲に於ける三大鑛業都市の一つである。無煙炭及鐵鑛が採れ、日滿合辦の本溪湖煤鐵公司で採炭、製鐵事業を行つてゐる。此處は曾て沙河大會戰の攻擊目標であつた。

一名窯街と稱せられ、紅窰（水甕製造所）多く其他陶器類と共に街の名物となつてゐる。昭和十四年十月市制實施され現在人口八萬六千（日本內地人六千人）を有する。

四年七月現在五十萬八千六百二十八人（日本人三萬六千四百二十八人、外人三萬三千二百餘人）を數へ國內では奉天に次ぐ大都市である。

〔視察〕順路、哈爾濱站（又は旅館）帝國總領事館—英國領事館—哈爾濱神社—博物館—中央寺院—ミルレル兵營—忠靈塔—志士の碑—花園小學校—ウクラインカヤ寺院—孔子廟—露人墓地—極樂寺—ロパート煙草工場—傅家甸—地段街—キタイスカヤ街—松花江—站又は旅館。

▼遊覽バス—埠頭區のジヤパン・ツーリスト・ビユーローを發著地とし所要時間約三時間、料金大人二圓五〇錢、小學生一圓五〇錢。

貸切自動車一時間三圓。

〔土產〕ルパシカ（露製上衣）、寶石類、毛皮、白樺細工、ロシア菓子、ロシア食料品。

〔視察斡旋〕ツーリスト・ビユーロー（中央大街七十八、丸商百貨店內、傅家甸、昌平二道街、ヤマトホテル內）

齊齊哈爾（齊平）

氣候は所謂大陸的で寒暑の差が激しく冬季は最低三十八度夏季は最高四十度位に上ることあり降雨日數は約八十日位である。齊齊哈爾は龍江或は龍沙とも呼ばれる。清朝が露國勢力の東侵に備へて建設した都市で二百數十年の歷史を有し當初から政治的、軍事的都市として發達した。之は哈爾濱が露西亞人の手で純經濟都市として發達し僅々三十餘年の歷史しか有しないのに比して面白い對照である。現在人口十萬二百八人（內地人八千四百三十）、龍江省の省城として政治的に重きをなしてゐる。又、經濟的にも消費市場としてではあるが哈爾濱以西に於て最も有力な都市である。

市街は嫩江を控へた大平原中に在る。內外の二城に繞まれ內城は官公衙街になつてゐる。日本人の多く居住してゐるのは外城の正陽街及び財神廟街である。

〔視察〕驛—正陽大街—城內—南市場—嫩江—公園—忠靈塔—神社—關帝廟—天齊廟—驛。馬車で二時間半。

〔土產〕瑪瑙細工、史國公酒、白樺細工。

〔視察斡旋〕ツーリスト・ビユーロー（大馬路）

滿洲里（濱洲）

哈爾濱より九百三十五粁（所要時間二十二時四十分）西部滿蘇國境驛である。旅客は此處で乘換をし又滿洲國の稅關檢査を受けなければならない。次驛オトポールでは蘇聯の稅關檢査、旅券檢査あり蘇貨への兩替も此處でする。人口約六千五百人、土產物はタルバガン毛皮がいゝ。

〔視察〕驛—エノケンチスカヤ神院—小原池—國境見學（要許可）—市政管理處—鐵道クラブ—驛（以上馬車三時間二圓五〇錢）

[illegible] 街衢に蜿蜒の集の如くに亂れてゐる城內全體を通じ官吏、富豪、有閑階級の邸宅が多く古城市の感が深い。

〔視察〕驛—ダム—臨江門—北山—河南街—大馬路—驛（バス及馬車五時間一圓八〇錢、自動車四時間

約一五圓）但夏期は鵜飼見物を加へ一圓增。
【土產品】蛤蟆油（山地に棲息する蛙の脂、精力劑）藥用人參、藥酒、ステツキ、搬不倒（起上小法師）、老虎枕頭劑會玩具、山葡萄酒。
【視察斡旋】ツーリスト・ビユーロー（吉林大馬路一三九・城內）觀光協會（市公署內）

牡丹江（圖佳・濱綏）

圖佳線の建設、北滿鐵道の買收を契機に急激に發達した新興都市であり背後地として牡丹江平野及び同江沿岸の森林地帶を有し、將來哈爾濱に次ぐ北滿の大都市に躍進すべく豫想されてゐる。現在人口十萬一千餘人（內內地人一萬三千二百餘人）であるが三十萬目標の都市建設計畫を急いでゐる。市街を分つて舊市街、新市街の二とし舊市街は從來からの濱綏線の街、新市街は圖佳線の建設によつて生れた街でこの新舊兩市街を併稱して牡丹江と謂ふ。建設景氣橫溢し市況極めて活潑である。濱綏、圖佳兩線の交叉點に當るこの街は東北部滿洲交通の中心地として鐵道局が置かれ又昭和十一年より牡丹江省公署の所在地として地方政治の中心をなしてゐる。

【視察】樺林木材工業工場
【視察斡旋】ツーリスト・ビユーロー（驛前）

佳木斯（圖佳）

佳木斯は明治末期までは戶數僅かに百餘戶に過ぎず大正五、六年頃、鶴立崗、梧桐河金鑛の開鑛に依つて相當人口の增加を見たが未だ三百餘戶と云ふ狀態で微々たる一部落であつたが松花江岸に位置しながらも嘗て水害を蒙つたことなく、この點依蘭、富錦よりも惠まれて居りまた此のことが今日の隆盛を造る大きな素因ともなつたのである。

圖佳線の開通は從來の物資輸送徑路に一新機軸を促し北鮮諸港とも緊密な關係を生じ、水陸兼備の貿易市場となり、松花江岸隨一の良港として北東滿に於ける物資の集散輸出入貨物の荷卸地として全滿屈指の商業都市としての條件を完備し、更に對岸、蓮江口から僅か五十粁を隔てゝ鶴立崗炭礦があり水質の良きことも東滿第一と謂はれ工業都市としての將來も囑望されその人口も八萬六千餘人（內地人五千餘）を數ふるに至り、明日への大飛躍が期待されてゐる。

康德元年（昭和九年）十二月、省政改革と共に三江省公署が置かれ、樺川縣公署の所在地でもありまた滿洲國國防上軍事的にも樞要の地である。

【視察】驛—新埠頭—省公署—舊埠頭—舊市街—公園—忠靈塔—驛（馬車二時間二圓五〇錢、自動車一時間五圓）
【視察斡旋】ツーリス・ビユーロー（向陽大街三段地）

通化（梅輯）

東邊道第一の都會、通化は通化省の新設と共に省公署の所在地ともなり、今又梅輯線は完成して日鮮滿を繫ぐ新ルートの樞要ポイントとして街は建設景氣凄く人口は既に昭和十四年六月に於て四萬二千五百三十九人（內地人一千七百二十人）を數ふるに至つた。元來當地方は一體に山岳地帶で平野に乏しく僅かに渾江の流域に耕地を有するだけであるが、附近に抱擁する鑛產資源開發も漸く緒に就き大栗子溝の鐵鑛脈、鐵廠子附近の炭礦脈等將來重工業地としても東邊道の心臟となる可きを約束されてゐる。

【視察】驛—通化橋—玉皇山公園—城內—神社—驛（馬車三時間二圓、但し冬期は三圓、自動車一時間半五圓）・斡旋はツーリストビユーロー（南關三九）で
【土產】ステツキ、莚、蓆

錦州（奉山）

錦州城は古く唐代から知られ、昔時、遼西の貨物集散市場として頗る殷賑を極めてゐたが、その後營口の開港や南滿、京奉鐵道の敷設によつて、經濟狀態は昔日の盛觀

は薄らいだが、なほ熱河省を背後に持ち、近く葫蘆島の築港完成の曉は阜新炭田の開發と俟つて交通產業の上から當然重要性を加重されることゝなるであらうが現時に於ても熱河、內蒙に對する南支貿易の進口路に當り、遼西の咽喉としての重鎭は保たれこの地方の最大市場たるの面目を保持してゐる。

現在人口十一萬六百餘（內地人一萬一千餘人）に達し都市計畫の進展に伴つて、益々人口の增加を豫想されてゐる。

〔視　察〕驛—舊交通大學—城內（古塔、廣濟寺）—中央大街—鐵道局—神社—驛（馬車二時間一圓、自動車一時間三圓五〇錢）

〔視察斡旋〕ツーリスト・ビューロー（驛前）

承　德　（錦古）

承德は滿洲事變後熱河討伐に依り一躍その名を邦人間に知られた所。淸朝の蒙古民族懷柔の根據地として又同朝の離宮、喇嘛廟の所在地として更に又湯玉麟が一世の豪華を極めた名殘の地として幾多の歷史を有する東洋屈指の觀光地である。前記皇軍の熱河討伐と鐵道開通に依り久しく閉された祕境の扉は開かれ更に今次の承德北京間の鐵道建設により承德、北京の二大觀光地を結ぶ觀光ルートの完成を見て、今や世界的ツーリストポイントとしての輝かしい前途を祝福されてゐる。人口四萬五千餘人（內地人四千餘人）。

承德を一名熱河と云ふのは、蒙古語のハロン・ゴル（熱い河）を漢人が直譯したものである。

〔視　察〕市內中心—忠靈塔—承德神社—西大街—觀光道路（展望地）—喇嘛廟（普寧寺、羅漢堂、須彌福壽廟、普陀宗乘之廟、殊像寺）—避暑山莊（離宮）—市內中心。

▼乘物料金、人力車四時間一圓（除觀光道路）馬車四時間二圓（除觀光道路）自動車三時間七圓、二時間五圓（除忠靈塔、觀光道路等）觀光バス、三時間一圓五〇錢。

▼參觀料　避暑山莊—個人大人一人に付國幣二角、小兒一人に付國幣一角、團體二〇名以上のもの大人一人に付一角、小兒五分。

八大寺—大人五〇錢、軍人學生二〇錢、小學生以下一〇錢、團體（二〇人以上）一人に付大人二〇錢、中人一〇錢、小人五錢。

〔土　產〕熱河風俗人形各種、佛像模型、色紙風景壁掛、喇嘛寺煎餅、熱河魚化石、楡細工、絨氈、蒲の穗細工。

〔視察斡旋〕ツーリスト・ビューロー（南營子大街）承德觀光協會、承德驛。

北　鮮

清津（北鮮）

府民の大部分は商業を營み其の商勢圈も北鮮一帶は勿論間島省一圓、東北滿に及んでゐる。日露戰爭の際北韓軍の軍需品陸揚地となつて以來荒涼たる一漁村も一躍商埠地となつて內外人の移住者逐年增加し明治四十一年開港場となり、今は人口七萬八千北鮮第一の大都市である。輸出入物の國際呑吐港として活躍し尙今後の素晴しい發展が期待されてゐる。府の西方輸城大平野は輸城川が貫流して居りその川尻に設けられた漁港は規模の大なること朝鮮第一であり、沿岸一帶及び蘇領沿海州の豐富なる漁獲物の大部分は此處でフイッシュミール、漁油或は罐詰等に加工されて歐米に輸出され、將來の大工場地帶として諸工業が計畫され已に建造に着手されたるものもあり羅津開港に依つて少しも其殷盛を奪はれて居ない。

此の地は日滿連絡の最短路たる敦賀—北鮮航路、新潟—北鮮航路の發着地である。

〔視　察〕驛—工場地帶—漁港—高秣山（タクシー、貸切、バス共に所要二時間）料金　タクシー六圓、バス六〇錢。

〔土　產〕鹽うに、つるちゆく（白頭山に產する高山植物）、鏡城硯、水晶製品、林檎、白波干（鱈の干物）

〔視察斡旋〕ツーリスト・ビューロー（埠頭構內）

羅津（北鮮）

東西北の三方面は山に圍まれ灣には大草小草の兩島が天然の防波堤をなし東洋一を誇る良港の性質を備へてゐる。京圖線の終端港として日滿交通の最重要地點たるのみならず滿洲物資の歐米輸出港でもある。數年前まで戶數二十足らずの一漁邑新安洞も今では府制(市)が布かれ人口三萬七千六百餘名(內地人五千六百)を數へ日一日と進展鮮かな新興都市である。

〔視　察〕驛―埠頭港灣―開拓館(滿拓)―ヤマトホテル―羅津廳―間依洞(魚干場)自動車一時間四圓。

〔土　產〕うに漬、數の子うに漬、あわびうに漬、貝柱、うに燒、貝柱味淋干。

雄基（北鮮）

朝鮮最北部日滿露三國境に近く古くより海路交通の要衝に當り大正十五年開港羅津淸津と共に北鮮三港の一で人口二萬五千を有する北鮮屈指の港都である。木材、石炭及び穀類等無盡藏の寶庫東北滿洲及び北鮮一帶を背後地として之等物資の輸出に獨自の活躍を示して居る。

中國

山海關（奉山・京山）

山海關は奉山線の終點驛で京山線との接續驛である。前面渤海を控へ後に高嶺を負ひ東北に長城の蜿蜒たるあつて正に山海の關門を成してゐる。この地は國防の要地と共にまた物資の集散地であり人口四萬四千五百人(內日本人一千五百人)

〔視　察〕半日コース　驛(旅館)―南門―天下第一關―萬里の長城―角山寺―驛(旅館)　一日コース　驛(旅館)―南門―天下第一關―萬里の長城―角山寺―立陽洞―二郞廟―石河―驛(旅館)

乘物　驢馬…驛(旅館)―天下第一關(驢馬二圓)

〔視察斡旋〕ツーリスト・ビューロー（南關中街七四號二）

天津（津浦・京山）

天津は白河を母體として發達した北支隨一の經濟都市である。水陸交通の要衝に立ち人口百四十五萬(內地人四萬五千)、市街は支那街、日伊英佛專管租界及び特別區とによつて構成され、各國夫々の色彩をこゝに移して異彩ある街衢を形成し、宛然列國植民地制度の展覽會場の如き觀を呈してゐる。この地は元來觀光資源には乏しいが都市構成上の特異性と各國の獨自な租界經營狀態等を比較研究するには好箇の生きた資料であり、また興味深いものがある。

〔視　察〕驛―萬國橋―佛界リコードフランセ四號路―日界旭街―大和公園―天津神社―日本總領事館―海光寺兵營―南開大學―中原公司―三不管―東馬路―鼓樓―舊市政府跡―李公祠―寧園―特別第二區―伊界―ハイアライ―伊太利公園―特三區―佛界佛蘭西公園―英界―共同墓地―エルジアンアベニューロンドン路―英國競馬場―馬廠道―ヴィクトリア公園―特一區―大連碼頭―白河岸―新興路迂廻歸着

料　金―貸切バス三時間一臺一三圓五〇錢、ハイヤー三時間一臺一二圓。

〔土產物〕絨、天津人形、甘栗、皮革類

〔視察斡旋〕ツーリスト・ビューロー(日本租界旭街一二、東馬路南大門一三六、特三區大馬路一緯路三〇)



北京（漢京・包京・山京）

北京は約一千餘年前、滿蒙地方に興つた遼が此の地に都城を築いて以來引續き金、元、明、清の王朝が宮居した帝都で、清朝が滅亡して中華民國となつた後も國民政府が南京に遷都するまではやはり支那の政治中心地として繁榮したもので、此の北支那第一の大都會も今次支那事變を契機として中華民國臨時政府の首都となつた。

北京は一千年の間各朝廷が一國の首都として經營した上に近くは康熙、雍正、乾隆三代に亙る燦然たる東洋文化の黃金時代も實に此の地を中心として現出されただけに

後年兵亂に依つて荒廢したとは云へ今に老大帝國の帝都としての偉觀を備へ、世界的觀光都市として全世界ツーリストの憧れの地となつてゐる。

北京市の總面積は大體七一九・二五平方粁で丁度東京市と同じ位の面積を持ち昭和十四年八月現在の人口は百六十六萬七千八百九十五人(日本人三萬九千餘)である。市街は內城と外城よりなり內城は主として官衙・住宅街、外城は商業區となつてゐる。內城の公使館區域は共同租界の樣なもので一切支那人の居住を禁じ各國大公使館は凡てこの地域に軒をならべ外國商館等もこの區域にある。

北京は朱壁黃甍を隨所に見る街全體が一園の名所舊蹟である。從つて其の觀光箇所も非常に多く、一通り市內外を見物するとしても自動車で先づ二日乃至三日を要する。

△市營遊覽バスコース

A　ビューロー前又は東華門より乘車
北海公園—紫禁城跡—萬壽山—天壇(入場料共五圓)

B　ビューロー前又は東華門より乘車
景山—故宮博物館—雍和宮—孔子廟—中央公園(入場料共四圓)

〔土　產〕毛皮、翡翠、珊瑚、骨董等

〔視察斡旋〕北京驛構內案內所、ツーリスト・ビューロー(北京東城崇文門西單北大街、王府井大街、前門大街)

通　州　(通州)

通州は事變前舊冀東防共自治政府の所在地であつた。支那事變の初期、昭和十二年七月冀東保安隊叛亂以來發展を阻止された貌となつたが皇軍の宣撫と新來邦人の努力に依つて城內に復歸するもの多く、復興通州をめざして發展は見るべきものがある、現在人口は城內外を合せて三萬と云はれてゐる。此地は由來大運河北部の起點で鐵道開通迄は南方支那より北京に入る貨物の唯一の關門をなし又海路天津經由北京に入る要衝に當つてゐた。支那事變當初通州事件の發生地として日本人には忘れ得ない處である。

〔視　察〕燃燈古塔—寶通寺—楊林—水月庵—鼓樓—八里橋—桃花林。

保　定　(京漢)

國民政府成立後は清苑と改稱されてゐたが前清以來保定府と稱ばれ舊直隸省の省城であつた。民國後直隸派は曾てこの地に直魯巡閱使署を設け勢威を張つた。國民政府成立後は河北省の省城となつてゐた。此處は北京、石門の略中間にあり附近に數多の河流をもち、天津との間には自動車道路あり軍事上の要衝であり、嘗て保定軍官學校の所在地であつた。現在人口二十五萬を有する。

〔視　察〕三陵—萬卷樓—永寧寺—百花峽—蓮花池

石　門　(京漢・石太)

石家莊は昭和十四年十一月より再び石門市と改稱された。もと獲鹿縣の一小村であつたが正太鐵道の敷設工事が開始され石家莊は其の起點として光緒三十三年開通後は大小商店の進出增加し漸次繁盛を來すに至つた。

その後國內の動亂相續き農村は疲弊し商家の倒產するもの續出し市の發展上に大頓坐を來したが民國十七年北伐成功の後、內外の狀勢次第に復舊し漸次繁榮を來すに至つた。かくて支那事變勃發昭和十二年十月皇軍この地に入城してより各地に避難してゐた住民も次第に歸來し、今は人口七萬六千三百餘(內地人五千二百四十餘)を算するに至り人口五十萬都市計畫に着手した。氣候は極寒期と雖も零下四、五度程度であるが六月に入ると酷暑甚しく黃塵は天に沖し文字通りの殺人的酷暑が襲來して近くは井陘、遠くは青島方面に避暑するのを常としてゐる。

〔土產物〕綿製マット

〔視察斡旋〕　ツーリスト・ビューロー（阜寧路）

濟南（津浦・膠濟）

濟南は山東の省城で黃河によつて形成された肥沃な黃土地帶の中心地である。西は遙かに中原の大平野に續き、北は京津の政治經濟の中樞に連り、南は揚子江の膏腴地に到る。津浦、膠濟の兩鐵道はこゝに會して黃河の水運と聯絡し北支に於ける北京、天津につぐ經濟交通上の大都市で人口八月末四十五萬四千八百餘、内地人一萬七千五百餘を數へ、十二年十二月皇軍入城後已に二箇年餘治安は全く恢復した。

〔土產物〕　肉の華（ドライビーフ）、碑文石刷、蓮實菓子。

〔視　察〕　驛―忠魂碑―二太馬路―趵突泉―千佛山―馬虎泉―大明湖―驛（自動車三時間九圓、人力車五時間一圓五〇錢）

〔視察斡旋〕　ジャパン・ツーリスト・ビューロー（大馬路五〇七）

青島（膠濟）

市街は港灣に臨んだ丘陵の自然を利用しこゝに獨逸の文化を移しただけに綠林に赤瓦を點綴した瀟洒な街相は街全體遊園地の趣がある。人口五十一萬七千七百餘（内地人二萬五千六百餘）、卽墨、膠縣編入後の新市内總人口は百九十萬を數ふるに至つた。

この地は明代に海哨が置かれ海寇を防いだ所で降つて淸の乾隆年間に膠州稅關が設けられ光緒十七年始めて砲臺を築いて沿海の要害に備へ、鎭守軍署を置いたがなほ寥寂な村邑にすぎなかつた。其後獨逸の東亞進出の根據地となるや一躍黃海沿岸の主要市場として登場した。然るに歐洲大戰の後この地に有する獨逸の權益を一時わが國が繼承したが華盛頓會議に於て之が放棄を聲明し、山東鐵道の借款のみを保留したのであつた。かくて青島の行政權は二十六年振りにて、中國の行政下に復歸した。

〔視　察〕　旅館又は驛・埠頭―青島神社―陸軍病院―市公署―湛山精舍―海濱公園―水族館―山東產業館―忠の海海水浴場―會姓岬砲臺―第二海水浴場―太平公園―湛山寺―第一公園―忠魂碑―日本總領事館―興亞院―海軍棧橋―山東路―歸着

料　金―タクシー三人乘一臺三時間一八圓、パス二十人乘一臺三時間一五圓、遊覽バス大人一圓五〇錢、小人七五錢、軍人、學生、團體は二割引

〔土　產〕　ドライビーフ、パテントビーフ、榮養煮、肉乃華、蜂蜜櫻飴、牛肉糟漬

〔視察斡旋〕　ツーリスト・ビューロー（堂邑路二十八號、奉天路）

芝罘　・渤海岸・

渤海の咽喉を扼する要港にして北支貿易港として一時殷盛を極めたが輓近大連、青島、營口、龍口等に制せられ中繼港としての價値を失ひ幾分衰態の狀態にある。昔の狼煙臺―烽火を揚げ倭寇の防備に任ぜしめた地で支那人の間には昔ながらの煙臺で呼ばれてゐる。

人口約十一萬と推せらる。

〔視察斡旋〕　ツーリスト・ビューロー

徐州（津浦・隴海）

國民政府成立後銅山と改稱されてゐたが淸朝は徐州府を置いた地で西楚覇王の古都であり古來より南北往來の要衝であつた。津浦、隴海兩鐵道開通後はその交叉點となり山東、河南、安徽、江蘇の軍事、交通上の死活を制する要地となり、民國以來幾度かの内戰においても南北兩軍爭奪の地となつた支那中原の軍事的要衝地であつた。昭和十三年五月皇軍入城と共に次第に平和を取戻し從前の繁盛にかへりつゝある。人口凡そ八、九萬人。附近には今尙名勝古跡多く昔漢の高祖と楚の項羽が戰つた古戰場などもある。また支那事變に我が西住戰車隊奮戰の地として長く記念すべき地である。

開封（隴海）

五代及び北宋の古都で清朝は開封府を置いて治め以後河南省の省城であつた。附近一帶は平原であり北は黃河によつて河北、山西省と界し、東は山東及び江蘇徐州に通じ西は鄭州、洛陽を經て陝西省に至る隴海沿線中の人口二十餘萬を有する河南に於ける經濟商業の中樞であり、支那中原の大都市である。此地は北宋の故都であつたので宋代の宮城その他の古跡が豐かである。

〔視　察〕甘露寺—午朝門—龍亭—相國寺—平民公園（革命紀念塔）

鄭　州（京漢）

附近棉花及び米を多量に產し、事變前までは漢口及び上海方面との商取引盛んであつた。平漢鐵道開通後商埠地に指定した爲漸次內外商人の進出するもの增加し中原に於ける一大貿易市場を形成するに至つた。この地は黃河南岸五十三支里の地點にあり、京漢及び隴海線の交叉點に當る支那中原の軍事經濟上の重要都市である。

太　原（同蒲・石太）

山西省の省城で東北二面に山を控へ前後に河を有する要害堅固の地、山西地方政治經濟の中心地である。歷代太原府又は順撫使署等の行政廳が置かれ今事事變當時までは山西省政府の所在地であつた。位置は正太鐵道の終點で殆ど山西省の中央にあり、市街は城壁を廻らして鼓樓其他の大廈高樓聳え道路は洋風に改修されて居り省內一帶の商業の中心にして人口約十萬五千（內地人八千）を數へ、かつて久しきに亙る閻錫山の本據であつた。

〔土產物〕銀製品、葡萄酒

〔視　察〕驛—新民公園—龍王廟—省公署—大北門—太原神社—驛（人力車三時間半一圓、自動車一時間半七圓五〇錢）

南　京（海南）

こゝは戰國時代初めて金陵邑を置き秦の始皇帝は秣陵と改め兩漢がこゝにより三國の時吳の孫權は國都を建てゝ建業と名附け成祖の時南北兩京をたてゝ南京と稱した。南京の名はこの時から始まつたのである。

明の衰へると共に南京も亦昔日の盛華を失ひ清朝の興るに及んで兵戰の巷と化し、更に咸豐三年長髮賊は南京を占領して太平天國を建設したが再び清朝に歸した。

民國革命の勃發まで四十餘年間は太平無事にして諸般の生業は興り商運盛んとなる氣運にあつたが宣統三年革命禍中に陷り孫逸仙は中華民國第一次大總統としてこゝに假政府を建て、以て永遠の首都とする意向であつたが、袁世凱が大總統となるに及び、彼は遂に北京に留り、南京の諸機關は自ら北京に移つてしまつた。民國三年第二次革命には黃興が此處に據つて討袁の旗を飜したが、戰利あらずして海外に走り、張勳は部將として南京に打ち入り大に虎勇を奮つて商舖を掠め、良民を殺し、蠻行の限りを働いた。

國民革命軍は十六年三月江南を衝いて一大修羅場を現出し、南京を陷れるに及んでは各國在留民に對して暴虐を盡し、遂に在泊中の英米の砲艦をして火蓋を切るに至らしめ南京事件を惹起した。民國十七年夏以來國民政府の事實上の中華民國首都となつて新裝を凝らして來たが、今囘の事變によつて主要機關は打ち碎かれた。

南京の商取引の對象は地方的都會であつて遠地との通商は上海に讓る。然し生產物は豐富であり殊に織物業中でも絹織物の元靑緞(南京繻子)、緞子はこゝを本場とし日本婦女子の帶地として愛用される。

城壁は周圍三十餘粁、十數門を以て外部と通じ規模の大なること北京につぎ支那事變後は維新政府の所在地となつた。人口約五十萬人にして日本人は約六千五百人。

〔視　察〕新市街口—玄武湖—中山門—明孝陵—中山陵—光華門—中華門—夫子廟—新街口（遊覽バス三

時間二圓五〇錢、自動車一五圓）

〔土　產〕鑵子、緞子、團扇、陶磁器、板鴨（家鴨の鹽漬）等。

〔視察斡旋〕ツーリスト・ビューロー（中山路一）

蘇　州（海南）

上海南京間の大都會で人口三十二萬人（日本人八百五十八人）、杭州と竝び稱せられる歷史上有名な都市で周初吳の太伯の邑で春秋の頃吳國の首都となり名を姑蘇と云つた。日清戰爭の結果開市場となり我邦の專管居留地も存するが上海に繁榮を奪はれて昔日の面目はなく貿易は殆ど國內取引に限られてゐる。

古來「上有天堂下有蘇杭」と云はれた地上の樂園とされ又美姬の產地として知らる。姑蘇二千六百橋と云はれる程水運便にて支那のヴエニスとさへ讃へられてをり名勝、舊蹟に富みて遊覽客が絕えない。

〔土產物〕刺繡布、紫檀細工、麻雀、硯墨、骨董、石刷

〔視　察〕驛―寒山寺―西園―虎邱―北寺塔―獅子林―玄妙觀―蘇州銀座（馬車四時間半三圓、自動車三時間一二圓、人力車六時間一圓五〇錢）

〔視察斡旋〕ツーリスト・ビューロー（驛內）

杭　州（海杭）

杭州は浙江省の首都で馬關條約以來開港場となつて居る。市街は城內及び城外（湖墅）にわかれ鐵路、水路共に至便で、商工業も極めて繁盛してゐるが西湖十景をはじめ名勝舊跡地としても有名で、元の始渡來せるマルコポーロをして景勝世界に冠たるものであると嘆賞せしめた程である。

西湖を中心とする名所、舊蹟、古刹などの一切は、皇軍の行き屆いた保護により一物も毀されず、昔ながらの詩を傳へてゐる。

當地方の氣候は槪して良好で、四季の變化も餘り激しくなく日本人にも適するといはれて居る。冬は華氏四十度內外で寒氣はさほど激甚ではないが、夏期は屢々百度に達する。降雨は一般に多く殊に六月と九月が最も多量である。

人口は戰前五十萬或は六十萬と言はれてゐたが、支那事變により一時五分の一に減じ、その後皇軍及び自治委員會等の努力に依り現在三十七萬人（日本人一千三百人）に恢復した。

杭州城站より西約三粁、人力車、バス、自動車で數分乃至十數分で楊柳繁る西湖畔に杖を止むることが出來る。湖は白沙堤と蘇東坡の築造したと傳へらる蘇堤と金沙堤の三堤によつて西湖、北裏湖、西裏湖、南湖に分れて居りその周圍十三粁、三面山を繞らして秀峰翠を競ひ碧水滾々と流れ四季共に格別の趣がある。

一說によればこゝは錢塘江の流土によつて形成せられた陸地に殘留した河川の一部であるとされてゐるが眞僞は不明である。

附近には西湖十景を始め靈隱寺、天竺寺、岳飛の墳その他名勝、古蹟は頗る多い。興亡幾百年の歷史を湖畔に秘めて古雅な香を放つてゐる。

〔視　察〕驛―城內三元坊―鳳山門―萬松嶺―淨慈寺―（六和塔）―蘇堤―岳王廟―玉泉寺―雲林寺―（三天竺）―中山公園―放鶴亭―平湖秋月―斷橋―湖濱公園―新市場―驛（自動車二時間半乃至四時間、一〇圓五〇錢乃至二〇圓、バス同時間二五圓乃至四〇圓、人力車六時間乃至十時間二圓五〇乃至四圓。

〔土　產〕絹織物類、緞子、鑵子、絹布、鋏、扇子、火腿、龍井茶、蓴菜、筍、甘蔗、藥草、名所圖布等。

〔視察斡旋〕ツーリスト・ビューロー（中山路一一）

無　錫（海南）

江蘇第一の工業都市として江南に重きをなし、棉糸布、繭等を多額に產する。今事變に於ては城の內外共大なる戰鬪はなかつたが、空爆により街の大半は破壞せられた。

其後市街の復興目覺しく城の內外共戰前の十七萬を突破するのも近きにありと見られてゐる。日本で愛玩されてゐる海鼠の火鉢、茶器、植木鉢等は此處で製造される。

〔名　勝〕太湖黿頭、妙光塔

常州（海南）

江蘇省武進縣の中央に位し、水陸交通の便によく、江南の主要都市として知られ驛は最近まで武進驛と稱ばれてゐた。

人口九萬を有し江南隨一の工業都市として染織機、製油機、紡績機等製作工場多く驛より二粁天寧寺は弘法大師留學所と云はれ、江南に於ける第一位寺院で事變前は僧侶六百人が修業してゐた。

鎭江（海南）

もと京口と稱し南京の咽喉部に位し、北は長江を隔てゝ揚州に通じ、軍事、經濟、交通共に長江に於ける有數の要衝地であつた。一八六一年の天津條約により開港され物資の集散地であり、市街は東南に黃山、觀音山、西に衙墩山の重疊たる山岳を背景とし自ら天險をなしてゐる。府城は一里九町、人口約二十萬を有し商店街は殷盛を極め居留地は整然としてゐる。此處は又江南隨一の良質の水を持つことで知られてゐる

【名　勝】金山寺、甘露寺、焦山、揚州

上海（海南・海杭）

上海港が世界獨立國約六十の殆ど總てを相手として全支對外貿易額の一半以上を占め更に長江流域を其の直接の背景として同流域對外貿易の九割內外を掌理すると共に人口大約五百萬（日本人四萬人）を抱擁し而も世界約四十箇國の國民各人種を網羅し所謂國際都市として異狀な發達を遂げ財政、商業、工業及文化の諸點に於て全支那の指導的地位を獲得するに至つたについては遠く八百六十餘年の長き歷史を閱し、一八四三年の開港後に於ても尙對外貿易港として九十有五年の歷史を有してゐる。

宋の熙寧七年に初めて上海の地名が與へられた以前は華亭海と呼ばれその後二百數十年を經て元代に縣城となつて稍繁盛を見た蓋し今日の繁榮の基礎は南京條約に基き一八四三年開港された以後にある。而も之が繁榮の中心は租界に在り、なほその位置及び背後地との關係が中支における一大集散市場たらしめ、極東に於て大連、香港の鼎立關係に於て優位にあり今日の繁榮を遂げしめた主因である。貿易總額は一九三七年に於ては九億一千三百餘萬圓に上り實に全支輸出入總額の五十五％餘を占めてゐる。

支那隨一の工業都市にて凡ゆる工場を有し邦人も紡織其他の工業に從事し巨大な勢力を有してゐる。商業の中心は共同租界殊に黃浦江に近接する部分で虹口方面は小賣業の盛地で邦人の居住者が多い。

【視　察】旅館（吳淞路）—（虹口マーケット）—文路—（日本人クラブ）—北四川路—郵便局—北蘇州路—（ブロード・ウエイ・マンション）—ガーデン・ブリッヂ—パブリック・ガーデン—バンド（日本郵船、正金、キヤセイホテル）—南京路（パレス・ホテル、トーマスクック、永安公司、先施公司、新新公司、大新公司、新世界）—靜安寺路—（競馬場、パークホテル、外人墓地）—愚園路—ゼスフイールド公園—中山路、虹橋路—（東亞同文書院）—アベニユーヘーグ（徐家滙天文台）—徐家滙路—祁齊路—（自然科學研究所）—畢勛路—（日本大使館邸）—霞飛路—愛多亞路—アベニユー・エドワード七世—（平和女神像）—バンド—（日本總領事館）—南潯路—閔行路—昆山路—（留居民團）—北四川路—（海軍陸戰隊）

上海神社—新公園—狄思威路—吳淞路（旅館）以上大約四時間

▲戰跡視察順路

吳淞路（旅館）—北四川路老靶子路（ポケット地帶）—北停車場—商務印書館—西八字橋—八字橋—水電路（廣中路激戰地）—江灣鎭—江灣競馬場—復旦大學（維新學院）—五條ケ辻—市政府、大正通（平田聯隊）—大場鎭—閘北戰跡—北四川路—吳淞路（以上大約四時間

【土　產】外國煙草、寶石類（翡翠、ダイヤモンド）支那年產糖果類、絹綉物、絹手藝品、柴細工等

【視察斡旋】領事館、居留民會、商工會議所、ツーリスト・ビユーロー（北四川路、廣東路）

嘉興（海興）

蘇家線の分岐點で戰前は人口十三萬を有

してゐた。古くは楊州と稱し、後嘉興府となつたもので、附近一帶は平坦地質肥沃のため穀類の生產多く、殊に米は年產四百萬石を超へ、又繭、魚菜、煉瓦、織物、紙、生絲を產し、今後に於ける產業方面の活躍が期待されてゐる。

〔名　勝〕煙雨樓、三塔

蕪　湖（南京）

上海を朝の汽車で立つと夕方到着する。人口二萬を有し安徽省隨一の都會である。光緒二年(六四年前)英支芝罘條約により開放された開港場で、目下日本人も七百餘名住居してゐる。市街は北京路、大馬路等あるも他は道路狭隘にして支那家屋櫛比混雜を極めてゐる。附近農民は米、菜種、小麥、大豆、菜莨、茶等を產し、殊に米は蕪湖米として知られ支那隨一の稱がある。

驛より三粁李鴻章公園があり夏は納涼氣分を味ふ人々で賑ふ。

武漢三鎭（京漢・粤漢）

武漢三鎭—漢口(百萬)、漢陽(二十萬)、武昌(三十萬)—は大約百五十萬の人口を擁したるも事變後は約七十萬程度に減じたる模樣である。此處は上海地方に次ぐ中支政治、產業、文化の中心であり、支那本部の略中央に位置し交通上の要衝を占め六千噸の海洋航路の汽船が六百三十哩上流の漢口まで揚子江を定期に航行し夏期には一萬噸の汽船が達する。漢口は水陸交通上の中心地許りでなく資源の上からみても「兩湖みのれば天下餓ゑず」の諺にある程附近は農產物の產出が豐か、加ふるに大冶鐵山始め石炭、銅、鉛、錫、マンガン等の重要資源の產地を控へてゐる。氣候は江南地方と大體同じであるが夏は時に九十九度と云ふ酷暑が襲ふも晩秋は爽快で氣持ちがよい。

武昌は最古の市で省政府があり政治上の中心であり清末の傑物張之洞が湖廣總督として文化施設に努力した處で、武昌大學はかつて共產抗日學生の巢窟であり一九一一年辛亥革命の旗擧げをしたのも此地であり、漢陽は工業都市である。

漢口は新興商業都市であり、市街は外國租界(日、佛)と支那街に分れてゐる、漢口市街の東北を占める外國租界地は大きな近代的建築を持つ清潔な市街で江岸通りの廣いアスファルト路に各國の碼頭が並んでをり最も繁華なるは舊英租界と支那街の間にある江漢路である。

〔觀察箇所〕

▲漢　口　江漢路—中山路—廣雅公園—バドン—佛租界—日租界(約四時間洋車一圓五〇錢)

▲武　昌　黃鶴樓—蛇山公園—寶通寺—武昌大學(洋車半日二圓)

▲漢　陽　晴川閣—大別山—古琴臺—歸元寺(洋車三時間一圓)

〔觀察斡旋〕ツーリスト・ビユーロー(江漢路一九七)

廣　東（粤漢）

前面珠江に臨み、背後に觀音山、白雲山等を控へる廣東(廣州)は越人公師隅の築くところ、人口約九十萬を算し民國中最も古くから外國と貿易を始めた港で、一名仙城または羊城と云ひ、一八四二年南京條約に依り開放せられた貿易港である。兩廣物資の集散地として市況殷賑、大廈高樓軒を列べてゐる。一九二七年一月國民政府を湖北武昌に移すまでは南方護法政府の所在地で政治、軍事の中心であり、支那事變では香港廣東漢口を繋ぐ援蔣ルートの樞要地で物情騷然たるものがあつたが皇軍入城後治安は全く確立した。

廈　門（・福建省・）

市街は廈門島と鼓浪嶼(コロンス)の兩島からなる。その間僅かに一粁許りであるが自然の良港をなし、市の大部分は廈門島の南西端に位し人口約三十萬、泉州、漳州の商貿を吸收して次第に發展して來たのであるが、その

後奥地に資源がないこと、當地の主要輸出品茶がインド茶や臺灣茶の爲に販路を狹められ、紙、煙草、砂糖等も亦臺灣の割譲によつて需要を減じた等の理由により厦門の發展は次第に阻害されて來た。然し此處は汕頭(スワトウ)と共に南洋各地への出稼移民が多いので、之等よりの巨額の送金を以て毎年入超のバランスを保つてゐる。

我臺灣島民の大部分がこの厦門、殊に鼓浪嶼(コロンス)からの移住であり從つて未だ言語、風俗、習慣等全然同一の點多きを見受けられ又今日約八千の臺灣籍民が此の地に渡つて臺灣公會を組織してゐる。臺灣にある媽祖や城隍廟、天后宮等があつて祭典等も殆ど同一である。

福州 ・福建省・

閩江の馬尾を約十三粁溯るところにある。

福建省の首府で巨大な城郭に圍まれてゐる。

城外には江岸に市街をなし、また大石橋によつて結ばれた丘陵起伏の對岸南臺島上には外國人の共同居留地や我が專管居留地などがある。人口約三十餘萬本省第一の都會で商業もなか〳〵盛である。

長橋萬壽橋、洪山橋が閩江に架けられ南臺の町は支那町に結びつけられ橋のたもとには幾百千の民船蛋民の船が舷々相摩して泊つてゐる。福州の印象は白堊の建物と鼓山、烏石山の展望であり、鼓山の湧泉寺は僧空海が駐錫した處として日本人に縁が深い。

澳門(マカオ) ・廣東省・

香港を西に距る六四キロの地點にある半島で、爾來支那革命黨の策源地となり、或は敗軍將領の避難地となり、又海賊の逃避所ともなつてゐた。瀟洒たる一小區域で夏季は綠蔭に涼を納れるため廣東方面からの避暑客を以つて賑ふ。

一五三四年、ポルトガル人が巨額の賄賂を支那官憲に贈り互市場としたのが初めであり、當時外國貿易は殆ど葡人の專占する所となり、その活動も目覺しいものであつたが、其後昔日の態を失ひ今日では公許賭博場として其餘喘を保つてゐるに過ぎない。人口約十萬、葡人五千、サン・パウロ寺院、ヴアスコ・ダ・ガマ銅像、カモンス公園等著名な名勝舊蹟として存在する。

北海 ・廣東省・

東京灣頭の一半島に位する開港場で、一八七六年芝罘條約により開港されたところで人口約七萬人、大體港灣内が非常に淺く船舶の出入不便であるため現在では一箇年を通じて出入船舶五、六百隻に過ぎない。嘗て上海事件の際日本軍に頑強に抵抗した十九路軍の蟠居した處であり、又一九三六年九月邦商中野氏が暴民に慘殺され日支間の國交とみに緊張した爲この小都會北海は俄然邦人間に著名となつた。

南支方面に利害關係を持つ英國と、近くに屬領安南を持つ佛國と、臺灣を足場とする日本とは北海の地位を充分に價値してゐるので此處は單なる小開港都市として見過すわけには行かない。

蒙疆

張家口 (京包)

支那事變を契機として蒙疆七百萬民衆の首府として一躍東洋の檜舞臺に登場した張家口は陸の港である。京包線中最大の商業都市で萬里の長城の門戸に位置し北は外蒙に通じてシベリヤに入り東は多倫を經て滿洲國に入り西は厚和、寧夏、新疆に走つて支那内地から邊境に入る要衝に當り蒙古の貿易市場なるばかりでなく昔時はロシア商品の通過地でもあつた。

張家口はまた察哈爾省主席宋哲元が此處

に軍を置いた所で軍事上の要地である。

明代には此の地に馬市を開き蒙古と貿易を通じたが、淸代に至つて口外の地を併せこゝに張家口廳を設け民國に縣城を北方九十支里に移したがのちまた察哈爾特別行政區域の首都と定め民國政府に及んで察哈爾省政府の所在地となり、現在は蒙古聯合自治政府並同察南政廳の所在地となつてゐる

人口約十萬、內蒙古人一割、回教徒一割、日本人は最近急激に增加して約七千を數ふるに到つた。

〔観　察〕外邊長城、孤石見、賜兒山、元寶山、東西高山、朝陽洞

〔観察斡旋〕ツーリスト・ビューロー（橋東五四）

大　同（京包・同蒲）

內長城の中間雁門關の嶮を控へ四周に山脈と長城を圍らした山西北門、蒙疆南門の要衝である。京包線の要地であると共に同蒲鐵道の終點に當り山西、蒙疆地方物資の集散地である。曾て淸朝は此地に大同府を置いて治め北魏時代には拓跋珪の故都であつた。

古來より夷狄の南下を防禦した要害で目下は晋北自治政府の所在地である。

附近口泉鎭には石炭を多量に產する。

大同縣城內の人口は支那人約七萬、日本人は四千五百名を有し、現在晋北政廳の所在地である。古來山西人の外蒙古進出の根據地にして昔より內外蒙古に出でんとする支那人は一度は必ず當地に滯在準備を整へるのが例であつた。

〔観　察〕石佛観察バス往復三時間一圓五〇錢、上・下華嚴寺市內洋車三〇錢

〔観察斡旋〕ツーリスト・ビューロー（大東街一一二號）

厚　和（京包）

當市は歸化城及綏遠城の二市街より成り兩市を合して厚和特別市と稱し、內蒙古五盟に對する商業上の樞要地にして現在人口十萬（日本人一千五百餘人）を有する。

海拔三千二百呎の高原に位し、空氣乾燥して寒暑共に激しく、四月解氷して十月に結氷する。

新城卽ち綏遠城は乾隆元年の建設になり些して廣くはないが立派な城壁を圍らし以來官衙街として發展して來た。

歸化城卽ち舊城は之に對し純然たる商業地域をなしてゐる。

由來張家口が蒙古との交易門戶をなしてゐるのに比して此の地は陝西、甘肅、新疆諸省との間に駱駝隊、自動車隊等に依る交易網を展開し繁榮を誇つてゐた。

〔観　察〕大招（無量寺）、小招（安禰寺）、錫拉圖招、卓爾齊招、五塔招、大淸山

〔観察斡旋〕ツーリスト・ビューロー（驛內）

包　頭（京包・同蒲）

包頭は京包線の終點で山西、綏遠地方と寧夏甘肅地方を結ぶ物資の中心市場で、厚和に次ぐ蒙疆地域內第二の都會である。

住民は山西人がその六割を占め、その他には蒙古人が多い。

尙小數のロシア人が皮革類の取引をなし居るも彼等は永住性を持つてゐない。寧夏、甘肅方面との交易は殆ど黃河の水運によつて行はれてゐる。

包頭から一里の地點にある南海子がこれ等物資の發着港とも云ふべき處、移入物は羊毛、皮革類、藥草、移出物は鐵、石油、茶等が主である。

寧夏から南海子までの下航は大體十七、八日を要し駱駝行と殆ど同じ日數がかゝるが遡航には約五十日を要する。

「包頭」と云ふのは元來蒙古語で「土地相會す」といふ意味を有し、此の名を冠した設治局がはじめて設けられたのは民國十二年である。

前淸時代には薩拉齊廳の一部として純然たる蒙地であり明代には未だ蒙古に屬してゐた。

人口は約七萬で、邦人は五百人である。

〔観　察〕昭君墓、轉龍藏、廣覺寺等

開拓地



開拓民計畫

【開拓民の特質】　滿洲國は八紘一宇の建國精神に基き、民族協和、日滿不可分關係の實現を理想とするものであるが、此理想は思想堅實身體强健なる日本内地農民が多數入植して、勤勞奉公の生活を以て四隣に範を示し、克く原住民と融和して滿洲國民の中核となり、子孫相繼ぐに至つて始めて之が實現を見ることが出來るのである。滿洲農業開拓民は斯の様な重大使命を擔ふ點に於て全く他の一般移民と性質を異にするものであり、二十年百萬戸の計畫が日滿兩國を通ずる樞軸的國策として採用された所以である。

又滿洲開拓民計畫は尙其の大量なるに依つて、人口過剰と耕地狹隘に惱める日本農村問題解決の一助ともなるべく、其技術の優秀及組織の整備された點等に於て滿洲農業開發に寄與する處が多いのである。

此の意味に於て新開拓民は北米、南米等への移民と異り、其經濟的、社會的諸條件に基き、自然に放置して大量の入植を期待することは出來ないので、少くとも當初に於ては多大の國家的援助を必要とされてゐる。

【開拓民計畫の概要】（一）（二十年百萬戸計畫の概要）昭和七年より同十年迄に入植せる約千八百戸の試驗開拓民の成績に鑑み昭和十一年八月日滿兩國政府は二十箇年百萬戸五百萬人の大量開拓民計畫を樹立、直ちに翌年より實施したが、其の計畫概要は次の如きものである。

（イ）　開拓民を其入植形態に應じ集團、集合及分散の三に分ち、五箇年を一期として第一期十萬戸、第二期二十萬戸、第三期三十萬戸、第四期四十萬戸計百萬戸入植の豫定

（ロ）　開拓民に對しては一戸當農耕地概ね十陌(約十町歩)及若干の放牧薪炭備林地を考慮しあり、其用地として農耕地約一千萬陌を必要とし、之は滿洲國に於て整備するのであるが、昭和十三年度迄は同政府指導の下に滿拓公社をして之に當らしめた。昭和十三年末迄に整備を了した土地の總面積は約一千二百四十萬陌、現在整備中のもの約二百三十萬陌、整備豫定のもの約一千三百萬陌、計二千七百七十萬陌にして、所用可耕地約一千萬陌は右のうちに於て獲得し得る見込。また用地の整備方針としては官公有地を先にし主として未耕地を之に充つる等努めて原住民に悪影響を及ぼさゞる様考慮してゐる。

（ハ）　開拓民に對しては日本政府に於て一戸當り集團開拓民に付約一千圓、集合開拓民に付約其半額の補助金を交付する外、滿洲國政府に於ては治安、交通、通信、營農等各般の事項に關して行政上の保護を爲し、滿洲拓植公社は開拓地に於ける必要な施設及其經營と資金を低利融通する。

（二）（滿洲開拓青年義勇隊計畫の概要）日本の純眞なる青年を在滿の訓練所に收容し、之に對して民族協和、日滿不可分の理想を鼓吹し、心身の錬磨、農業技術の習得に努めしめ、將來之を農業開拓民として定着せしむるに於ては滿洲農業開拓民事業の本義を達成する上に於て効果尠からざるべく、日滿兩國政府は茲に着眼して昭和十三年度に於て約二萬人の青少

年を滿洲開拓青年義勇隊訓練所に收容した。昭和十四年度中には約三萬人の入所を見る豫定である。

訓練所の概要は次の如きものである。

(イ) 訓練所に收容すべきものは十六歳乃至十九歳の日本青少年とす。

(ロ) 訓練所を分ちて大訓練所及小訓練所とし大小訓練所を通じ三ヶ年間の訓練を實施す。

(ハ) 大訓練所に於ては概ね一年間基本訓練を實施し小訓練所では概ね二年間實務訓練を實施す。

(ニ) 各訓練所には必要なる農耕地及牧野薪炭備林を附屬せしめ開墾農耕を實習せしむると共に教練學課其他を修得せしむ

(ホ) 訓練所の經營主體は滿洲拓植公社(一部自警村關係滿鐵)とし、日滿兩國政府に於て必要なる補助をなす。

(ヘ) 既設竝新設中の訓練所は嫩江、鐵驪、勃利、對店の四大訓練所及び寧安外四十一訓練所にして、別に哈爾濱、昌圖、一面坡に特別訓練所あり。

【開拓地現況の概要】

(一) 集團開拓民は昭和七年の第一次より昭和十三年の第八次に至る迄合計八九集團一二、二六六戸、二二、五六〇の入植を見た。集合開拓民は緣故開拓民を除き八一集團二、三一〇戸、六、四九九人にして、入植地は主として三江、濱江、北安、東安牡丹江、龍江、吉林の各省管內である。

(二) 開拓地の經營は先遣隊の入植に始まり團共同經營、部落共同經營の過程を經て個人經營に至るものにして、昭和十三年迄に個人經營に移つたのは第一次、第二次、第三次、第四次二團、第五次四團の九團である。

第四次迄五團の各平均につき其經營狀況を見るに、一戸當り耕作面積は五町九反乃至十町歩、一戸當り所有家畜數は馬〇・八頭、乃至二・六頭、牛〇・一頭乃至一・一頭にして、主なる作物は水稻の外大豆、小麥を大宗とし玉蜀黍、粟、大麥、燕麥、一般蔬菜及び亞麻、麻、煙草其他の特用作物頗る多種に亘り、多く無肥料なるも地味肥沃にして收量は相當に多い。家畜はこの外緬羊、豚、鷄、蜜蜂等を飼育し、何れも良好なる成績を治めてゐる。各團何れも神社役場、學校、病院、組合及共同產業諸施設等を有し團自治經濟の確立に努めつゝある。

開拓事業機關

【開拓行政機構】 日本に於ては拓務省農林省が之に當り各府縣廳市町村役場を通じて分村計畫の指導開拓團の募集竝之が助成に當つてゐるのであるが、別に滿洲移住協會を財團法人として結成せしめ宣傳、募集訓練、輸送等に當らしめてゐる。尙この外各學校、青年團、農會、產業組合は申すに及ばず、社會教育團體、社會事業團體等凡ゆる機關團體を動員して開拓民の募集送出の大計畫を進めてゐる。

又滿洲國では開拓政策が滿洲三大國策の一たる重要性に鑑み昭和十四年初頭舊產業部拓政司を擴充して開拓總局を設置すると共に、必要なる省縣には夫々開拓廳、開拓科又は開拓股を置き更に開拓科學に關する實踐的研究の中樞たらしむるため開拓科學研究所を設置し、一貫せる組織の下に開拓國策遂行の完璧を期してゐる。

【滿洲拓植委員會】 日滿兩國政府は日滿兩國法人たる滿洲拓植公社に對する兩國政府監督の合理適正化を圖ると共に、兩國開拓方策の樹立竝に其連絡協調に資するため昭和十二年滿洲拓植委員會を組織し、之が機關として新京に同事務局を設置した。委員會は日滿兩國より各七名計十四名の委員と同數の隨員より構成されてゐる。

【滿洲拓植公社】 滿洲國政府は康德二年(昭和十年)十二月資本金二千萬圓を以て滿洲拓植株式會社を設立したが、開拓事業の

進運に伴ひ特殊會社のみにては本事業の圓滿なる達成を期し難き情勢に立到れるを以つて、康德四年昭和十二年八月日滿兩國間に締結された條約に基いて資本金五千萬圓を以て新に滿洲拓植公社を設立した。

本社は日滿兩國の二重國籍を有する特殊法人にして、資金の調達を容易ならしむるため拂込資金の十倍迄社債發行を認められてゐるのみならず社債元利支拂に付き日滿兩國政府に於て保證をなすこととなつてゐる。

本社は開拓用地の取得、分讓、管理、金融、訓練所經營其他附帶事業に當るものである。

【滿鮮拓殖株式會社】在滿既住鮮農の生活安定、新規開拓民の入植斡旋並に助成を目的とし、康德三年九月勅令に基き設立された特殊法人である。

【滿洲土地開發株式會社】政府、滿拓、鮮拓及び公共團體の取得せる未利用地の開發工事の請負並に政府に於て命ずる所の土地改良に關する事業等に從事するのを目的とし、康德六年四月勅令に基いて設立せられた。

開拓團の沿革

【集團開拓團】拓務省が軍部及び滿洲國の協力を得て、始めて五百名足らずの第一次集團開拓民を北滿地方に送つたのは昭和七年で、昭和十五年度に於て既に第九次を數ふるに到つた。此の内第一次、第二次の各五百名は試驗移民、或は佳木斯移民とも言はれるもので、殊に第一次開拓團は匪賊跳梁のため、直ちに入植地永豐鎭(彌榮村)に入ることが出來ず、約半年の間佳木斯の警備に當つてゐたので、第一次だけを佳木斯移民といふ場合もある。第一次第二次の入植は事變直後でもあり入植當時の危險、困苦は豫想以上で、當分は鋤を取ることも出來ず、連日戰鬪に日を送り、何れも戰死者十五名内外、脱退者百六十餘名即ち全員の約四割を出し、殊に第二次開拓團は、既に苦鬪七箇月に亙つて築き上げた七虎力の地を捨てて現在の湖南營(千振鄕)に移るの止むなきに至つたといふ血みどろな「試驗移民」となつた。然し皇軍の絶えざる討匪行と、五箇年に亙る三十餘回の交戰に於て團員が示した果敢な戰鬪振りは、漸く匪賊に「開拓團恐るべし」の信念を植ゑ附け、地域内には絶對に近づかなくなつた。かくて昭和九年の第三次以來は開拓地内では未だ一名の戰死者も出してゐない。と同時に豐壤な黑土と、清澄な流れは、滿目の田畑に黃金の波を漂はせ米、味噌、醬油や野菜類等の生活必需品は勿論酒から菓子類に至るまで、何れも自給自足の域を超え、附近の軍隊、滿人等に賣出してゐるところもある。

治安と生活の安定とは花嫁の招致となり健康と、若さと、新婚早々の三拍子は赤坊ラッシュを生み、戰傷者や屯墾病の荒治療に忙がしかつた醫師は、一變して婦人と小兒科醫とに轉向、拍車を鳴らして村から村へと馬を走らせてゐる。

二十年間百萬戸五百萬人の移住計畫は分村と青年義勇隊の新編成により十年間に短縮されやうとしてゐる。大和民族が二千六百年の島國民より一轉して大陸國民となる可き轉機を意味するものであり、正に民族移動の大行進である。北滿數百萬町歩の沃野は、民族的使命遂行試練の道場として日本農村子弟を招く、この試練に打勝つと否とに依つて發展的民族としての吾人將來の運命が決せらるるのみならず、實に日滿關係が不動の地盤の上に確立せらるるや否やが決せられるのである。

滿鐵も鐵道自警村及同訓練所の經營はも

とより此の大國策に順應し五百萬人輸送に對して最高度の奉仕を開始した。斯くて全滿六十七箇所の廣野に日章旗はへんぽんと翻り、團員一萬二千百五十九、家族を合せて二萬三千八百二十九人と云ふ夥しき數に上り、集合開拓組合、鐵道自警村を加ふれば三萬一千百餘名となり、この外青少年義勇軍約三萬が毎朝東天を拝して「君ヶ代」と「愛國行進曲」を合唱してゐる。

【集合開拓組合】 集合開拓民は以前は自由移民と稱され、滿拓の前身たる滿洲拓植株式會社の設立以前に於ては僅かに天照村(現一裸樹開拓組合)、天理村の外鐵道自警村を算へるに過ぎなかつたが、國策開拓民事業の實施以來集合開拓民計畫は俄に多きを加ふるに到つた。本開拓民は主として民間によつて行はれるもので、集團開拓民が主として北滿の主要地點、殊に將來拓民發展の據點となるべき地域に配置するのに對し、集團開拓地の隣接地或は交通其他の便利な地域に配置するを原則としてゐる。日滿兩國政府は勿論之に對しても積極的助成をなしその實行を容易ならしめてゐる。

集合開拓民を取扱機關により大別すれば(一)農業を主とする滿拓公社扱によるもの(二)鐵道沿線に入植して營農の傍ら鐵道警備に當る鐵道總局扱による自警村開拓民(三)冬期森林伐採に從事し、農耕期に於ては一般農事に從事する産業部林野局扱による林業開拓民とする。之等集合開拓民は概して少人數の集團なるを以て、小學校、病院の如き公共施設は概ね附近に於ける既設のものを利用せしめてゐる。

最近に於ける集合開拓民の現勢は左の通りである。

	團體數	戸數	人口	一團體構成員數
林業開拓民	五	三五五	一、四三三	二九—一三八
鐵道自警村開拓民	二三	四四八	一、四五六	一〇—一三〇
滿拓取扱集合開拓民	五四	一、五九七	三、六一〇	五九—八三
計	八二	二、四〇〇	六、四九九	—

【鐵道自警村】 滿洲鐵道總局では本年十月一萬粁を突破せる滿洲の鐵道沿線に約六百萬人の滿人を以て三千六百餘村の鐵路愛護村を組織して、沿線住民の鐵道愛護思想を涵養し、同時に鐵道交通の萬全を計つてゐる。

此の鐵路愛護村が、滿人を主體として結成されてゐるのに對して、日本人を主體として昭和十年度から生れたのが鐵道自警村であり、之は前述の通り集合開拓民として取扱はれてゐる。從つて自警村は鐵路自衛の立場から、日滿軍警と緊密な聯絡をとつて鐵道の警備を爲し傍ら農耕牧畜に從事するのを目的とし、延いては愛護村民に營農の模範を示し、又鐵道背後地開發の基點たらしめ、以て鐵道永遠の護となりながら、滿洲國發展の礎石たるの任務を果さうとするものである。自警村員は主として農業に經驗ある皇軍駐滿部隊の除隊兵の中から嚴選され、一定の期間中、所定の警備に服する義務を有してゐる。村員に對しては最初五箇年間は警備手當の支給が有り、別に土地、建物、家畜、農具、種子等の有償貸與の恩典がある。現在二十三村、戸數四百四十八、人口一千四百五十六人となつてゐる。

【青年義勇隊】 康德五年日滿兩國政府は滿洲開拓青年義勇隊制度を決定した。青少年の招致數は同年を第一期とし、毎年一萬人宛を遞增し五ヶ年間に二十三萬人入植の豫定であり、康德六年五月迄の入所者總數は二萬二千四十三名にして、退所死亡者を控除し在籍二萬一千七百二十四名である。

內地內原での二ヶ月間の訓練が了ると初年度は大訓練所に入所し二、三年度は小訓練所に於て夫々指導員監督の下に自治組織が進められ、三ヶ年にして完全な理想的開拓者即ち大陸建設者に仕上げられる。

この義勇隊の先遣隊とも稱すべき少年は昭和十一年初め十七、八才の日本少年三十名が東宮大佐、加藤完治氏等の計畫に依り

東部國境烏蘇里江岸の饒河に入植して大和村を建設した時に始まる。爾來滿洲開拓には唯に成年者の移住のみに止らず、所謂青少年開拓訓練の方式が必要且つ重大なる意義を有することが各方面に唱へられ、遂に昭和十二年七月新京に於て關係機關會同協議の結果「青年農民訓練所創設に關する方針並要領」が決定せられた。此の會議の決定に基き滿拓に於ては直ちに計畫の實施に着手し、北安省嫩江縣伊拉哈附近に嫩江訓練所を開設し、同年中に三百十九名の訓練生を收容した。

此の間內地に於ては支那事變の發展と國際情勢の緊迫化に刺戟せられ益々日滿一體化工作を促進徹底せんとする要求より、又純眞潑剌たる農村子弟百五十萬に對し新天地を開拓せしめ、國運伸張の根基をなすと共に東亞和平の礎石たらしむべく、卽時大量の青少年を開拓義勇軍として滿洲に送出すべしとの聲益々大となり、關係者より滿蒙開拓青少年義勇軍編成に關する建白書の提出を見るに至つた。政府に於ても其意義の重大なるを認め、昭和十三年度に於て三萬人を下らざる數を送出することに方針が決り直ちに全國各機關を通じて之が募集を開始した。然し之が過程は事業創始を豫期し難い種々の事情に因り實に多難を極め、全訓練生にとつて荊棘の道が續いたが義勇隊は克く難關を突破し、約二萬の招致數のうち退所者僅かに二百三十七と云ふ好績を以てその本分を發揮、玆に義勇隊制度の基礎は確立した。

昭和十三年度の各訓練所の收容豫定は嫩江九千、寧安七千、勃利五千、鐵驪五千、係員三千、自營村一千であつたが十四年度は

鐵嶺	一二、〇〇〇	勃利	六、〇〇〇
對店	六、〇〇〇	嫩江	六、〇〇〇

とし、已に前年度入所者は大訓練所の過程を終り、二十數箇所の小訓練所に移行しつつあり、義勇隊制度は本年を待つて更に大なる飛躍發展を行ひ、制度創始の大理想に着々近づかんとしてゐる。

【勤勞奉仕隊】滿支の輝かしき發展と共に、最近日本青少年間に於ける大陸への關心は六萬同邦拓士の滿洲移住と共に愈々熾烈なるものがあるが、文部省に於ては豫てより之等東亞新秩序の建設を雙肩に擔ふ青少年に大陸の認識を與へると共に精神的肉體的訓練を與へる目的を以て、主として國境地帶及其背後地竝開拓地等の土木、農工建築其他事業への勤勞奉仕隊を組織し、七月初旬より六千二百名を約一ヶ月間に亘り滿洲北支に派遣した。派遣隊は滿洲北支の兩班に分れ滿洲へは青年隊四千百四十三名學生隊一千七百二十名であり、農耕、除草、病害虫驅除、刈取、開墾、牧畜、土地改良、土木建築、鑛工勞務、輸送等に從事し、意義深き汗の一ヶ月を無事に終り多大の認識を深めて歸還した。尙滿洲側よりの參加者はこの外約一千名に及んだ。本奉仕隊は甲乙二種に分れ甲種は概ね一農年勤勞をなすものにして、其編成は一般農村青年を主流として開拓に勤勞奉仕せしめ、日本農村飼料問題の解決に資せしむるの外、必要に應じ國防的建設にも勤勞奉仕せしむるのであり、乙種は短期勤勞奉仕をなすものにして其編成は學生を主として一般青年をも加へ開拓國防的建設に奉仕せしむる外、醫療鑛工畜産指導等の技術的作業に勤勞せしめるものである。尙この外特殊作業につき女子青年團員をも參加せしめ、在滿日本人學生生徒其他一般青年を各種別に參加せしめることになつてゐる。

視察の心得

【視察地の選定】從來の視察者は圖佳線の第一次彌榮村、第二次千振鄕の二箇所が大部分を占めてゐるのは、此の二開拓地が

集團開拓地として最初のものであるだけに總ての施設も完備してをりまた圖佳線の開通により開拓地への交通の便がよくなつたからである。然し此の二開拓地のみを視察して集團開拓民の全般を推測することは出來ない。出來得れば全部の開拓地を視察することが理想だが、百に近い集團開拓地を一々見ることは到底許されないから、先づ個人經營に移つた第一次より第五次までの九箇村位を視て置けば良く、鄕里分村開拓地を視察する場合は日程の範圍によつて前記九箇村の孰れかを取捨すればよい。尚此の外分村開拓地の代表的なものとして拉濱線四家房の大日向村は視て置くと參考にならう。

【視察注意】 開拓地は何れも最近の開拓であつて第一次彌榮村や、第五次の內、黑臺のやうに驛から本部まで僅か數百米、徒歩で十五分位の處はよいが、それ以外は大抵驛から四、五粁以上あり、四十粁も離れてゐる開拓地はまだ道路も完備してゐないから少し雨が降ると泥濘は忽ちトラックや馬車の車輪を奪つて、動かなくしてしまふので、驛か團に待機して道路の恢復を待たなければならない。

尙現在大部分の開拓團と驛との連絡はトラックに據つてゐたが、團の都合で必要な場合だけ本部と驛の間を往復してゐるので視察者は之に便乘させてもらふのである。

若しトラックがなければ大部分の開拓地では驛から本部まで一、二時間かゝつて歩くものと思つておかなければならない。

一つの開拓地は何れも一萬町歩前後から四、五萬町歩にも及ぶ土地を占め、東西二里、南北三里といつたやうな廣漠な地域に本部を中心として十箇部落位が散在してゐるので、遠い部落は本部から三里以上も離れてをり、之等の部落と本部との交通は徒歩か馬より他にないので、同縣人の部落を訪問するにしても、本部に近ければ、本部訪問と同じ時間を見込めばよいが本部から三里以上も離れた部落に行く場合には、本部から更に泊りがけで出懸けなければならないから一開拓地を詳細に視察しやうとするには、二日か三日を見込んでおく必要がある。以上の理由で、日程に充分な餘裕を見込むことは、開拓地視察の場合は是非必要な心懸けである。でなければ必ず何處かの視察をとりやめにして、その埋合せをしなければならなくなる。

【視察の時期】 一年中を通じて暇のない開拓地の視察には團の方としては、何月頃が一番都合がよいといふことはない。

冬期は萬物凍結して、交通の便は一番よいが、作物もなく夏は雨が多くて道路が惡く尙此の頃の北滿東滿方面は特に日照時間が長く、午前三時頃から午後九時頃にまで及ぶので、團員も疲勞しきつてゐるから、出來るだけ避けた方がよく、結局普通の滿洲の觀光シーズンと同樣、四月中旬から六月中旬か、九月上旬から十月下旬頃が一番よい視察季節なのである。

【服裝と携帶品】 開拓地視察に關係のあるやうな驛には大抵日本人經營の旅館があるから普通の觀光旅行の時のやうに洗面道具に着換への下着類など、小型トランクに納まる程度の携帶品で充分である。どうせ歸りにも通らねばならぬのだから、牡丹江の旅館に大部分の携帶品を預けて、身輕になつて乘込む方が萬事に好都合である。

又反對に殊更モダーンな服裝をして、土まみれになつて働いてゐる團員の男女に振り返へられたり、その緊張してゐる心に一種の緩みを與へたりすることは嚴重に愼しむべきである。

現在どの開拓團にも專任の案內者は一人もなく、何れも多忙を極めてゐる指導員等が貴重な時間を裂いて案內してゐる狀態である。しかも列車每に視察者の去來する現狀では、幹部は案內に追はれて團の仕事に支障をきたす有樣である。因つて視察希望

者は、よく現地の狀況を含んで苟も不慣面目な、或は行樂的な視察は斷然思ひ止まるべきである。
 尙些細なことのやうだが視察者の中には開拓地への子供にお土產を用意して來る人があつて大いに感謝されてゐる。

視察コースと日程

【視察者の渡滿徑路】 從來敦賀或は新潟より乘船し、北鮮清津上陸、北鮮線によつて入滿、圖們を經て牡丹江に着きこゝからそれ〲目的地に向ふ順序であるが關西九州方面の視察者は矢張り朝鮮或は大連經由の何れかを選ぶ方が日數も旅費も經濟的である。
 次の視察日程實例は開拓地以外の視察を全然見込んでゐないが、內地よりの視察者は大連、旅順、奉天、新京や集團開拓民にとつては忘れることの出來ない佳木斯などの主要都市を視察するにはそれ〲一日を費せば一通りは出來るから、左の例による日數に尙四、五日を追加し結局二十五日位で開拓地と滿洲の主要都市を一廻りすることが出來るわけである。

【例の一】 往路 北鮮經由 復路 大連經由

日次	經由地又は視察地	宿泊地
一	敦賀(新潟)出帆	船中
二	海上	同
三	清津上陸	清津
四	車中	牡丹江
五	千振	千振
六	彌榮	彌榮
七	車中(彌榮より林口へ)	林口
八	城子河	城子河
九	哈達河	哈達河
一〇	永安屯	永安屯
一一	黑臺	黑臺
一二	信濃村 朝陽屯	信濃村或は朝陽屯
一三	車中(黑臺より林口乘換牡丹江へ)	牡丹江
一四	車中(牡丹江より哈爾濱へ)	哈爾濱
一五	哈爾濱市及訓練所	同
一六	綏稜	綏稜
一七	車中(綏稜より哈爾濱乘換大連へ)	車中
一八	大連著	大連
一九	大連出帆	船中
二〇	海上	同
二一	下關上陸	

【例の二】 往路 大連經由 復路 朝鮮經由

日次	經由地又は視察地	宿泊地
一	下關出帆	船中
二	海上	同
三	大連上陸	車中(大連發哈爾濱へ)
四	車中(大連より哈爾濱へ)	哈爾濱
五	綏稜	綏稜
六	哈爾濱市及び訓練所	哈爾濱
七	車中(哈爾濱より牡丹江へ)	牡丹江
八	千振	千振
九	彌榮	彌榮
一〇	車中(彌榮より林口へ)	林口
一一	城子河	城子河
一二	哈達河	哈達河
一三	永安屯	永安屯
一四	黑臺	黑臺
一五	信濃村 朝陽屯	信濃村或は朝陽屯
一六	車中(黑臺より林口乘換牡丹江へ)	牡丹江
一七	車中(牡丹江より圖們乘換新京へ)	新京
一八	車中(新京より奉天安東京城釜山へ)	車中
一九	釜山著連絡船	船中
二〇	下關上陸	

【視察旅費概算】 左の二例とも船車賃のみで二等約百五十圓、三等約八十圓を要するが單獨の場合は內鮮滿周遊券、東亞遊覽券或は往復とも同一コースとし內鮮滿往復乘車船券を利用すれば鐵道二割引航路一割引の特典があり普通團體なら片道の場合は二十人以上で二割から三割、往復又は周遊の場合は十人以上三割、二十人以上五割、學生團體なら五割から六割の割引がある。

一日一人當りの汽車汽船賃（上記の割引に依る）旅館宿泊料、食事料、車馬賃、其他旅館に於ける心附等を含めて左記金額を標準として計算すれば大差はない。

單獨の場合 二等 十二圓より十三圓 ／ 三等 七 圓より八 圓

團體の場合 普通團體二等十圓、三等六圓 ／ 學生團體四圓

【自警村視察日程】

【第一案】

日次	經過地	宿泊地	摘要
一	奉天・錦縣・女兒河錦縣	錦縣	自警村視察
二	錦縣・高山子・大虎山	大虎山	自警村視察
三	大虎山・溝家・大虎山・奉天	奉天	訓練所視察

【第二案】

日次	經過地	宿泊地	摘要
一	奉天・黑山頭・朝陽鎭	朝陽鎭	自警村視察
二	朝陽鎭・取柴河・口前・吉林	吉林	訓練所視察 自警村視察
三	吉林・河灣子・新京・奉天	奉天	訓練所視察

【第三案】

日次	經過地	宿泊地	摘要
一	哈爾濱・阿城・橫道河子	橫道河子	自警村視察
二	橫道河子・山市・牡丹江	牡丹江	自警村及訓練所視察
三	牡丹江・靑山・勃利	勃利	訓練所視察
四	勃利・追分・佳木斯	佳木斯	訓練所視察
五	佳木斯・牡丹江	牡丹江	
六	牡丹江・哈爾濱	哈爾濱	

【第四案】

日次	經過地	宿泊地	摘要
一	哈爾濱・綏化・海倫	海倫	自警村視察
二	海倫・李家・北安	北安	訓練所視察
三	北安・泰安・寧年・齊齊哈爾	齊齊哈爾	訓練所視察
四	齊齊哈爾・安達・哈爾濱	哈爾濱	自警村視察
五	哈爾濱・雙城堡・新京	新京	自警村視察

【靑年義勇隊訓練所視察について】 之も大小數十の訓練所と自警村訓練所を合せれば實に夥しき數に上るので一々視察するわけにゆかない。大訓練所も小訓練所も一通り視ることによつて大體の樣子が捉めるのであるが入所草創の際でもあり交通關係等もあつて、未だ設備の整はぬ處もあらう。

誰にも容易に訪ねられる訓練所は哈爾濱郊外阿什河の哈爾濱特別訓練所である。之は義勇隊訓練のみでなく開拓團幹部の訓練をも行ふ處であり一般の視察には打つて付けの場所と思ふから左に簡單な注意事項を掲げる。

【哈爾濱特別訓練所】 哈爾濱訓練所の前身は哈爾濱日本國民高等學校で哈爾濱郊外王兆屯で一次から五次までの先遣隊は殆んど、此所で訓練を受けた人々である。昭和十一年の秋百萬戶開拓民案が採擇されるに至り、前記國民高等學校は滿洲移住協會の管理に移り、阿什河に移轉し名稱を滿蒙開拓哈爾濱訓練所と改め義勇隊制度成るに及んで特別訓練所を設くるに到つた。

同訓練所の視察は團體視察なら滿洲拓植公社哈爾濱出張所（哈爾濱斜紋工場街）に交渉しトラックを出してもらつてもよい。時間約四十分料金片道一人一圓。

個人視察の場合は透籠街登喜和百貨店前より哈爾濱交通バスに乘れば約四十五分で訓練所に達する。

發着時間は

透籠街發 八時、一〇時 一四時 一六時

訓練所發 九時、一一時 一五時 一七時

自動車（四人迄） 三十分—四十分

賃金 片道六圓、往復九圓

馬車（三人迄） 一時間—一時間半

賃金 約一圓

宿泊 一般視察者一泊（三食附）一圓

開拓團員一泊（同 ）五十錢

收容人員は合宿式なら百名位まで收容出來る。但し寢具の用意はない。突然の視察者でも二、三人なら宿泊の準備はある。但し所內視察時間は二時間で充分だから、哈爾濱の市街に歸つて普通の旅館に泊つた方が何かと便利である。

集團開拓地現況一覽表（昭和十四年七月現在）

入植年次	入植期	團又は村名	入植地 省	入植地 縣	團長氏名（括孤內は街村長組合長團長代理）	內地出身地方及府縣	入植所定戸數	團員	總計	作付總面積	一戸當作付面積	交通關係 最寄驛又は港	交通關係 粁數
一	昭和七	彌榮	三江	樺川	山崎芳雄 (村)(組)工藤儀三郎	東北(六)關東(三)中部(一)	(五〇〇)	二九三	一、二七四	二七、七〇〇	九四・五	圖佳・彌榮	〇・五
二	昭和八	千振	同	同	(街)(組)宗光彥 (代)吉良文乙	東北(六)關東(五)中部(六)九州(三)	(五〇〇)	三四六	一、〇〇一	二六、〇八〇	七五・四	同・千振	五
三	昭和九	瑞穗	北安	綏稜	林恭平 (村)樋口孝一	東北(三)中部(四)中國(四)四國(一)	(三〇〇)	二〇三	七六三	二九、三七〇	一四四・七	濱北・克音河	三五
四	昭和一〇	城子河	東安	密山	佐藤修 (代)檀上忠彥	全國(三四)	(三〇〇)	二四九	六四三	二三、四〇〇	九四・〇	虎林・鷄西	六
同	同	哈達河	同	同	(村)(組)貝沼洋二	全國(二五)	(二〇〇)	一八〇	五四四	一二、七四〇	七〇・八	同・東海	一
五	昭和一一	永安屯	同	同	(村)木村直雄	東北(六)關東(二)中部(六)	(三〇〇)	二八〇	七三九	一八、一九〇	六五・〇	同・永安	四
同	同	朝陽屯	同	同	(村)矢口道愛	中國、四國、九州(六)	(三〇〇)	二四八	七〇七	一六、三三〇	六五・八	同・庄內	〇・六
同	同	黑台	同	同	(村)(組)加藤熊次郎	近畿(五)關東(五)宮城長野	(二〇〇)	一九六	五五〇	一一、八九〇	六〇・七	同・黑台	〇・五
同	同	黑台信濃	同	同	(村)青木虎若	長野	(三〇〇)	三一五	七九九	一六、五七〇	五二・六	同・連珠山	四
小計							二、九〇〇	二、三一〇	七、三六九	一八二、二五〇	七八・九		
六	昭和一二	黑咀子	東安	虎林	古谷久雄	北陸(三)東京	三〇〇	三〇〇	八六三	六、四八〇	二一・六	虎林・虎林	一〇
同	同	東二道崗	同	密山	內藤誠	北九州(三)	二〇〇	一七九	五二九	五、五八〇	三一・二	同・湖北	五
同	同	西二道崗	同	同	田中常雄	宮崎、鹿兒島、佐賀、東京	二〇〇	一八七	三九九	四、九五〇	二六・五	同・同	三
同	同	六人班	同	同	藤木俊幹	廣島	二〇〇	一四九	三六八	三、七六〇	二五・二	同・楊崗	六
同	同	北五道崗	同	同	熊谷伊三郎	山形	三〇〇	二九二	四七一	五、五四〇	一八・九	同・斐德	一六
同	同	南五道崗	同	同	平澤千秋	長野	三〇〇	二八五	七二七	五、二五〇	一八・四	同・密山	三〇
同	同	龍爪	同	林口	和田章藏	近畿(五)中國(四)山形	三〇〇	二八五	七六二	一一、七〇〇	四一・一	圖佳・龍爪	〇・五
同	同	熊本	三江	鶴立	中村秀市	熊本	三〇〇	二七九	六七五	一一、五九〇	四一・五	松花江・蓮江口	一四
同	同	宮城	同	同	多田理三郎	宮城	二〇〇	一八〇	六七〇	七、六六〇	四二・六	同・同	二
同	同	福島	同	同	佐藤民四郎	福島	二〇〇	一九二	三七五	六、三八〇	三三・二	同・同	一六
六	昭和一二	茨城	三江	鶴立	鈴木米司	茨城	二〇〇	一七五	三〇〇	四、二三〇	二四・七	鶴崗鐵道・鶴立崗	六
同	同	靜岡	同	同	得能數三	靜岡	二〇〇	一九五	三四二	六、一〇〇	三一・三	同・同	〇・五
同	同	東北	同	同	佐藤昇	秋田、青森、岩手	三〇〇	二九〇	六三一	六、〇〇〇	二〇・七	同・同	五
同	同	東海	同	同	廣部永三郎	關東(四)中部(三)三重	三〇〇	二九三	五四二	五、九〇〇	二〇・一	同・同	五
同	同	黑馬劉	北安	綏稜	平田秀彥	四國	三〇〇	三〇八	七六〇	一〇、〇一〇	三二・五	濱北・克音河	三五
同	同	海倫	同	海倫	石田伊十郎	群馬	三〇〇	二一七	四六六	五、五五〇	二五・六	同・海倫	三
同	同	五福堂	同	通化	堀忠雄	新潟	二〇〇	二〇六	四四一	五、六四〇	二七・四	濱北・通北	一四
同	同	光街基	同	同	出井菊太郎	埼玉	二〇〇	一八〇	三九四	三、六〇〇	二〇・〇	同・同	一六
小計							四、五〇〇	四、一九三	九、五四五	一一六、〇四〇	二七・七		
七	昭和一三	黑石屯	吉林	額穆	高野善一	近畿(六)	二〇〇	一四三	二二八	三、一一〇	二一・八	京圖・秋梨溝	一六
同	同	四家房	同	舒蘭	堀川清躬	長野(大日向村)	二〇〇	一五八	五五三	二、六三〇	一六・六	拉濱・四家房	四
同	同	八道河子	同	樺甸	中込周藏	關東(四)	三〇〇	二六三	三五七	三、六〇〇	一三・七	奉吉・磐石	一〇八
同	同	煙筒山	同	磐石	横井清	群馬	二〇〇	二〇三	二一五	一、〇四〇	五・一	奉吉・煙筒山	一六
同	同	元寶鎭	濱江	延壽	後根春一	大分	二〇〇	一一一	一三五	一、八一〇	一六・四	濱綏・珠河	三〇
同	同	中和鎭	同	同	松村朝信	長野	三〇〇	二三六	三七三	三、〇五〇	一二・九	濱綏・亞布洛尼（森林鐵道利用）	
同	同	周家營	同	葦河	齊藤瀏藏	埼玉	二〇〇	一二三	一六三	一、八〇〇	一四・六	濱綏・葦河	四
同	同	朝陽川	同	五常	高橋武夫	中部(七)	三〇〇	三四三	四〇八	三、三三〇	九・七	拉濱・山河屯	一五
同	同	太平川	同	同	佐藤伊衞門	青森、岩手	二〇〇	一一五	一四一	一、五〇〇	一三・〇	同・五常	五四
同	同	小山子	同	同	上野源次	九州(五)	二〇〇	一一五	一四六	一、六一〇	一四・〇	同・同	四三
同	同	三個頂	同	同	神原春造	廣島	二〇〇	八八	一九九	一、八一〇	二〇・六	同・山河屯	九
同	同	三股流	同	珠河	佐藤繁作	山形(庄內鄕)	二〇〇	一八九	三一四	二、五〇〇	一三・二	濱綏・烏吉密	一〇
同	同	六道河	同	同	前田武次	山形	三〇〇	二九五	三六〇	五、五〇〇	一八・六	同・一面坡	二六
同	同	大青川	同	同	廣瀨亥之加	茨城	二〇〇	一〇五	二三三	一、三三〇	一二・六	同・一面坡	一四
同	同	拉林	北安	慶城	高橋久藏	宮城	三〇〇	二五九	五六三	三、九九〇	一五・四	綏神・高老	六
同	同	安拜	同	鐵驪	塚原正雄	宮城	二〇〇	一九〇	二一六	一、五五〇	八・一	同・田昇	四
同	同	王榮廟	同	綏稜	森崎陽一	香川	三〇〇	二二三	三三四	三、一〇〇	一四・〇	濱北・克音河	五五
同	同	東黑馬劉	同	同	三浦定夫	四國(三)	二〇〇	一三八	一五八	三、三一〇	二四・〇	同・海倫	五五
同	同	北學田	龍江	訥河	小森忠左衞門	福島	二〇〇	一六二	三〇一	三、三六〇	二〇・七	寧墨・老萊	三〇
同	同	七虎力	三江	樺川	伊東厚坪	中國(四)	二〇〇	二二二	二九〇	五、八一〇	二六・二	圖佳・圖家	一五
同	同	四合屯	同	鶴立	井田武	熊本	三〇〇	一三九	一六一	一、九三〇	一三・九	鶴崗鐵道・鶴立崗	一〇
同	同	清和	東安	虎林	梅川勝衞	新潟	二〇〇	一九八	二二七	二、四八〇	一二・五	虎林・清和	一

開拓地

	小				計		五、〇〇〇	三、九五七	五、三〇四	六〇、二三〇	一五・二		
八	昭和一四	三道溝	三江	湯原	古島千彌	石川(鹿西郷)	二〇〇	二五	二五	三七〇	一四・八	松花江・竹廉鎭	一五
同	同	窪丹崗	同	同	淸水直人	長野(千代村)	二〇〇	一五	一五	三七〇	二四・七	同・同	三三
同	同	舒樂鎭	同	同	谷垣熊一	岡山、兵庫	二〇〇	二四	二四	七〇〇	二九・二	同・舒蘭鎭	〇・五
同	同	大古洞	同	通河	松田一英	長野(下伊那郷)	二〇〇	四〇	四〇	一、〇〇〇	二五・〇	同・淸河鎭	一〇
同	同	小古洞	同	同	藤森槊平	長野(蓼科郷)	二〇〇	四一	四一	六一〇	一四・九	同・同	三
同	同	上久堅村	同	同	島岡米男	長野(上久堅村)	二〇〇	三三	三三	二、三〇七	七三・〇	同・通河	二四
同	同	張家屯	同	同	遠山元四郎	長野	二〇〇	四四	四四	四四〇	一〇・〇	同・木蘭	一六
同	同	大平山	同	同	宮森正志	山形	二〇〇	二四	二四	九〇〇	二六・五	同・淸河鎭	三三
同	同	柞木台	同	樺川	林鹿平	四國(三)	二〇〇	一一	一一	四五〇	四〇・九	圖佳・千振	二〇
同	同	讀書村	同	同	松原專重	長野(讀書村)	二〇〇	五四	五六	一、二五〇	二五・〇	同・閻家	三三
同	同	中川村	同	同	堀口辰三郎	埼玉(中川村)	二〇〇	四四	四四	六八〇	一五・四	同・同	一〇
同	同	大八浪	同	同	倉澤大發智	長野(泰阜村)	二〇〇	四三	四三	八二〇	一九・六	同・同	三三
同	同	馬大屯	同	依蘭	土田嘉右衛門	山形(庄内郷)	二〇〇	二四	二四	五二〇	二一・七	松花江・依蘭	六
同	同	北靠山屯	同		高橋淸十郎	山形(東村山郷)	二〇〇	二四	二四	三六〇	一一・二	同・同	二〇
同	同	大羅勒密	同	方正	松村樾熊	九州	二〇〇	二八	二八	六七〇	二三・九	同・大羅勒密	六
同	同	華陽	北安	慶城	林淸	靜岡、愛知、岐阜	二〇〇	二五	二五	三、一九〇	一二七・六	綏神・高老	一七
同	同	依吉密	同	同	河野巖	島根、鳥取、山口	二〇〇	三三	二八	二、五八五	一二七・五	同・田昇	一〇
同	同	青葉	同	鐵驪	佐々木金治	宮城	二〇〇	五五	五五	七〇〇	一三・八	同・王揚	三
同	同	横泰	同	同	佐藤喜藏	宮城	二〇〇	五三	五三	三二〇	七・〇	同・田昇	二〇
同	同	韓家	同	同	佐藤課吾	宮城	二〇〇	五一	五一	六二〇	一三・一	同・鐵山包	一〇
同	同	老永府	同	同	野々村喜二郎	岩手	二〇〇	五〇	五〇	四四〇	八・〇	同・同	一六
同	同	帽兒山	濱江	珠河	花房逸夫	山梨	二〇〇	四四	四四	一、六〇〇	三六・四	濱綏・平山	三
同	同	熊本村	同	五常	荒尾龍起	熊本	二〇〇	三三	三三	三〇〇	二五・〇	拉濱・五常	三六
同	同	龍王廟	同	同	佐々木朝松	秋田	二〇〇	一六八	一九四	一、七四〇	九・二	同・同	六〇
同	同	老石房	同	木蘭	淸水淸	長野	二〇〇	二二	二二	一、八九〇	九〇・〇	松花江・木蘭	一五
同	同	王家屯	同	同	樋口隆次	長野(富士見村)	二〇〇	六二	六二	一、三六〇	三三・三	同・同	二六
同	同	大泉子	同	賓	四井眞一	富山、福井	二〇〇	四三	四三	三六〇	八・六	京濱・哈爾濱	二〇
同	同	蘭崗	牡丹江	寧安	吉野佳俊	茨城、栃木、千葉、群馬、神奈川	二〇〇	五三	五三	七五〇	一四・四	圖佳・蘭崗	一
同	同	楡林	同	同	松田勝次郎	埼玉	二〇〇	三九	三九	一、五三〇	三九・二	同	六
同	同	樺林	同	同	三好武男	香川(栗熊村)	二〇〇	三六	三六	八三〇	一四・一	同	二七
八	昭和一四	蘆屯	牡丹江	寧安	村井友八	香川	二〇〇	四四	四四	七〇〇	一六・九	圖佳・石頭	一六
同	同	密占河	同	同	吉田勝三郎	秋田	二〇〇	二四	二四	一、二〇〇	五〇・〇	濱綏・山市	一六
同	同	朝陽山	龍江	甘南	猪股多久治	新潟	二〇〇	五〇	五〇、	五四〇	一〇・八	齊北・齊々哈爾	二〇
同	同	阿倫河	同	同	國安一三	新潟	二〇〇	四七	四七	三二〇	六・八	同・同	一二〇
同	同	班代屯	同	富裕	仲泉六郎	石川(町野郷)	二〇〇	四九	四九	二四〇	四・九	同・寧年	四五
同	同	雅州	同	同	藤田伊三郎	石川(白山郷)	二〇〇	五一	五一	二四〇	四・七	同・同	四四
同	同	上學田	同	訥河	藤田柾太郎	青森	二〇〇	四四	四四	六一〇	一三・八	寧墨・老萊	一〇
同	同	下學田	同	同	大河平聖雄	福島	二〇〇	二八	二八	六六〇	二三・六	同・訥河	一五
同	同	青溝子	吉林	額穆	大橋宗光	近畿	二〇〇	四八	四五	三二〇	七・三	京圖・敦化	七五
同	同	興隆川	同	磐石	下山靜夫	東京	二〇〇	五三	五三	四九〇	八・七	奉吉・取柴川	一二
	小				計		一〇、二〇〇	一、六九九	一、七一三	三五、一一三	二〇・七		
	合				計		三三、六〇〇	一三、一五九	一三、八二九	三九五、六六二	三三・五		

集合開拓組合現況一覧表（昭和一四・七月現在）

開拓農民

省別組合名	縣名	入植年月	代表者	出身地	計畫戸數	現在戸數（戸主）	總人數	耕地面積	作付總面積	郵便宛名
（吉林）										
額穆新潟	額穆	康德二・一	岡田藤太郎	新潟	六〇戸	六〇戸	一六四人	六三〇・〇〇陌	四八〇・〇〇陌	吉林省額穆縣第二區烏林保
大黒山	磐石	三・三	足立秀雄	大分	三五	一九	四四	一五二・〇八	一五二・〇八	磐石縣煙筒山第七次煙筒山開拓民辦事處氣付
隼人村	磐石	四・三	田代正滿	鹿兒島	三〇	三三	一二五	一五三・七〇	一三四・五四	奉吉線明城驛氣付
雙河鎭	永吉	四・三	原智保三	長野	五〇	二九	八三	一三三・〇〇	一三三・〇〇	永吉縣雙河鎭
水曲柳	舒蘭	四・三	今村長	長野	一四一	三六	二四四	四四四・九九	三九九・四九	舒蘭縣水曲柳保周家屯
白山子	永吉	四、三	宮崎千博	長野	五四	三三	六八	一一五・一〇	一一五・一〇	吉林市六經路松島開拓團本部氣付
江密蜂	永吉	四・三	扳牧加助	長野	三三	一七	四七	六三・三三	六三・三三	永吉縣第四區江密峰
舒蘭福島	舒蘭	五・二	圓分龜雄	福島	五四	三二	四四	一〇六・〇〇	一〇六・〇〇	舒蘭縣四家房警護隊氣付
四合屯高知	舒蘭	五・四	橋本晃	高知	五四	三八	七二	一四八・三三	一四八・三三	舒蘭縣小城驛氣付
十勝	舒蘭	五・四	横地彦一	北海道	五四	三〇	八九	四七・八〇	四七・八〇	舒蘭縣四家房滿拓出張所氣付
拉法	額穆	五・四	野中彌太延	佐賀、岩手其他	一〇〇	五五	一九九	二七九・〇〇	二七五・〇〇	吉林省額穆縣拉法村拉法開拓組合

磐石常盤	磐石	五・五	坂本虎之助	岡山、廣島	三〇	一四	四一	二〇四・〇〇	九九・〇〇	磐石縣城東門外坂本虎之助
公主嶺山路郷	懷德	五・六	津田耜夫	岐阜	二五	二三	七四	一三〇・〇〇	一三〇・〇〇	公主嶺白菊町一ノ三津田耜夫氣付
敦化藝洲	敦化	五・九	柳田安己	廣島	一五〇	三八	四三	二七五・〇〇	八七・〇〇	敦化縣大石頭
平安高知	舒蘭	六・三	岡崎泰治	高知	三〇〇	一三	四七	五一・五〇	五一・五〇	舒蘭縣平安
郡上	舒蘭	六・四	山下勘治	岐阜	三〇〇	二九	二九	四九・〇〇	四九・〇〇	舒蘭縣小城子
和歌山	懷德	六・四	楠本岩雄	和歌山	五〇	一〇	一四	三二・九〇	三二・九〇	懷德縣陶家屯村公署氣付
磐石秋田	磐石	六・四	飯塚敬藏	秋田、福島	三〇	三二	三〇	—	—	磐石縣城第二區
阿菊	樺甸	六・四	後藤勉	熊本	二〇	九	三	—	—	樺甸縣第四區警察署氣付
（濱江）										
天理村	阿城	一・一二	魁生哲二	各府縣	100	七四	三五一	七四四・七〇	五三〇・九七	ハルピン遼陽街第九號
社家新潟	五常	二・一	高野末吉	新潟	三五	三〇	九九	六〇・四〇	六〇・四〇	五常縣杜家
肇東瑞光	肇東	五・三	濱村伊惣治	山形	一〇	五	一六	一〇八・〇〇	一〇八・〇〇	肇東縣宋站
松陰村	葦河	五・四	岡田勇治	山口	三〇	三九	八二	四〇・〇〇	四〇・〇〇	亞布洛尼松陰村分遣所氣付
四順堂福井	葦河	五・六	南出製三	福井	三〇	二八	一三一	三一〇・〇〇	三一〇・〇〇	葦河縣四順堂
酪農八紘府	阿城	六・二	栗林元二郎	北海	一五〇	五三	一五七	一、八二七・八四	一〇七・四〇	阿城縣阿城驛前酪農八紘村事務所
蒲原	珠河	六・二	鈴木武三郎	新潟	100	一八	五三	一五〇・〇〇	一五〇・〇〇	珠河縣帽兒村蜜蜂警備分署氣付
耕綠園	五常	六・二	瀬下才治	新潟、蜜蜂	二〇	六	三三	二八・八〇	二八・八〇	五常縣杜家
大谷	阿城	六・三	白田岩夫	山形	一五〇	四〇	四〇	三一〇・〇〇	三一〇・〇〇	阿城縣阿城驛前阿城旅館氣付
不力	葦河	六・四	島善作	福井	二五	五	五	—	—	葦河縣亞布洛泥驛氣付
（北安）										
鐵驪岩手	鐵驪	五・二	伊藤孫右衛門	岩手	五〇	三九	一〇三	六一・五〇	六一・五〇	鐵驪縣城內郵政局氣付
桃山	鐵驪	五・四	坂本辰太郎	樺太、北海道其他	七〇	六二	一三三	五一・〇〇	五一・〇〇	北安省鐵驪縣城內郵政局氣付
杜陵	鐵驪	六・四	及川悌三郎	岩手	五〇	一〇	一三	〇・七〇	〇・七〇	鐵驪第一保杜陵開拓組合
鐵驪畜産	鐵驪	六・五	石坂博	北海道	三〇	一八	三〇	四〇・〇〇	四〇・〇〇	鐵驪縣城內郵政局氣付
（三江）										
饒河大和村北進郷	饒河	二・二	梅宮良吉	各府縣	二〇	一三	一九	九六・〇〇	九六・〇〇	饒河縣大和村
八里宮	樺川	五・四	長谷川利憲	各府縣	一五〇	100	一六五	一、100・〇〇	一、100・〇〇	樺川縣千振街郵政局氣付
西弥栄	樺川	五・四	栗田實	各府縣	一五〇	六八	六八	八三・〇〇	八三・〇〇	樺川縣弥栄村郵政局氣付
南靠山屯	依蘭	六・四	工藤重吉	樺太其の他	五〇	五〇	七三	—	—	依蘭縣三姓街北夾信子
（東安）										
青山熊本	林口	六・三	有田彌熊	熊本	五〇	一〇	二九	一五・〇〇	一五・〇〇	林口縣青山驛氣付

開拓地

青山共榮	林口	六・三	石井松五郎	北海道樺太	五〇	二〇	三〇	—	—	林口縣青山驛氣付
富嶺	密山	六・四	遠藤三百一	岡山	三〇	一二	一八	四四・〇〇	四四・〇〇	密山縣滴道村富嶺屯
（興安北）										
呼倫貝爾	索倫旗	四・三	古賀新作	各府縣	五〇	三七	八七	四六〇・〇〇	四六〇・〇〇	免渡河驛氣付
三河共同農村	額爾克納左翼旗	三・三	岡部勇雄	福岡	100	九	三一	一四二・〇〇	九六・〇〇	額爾克納左翼旗三河上庫力警察署氣付
依根西郷	額爾克納左翼旗	五・四	倉富角次郎	佐賀岩手其の他	二五	一八	一八	八〇・〇〇	八〇・〇〇	額爾克納左翼旗三河上庫警察署氣付
（奉天）										
東豊青森	東豊	五・四	千葉貞義	青森	100	五六	一八五	三一〇・〇〇	三一〇・〇〇	東豊縣鎭安村
願學農荘	瀋陽	六・三	北田三郎	各府縣	三〇	八	一〇	三〇・〇〇	三〇・〇〇	瀋陽縣滴台驛氣付願學農荘開拓組合
（牡丹江）										
鏡泊學園	寧安	二・二	鈴木五郎	各府縣	五〇	一八	三七	一五三・四〇	一五五・一〇	寧安縣東京城警察署氣付
宮本	穆稜	六・四	關野邦材	新潟	六〇	五	一三	三〇・〇〇	三〇・〇〇	穆稜縣馬橋河村
（新京）										
力行村	新京	五・四	永田稠	熊本長崎岡山	三〇	一八	一四二	一二八・〇〇	一二八・〇〇	新京中央郵政局私書函第九號
禰明村	新京	六・六	小室寧	各府縣	五〇	一〇	一〇	—	—	新京建國大學農場氣付
（興安南）										
一棵樹	通遼	大同二・三	畑野喜一郎	東京府其の他	六五	四九	一一五	一、〇〇〇・八〇	一、〇〇〇・八〇	錢家店郵政局氣付
煙草開拓民（錦州）										
双山子	錦縣	康德六・二	西村儀一	栃木	二〇	一五	七一	一〇二・九〇	一〇二・九〇	錦縣公署拓政股氣付
（奉天）										
高千穂	海龍	六・三	黒木淳	宮崎	五七	三三	九六	一三四・三〇	一三四・三〇	海龍縣野豬河村公署氣付
敷島煙草	海龍	六・三	三池己平	熊本	六〇	二〇	七五	一〇四・〇〇	一〇四・〇〇	海龍縣頭八石村公署氣付
（安東）										
湯山城煙草	安東	五・四	森八三	佐賀	二〇	一〇	三五	四四・一〇	四三・九〇	安東縣湯山城驛前森八三
大孤山煙草	荘河	六・三	古井滋	栃木其の他	二〇	一二	四五	七五・六七	七五・六七	荘河縣大孤山警察署氣付
安奉沿線煙草	安東	六・三	森八三	山梨、香川	七五	七〇	一七五	一八一・五〇	一七八・一四	安東縣湯山城驛前森八三
農林開拓民（間島）										
新秋田農林	和龍	三・九	高須力秋	秋田	五五	四二	二一九	一〇六・九〇	一〇六・九〇	延吉縣西城村二道溝新秋田農林共勵組合

三岔口農林（牡丹江）	汪精	一三·九	布施計雄	秋田	八〇	四三	一四三	一四四·〇〇	一四四·〇〇	汪清縣三岔口農林共勵組合
仙洞農林（東安）	寧安	一三·九	小栗元二	青森	一五〇	一〇〇	四六八	四八三·〇〇	四八三·〇〇	寧安縣仙洞農林共勵組合
古城鎭農林（北安）	林口	一三·九	小向井榮吉	青森、秋田	一五〇	一三三	五四一	三六五·七〇	三六五·七〇	林口縣古城鎭農林共勵組合
霧島農林	鐵驪	一五·一	阿部晏	熊本、鹿兒島	一〇〇	一〇一	一〇四	二四·五〇	二四·五〇	鐵驪縣第一區農林共勵組合 綏化營林署鐵驪分署

縁故開拓民（三江）

第一次 集團開拓團縁故開拓民	樺川	山崎芳雄	東北、關東、中部	—	四三	四三	—	—	樺川縣榮村
第二次 同	依蘭	宗光彥	各府縣	—	九六	九六	—	—	樺川縣千振街
（濱江）第三次 同	綏稜	林恭平	各府縣	—	三一	三一	七六·〇四	七六·〇四	綏稜縣瑞穗郵政局
（牡丹江）第四次哈達 同	密山	貝沼洋二	各府縣	—	三六	三六	—	—	密山縣哈達河開拓團
第六次南五道崗 同	密山	平澤千秋	長野	—	一五	一五	—	—	密山縣南五道崗開拓團
第六次六人班 同	密山	藤本俊幹	廣幹	—	三三	三三	—	—	密山縣六人班廣島村開拓團
計	六七			戸 四、一六八	戸 三、一七〇	人 五、八九一	陌 一三、〇一七·七三	陌 九、一三六·三三	

鐵道自警村現況一覽表（昭和十四年六月調）

第一期（六村）

區分＼村名	女兒河	黑山頭	口前	綏化	泰安	白城子
入植年月	昭一〇·四月	同 六月	同 四月	同 六月	同上	同上
省、縣名	錦州、錦	奉天、海龍	吉林、永吉	濱江、綏化	龍江、克山	龍江、洮安
鐵道線名	奉山	奉吉	同上	濱北	齊北	平齊
所在地	女兒河驛前	黑山頭驛東驛前	口前驛東方驛前	綏化驛東方一·五粁	泰安驛西北二粁	白城子驛北方四·五粁
村長名	平田一三	中村日出雄	沼田武	太田千代松	高橋勝	折川義一
用地面積	陌 一三二·四七	陌 一四六·八三	陌 一〇·八五	陌 一八一·一三	陌 一三九·九九	陌 一九七·四三
戸數	一〇	一九	一〇	一〇	一一	一一
人口	三三	五九	三六	三四	三三	四七
作付面積 普通作	陌 七二·一二	陌 一五七·七〇	陌 三九·〇〇	陌 一四九·七〇	陌 一四一·九〇	陌 一六五·〇〇
作付面積 蔬菜	一〇·三一	五·七〇	八·〇〇	八·一〇	一九·八〇	二〇·九〇
作付面積 水田	—	—	三六·〇〇	—	—	—
作付面積 其の他	二六·二〇	七·六〇	二·〇〇	七·七〇	一一·〇〇	—
作付面積 計	一〇八·六三	一七一·〇〇	八五·〇〇	一六五·五〇	一七二·七〇	一八五·九〇
日本人旅館有無	無（錦州）	無（梅河口）	無（吉林）	有	有	有

第二期（七村）

區分＼村名	蛟河	小城	山市	雙城堡	安達	龍鎭	柴崗
入植年月	昭一二·四月	同上	同上	同上	同上	同上	同上
省、縣名	吉林、額穆	吉林、舒蘭	牡丹江、寧安	濱江、双城堡	濱江、安達	濱江、龍鎭	吉林、農安
鐵道線名	京圖	拉濱	濱綏	京濱	濱州	北黑	京白
所在地	蛟河驛北方二·五粁	小城驛北方一·五粁	山市驛東方三粁	双城堡驛西方一粁	安達驛南方五粁	龍鎭驛西方〇·三粁	柴崗驛南方〇·五粁
村長名	鹽澤俊雄	大木武雄	山口幸次郎	石田稔男	須田松太郎	佐藤忠雄	高橋正二
用地面積	陌 四四六·〇〇	陌 六七五·七九	陌 二、一三三·七九	陌 一五〇·〇四	陌 一六二·三三	陌 六六二·五六	陌 三〇〇·〇〇
戸數	二九	二九	二二	一三	九	二〇	一〇
人口	八四	八六	七四	四二	二九	七三	二九
作付面積 普通作	陌 一〇五·六〇	陌 二〇·〇〇	陌 一〇〇·二八	陌 一一八·九五	陌 一三九·二〇	陌 二四七·二〇	陌 九七·三三
作付面積 蔬菜	五·一〇	一五·〇〇	五·二五	九·七五	二〇·六〇	三三·八〇	九·一三
作付面積 水田	八五·五〇	一三〇·〇〇	三六·六四	—	—	—	—
作付面積 其の他	〇·九〇	—	八·八二	八·七一	九·七〇	〇·六〇	六·六〇
作付面積 計	一九七·一〇	一六五·〇〇	一五二·〇九	一三七·四一	一六九·五〇	二八一·六〇	一一三·〇四
日本人旅館有無	有	無（新站）	無（牡丹江）	有	有	有	無（農安）

第三期（一〇村）

備考　泡子自警村は大洪水により用地流失のため奉山線高山子に移轉す（昭和十三年十一月一日）

區分/名	泡子	靠山屯	明城	四家房	寧安	東京城	阿城	五家	白家	納河
入植年月	昭一三・四月	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
省縣名	錦州、阜新	吉林、磐石	同上	吉林、舒蘭	牡丹江、寧安	同上	濱江、阿城	濱江、双城	龍江、甫鎭	龍江、訥河
鐵道線名	大鄭	奉吉	同上	拉濱	圖佳	同上	濱綏	京濱	濱北	寧墨
所在地	泡子驛東方三粁	靠山屯驛驛前	明城驛驛前	四家房驛南方一粁	蘭崗驛北方五粁	馬蓮河驛北方四粁	阿城驛東方二粁	五家驛東方一・五粁	白家驛東北一・五粁	訥河驛西方〇・三粁
村長名	大島忠雄	原澤正夫	前田吉次	熊谷幸治	伊藤健三郎	芹澤顧勇	藤原桃治	佐藤三央	高橋武雄	吉住清五郎
用地面積	三七一・一四陌	一五〇・〇〇陌	二〇〇・〇〇陌	四四〇・〇五陌	二九五・二四陌	三六八・二七陌	三三四・二四陌	三二五・三二陌	四七〇・八二陌	四六八・三五陌
戸數	三一	四〇	二九	四〇	二六	二〇	二〇	三〇	三〇	三〇
人口	七九	八六	八二	六〇	一五六	八〇	七三	七三	八六	八
作付面積 普通作	一一三・三三陌	七〇・二〇陌	五三・四〇陌	四一・八〇陌	八五・六〇陌	六五・五四陌	一六八・六〇陌	一七四・六〇陌	一六四・〇〇陌	一六五・〇〇陌
蔬菜	二・八二	一三・一〇	八・一〇	九・四〇	七・二〇	一六・七五	二五・八〇	三三・四〇	二一・〇〇	二一・〇〇
水田	—	六二・一〇	六〇・〇〇	七・四〇	一四・六〇	二六・七五	—	—	—	—
其の他	三一・三二	〇・二〇	〇・六〇	—	六・八〇	三・二五	三一・〇〇	四三・四〇	—	—
計	一四七・四五	一四五・八〇	一二二・一〇	五八・六〇	一一四・二〇	一一三・二五	二〇八・四〇	二三一・四〇	一八五・〇〇	一八六・〇〇
日本人旅館有無	無(彰武縣)	無(朝陽鎭)	無(磐石)	無(五常)	有	無(寧安)	無(哈爾濱)	無(双城堡)	無(北安)	有

青年義勇隊訓練所概要一覧表 (昭和十四年七月調)

種別	省名	縣市名	訓練所名	收容人員	所長名	訓練所現在人員 職員數	訓練生數	營農面積 作付面積	計畫面積	トラック配給數	輸送關係 物資到着驛名	驛ヨリノ距離	道路状況	通信連絡先
大訓練所	北安	鐵驪	鐵驪	三,〇〇〇	高橋要一	七七	二,八〇八	一,三四五陌	六,〇〇〇陌	一七	綏靜線鐵山包驛	四粁	良	北安省鐵驪縣滿洲開拓義勇隊鐵驪訓練所
	三江	勃利	勃利	六,〇〇〇	宗光彥	六六	二,三三六	一,〇五四	三,〇〇〇	10	圖佳線勃利驛	四〇	同	三江省勃利縣滿洲開拓青年義勇隊勃利訓練所
	北安	海倫	對店	六,〇〇〇	鎌瀬正助	五	100	一五〇	三,〇〇〇	10	濱北縣海北驛	四五	同	北安省海倫縣海北鎭滿洲開拓青年義勇隊對店訓練所辦事所
	北安	嫩江	嫩江	六,〇〇〇	山崎芳雄	六六	二,九六八	五,五三八	三,〇〇〇	10	寧墨線八洲驛	四	同	北安省嫩江縣八洲滿洲開拓青年義勇隊嫩江訓練所
特別訓練所	濱江	珠河	一面坡	六,〇〇〇		五	二六九	八二	若干	二	濱綏線一面坡驛	三	良	濱江省珠河縣滿洲開拓青年義勇隊一面坡訓練所
	濱江	哈爾濱市	哈爾濱	六,六八〇	飯島連次郎	六七	一,八四四	—	若干	二	京濱線哈爾濱驛	一六	稍良	濱江省哈爾濱市礎滿洲開拓青年義勇隊哈爾濱特別訓練所
	奉天	昌圖	昌圖	四,〇〇〇	所長代理 新保正雄	六六	二,七八九	四五	若干	二	連京線昌圖驛	一	良	奉天省昌圖縣滿洲開拓青年義勇隊昌圖特別訓練所
乙種小訓練所	牡丹江	寧安	寧安	四,五〇〇	佐藤修	一〇三	三,三七〇	一,三八九	一三,五〇〇	三	圖佳線東京城驛	一六	稍良	牡丹江省寧安縣滿洲開拓青年義勇隊寧安訓練所
	吉林	敦化	大石頭	一,五〇〇		九	四〇〇	一二三	四,五〇〇	三	京圖線大石頭驛	四	良	吉林省敦化縣滿洲開拓青年義勇隊大石頭訓練所
	黑河	孫呉	孫呉	一,五〇〇	森伴藏	四六	一,二六九	七六八	四,五〇〇	六	北黑線孫呉驛	二〇	同	黑河省孫呉縣滿洲開拓青年義勇隊孫呉訓練所
	黑河	璦琿	璦琿縣大額	一,〇〇〇	川井禮三	九	二〇〇	四〇	三,〇〇〇	三	北黑縣黑河驛	二	同	黑河省璦琿縣黑河郵政局内私書函第十一號
	濱江	哈爾濱市	哈爾濱	九〇〇		二五	—	四四	二,七〇〇	一	京濱線哈爾濱驛	一六	同	哈爾濱市礎滿洲開拓青年義勇隊哈爾濱訓練所
	東安	饒河	饒河北進寮	三〇〇		一	—	四	九〇〇	—	虎林線虎山驛	九〇	同	東安省饒河縣富錦野戰局饒河都甲部隊少年隊
	牡丹江	東寧	東寧縣大烏蛇	同		三	二三	—	九〇〇	一	濱綏線綏芬河驛	五四	同	牡丹江省東寧縣公署副縣長氣付滿洲開拓青年義勇隊東寧縣大烏蛇訓練所
	間島	琿春	琿春縣黑頂	同		四	六〇	—	九〇〇	一	北鮮線阿吾地驛	二九	同	朝鮮咸鏡北道慶興郡慶興面滿洲開拓青年義勇隊琿春縣黑頂訓練所
	興安北	額爾克納左翼旗	興安	同		四	二〇	—	九〇〇	一	濱州縣海拉爾驛	一六〇	同	興安北省公署勸業科氣付滿洲開拓青年義勇隊興安訓練所

甲種小訓練所

三江	依蘭	依蘭縣大林	二〇〇		四	一二四	一〇七	九〇〇	一	圖佳線千振驛	發 道一四	良	圖佳線千振滿洲開拓青年義勇隊依蘭縣大林訓練所
東安	寶淸	寶淸縣龍頭	同		三	一二三	六七	九〇〇	一	虎林線興凱驛	國 道六〇	稍良	東安省密山縣密山地方事務所氣付滿洲開拓青年義勇隊寶淸縣龍頭訓練所
東安	同	寶淸縣頭道	同		三	一二三	五九	九〇〇	一	虎林縣興凱驛	六〇	同	東安省密山縣密山地方事務所氣付滿洲開拓青年義勇隊寶淸縣頭道訓練所
濱江	葦河	葦河縣平陽	同		四	一五〇	四〇	九〇〇	一	濱綏線亞布洛尼驛	森林鐵道趨陽屯ヨリ四粁	道路新設ヲ要ス	濱綏省葦河縣亞布洛尼驛前滿洲開拓青年義勇隊葦河縣平陽訓練所
北安	鐵驪	鐵驪縣北斗	同		一	五〇	一	九〇〇	一	綏神線鐵山包驛	一〇	稍良	北安省鐵驪縣滿洲開拓青年義勇隊鐵驪訓練所氣付滿洲開拓青年義勇隊鐵驪縣北斗訓練所
濱江	安達	安達縣薩爾圖	同		四	一一〇	五一	九〇〇	一	濱洲線薩爾圖驛	五	良	濱江省安達縣薩爾圖驛前滿洲開拓青年義勇隊安達縣薩爾圖訓練所
北安	海倫	海倫縣三井	同		二	一〇〇	一〇六	九〇〇	一	濱北線海倫驛	發 道三五	不良	北安省海倫縣海北鎭滿洲開拓青年義勇隊對店訓練所辦事所氣付滿洲開拓青年義勇隊海倫縣三井訓練所
牡丹江	寧安	寧安縣南山市	同		一	一〇〇	一〇五	九〇〇	一	濱綏線山市驛	同 三	不良	牡丹江省寧安縣南山市警察分署氣付滿洲開拓青年義勇隊寧安縣南山市甲種訓練所
龍江	鎭東	鎭東縣大崗	同		四	一三七	一三三	九〇〇	一	平齊線鎭東驛	警 道一五 大車道三〇	不良	龍江省鎭東縣々公署氣付滿洲開拓青年義勇隊鎭東大崗訓練所
北安	嫩江	嫩江縣柏根	同		二	九九	二五	九〇〇	一	寧墨線柏根里驛	驛中心	稍良	北安省嫩江縣柏根里滿洲開拓青年義勇隊嫩江縣柏根訓練所
北安	嫩江	嫩江縣青山	二〇〇		一	一	一	九〇〇	一	寧墨線八洲驛	一〇	良	北安省嫩江縣八洲滿洲開拓青年義勇隊嫩江訓練所氣付滿洲開拓青年義勇隊嫩江青山訓練所
北安	同	嫩江縣伊拉哈	同	岡田文雄	四	二〇六	二五	九〇〇	一	同 伊拉哈驛	三	同	北安省嫩江縣伊拉哈滿洲開拓青年義勇隊嫩江縣伊拉哈訓練所
牡丹江	寧安	寧安縣鏡泊學園	同		一	一七	一	九〇〇	一	圖佳線東京城驛	水電建設聽迄陸路三四 湖上鏡泊水路三六	同	牡丹江省寧安縣東京城牛島光太郎氣付

自警村訓練所概要一覽表（昭和十四年六月調）

省名	縣名	訓練所名	定員（人）	耕地面積（陌）	驛よりの距離（粁）	郵便連絡先
錦州	彰武	馮家	二〇〇	四〇〇	一·五	大鄭線馮家驛氣付
吉林	永吉	河灣子	三〇〇	九四一	六·〇	京圖線河灣子驛氣付
同	同	小姑家	二〇〇	三、五八〇	〇·四	同小姑家驛氣付
同	磐石	取柴河	三〇〇	一、三六〇	〇·一	奉吉線取柴河驛氣付
同	額穆	柳樹河	三〇〇	一、二〇〇	五·〇	京圖線柳樹河驛氣付
三江	依蘭	追分	三〇〇	八二九	一·五	圖佳線追分驛氣付
同	勃利	青山	三〇〇	八〇八	二·〇	同 青山驛氣付
同	同	楊木	三〇〇	六七六	一·〇	虎林線楊木驛氣付
同	同	虎山	三〇〇	一、〇〇〇	〇·二	圖佳線虎山驛氣付
北安	龍鎭	龍鎭	三〇〇	一、〇〇〇	〇·一	北黑線龍鎭驛氣付
同	同	二井	三〇〇	一、八〇〇	二·〇	同 二井驛氣付
龍江	富裕	寧年	三〇〇	三〇〇	二·五	寧墨線寧年驛氣付
同	同	中和	三〇〇	三〇〇	四·〇	同 同 氣付
北安	通北	李家	五〇〇	三一〇	〇·八	濱北線李家驛氣付
牡丹江	東寧	土城子	三〇〇	一、二〇〇	一·五	八里坪驛氣付
牡丹江	穆稜	太嶺	三〇〇	一、二〇〇	三·〇	濱綏線太嶺驛氣付
同	寧安	山市	三〇〇	一、一〇〇	八·〇	同 山市驛氣付
黑河	璦琿	璦琿	三〇〇	三、〇〇〇	二·〇	北黑線璦琿驛氣付
興安東	布特哈旗	成吉思汗	三〇〇	一、〇〇〇	〇·〇	濱洲線成吉思汗驛氣付
同	喜札嘎爾旗	西口	三〇〇	一、五〇〇	三·〇	白阿線西口驛氣付

第九次先遣隊現地訓練所別人員調（昭和一四・八現在）

現地訓練所	人員（人）	現地訓練所	人員（人）
第一次	一五六	第六次北五道崗	六四
第二次	一〇四	第六次南五道崗	六三
第三次	一三六	第六次黑咀子	四九
第四次哈達河	一二五	第六次六人班	四七
第五次永安屯	七〇	第六次黑馬劉	三五
第五次朝陽屯	五四	第六次海倫	六三
第五次馬臺	四〇	第六次老街基	七九
第五次黑臺信濃村	五六	第六次五福堂	六三
第六次東二道崗	七〇	哈爾濱訓練所	近く若干人所豫定
第六次西二道崗	七三		


公社債株式
有價證券引受業
資本金　壹千萬圓(全額拂込濟)
積立金・繰越金　五百五拾萬圓
山一證券株式會社
東京市日本橋區兜町一丁目
本支店所在地
札幌 新潟 仙臺 東京 京橋 淺草 横濱 濱松 名古屋 京都 大阪 神戸 岡山 廣島 高松 福岡 小倉 臺北 京城 奉天
◎は本社
●は新設



映畫

【滿洲映畫界の沿革】　滿洲映畫界の歷史は日露戰爭に始まり、この戰爭の記錄映畫が米、露人等に撮影されて今尙殘存されてゐる。映畫興行としては大連、奉天、撫順、新京の順に明治末期から大正の初期に始り、滿人側のものは大正十二、三年頃から奉天、哈爾濱を中心として開始された。要するに建國前の映畫文化は日系は大連を中心に、滿系は奉天を中心に、外國映畫系統は哈爾濱を中心に發生し、敎育映畫は滿鐵により沿線に巡回實施されてゐた。

建國後の映畫運動は自治指導部、關東軍、滿鐵、松竹、新聞社を始め諸外國の映畫製作者によつて、滿洲建國の實相又は滿洲の風土を全世界に紹介宣傳されたのであるが、滿洲國として根本的な對策の確立を見るに至らなかつた。康德元年當時の映畫輸入狀態は關東州及滿鐵附屬地を除き一、三六四、八二八八卷、一、七五七、四九三米があり、このうち一、一三三件、百五十餘萬米（八割餘）が米國及中國系の支配下にあり、映畫國策樹立の必要性は益々痛感せらるゝに至つたので、康德四年八月滿洲國勅令滿洲映畫法並關東局令により建國後多年の懸案たる映畫政策の大本は樹立せられた。今や滿洲國映畫界は思想、宣傳はもとより、文化、娛樂其他凡ゆる角度から見て建國當初とは雲泥の相違を示し、王道樂土、五族協和、建設への飛躍的發展を示しつゝある。

＝映畫製作機關＝

現在の主なる映畫製作機關は滿洲では、滿洲映畫協會（新京）、滿鐵映畫製作所（大連）、支那方面では新民映畫協會（北京）及び中華映畫株式會社—中華電影公司（南京）等である。

滿洲映畫協會　數年來弘報委員會を中心として論議研究され來つた映畫國策樹立の問題は、康德四年八月二十一日株式會社滿洲映畫協會法の公布により急激なる展開を見、續いて發布された滿洲國映畫法並に關東局令に依り、建國後多年の懸案たる映畫政策の大本は樹立された。

同協會は國策遂行の一機關として、文化による精神建國の大業の一翼に參畫し、映畫を通じて國民敎育の普及並に文化の促進を遂げしめ、進んでは內外に對する宣傳媒體としての映畫の機能を十分に發揮せしめ、以て滿洲國の眞義を海外に宣揚すべき使命を擔つて事業の緒についたのであるが、單に映畫製作のみならず、映畫の輸入配給等凡そ映畫に關する諸事業の殆んど總てに亙る活動がなされ本年三月機構改革に次いで南新京の大スタジオ完成と相俟ち本格的活動に入つた。

【主要演員名】（　）內ハ年齡

男ノ部

王福春	（二〇）	旅順生	王宇培	（四〇）	奉天生
戴劍秋	（三〇）	齊齊哈爾生	杜撰	（二二）	錦州生
崔德厚	（二六）	大連生	劉恩甲	（二一）	吉林生
郭紹儀	（二六）	奉天生	薛海樑	（二四）	哈爾濱生
張書達	（二一）	吉林生	周凋	（三一）	昌圖生
隋尹輔	（二三）	龍江省生			

女ノ部

張敏	（二七）	永吉縣生	李燕芬	（一八）	哈爾濱生
孟虹	（一八）	哈爾濱生	鄭曉君	（一九）	長春縣生
王麗君	（二〇）	齊齊哈爾生	姚鷺	（二〇）	哈爾濱生
李鶴	（二〇）	奉天生	李香蘭	（二一）	奉天生

【主要製作映畫】

安欽呼圖國都訪問記、拓け滿蒙、合成燃料、防共の契、拓相移住地視察、秩父宮御巡親の建國大學、滿洲國映畫大觀重工業篇、驢と滿洲、滿洲空の旅、氷上漁業、北京の正月、北支事變ニユース、黎明華北、協和青年、鐵都鞍山、伸びゆく國都、樂士は輝く、砂金境北滿、躍進滿洲、綏遠蒙古建國大會、戰ふ關東軍、沃野は築く、北滿に伸びる國道、新京防空演習、國民大會、國都祭、華北戰捷大會、日滿一如、森林滿洲、嚴冬の移民、故鄕前總理大臣國葬式典、中華春光、松花江水電ダム建設、滿洲帝國概史、速達郵便

★劇映畫

壯志燭天、明星之誕生、萬里尋母、知心曲、微笑的大地、田園春光、七巧圖、大陸長虹、蜜月快車、成吉思汗の歌、富貴春夢、興蒙驃騎、國法無私、大陸の曉（日本語）、寃魂復仇

滿鐵映畫製作所

昭和五年滿蒙事情及び社業紹介宣傳の爲總裁室情報課內に映畫製作機構を設置す。昭和十一年十月製作機構を獨立せしめ總裁室の管轄に移す。製作經費は滿鐵會社に於て支辨す。昭和十四年四月機構の改正に伴ひ更に管轄を弘報課に移し企劃、製作の二係に分ち現在に至る。

【主要製作映畫】

滿蒙破邪行（滿洲事變記錄）
嫩江越えて（同　）
曠古の大典（滿洲國皇帝卽位式記錄）
颪瀟る（秩父宮殿下滿洲國御訪問記錄）
滿洲國修聘特使（鄭總理日本訪問記錄）
春風萬里（滿洲國皇帝訪日記錄）
國際聯盟調査團（一行來滿調査記錄）
祕境熱河（熱河一圓の紹介）
草原バルガ（蒙古バルガ地方の紹介）
曠原兒（拓務省移民記錄）
開拓突擊隊（自營村移民記錄）
鐵槌抗日（支那事變記錄）
黃河作戰（支那事變記錄）
上海戰線ルポ（同　）
滿洲大豆（滿洲大豆の理化學的研究）
滿鐵三十年（滿洲文化史）
建設工事（熱河鐵道建設記錄）
「あじあ」に乘りて（小學國語讀本所載映畫化）
東滿の狩獵（滿洲猛獸の話）
鏡泊湖（鏡泊湖地帶の地理）
新版娘々祭（滿洲土俗紹介）
華北交通創立（同會社創立記錄）
靑少年義勇隊（年少拓士現地記錄）

新民映畫協會

本協會は臨時政府及び新民會の政治的統一を援けるべく意圖されつゝあつた映畫事業が、此地の中心勢力の諒解を得て一つの會社として成立を見たわけである。日支兩國民の眞の提携を目的に日本の眞の姿を紹介することが現下の使命で、(一)日本文化映畫の上映、(二)滿洲文化映畫の上映、(三)宣撫映畫の上映と製作等を其具體的使命としてゐる。昭和十三年二月北京に事務所を設け爾來時局ニユース、記錄映畫、國內宣傳映畫の製作を續け、各主要都市に邦畫の上映をなし滿映作品の配給をも行つてゐる。

中華映畫株式會社

（中華電影公司）昭和十四年六月資本金百萬圓を以て上海に設立され、事務所を共同租界四馬路ハミルトンハウスに置く。映畫による日滿支文化の融合を目ざし不取敢事業の目標を戰禍を蒙れる中支民衆に慰安と娯樂を與へる事及び遠く南支滿洲國に優秀な映畫を供給することに置き漸次映畫の積極的政策、配給に乘り出す筈で、維新政府に於て其重要性に鑑み必要なる監督助成のため適當の指導、補助をなすことになつてゐる。

＝映畫常設館＝

▽日本人映畫館

（滿洲及關東州の部）

大連　日活館（磐城町二三）中央館（西廣場）常盤座（連鎖街）大陽館（近江町二）帝國館（信濃町）寶館（岩代町）松竹館（沙河口）朝日館（沙河口）

奉天　新富座(青葉町)大陸劇場(住吉町)平安座(大和區平和通一八)南座(青葉町)奉天館(春日町)演藝館(住吉町)奉天劇場(十間房)銀映劇場(住吉町)

新京　帝都キネマ(新發路一一〇號)長春座(吉野町)新京キネマ(祝町)銀座キネマ(吉野町一丁目)朝日座(朝日通り)豐樂劇場(豐樂路四一一)

哈爾濱　哈爾濱會館(水道街)平安座(斜紋街一八號)オリアント劇場(義州街)アジア劇場(義州街)大勝劇場(キャピトル)(外國四道街六)

鞍山　中央劇場(北二條町五〇)演藝館(北一條町二四ノ三)千日座

撫順　豐樂館(西五條通三八)　樂天館(東三條二六)

安東　安東劇場(四條通り)南地座(三番通り六ノ一)中央キネマ(大和橋通り)

吉林　聚樂館(三經路)公會堂(南大路)

四平街　四平街劇場(北五條通九)公會堂(同)

阜新　壽座(錦州省阜新)

東安　東安劇場

鐵嶺　演藝館

遼陽　遼陽劇場

開原　公會堂

公主嶺　公會堂(楠町)

牡丹江　牡丹江劇場(圓明街二番地)

延吉　新富劇場(間島省延吉街)

海拉爾　ハイラル館(東三道街)プログレス(東頭道街)

齊齊哈爾　共樂館(永安大街二七)チチハル會館(治安街)

錦縣　錦州劇場(錦華區銀座街三)

勃利　東亞劇場

錦縣　錦座(銀座通)

龍井　龍井劇場　(間島省龍井街新安區延平路)

山海關　山海關劇場(山海關南門外)

旅順　旅順映畫館(乃木町一七五)

圖們　圖們劇場(春風街)　國際劇場(間島省圖們街)

佳木斯　佳木斯劇場(新市街)

承德　承德劇場(承德南營子大街)

本溪湖　公會堂(石山町)

營口　公會堂(營口)

通化　通化館(通化)

敦化　日滿會館(敦化縣城小東門外)

(北支の部)

青島　國際劇場(山東路)　電氣館(市場三路二六)　映畫劇場(李村路)

天津　浪花館(日本租界福島街)天津映畫館(特別第三區二經路一六)中原映畫劇場(日本租界旭街)大和キネマ(日本租界大和街)天津劇場(日本租界北旭街)

北京　光陸劇場　(東城崇文門大街一九九)國泰劇場(西城絨線胡同一三〇)飛仙劇場(燈市口一一)

張家口　世界館(怡安街)

濟南　日本劇場(二馬路中街)山東映畫館(二大馬路緯三路)

大同　大同劇場(蘭池街)

石家莊　勸業劇場(大橋街)

太原　明星座(首義街)

徐州　天宮劇場(巡業)唐山

塘沽　公會堂(巡業)

保定　軍人會館クラブ(巡業)保定蓮池街)

(中支の部)

上海　東和劇場(乍浦路)第一歌舞伎座(北四川路)第二歌伎座(北四川路)虹口キネマ　(乍浦路三八八號)小坂巡業(南市學門外)

杭州　東和劇場　(延齡路)　西湖キネマ(朝鮮)英士街

蘇州　東和劇場(城內觀前北局)

鎭江巡業
漢口 光明映畫館(關陵路七一)大陸劇場(府東四路)上海大戯院(兩儀街)東和劇場(五族街)
武昌 日本館(太平路二〇號)
南京 中喜劇場(舊國民戯院(揚公井一五號)東和劇場(中山路一〇〇)

▽滿支人映畫館

新京 國泰電影院(東五馬路二一五)大安電影院(永春路)光明電影院(永春路)平安電影院(東三馬路二十)新京電影院(日本橋通八十番地)
哈爾濱 大光明電影院(道裡中國九道街)巴拉斯電影院(道裡中國七道街)國泰電影院(道外正陽十六道街六〇號)慈光電影院(道外北六道街北頭)平安電影院(道外許公路正陽街)東北電影院(道外昇平二道街)亞洲電影院(道外北六道街北頭)大同電影院(道外正陽十二道街)
奉天 光陸電影院(城内中街)天光電影院(大西關大街五斗居六三)亞洲電影院(小西關電車路路南)雲閣電影院(北市場二六緯路)東安電影院(南市場)明星電影院(小西關第一商場内)國民電影院(工業區國民市場)
齊齊哈爾 永安電影院(永安大街一〇五號)金城電影院(朝陽街路南十六號)
大連 大陸電影院(沈家胡同)新世界電影院(西崗日新街十番地)宏濟電影院(奥町六〇番地)友樂電影院
金州 新世界電影院
吉林 倶樂部電影院(糧米行街新安胡同五號)秋星電影院(二道街十四號)大陸電影院(公會堂)
佳木斯 協和電影院(臨江街)平安電影院(通江街)春華電影院(德祥街)
牡丹江 東安電影院(市政路郵政街)新安電影院(市政路)
營口 平安電影院(三江會館街五)營口電影院(永世中街)
撫順 大同電影院(福民馬路四丁目)福興電影院(永安里通)中和電影院
四平街 中央電影院(北五條通)
安東 東平電影院(新安街二十八號)
鞍山 世界館電影院(鐵西南七番町(市場))
錦州 錦州電影院(朝日街二番地)
鐵嶺 錦州電影院
黑河 明星電影院(小興隆街一〇九號)
勃利 東亜電影院(中正街東小路)
呼蘭 呼蘭電影院(建國街一〇)
敦化 日滿會館電影院(小東門外凱旋街)
克山 平安電影院
通化 通化館電影院(西關街)
臨江 臨江館電影院(通化省臨江)
拜泉 平安電影院(濟民街西四道街)
海拉爾 興安舞臺電影院(西大街)
墨爾根 興嫩電影院(東大街)
洮南 洮南電影院(七間房)
磐石 福安電影院(磐石街)
白城子 博爾多電影院(富興巷)
富錦 昇平座電影院(昇平街)
阿城 大成電影院(三道街)
海倫 春光電影院(東市場)
克東 滿洲電影院(休)
扎蘭屯 民安電影院(休)
訥河 訥河電影院(新樂中)
珠河 光裕電影院(休)
依蘭 三姓キネマ
暉春 亜洲電影院
東安 東安電影院
延吉 延吉電影院(休)
泰安鎭 大安電影院
北京 眞光電影院(東安門外六三)平安

電影院(東長安街九)大觀樓(大柵欄五四)開明電影院(西絲市口五六)中央電影院（北新華街二五)

天津　エムパイヤ(英界レースコースロード)スター(佛界リューアフビアー)キャセイ(佛界リュードコーンヤル)

濟南　大觀電影院(大觀園內)開明電影院(緯一路)鴻樂電影院(大觀園內)濟南電影院(城內)

石家莊　永安電影院(至急街)

南京　首都大戲院(夫子廟貢院街)

蘇州　大光明戲院(城內觀前地局)蘇州戲院(城內觀前地局)

上海　金城電影院、新光電影院、明星電影院、中央電影院、新中央電影院、卡德電影院、恩派亞電影院、蓬萊電影院、中山電影院、浙江電影院、萬國電影院、光華電影院、九星電影院

漢口　新市場電影院(中山路)

▽外人映畫館

哈爾濱　モデルン(中央大街)

漢口　ビクトリア(佛界呂欽使街)エムバシイ(佛界福煦大將街)明星大戲院(佛界福煦大將街)

天津　グランド(英界コンシルロード)プリンス(佛界四號路)キャピトール(特一區)

濟南　新濟南(二大馬路緯三路)

上海　グランド、キャセイ、メトロポール、カールトン、キャピタル南京、エムパシイ、パソー、麗都大戲院、リッツ

演劇

【滿洲演劇行政】　滿洲には未だ演劇に對する國家方針の確立はない。滿洲は民族複合の國であり獨自の國劇はないのであるが、然し新しい獨立國であつて見れば、新しい意味の支那劇、新しい意味の日本新劇、新しい意味のロシア劇等を總稱しての「國劇」の創立こそ緊急の行政目標であらう。此意味に於て近來發生しつゝある各種國內劇團が支那舊劇の改良を標榜してゐることは喜ぶべき現象である。

【滿洲現存劇團】

大同劇團(新京)
朝鮮劇研究會(新京)
中銀戲劇研究會(新京)
戲劇研究會(新京)
奉天協和劇團(奉天)
第一劇團(奉天)
放送劇團(奉天)
雅劇研究團(奉天)
舊露西亞藝術研究會(哈爾濱)
哈爾濱演研クラブ(哈爾濱)
哈爾濱演研座(哈爾濱)
安東協和劇團(安東)
吉林演劇會(吉林)
農安演劇グループ(農安)
綏化協和俱樂部(綏化)

支那劇

劇場案內

劇場の規則に新式と舊式とある。新式のうちに二通あり其第一は北京あたりで行はれてゐるもので、日本の東京の劇場と同じく坐席に番號が入れてあり、切符の前賣もする。第二の座席は一定の等級である限り番號がなく、「坐り勝ち」で、入場の際切符の檢査をする方法である。舊式のものは中に入つて席を見つけた上でボーイ(茶房(チャファン))に切符を買はせればよい。滿洲では新式の第二種及び舊式のものが多い。

芝居見物に茶は附物で餘程新式の劇場

（例へば天津の中國大戲院等）でない限り席に着けば必ず茶を持つて來る。これは茶を賣つて生活する商が劇場に附隨してゐるからであつて、普通は茶を飲んでも飲まなくても茶代を拂ふ習慣になつてゐる。舊式劇場―特に滿洲―では茶及び食品類の仲賣の外、蒸タオルを提供する、これは後で料金を請求して廻る。新式劇場には之はない。

坐席の分け方は大體平場（池子）の前（前排）と後（廊子）、二階の前房三面（包廂）及び其後方（後廳）と云ふことになつてゐる。包廂は日本の桝に當り、一桝四人乃至五人坐れ、一桝幾らと云ふ料金になつてゐて無論料金は一番高い。個人席で最も高いのは平場前方で此處はほんとうの芝居好きが行く。これは支那芝居が歌を主とする關係上微妙なフシ廻しを聽くためには舞臺に近くないと不便だからである。平場の兩袖及び後方は大體同値でずつと安く、一番安いのは後廳である。

開演は晝間（午後）と夜に分けられるが、近頃の傾向としては日曜休日以外は晝間は開演しないことが多いし、開演しても好い俳優は出ない。時間は處に依つて異るが、大體晝（白天）は午後二時頃から六時頃迄、夜は八時頃から十二時頃までゞある。料金は一人當り最高二圓から二三十錢位迄、北京一流の俳優が地方巡業の場合は三圓から五圓まで取ることもある。茶代は一人十錢見當と見積れば好い。

支那劇の見方

言葉が分らない調子が分らない上に、舞臺裝置の簡單な支那劇を了解しやうとするのは容易の事ではない。

支那劇の觀賞に先づ必要なのは劇の內容を知ることである。例へば「覇王別姫」とは何う云ふ劇であるかと云ふ概念を養ふことである。七十二回戰を交へて一度も負けたことのない項羽が、韓信の爲に計られて九里山の一戰に破れ四面楚歌の聲に驚かされて、愛妃虞美人が訣れの舞をする所であるとの豫備知識を持つて見て、初めて趣味津津たるものがあるからである。一目して其藝題は何かと分るのは容易な事ではないので、それには劇本を熟讀し、舞臺上の所作と相待つて、初めて觀劇の基礎的知識とでも云ふ可きものが出來上るのである。勿論二百も三百もある劇の筋合を全部知ることは容易ではないが、併し平常演ぜられる劇は大抵定つて居るので、三國志、水滸傳、西遊記、封神榜、狸猫換太子、楊家傳、西廂記、琵琶記、紅樓夢、岳飛傳、施公案、三俠五義、紅鬃劣馬の類、其他時代々々流行の物を研究すれば充分である。

以下順々に支那劇の特徴を述べて見やう。

【舞臺】 支那劇には日本のやうな幕合と云ふものが無く、且つ花道と云ふものもない。俳優は常に右側の上場口から現はれて左側の下場口に入り續いて後ろを廻つて復た右から出る。藝題が變る時でも別段時間を置かず、僅かにブーブーいふ原始的の喇叭を合圖にどん〳〵進行する。

近頃主要な場面に多少道具立をするものもあるが、大抵は背景を畫いた幕を釣る位で、場面でも纔かに俳優の所作、從者の竝び方、囃しの調子等から考へるより外ない、鞭を持つて出て來る時は、道を急ぐ所か戰陣から歸つて來た所が想像され、起覇と云つて手振り足振る物體を附けて來る時は、自邸に居た所と想像されるのである。又四人の從者が舞臺の眞中に二人づゝ竝んで、後から主人たる權威者が出て來るのは自邸に居て座敷に出て來た事が窺はれ、四人の從者が上場口の正面に二列に竝んで、後から權威者が其間を通つて出て來るのは、他所から歸つた所が窺はれる。

〔隈取〕 支那劇の特徴であつて「淨」或は「花臉」と云つて曹操や項羽の樣な豪放な人物を表はす役と「丑」と云つて道化役をす

るものとの二種ある。眞白に塗つたのは仇役を表はし、黒は剛直の表示で、又五色に規則正しく染めたのは兇暴の相で所謂山寨の王を表はす。張飛の顏も三國志劇を飾る大きな存在で、生地を白とし眼と頬は太い黒線を引き、額に灰色で蝶の形を表はす。關羽の顏の眞紅なのも外に例が無い「花臉」は性質として斯うした人物を表はすから、其歌も頗る男性的のものである。

次の「丑」と云ふのは、兩眼を白で菱形又は蝙蝠形に染め見るからに滑稽である。

其他隈取をしないものには「生」と「小生」とがある。「生」と云ふのは何れも長い鬚を垂れ、皇帝とか大臣とか云ふ、種類の人は勿論、學者でも易者でも、壯士でも漁夫でも多く之に屬する。「小生」は若々しい人を表はすので、素顏で鬚がない。

次に女形で主要な役は「青衣」と云ふので、之は貞節なる眞面目の女性を表はし常に其劇の主役たるもので、顏を白く濃厚に塗り、眼を吊眼に畫いて眼と眉との間を赤く染め、口紅を施して耳の前に後れ毛を黒く染める。

【衣　冠】 紫や緋に金で龍を刺繍した大衣を着、銀星や緋の毛房で飾つた兜を被り黒い鬚を附けて出て來るのは大抵皇帝である唐や獅子頭の刺繍ある大衣を着、同じ様な星兜を被つたのは元帥である。中に雉尾と云つて雉の尾を二、三本組合せた飾を二條、頭の後ろに垂れるものもある。左右に黒い翼があつて、歩く時ブル〳〵震へる冠を被つたのは文官で、特に三國の魯肅や、「法門寺」の知縣趙廉等は無地の紫衣を着る。以上何れも腰に玉帶を附ける。袖の細い鎧を着脊に靠旗と云つて三角形の小旗を四本挾んだのは、武人出陣の華々しい姿である。襟を日本式に合せた衣服を着上に同じ形のダブダブした羽織様の物を引掛けたのは、壯士とか志士の型である。頭巾は紫や藍の毛房で飾つた高い兜を附け、部下はピエル式の帽を戴く。尚ほ斯ういふ人が喧嘩にでも行く時は、袖の細い上衣に、頸から細い紐を十字に卷附ける。紫や藍地に八卦形の模様ある大衣を着、手に鶴扇を持つたのは軍師の型で、同じく囍と云ふ字を模様にした長衣を着るは金持の老人、上部の四角な學帽を被り、黒や藍の質素な長衣を着たのは學者である。其他一般の老人は茶色の服、頭に同色か藍色の鉢卷をする。

次に「青衣」即ち良家の妻女は、上衣は黒下衣は白で、胸に白の襞の多いスカート式の物を卷くか腰に白帶をする。髮はあつさりと結んで、白布か藍布の鉢卷をし、結び目を長く右脇に垂れる。黄の上衣を着たのは皇妃、濃艶な色合を用ひたのは麗人型、中にもキラキラした武裝をしたのは女傑型である。

次に何處の國の劇でも、其國の人情風俗を表はした所作、言ひ換へれば特殊の型があるもので、吾々の眼にはそれが異様に映る。從つて相當解釋に苦む所があるものであるが、度々見る中に、それが一定の型に嵌つたものであることが分る。以下最も眼に觸れるものを幾つか擧げて見やう。

【龍　套】 支那劇はうるさい程旗持や刀持が走り廻るもので、之は皇帝とか元帥とか云ふ人の從者で、其數は四人に定つて居る。至つて粗末な風をして居るが、之は下廻りの役であるからで、其中黄色い上衣を着たのは宮中の奉仕者である。總稱して「龍套」と云ふ。之にも一定の方式があつて、上場の時は最初の二人が斜に進んで左側に後の二人が右側に竝ぶ。而して後から皇帝が現はれて二例の間に立つと云ふことになる。下場の時も龍套は兩方から一列に中央に進み、先拂をしてから下る。

【趟　馬】 馬に乗る仕種の時は必ず鞭を持つことになつて居る。長さ四尺許りの鞭で、紅白黄等の房で飾つてある。從者が鞭を捧げると本人は鞭の先の紐の輪を藥指に嵌めてから柄を握る。それから兩脚を動か

して馬に乘る型をするのである。終つて鞭を水平に波を打たせて前進する。鑼鼓に合せて馬で舞臺を縱横に駈け廻る仕種は、一定の法式があつて之を趟馬と云ふ。

【覇　起】之は武人の示威仕種であるが一面又鎧兜の着附を良くする動作と考へられる。先づ主役の武人が上場の時九龍口で止り、左腕を横に力を入れて水平に伸ばし右腕を横に曲げて添へ、大鈸の音に合せて傍目も振らず斜進し、舞臺の中央正面に到り、其儘後退りして舊の位置に歸り、兩腕を交る〲伸ばし次に交る〲目の前から頭の上に揚げ、右足を高く蹴り次に左足を蹴る。此處で一廻轉して今度は舞臺を角に廻つて再び前の正面に達し、愈々本藝に入る。此仕種は元帥一人でやることもあれば、四人又は八人の大將が一人づゝ出て來てやることもある。

【亮　相】大官が上場の時一度其處に止つて姿勢を正し文官は袖をしごいて兩手を冠の前に當て、武官は兜の前に輕く手をやり兩方とも型の如く長い鬚をしごくことがある。婦人も主役になつた者は、時に同じ樣に一度止り、長く垂れた頭髮の側毛を下にさすることがある。之は何れも威儀を整へる仕種で之を亮相と云ふ。

【鬚と袖】鬚は威嚴を示すより寧ろ年齢を表はすものであつて、此鬚のしごき方が最も重大な表情の一になつて居る。鬚の扱ひ方と同じやうに目に附くのは袖の振り樣である。衣服は武人の用ひる一部の物の外何れもダブダブした袖のある物で、其袖の先に又水袖と云ふ二尺許りの白い袖が附いて居る。俳優は其の水袖を投げたり、手首に卷いたりして感情を表現する。

【樂　器】樂器は胡弓を主とし、三絃、月琴、大鑼、小鑼、笛、笙、大鼓等を用ひるが、一隊は舞臺の右側に位置を占め、中央にあつて竹板を叩き小鼓を打つのが指揮者である。竹板を叩く調子を「板」と云ひ、小鼓を打つ調子を「眼」と云ひ、此の板眼によつて音樂が整ひ歌が規則正しく歌はれることになる。今日支那劇と云へば、西皮、二簧の二調であつて、喜怒哀樂の關係から、原板、搖板、倒板、快板、慢板、數板、流水板、二六板等いふ調子に分たれる。

約　束

一　赤い四角の旗を持つた人が出た時は天候の激變か神樣の出現を表はす。

一　椅子の上に立つたのは山に登つた形で高い山は椅子を二つ重ねる、但し其の椅子が上場口下場口に寄つた正面にある時は、雲の上の仙人に考へられる。

一　女形がよく手先を空中に横縱に動かすが、之は門を開け立てする仕種。

一　舞臺面を右から左に小刻みに歩くのは階段を上下するところ。

一　女形はよく車に乘るが其時は黄色の布に車輪を畫いた物を身體の兩側に添へる

一　世話方が線香に火をつけ焔を飛ばすのは燒打の光景。

一　井、牢獄、土窟は椅子を横にして置く。

一　男が顔に薄墨を塗り、女が顔や鼻の側に二、三本薄墨を引くのは危險の迫れる場合。

一　白い鉢卷に白い衣物は喪服。

一　人の首は人頭大の赤い布包を用ひるが目も鼻も無く鬚だけ附ける。

一　聖旨の傳達、結婚の場、酒宴の場等には雜方が原始的の喇叭を吹く。

一　亂戰の時、下廻りの者が三遍も五遍もモンドリ打つて舞臺を斜に飛出して來る中に大將の馬丁は體を後ろに翻へし輪を畫いて腹這ひになるのが特藝。

一　主役は寢る時決して横にならない。椅子に坐した儘机に靠り掛る。

一　皇帝元帥の出場はよく帳中に坐す、帳は二本の棒に美しい緞子の幕を張る。

一　城門は二本の棒に藍色の布を渡し、それを二人の世話方が兩方から持つ。

一　器や藍色のきれに煉瓦の模樣を描いたのを竹の棒で支へて立てれば城壁或は城門。
一　三組か四組の房のついた三尺許りの棒は鞭で之は馬を意味する。
一　櫂を持つて漕ぐまねをすれば船、中で戰をする場合は櫂を略して槍を用ふる。
一　雲形を描いて楯の如きものを持つて出れば天上の神樣が出る。
一　黑い小旗を振つて出れば風が吹くこと。
一　白地に波模樣の小旗は水中の意で主として魔物が照る。
一　女形が赤い布を冠つて出れば花嫁。
一　顏に赤い布をかむせれば死んだこと。
一　舞臺の上を小走りにぐる／＼廻るのは長い途を急ぐこと。
一　槍を投げたり受けたり蹴つたりして曲藝を演ずるのは武藝の優れてゐることを意味する。
一　鎖を頸に垂らして出れば罪人。
一　大官で罪を犯した者は冠を取上げられ眞中に結んだ長い髮を振廻す。
一　夜景の所は提燈を持つ。
一　白い紙を切つて繫いだ物を一條頭から肩に垂れるのは幽靈の表示。
一　男の獄衣は藍色で、女のは赤。

役柄と劇の特色

（イ）**老生劇**　顏に隈取をしないで耳から頤にかけて長い鬚を附けるのが特徴で、忠臣烈士、名名賢將と云つたやうな史上正しい又偉い人物の言行を芝居にしたものであり、老生の役になつた俳優の歌と臺詞を聽くのが目的である。

（ロ）**武生劇**　二種あつて一つは武技即ち立廻り專門の眼で見る芝居、一つは其の外に歌や臺詞も聽くと云ふ芝居である。武勇すぐれた豪傑、俠客、劍士が武生によつて現はされ、顏に隈取なく鬚もつけないのが普通である。

（ハ）**文武老生劇**　歌や臺詞も大切なら立廻りもやると云ふ、どちらかと云へば新しい傾向の芝居で、筋も複雜であり或人物の事蹟の相當纏つたものを演ずる。

（ニ）**花臉劇**　隈取と鬚が附きものであり、人物は大抵善人と惡人とに分けられる。特色は隈取の外に發聲が非常に荒々しく大きいことであり臺詞と歌を聽かせることにある。

（ホ）**小生劇**　色男役（日本の二枚目）を普通とし、別に武小生と云つて武勇傑れた青年英雄の役がある。顏はきれいに化粧し高聲と低聲を混ぜて臺詞を云ふ。

（ヘ）**花衫劇**　女形で若くて美しい女の役である。女形の美線と可憐な所作と哀婉切々たる歌とを目的とし、眼と耳との兩方を樂しませることにある。

（ト）**武旦劇**　武藝を主とする女形の劇で、この役の特徴は全く立廻り專門にして歌や臺詞は殆どなく、房の附いた槍で曲藝をやる。且は女形の謂である。

（チ）**老旦劇**　年老いた婦人の役、歌の調子は老生より少し高く又聲も大きい。筋が簡單でたゞ主人公の歌だけを聽くものである。

（リ）**丑角劇**　一種の道化役で特徵は眼と鼻の處だけを白く塗り大きな甲高い聲でものを云ふ。概ねワキ役として活躍し女形の道化役の場合は顏を白粉と紅で滑稽に作る。

（ヌ）**其他特別の劇**　三國志で有名な髯の豪傑關羽を主役とする關羽劇、有名な支那のおとぎばなし的小説「西遊記」の大立物孫悟空を主役とする孫悟空劇等がある。

現代支那劇名優

一、二流程度の現代名優には次の如きものがある。

イ（老生役）馬連良、譚富英、言菊朋、李盛藻、雷喜福、奚嘯伯、時慧寶、王鳳卿、周嘯天、陳少霖、王文源、孟小多（女優）
ロ（武生役）尙和玉、馬德成、李少春、

孫毓峯、周瑞安、楊盛春、劉宗楊、蓋春采

ハ（文武老生役）李萬春、葉盛章、麒麟童（周信芳）、林樹森、劉漢信、白家麟、高白歲、楊瑞亭

ニ（花臉役）金少山、郝壽臣、侯喜瑞、劉連榮、馬連昆、王永昌、袁世海

ホ（小生役）美妙香、金仲仁、程繼仙、葉盛蘭

ヘ（花衫役）（男優）梅蘭芳、程硯秋、尙小雲、荀慧生、黄玉麟、筱翠花、張君秋、毛世來、李世芳、陳麗芳、小楊月樓（女優）章遏雲、吳玉蓉、侯玉蘭、梁秀娟

ト（武旦役）朱桂芳、閻世善

チ（老旦役）李多奎

リ（丑角役）蕭長華、馬富祿、朱斌仙、慈瑞泉、曹二庚

寄席

滿支には寄席に當るものは餘り多くない。日本の寄席の如く一つの席で各種の演藝をやるものは非常に少く、槪して云へば寄席的演藝は完全ーた建物內よりも露天或はそれに近い盛り場の天幕張りの中で一種目每に別々に演ることが多い。

一、雜要

雜要と云ふのは寄席的演藝のことで各種の雜要を一つの席でやるのは天津、北京等の大都會に一、二箇所ある程度で、その種目は大體左の如くである。

（イ）大鼓書　一種の語り物であり日本の祭文に似、伴奏に合せて一定の物語を單調なフシをつけて唱ひ、名人はやはり男であるが普通は若い娘が主としてやる。

（ロ）相聲　一種の落語であり扇子を持ち滑稽な話を身振りを入れて語る。伴奏なく一人藝で男に限る。

（ハ）雙簧　一種の掛合漫才で男二人でやり伴奏はつかない。

（ニ）說書　講釋で軍談物が多い。

（ホ）淸唱　胡弓と銅　の簡單な伴奏で芝居の一節、義太夫のさわりの如きものを平服のまゝ唱ふ。

（ヘ）拉戲　芝居の一節を胡琴を彈きながら唱ふ。又胡弓の一種で肉聲に近い音を出すものを以て芝居の一節を彈くこともある。

（ト）戲法　支那手品で變戲法とも云ふ。

（チ）口技　猫八式のものまねで簡單な含み笛を使用し、鳥の鳴聲が多いので百鳥聲とも云ふ。

二、落子館（坤書館）

前掲の大鼓書許りを專門にやる寄席で出演者は女許りである。一般には「茶社」と云ふ看板をかけたのが多い。事實客は茶を飮んで閑をつぶしながら聽くともなく聽くと云つたやうな態度である。料金はおぼしめしである。

三、影戲

影繪芝居であるが影繪其ものは從であつて、普通の芝居の如くやはり歌を聽くのが主目的である。影繪の人形は羊又は驢馬の皮を薄く細工して透明にしたもので、それを色々な芝居人形に切り、手足に紐と竹の棒を附けて操る。人形使ひと唱ひ手と囃子方とは夫々別だから一座に少く共七八人は必要とする。

四、寄席の規則

近代的のものは入場券を賣るがこれは殆ど行はれてゐない。ぶらりと入つて席につき茶を飮んでゐるとおぼしめしを集めて歩くから十錢か二十錢を奮發すればよい。近頃は料金を定めてゐるところもある。茶代は別に拂ふが處によつては茶代だけ拂へば好いのもある。娘のやる大鼓書の場合には點曲と云つて客の好みの曲（藝題）を注文することをねだつて來る。それに應じて注文をつけた場合は所定の料金を拂はねばならない。この場合演者を指名することも出來る。露天若くは天幕張りの中でやる場合は投げ錢を集めるが通例である。

支那劇場調

奉天	東北大戲院	
新京	新民戲院	城內新市場
	燕春茶園	
	龍春舞臺	
哈爾濱	華樂舞臺	傅家甸十六道街
	新舞臺	正陽三道街
	中舞臺	傅家甸豐潤街
大連	宏濟大舞臺	奥町五六
	新世界成記大戲院	日進街一〇
	福興大戲院	不老街五一
撫順	歡樂大戲院	歡樂園
安東	永樂舞臺	四番通八丁目
	安成舞臺	安濟街
營口	協和舞臺	太康區
四平街	大觀茶園	鐵道東二馬路二條通
吉林	新慶戲院	得勝門外
佳木斯	佳門戲場	東南門外
齊齊哈爾	龍江大戲院	隆盛胡同一四號
	龍海茶園	公園臨時市場
錦縣	和樂舞臺	錦華區豐樂街
	靖安舞臺	東關區大凌河
北京	吉祥戲院	東安市場內
	廣和樓	肉市三六
	華樂劇場	小橋二八
	中和戲院	糧食店五
	廣德樓	大柵欄三八
	慶樂戲院	大柵欄一二
	吉順堂雜技場	青雲閣
	華地戲院	西柳樹井二三
	富連成社	虎坊橋八〇
	長安大戲院	西長安街五七
	新々戲院	西長安街一〇一
	哈爾飛戲院	舊刑部街一二
天津	中國大戲院	佛界十五街三
	小黎園	佛界泰康市場四樓
	國民戲院	東馬路大街
	北洋	佛界十三號路
	天榮	佛界勸業場六樓
石家莊	新民劇場	共榮街
	新世界戲院	花園街
	新華劇場	新華市場內
	日新劇場	新華後街
	新興戲院	花園北頭五寧胡同
	眞光戲院	西花園
	東華劇場	新民路東花園
濟南	中華戲院	經五路
	北洋戲院	通惠街
	東興戲院	按察寺街
	天慶戲院	新市場
	富貴戲院	鐘樓司街
	共樂戲院	大觀園內
	民樂戲院	新市場
	新民戲院	勸業場
	共和廳	大觀園內
	青蓮閣	經二路
大同	大同戲院	鼓樓西街
張家口	東亞劇場	
青島	樂々座	
	大舞臺	
	山東大戲院	
上海	三星舞臺	
	大世界	
	永安天韵樓	
	先施樂園	
	新々屋花園	
	東方書場	
	大舞臺	
	天蟾舞臺	
	共舞臺	
蘇州	東吳大戲院	城外橫馬路
	開明大戲院	城內觀前北局
杭州	明光戲院	延齡路
	百貨商場	羊壩頭
	大世界	仁和路
南京	世界大戲院	新街口
	陶口大戲院	大平路
	明星大戲院	夫子廟
	新市場	中山路
武漢	漢口大舞臺	佛界輔堂里
	天聲舞臺	佛界輔堂里
	天仙舞臺	佛界如壽里口
	大智舞臺	大智門鐵路邊
	永樂戲院	中華區紹興會館
	東明戲院	鐵路外何家墩
	雲仙戲院	漢景街馬道口
	[illegible]漢戲院	華清街
	滿春戲院	滿春路
	日丸劇場	六渡橋清芬二馬路
	武鳴戲院	鐵路外造紙街
	聯和戲院	至公巷湖南會館
	長樂戲院	三新街



支那料理

支那料理と日本料理

近年日本各都市にも大分支那料理屋が出來たので、日本人の支那料理に對する認識も相當深くなつて來てゐるから、或は蛇足かも知れないが、知つて置かなくてはならぬ支那料理と日本料理との違ひは、大體次のやうなものである。

	日本料理	支那料理
(イ)	味が淡白である。	南方支那のものはかなり淡白であるが、北方支那、滿洲國のものは所謂山東料理で、一般に濃厚である。
(ロ)	調理にあまり油類を用ひない。	脂肪及び植物油を盛んに使用する。
(ハ)	體裁、色の取合せなどに重きを置く。	體裁や色の取合せ等はあまり考へずに實質に重きを置く。
(ニ)	冷い料理が多い。	熱い料理が多い。
(ホ)	魚類を珍重して多量に用ひる。	魚類は第二として獸鳥肉類を珍重して多量に用ひる。
(ヘ)	米飯を主食とし料理を副食物とする。	料理を主食物とし、料理を食べ終つてから米飯、粥、うどん等の內どれかを、最後に口直し位に極く少量用ひる。
(ト)	生物を多量に用ひる。	生物は殆んど用ひない。
(チ)	食物の量が少い。	食物の量が多い。

支那料理の內容

滿洲や中國の料亭では普通どんな料理が多く用ゐられてゐるか、今參考までに二、三その代表的なものを擧げると大體次のやうなものである。

一品燕菜(イーピヌイエンツアイ) 海燕の巢に小量のハムをあしらつたもの。

淸湯魚翅(チインタンユイチー) 鱶の鰭に筍、椎茸、ハム、油菜などをあしらつたもの。

烤京鴨(カオキンヤー) 北京鴨の炙り燒きにしたもの。

炸溜黃魚(チアリウホワンユイ) 黃花魚を脂で骨までいため野菜をあしらひ餡掛したもの。

紅燒煮魚(ホンシアオチイヤユイ) スッポンを醬油酒などにて紅くなるまで煮つめ筍、茸などあしらつたもの。

八寶飯(パーパオファン) 數種の果物をあしらつた甘い米料理。

軟炸鷄(ロウンチアチー) 鷄肉を醬油、酒などにて味付けした衣のかゝつた天麩羅。

芙蓉鷄片(フーユンチイピエン) 鷄肉に蛋白を加へ筍茸等あしらつたもの。

溜魚片(リウユイピエン) 魚肉に白餡かけた料理。

炸板蝦(チアパンシヤ) 車海老のフライ風にしたもの

拔絲山葯(パースーシアンヤオ) 山芋の飴煮。

炸裡脊(チヤリイチイ) 豚の軟い肉に薄い衣をかけた天麩羅。

紅[illegible]肉(ホンメンロウ) 豚の縞肉を醬油酒などにて紅く煮たもの。

鷄絲拉皮(チイスーラーピイ) 鷄肉、胡瓜、二十日大根などの拌へ物の冷菜。

蝦子玉蘭片(シイヤツーユイラヌピエヌ) 海老の粟子と筍の煮物。

川鮑魚(チヨアンパオユイ) 鮑に筍、椎茸などあしらつた吸物。

鍋烙餃子(クヲオラオチイヤオヌ) 燒ギヨウズ(俗に云ふ燒豚まんじう)。

肉絲炒麵(ロウスーチアオミエイヌ) 豚肉の細く切つたものに筍、茸など入れた燒そば。

支那料理の名稱

〔炸〕(チヤー) 油で揚げたもの。

〔炸蝦球〕(チヤアシヤーチウ) 蝦の眼球を油で揚げたもの。

〔炒〕(チヤオ) 油を用ひていためる程度のもの。

〔炒肉絲〕(チヤオロウスー) 豚肉に生姜、葱、蒜を細く切つたものに蝦米(シヤーミー)を加へラードでいため味をつけ湯を入れたもの。

〔炒飯〕(チヤオフアン) 油でいためた飯、これに肉を加へたものは肉炒飯(ルーチヤオフアン)、蝦な

ら蝦炒飯(シャーチャオファン)、卵なら鷄子兒炒飯(チーザールチャオファン)と云ふ。

〔炒年糕〕(チャオネンカオ) 炒肉絲に年糕(糯米を蒸して臼でついて作つた餅で長さ三寸幅一寸五分位、正月に食べるもの)を入れて煮たもの。

〔煎〕(チエン) いためた上更に煮るもの。

〔煎丸子〕(チエンワンツ) 豚肉の團子を油でいため更に煮たもの。

〔溜〕(リュー) 葛(クズ)かけ(あんかけ)

〔溜汁魚〕(リューシーユイ) 魚(主にグチを用ふる)の葛かけ。

〔燴〕(ホエ) いためて後汁をたつぷりにして煮たもの。

〔　蝦仁〕(ホエシャーレン) 蝦の皮をむいた中の白味を主材料とし筍、茸、葱、生姜を加へ油でいためた後、醬油、酢、花椒をまぜ汁をかけたもの。

〔烹〕(ポン) 油を少くし、火を強くして直ぐに出す料理。

〔烹豆芽菜〕(ポントーヤーツアイ) 豆の芽菜をつかつた烹(ポン)。

〔湯菜〕(タンツアイ) スープもの。

〔鷄絲雪里紅湯〕(チースーシユエーリーホンタン) 主材料は鷄の胸の肉を千切りにしたものをスープの中に入れて煮、これに筍と雪里紅(シユエリーホン)(一種の漬物)を加へたもの、これは普通の料理の吸物のなかで一番うまい。

〔川〕(ツワン) スープが多くて中に入つてゐる品物が少いものをいふ。

〔川丸子〕(ツワンワンツ) 川(ツワン)に豚肉の團子を加へたもの。

〔高湯〕(カオタン) スープのよいものゝ意、主に料理の最後に出す。

〔高湯臥菓〕(カオタンウオクオ) スープの中にゆで卵を落した樣な料理。

〔燜〕(メン) とろ火で蓋をして長く煮たもの。

〔黃燜鷄〕(ホアンメンチー) 鷄肉を一寸五分位の四角に切り、別に甜醬と葱、生姜、蒜を細く切つてこれをまぜ、料酒を加へた味噌の中に漬けたものを材料として燜をつくる。

〔黃燜肉〕(ホアンメンルー) 豚肉の白味と赤味と半半ある肋骨か胸か背中の肉が一番いゝ。小さく切らないでそのまゝ味噌に漬け前と同じ樣にして煮一寸か二寸に切つて丼に入れて出したもの。

〔黃燜蹄子〕(豚の足で作る。只蹄子(ディヅ)と云へば豚の足のこと、羊なら羊と云ふ字を上につける。

〔燒〕(シャオ) 一度油でいためるか燒くか、或は炙(アブ)るかした後もう一度煮たもの。

〔燒茄子〕(シャオチエヅ) 茄子を四つ割にし一日位乾したものを主材料とし之に肉、生姜、葱、蒜を加へて作つたもの。

〔燒肉片〕(シャオローピエン) 茄子の代りに豚肉を使つたもの。

〔燉〕(トン) 燜と同じ樣に蓋をして煮る料理であるが燜は一遍蓋をしたら出來上るまで蓋(フタ)をとらないが之は時々あけてみるだけの餘裕ある料理。

〔燉肉〕(トンロー) 皮のついた豚肉をつかつたもの肋骨の肉が一番よい。

〔熬〕(アオ) やはり汁もので湯(タン)と川(ツワン)の間のもの。

〔熬白菜〕(アオパイツアイ) 白菜を長く煮たもので家庭でよく作られる。

〔奶子熬白菜〕(ナイツアオパイツアイ) 鷄の骨でスープを作りそれで菜葉を煮牛乳で調味したもの。

〔蒸〕(チョン) 蒸す料理。

〔水粉肉〕(ミーフエンルー) 米粉を肉の兩面に蒸したもの。

〔鷄子羹〕(チーズコン) 茶碗蒸し。

〔烤〕(カオ) 遠火で炙る意。

〔烤鴨〕(カオヤー) 腸を出した鴨の中に葱、生姜など入れて炙つたもの。

〔烤肉〕(カオルー) 豚肉を燒いたもの。

〔燻〕(シュン) 燻べた意。

〔糟〕(ツアオ) 酒の槽にして肉や筍その他を漬ける

〔醬〕(チャン) 味噌漬

〔蜜餞〕(ミーチエン) 蜜(砂糖)を使つて拵へる一種の料理、餞(チエン)と云ふは砂糖を表にさせること。

〔釀〕(ラン) 鷄、鴨、鳩、茄子、冬瓜などを利用し腸の中に肉を詰めゆでたもの、釀鷄(ランチー)釀茄子(ランチエヅ)など云ふ。

〔煮〕(ツオ) 主に肉料理が多い。

〔白煮肉〕(パイツオルー) 皮のついた豚肉を鍋にとり葱一本、生姜を少々入れて煮其肉を薄く切つて出したもの。

〔拌〕(パン) 混ぜる意、和へものゝこと。拌凉白菜絲(パンリヤンパイツアイスー)はやはり胡麻を使ふ。

〔拌皮〕(パンピー) 炒肉絲(チヤオルスー)は冬でも出すが之は夏でなければ食べない。粉皮(フエンピー)を主材料にして作つたもの。

〔拌豆腐絲〕(パントーフースー) 豆腐絲に生葱を添へ醬油に酢をかけて出す。

〔炸豆腐〕(チヤートーフー) 油揚のこと。

〔搶〕（チヤン） 酢なら酢、酒なら酒で酔ひ殺す意。

〔搶蝦〕（チヤンシヤー） 生きた蝦に醬油と酢と紹興酒（ミヤオシンチユー）をまぜたものをかけて殺し生姜をのせて出す。

〔酒〕（チユー） 酒の種類は色々あるが次の三種が最も多く用ひられてゐる。

〔高粱酒〕（カオリヤンチユー） 白乾兒酒ともいふ。原料は高粱である。無色透明で臭氣が強く、酒精分は日本の燒酎よりも强烈である。良質の酒を求め難い田舍の宴會などでは之を用ひるが多くは酒豪の飮料、下級民の飮料として用ひられる。

〔黃酒〕（ホワンチユー） 元來は山東の地酒であるが山東人が多數住居してゐる滿洲では滿洲地酒の觀がある。俗に老酒（ラオチユー）とも云ふ。淸老頭兒、混老頭兒の二種あり、前者は淡黃や酸味を帶び、後者は焦げ茶色で稍焦げ臭い。酒精分が弱くて醉心地が輕く、宴會等には一般的に用ひられる。

〔紹興酒〕（シヤオシンチユー） 宴會に最も廣く用ひられる。原料は米である。黃金色で酒精分は日本酒より幾分弱く、長く貯藏されたものほど良いとされてゐる。

支那料理の宴會

料理は千差萬別であるが普通の場合燕菜席（エンツアイシー）―燕の巢がその料理の主役を勉め上等の部、翅子席（チーツシー）―鱶のひれが主なる料理で中等、海參席（ハイセンシー）―海鼠の料理が首席を占めてゐるものに三大別することが出來る。成卓となれば普通鮮果四種、乾果四種と冷葷（ロンホン）卽ち冷菜が四皿前菜として卓上に飾り附けられてある。外に客が着席後に運ぶ熱菜（ローツアイ）として兩大件、三大件、四大件、六大件と云つた風に大海碗物と外に小碗物として八品、點心（テンシン）として甘い物が一乃至二巡、最後に飯菜（フアンツアイ）と云つて御飯の時に汁をかけて戴く汁物卽ち夏季なれば大海碗、冬季なれば火鍋子等と漬物四種位出るのである。飮み物や御飯、お粥、瓜子、砂糖、氷砂糖等は別勘定になつて居る。

一卓の定員は確定しては居らず、普通八仙卓子（パアセンチヨウツ）なら六人、丸卓なら八人が正式であるが、時に十人、十二人決して差支へない。豫め人數が知せてあるから、料理店の方で食器を客の數だけ卓上に竝べてある。

席順は入口の方が末席で主人の坐る處、主賓は末席と向ひ合せの所卽ち上席に坐る。最初の冷菜は少し箸を着ける程度にして置かないと、後から出る澤山の熱菜が戴かれぬ樣になる。皿にとつた菜は成る可く食ひ殘さぬ樣にすること、宴會もだん〴〵進行して酒過三巡菜過五味（チユコウサンシユンツアイコーウーウエ）にもなれば一同一寸落附くから挨拶でもする樣なら其時でも見計つてすればよい。宴會も大抵二時間か二時半位で終る。酒も充分に廻り料理も大體濟めば更に一二巡酒を勸め御飯に移る。飯の濟んだものは箸を揃へ禮を述べ他客に悠々挨拶して離席する。

露西亞料理

露西亞料理の特色は、先づ量の多いことゝ、量の割合に安價なことであり、料理は寒地である關係上比較的油濃いものが多いが、異色ある味覺と調理に旅人の食慾は限りなく刺激される。露西亞人の習慣として朝夕食は簡單な紅茶、パン、ソーセーヂ位で濟まし、晝食に一番金と時間をかける。從つて一般のレストランでも晝食は特に美味しいものを安く食はせるが、夜食となると高級レストラントでは、晝間と同一獻立でも倍額位取られる。之は主に贅澤な階級が多いので、安く提供する必要がないといふわけである。左に主なもの丶簡單な解説をしてみやう。

○ウオツカ（火酒） 酒精分の强い酒で露西亞料理の前座に缺くべからざるものである。

○ザクースカ（前菜） 高價なキヤヴイア其の他牛魚肉、筋子と野菜を巧みに取混ぜ、それに異色ある胡瓜漬を添へたもの。

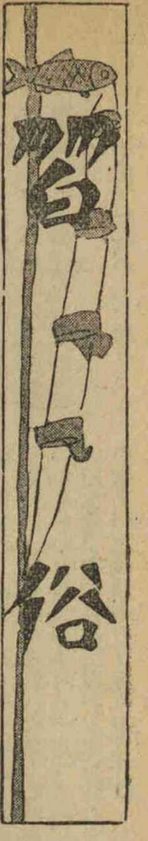
○ボルシチー 肉、野菜（トマト、馬鈴薯等）の濃いスープ、日本人には之一つでも腹が一杯になる

○ビフストローガン・ボヂヤルカ・クリンヌイカツレツト 何れも牛豚肉に馬鈴薯を加へて油で揚げたもの、種類が多く一々擧げることが出來ない。

○シヤシリツク コーカサス料理の代表に擧げられる最も野趣ある料理で、羊肉を串に刺して燒き、熱いうちにレモン汁、ロシヤソースで食べる佳味の逸品である。

○コンポート デザートに入るべきもので、フルーツを煮詰めたもの。

哈爾賓に於ける露西亞料理の主なる食堂は次の通りである。鐵路クラブ・グランドホテル食堂・モデルンホテル食堂・アメリカンバー・ヨツトクラブ



滿支人の性情

既往の國家組織とか爲政者の個人主義等から一面には甚だしく自己本位に導かれた代りに、他面では、何事も他人をあてにせぬ獨立自治の精神を培はれ、不知不識の間に個人としての生活も自治團體としても非常に鞏固にされ來つて居り、國家だの法律だのゝ背景を借りずとも何處へでも喰ひ込んで行ける强さを持つてゐる。從つて一般大衆は國家なるものゝ法的觀念が比較的薄くそのため「公戰に弱く私鬪に强い」と云ふことにもなるのであるが、新生國家の善政は之等の習性を改善しつゝある。

　この個人本位の觀念から殆ど信仰とも云ふべき程の執着を金錢の上に持ち金錢を得るためなり護るためなりには生命をも賭する。

　その反面に理窟抜きの大まかな無頓着さ陽氣さ粘り強さ、氣長さが絡み合つて所謂大陸氣分を釀し出してゐる。自分に直接損得にならぬ事柄に對しては一切關心を持たず我不關焉として見過す。庶民階級の日常生活は、實に無造作で衣食住は至つて手輕でありすべて最少限度のもので間に合せてゐる。又商賣や交涉ごとにしても最後まで時間や勞力を超越して粘り續け愈々駄目と決つた場合の諦め方は實によい。沒法子(メイファーツ)（仕方がない）の言葉は彼等の哲學の息吹きと見られる。窮すれば通ずの氣持が無自覺の中にも彼等の觀念の底に在り、心中などの起らない大半の理由は其の邊にあらう。

「面子(メンツ)」とは體面といふ程の意で、頗る厚顏無恥の觀あるも面子を立てる上には甚だ神經過敏である。其實生活は一面からみると面子と實利の葛藤とも云へる。金錢上の事では細かだが大體の氣分が大まかで無邪氣でユーモアに富む者多く、にこやかな顏つきをし朗かなもの丶言ひ方をして、接する相手に快感を抱かせるやう努める。又針小棒大式な宣傳を平氣でやつてのける。

　大衆は思想的に低く舊例により萬事を處して行くと云ふ風であり、昔ながらの迷信に捉はれ風水緣喜を擔ぐ風習が根强く存在してゐて、日常生活一切の上に見られる傾向である。殊に田舎の方になると甚しい。

滿支人の風俗・習慣

【訪　問】支那人を訪問する時には、豫め先方の都合を尋ね時刻を定めるのが禮である。婦人が訪問する時には特にこの點に注意せねばならぬ。初めての訪問には主人は門外まで出迎へ、其他は室外に出迎へて先づ客を導き入れ然る後主人が請坐（どうぞおかけ下さい）と謂ふから客は挨拶して着席する。請坐と言はれない間は着席しないのを禮とする。婦人客に迄煙草をすゝめるのが禮である。斯かる時若し主人がマッチをすつてくれた時には、其の火を受取つて自分で火を附けるのが禮である。若し吸はないならば禮を言つてことわるのである。茶を客にすゝめる時には最初主人自らすゝめることが多いから、其の時は立つてこれを受け着席してから茶托ごと手に取つ

てこれを飲む。點心（菓子又は食間に食するもの）又は食事等を馳走になつた時には歸りがけに先方の使用人に幾らかの心附（賞錢）を與へる。

又主人は必ず室外まで見送るのが習慣であるから先方から訪問を受けた場合には、當方も室外或は門外迄見送り若し自動車に乘る客ならば其の動き出す迄見送るのが宜しい。

【回　拜】　人から訪問されると必ず答禮の意味で又訪問するものである。若し自身が回拜出來ない時には代理人に名刺を持たせて答禮に行かせることもある。之をしないと大變な失禮になる。

【贈　物】　日本では人に物を贈るには奇數を用ひるが。滿洲や支那では弔問以外の進物は總て偶數を用ひ品物の種類は異つても總計は必ず偶數を用ひる。又四の數は日本では死に通ずるとて最も忌むが、滿洲支那では偶數であつて二對と言つて便利な數であるから、之を用ひることが多い。

また年節（正月）五月節（端午）八月節（中秋節）の進物に對しては返禮が必要であるが夫れ以外の誕生、出產、結婚等或は病氣見舞、弔問等の進物には返禮をしないのが一般の風習である。

今一般に行れて居る贈物の例を擧げると

五月節　粽、果物
八月節　月餅類、果物
出產祝　銀鎖、腕輪、子供用帽子、衣類等
病氣見舞　滋養になる食料品
誕生祝　食料品（蟹は禁忌品になつて居る）
結婚祝　嫁女の裝飾品（梨は離に通ずるので忌まれて居る）
弔　問　香奠、花輪、帳子、輓聯

總て喜び事には紅紙を用ひ悲しみ事には白紙を用ひるから喜び事を紅事、悲しみ事を白事と言つて居る。

【月給や年齡を聞く事】　會談の際平氣で月給や年齡を問ひ、時には相手の機嫌を伺ふ意味で着物や裝飾品の價格を尋ねることさへある。風習として心得て置かねばならない。

足を露出することが絕對にないのであるから訪問する場合や外出等の際は必ず足を露出しない様に注意せねばならない。婦人の踵を異性に見せることは非常な冒險事とされて居る。

【結　婚】　年頃の子女があれば親戚、知友が仲介の勞を取り門戶帳（男の姓名、肩書、曾父母、祖父、父と三代の姓名出身を記す）により陰陽師に占はせ兩人の性があつたら公の見合が行はれる。先づ女の父母が男を見、次に男の父母が女を見るので當の本人同志は結婚の日迄直接見合はしないことになつてゐる。見合が終り雙方承諾の上は男の母親より女に指輪などの贈物をして承諾の意味を通ずる、之を放定と云ふ。

婚禮の前日若くは前々日位に嫁入道具を婿の家に送る。

愈當日となれば娶親太々（男家の關係者で夫婦揃つて居る有福な老婦人）が花轎（中に魔除の爲鏡が掛けてある）を用意して新婦を迎へに行く。然し現今都會の地に於ては花轎の代りに自動車を使ふことが流行となりつゝある。

これ迄に新婦は祖先の靈に暇乞をして待つてゐる。そして娶親太々が新婦に會へば化粧品を贈り新婦の顏を赤布で被ひ新婦の服裝は夏冬共綿入を用ふ。

新婦の乘つた花轎が男家に着くと必ず一度は門の戶を締めて其の入門を拒絕し此處で數次押問答の末開門して之を門內に入れる。

新郎は禮服を着服し叩頭して弓を三矢放ち、それがすむと新郎自ら花轎の扉を開き新婦に苹果（林檎）を食せしめ倚馬の鞍を通らせ夫婦並んで院子（庭）又は客廳に於て天地卓に向つて天地の神を禮拜する。之は拜天地と云つて最も大切な儀式である。

更に新郎に續いて新婦は洞房とて紅綵の帳を以て飾つた部屋に入り炕（オンドル）の

床上に新郎は左、新婦は右に竝んで腰を掛け其の時新婦は蓋頭を除くのである。

親戚知友は御慶びに來て此の日料理等を贈り又男の家では同じく此の日に親戚や知友を招待して馳走する。

婚禮の翌日頃嫁は生家に歸り午後には新郎を其の家に迎へ同道して歸る。回門とは里歸りの謂である。

【葬　式】人が死ぬと床を移して北又は西枕として死者の衣裳は出來るだけ厚く重ね頭は黑布を以て包み脚は麻繩で縛る。

訃聞と云つて喪主子孫の名に依り親戚知友に通知を出し、入棺式は其の日に行ふ。

棺は上流の人程良質の部厚な木材を用ひ之が爲には費用を惜しまない。喪服は白衣を用ふ。

死後三日目に讀經と通夜をする。之を接三と云ふ。

紙製の車馬、童女、童男、倉庫等を門外に用意し僧侶の後について街路を行進し適當な地に持つて行つて之を燒く。之を送車と謂ふ。送車は讀經を伴つて五日目毎に行はれ、月餘の出棺なれば六、七回も行はれ、出棺前日の通夜を伴宿と謂ふ。

出棺は五日、七日目にするのが早い方で九日、十一日、十三日、十五日目遲いのになると三十七日目其れ以上になるものもある。總て陰陽師が定める日と時刻に依るのである。

【誕　生】子供の生れた三日目に開湯餠會と云つて客を招いて喜麵を食べる。一箇月目を滿月と云ひ客を招待して御馳走する誕生日を祝ふことを辦生日と云ひ老年となるに從ひ益々盛に之を行ふ。

【新　年】新年を迎へるに付ての儀式は種々あるが其の中で最も知られて居るのは年末に於ける竈祭である。

竈の神は一家の吉凶禍福を司る神で、家族の善惡行を計上し、毎年十二月二十三日を其の年の總決算日と定め、昇天して玉皇上帝に報告するものと信ぜられてゐる。即ち年の一家の吉凶禍福は此の昇天報告の結果に依るものと信じられてゐるので、「好多說不好少說」(好いことは多く語り惡いことは少く話して下さい)と言つて禱るのである。

除夜となり新に年が改ると主人は衣服を改め供物を供へ香を焚き赤蠟燭を燈して天上から降りて來ると云ふ守護神を御迎へする。之がすむと門を閉め惡魔拂ひの爆竹を徹宵打ち鳴らす。夜明け近くに開門大吉の紅紙を貼り慈正月を迎へるのである。

元旦は貧富の程度や職業に依り多少儀式は異るが大體次の順序で行はれる。

(1)天地の神を拜す　(2)四方の神を拜す(喜貴福財の神)　(3)孔子を拜す(官吏)財神を拜す(商人)　(4)祖先の靈を祀る　(5)竈の神を祀る　(6)門神を祀る　(7)父母を拜す

以上の儀式が濟むと人々は回禮に出掛ける。

正月二日間の食事は大晦日に用意せられ餃子を用ひる。

餃子は肉を入れたもの、又は全然入れないで其の中に小錢或は銀貨、寶石等を入れて其れを食べ當てた人が其の年の幸福を得ると云つて樂しむのである。

【家庭の祭祀】▲娘々祭(東岳廟の祭)―泰山の神は生命を司る神と言はれ娘々は其の神に仕へ幼兒及婦女子と密接なる關係ある神とせられて居るから各地の民衆は東岳廟に詣でるのである。俗に之を娘々祭と云ひ非常に賑ふ。祭は四月中旬から下旬にかけて行はれて居る。滿洲では大石橋、吉林、大屯、鳳凰山などが有名である。

▲中　元(盂蘭盆會)―七月十五日祖先の靈前に供物を供へ寺院に詣で紙錢か紙製の着物を燒き河及海岸のある地方では風流な燈籠流しをして靈を送る。

▲端午節句―昔から五月を惡月と稱へ而も五月五日の正午は午月午日午時で、午が

三つ重なり最も強い氣の集りで、天地に毒氣が蔓るとされて居る。故に端午を祝して毒を除くの意である。そして其の日は商人の決算期となつて居るから一年中での大切な節句である。五月一日より五日迄は大抵商工業者や勞働者は休業する。

▲仲秋節―之は三大節の一で商業上の決算期となつて居る。時は中秋の最も氣候のよい時季であり、空はよく晴れ滿月が輝く等誠に美しく一名之を月見の節句として祝ふ。昔から月の中に兎が居て其の兎は月姉と呼ばれ婦人の崇拜するところとなつて居る。故に又女の節句とも言はれて居る。

家の壁には月や兎の畫を貼り、月餅（直徑三寸より五寸位のもの）や果物等を供物として月を祀るのである。

其他重陽節と云つて高い所に登る風習で之を登高と云ひ身分が高くなることを祈る意味である。

十一月一日には祖先の墳墓に參詣し之を寒衣節と稱し死者に寒衣を贈り靈を慰むる祀り等がある。

【漢人の年中行事】・舊曆・

一月　一日は元旦、二日は財神を祭る日、三日は元旦に迎へた神々を送る日（所によつては四日）、五日は破五（元旦以來守つて來た禁を解かれ自由になる）、四日―六日盤貨（商家は棚おろしをして開業の準備をする）、六日は正午頃元旦以來の供物を下す、八日は穀日、九日は玉皇上帝の誕生日、十日は穀生日、肥料の準備に着手する、十三日は燈節（十三日より十七日まで）各家燈籠をかゝげ珍奇な意匠を競ふ、十五日は元宵節（天官の誕生日）、十六日は落燈夜―走百病、耗磨日、走橋模釘の風習を存す、十八日は洗龍日―元宵節に使つた龍燈の龍を洗ひ落す、二十日は上工日―年雇使用人は主家へ歸り仕事をはじめる、二十五日は封龍日、塡倉日―農家は獨頭の蒜を戶外に懸げ、子女は五彩の布を身につけ痘にかゝらぬ呪とする、塡倉（添倉）は倉庫內の穀物が增して繁昌せんことを願ふための祭事である。

二月　二日は土地神の祭日―（龍擡頭とも云ふ昔の中和節祀孔日）―二日の上丁と八日のその日―（孔子を祀る國家的祭典）、春秋二回上戊の日祀關岳日―（關羽と岳飛を合祀せる祭日）、春分―（春期の半ばに當る日）、十九日は觀音菩薩の誕生日、二十四日前後は淸明節―（祖先を祀る）。

三月　三日は西王母の誕生日、初旬は穀雨節―（この前後に作物の播種をする）、十四日は地藏菩薩の誕生日、十六日は城隍奶々の誕生日、二十八日は東嶽大帝祭。

四月　八日は佛の誕生日、初旬は小滿―（第一回除草）、十五日は呂祖誕―呂洞賓の誕生日、十八日は天后―海神の誕生日、二十八日は藥王誕―（神農の誕生日）

五月　五日は端午節、十三日は關帝爺天の祭日。

六月　六日は土用入り―（虫王を祭る）、十三日は龍王廟會―（龍王は水を司る神）十九日は觀音の祭り、二十三日は馬王の祭り、二十四日は關帝の祭り。（中伏、大暑、末伏何れもこの月中にあり）。

七月　立秋、七日は巧日―（織女渡河の日）、十五日は中元―（俗に鬼節と云つて亡靈を祀る日）。

八月　十五日は十五夜―（團欒節又は供月と云はるゝ如く中秋月餅の山を築き一家團欒して樂しく過す）。二十日は犒勞日―（農家は休養する）。

九月　寒露は月初めに當る。九日は重陽節―（主として文字あるものゝ喜ぶ日）、十五日は祓火日―（この日を以て野外の仕事をかたづける）。十七日は財神の誕辰、月下旬霜降。

十月　一日は鬼節又は十月朝―（先祖

を祀る、春の淸明節に相對する祭事)、初旬は立冬、(收穫物の脫穀も略濟む)、二十日前後小雪、(收穫物の賣出し輸送はじまる)。

十一月　初旬は大雪—(堆肥の切り返しをする)。下旬は冬至—(一陽來復の節)。

十二月　初旬は小寒—(農家と市場及商家の決算は此頃から始まる)、八日は臘八で臘八粥(黃米、白米、江米、小米、菱角、栗子、紅江豆及び皮を去つた棗を合せて作る)を食す、二十三日は竈祭—(夜竈の神を祀る)三十日は除夕—(大晦日)。

蒙古人の民情、風俗

蒙古人は一般に朴訥剛毅であつて、その長上に對する尊敬並に服從觀念の鞏固なことと、日常生活の尙武的なことは嘆賞に値するものがある。しかし一面又極めて保守的で風習や傳統に反する進步や改善にはすべて反對する傾向がある。

又蒙古人は家畜を愛し、乘馬が上手である。そして生活や傳統による原始的民情は我々日本人に割合親しみ易い點がある。元來蒙古は淸朝が執つた旗制による分裂政策に原因して同族間に於てすら共同動作は困難であり、寧ろ相排斥し合つた程であるが一般的には性格頗る朗らかで、明朗な性格ではあるが、積年漢民族の壓迫に僻んだためか、一旦は外部に對する強烈な猜疑心を抱くやうになつてゐる。しかし一度相手を信じたとなると最後迄信じ通す性格の持主であるから、先づ信ぜしめ、然る後はその信頼を裏切らぬやうにせねばならない。日本人は現に多くの蒙古人から強い憧れと信頼の念を持たれてゐるのであるから、こんな點は特に注意すべきであらう。

蒙古人の風俗、習慣等は所によつて異り、就中家屋は生活樣式の變化に從つて夫々相異る。即ち純遊牧民の住む「蒙古包」は轉々と移動するために考案されたもので傘のやうな木骨を屋根とし、木製で圓形の柵を壁とし、これに毛皮又は氈子(フエルト)を覆うたもので、全量を一臺の車に積載し得るやうに出來てゐる。そして取崩しから組立までに僅か三十分といふ極めて簡便なものもある。半牧半農の生活をする者は右と同型で屋根及び周圍を草葺とした固定的な家屋を建て、さらに農業が主產業となつてゐる地ではだん〱支那式家屋になつてきてゐる。

純蒙地帶では男子十六歲以上、女子十五歲以上で結婚する者多く、媒酌人が婚約を取結び、結納として家畜を贈り、吉日を選んで式を擧げるのであるが、擧式の方法は所により中々奇拔なのがある。

出產する時は姙婦を家人と別の包を作つて入れ、佛前に燈明を捧げて、姙婦は包內の砂上に蹲踞して佛を念じつゝ助產婦に腹を抱かせて分娩する。產兒は布に包んで舟のやうな形をした籠又は箱に入れて砂を溫めて袋に入れたものを胸腹部に置いてやるが、虛弱な嬰兒はこの時に死亡し、强健な者のみが生存するといふのである。

葬儀は一口に云へば死體遺棄で、原野に遺棄された死體は鳥獸の餌食となるが、もし數日後になほ死體が殘つてをればその人は善根足らぬ者として、再び喇嘛に讀經せしめて棄てる。こんな工合であるから蒙古では王公のほかには墓を設けない。

【蒙古人の年中行事】・舊曆・

▲布和樂と供佛　(十二月三十日)

支那で云ふ除夕である、曆が輸入されて始めて正月と云ふものが出來たのであるから正月としては比較的新しい歷史しか持たない蒙古人は餘り獨特の儀式を持つてゐない。然し大體に於て支那の風習を學んだとしても內容にいたつてはやはり面白いものがある。

此日早朝豚や羊を殺して熱湯につけ、毛を去つたものを佛前へ供へる。菓物や饅頭も盛られる、そして一家擧つて朝飯に「布和樂（スボロ）」といふ食事（牛、羊、豚などの肉を大きな塊に切つてそのまゝ出す）をする。

夜には一層佛壇が綺麗に飾られ、喇嘛が來て讀經をする。そして爆竹が三發放たれると越年の儀式と佛に對する御禮が濟むわけである。又支那人の風習を眞似た壓歳錢を一同に與れる。この夜最も大切なことは火を絶てば衣食に窮すると云はれてゐる。

▲交　拜　（一月一日）

元日の風習は最も漢人のものを眞似て居る形があつて格別蒙古人としての正月に特色がないやうである。起きて四方の諸神を拜し家の佛を拜すると一家のものは皆家長の前に集まり跪いて敬意を表し家長からめでたい言葉をかけられる。

▲廻　禮　（一月五日）

四日までは大概家に居て樂しみ、五日からそろ／＼親類などを廻る、新婚夫婦の如きは是非共岳家舅家には何を措いても行かねばならない。この場合先方では烏叉（ウーチャ）（羊や豚の後脚の股の肉）を御馳走する。

▲祭　星　（一月八日）

一部落の共同祭例である。星が滿天に輝く頃を見計つて喇嘛の讀經が始まる。參集した老弱男女は自分の歳に相當した數の歳錢を獻じ會費を分擔する。そして線香を焚き喇嘛にきかされてゐる自分に屬する星の前に行つて拜み且つ四方の神を拜して儀式は終るのである。

▲打花　と撒供　（一月十六日）

嫂と弟、弟の嫁と兄といつた間にお互に墨と油とを交ぜた眞黑いもので塗り合ふ習慣がある。うまく塗りつけるとその年の穀物に烏朱（ウシユ）が出來ないと云はれてゐる。夜星の出揃つた頃家々では正月以來佛前に供へたものを撒するのである。

▲出　行

正月がすぎて十五日頃までの間の吉日を選んで男子は騎馬で出行と云つて二、三支里位のところへ出かける。出發に當つて「ヒイメル」と稱する咒符を四方に散布する。

これは何の方角にも自分の運氣が散つて居るから安心してゆけると云ふ意味ださうである。

▲鄂博祭

これは蒙古語であり「堆」と云ふ意味であり石を堆んだものと土を堆んだものとの二種ある。形狀は一般に尖頂の圓形である。

蒙古人は由來天地山川谿谷原野あらゆる物を神と視て居る。何をみても有難いところから遂に鄂博なる標識が出來て仕舞つたやうである。つまり天然崇拜の對象であり急ぎの旅の外は途中わざ／＼馬を下りて拜する位である。

▲旗鄂博の祭　（五月十三日）

主祭者はその旗の王爺が自ら之に當り、旗内の住民は殆ど數を盡くして參集する。やはり喇嘛の讀經あり終つて肉粥の寄進にあづかる。尙主祭はこの時競馬のことを宜して餘興に移る。

▲村落鄂博の祭　（五月十五日）

祭神は村長が當り祭禮用の品物も祭例の模樣も旗鄂祭と大差ないが只餘興として競馬の代りに角力が多く行はれる。

▲太平經

六、七月頃各部落は喇嘛を請して太平經を讀む。この喇嘛を招いた家には親類朋友が畜類までつれて皆集まり家族と家畜の太平を願ふのであるがその時懷胎して居ると喇嘛は紅い布をその尾や角に結びつけ一切殺すことを許さない。これを太平紅と云ふ。

▲祭　火（カルテイエン）　（十二月二十三日）

火神を祭り福祿を願ふのである。喇嘛は「福祿は來たか」と三度問ふ。主人は三度來たと答へ一切の祭品を火鉢の烈火に投じて神に酬ゆる。

▲掃塵　十二月二十三日を過ぎると諸神が上天するのでその留守中年末の大掃除をして正月を迎へる。

▲打鬼　惡鬼を殺して太平を祈る儀式であり觀音の化身に扮するもの四、その守護神に扮するもの八、併せて十二の神が跳舞して出で又別に十地菩薩に扮せる喇嘛十人出て之に多數の喇嘛鼓と鈸とを擊ちその調子の緩急につれて跳舞する。この時牛と鹿の面を被つた僧が刀を持つて出で地を砍つて鬼を殺す風をする。

正　月　一日から三日までは讀經しない、十四、十五の兩日供養、二十四日より向ふ八日間供養し、その終りの日打鬼の儀式がある。
二　月　二十二日釋尊涅槃會
四　月　八日　灌佛會
六　月　十日、十五日供養
七　月　十五日　盂蘭盆供養
十　月　二十五日　敎祖宗喀巴供養
十二月　八日　臘八、二十四日打鬼

漢人雜居地方では餘程漢人の風俗が入つて來て正月の拜賀、端午節、仲秋節、重陽節の行事をして業を休むものも多くなつて來た。

ロシア人の年中行事

▲クリスマス　一月七日のクリスマスイ・ヴから一月十九日の洗禮祭までの二週間が所謂「ヨルカ祭」とでも云ふべきもので、露人の家庭ではクリスマスを控えて、飾り物、食い物、贈り物の準備で忙しい。外國のそれと一般で特別變つた事もないが「キヤピヤ」や「イクラ」を鱈腹食つて「ウオッカ」の醉にまかせ怪氣焔をあげ唄や踊は必ず何處にも附きものである。復活祭と共に「二大祝日」の一つであるだけに巷にさへ露人の醉つぱらひを多く見受ける。

▲氷上祭　露暦の一月六日、陽暦一月二十日前後に行はれる。キリストがヨハネに洗禮を受けた日所謂洗禮祭である。ハルピンでは早朝市內各寺院へ押し掛け打ち鳴す祈りの鐘と暗い蠟燭の光で心からなる敬虔な祈を捧げて後、金襴の大幟や聖像を押し立てながら松花江上へ長蛇の列を作る。酷寒零下三十度の氷上に氷の大十字架が立てられ氷の切目から水の淀むのが見える。氷製の祭壇の前で儀式が行はれて後嚴かな讚美歌の齊唱裡にスンガリーの水で洗禮を受ける。

▲猫柳祭　四月の初猫柳を持つた善男善女が寺院に參詣する。イエスがエルサレムに入つた日を祝ふもので、墓地には猫柳が供へられる。永い冬籠りから漸く解放された喜びを感ずるのである。

▲復活祭　猫柳祭の約一週間後に行はれる。希臘カトリックの復活祭は毎年一定しない。普通露暦三月二十一日以後の滿月に次ぐ第一日曜となつてゐる。この日各寺院から「主は甦り給へ」の聖鐘響くと共に老いも若きも誰彼の差別なしに接吻勝手次第の習慣が存してゐる。最もこれは最近祝ひ廻りの客との間に限られ傍若無人な光景は餘り見受けられなくなつた。「復活祭」には日本の「お盆」「正月」のそれにも增して一年中の稼ぎや精魂を盡して御馳走をして悔いない。

▲青草の祭（トロイツア）　復活祭の第一日目から數へて五十日目に行はれ、本當は「三位一體祭」と稱すべきものでこの日は何處の家でも家の床に青草を撒く。

この外種々な祭りが澤山あるが豐富な御馳走と「ウオッカ」と土の香豐かな民謠がいつも重大な役割を演ずるのであつて、僅かな收入と切りつめた日常の生活にありながら其生活を存分樂しむ樣に見うけられる。

彼等の「酒宴」は慶びを頌つ氣持より自分等が苛酷な自然や人生の中に太ましく生きて行ける喜びを遠慮なく發散させる氣持の方がずつと多く大晦日元旦その他は單なる名目に過ぎないと思はれる程放恣である。

滿洲大觀

略史

【滿蒙民族】 滿洲は已に三千年の昔から原住民に依つて肇國され、爾來幾度か原住民族間に興亡隆替が繰り返へされた。卽ち(清)に依つて代表された滿洲族と(元)に依つて代表された蒙古族とがその二大民族である。之等滿蒙民族は滿洲の大自然に育まれて、何れも傳統的に精悍勇猛なる民族性を持ち、有史以來常に支那本部と對立せる獨立の一特殊地帶をなしてゐた。古來滿洲を占據し建國した各民族を表示すれば

滿洲族(通古斯族)
- 肅愼—挹婁—勿吉—靺鞨—女眞—清朝の系統
- 濊貊—扶餘—高勾麗—室韋の系統

蒙古族
- 東胡—鮮卑—契丹—蒙古の系統

で、此蒙古系統はブリヤート種及び其の他の混血種に屬するが、滿洲族は日本民族と均しく通古斯種に屬し、漢人種とは全然相異れる民族である。從つて滿洲の地たるや遠く肅愼の時代より滿洲の土着民族によつて高勾麗、渤海、遼、金等の獨立國が建設され、元、明二代の雌伏時代を經て清朝の勃興に至るまで支那本部との關係は終始對等であつて、未だ嘗て一度と雖も漢民族に占據され、或は統治された事實はない。況や契丹、女眞の如きは遼、金の國號を稱して支那本部の北半を占有し、滿洲、蒙古に亙る大國家を建設した。更に清朝に至つては支那本部全土を征服して古今未曾有の大帝國を形成し、中國の俗を易へて胡服辮髮せしめた。かく滿蒙民族は征服者として漢民族を慴伏せしめ、支配し來つて居り、この滿洲の地に滿洲帝國が建國せられ、三千餘萬民衆の總意により溥儀氏の出山を見たることは、歴史的及び實際的に觀て其の妥當且つ公正なることが闡明されるのである。

【肅愼】 今より三千年前、宛も支那本土の周秦時代に肇國した。肅愼と呼び濊貊と稱するは地名と云はんより寧ろ民族の名と云ふ可きで、現在の吉林、濱江、龍江諸地方の廣大な地域を占め、東に肅愼、西に濊貊が割據し約十世紀間君臨してゐた。卽ちこの二者は滿洲の先祖で、其後裔民族たる挹婁は北滿洲の東北に據り、扶餘は今日の滿洲に於ける大部分を占有し、其文化は見る可きものがあつた。

【高勾麗】 今を昔に遡る約二千年前滿洲に建設された強大な獨立國で、最盛時には其版圖朝鮮の北半と滿洲の大部分に及び、二十八主、七百五年の久しきに亙り覇を唱へた。

【渤海國】 西紀七一三年より九二六年まで二百五十年間、現在の奉天、吉林、濱江、間島、三江、東安、牡丹江、通化等の諸省に亙る地域を中心として沿海州及朝鮮北部に亙つた大王國で、唐の文化を吸收し隆盛を極めた。日本と修交を重ね使節を派遣する等最初の日滿國交を開いたものである。

【遼】(契丹) 渤海に代りやはり東北に國を建てた。遼は唐代の契丹で東胡の後裔、卽ち通古斯族である。唐末に當り軍を起し、北は室韋を降して黑龍江流域を併呑し、西は天山の東より西海地方まで征服し、南は支那本部に侵入し、契丹國と稱した後渤海

を滅した。太宗に至り支那東部深く侵入し、其領域は東は日本海から西は天山附近に及び、南は河北、山西、北は蒙古の中部に達し、朝貢するもの六十餘國に及び、九帝、二百九年に亙り全國を壓伏し聲威を振つたが一一一三年北滿に勃興した金のために滅ぼされた。

【金】 遼に次で滿洲に覇を稱へたのは女眞民族で黒龍江附近に興り、遼に叛いて兵を擧げ、僅か十年餘にして遼の天下を覆して金國を建てたが、其後益々振ひ、宋を江南に壓迫して其領土は黄河南北に亙り、滿洲蒙古を併せて空前の大版圖を形成した。元の太宗六年蒙古のために滅さるゝまで十主、百二十年の社稷を維持するに過ぎなかつたが、滿洲民族として中原占據の先驅者であつた。

【元】 朔北に崛起し歐亞兩大陸に跨る大帝國を建設した蒙古民族は漢人の所謂東胡鮮卑、契丹と稱した異民族である。成吉思汗を盟主となす鐵騎十萬は金を滅し南宋を征服し、中央亞細亞を經略し、又波斯を破つて露西亞地方に侵入し、歐洲諸國をも震駭せしめ滅國四十に及んだが、この大帝國も十一代百八年にして明に亡ぼされた。

【明】 明は一三六七年約百年間歐亞を威伏した元朝を覆滅して支那本土を支配したが、支那本部より蒙古に退いた元の遺臣は滿蒙に據り、依然獨立狀態を續け、明の威令は僅かに遼河下流の小部分に限定されてゐたに過ぎず、却つて其邊境は蒙古民族のために屢々脅かされ、滿洲は事實上支那本土より獨立の形態をとつてゐた。

【清】 金の滅亡後中心人物を缺いたゝめ久しく滿蒙各地に分立割據した女眞民族は清の太祖努兒哈赤の出現により勃然として興隆した。卽ち興京附近より起り、次第に舊勢力を併せ、一六一六年遂に滿蒙の地を統一し、新國家を建設し、金國汗と稱した。

後都を奉天に遷し、國號を大清と改め舊稱金國の代りに滿洲なる名稱を用ゐた。これ我が國土を滿洲と稱した嚆矢である。而して滿洲の語は佛敎の曼殊師利より出たものであると謂はれてゐる。

後清の第三代世祖北京に遷都し中國に君臨するに及んで滿洲を封禁の地として永く漢人の移住を禁じてゐた。蓋し清朝は滿洲を以て祖宗發祥の故地として尊崇し、且中原の統治に失敗した場合の根據地として保存するため、漢人種の滿洲移住を嚴禁し、柳條邊牆を作つた。然し滿洲人は八旗兵として支那各地に駐屯し、北京遷都と共に旗人は多く漢土に移住し、而も邊牆を築いて漢蒙人の移住を禁じたゝめ、滿洲は漸く荒廢を示すに至つたので順治年間には開拓令を出し、漢人の移住を奬勵し、山東、河北の移民を初め山西の商賈等移住者日を逐ふて激增し、數年にして十數倍するに至つた。露西亞は當時その傳統政策たる南下により海洋を得んとする野望を逞ふし、瑷琿條約、北京條約等により滿洲に特殊の權益を把握したが、その帝國主義は東洋の平和を攪し、日本の存立を危くする事が明白となつたので、日本は敢然露西亞に對して宣戰を布告し多大の犧牲を拂つて滿洲をその毒手から救ひ、爾後滿洲の開發に努力した。

【民國時代】 清朝は治世三百年にして一九一二年中華民國と代つた。滿洲に於ては一九一六年綠林出身の張作霖が奉天督軍に任ぜられ同時に奉天省長となり、更に東三省宣撫使に任ぜられ、爾來張軍閥は滿洲の事實上の主權者として勢威を振ふに至つたのである。

張作霖は一九二二年及一九二四年の二次に亙る奉直戰爭を敢行し、一度は關內に進入し、直隸軍を大破して中央政府を覆したが、二次奉直戰には郭松齡の叛亂に遇ひ爲めに一時危機に瀕した。然し新民屯附近の戰に於て辛うじて叛軍を擊破し再び東北に威を振ひ、後三度兵を關內に進め、北京に入つて大元帥と稱したが國民軍の北伐に敗

れ、一九二八年六月北京を棄てゝ、奉天に歸還の途次爆死した。

作霖の死後學良は父の遺業を繼いで滿洲の支配者となつたが、傳統的保境安民の政策を棄てゝ、國民黨及南京政權と結んで易幟を斷行し、自ら大兵を率ゐて北京に進出し、陸海空軍副司令となつた。作霖以來數回の關內進出は滿洲の政治經濟を破壞して軍費の濫出は國民に過重な負擔となり、軍費捻出のために行はれた苛斂誅求により張政權は人民の怨府となつた。加之、極端な排外運動を激成尖銳化せしめた爲、遂に九、一八事件を惹起し一朝にして土崩瓦解するに至つたものである。

【滿洲國】一九三一年九月十八日滿洲事變の勃發によつて張軍閥と是を繞る民衆搾取の政商は滿洲から掃蕩された。多年張父子軍閥の壓制下に呻吟してゐた東北省民はこの機會に舊政權と絕緣して民衆を基礎とする新政府を組織し、王道政治を行ひ滿洲をして理想的樂土たらしめんとする希望が勃然として起つたのである。

卽ち事變勃發の翌年早くも大同元年三月一日建國宣言を公布し、茲に王道國家滿洲國は民族協和共存共榮を理想として東亞の一角に成立したのである。

同年三月九日溥儀氏(宣統廢帝)を執政に推戴し國務總理鄭孝胥初め七總長二院長三省長其他政府首腦部を任命し、天の加護と人民の精進と日本の肉親的協力により建國後二箇年にして早くも國礎は益々强固に、國運愈々伸張し、治安の維持は遠きに及び、治政各般に揚り、民生安息して各々その業を樂しむに至つた。これ偏へに執政の乾德によるものであるとして、三千萬民衆は天意により執政の帝位に卽かれんことを請願するもの續出するに至り、英明文武の執政は天命と人民の至情により康德元年三月一日國都新京に於て滿洲帝國第一代皇帝として卽位の式を擧げさせられた。

爾來國威益々揚り、諸外國の之を承認するもの相繼ぎ、世界防共軸の樞要國として道義國家完成に向つて邁進しつゝある。

國土

【位置】滿洲國の位置を緯度に沿つて東に平行移動すれば、樺太の北方から山形、岩手の間に位し、西は南歐イタリーの南からフランス、ドイツ、ハンガリー、オランダの方面に及び、周圍實に八、四三八粁に及んでゐる。

東界　三江省撫遠縣對蘇聯シベリヤ　東經　一三五・二〇

西界　興安北省新巴爾虎左翼旗對外蒙　東經　一一五・二〇

南界　關東州旅順管內方家屯會　北緯　三八・四〇

北界　黑河省漠河縣對蘇聯シベリヤ　北緯　五三・五〇

◇各地の經緯度

地名	東經 度分	北緯 度分	標高 米
新京	一二五・二一	四三・五三	二一四
奉天	一二三・二七	四一・四八	五八
哈爾濱	一二六・三六	四五・四六	一三六
大連	一二一・三六	三八・五六	一三〇
海拉爾	一一九・四四	四九・一三	六二〇
黑河	一二七・二九	五〇・一五	三〇〇
富錦	一三一・五九	四七・一四	七五

【地勢】形狀略ぼ東西南北を四つの頂點とする四邊形をなし、その四邊は夫々山脈又は海灣、河を以て圍まれ、內部に廣大無限の大平原が展けてゐる。

山脈は東北より西南部に走るものが主となり、北西から南東に橫はるものが副となつてゐる。前者に大興安嶺山脈と長白山脈があり、後者には小興安嶺山脈と松嶺、燕山の山脈がある。山は西部國境に於てなだらかであり東部國境に於て急峻である。川は略ぼ新京東西の線を以つて分水嶺とし北行する大河に松花江、南行する大河に遼河

あり、流域は舟便と併せて一大豐沃の大平野である。

【地　質】（一）海成層の最も新しいものは上部が石炭紀時代のもの（二）それ以後のものは海成層を缺きこれに代る可きものに石灰及植物化石等を出す陸成層（主として湖その他淡水の沈積層からなつてゐる）

【山脈、山岳】

◇長白山系　▽長白山脈—白頭山（二千七百四十四米）、費德里山、伊爾哈雅範山脈、黒山、英額嶺　▽小長白山脈—牡丹嶺、張廣方嶺、老嶺　▽安達山脈—猴兒、石山、背臺上、龍爪溝嶺、完達山、雙牙山、佛力山　▽老松嶺山脈—哈爾巴嶺、長嶺子山、老爺嶺、黒嶺、大高麗嶺　▽長白山西支脈（吉林哈達連山）—薩哈亮山脈—庫勒嶺、馬烟河嶺　▽南部分水嶺山脈—門山嶺、大嶺山脈—靉河西部嶺、摩天嶺、千山山脈

◇興安嶺山系　▽大興安嶺山脈—西支脈—英吉里山、室常山、鴆鷄場山、托羅山、們都黒山　▽伊勒呼里山脈—呼瑪爾高集額爾古勒山、烏雲和爾吉山、嘴珊山、霜愼山脈　▽小興安嶺山脈—瑪哈拉山、佛思寛山脈、珠山山脈、瑪拉山、布倫山脈、薩哈連山、白關山、縷茲山、老龍山脈、爾克克爾圖山、黒山山脈、達里帶山脈

◇陰山山系　▽喀喇—明安山

【河　川】

◇黒龍江　全長千百餘邦里　▽源流—敖嫩河、因方達河、什爾喀河及克魯連河、額爾古訥河　▽支流—ゼヤ河、ブレヤ河、松花江、ウスリー江、アルグン河

◇松花江　▽源流—伊勒呼里山嫩江、長白山脈松花江本流　▽支流—拉發河、賜延河、輝發河、伊通河、拉林河、呼蘭河、阿什河、匪克圖河、螞蜒河、牡丹江、窩肯河

◇嫩　江　▽水源—興安嶺伊勒呼里—阿林支流—雅爾河、綽爾河

◇洮兒河　▽水源—興安嶺東麓　▽支流—歸流河、交流河

◇烏蘇里江　▽全長—三百二十八餘邦里　▽水源—露領沿海州錫霖山脈、勺畢河、サンダクーウラヘ河　▽支流—松阿察河、穆稜河、撓力河

◇大芬河　▽水源—穆克特亭山地麓圖們山　▽支流—湖佈圖河、佛爺溝河

◇圖們江　全長—五十邦里　▽水源—長白山南麓　▽支流—嘎呀河、琿春河、密占河

◇鴨綠江　全長　百四十邦里　▽水源—白頭山西麓、虛川江、長津江、渾河、靉河、▽支流—渾江、大蒲江

◇遼　河　全長—三千八百支里　▽灌流地域—三十五萬支里　▽水源—西喇木倫河、老哈河、東遼河　▽支流—西喇木倫河、老哈河、東遼河、范河、招蘇黃河、涼子河、淸河、柴河、渾河、蘇子河、太子河

◇灤　河　▽水源—巴額屯圖古爾山　▽支流—伊遜河、熱河、豹河

◇大凌河　▽水源—建平縣

◇小凌河　▽水源—朝鎭明安山—女兒河、哈柳圖河

◇滿洲國主要水系流域表

水系	流域面積（平方粁）	全版圖に對する割合（%）
黒龍江	三三三、七〇〇・〇	二五・五　ウスリー江四五、四〇〇を含む
松花江	五二三、一〇〇・〇	四〇・一
遼河	二二四、七〇〇・〇	一七・二
鴨綠江	三〇、八〇〇・〇	二・四
豆滿江	二二、二五〇・〇	一・七
大小遼河	二八、二〇〇・〇	二・二
灤河	三四、九〇〇・〇	二・七
その他	一〇六、二九〇・〇	八・二
全版圖	一、三〇三、一四〇・〇	

【湖　沼】

▽興凱湖(新開湖) 東安省沿海州境界地・周圍 〇〇邦里十三町弱

▽達巴庫湖(小興凱湖) 興凱湖北部・周圍〇〇邦里

▽必爾騰湖(鏡泊湖) 牡丹江省寧安縣城西南〇〇邦里・周圍 〇邦里餘

▽呼倫池 海拉爾西方〇〇邦里餘

▽貝爾湖 呼倫池南方・南北〇〇支里、東西〇〇支里

▽月亮泡 扎賚特旗・周圍 〇邦里半

▽大布蘇諾爾 チョンホルノール・エーノジール西烏珠穆沁旗・東西〇〇支里餘、南北〇支里

▽察漠湖 チチハル東南〇〇里・南北十町餘、東西七、八町

【湖沼の特徴】 滿洲の湖沼は比較的少い。これは地盤構成の岩石が古く、從つて地質構造の變動を經ること多かつたため、長く湖沼の形を保ち難かつたものと思はる。そして現存湖沼は自ら特殊性を持ち、例へば平原地方、殊に東部内蒙古では雨季のみに現出する形狀不定の淺い一時的湖が少くない。かゝる湖沼はやがて乾季に至れば、その水蒸發してあとは時ならぬ白雪で覆はれる。これ一特産たる天然ソーダである。また永久性湖として知られるものにウラジオストツク地方の興凱湖、吉林東方の鏡泊湖あり、共に低地にあつて水は黃褐色を呈し極めて淺い湖である。西部地方の湖沼は乾涸すれば湖底にソーダ或は岩鹽を産する。

氣　象

【概　要】 滿洲の氣候は一言に表せば所謂大陸的である。然し其の面積並に地域的に見れば日本の約二倍に達し、南方遼東半島及渤海沿岸地方より中部大平原、興安嶺、熱河の山岳地帶、又呼倫貝爾の沙漠地方に及ぶ實に曠大たるものがあつて、沿海地方の如きはむしろ海洋性氣候であるし又間島省、牡丹江省の一部東部國境の地域も可成の程度に日本海の影響を受けるであらうから、これらの地方は純粹な大陸的氣候とは云ひ難い。

之に反し滿洲西部の呼倫貝爾の如きは極めて大陸性でありしかも内陸的氣候を示し夏冬晝夜氣溫の差が甚しい。日本本土の如き所謂四季の區別は當嵌らなく、卽ち冬期間は一年の半に達し冬期から夏期への推移は極めて急速である。

然しながら夏季日中は相當の高溫に昇り而かも身體に感ずる度合は濕度の關係上むしろ爽快で殊に夜間は冷涼を覺え又冬期嚴寒の候と雖も常に低溫を持續する譯でなく所謂三寒四溫の現象を呈し北海道、樺太沿岸の如く連日暴風雪の襲來するが如きことなく夏冬共むしろ北海道、樺太より數等惠まれた氣候を呈してゐる。

滿洲に於ける六、七、八の三箇月間は多雨濕潤の天氣が續發し勝ちであるが殘餘の月は降水寡く殊に酷寒期には晴燥の天氣が持續する。四、五月の大陸高低氣壓の交替期に入ると風速が増大し此の頃黃沙風塵の現象が著しく發生する。沙塵は風に乘つて空中に捲き上げられ或は遠隔の地に運ばれ全國到る處所謂黃塵萬丈ために天日も暗き狀態を呈する。而してこれらの沙塵が遠く日本全土に及ぶことも珍しくない。

【氣　溫】 氣候が大陸的であることは氣溫に於て最も顯著に認められる。南部遼東半島を除く外は年變化に於て冬夏寒暖の差極めて甚しく日變化に於ても亦晝夜の差が大きい。この狀況は次表の通り日本各地との比較によつて明かである。

◇最低最高氣溫 (攝氏)

	年平均氣溫	一月平均最低	低極	七—八月平均最高	高極
海拉爾	(一)二・五	(一)三四・二	(一)四九・三	二七・二	四〇・一
哈爾濱	三・一	(一)二五・九	(一)四一・四	二八・六	三九・一
新京	四・七	(一)二三・八	(一)三六・〇	二八・九	三九・五

奉天	七・二	(一)一八・八	(一)三二・九	三〇・三	三九・三
大泊	二・九	(一)一五・六	(一)三三・七	(二〇・九)	三〇・四
札幌	七・〇	(一)一一・六	(一)二八・五	(二六・一)	三五・五
東京	一三・九	(一)一・四	(一)八・六	(二九・九)	三六・六
沼津	一五・三	〇・四	(一)八・一	(三〇・五)	三六・六
福岡	一四・九	〇・九	(一)八・二	(三一・二)	三七・四
臺北	二一・七	一三・三	(一)〇・二	三三・二	三八・六

右の表で解るやうに冬期は樺太に比し寒氣嚴しく、夏期は臺灣よりも實に高溫となる。然し夏期の高溫は晝間に限られて居り是は七月の平均最低氣溫が臺北の二四・三度に對し、新京では一八・六度であることによつても明瞭である。

【降水量】 滿洲の降水量は一年を通じ極めて僅少で三百粍乃至七百粍程度に止まり日本本土に於ける千五百粍乃至二千粍に比較すればその二割乃至三割餘に過ぎない。

而してその大半は滿洲の雨期と稱する六、七、八月の三箇月に降下するのに反し冬期に於ては極めて寡く特に熱河省方面の如き五粍に充たない。從つて冬期に於ける降雪の深度は略々數糎乃至最深三十糎程度で五十糎に達することは極く稀なことである。

【霜雪の季節】 次に滿洲に於ける初終霜期竝に初終雪期を見ると初霜は遼東半島では十月の末で略々奧羽地方に相當するが內陸に入るに從つて早くなり興安嶺の北部地帶では九月の初旬既に初霜を見る。而して九月下旬には北滿一帶結霜期に入り樺太と略々同じである。終霜は遼東半島では比較的早く三月より四月初旬に終る又中部平原地帶では四月から五月初旬に終り奧羽地方と大差ない。呼倫貝爾地方では南部より一箇月以上遲れる。

次に初雪は北滿の山岳地帶では十月上旬に降り樺太より半月以上早い。又南滿の沿海地方では十一月に入つてから漸く初雪を見、北海道の太平洋沿岸地方に相當してゐる。終雪は南滿では早く三月末に終るが北部では五月の下旬にも猶雪を見る所がある

◇平均氣溫（平年）—（攝氏） （一）は零度以下を示す

月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	全年
新京	(一)一六・九	(一)一三・六	(一)四・二	六・五	一四・五	二〇・一	二三・五	二一・九	一五・〇	六・七	(一)四・二	(一)一三・七	四・七
哈爾濱	(一)二〇・二	(一)一六・〇	(一)六・二	五・六	一三・八	一九・七	二三・二	二一・五	一四・三	五・五	(一)六・九	(一)一七・一	三・一
洮南	(一)一七・〇	(一)一三・八	(一)四・五	五・四	一三・八	一九・八	二三・七	二一・三	一四・六	六・四	(一)五・五	(一)一三・八	四・三
齊齊哈爾	(一)二〇・二	(一)一五・九	(一)七・一	三・七	一二・三	一八・九	二二・五	二〇・三	一三・八	五・一	(一)八・四	(一)一六・四	二・四
克山	(一)二五・三	(一)一九・五	(一)一一・六	三・〇	一〇・七	一八・四	二〇・七	一九・五	一二・七	三・〇	(一)九・八	(一)二一・一	〇・〇
黒河	(一)二三・五	(一)一六・五	(一)一〇・八	二・一	一〇・四	一八・六	二一・六	一九・四	一一・六	二・九	(一)一三・七	(一)二三・八	〇・一
富錦	(一)二一・八	(一)一六・三	(一)九・五	三・六	一一・一	一八・七	二一・四	二〇・六	一四・五	四・六	(一)七・二	(一)一九・二	一・七
密山	(一)一九・九	(一)一五・八	(一)一〇・一	三・八	一〇・六	一七・五	二一・五	二〇・六	一三・八	五・二	(一)五・五	(一)一八・二	二・〇
綏芬河	(一)一八・四	(一)一四・六	(一)八・一	三・〇	一〇・一	一五・九	二〇・一	一九・二	一三・五	五・三	(一)五・一	(一)一五・二	二・一
牡丹江	(一)二〇・四	(一)一六・二	(一)六・四	五・一	一二・五	一八・一	二一・九	二〇・七	一三・二	四・八	(一)六・八	(一)一七・二	二・四
延吉	(一)一五・九	(一)一三・〇	(一)四・一	五・七	一三・六	一八・一	二二・二	二二・二	一六・三	七・六	(一)二・七	(一)一四・一	五・〇
營口	(一)九・八	(一)六・二	〇・〇	八・五	一六・〇	二一・三	二四・九	二四・三	一八・四	一〇・九	(一)一・一	(一)七・〇	八・五
奉天	(一)一三・〇	(一)九・三	(一)一・〇	八・六	一六・〇	二一・六	二四・八	二三・六	一七・〇	九・二	(一)一・〇	(一)九・九	七・二
開原	(一)一四・九	(一)一一・六	(一)二・二	八・〇	一五・八	二一・二	二四・一	二三・五	一七・〇	八・七	(一)一・〇	(一)一一・二	六・四
遼源	(一)一五・三	(一)一一・六	(一)三・五	六・六	一四・五	二〇・二	二三・六	二一・九	一五・八	七・三	(一)三・〇	(一)一二・四	五・四
錦州	(一)九・六	(一)四・六	(一)一・四	一一・六	一九・八	二三・九	二六・二	二五・三	二一・二	一三・九	(一)二・四	(一)六・九	一〇・三
承德	(一)九・六	(一)三・九	(一)〇・五	一〇・四	一八・九	二二・六	二五・五	二四・三	一七・八	一一・四	一・〇	(一)八・五	九・二
赤峰	(一)一四・四	(一)一一・〇	(一)四・七	六・八	一五・三	二一・三	二四・二	二三・五	一五・七	九・〇	(一)二・二	(一)一〇・九	六・〇
索倫	(一)一七・六	(一)一三・一	(一)一〇・五	三・四	一三・〇	一九・〇	二二・四	二〇・五	一三・一	四・四	(一)七・八	(一)一九・六	二・〇
扎蘭屯	(一)一八・九	(一)一四・六	(一)六・七	四・二	一二・六	一九・二	二二・七	一九・四	一三・一	三・七	(一)八・五	(一)一六・八	二・二
興安	(一)二六・〇	(一)一三・八	(一)一七・三	(一)二・四	六・五	一四・三	一六・四	一四・八	八・〇	(一)〇・八	(一)一三・八	(一)二三・三	(一)四・〇
海拉爾	(一)二六・三	(一)二四・八	(一)一四・九	〇・七	一〇・三	一七・〇	二一・〇	一七・九	一〇・〇	〇・二	(一)一四・〇	(一)二五・二	(一)二・五
滿洲里	(一)二五・七	(一)二三・六	(一)一三・三	〇・七	一〇・四	一七・三	二〇・九	一七・八	九・九	〇・一	(一)一三・七	(一)二三・三	(一)一・八
大連	(一)五・一	(一)三・六	一・八	九・二	一五・四	二〇・二	二三・六	二四・五	一九・九	一三・七	五・二	(一)二・〇	一〇・二

◇降水量（平年）—（粍）

月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	全年
新京	六・二	六・〇	一五・六	二一・九	五四・六	一三一・五	一七七・七	一三七・七	五七・三	二六・七	一七・三	六・七	六六〇・九
哈爾濱	四・五	六・三	一一・七	一九・三	四六・三	九七・三	一六五・六	一三一・七	五七・一	二九・二	一三・〇	五・二	五八七・三
齊齊哈爾	一・二	一・八	四・九	一六・一	三五・四	八七・二	一三七・二	九〇・二	三九・一	二三・五	六・八	一・六	四四五・〇
黒河	二・五	六・一	四・九	一〇・七	四九・七	六八・五	一五〇・二	一三三・六	五五・〇	二四・五	一四・三	六・一	五二五・一
密山	〇・四	二・三	一五・六	四一・〇	五七・三	六一・三	一二七・七	一五二・二	六七・〇	四四・〇	二・八	四・三	六四五・九
綏芬河	〇・八	四・七	一六・〇	二三・八	八二・五	一二九・八	一二六・九	八六・八	九九・九	四一・一	一七・四	七・三	六二七・六
牡丹江	三・三	四・五	九・二	二三・六	五六・五	八八・四	一三三・九	一〇八・二	六六・六	三五・五	一九・六	五・二	五三三・二
奉天	四・八	六・一	一八・一	二九・一	六〇・二	九五・五	一七八・二	一五四・六	七八・八	四一・九	二三・六	八・六	六七八・四
承德	〇・三	一・五	一三・三	二二・四	二四・七	八六・〇	一〇一・七	一三二・五	一二五・八	一三・八	二・九	〇・二	五〇六・一
赤峰	〇・七	二・七	八・五	一五・八	二四・五	四七・三	五四・八	七〇・二	五三・一	一一・二	三・五	一・〇	二六四・〇
索倫	二・六	二・七	四・六	二七・五	二七・三	六五・四	七三・六	四五・五	二四・〇	〇・五	二・二	七・四	二九三・三
滿洲里	二・六	一・九	二・八	五・〇	一六・六	四五・〇	八三・〇	六五・八	三七・八	七・二	五・四	二・九	二七三・二
大連	一〇・五	七・八	一六・四	二四・三	四三・九	四九・二	一六八・〇	一三四・〇	九三・〇	二六・〇	一四・〇	一三・六	六〇一・七

◇霜雪期節（平年）

地名	雪（初日）月	日	雪（終日）月	日	霜（初日）月	日	霜（終日）月	日
新京	一〇	一八	四	二一	九	二六	五	三
哈爾濱	一〇	一八	四	一八	一〇	四	五	四
洮南	一〇	一三	四	一三	一〇	二	四	一四
齊齊哈爾	一〇	一八	四	二三	一〇	一	五	四
克山	一〇	九	四	一六	九	二九	五	二
黑山	一〇	五	五	五	九	一三	五	一七
富錦	一〇	一〇	四	二七	一〇	七	五	一
密山	一〇	九	四	二一	一〇	二九	五	四
綏芬河	一〇	九	五	二三	一〇	三	五	二〇
牡丹江	一〇	二〇	四	二一	九	二四	五	一三
延吉	一〇	一六	四	七	九	一八	五	八
營口	一一	二	三	一三	一〇	一三	四	一三
奉天	一〇	一七	四	一〇	一〇	三	五	三
開原	一〇	二四	五	一	九	二九	四	一七
遼源	一〇	二一	四	八	一〇	五	四	一〇
錦州	一〇	一三	三	六	一〇	四	四	八
承德	一一	一七	三	二四	九	一七	四	一七
赤峰	一一	一	四	五	九	二六	四	二五
索倫	九	二一	五	六	九	一六	五	五
扎蘭屯	一〇	一六	四	一三	九	二六	五	一三
興安	九	二四	五	二六	八	二四	六	二
海拉爾	一〇	五	五	六	九	一六	五	二四
滿洲里	一〇	五	四	二三	九	一四	五	二一
大連	一一	七	三	二七	一一	四	三	二〇

生物

【動物】滿洲に棲息する動物は日本、支那、朝鮮等と同一圈內種類に屬し、殆ど各種分科に亙つて居るものと見られてゐるが、まだ完全な分類は成就されて居ない。現在發見されて居る主要なものを脊椎動物に就て文獻中から抄錄すれば、

○食肉獸―熊、豹、貂、鼬、膃肭臍、海豹、川獺、狼、狐、狸、山猫、虎等、嚙齒類―羊鼴鼠、栗鼠、タラバカン、鼠、兎等、有蹄類―猪、馴鹿、鹿、食蟲類―猬、土龍等、蝙蝠類―蝙蝠、ウサギカハホリ

○主なる鳥類―阿比類―阿比、燕、烏、鷺、鴨、雁等、鷹類―鷲、鳶、ハチクリ、鷹、三斑鶉類―テウセンミフウヅラ等、鷄類―雉、雷鳥、鶴、千鳥、鴫等、鷗類―鷗、海鳥類―海鳥、沙鷄類―沙鷄、鳩類―鳩、杜鵑類―クワクコウ、杜鵑、佛法僧類―佛法僧、翡翠類―翡翠、戴勝類―戴勝、梟類―梟、木菟、蚊母類―蚊母、雨燕類―雨燕、啄木鳥類―ヤマゲラ、鳴禽類―雲雀、鶺鴒、サンコウテウ、ヒタキ、鵯、駒鳥、鶯、鳥、鵐、サンセウクヒ、百舌、ゴヂフガラ、日雀、柄長、鵲、椋鳥、獺、鶸、雀、ハウジロ、蒿雀、ハウアカ

○魚類中沿海魚類は日本支那と大差なく、鯛、比目魚、鰔魚、鯔、偏口魚、鯒、烏賊鱸等である。淡水魚族は特有のものもあるがこれも大體日本支那產のものと等しく鯉、鮒、鯿、鯰、鱸、沙魚、鮫、鱒、鮭、鰻、白魚、鮠等、銀魚、會生魚、面條魚、瓶魚、花魚、回王魚、河蟹等である。

爬蟲類では遼河及び松花江とその附近の湖沼に多數の鼈を產し我國へ輸出してゐる又毒蛇の一種にシベリヤ蝮蛇といふのがゐて旅順港外の島に無數に棲息してゐる所がある。兩棲類には殿樣蛙、エゾアカ蛙が各地に產し何れも食用に供してゐる。昆蟲類にはコガネ蟲類、蟬類、蝶類等甚だ多い。

【植物】滿洲は支那、日本を聯ねる一大植物帶の中に包含され、その植物類は日本のそれと大差なく已に二千四、五百種類を擧げられて居る。而して北滿地方にはユキザサ、羊齒類、灌木類等が多く、矮小な樹木に富んでゐる。又南滿の植物中には、實に蒙古、朝鮮の植物をも添加して多種類に上つて居る。

鬱蒼たる滿洲の鴨綠江、松花江、圖們江、牡丹江流域地方や、大、小興安嶺地方、長白山脈一帶に亙つて、蜿蜒と續いてゐる針濶兩葉の大森林は、美しい草原と相錯綜して天然の美觀を表はして居り、殊に豐沃なる松花江一帶の平原に於ける草原の植物の豐富な點は馬來半島に於ける壯麗な植物帶と竝び稱される程である。

滿洲に於て分布繁茂する樹木は六百餘種を數へられ、菊科、毛莨科、百合科、禾本科、十字花科等は夫々十數種以上三十數種の分類が遂げられてゐる。滿洲の植物は此の地方の特異的のものも少くないが支那、朝鮮、日本等と類似する以外に、アルプス山地方の灌木類に等しい、又英國の諸島に自生する植物類と同種類のものが多い。

主要なる樹木類—公孫樹、一位松、胡桃、楊柳樺木、穀斗、楡、桑、木蘖、小蘗、防己、樟、虎耳草、芸香、苦木、楝木、大戟、黄楊、漆樹、衞矛、槭樹、無患子、省沽油、鼠李、葡萄、田麻、獼猴桃、檉柳、胡頽子、八百楓、五加、山茱萸、石南、灰木、齊墩果、木犀等

大森林中には松、樅、檜、樅、梠楓、樺白、楊樹、白樺、胡桃、白丁香、鹿梨等良材を多量に產出してゐる。

植物中には卉穀、雜蔬菜花物、穀類を豐富に產するのであるが野生の花卉類には次の如きものがある—松葉牡丹、矢車草、鳳仙花、朝顏、花罌、美女櫻、千鳥草、美女撫子、風船草、紫風英、君影草、忽忘草、燕子花、水仙、芍藥、女郎花、野薔薇、茜草、蒲公英、菫草、白薔薇、ネジアヤメ、鈴蘭等

住民

人種

總人口は關東州を含めて大約三千八百餘萬、その密度は一平方粁日本の百八十一人に對し二十八人內外に當つてゐる。住民の狀況は大要左の左くである。

【滿洲人】 滿洲本來の民族である滿洲人は古來女眞族と稱ばれ、滿洲東部地方を中心として歷史上顯著な活動をして來たものであつたが、淸朝成立に伴ひ次第に各地に分散し、現在では純粹の滿洲族と云へる者の數は非常に尠く、吉林省、龍江省、三江省あたりに僅かに殘存してゐるに過ぎず、數に於ては滿洲國總人口の一割以下にも達しない。

この民族の特性であつた精悍さも、固有の言語風俗も、漢人との雜婚により又年月の經過によつて一見漢人と判別し難いまでに同化されてしまつた部分が多い。

【漢　人】 漢民族は古來幾回にも亙る入滿の歷史を有して次第に勢力を扶植して來たのであるが、日露戰爭後は滿洲の治安が維持され、開發が進捗して漢人の移民に好箇の新天地となつたところから山東、河北、山西、其他南方方面よりの渡來者が著しく殖え、現在では滿洲國總人口の九割近い數を占める樣になつて來たのである。

從來各族の間に猛烈な私鬪も行はれたがその家族制度は血緣團體、地緣團體として發達し、滿洲に於ける社會生活の原動力になつてゐる。

この民族の二大弊風であつた男子の阿片と女子の纏足は今日餘程減少して來てゐるけれどもまだ根絕には至らない。衣食住は地勢及氣候に應じ、長年の經驗に彼等の嗜好を取入れて寒暑に適する樣式を作りなし今日に到つてゐる。

【蒙古人】 蒙古人は古來剽悍無比で、嘗ては歐亞に跨がる大帝國を建設した事もあつたが、淸朝の懷柔政策の奏效によつて昔の氣力は夙に喪はれ、その滿洲に住む者は農耕移民たる漢人との生存競爭に破れて、今では興安諸省、熱河省あたりの山中又は草原、沙漠地帶等を轉住してゐる者が多く、中には漢人に同化されて定住してゐる者もある。

蒙古人は古來遊牧民で所謂蒙古包に起居し原始的な生活をしてゐて、大多數の者が喇嘛敎の信徒でありカルカ族、ブリヤート族等を含んでゐる。

【日本人】 日本人は日淸、日露戰爭後渡滿し此地の文化建設に多大の努力をして來たが、諸種の事情によつて滿洲事變前までは其數二十二、三萬に過ぎなかつた。然し滿洲國建設を機として渡滿者相踵ぐ有樣となり茲數年間に九十餘萬と云ふ驚異的數字を示し、此地に於ける理想國土の建設に關し全國民の指導的立場に立つこととなつた。

朝鮮人は間島省を主として全滿洲に約百萬の數を有し、主に農業に從事し、殊に水田開發の事業に貢獻してゐるところ甚大なるものあり、中には服裝など著しく漢人化したのもある。從來官憲、地主等の不法な迫害を堪へ忍んで來たが、滿洲國の成立によつて多幸な將來を持つこととなつた。

【露西亞人】露西亞人は舊帝政露西亞の極東政策に伴ひシベリア地方から入滿したものであるが、日露戰役後は多く北滿地方に後退して、舊北鐵沿線一帶に亙り居住してゐたが、滿洲國の北鐵買收後は更に打擊を受けることゝなつた。現在の所謂白系露人は各所に分散して多くは悲慘を生活をしてゐたが、これも建國後は將來への光明示唆を與へらるゝこととなつた。

尚此地に住する露西亞人中には、スラブ系のものもあれば、猶太系のものもありトルコ系のものもある。

【其　他】興安嶺方面から西北部一帶に亙つてツングース種族あり、ダホール、ソロン、オロチヨン、マグネール、ピラル、ゴルチ、シベリア族等を含み、狩獵を生業としてゐる者多く、其數は極く僅かである。

【山東苦力】滿洲へ出稼に來る苦力には山東出身の者が大多數を占め、海路山東からやつて來たので俗に山東苦力と呼ばれてゐる。滿洲事變前迄は渡來數が每年八十萬乃至百萬もあつて殆ど全滿に行渡り勞役に從事し、その內幾割かは家族と共に土着して移民の實を擧げて來たものであるが、事變以後は幾分づゝ其數を減じ、殊に最近では許可制度になつたため其數は激減した。

聚　落

【村　落】滿洲の村落は大部分農村で、多くは飮料水によつて位置が決つたものである。南滿地方の村落名について云ふならば、王家、李家、蘇家などのやうに開拓者の家名に因つたものが澤山あり、これに屯、寨、舖、堡、臺、溝、庄、鎭などがそれぞれついてゐる。其他地形、樹木、河川、道路などから附けられた村落名も多い。

北滿は南滿より開拓が新しくて、村名により土地開拓の過程を知るには都合がよい。個人的に開拓された村落には、南滿と同樣に開拓者の家名が冠せられてゐるものが多く、李家、馬家、潘家といつた風のや、翟先生屯、列學德屯、宋耀先生屯と云つた種類のがある。なほ正白旗十井、正紅旗十五井、正黃旗十六井などの村名は、淸朝華かなりし頃に八旗の軍隊を留めたところから出た名である。

【都　市】都市中には城市として發達して來たものが多く、それらの城市は古いところでは渤海、遼の時代に起源してゐるものもあるが、淸朝時代から榮えたものが大部分で、外に開拓によつて發達した植民都市があり、また近代に到つて外國人により經營されて發達した歐風都市もある。

城市には海城、析木城、九連城などのやうに城を附して呼ぶのもあるが、これを略したのもある。又石城子、土城子、甎城子等の名は城壁の狀態から起つて居り、新城、老城、古城などの名は新舊によつて生じたものである。植民都市は近代に於ける漢人移民により興つた都市で土城を有するものもあり缺くのもあるが、城壁を有するものは一般に街路が碁盤目をなしてゐる。洮南、鄭家屯、通遼、開魯、林西など何れもその植民都市の例である。

以前に商埠地と稱せられるのは、條約により諸外國へ解放し居留民の商工業經營のため提供された地域で、多くは城市と舊鐵道附屬地との間に介在してゐる。

歐風都市はロシア人や日本人の進出により生じた都市で城廓を有せず、街路は大抵放射線狀をなし整然としてゐる。大連、奉天、新京、哈爾濱などはそれである。

◇主要都市人口表（康德六年調）

都市名	總數	滿洲人	日本人		外國人	調査年月
			内地人	半島人		
新京特別市	三六六、三三四	二六九、一八五	八五、三七三	一〇、八四九	九二七	六、四
奉天市	八一一、四五一	六八九、六一五	一〇一、六三九	一九、一六二	一、〇三五	六、一
哈爾濱市	四六〇、五三五	三九三、五七三	二八、四四八	五、〇六八	三三、四四六	六、一
吉林市	一三一、九七五	一一七、三三〇	一〇、八四一	三、六九八	一一六	六、一
安東市	二一二、三六九	一七七、七六六	一七、五〇八	一七、〇四七	四八	六、二
齊々哈爾市	九三、六六一	八六、五九九	五、七九九	八三六	四二七	六、一
佳木斯市	八五、五九九	七九、三九八	四、七九五	一、三二四	八二	六、一
牡丹江市	一〇一、九四八	六九、二〇四	一四、九七五	一七、三六五	四〇四	六、一
四平街市	五六、二四〇	四八、四四七	六、七六三	九六七	六三	五、六
鐵嶺市	五〇、七七三	四六、一三五	三、二六六	一、三六五	七	六、一
撫順市	二一九、五七〇	一八四、五八二	二八、四〇五	六、五三〇	五三	六、一
鞍山市	一五一、七八七	一一七、〇五三	三四、一三五	五五三	四六	六、四
遼陽市	九二、六五七	八七、一六八	五、〇九五	三八二	一二	六、一
錦州市	一一〇、五七七	一〇〇、二七〇	九、七七八	五一九	一〇	六、一
營口市	一五九、四四八	一五二、四九九	五、六三八	一、二四五	六六	六、一
本溪湖街	八六、〇〇七	七一、五三三	六、〇〇九	九、四六五	一	六、八
延吉街	三四、四〇〇	一七、六二〇	一二、九九二	三、七四一	四七	六、一
承德街	四三、一九九	三八、七二九	四、〇七八	三八四	八	五、六
通化街	四二、五三九	三八、八五二	一、七二〇	一、九五〇	一七	五、六
北安街	一六、四三七	一五、〇六六	一、一九一	一六一	一九	五、六
東安街	八、一〇七	七、五四〇	三三〇	二二〇	一七	五、六
大連市	五五三、七八〇	三八六、七一九	一六一、二三七	四、二一七	一、六〇七	六、二
旅順市	三三、四七六	一九、六八七	一三、六四三	一二九	一七	六、二

◇省別面積及人口表（康德五年十月一日現在）

省別	平方粁	人口數	人口密度
		人	人
全國	一、三〇三、四三七	三六、三〇一、五〇三	二九・四
奉天	七五、五三三	九、五三二、二〇六	一二六・二
吉林	八八、八一九	五、三二四、二四九	五九・三
龍江	六七、一〇九	一、七五六、三三三	二六・〇
熱河	六六、五八五	三、九九六、九四五	六〇・〇
濱江	六三、八六三	三、六九七、七七三	五七・八
錦州	三九、四六五	四、二三〇、九二一	一〇七・二
安東	三六、六〇三	三、二三五、八二八	八四・〇
間島	二九、八〇三	六九一、八九五	二三・二
三江	九〇、〇五五	一、一五九、八七〇	一二・八
通化	三一、六四七	八三四、七四一	二六・四
牡丹江	三三、九六一	四二八、九四五	一三・〇
黑河	一〇九、八二三	七三、二四八	〇・七
東安	四一、九七四	三三九、一四〇	七・九
北安	七一、四九一	二、〇三五、九三六	二八・五
興安東	一〇六、七九一	一一三、七三八	一〇・七
興安西	八〇、四四〇	五六一、二四七	七・二
興安南	七九、〇二一	八五三、二三四	一〇・九
興安北	二五九、二九九	八六、四一六	〇・三
新京特別市	四三七	三七〇、五九四	八四〇・九

◇關東州內人口表（昭和十四年八月末日現在）

區域別	日本人	朝鮮人	滿洲人	外人	計
大連市	一六四、八三三	四、二六八	三七八、六六〇	一、七六一	五四九、五二二
旅順市	一二、八三九	一四五	二〇、四三三	一六	三三、四三三
旅順民政署管内（市ヲ除ク）	一、〇五五	三二	一四五、七九九	一三四	一四七、〇二〇
金州民政署管内	三、一三八	九八	一五七、一九八	二	一六〇、四三六
普蘭店民政署管内	一、九九六	一五五	一九一、五二三	四	一九三、六七八
貔子窩民政署管内	一、四九八	一一六	一六六、〇七九	—	一六七、六九三
計	一八五、二三九	四、七七四	一、〇五九、六六〇	一、九一七	一、二五一、五九一

政治

【沿革】 大同元年（一九三二年）三月一日、三千萬民衆の總意によつて國を建て、國號を滿洲國と定め、年號を大同と稱した。

其理想とする處は王道政治で、民族協和機會均等、門戸開放の新政治形態をとり、大同元年三月九日溥儀氏を執政に推戴、政府組織法を制定暫行的に執政の下に一府三院八部より成る滿洲國中央政府を形成したが、康德元年三月一日、順天安民天意具現の大旨に基き執政帝位に卽かれて帝政の實施をみることゝなり、年號を改めて康德となし、同日新に六章三十七條の政府組織法（同年十二月及康德四年七月改正）を發布し、新に皇帝、參議府、立法院、國務院、法院、監察院よりなる統治組織の根本の確立をみた。爾來政府は着々近代法治國家としての體制整備につとめ、數次の改革を經て世界に比類なき獨特の政治組織を完成し、四千萬に及ばんとする國民は茲に王道政治の惠澤を謳歌するに至つたのである。

今躍進の一路を征く國家建設工程の實相を政治方面より見れば次の通りである。

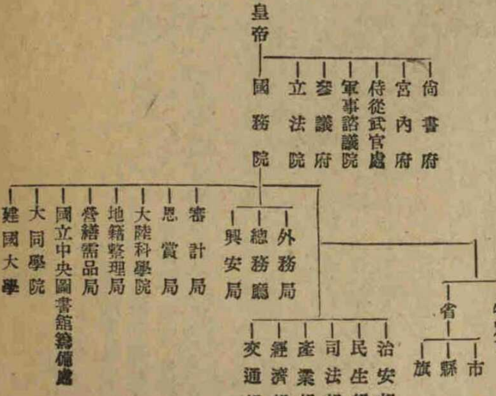
一　大同元・三・一　建國、國名「滿洲國」
二　同　三・九　執政決定
三　同　九・一五　日本政府滿洲國承認
四　大同二・三・二七　日本國際聯盟脫退
五　同　三・一　帝政實施
六　康德元・三・二〇　修聘特使日本へ派遣
七　同　六・六　御名代秩父宮殿下御來滿
八　同　九・　水路協定調印
九　康德二・三・二三　北鐵讓渡成立
一〇　同　四・二　皇帝陛下御訪日
一一　同　五・　圖們國境を通過する列車運轉及稅關手續簡捷に關する協定成立
一二　康德二・五・二　回鑾訓民詔書煥發さる
一三　同　八・一五　日滿經濟協同委員會設置
一四　康德三・四・三〇　滿獨貿易協定成立
一五　同　六・一〇　治外法權一部撤廢に關する日滿條約締結
一六　同　七・一　治外法權一部撤廢
一七　同　一〇・九　滿洲產業開發五箇年計畫大綱決す
一八　同　六・二八　工業所有權保護協定成立
一九　同　一〇・一　滿獨爲替交換規定成立實施
二〇　康德四・三・一　帝位繼承法公布
二一　同　五・八　中央行政機構改革大綱發表
二二　同　五・一　重要產業統制法施行
二三　同　七・七　支那事變勃發
二四　同　一一・五　兵事、神社、敎育を除く治外法權の全面的撤廢
二五　同　一二・一　日獨防共協定成立
二六　同　一一・二九　伊太利滿洲國承認
二七　同　一二・二　新スペイン政府相互承認
二八　康德五・二・二〇　獨逸滿洲國承認を聲明
二九　同　五・一四　滿洲國產業開發五箇年計畫改正の決定案成立す
三〇　同　七・三〇　訪歐使節團一行出發
三一　同　八・二四　日滿伊貿易協定締結
三二　同　九・一四　滿獨貿易新協定調印
三三　康德六・　日獨伊防共協定に加盟
三四　康德七・一・一　蒙古王侯の權益國家に奉上

康德元年十二月、舊政權時代の封建的政治關係が最も强く表現されてゐた地方制度即ち奉天、吉林、黑龍江、熱河と云ふ大區劃制度を廢して新たに奉天、吉林、龍江、黑河、三江、濱江、間島、安東、錦州、熱河の十省及び興安四省を設けて舊弊を一新し更に康德四年には牡丹江、通化兩省を增設し、又康德六年には東安、北安兩省を新設して計十八省としたことは滿洲國が新興國家としての體制を樹てる上に劃期的な寄與をなすものであつた。中央行政組織についても舊來の組織を不斷に改善擴充し各機關の統制を强固にし或は國政促進機關の設置に、或は職制の改革がなされ、常によりよき組織への改善がなされつゝある。

法制方面について云へば、帝政實施と共に組織法を改めて國家の根本法となすと共に、君主制に相應しい法律の制定、改正を行つたが實に對外關係において重要問題たる治外法權の撤廢は康德三年七月及び康德四年十一月兩期に亙り實施され、その前提として法院組織法、同施行法を公布實施しく法制の完備に一歩を進めた。

【組織法】 大同元年（一九三二）三月一日建國と同時に政府組織法を定めて國家の基礎としたが、二箇年を經た康德元年三月帝政を實施して君主制を布くと同時に從來の組織法を廢止して新たに組織法を制定公布した。而して此の組織法は滿洲國家の組織及び作用に關する成文の基礎法であり、勿論近代的意義に於ける憲法とは云ひ得ないが現在の國家の基礎法として所謂實質的な憲法を爲すと云ふべく、また本法はその制定の手續の上から規定憲法であり、その點日本憲法と軌を一にするものと云ひ得る。唯此の組織法と雖も暫行的のものであり憲法制定の曉には當然廢止さる可きである。

政府統治組織表



治外法權の撤廢

康德三年六月第一次處理として、法權の一部撤廢が實施され、此處に滿洲國は日本臣民に對する課税竝に主要產業法規の適用權を取得すると共に引續き第二次の全面的撤廢への準備を進めた。この間滿洲國が法治國家たるの體容を備へるためには諸法規の整備は勿論、康德四年七月には政治機構の全面的改革を斷行し、撤廢後の完全法治國家としての體容に遺憾なからしめた。よつて康德四年九月通信行政移讓に關する折衝が圓滿解決をみた結果、撤廢案は日滿兩國政府に移され雙方共勅裁を得、康德四年十一月五日、日滿兩國間に歷史的條約調印式が擧行された。

【日本機關に殘された治外法權】 治外法權撤廢竝に滿鐵附屬地行政權移讓後尙日本機關に殘された各種行政、

▽教育行政—撤廢竝に移讓前の教育行政は滿鐵附屬地內と附屬地外に於ける日本內地人教育と朝鮮人教育竝に附屬地內に於ける滿人教育とに區別されてゐたが、これを朝鮮人教育、滿人教育は滿鐵附屬地行政權の移讓及び朝鮮總督府の行政權移讓と共に滿洲國に移され、殘る日本內

地教育行政は留保されて全權大使の監督下に教務部で管掌することゝなつた。尙經營母體としては各省竝新京特別市に學校組合が出來て義務教育機關の經營に當らしめ、中等教育は學校組合聯合會に於て經營してゐる。

▽兵事行政―在滿日本人に對する徵集、服役及び召集等に關する兵事行政一切も日本側に留保された。而してこれが行政事務は治廢前にあつては滿鐵附屬地の各日本警察署長、附屬地外に在つては領事館警察署長が在留地徵兵事務官として兵事事務を擔當して來たが、治廢後は關東軍竝に駐滿大使館が之に當り新京、奉天、牡丹江には兵事事務所を設けて之に當らしめてゐる。尙滿洲國の各地警察署長は日本の兵事事務に關する囑託となつて日本機關を協助することになつた。

▽神社行政―神社行政が日本に留保されたのは、神社が日本人の祖先崇敬の表徵として民族的特性を有するからである。神社の維持費は從前に變りなく氏子又は崇敬者の負擔であるが、從來關東局が監督してゐたものを撤廢後は駐滿大使館が監督し氏子が之を維持する。

【外國人の地位】　滿洲國政府は日本人以外の外國人に對しても右條約の實施と同時に從來恩惠的に許與してゐた治外法權的取扱を廢止した。かゝる外國人の地位に關しては既に康德三年七月一日、日本の滿洲國に於ける治外法權一部撤廢に當り外交部大臣の聲明によつて明らかである。即ち

一、日本人以外の外國人は入國、居住、旅行、營業その他一切の事項に關し滿洲國の法令に服從すべきこと。

一、建國當時中華民國に於て治外法權を享有したる一部外國人に對しては、從來事實上許與して來た恩惠的取扱を漸進的に廢止する。

と政府の見解及び意圖を明確にし爾來右の方針により實施し來り何等支障を生じなかつたので、更に此の既定方針を押し進めて行くことゝなつたわけである。

在滿日本帝國機關

【關東軍司令部・駐滿大使館】二位一體制に基き大日本帝國の在滿國策遂行機關を關東軍司令部及び駐滿大使館の二機關制となし、關東軍司令官をして二位の機構の長官を兼任せしめることによつて在滿日本機關の最高統制を一體化したものである。即ち現行機關に基けば關東軍司令官は駐滿海軍部司令官を除き大日本帝國の對滿國策遂行の唯一の代表者たるの資格を以て、軍事、外交、行政の三權を行使統理するものである。

滿洲事變を契機として日本帝國政府の在滿機關は强力にして且つ合理的な機構を必要とするに至り、昭和七年八月武藤信義大將の關東軍司令官親補に際し特命全權大使竝に關東長官を兼任、軍事、外交、行政の三權を統理せしめ、所謂三位一體制なる暫行的第一次機構改革の實現をみたが滿洲國の發展と日滿不可分關係の急速なる具現に伴ひその根本的改革が要求される新事態に立ち至つたので、遂に昭和九年十二月第二次の機構改革の大案が樹立され現在行はれつゝある二位一體制に基く在滿日本機關の最高統制が確立された。而して第二次機構改革により對滿事務局竝關東局が設置せられ對滿事務局は(一)關東局に關する事務(二)各廳對滿行政事務統一保持に關する事務　(三)涉外事項に關するものを除き滿洲に於ける拓殖事業の指導奬勵に關する事務(四)南滿洲鐵道株式會社、滿洲電信電話株式會社の業務監督を管掌してゐる。

【關東局】　關東廳の廢止と共に在滿日本大使館内に設置された關東局は關東州廳の監督、附屬地の行政管理、滿鐵竝に電々會社監督の權限を有してゐる。

尙第二次機構改革の結果、關東局竝に在滿日本大使館の兩警務部長は關東

憲兵司令官の兼任するところとなり、在滿日本警務機構は完全に統一されるに至つた然るに昭和十一年六月治外法權の一部撤廢更に昭和十二年十一月の全面的撤廢の日滿條約締結により、關東局竝に在滿大使館管下の警務部は擧げて滿洲國に移管された。

【關東州廳】 關東州租借地竝に滿鐵附屬地の我に歸してより茲に三十年帝國は此地に對し軍政の後を承け關東都督府を置き民政の端を開き、次で關東廳に改制し、昭和九年末更に關東局及關東州廳を設けて今日に至つた。昭和十二年五月其の位置を旅順より現在の大連に移したが、我が國策の遂行上關東州の地位は益々重要性を加ふるに至り因つて昭和十二年十二月一日官制の改正を行ひ機構を擴大强化し現下の趨勢に對應することゝなつた。關東州長官は大使の指揮監督を承け州内の行政事務を管理し職權又は特別の委任に依り州廳令を發することが出來る。州廳内部の組織は官房、内務、財務、土木、警察の四部に分れてゐる。

協和會

滿洲帝國協和會は滿洲帝國の國家機關であると共に國民の機關であり、國民の手によつて滿洲建國の理想を完成す可く必然的要求によつて結成された建國精神を體する滿洲國在住諸民族の同志的集團であつて政府と表裏一體になつて建國理想の實現即ち道義世界の創建を志す國家的團體である。

協和會の發會式は大同元年七月二十五日國務院に於て擧行されたが協和會運動は滿洲事變前、張家政權の暴狀に對し滿洲三千萬民衆が奮起したその事態に發端してゐる。即ち事變前に於ける自治指導部の成立及びその建國運動がそれである。故于沖漢氏を部長とする自治指導部は或は日本軍の匪賊討伐に隨伴し、或は舊軍閥暴政の社會的汚毒を肅正改革しつゝ建國精神を思想的に教化的に政治的に實踐具體化することを生命として建國の聖業に參與し、日本民族を中心とする鮮、滿、漢、蒙各民族の統合による王道國家完成に努力した。

大同元年三月滿洲國成立と共に自治指導部の一半は官に入つて政府の要所に就き、一半は野に在つて協和會を組織した。かくて建國精神を母胎として生れ出でた協和會は政府と表裏一體になつて、滿洲建國の工作に沒頭したのである。

創立以來早くも六年餘、今や協和會の組織網は全國に伸び、會員數百餘萬、會本來の使命に向つて邁進しつゝある。

協和會の組織工作の窮極の目標は全國民を打つて一丸とし、建國精神に滿たされたる强力なる組織體を作ることにある。

官吏、軍人、商人、農民、勞働者あらゆる階級を通じて會員を募り訓練し、精鋭なる國民的組織體を完成して國家理想の實現を期するのが協和會である。

協和會機構の單位は分會であり、すべての會員は分會に所屬して會活動に從事してゐる。分會は地域制の組織を原則とするが現在は實際的な狀況に應じて便宜、職場別、職業別、民族別等に組織されてゐる。

會籍現勢一覽表（康德六年六月末現在）

省本部名	省本部數	縣市地區本部數	分會數	會員數
首都本部	一		一四四	九一、八〇三
奉天省	一	二七	一、〇七三	三八、八一五
吉林省	一	一七	三三三	三五三、七九七
龍江省	一	八	一三七	四二、六〇六
熱河省	一	一〇	二二四	四九、一九六
濱江省	一	一三	一七五	七八、七三二
錦州省	一	九	三三五	六四、六一五
安東省	一	七	二八一	八九、八二〇
間島省	一	五	五五	四〇、四〇七
三江省	一	九	九六	二九、五八六
通化省	一	九	一六五	三五、一八三
牡丹江省	一	五	七〇	三二、一九六
東安省	一	三	二九	一〇、七六七
北安省	一	七	一二八	三〇、三四七
黑河省	一		三五	五、三二六
興安東省	一	（旗）二	三三	七、一五〇
興安南省	一			
興安西省	一	二	一八	五、六八一
興安北省	一	二	二四	五、八七七
合計	一九	一三三（旗）二	三、三三〇	一、一九七、九六四

文教・宗教

文教

【學校教育】 學制の改革に關しては建國匆々其大綱を定め、修業年限の短縮、教育內容の充實、教育の機會均等其他につき研究を進むる處あつたが、康德三年十二月の第一次改革を經て康德四年五月勅令を以て學事通則、學校令其他の公布を見、滿洲教育史上に新紀元を畫する滿洲帝國新學制の制定實施を見ることゝなつた。

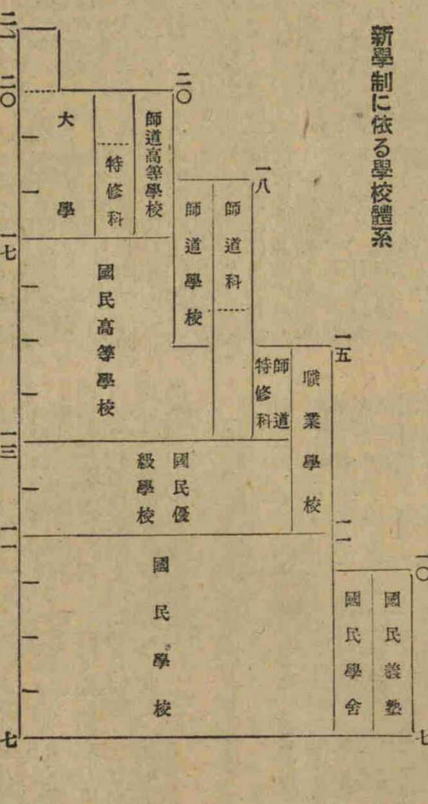
新學制に於ける學校教育は初等教育、中等教育及高等教育の三段階竝に師道教育及職業教育の二部門よりなり、初等教育に於ては國民としての基礎教育又は實務教育を施し、中等教育に於ては實業又は實務を基調とする國民普通教育を實施し、以て國民の中堅たるべき者を養成し、高等教育は其教育目標を國家に須要なる高等の學術に關する理論及實際を修得せしめ、國家樞要の人材養成に置いてゐる。而して之等學校體系の全段階を通じての修業年限は十三年又は十四年とせられ、最初の就學年齡を滿七歲とすれば其終期たる大學卒業當時の年齡は滿二十歲又は二十一歲となることゝなつてゐる。

其教育方針とする處は、建國精神及回鑾訓民詔書の趣旨に基き、日滿一德一心不可分の關係及民族協和の精神を體認せしめ、東方道德特に忠孝の大義を明かにして旺盛なる國民精神を涵養し、德性を陶冶すると共に、國民生活の安定に必要なる實學を基調として知識技能を授け、適正なる體育を施して身體を强健ならしめ、以て忠良なる國民を養成するにある。

因みに康德五年度に於ける學校、學級、教師、生徒(學生)數は下の通りである。

	學校	學級	教師	生徒(學生)
國民學級	六、三六四	二一、八四三	三三、九三九	一、〇三九、四五一
國民優級學校	一、六九七	三、六二七	四、六九五	一四八、二三六
國民學舍	四、〇〇二	四、二〇三	四、二一七	一八四、六八八
國民義塾	一、八二七		一、九三三	五七、六一五
私塾	一、九〇八		一、九八五	四四、六四二
國民高等學校	一〇五	六二八	一、四四三	三一、一〇三
女子國民高等學校	三三	一六五	四四二	八、二九七
職業學校	七九	一九八	四八一	八、一四九
師道學校	五	九〇	三一三	三、九〇一
高等教育	八		三一〇	一、七九七

新學制に依る學校體系



【社會教育及文化事業】　民衆教育館、識字處、講演所、青年訓練所を初め博物館、圖書館を設け、映畫、ラジオ等に依る教育、修養團體結成の助成等國情、民情に即した諸施設を計畫漸次實行せしめ、今後改善又は施設の增加擴大により民衆教化を一層徹底せしむべく努めてゐる。其他文化事業としては東洋文化の研究竝に保存に關し不斷の努力がなされ、或は大陸科學院を設け農、工、鑛、化各般に亙り試驗研究をなし、又中央觀象臺、衞生技術廠を設け氣象、衞生に完璧を期する等、資源開發、國利民福に大きな貢獻をなしてゐる。

【日本側の教育】　治外法權撤廢後の日本人教育施設竝に教育行政は駐滿全權大使館教務部に於て管掌、關東州内では關東州廳が經營し滿洲國内にあつては各省別に學校組合を設けて之が經營に當つて居り、現在如何なる僻地にも小學校が設けられ中學校十五、高等女學校十七、實業學校十四、特殊學校十、其他專門學校、大學等設置され最近邦人漸增に伴ひ在滿子弟の教育に遺憾なきを期してゐる。

宗　教

滿洲に於ける宗教は支那固有のものと日本其他の外國より扶植せられたものとに二大別することが出來る。在來宗教は甚だ複雜多岐を極め佛教、道教、儒教、回々教、喇嘛教等があり、何れも幾百年の歷史を有し民族的にも社會的にも政治的にも教育的にも頗る密接な關係を持つてゐた。これに近來日本人の信仰を主とし歐米諸國より傳來せる基督教竝に最近勃興しつゝある新宗教などが入り込み益々複雜多岐となつた。このうち回教及び基督教を除いては何れも雜然として宗教的系統を缺き儒、佛、道の祭神も亦互に混合して同一人が佛教徒と道教徒とを掛け持ちしてゐることは珍しくない。

依つて政府は國内宗教の統制を計るべく根本的調査を行ふと共に、各宗教別の座談會を開くなど種々努力してゐる。

【滿洲人側の宗教】　回教及基督教を除いては派別雜多にして僧侶、道士等は知識不充分で積極的救世及救人の如きは思ひ及ぶ處でなかつたゝめに民衆の信仰は殆ど習慣と迷信とに左右せられ邪教滔々として國を覆ふ有樣であつた。よつて政府は建國後國民信仰自由の保障をなすと共に正しき宗教進展を助成し、一面極力邪教を防ぎ淫祠邪祠を禁止する等之が改善を計つてゐる。

〔佛　教〕　眞言、天臺、臨濟、曹洞、淨土、毘盧等を主とし三十餘派あり、禪宗系統の信者が多く、佛教の旺んなのは吉林、伊通地方でチチハル、阿什河、興京地方等之に次ぐ。

〔道　教〕　娘々廟會は本教年中行事の一つであり道教に屬する廟は一般に「觀」又は「宮」と稱ばれ僧侶に當るものを男子は「道士」「羽士」「羽客」といひ、女子は「女冠」と云ふが、道士の多くは無智で積極的に民衆を教化する力がない。

〔回　教〕　寺院を淸眞寺と稱し、唯一神を信仰し偶像は一切崇拜しない。寺院では大抵寺校を附設して教徒の子弟を教育する。他信徒とは絕對に婚姻せず淸潔を尊び禮拜には必ず入浴し、豚肉を食はず牛羊肉を常食とする。

〔喇嘛教〕　西藏在來のボンボ教と佛教との調和せるもので密教系に屬する。寺廟の大いなるものにあつては活佛以下三百餘名の僧侶を擁し、蒙古人は凡てこの信者であると稱しても過言でない。近來日本眞言宗、眞宗各派へ留學生を送り新興醒醒運動が叫ばれてゐる。

〔儒　教〕　建國の精神が王道であり、孔子の唱道樹立した儒教に由つてゐる關係から孔子祭を滿洲國の國祭となし、九月五日の孔子祭には全國各地に亙つて莊嚴な儀式が行はれる。

〔基督教〕　現在十五派五萬餘人の信徒を有し、宣教師は布教の傍ら地方民に醫療を施し農業を敎へ小學校を設けて一般民衆を教化してゐるが、日本化せる基督教を滿洲國人に傳道するのが目的である。

〔舊　教〕　天主教と希臘教があり前者は羅馬教皇廳より神父を特派し各教區に一名の司教を置き十五萬の教徒と五百人の宣教師がゐる。後者はハルピンを中心とする白系露人間に信仰せられてゐる。

〔薩蘭教〕　この教の特徵は一種の自然崇拜で神と人とは絕體に別で、巫が其間に立つて仲介すると信

ぜられてゐる。滿洲族固有の宗敎であつて、この民族が已に母語を忘れる迄に漢民族化してしまつた今日では滿洲固有の精神文化を表現するものは薩瞞敎のみとなつた。

【道院と紅卍字會】 道院の起源は民國九年山東省濱縣に於て洪解空、劉福錄の兩名が老祖（道院の祖神）の神憑に基く暗示により「太乙北極眞經」と名づける經典を結集し、道場を設け縣名によつて之を濱壇と稱したのに始まる。世界紅卍字會は道院の分院とも云ふべきもので民國十一年成立し兩者異體同心であり、近年新宗敎運動として滿洲國人間に隱然たる勢力を有する。

【猶太敎】 哈爾濱に敎堂一を有するのみであり、舊北鐵沿線其他各地の露西亞人の一部に信仰されてゐる。

◇全國敎別表

敎別	寺廟數 會堂數	信徒數
佛敎	二、〇一九	一、一七〇、六九二
道敎	一、一七九	三七七三三七
喇嘛敎	五七〇	一二四、三八五
回敎	一二九	一三三、六三六
天主敎	六七	一五三、八四四
基督敎	六五	五一、三五三
計	五、九七九	二、四八五、九〇二

産業

【産業開發五箇年計畫】 之は大同二年（昭八）三月に發表された「滿洲國經濟建設要綱」に則り重要産業の自給自足を眼目とするものである。滿洲國の經濟建設工作の根幹を爲す右建設要綱の要點は、

一、利源開發の一部階級に壟斷される弊を除き萬民共樂ならしむ。
二、經濟部門の綜合的發達を圖る爲重要産業部門に國家的統制を加へる。
三、門戸開放、機會均等の精神で廣く世界に資本を求め、諸國の技術經驗を適切有效に利用す。
四、東西經濟の融合合理化を目標とし善隣日本との協調に重點を置く。

尙統制さるべき企業と自由企業の範圍限界に就き同年六月「國防上重要なる産業、公益的事業及一般産業の基礎たる産業には特別の措置を講ずるが其の他普通企業に就ては事業の性質に依り或程度の統制を加ふべきも、大體廣く民間の進出經營を歡迎する」と謂ふ補足聲明が爲された。

産業開發五箇年計畫は最初二五億圓の資金を以て遂行される豫定で康德四年（昭和十二年）着手されたが、間もなく支那事變勃發に依り日滿兩國の情勢に變化を來した爲計畫修正の餘儀なきに至り資金を約倍額の四八億圓に增額鐵、石炭、電力、液體燃料、自動車、飛行機等の生産に重點が置かれることになつた。

滿洲國産業開發資金導入其の他事業の運營に偉大な役割を演ずるものは創業三十有餘年の歴史を有する日本國法人の南滿洲鐵道株式會社（資本金八億圓）と康德四年（昭和十二年）に設立を見た滿洲國法人の滿洲重工業開發會社（資本金四億五千萬圓）である。

斯くして滿洲國政府の分身とも謂ふべき特殊會社は康德五年（昭和十三年）六月現在に於て二五社（資本金計四億九千六百三〇萬圓）、準特殊會社一〇社（資本金計二億五千八百六〇萬圓）に達し之等三五社は滿洲と滿業の兩社を先頭に産業開發に邁進しつゝある。

五箇年計畫修正前後目標

・品名		・修正開發目標	・修正前目標
銑鐵	約	五〇〇萬瓲	二五三萬瓲
鋼鐵	約	三五〇萬瓲	二〇〇萬瓲
鋼材	約	二〇〇萬瓲	ー
石炭		三、八〇〇萬瓲	二、五五〇萬瓲
電力		二六〇萬KW	一四〇萬KW
パルプ	約	四〇萬瓲	一二萬瓲
鹽	約	一〇〇萬瓲	八七萬瓲
金（四箇年累計）	約	三億圓（五箇年計）	二億圓
米		四〇萬瓲	五一萬瓲
小麥（一八〇萬瓲）		一三五萬瓲	二〇二萬瓲
大麥		一八萬瓲	二六萬瓲
大豆（五〇〇萬瓲）		四五〇萬瓲	四七二萬瓲
甜菜		二一萬瓲	三〇萬瓲
粟		三五〇萬瓲	三五七萬瓲
高粱		四五〇萬瓲	四六〇萬瓲
玉蜀黍		二三〇萬瓲	二二〇萬瓲

（註） 農産物の開發目標は康德五年度分（括弧內は康德八年度を示す）

【五箇年計畫第二年度實績概要】　本修正計畫に於て注目すべき點は鑛工業生產目標の大幅引上であるが之は當時日本に於ける生產力擴充計畫の策定に對し、或る意味での先手を打つたものであつた。即ち日滿生產力擴充計畫の綜合が漸く具體的日程によつてゐる今にして之を見れば、當時に於ける當初五箇年計畫の擴張再編成と云ふことはとりもなほさず次に來るべき日滿綜合生產力擴充方策の進路を宣明したものであると共に滿洲鑛工業確立に對する滿洲國政府の決意を端的に表明したものであつたのである。

斯くてこの修正計畫に對應する實行策も亦再編成され、他の各部門の開發と睨み合せて適確なる實現を期することゝなつたが其後幾多困難なる障害に逢着したにも拘らず、全般的には豫想以上の好成績を收め豫定目標に比し鑛工部門は八分通り、農・畜產部門は略々計畫通り、開拓部門は概ね八分通り、交通・通信部門建設も略々豫定通り夫々進捗した。然しこの第二年度實績は計畫目標に比すれば幾分豫定生產數量に達し得なかつた憾みもあるが、翻つて之を前年度の實績に對比するならば、各部門共顯著なる躍進を示し、この計畫遂行によつて實された滿洲國經濟力の驚異的擴充の實相を知り得るのである。

即ち第一年度實績に對する第二年度實績の百分比は次の如くである。

第二年度實績比率（第一年實績を一〇〇とす）

鑛工業部門	一八一・六
農產部門	一五九・二
畜產部門	一二六・三
開拓部門	五五・一
交通部門	九九・三

【北邊振興計畫】　北滿七省に亙る國境地方各省の國防を充實し、且つ產業を振興する。即ち一面國防一面產業、民生振興を目的とする北邊振興計畫は本年度より向ふ三箇年に亙り豫算總額約十億圓（政府二億圓、特殊會社二億圓、滿鐵六億圓）に達する大事業は產業五箇年計畫及び開拓政策の遂行と相俟つて着々と實施され、北滿七省の民生振興はもとより產業開發、國境建設等國防產業に亙る全面的躍進發達が期待されることになつたが、政府は滿鐵竝びに諸特殊會社は勿論各機關と協力し總力をあげて實現に萬全を期してゐる。なほ振興施策の要綱は略左の部門に分たれてゐる。

▲交通、通信、航空施設の擴充▲電氣、給水の整備▲北滿都邑計畫▲開拓計畫▲勞働力確保施設の確立▲物資確保並びに輸送對策▲防空施設の完璧▲保健防疫施設の充實▲協和會機構の整備と各機關との一體的結合▲福祉施設その他で十七部門である。

【東邊道開發計畫】　同地方は昭和十一年滿鐵が調査を行つた結果、良質の鐵鑛、石炭及び礬土、頁岩等の輕金屬鑛石が無盡藏に包藏されてゐる事を發見したので、鴨綠江の水力開發と相俟つて是等背後地域の主要資源を開發すべく安東市の西南方三十粁、鴨綠江に放出する小河川趙氏溝の上流約十二粁の江岸線に沿ふ地域に大東港並に重要工業地帶を新設することになり、昨夏より滿洲國政府及び現地の安東に於て準備を進め具體的實施を急ぎつゝあつたが、去る六月一日附を以て大東港建設局官制公布と同時に滿洲國竝に滿鐵より總額一億一千四百六十萬圓の出資あり、本年度より八ヶ年繼續事業として實施するに決した。

農　業

滿洲國の總面積は約百三十萬平方粁このうち五割餘が可耕地及放牧地であり、國內住民の八割八分までが農民とその家族で、鐵道貨物もその大半が農產物或はその加工品で占められてゐる狀態である。また貿易の點から見ても輸出總額の約七割は滿洲特產物たる大豆、豆粕、豆油其他特用作物に

よつて占められ、殊に滿洲は大豆の世界最大の生產地で大豆の輸出は滿洲國の國際收支上受取勘定の主軸をなすものである。

斯くの如く滿洲に於ける農業は國民經濟上最重要の位置を占めて居り、最近に於ける重工業部門の躍進と相俟つて農業開發の諸政策が政府によつて積極的に遂行されて居る所以である。

【自然的條件】　滿洲の農業を技術的に見た場合最も特異とする所は乾燥地農業である。これは農業の前提條件である氣象要素其他の自然的條件に依るもので、先づその氣象を見るに氣溫は春秋の雨季が短く夏季は長く、寒暑の年較差が非常に大きい。月平均氣溫の最も高いのは七月で最低氣溫は一月に現はれ、日本の如き海洋性氣候に比し大にその趣を異にし多期冷寒のため地表の凍結は一米乃至二米に及ぶが夏季は緯度に比し相當高溫に達する。雨量は甚だ少く農耕地帶で五百乃至八百粍で日本の約三分の一、東部內蒙古の如きは三百粍以下で農耕不能である。土壤は北滿の新耕地地帶は別として南滿は比較的有機質の含有量缺乏し居るも燐酸加里の含量は相當に多い。

【發達過程】　土着の滿洲人及び蒙古人は耕種農業に對する技能を缺き、戰鬪と遊牧が彼等の職業であつたが、清朝の封禁破れて以來關內から農業者たる漢人が殺到し來つて始めて滿洲の耕地が拓かれた。爾後この移住漢人により滿洲は開墾され、漢人は東部內蒙古にまでも喰ひ込むに到つた。一方東部國境地方は朝鮮民族發祥の地であるため鮮人により開拓された地方多く、鴨綠江の上流及び安奉線、連京線各縣に於ける水田の耕作は皆之等移住鮮人の手によつてなされたものであるが、最近は日滿經濟ブロックの躍進に伴ふ日本移民の進出は滿拓會社の新設となり、百萬戶五百萬人移住計畫の進行に伴つて、東北滿を中心に日本人による耕地がどしどし開拓されつゝある。

滿洲の農法を一括視することは到底不可能で、その形態は遊牧時代と變りない原始的生產方法のものから進步した多角的、輪作、有畜農業迄の各段階に分れ、實に大器具機械の使用による大農經營方法迄多種多樣である。

農作物種類及分布狀態

滿洲に於ける栽培作物の種類は四十餘種あり、分布狀態は自然的制約に從つて明確な地理的區劃をなしてゐる。いま主要農作物種類及びその分布狀態を示せば次の如し

豆類　吉林、濱江、龍江、三江、奉天、安東の各省
高粱　奉天、吉林兩省を中心として產す
粟　熱河省を除き各省農耕地の殆ど全部に亙る
玉蜀黍　濱江、奉天、安東の農耕地
小麥　濱江三江龍江を中心に北滿小麥地帶をなす
棉花　遼中、海城、洮南を中心とする地帶
果樹　奉天以南鐵道沿線及び關東州
水稻　間島省を中心とし、牡丹江、松花江沿岸及び安奉線、渾河、遼河沿岸地方

其他大麥、燕麥、黍、稗、蕎麥、麻類、荏(蘇子)、陸稻等も(北滿を主として)栽培せられてゐる。

◇主要農產品生產高及價格
(單位數量は千瓲、價格は千圓)

品名	單價(圓)	數量	價格	%
大豆	一〇九	四、六二四	五〇五、一〇六	三〇
其他豆類	一二一	三四四	二八、五二六	二
高粱	八〇	四、六二六	三七〇、〇八〇	二二
粟	一一三	三、一八一	三五九、四五三	二二
玉蜀黍	六六	二、二九九	一五一、七二四	九
小麥	一六〇	九六四	一五三、九六八	九
水稻	一二五	六三六	七九、五〇〇	六
合計	一〇〇	一六、六五四	一、六六〇、三九九	一〇〇

◇主要農產物作附面積　(單位　陌)

合計	一四、二四五、八一四
吉林	二、七六七、六一〇
龍江	二、〇三五、七五二
黑河	二八、〇〇九
三江	七九六、七四五
牡丹江	三二六、八七三
濱江	二、九六一、五〇六
間島	二五〇、二五〇
通化	二五〇、二五五

安東	五一四、七八六
奉天	三、〇二五、五九九
錦州	一、二八八、四二九

耕地

滿洲は平原山地が殆ど相半し、平原には遼河松花江の二大河が貫流しその本支流流域は開墾已に久しく、松花江流域は遼河流域に比較し面積遙かに大であるが、既耕地尠く農產額も前者の程でない。然し近年山東方面よりの移住民によつて松花江流域を主體とする北滿の開拓は目覺しいものがあつた。滿洲の總面積は大約一二九、七二九千陌(ヘクタール)でこのうち可耕地は大約三千二百萬陌と推稱され、總面積の約二十五%にあたり既耕地面積は一四九六萬陌で總面積に對する割合は一七・二%、可耕地面積に對しては四五・七%であり未耕地は可耕地面積に對して五四・三%が殘されてゐる譯である。

滿洲國政府及び滿鐵ではこの未墾地の開拓に力を注ぐと同時に、日本開拓民政策の實現のために可耕適地の再調査並に濕地開拓事業確立の調査計畫に努力し、また治安恢復に伴ふ荒廢地の再耕化をも圖つて極力可耕地の增加を計つてゐる。

土壤

既耕地の大部分は第四紀古層又は新層に屬し、冲積層と洪積層の壤土及び埴土が多くを占め砂土、礫土の分布は多くない。

土壤の理學的性質は一般にその分子が極めて纖細であつて凝集力、附着力が強く重粘であつて孔隙容量が少く隨つて空氣、雨水の透通は不充分であるが水分及び養分の吸收力は大きい。農家では土壤の色によつて紅色土、黃色土、黑色土、藍色土、白糖土等命名してゐるが、この分類から云へば南滿洲に紅色土、黃色土が多く、北滿洲に黑色土、藍色土が多い。

更に化學的性質としては

(一) 土壤の反應は微鹽基性であつて殆ど酸性土壤といふのはない。

(二) 可溶鹽類は概して多く、春季乾燥期に於てはアルカリ斑各地に出現する。併し純然たるアルカリ土壤は營口白旗方面、濱洲線沿線、東部內蒙古に多く營口、白旗方面は鹽化物、湯崗子地方は硫酸鹽、內蒙古は炭酸鹽及び鹽化物より成つてゐる。

(三) 有機物及び窒素含有量は概して少い。

(四) 鹽酸に不溶解の鑛物質含量が多い。

(五) 石灰含量は多くないが苦土、曹達含量は多い。

(六) 燐酸及び加里の含有量は豐富である

右に依れば滿洲の土壤は理學的には良くはないが、化學的には豐饒であると云へる。

滿洲土壤の缺點は有機物質及び窒素含量の少い點と、アルカリ鹽類の多いことにあるが、幸ひにして冬季寒冷なる氣候は凍結によつて土壤の風化を促進し空氣中の窒素吸集を行つてゐる。併しながら滿洲人在來の農業は多くは施肥を控目にし、作物の輪作等によつて僅かに地力の消耗を防いで居るが此の方法では到底永遠の好績は期待されない。

◇土壤生產力比較（公主嶺農事試驗場調査）（熊岳城を百として）

奉天	一三四	營城子	一二五
齊齊哈爾	一五三	吉林	三六〇
鐵嶺	一八三	遼陽	三二一
旅順	三九三	敦化	七〇一
洮南	二五一	開原	二〇九
公主嶺	二七二	渾河	二二七
		哈爾濱	二六七

農業經營

滿洲人の農業經營には大體自作、小作、分益、協同、請負農の五別がある。

自作農を本地(ペンテイ)、自己兒地(ツーコルテイ)、自己兒種(ツーコルチユン)等と稱してゐる。大農は七、八十町步以上、中農は四、五十町步、小農は二十町步內外、過少農は

五、六町歩を耕作してゐる。而して北滿地方では七、八十町歩から百町歩を耕作する者も少くないが、關東州內では二、三十町歩を超ゆる者は稀である。

小作農を租地（ツーテイ）或は租借（ツーチエ）と云ふ。小作人を租戶（ツーホ）、地主を地東（テイトン）と稱ふ。小作人は主として過少自作農である。種類に永租（インツー）、（永小作）と租（ツー）、又は佃（テン）、（普通小作）の二種に分れ、小作料は一半或は三分の一で、金納は少く穀納（物納）が多い。分益農を分晴（フエンチン）、辨晴（パンチン）、分種（フエンチユン）、種分收（チユンフエンシヨウ）等と云ひ、家屋、農具、種子、肥料、日用品衣服、食糧等一切を地主持とし收穫後前記消費々用を含めて地主六、七分、小作人三四分の比率を以て決濟するのを辨裡晴（パンリチン）、辨內晴（パンネイチン）と云ひ、家屋だけを地主持とし、地主四、五分、小作人五、六分の割合に分配する辨外晴（パンワイチン）との二種類がある。

共同農を插具（ツオチユイ）と稱し、小農、過少農等の間に行はれる方法であつて、役畜、農具等各々持寄つて順次耕作、收穫に當るのである。請負農を牛具（ニユウチユイ）と云ふ。畜類又は勞力を以て賃銀を得、耕作、中耕作を請負ふ方法である。

農法

農法は輪作、連作、掠奪、休閑の四法に分れる。輪作農法は一般的に行はれ高粱、大豆、玉蜀黍のうち一種又は二種を主作物とし粟、小麥等の作物と交互に三年又は四年の輪作を行ふのであるが更に糜子（ミーツ）、陸稻、稗其他の作物を加ふる場合は四年、五年又は六年、七年の輪作とする。

連作法は南滿地方の土地狹く又は低窪地で濕潤な場合か鹽分の多い土地等で、特別の作物以外栽培されず、又掠奪農法の場合等に行はれる。

掠奪農法は最も原始的農法で主として未墾地の多い蒙古地方に行はれ、草原中の肥沃地を求めて糜子（ミーツ）を連作し、地力の消耗するに至れば他の新しい土地へ移るのである。

休閑農法は土地に餘裕のある蒙古地方に滿洲人の行ふ農法で熱河省地方にも行はれてゐる。普通全地の三分の一を殘すか、又は三分の一を耕すかであるが規則正しいのと不規則なのとある。

耕耘は凡て牛、馬、騾等に犂を曳かせて行ふので耕地豁地耧地等と稱し耕地、豁地は全面を平坦にするだけで畦をたてない。集約的な方法で前年の休閑地か、蔬菜地等に行ふ耧地と云ふのは、畦と溝とを耕鋤しながら作整する方法である。

耕鋤期は四、五月頃で普通播種前一回又は二回之を行ふ。肥料は主として土糞を用ひる。卽ち牛、馬、豚、狗、鷄糞又は人糞と肥土を混じたものである。其他穀類の絞り粕、豚血、池、沼、溝の底土等を用ひる。

播種法は條播を普通とし點播之に次ぎ撒播は特殊法である。條播とは點葫蘆（テンフールー）を用ひ粟、稗、高粱、粳子（チンヅ）等の小粒種子を器に入れて播く法と手を使つて大豆を播き付くるのと、摔種（シユアイチユン）と云つて前方に投下しながら後退して播く方法がある。播種後は輥子（コンズ）を役畜に曳かせ必ず圃上を鎭壓する。畦幅は一尺六、七寸から一尺八、九寸を普通とし、丈高いものと低いものとを交作する。

【農事合作社】 產業開發五箇年計畫の具體化の完璧を期するため國家施設の下に農村の組織が要求され、政府では康德四年夏農事合作社法を制定、更に產業部令をも制定して之が實施に移つた。合作社制度の根幹となるべき縣合作社は農業の開發を促進し、農業者の福利增進を計ると共に生產品の配給を圓滑ならしめるを目的とし原則として縣の區域によつて設立され縣內農業者を以つて構成し而も之が設立に從ひ漸次從來の縣農會は解散し棉花、煙草その他の既

存組合も次第に合作社の機構に統合せしむる樣改組し、金融合作社と農事合作社の金融機能との關係も又適當に調整されることになり、而して縣合作社の活動を活潑ならしむるため實行合作社を縣合作社の下に組織するようになつてゐる。

＝關東州の農業＝

關東州内の農業は滿洲全地方と等しく主として滿洲人の經營であつて、若干の日本果樹園がある。主要農産物は玉蜀黍、高粱、粟、黍、稗、大麥、小麥、大豆その他豆類、水稻、陸稻、陸地棉等である。蔬菜は都市附近に於て營業的に栽培されるものとして蘿蔔、葱、茄子、白菜、甘藷、胡瓜其他がある。

管内の風土は落葉果樹に快適であつて、果實は品質優良のため盛んに滿洲支那各地に輸出される。種類は林檎、梨、桃、葡萄、櫻桃、杏、李、山椒、棗、海棠その他の雜果である。昭和十二年度の農産物作付面積は二六二、一三五町歩、收穫高三千百二十五萬餘石であつた。

管内の土地には業主權、典權、租權が認められ夫々わが内地の所有權、不動産質權、賃貸借債權と同樣に扱はれてゐる。州内土着民は永代農業を本業としてゐるが滿洲各地の商工業勃興につれ農家子弟の賃銀とりに出稼ぐ者は年々増加する。農家は玉蜀黍を主食物として高粱、粟も用ひてゐる。稈は牛馬の飼料又は燃料とし、建築材料や容器を作る。

【蠶業】蠶業は家蠶と野蠶の二種がある。家蠶は明治四十一年頃から養蠶が試られ逐年好成績を示し、日本蠶と支那在來種の交種がこの地方に適し漸次盛になり近年三百石内外の繭を産出してゐる。野蠶は柞蠶、樗蠶、天蠶の三種類があつて、柞蠶は柞樹林によつて飼育するもので近年柞蠶飼育林が造營せられた。樗蠶は山野に自然に生ずるもので繭の利用はまだ行はれず、天蠶は日本からの移入種で適種なることが證據立てられてをり、一般滿洲人間にも家蠶の飼育が盛んになりつゝある。

林業

【概要】往古滿洲の地は通古斯族(ツングース)が「森林の海」と稱した如く鬱蒼たる森林を以て蔽はれてゐた。

此の地は清朝發祥の地として乾隆の頃より伐木開墾を禁ぜられてゐたが、後多數の侵入者を見たので遂にこの地を一般に開放するの已むなきに至つた結果林地は彼等の燒燼を蒙ること大であつた。然し千古の美林は今尚北滿の到る處に存し「森林の海」なる呼稱の面影をとゞめてゐる。

○森林の分布―滿洲は五月より九月までの植物生育期間に溫度が極めて高く且つ此の期間に年降水量の大部分が集まり、濕度が最も高いことが植物の生育に適してゐる。森林地帶として囑望されてゐる地域は松花江及びその支流、拉林河、圖們江、牡丹江、鴨綠江右岸竝にその支流、渾河上流地域、濱北沿線の一部及び大小興安嶺圏内に屬し、呼倫貝爾西南、錦州、熱河を扼する所謂蒙古地域は森林地帶が極めて稀で、廣漠として草原と砂丘連續しところ〴〵に集團的樹林を見るに過ぎない。

○森林面積及び立木蓄積量―全滿森林面積は八千七百萬陌、立木蓄積量は約三十七億立方米(約一三三億石)と推計せられてゐる

○主要樹種―滿洲の森林は之を森林植物帶上から見れば、溫帶北部に屬するものであるがその主要な部分は寒帶の圏内に屬するものである。樹種は已に知られてゐるものだけでも三百五十餘種に上つて居りそのうち有用樹種として針葉樹八種、濶葉樹二十一種が擧げられてゐる。

◇立木蓄積量

經營地區名	森林蓄積（千立方米）針葉樹	闊葉樹	計
承峰	一、六七二	三、六八四	五、三五六
卓陽	—	—	—
大魯	—	—	—
扎倫	一五五、六二〇	五二、五一五	二〇八、一三五
嫩西	三〇九、九七八	三〇六、七〇六	六一六、六八四
三滿	三二一、一九五	一三七、六五五	四五八、八五〇
呼漢	二五三、五二九	三九七、二二一	六五〇、七五〇
黑烏	七〇、一四七	一五六、三八二	二二六、五二九
湯龍	二三七、六〇九	二一〇、三〇一	四四七、九一〇
勃同	六三、〇八七	一一六、六〇〇	一七九、六八七
賓東	一五〇、六五五	一二一、〇三七	二七一、六九二
吉敦	一七一、〇〇七	一二二、八一〇	二九三、八一七
通安	七三、一八八	一〇六、一三六	一七九、三二四
齊濱	—	三三三	三三三
新奉	—	—	—
錦營	—	二、一二五	二、一二五
合計	一、七三六、七五六	一、七三四、六五五	三、四六一、四一一

◇主要樹種

日本名	滿洲名
針葉樹	
テウセンマツ	果松（裸松、紅松）
テウセンタウヒ	魚鱗松
ダフリカラマツ	黃花松
タウシラベ	臭松
テウセンモミ	杉松（沙松、柏松）
エゾマツ	魚鱗松
テウセンカラマツ	黃花松
マンシウアカマツ	油松
闊葉樹	
カウライミヅナラ	柞樹
アムールシナノキ	椴樹
オニメグスリ	寧新樹
ヤチダモ	水曲柳
ハルニレ	榆樹
キハダ	黃木（黃波欏）
テウセンヤマナラシ	白楊樹
シラカンバ	樺樹
ヲノオレカンバ	檀樹
カライヌエンジユ	槐樹
モンゴリナラ	柞樹
マンシウシナノキ	椴樹
マンシウカヘデ	白牛
イタヤカヘデ	色樹
オヒヨウニレ	榆樹
マンシウクルミ	楸樹
ドロノキ	青楊樹
テウセンミネバリ	董樺樹
オホミノニレ	董榆樹
マンシウハシドイ	跑馬子（暴馬子）
ヤマナシ	梨樹

【木材需給狀況】建國前數年間は產出量約三百八十餘萬石であつたが建國當時は森林全部を國有とし、これが整備統一を圖る必要に迫られたゝめ甚しく生産の低減を來し二百萬石程度となつた。その後國內の制度整ひ各種事業勃興し木材需要の增進に伴ひその生産も著しく刺戟され、近年は七百五十餘萬石の生産をみるに至つた。

◇累年木材生産高

大同元	二、〇一八、二二〇石
大同二	二、二五三、三一四石
康德元	三、〇二八、四二七石
康德二	三、七四一、〇三八石
康德三	五、一四二、五一七石
康德四	五、六八二、三六二石
康德五	七、五二五、六六七石

畜産業

【概要】滿洲に於ける畜產は廣大な境域と豐富な家畜飼料の生產を根據として由來家畜と其生產物を利用すること多く、家畜の飼畜に長ずる漢人、蒙古人等によつて營まれてゐる。蒙古人は元來遊牧民で衣食住の生活資料を專ら畜產物に需めることは當然であるが、漢人も亦生活上畜產物を利用すること多く、人口の割合に國內に於ける、獸肉、獸乳、獸毛の需要が大である。家畜は以上の用に供される外農耕地一千四百餘萬陌の耕作に要する役畜三百四十萬頭交通運輸竝に軍事上に數十萬頭の役牛馬、軍馬を生產供給しつゝあり、また餘剩家畜竝に畜產物を支那、日本其他諸外國に輸出

してゐる。

滿洲で飼育せられてゐる家畜家禽は牛、馬、驢、騾、豚、緬羊、山羊、駱駝、犬、鴨、鵞、鷄等でこのうち家畜の飼育頭數は概ね次の通りである。

牛	一、六八三、三〇〇
馬	——
緬羊	一、九六五、三〇〇
山羊	一、二四三、〇〇〇
豚	五、三三五、八〇〇
駱駝	一二、八〇〇

家畜

馬—殆ど蒙古系であつて體軀矮小（體高一二〇—一四〇糎）ではあるが各部の均整は良好と云うて良い。一般に性質溫順、强健で持久力の强いことを特徴とする。種類は北方馬、口外馬、山後馬の三種に分けられる。外蒙古種は内蒙古種に比して稍大型で輕快駿敏、乘馬に適する。毛色は鹿毛、栗毛が多く内外蒙古種共一般乘馬としては不適當ではないが騎兵用として優秀なものは尠い。

騾—哈爾濱以南に產し新京を中心として最も多く且良質のものを產する。體軀は蒙古馬より大きく（體高一三〇—一六〇糎）粗食劇役に耐へ得る役畜である。牝馬に大驢（ターリユイ）を配したるを頭排騾子（トウパイローヅ）と云ひ牝馬に小驢（シヤオリユイ）を配したものを二排騾子（アルパイローヅ）と云ふ。

驢（リユイ）—南滿地方を主產地とし特に奉天、安東、熱河、錦州諸地方に良質のものを產する。大驢（ターリユイ）と小驢（シヤオリユイ）との二種があつて大驢は體高百二十—百五十糎で山東、河北地方から輸入せられ種牡として騾（ロー）の生產に使用される。一般に使用されるものは小軀であり體高八十八—百糎に過ぎない。

馬と騾の用途は農耕用、輓曳用、駄用に重寶がられ騾は馬より粗食で而も馬より力が强い。驢は農家の脫穀用に使役しまた家内工業の動力として用ひる。

豚（猪）—回回教徒以外の支那人の最も賞用する食用獸である。從つて各種家畜中その分布最も廣く飼養頭數も六百萬頭に上つてゐる。農家は副業として肥料と畜產收入を目的として每戶必ず數頭乃至十數頭を飼育して仔豚を生產してゐる。滿洲豚には大型種と稱する二箇年半で三十五貫位になるものと、小型種と云ふ一箇年半で十八貫位になるものとその中間の中型種の三種がある。何れも頗る多產で一腹十頭乃至十五頭多きは二十頭を產む。豚の肉、脂肪及び內臟物は副食物として珍重され毛や鬣では刷毛を製し骨は細工用となり血液は防腐劑として用ひ骨の一部と糞尿は肥料となる等廢物は全くない。

牛—各地に分布する牛の種類は主として蒙古牛で東部地方は朝鮮牛、關東州は山東牛の系統を含む。蒙古牛は體軀が一般に矮小で體格は惡いが堅忍、從順で粗飼、粗管に耐へ疾病に對する抵抗力が强いから漢人は力役のために飼養してゐる。蒙古人は搾乳のために飼育して力役は從となしてゐるが一般に肉は單に副產物として利用されるにとゞまつてゐる。

羊—緬羊と山羊の二種がありともに蒙古種である。牧羊は南滿洲では山羊を本位とし蒙古では緬羊を本位とするが、ともに多少の混牧をなしてゐる。飼育の目的は肉の利用を主とするが家畜を以つて主要な生活源泉となしてゐる蒙古人にとつては、羊は食料及び衣服材料を供給する無二の財源である。緬羊の產毛能力及び品質はともに劣等であるが、最近實業部及び日滿緬羊協會の指導によつて緬羊改良事業が漸く緒についた。

駱駝—蒙古に產し交通用途に供されてゐる。體高は五、六尺で前軀に比し後軀の發育

がわるく頭は小さく胸は幅狹く、耳が小さく、四肢は長く毛色は褐色なのが普通である。駄載能力は六十貫内外、一日に二三十哩を行くことが出來る。

犬―農家は番犬として必ず一、二頭の犬を飼育し蒙古人も數頭の獰猛な番犬を飼つてゐる。支那犬と蒙古犬の二種あるが支那犬は滿蒙の犬の九割を占め體軀魁偉（體高二尺、體重三十貫を超えるものもある）性獰猛で專ら番犬として飼はれてゐる。蒙古犬は體軀細長く顏面も細く尖り口角深く切れ眼は小さく耳は直立して慓悍獰猛の相を備へ輕快敏捷で六、七尺を跳躍することが出來る。狩獵に用ひられる外番犬として飼はれてゐる。また皮は滿蒙の犬皮として已に名高いところである。

◇皮革類輸出額（德康五年度）（單位　圓）

皮革		
皮	牛皮	一六、六四三
	馬皮、騾皮及驢皮	一、一四五、五四三
	其他	一八、六〇四
	計	一、一八〇、七九〇

◇主要畜産品輸出額（康德五年度）（單位　圓）

毛皮	緬羊皮及山羊皮	一、一五一、〇〇六
	犬皮及狼皮	三九七、六四三
	熊皮及浣熊皮	一三三、六九九
	コリンスキー皮及皮	二、二九五、二一六
皮革		一、一八〇、七九〇
獸毛		三七、三四〇
		七、六四〇、四八七

水産業

【漁　業】　河川は淡水魚に富み其種類數量ともに豐富である。卽ち北は黑龍江本流を境として松花江の支流、南部に遼河がある外、湖沼、沃地等にも豐富な魚類の棲息を見る。此地の淡水漁業の起源は明かでないが、凡そ今より一千年前、滿洲最古の文化國として榮えた渤海國の時代に、鏡泊湖及び其附近に漁業が行はれ、特に鮒は美味を以つて名産と稱せられ、また契丹國の時代には松花江水系において毎年冬期氷面に穴を穿つて大漁をとり、國王は群臣を集めて宴を張り之を頭漁宴と稱したことが傳へられてゐる。斯くの如く滿洲の淡水漁業は相當古くより河湖附近の住民によつて行はれたものと想像されるが、これが經濟的企業となつたのは舊東支鐵道の敷設後呼倫湖水系に於て一九〇四年頃ロシア人によつて行はれたのを始めとする。然しながら現在の北滿地方は未だ人煙稀薄で漁業の如きも極めて原始的な域を出でない。

沿海漁業をみるにその海岸線は關東州を合して僅かに三百九十五里に過ぎず、その上海底は狹小で且つ淺く氣候寒冷で冬季魚族の棲息に適せず而も沿岸は凍結するところが多く、滿洲の沿海漁業を稍不振の狀態に甘んじさせてゐる。

現在の水產額は淡水方面に於て約五百五十萬圓、海洋方面に於て約二百五十萬圓合計八百萬圓見當とみられ、高級鹽乾品、罐詰類等年額約八百萬圓内外を輸入してゐる。

【製　鹽】　渤海及び黃海に面する沿岸は干潟地が多いので古來鹽業が著しく發達し殊に滿洲國と關東州の沿岸は降雨量が少いことゝ相俟つて鹽田面積廣く重要なる產業となつてゐる。滿洲國の鹽田はこの兩海岸に散在し、營蓋場、復縣場、莊河場、盤山場、錦縣場、興綏場の六場に分れてゐる。何れも概して自然的條件に惠まれた好鹽場である。鹽場中復縣場は滿洲總生產額の五十%近く、營蓋場は三十%内外を產出して雙璧をなしてゐる。兩鹽場の春期製鹽期は三月

より七月まで、秋期は八月より十月まで、七月より八月までの約一箇月は雨期のため休止する。五、六月は生產量最も多くその採鹽量は年產額の約五、六割を占め、この兩月中の天候、採鹽狀態の良否は其年の產鹽成績を左右する。製鹽法が天日製法（晒製法）に依る爲天候の影響を多分に受けるのである。最近の生產高は滿洲國三十四、五萬瓲、關東州四十四、五萬瓲である。

康德三年四月日滿合辦の滿洲鹽業株式會社を設立し新鹽田を開發すると共に、已設鹽田を指導し、日本化學工業の進展に資せんとしてゐる。

〓關東州の漁業〓

東は黃海、西は渤海に面して滿支人向魚類の豐富な廣い漁場を有し、出漁獵地の利を占めてゐるので漁業は古くより相當發達してゐた。明治三十九年關東州が日本の租借地となつて以來日本人による漁業と日本人漁業に倣ふ支那人漁業者が激增した。

關東州を根據地とする漁場は北緯三十六度以北の黃海及渤海全部の公海で州內に於ける漁業根據地は大連と旅順を第一とし、その他營城子灣、雙島灣、羊頭灣、小平島、老虎灘、大孤山、廣鹿灣、獐子灣、海洋島等である。漁獲の主なるものは鯛、偏口魚、比目魚、黃花魚、金頭、鰺、ホウバウ、エソ、蝦、海蝦、鱶、鱸子魚、ヒラス、賛子魚、鯒、鯨等である。漁法も相當に發達し、機船による底曳網漁業が在來の支那人式漁業を壓倒してゐる。昭和十三年度の漁獲高は九百二十四萬四千餘圓であつた。

鑛業

【鑛業沿革】滿洲の鑛產資源は約四十種に及び主なる品目を列擧せば次の通りである。

金、銀、白金、銅、鉛、亞鉛、鐵、アンチモニー、アルミニウム、ニツケル、コバルト、硫化鐵、クローム鐵、マンガン、蒼鉛、重石、水鉛、水銀、砒、燐、硫黃、黑鉛、石炭、石油、土瀝靑、油母頁岩、石灰石、白雲石、マグネサイト、螢石、長石、耐火粘土、重晶石、硝石、石膏、珪石、石綿及雲母

等の諸鑛であり、右は法定鑛物として擧げられてゐる。就中鐵、石炭、金は日本の資源が甚だ貧弱なるため一層重要性を有し、滿洲國の鑛業政策も目下右三者の急速なる開發に向けられてゐる。曩に產業開發五箇年計畫を樹立したが、その重點は結局鐵、石炭の開發に置かれたものと云ふべく、殊に日本の正貨現送による金準備漸減の結果は滿洲の產金增加が必然的に緊急を要することゝなり、鐵、石炭の增產と共に重要性を帶ぶるに至つた。

主要鑛產量中現在判明せる推定埋藏量は次の如くであるが、最近熱河大覺鎭に約三億瓲の油母頁岩も發見せられた。

石炭	二五〇億噸	菱苦土鑛	五〇億噸
鐵鑛	二七億噸	石灰石	一七億噸
油母頁岩	五九億噸	金鑛	六〇億圓
耐火粘土	二億噸		

【石炭】石炭は三大特產の一つであつて、埋藏量の豐富なることゝ、採掘の容易なることで囑望されてゐる。就中滿鐵の經營になる撫順炭鑛の如きは東洋一の大露天掘を有し、年九百餘萬瓲を產出し、その約三分の一は日本に輸出してゐる。外鶴立、西安、北票、本溪湖、新邱等は有名であるが未だ數十萬瓲の產出量しかない。

滿洲の石炭は二疊石炭紀、侏羅紀、第三紀に分れ、二疊石炭紀に屬するものは主として無煙炭で本溪湖、復州、煙臺等、侏羅紀に屬するものは無煙炭、又は有煙炭で西安、八道壕、北票、阜新、鶴立等が知られ、第三紀に屬するものは褐炭又は瀝靑炭で撫順、ジヤライノール等である。炭礦數は全滿に亙り五十餘に達し前記二百五十億

瓲の埋藏量を推算され鐵と共に滿洲に於ける鑛業の大宗である。

【鐵　鑛】鐵鑛は現在までに發見されたもの總計二十七億瓲に達する豪華振りであるが、康德四年四月より東邊鐵鑛の大々的調査が進められてゐる。その主なるものは鞍山、弓張嶺一帶、廟兒溝、安奉沿線その他鴨綠江東北部一帶沿岸等南滿を中心に廣く分布し、朝鮮北部にあるものと同樣の所謂縞狀鐵鑛と稱へられる赤鐵鑛及び磁鐵鑛である。縞狀鐵鑛は含鐵品位三十五—四%の貧鑛が多く、火成岐との接觸によつて磁鐵鑛となつた廟兒溝富鑛の如く六十%內外のものは稀しい。

貧鑛と富鑛の限界を製鑛技術の上から含鐵率四十%とする時は滿洲に於ては貧鑛は富鑛の百四十倍に上り、鐵鑛資源は貧鑛を主としてゐることが分る。然しながら昭和製鋼所に於て完成した貧鑛處理法は貧鑛の經濟的價値を富鑛のそれに著しく近づけたが一九三五年ドイツで成功したクルップの連接貧鑛處理法はより經濟的であり、而も低度貧鑛にまで利用の途を與ふるに到つたので、俄然滿洲の鐵鑛資源は前途に一大光明を認めらるゝに至つた。

【金　鑛】滿洲の採金事業は土法稼行と云はれる原始的生產形態をとつてゐたが、之に加ふるに交通の不便、匪賊の跳梁、科學的施設方法の缺如、經營の小規模且つ拙劣等のために久しきに亙り不振の狀態にあつた。砂金及び山金共全滿に亙つて頗る多く、就中北滿の砂金は各河流域の廣い地域に亙つて豐富な採金場を有し、その他熱河省、間島省、奉天省には山金の鑛產地帶相當廣く分布し、將來開發せられゝば滿洲產金の一半を占むることにならう。

【菱苦土鑛】大石橋、海城縣東方山地一帶に分布し、轉山子、牛心臺、白虎山、官馬山、聖水寺、宋家堡子、大嶺等を主要產地とし、推定埋藏量五十億瓲と稱され、良質なものはマグネシア含有率四十五—四十七%に及んでゐる。この地帶は幅七〇—千米、延長二百—二千米の廣大な露頭をなして居り、世界的なマグネサイト礦である。

鑛區は四十餘に達し、滿鐵が多數所有し他は滿人が持つて居る。用途は金屬マグネシユーム、マグネシア煉瓦（製鐵用）、リグノイド原料その他パルプに用ひられる。

◇鑛產額（金銀は千瓦 他は千瓲）

鑛物名	年產額
滑石	七五
石炭	二二、〇二〇
金	三、六四九
硫化鐵鑛	三
鐵鑛	二、六二五
銑鐵	六四七
苦土石	二三一
長石	一
銀	八五
石灰石	五〇六
耐火粘土	一四五
鉛鑛亞鉛鑛	一七
磁土	三三
粘土	三七
硅石	一

◇主要炭田別石炭埋藏量

炭田名	埋藏量（萬瓲）
阜新（錦州省）	四〇〇、〇〇〇
北票（同　）	二〇、〇三〇
八道濠（同　）	二〇、〇〇〇
撫順（奉天省）	九五、五〇〇
西安（同　）	二七、〇〇〇
本溪湖（同　）	二二、〇〇〇
煙臺（同　）	四、〇〇〇
三姓（三江省）	三三、四〇〇
鶴崗（同　）	三四、四〇〇
扎賚諾爾（興安北省）	三九八、〇〇〇
密山（東安省）	一三七、〇〇〇
間島（間島省）	四四、〇〇〇
通化（通化省）	四、八〇〇
赤峰（熱河省）	三、〇〇〇

工業

【概要】初めは農業生産品の加工に出發し漸次近代工業の進出を見るに至つた。
滿洲の工業發達過程に最大の力を投じたものは、日露戰役前に於ける露國の進出と、其後に於ける日本側の經營施設及世界大戰で、更に滿洲建國に依る日滿兩國の密接なる提携は諸種工業の劃期的勃興を釀成するに至つた。政府は大同二年三月滿洲經濟建設要項を發表して滿洲國の經濟活動の根源を定め、康德四年五月更にその經濟發達を助成し、已設産業の監督と新興企業の指導を目的とする重要産業統制法を公布し青年滿洲の潑剌たる活動目標を定めた。

工業地域は南は大連北は新京迄の間を帶狀をなして發達し安東市、新興の通化及び哈爾濱を中心とする區域にも近代工業の集團がある。其他は國內全般に亙つて在來の工業、即ち燒鍋(燒酎製造)、磨坊(製粉)、油坊等散在し、康德元年に於て工場數(職工五人以上使用)六千五百、其の全産額一億六千萬圓餘であつたのが、康德四年には四億餘萬圓と著しい累增振りを見せてゐる。その業態別は大體十一類九十三業種に分たれてゐるが、滿洲に於ける資源關係より區分を示せば次の如くである。

○農産物による工業

製油工業(大豆、蓖麻子、麻子、蘇子、胡麻、落花生)…生産品(豆餅、其他餅子類、豆油、其他油類、硬化油、石鹼、塗料)
化學工業(大豆、一般油脂原料)…生産品(榮養品、藥品、調味料)
製粉工業(小麥)…生産品(小麥粉、麩)
釀造工業(大豆、小麥、米、高粱、大豆、小豆、忽布、包米)…生産品(醬油、味噌、日本酒、支那酒、麥酒、酒精)
製糖工業(甜菜)…生産品(砂糖)
纖維工業(綿、麻、亞麻、柞蠶)…生産品(綿糸布、麻織物、柞蠶糸、絹紬)
煙草製造業(煙草)

○林産物による工業

纖維工業(木纖維、莖幹纖維)…生産品(パルプ)
皮革工業(野獸類)…生産品(毛皮、皮革)
製材業(木材)…生産品(木製品、燐寸軸木)
染料工業及製藥工業(樹皮、樹脂、藥草、子實)

○畜産物による工業

皮革工業(牛、馬、豚)
骨粉工業(牛骨、馬骨)…生産品(肥料、膠)
纖維工業(羊毛、駱駝毛、豚毛)…生産品(ラシヤ、毛布、絨氈、フエルト)
飲食料品工業(乳肉加工工業)

○鑛産物による工業

化學工業(石炭、石油、油母頁岩)…生産品(香料、染料、塗料、藥品、液體燃料)
金屬工業(アルミニウム、マグネサイト)
窯業(石灰石、粘土、硅石、菱苦土鑛、苦灰石)
電氣工業(石炭)

○其他による工業

電氣工業(發電)
曹達工業(鹽、天然曹達)
ゴム工業、印刷工業、土木建築工業

商業・貿易

商業

【概要】舊滿洲の經濟界が舊軍閥と其手先たる官商の手に委ねられ、或は恣に不換紙幣を濫發して特産物の買占を敢行し、或は主要事業の經營を獨占して民衆の生活、商民の利益を無視し、延いては全般の經濟的發展を人爲的に阻害した。主要都市を除いてはこの障害によつて國內全般は殆ど其商業組織の舊態より脫し得ず、一部地方にありては尙物々交換が行はれてゐる狀態であつた。

建國後政府は經濟建設の一要綱として商業開發に關し一、商民の特徵は益々之を助長せしめ、舊慣の改むべきは矯正して取引

の合理化を期せしめ、又生活の必需品其他國民生活に重要なる關係を有する商品に就ては適切なる供給と價格の調節を行ふこと。二、特許法、意匠法、商標法等を發布して工業所有權の保護を圖り、度量衡の制を統一し其他交易所制度の改善、寄託保險等の法制を定むる等取引に關する文明的施設を行ふこと。三、關稅政策は國家の振興を旨とし國際取引の增進を期すること等の方針を明示し、中央に經濟部商務司を置き之を中心として一意健全なる發達に努めてゐる。

【商工公會】商工業の改善發達を圖るを目的とし、連絡調整、調停仲裁、通報、指導、仲介斡旋、說明、鑑定調査其他の業務を行ふもので、その組織は法律により定められた資格該當者を洩れなく加入せしめ、それ等會員によつて組織される。

會の指導運用機關は參事總會と會務職員で、參事は政府から選任せる人と、政府の委囑せる銓衡委員の選任せる人々によつて組織され、會務職員は政府の任命する會長副會長及び理事から成つてゐる。

而して右機關は康德四年(昭和十二年)十二月公布を見た商工公會法によるもので、從來の日商側商工會議所、實業會、商工會及び滿商側の公議會、商務會は何れも康德五月末日迄に新機構下に合併せられ現在までに全國に百二の設立を見た。

【輸入組合】南滿主要十七都市の日人小賣商助成機關として、滿鐵の融資により組織されたもので—日本品の販賣擴大、共同仕入と低利資金の融通、商店經營並に商習慣、仕入の改善、仕入の斡旋、委託販賣の仲介、運賃諸掛の低減等—の業務を行ふもので、昭和二年大連に設立以來漸次各地に及ぼし商工界に非常なる貢獻をなしてゐる。

【取引所】取引所は官營と民營に分たれ官營に屬するものに大連、新京、哈爾濱の三取引所、民營のものに大連株式商品取引所、安東取引所及び滿洲取引所(奉天)がある。前者は特產及び特產に關係あるものを扱ひ、後者は有價證券、綿糸布、麻袋、麥粉、砂糖等の取引をなしてゐる。

【市　場】日本側市場は關東州中央卸賣市場、關東州水產會魚市場の二つで滿洲側としては大同二年暫定を見た水產市場法及び康德元年發布施行を見た中央卸賣市場法によるものがある現在までに開設を見た中央卸賣市場は哈爾濱、吉林の二場で新京、奉天、齊齊哈爾の三市に於ても開設が計畫されてゐる。

【當　舖】滿洲に於ける金融機關として看過し得ないのは當舖の存在である。當舖は云ふまでもなく庶民金融機關であるが、日本に於ける質屋と同列に觀念さる可きでない。特に近代的金融機關の缺如せる滿洲農村に於ては從來唯一の大衆的金融機關として活躍し寧ろ地方銀行的色彩を有してゐた。之を利用するものも銀行を利用すると同じ氣持を以て接し、また經營者も高級の業種を營むものとして誇りを持つてゐる。

日本の質屋が主として享樂貨財を取扱ひ質貸金も主として消費經濟に向けられるに反し、當舖に於ける質物は生活必需品を主とし、農村に於ては農具、荷馬車の類まで受入れる。當舖の規模も概ね日本の質屋に比すれば大きく、その質代金の總額も比較的多額に上つてゐる。即ち康德四年六月末現在に於ける全滿當舖數は七百四十九店、質貸金は三〇、二九六、五〇四圓に上つてゐる(內大興公司經營當舖二百三店、質貸高一四、四七四、三一七圓)。

唯當舖の特色であると同時に大なる弱點であるのは、その金利が餘りに高率なることであつて、比較的低利である大興公司經營當舖すら月利二分五厘即ち年利三割であるから他は推して知るべしである。されば近年當舖は金融合作社の普及發達によつて大なる脅威を受けつゝある。

【滿商の組織形態】滿人商店はこれを單

獨經營のもの及び共同經營のものに大別することが出來る。前者は日本のものと大差はないが、後者は財東(ツアイトン)と呼ばれる資本主と掌櫃的(ジヤングイデイ)といはれる營業擔當者があつて、店の營業一切がこれに委せられ、店には小掌櫃的、夥計(ホーヂー)等數名乃至數十名の店員を擁してゐる。

而して此等商店は相互に連鎖關係を作り鞏固なる團結を持ち、商業に對する利益の防護、同業者間の競爭抑制、仕入販賣の共助、紛爭の處理等を圖り顯著なる發展を遂げてゐる。

【滿人の商號】 商號として愛用される文字は漢字四萬の中約五十字で、吉祥開運に關する文字、道德的意義を有する文字、國名又は地名より取りたる文字、美的觀念に基く文字等が多い。又號尾は同一商業に共通される特質がある。その一、二の例を示せば次の通りである。

行　(ハン)　問屋、仲買
棧　(ツアン)　倉庫、旅館
公司(コンス)　會社
廠　(チヤン)　製造工場
莊　(チヨワン)　兩替商、呉服商

【滿洲國會社法】 滿洲國では從來民國十八年に制定された公司法を大同元年敎令第三號によつて援用してゐた。この法律は日本の現行商法中の會社編の規定を母法とするものであるが立法技術上相當缺陷があり且つ解釋上疑義が多かつたので滿洲國司法部當局では新會社法の立法審議に着手幾多の進歩的改正を盛り康德四年六月二十四日公布同年十二月一日より施行を見た同法は五章四百四十八條より成り大體に於て日本商法の會社編改正案に倣つて立案されてゐる。

貿易

【概要】 一八六四年牛莊の開港を以て世界經濟と切線を描いた滿洲は爾來帝政ロシアの極東經營に拍車を加へられ、次いで日本の滿蒙に對する經濟的寄與により逐年躍進をつゞけ、今日の盛大を見るに至つた。

即ち北滿鐵道の開通及南滿鐵道を中心とする諸鐵道の敷設、諸港灣の設備と移住民の増加に伴ふ奥地開發の進展と相俟ち、逐年貿易額は上昇した。

年度	輸出 千圓	輸入 千圓	入超 千圓
一九三二	六一八、一五六	三三七、八七二	(出超)二八〇、二八四
一九三三	四四八、四六八	五一五、八二三	六七、三五五
一九三四	四四八、四二六	五九三、五六二	一四五、一三六
一九三五	四二一、〇七七	六〇四、一四九	一八三、〇七二
一九三六	六〇二、七七六	六九一、八八九	八九、一一三
一九三七	六四五、二九七	八八七、四一一	二四二、一一四
一九三八	七二五、四五四	一、二七四、七四七	五四九、二九三
一九三九(上半期)	四八九、五三七	七一四、〇七七	二二四、五四〇

滿洲國の對外貿易の特徴は出超であつて一九三二年以前は總て黑字にあつた。主要輸出品は大豆を初め粟、落花生、玉蜀黍等の特產物であつて、特に大豆の如きは世界の約七割を生產してゐる。然るに世界の經濟恐慌による保護關税の爲に、對外輸出が激減したのと、建設の爲め最近數箇年間は輸入超過の狀態である。

此の貿易中でも日滿貿易が主要な地位を占めてゐることは言を俟たない。

◇國別輸出入額表(康德五年)

國名	輸出	輸入
日本	三六七、七〇六、五九三	九三六、三三二、一一七
朝鮮	四九、二一八、四六二	五七、〇九一、六〇七
中國	一三一、六八二、九一六	七〇、七一五、五五七
蘇聯	二九一、三七一	三一、五一五
香港	三、九〇一、七〇四	一、二七八、四八七
英印	四六、一一一	二〇、六〇三、八二五
蘭印	二九六、五八三	九三三、六八六
英國	五、四四六、五八八	七、三七五、七四六
佛國	五、五二一、八六七	五、〇六六、九〇〇
獨逸	五〇、三九五、九四五	三七、二〇三、七三六
白國	九八三、一六五	四、四八一、九三九
和蘭	八、〇〇〇、七〇一	七九九、二九三
伊太利	三、四五七、〇八〇	二、三九三、〇六六

米國	二一、三六〇、二四二	三二、〇六九、九六五
其他	一〇一、五一七、〇四二	三七、一八二、二四二
合計	七三五、四五四、四四九	一、二三四、七四七、六〇一

◇累年輸入額（單位千圓）

	昭和十年	同十一年	同十二年	同十三年
食料嗜好品	一二九、九一三	一二八、五四七	一〇五、一三四	九六、〇七〇(註)
原料品	三五、七七九	四一、七五五	六三、七三七	三五、五一四
原料用製品	八二、〇二二	八〇、六〇〇	一一七、九一三	一二九、六七五
全製品	二八〇、四五八	三四三、四〇九	四六七、六一四	四七三、五九四
その他	九五、八七八	九七、五一七	一三二、七五四	二九六、四一四(註)
合計	六〇四、一四九	六九一、八三〇	八〇七、二八六	一、〇三四、二六九

(註) 十三年の原料品中には棉花および礦物性原油を加算してゐない。同じく全製品中には燈油、儒滑油を加算してゐない。なほ全製品とは機械、工具、車輛、船舶が全體の約二五%を占めるものである。

【貿易系統】 滿洲の貿易は稅關別に南滿(大連、安東、營口)、北滿(哈爾濱)、東滿(龍井村、圖們)、西滿(承德、山海關)に大別される。內南滿三港の貿易額は九十%以上を占め貿易の大勢は、南滿三港の消長により左右されると云ふも過言ではあるまい。

北鮮羅津港が完成せば、京圖、拉濱、圖佳の各線と相關聯してやがて裏日本時代を現出すべくその將來は刮目すべきものがある。尙奉山線壺盧島は阜新炭輸出を主とし遼西、熱河一帶の物資吞吐港として躍進すべく築港完成も間近い。

輸出品―大豆、雜穀及び種子、豆粕、豆油、石炭、銑鐵

輸入品―綿織物、鐵及び鋼、小麥粉、車輛類、機械類及び工具、木材、麻袋

財政・金融

建國前の財政は紊亂を極め、幣制、稅制の亂脈不統一は國民經濟の健全なる發達を許さず、建國當初國際聯盟調査團をして、此の地に於て財政確立の萌芽をすら見出し能はずと嘆ぜしめた程であつたが、爾來政府は財政の根本方針として、堅實なる財政制度の採用と健全通貨制度の確立により國內信用程度を發達せしめ產業開發の素地を作ることに努力を續けた。其結果建國年度より康德三年に至る財政創成期、即ち國家體型整備時代の財政政策の遂行に成功し、次いで康德四年よりは國力增進開發時代に入り、財政方針も斷然積極主義を採用、世界列强が赤字財政に喘いでゐる時獨り新興滿洲國は安定通貨主義並に健全財政主義の徹底を期することを得た。國家豫算に就ては建國直後國庫統一の方針を決定し、數箇月の間は月割豫算に依つたが、大同元年度より年度豫算制を採り、近代的の明確なる會計制度を實現し、更に康德三年度豫算よりは滿洲國經濟の實情に鑑み、曆年度に依る會計年度を確立し、決算を包括する新會計法を制定した。康德六年度の滿洲國豫算額を示せば次の通りである。

	歲入	歲出
一般會計	四〇三、三七七、六五五圓	四〇三、三七七、六五五圓
特別會計	一、三五三、九五七、四九一	一、二八八、二六一、六七四

金融方面にあつては國立中央銀行を設立して各省銀行を併合し各地方の公私銀行が整理統一された。また政府は農村の金融に力を注ぎ金融合作社(金融組合)及農事合作社を各地に設けた他、春耕資金の貸附を行つてゐる。更に石油、阿片、火藥等の專賣を實施して國民生活の安定に資し、鹽の行政を整正して健全な成績を擧げてゐる。

【租稅體系】 收益稅(一般收益稅)地稅、營業稅、勤勞所得稅、自由職業稅、(特殊收益稅)出產糧石稅、鑛業稅、木稅、禁煙特稅、雜稅

消費稅消費稅酒稅、捲菸稅、菸稅、三種統稅（專賣）塩、火柴、阿片、煤油類

交通稅、契稅、登錄稅、印花稅

中國大觀

略史

三皇五帝、堯舜二帝の傳説時代を經て禹が舜の禪りを承けて天子の位に即き國を夏と號し、其子啓が立つに及んで天子世襲の風を生じたと云はれてゐるが、爾後四千有餘年の間、漢滿蒙等を中心に各民族が立ちては亡び、亡びては立ち、此の間しば／＼儒家の理想たる聖賢政治の理想的君主が現はれ、或は暴虐無道極りなき帝王も現はれて、今日の中華民國に至るまで其の歴史は常に中原の爭覇に終始してゐた。然し支那文化の推進力は常に漢民族に握られ、邊境より興つた民族は悉く漢族に同化されるに至つたものである。

今有史以來興亡國家の存續年數を一瞥すれば左表の通りである。

時代	皇紀	存續年數
夏	前一五四〇年頃	約四百年間
殷	前一一〇〇年頃	約六百年間
周	前四六〇年頃	約八百年間
春秋・戰國	前一一〇年頃	約五百年間
秦	四四〇年	約十五年間
兩漢	四五九年	約四百六年間
三國	八八〇年	約六十年間
晉	九四〇年	約百六十年間
南北朝	一〇九九年	百五十年間
隋	一二四九年	三十年間
唐	一二七八年	二百九十年間
五代	一五七六年	四十四年間
宋	一六二〇年	三百十七年間
元	一九四一年	百六十三年間
明	二〇二八年	二百七十年間
清	二三〇五年	二百六十八年間
中華民國	二五七二年	

境域

大體に於て支那の面積は一千萬方粁前後と考へることが出來、また其人口は四億餘とみられ、日本の十五倍もある廣大な地域で、ヨーロッパ州全面積に匹敵する。

【位置】 東は東經百二十三度内外にて太平洋に、西は東經七十四度弱に亘つて天山山系の一點中央アジアに連る所を以て限りとし、南限は海南島の南端北緯十八度四十分、北は外蒙の一角サヤン山脈のシベリアに界するところ北緯五十三度四十分位に終る。

【北支の地勢】 支那西部の山西、陝西、蒙疆地帶が高地で、黄河流域にある山東、河南と白水系の流域にある河北の三省は平野である。山の多いのは山西、陝西と平漢線以西、蒙疆南部と山東の一部である。蒙疆地域の中部以北は高原地帶をなし察哈爾、錫林郭爾盟地域は南に分水嶺を持ち北方に傾斜してゐる。隨つて北支は東南の四分の一が平野で他は高原と山地だと云へる。

三海岸線中渤海沿岸は彎曲に乏しく、その全部が黄河、白河の冲積低地より成り、海岸は泥砂の關係で平砂劃一の狀を呈してゐる。又山東海岸は海岸山脈が海に直面して屈折に富み、膠州灣の如きはその代表的なるもので嶮崖相集る狀態にあり、江蘇海岸は灣の曲折は乏しいが海底遠淺で所々に大砂洲を有してゐる。

北支の水系は大部分黄河の流域に屬し揚子江と共に支那の二大水系をなしてゐる。

黃河は崑崙山脈に發源し、甘肅省に入りて洮河及び大通河の二大支流を合せ寧夏を經て一旦蒙古地方に入り、綏遠省內を東流し、包頭の邊に至りて急にその方向を變じて南流し、長城外邊の秦家口に至りて山西、陝西の省界をなしつゝ南に直流すること六十キロ、その間峽谷をなし潼關に至りて渭水を合せ、それと同時に急にその方向を轉回すること九十度以上に及び、東流三百キロにして京漢鐵道の黃河大橋に至り、始めて中原平野に出づるのである。

中原平野に出た後の黃河は古來屢々河道を變じ、山東山地を中にして或時は北の方渤海灣に注ぎ、或る時は南の方江蘇の沿岸にその出口を求め、平原內を氾流して放縱の限りを盡したことは、支那三千年の歷史がこれを證し、またその氾濫によつて中國人が如何に惱まされたかは、支那に「中國に一大憂あり、官吏、道路、黃河」と云ふ古諺があるによつても知ることが出來る。

往昔黃河の支流であつた白河は天津附近に於て運河(永定河)、滏水、滹沱河、漳河等の水を集めて渤海に注ぎ、更にその北には滿洲國內に發源する北塘河と灤河とが同じく渤海に注いでゐる。

また南方には淮河が河南安徽の諸水を集めて東海に注いでゐる。山東山地には特に記すべき程の河流がない。その主なるものは中央山地に發源する汶水、泗水、沂水等であるけれども、これ等は寧ろ黃河流域に入る可きもので、大運河によつて互に相通じ、黃河南流の際には事實上その支流であつたのである。

【中支の地勢】　中支と北支を區別する北嶺は崑崙山系から分脈せる岷山々脈を初め、秦嶺、大巴山、伏牛山、淮山等が屬し、之等諸山は必ずしも一體系をなすものではないが大體中北支を區分してゐる。高さは秦嶺が海拔二〇〇〇米乃至二五〇〇米、大巴山が一〇〇〇から二〇〇〇米である。又南支との區分をなす南嶺は割合低く、閩浙山地の仙霞嶺山脈が海拔一五〇〇米乃至二〇〇〇米で、この山系に屬するものゝ中最も高いものである。北嶺と南嶺に狹まれた諸地方が所謂中支那であるが、その中間には平野と山地が交々存在してその間を河川が縫ひ、湖沼が存在してゐる。

支那事變で有名になつた廬山山系或は大別山等も又南北嶺の中間に突起した山岳である。平野は山岳と河川とを中心に橫はり中でも呉の平野(蘇州平野)は肥沃なることを以て有名である。又印度支那山系に屬する大雪山脈は四川の西に聳え海拔六千米の嶮峰もあり四時雪を頂いてゐる。

更に地形上から考察した中支那について誰しも考ふるは楊子江であり楊子江を敍述することに依つて中支の大部分を敍述することが出來るとも云へる。全長三千二百哩西藏高原の北側に發源し大雪山脈を橫斷して三峽を經、宜昌、漢口、九江、南京を經て上海の北にて海に注ぐもこの間多くの支流を併せ又峽谷、湖沼を作つてゐる。

有名な大運河は鎭江に於て楊子江と交叉し、北水道より起る江蘇運河は淮河、黃河を橫斷して天津に通じ、南水道より起る江南運河は太湖、錢塘江を橫斷して杭州に至つてゐる。

【南支の地勢】　南支を地形的にみた場合そこを全體的に貫流してゐるやうな揚子江とか黃河のやうな大河のないことが北・中支と異る點である。北部には閩江と浙江(錢塘江)とが流れて地勢的に一區域を形成し、南部に於ては所謂粤江流域を形成してゐる。粤江流域とは西、東、北、三江の總稱であり西江を最大とするので西江流域の稱もある。雲貴の一部と兩廣がその流域に包括され南支に於ける代表的な河川である。故にこの地方の氣候を嶺南地帶として特殊に扱ふのであるが、その意味は粤江が所謂嶺南山系に屬する水系にあるからで香港の位置は丁度その中央となつてゐる。

河川

支那五大江河 本流	支流
揚子江	鴉礱江、岷江、沱江、嘉陵江、烏江、澧水、沅水、資水、湘水、漢水、贛水
黄河	洮河、大通河、無定河、延水、汾水、渭水、洛水、沁水
珠江	柳江、鬱江、桂江、賀江、北江、東江
淮水	潢河、洪河、南汝河、曲河、史河、[illegible]河、潁水、西肥河、惠濟河、渦河、北肥河、澮河、睢河
沽河	白河、永定河、大清河、滹沱河、南運河

其他

甬江(浙江)晉江(福建) 靈江(浙江) 薊運河(河北)伊洛瓦底江(西康・雲南)廉江(廣西・廣東)九龍江(福建)韓江(福建・廣東) 甌江(浙江)浙江(安徽・浙江) 伊犁河(新疆)閩江(福建)灤河(察哈爾・河北) 元江(雲南)怒江(西藏・西康・雲南の一部)運河(河北・山東・江蘇・浙江)

湖水

關係省名	湖水名
江蘇・浙江	寶應、高郵、邵伯、大縱、太湖、澱山
安徽	長蕩、[illegible]湖、石臼、固城、襄南、巢湖、陽城、南漪
湖北・湖南	白蕩、柴子、武昌、泊湖、感湖、鄱陽
江西・安徽	保定、梁子、釜頭、洪湖、長湖、曹湖、武湖、洞庭、黄蓋
安徽・江蘇	洪澤、駱馬、陵子、西山、紫蘆、湯池、東湖、西湖、花園
山東	百脈、南旺、蜀山、南陽、昭陽、微山

灣口

渤海灣、嶗山灣、膠州灣、杭州灣、三門灣、三都澳、興化浦、浮頭灣、碣石灣、紅海灣、白耶士灣、廣東灣、廣州灣、東京灣

山系

山系名	關係省名
パミール山系	新疆、印度國境
天山山系	新疆
ヒマラヤ山系	支那、印度國境
崑崙山系	青海、西藏省境
喀喇科龍山系	新疆

呵勒騰塔山系	新疆
阿爾泰山系	外蒙、甘肅、新疆
陰山山脈	綏遠
[illegible]山山脈	四川、西康、青海、甘肅
嵩山山脈	河南
苗嶺山脈	貴州
五臺山脈	山西
泰山山脈	山東
南山山脈	陝西
大行山脈	河北北部
伏牛山脈	河南
北嶺山脈	陝西
巴山山脈	四川
中條山脈	山西南部
連技山脈	山西
恒山山脈	山西
浙西山脈	浙江
黄山山脈	浙江、安徽、江西
天目山脈	浙江、安徽
淮陽山脈	安徽
衡山山脈	湖南南部
雪峯山脈	湖南
武陵山脈	雲南
大婁山山脈	貴州
楓嶺山脈	浙江、福建
大別山脈	湖北、河南、安徽
雲峯山脈	江南、廣東
仙霞嶺山脈	江南、福建
大庾嶺山脈	江西南部
梁山山脈	同
大英嶺山脈	廣東、湖南江西

氣象

【北支の氣候】一帶に乾燥して氣温は大陸的に激變し、朔北の烈風時に砂塵を捲いて天日ために暗しの言を生み、所謂黄塵萬丈の光景を呈すること稀しくない。然し西部高原地帶と中原平野では氣候上相當の差違あり、概して三寒四温の大陸風であるから、寒暑何れの場合も比較的凌ぎ易い。

多の季節は割合に長く、八、九月頃から翌年の四、五月頃までは乾期に屬し、六、七月は雨期である。この季節には黄河が大氾濫することもあり、この雨季以外では一、二月頃よく雨が降る。

突風は蒙古方面から四、五月頃よく襲來し時には人畜を害し交通を杜絶する時もある。一年を通じて旅行に最も便利明朗な時はまづ九、十月であらう。

【中支の氣候】やはり地域尨大で一概に云ふは困難であるが、大部分が所謂揚子江型と云つて多雨帶に屬してゐる。支那文明が黄河に發して揚子江に至つてゐることを思ふ時、揚子江によつて代表される中支那の氣候が他の諸地方に比して温順なることが證明出來る。揚子江を上、中、下流の三つに分けて述ぶれば大體次の如くである。

（上流）大體四川省が中心で此地方は土地高く且つ奥地の關係で大陸性の氣候に支配されてゐる。中心は重慶で最寒が一月、最暑が八月、五月から八月にかけて雨が多いが、雨量は下流に及ばない。温度は八月の最高百十度、最低は一月で平均四十七度と云ふから大して低下しないのである。

（中流）湖北・湖南・江西地方で漢口が中心であるこの地方も大陸的氣候の影響を受け、寒暑の差は相當に多い。一、二月の候には所謂蒙古風の影響を受け、雨期は五、六、七の三箇月で、九月に入ると晴天が續いて秋期に入りその期間は極めて長い。

（下流）安徽、江蘇、浙江三省で中心は大體上海である。海岸線に接してゐるために海洋的氣候に支配されてゐる。南端は多少亞熱帶的なところもあるが、概して良好である。雨期は六月、中流に比して雨の尠いこの地方は又夏期季節風の影響を受ける。

【南支の氣候】香港は沿海北部と嶺南地帶の中間にあり亞熱帶的な南支氣候を代表するものと云へる。然し廣大な地域であるから南支全體から見た場合その地方々々によつて非常な相違がある。例へば西南の山岳地方は山脈によつて氣候が調節されるので、雲南省の低地は炎熱燬くが如きでありながら、省城昆明は氣候極めて良好で四時春の如しと云つた狀態である。

下つて廣東、廣西に至ると冬期は五十度から降ること稀で天氣晴朗であるが夏期に至れば急騰する。それでゐて廣西の北部山岳地帶は冬期凜烈なる寒氣が襲つて時には降雪をみる。かうした南支の氣候を決定するのは緯度の關係は勿論であるが大體季節風の影響であり殊に南西季節風の影響する度が大きい。

◇各地各月平均氣温表（攝氏）

	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年平均
青島	(−)〇・四	(−)〇・四	四・七	一〇・四	一六・二	二〇・〇	二三・三	二一・九	二一・二	一六・〇	八・一	(−)一・四	一二・九
威海衛	(−)〇・四	二・一	七・七	一四・九	二一・六	二七・一	二五・八	—	二〇・七	一三・八	四・一	(−)二・三	一三・七
天津	(−)四・一	(−)一・八	四・七	一三・七	一九・五	二三・七	二六・一	二五・九	二〇・八	一四・二	四・五	(−)二・四	一二・〇
北京	(−)四・三	(−)〇・二	六・八	一四・九	二〇・三	二五・六	二七・六	二五・四	一九・六	一三・六	五・四	(−)一・九	一二・七
太原	(−)八・四	(−)三・一〇	三・八	一一・六	一八・五	二二・三	二五・六	二三・七	一八・三	九・八	二・三	(−)三・四	九・九
張家口	(−)一七・八	(−)七・六	(−)七・〇	一一・二	二〇・〇	二三・六	二三・一	二三・六	一八・二	八・七	(−)二・〇	(−)七・二	七・七
臨汾	(−)二・二	一・八	一〇・三	一六・六	二四・三	二三・六	二三・七	二七・一	二四・五	一二・六	七・〇	(−)一・一〇	一五・五
南京	二・二	三・七	八・六	一四・五	二〇・三	二四・四	二七・七	二七・五	二二・七	一七・〇	一〇・六	四・七	一五・三
東臺	一・〇	一・九	七・五	一三・八	一九・〇	二三・〇	二六・三	二八・四	二三・一	一七・〇	一〇・六	五・二	一五・一
徐州	(−)一・一	一・五	八・〇	一三・五	一九・六	二四・八	二八・三	二六・九	二三・〇	一五・四	八・二	二・一	一四・一
鎮海	四・四	五・二	九・二	一四・六	一九・四	二三・五	二七・八	二七・八	二三・八	一八・六	一三・一	八・一	一六・三
温州	七・二	八・一	一一・八	一七・六	二一・五	二九・四	二九・一	二九・五	二五・七	二〇・六	一五・六	一二・四	一八・六
安慶	一・六	六・三	一〇・一	一五・〇	二五・二	二六・一	二三・八	二三・五	二五・一	一五・八	一三・六	八・三	一七・五
蕪湖	一・六	四・一	九・八	一五・四	二〇・九	二四・八	二六・七	二八・六	二三・四	一七・四	一一・四	五・五	一六・〇
九江	二・七	五・三	一一・〇	一六・五	二二・三	二五・九	二九・五	二九・二	二四・二	一八・一	一三・一	六・二	一六・九
南昌	一・八	三・二	八・一	一三・五	一九・二	二三・三	二七・八	二八・〇	二三・六	一七・三	一一・四	五・九	一五・二
漢口	二・九	五・七	一一・九	一七・四	二五・〇	二六・五	二九・八	二九・六	二四・五	一八・六	一二・八	六・〇	一七・四
宜昌	三・九	七・〇	一三・四	一七・八	二二・六	二五・八	二九・一	二八・九	二三・八	一八・〇	一三・三	六・九	一七・四
岳州	二・五	五・三	一一・二	一六・八	二三・〇	二九・四	二八・八	二八・一	二三・四	一七・五	一三・〇	五・七	一六・六
長沙	四・一	六・五	一三・〇	一八・一	二五・五	二七・〇	三〇・一	二九・六	二五・〇	一八・〇	一三・五	六・八	一七・九
衡州	二・六	七・二	一一・二	一六・五	二四・一	二六・二	三〇・三	三〇・一	二六・四	一七・八	一三・〇	九・〇	一七・九
重慶	七・三	九・八	一四・八	一九・五	二二・六	二五・二	二八・九	二九・六	二三・七	一八・七	一四・二	一〇・三	一八・七
成都	三・七	八・七	一三・〇	一五・六	二二・八	二三・八	二六・一	二五・三	二三・五	一五・九	一〇・一	八・八	一六・三

◇各都市の年降水量

東京	一、五五八粍
京城	一、二六〇粍
廣東	一、六四一粍
漢口	一、一六七粍
上海	一、一三八粍
北京	五六〇粍
青島	六六二粍
張家口	三四四粍
ニューヨーク	一、〇四三粍
ロンドン	六一一粍
ベルリン	六二三粍
ローマ	八八〇粍
ニングラード	五三九粍
レ　京	六五〇粍

◇月降水量と年降水量との比

	北支%	中支%	南支%
十二月	〇・四	一・六	二・二
一月	〇・四	三・九	三・二
二月	〇・九	四・五	三・九
（十二月—二月）	一・七	一〇・〇	八・九
三月	一・一	六・八	七・五
四月	三・〇	一一・一	九・三
五月	六・四	一三・七	一四・六
六月	一四・一	一六・七	一七・三
七月	三三・〇	一六・三	一五・〇
八月	二四・三	九・九	一三・五
（六月—八月）	七一・四	四二・九	四四・九
九月	一一・〇	七・五	一〇・一
十月	三・三	七・八	四・三
十一月	二・〇	四・〇	一・五

生物

【北支の動物】北支は動物地理學上中支と共にウオレス A.R.Wallace. の分類に從へば舊北區に屬してゐる。舊北區は北米の新地區に對するものでヨーロッパ全土、北回歸線以北のアフリカ及びアラビヤ、アジア大陸（印度、ビルマ、シヤム、東南支部を除く）、日本（琉球、臺灣を除く）を含む廣大な地域で此の地帶に分布する動物のうち特に北支那の長城に沿ふ各省及び蒙疆地

方では羊、牛、山羊、馬、騾、驢を産し、山林廣野には、虎、豹、熊、野猪、獺、狼、麅類棲息し、甘肅、陝西地方には、羚羊、貂、獐狍、山狸、灰鼠、黄鼠等がゐる。

鳥類は極めて豐富で、鶴、鵰(鷲の類)、隼、鶻(鷹の類)、松鴉、沙鷄、長尾鵲、白鷺、黄鷺、主乾哥、山七面鳥、黄鳥、山老鴰、鐵雀等がゐる。

尙畜産として多く産するものは水牛、黄牛、馬、驢馬、騾馬、山羊、緬羊、豚、鷄、鴨等である。

魚族は河北省沿岸では關東州や山東沿岸と大差なく。

海産動物は—鯛、鯱魚、比目魚、太刀魚、海老、蟹、茅渟、鯖、鱸、鯑、鰶、鰽、鮹、鯔、鱵、鰈、鱈、鱧、揚卷、鱆、烏賊、生子、淺蜊等である。

淡水動物は—鯉、鮒、鯰、鼈、海老、蟹等の湖海河川に多少棲息する。

【中支の動物】 此の動物區は山羊、麅、牛、狼、狸、栗鼠、野猪、雉、鵲、雷鳥等を特産物とし、狸々、ギボン、印度象、孔雀、麝香猫等を代表種とする東洋區に南接する。南支那及び日本の琉球、臺灣は東洋區に屬してゐる。從つて日本内地と特に異りたる動物を産しない。左に主なる棲息動物を列記する。

野生動物(哺乳類)—虎、豹、獺、狸、栗鼠、狐、野猪、兎、鼬、熊、麅、猿、蝙蝠、蝟、豺

鳥類—野鷄、燕、啄木鳥、山雀、郭公、鷹、隼、脈雀、斑鳩、鴿、梟、鳶、雉、鵲、鶺鴒、烏、鴨、雁、鷺、鵠、鷲

飼養動物(家畜)—牛、馬、驢、騾、緬羊、山羊、豚、犬、猫、水牛

家禽—雞、家鴨、鵞鳥

水棲動物(淡水動物)—鯉、鱖、鰱、白魚、鯿、鰻、魴、鮎、草魚、鬪魚、烏魚、銀魚、雄黄、鰍、鯇、鰆、青魚、泥鰍、蝦、蟹

海産動物—沙魚、帶魚、黄魚、銅盆魚、飯魚、七色魚、紅姑魚、大頭魚、老虎魚、墨魚、海豚、魚、鯔、鱸、海蜇、鞋底魚、鱉、海蝦、鰣、白鱘、魬、鰺

【北支の植物】 北支の植物は中支と共にエングラー(Adolf Engler)の分類に依れば東亞植物區系に屬する。この區系は南部は大體揚子江の南より北部は滿洲、ウスリーに及び、日本では南九州より北海道、千島の南部、樺太に及ぶ廣大な區域でその種類も多種に及ぶが、先づ北支に關係あるものを擧ぐれば大體次の如くである。

山東省——馬尾松、黒松、楡、楸、柞、椿、楊、檜、黄蘗、泡桐、胡桃、黄蓮木、槐、白松、梓

河北省——桐、馬尾松、黒松、檜、槐、楡、椿、楊、柳、脈櫟、穿天楡、栗、白松樺、皂莢

山西省——馬尾松、黒松、槐、楡、楊、柳、栗、辯、雲杉、胡桃、白楊、青柳、槭脈櫟、黄蘗、白松

次に農産としては、小麥、大麥、高粱、棉花、玉蜀黍、煙草、大豆、甘藷、落花生粟、黍、胡脈、菜種等であり、

果樹及び蔬菜としては、梨、桃、杏、柿柘榴、栗、苹果、花紅、葡萄、棗、櫻桃、白菜、蘿蔔、葱、韮、菠菜、蒜、辣椒、茄、蓮根、芹、菜、芋等である。

【中支の植物】 此の地方の植物は極めて饒多で幾多特種の固有屬の外にインド、ヒマラヤとの關係ある多くの分子を含み、又洪積期までは地續きの地方であつた日本西南部とも大なる關係あり、殊に重要なことは北米東海岸の分子をなす幾多の屬が此地方に存在することで、植物學上將來研究を要する問題と云はれてゐる。

支那中部地方は中井博士の說によれば、東南部地方に比し植物調査進み殊に四川、湖北は然りである。四川は面積廣く又山岳地帶のため植物の種類多く、湖北省は場所より云ふも植物地帶の中心地であるだけ支那特産の要素も甚しく多い。此等の植物は

此省を中心として八方に擴散し行けるものと考へられる。

　支那中部植物が最も盛んに分化發達を遂げた原因の一つは洪積期に於ける氷河の影響が些少であつた事實である。氷河時代に南方より入つた各種の植物が獨自の發達をなし、現在見る如きフローラーの出現を見たのであつて、此の地方は支那固有の植物要素の發祥地として重大なる意義があると云ふのである。

　便宜上通俗的に分布植物を列擧すれば次の通りである。

　林野植物――松、柏、杉、欅、朴、槲、槐、白楊、樺、漆、柳、梓、楲、黃櫨、樟黃楊、側柏、扁柏、麻櫟、泡桐、公孫樹、椿、胡桃、樅、山毛欅、竹類、皂莢、檜、黃檀、白蠟

　農藝植物――稻、麥類、荳類、煙草、茶桐、棉、麻類、棗、葡萄、栗、枇杷、櫻、柿、桑、林檎、杏、柑、橘、胡麻、楊梅、甘蔗、甜菜、瓜類、玉蜀黍、粟、高粱、黍蔬菜類、牡丹、芭蕉、木犀、芍藥、海棠、梔子、薔薇、柘榴、山茶花、蘭類、躑躅、木蓮、藤、梨、李、葵、落花生

住　民

【人　口】支那の人口統計は區々不統一にして正確なる實數を知り得ざるも詳細にして比較的信憑し得るものとして一九三七年版英文中國年鑑所載の陶孟和、王士達兩氏の數字に依れば大體次の通りである。

▽地域別面積人口表

	面積(方粁)	人口	一方粁の密度
中支七省	一、三二二、一六五	一九五、五五四、四六九	一四八・〇一
北支八省	一、七六四、六九八	一三八、三九二、七四七	七三・七五
南支五省	一、一三七、八〇三	七三、三五一、一三六	六四・四六
邊境六地方	五、六六二、八一八	七、〇五二、七二八	一・二四
全土	九、八八六、四七四	四〇四、三五一、三〇〇	四〇・八一

中支七省（江蘇、浙江、安徽、江西、湖北、湖南、四川）

北支八省（河北、山東、山西、河南、陝西、甘肅、舊察哈爾、舊綏遠）

南支五省（廣東、廣西、雲南、福建、貴州）

邊境六地方（西藏、西康、青海、新疆、寧夏、外蒙）

　何れにしても世界總人口の約五分の一を占めて居り、その大部分は揚子江、黃河、珠江の中下流地方から海岸附近に多く四川盆地、渭水の盆地等にも稠密である。故に人口密度の過大な地方では盛んに國內、國外に出稼ぎまたは移民を試みる。北支の住民、特に山東の住民が苦力として滿洲に移住するのを始めとし、中南支の人々が華僑として印度支那シャム、南洋方面に出て行く數は夥しいものがある。

　これ等支那の住民を形成してゐる種族は大別して漢族、滿洲族、蒙古族、トルコ族、西藏族であつて、この外に先住民族たる苗族がある。

アジヤ人種
- 崑崙（支那屬）
  - 漢　族
  - 西藏族
  - 苗　族
- ウラル・アルタイ族（シベリヤ屬）
  - 滿洲族
  - 蒙古族
  - トルコ族

○漢　族

　吾人が支那人と稱するものは實にこの種族であつて全人口中の九割以上を占めてゐる。その起源は明かに追求すること困難であるが已に五千年以前に於て支那の西北方から黃河の沿岸に移住して漸次繁殖し、その先住民族たる苗族を南方に壓迫して初めは自ら「夏」と稱したが、發展するに從つて苗族始め各種の蠻族を或は驅逐し或は同化して今日の大をなした。東洋史に散見する萊夷（ライイ）、除戒（ジョカイ）、百越（ヒャクエツ）、氐羌（テイキャウ）、群狄（グンテキ）、群貊（グンハク）等は

これ等蠻族であり、多くは漢　族に同化された。

【漢族の同化力】　漢民族の最も著しい特色は、他の強大なる民族から時に武力を以て徹底的に征服せらるゝことがあつても、彼等は常に文化と經濟とを以て征服者を征服同化して行くことである。

　抑も漢民族の住地たる支那本土の北部は彼の廣漠たる滿洲、蒙古、新疆及び中央アジアの大草原であつた。初めこの地方に住んで遊牧をこととしてゐた慓悍な民族が、氣候的時變等のために生活に苦み或は强き酋長を得て奪掠を擅にするが如きに際し、一度鞭を擧げて南下すれば向ふところ敵なく萬里の長城も一朝にして奪取せられ黃河流域の豐沃な平原は忽ちにしてこれ等闖入者に占據せられ、酋長はこゝに國を建て、或は「元」と號し或は「淸」と號する。その從者は周圍の綠野千里の間に耕耘する漢人農業者の安定な生活を羨み、水草を追うて移住した過去の不安定な生活を脫してこゝに農業生活者と化する。彼等は慓悍であつたが何等の文化を持たない。一度漢族の文化に接し農耕の法を授けられるに及んでは、勇敢なる征服者は忽ちにして漢文明の心醉者となり二代、三代と年處を經るに從つて風俗、習慣、血統等悉く漢民族に沒入して闖入者たることも忘れ、祖先傳來の漢民族を以て自ら許すに至るのである。

　最近の例を以てすれば滿洲族は數百萬の人數を以て三億餘の漢民族を殆ど三百年間も統御したけれども、漢民族は歷史の一場面に生彩を放つが如き事實なくして、靜かに、絕えず、營々として山東、河北方面から滿洲に入り淸朝の倒れた時には既に滿洲は明かに漢人種のものとなつてゐる。卽ち當時滿洲の住民一千六百餘萬人中、滿洲族はその一、二割を數へられるに過ぎない狀態であつた。それ故他の蒙古にせよ、新疆にせよ、彼等にとつてよりよき生活を營まれ得る處で交通の便のある處ならば、何處にでも往けないところはなかつたのである。

【漢族の發展力】　何故に彼等は斯くも發展力が强いか、その原因は種々あらうが、その第一は身體が强健で寒暑何れの氣候にもよく適應することである。

　その第二は廣漠なる其天地から養はれたことと考へられるが彼等には國家とか、國境とかの觀念が海に圍まれてゐる日本人などに比較して甚だ薄弱なやうである。涯しも知れぬ大平原に住む彼等は已れの住む所を以て中華と考へ居り、到る處が何れもその鄕國であると考へてゐるやうである。

それ故に山東や東支那のやうに人口の密度が多く生活が困難になれば、相率ゐて滿洲や蒙古や諸外國に移民を企てる。而も海外に於ける政治的、社會的壓迫に堪へる力が强いので到るところに移民として成功してゐる。

　然し一方から云へば衞生思想の發達しないこと、勞銀が廉くその生活程度が低いこと、移民先の風習に同化されないこと等の理由から嘗て盛んに移民した濠洲、南北亞米、南阿等では移民を拒絕されてゐる。

　然し熱帶地方で白人の移住に適しないやうな處では盛んに活躍し、その海外にあるものは數百萬或は千數百萬人と稱へられてゐる。殊に南支那の福州、厦門、汕頭、廣東等から年々出る華僑は盛んにインドシナ半島、マレー諸島、比島等に移民しシヤム、交趾支那等の米作地においては懶惰な土人に代つて農耕に從ひ、マレー聯邦に於てはゴムの栽培に、錫鑛山に、最も能率を擧げて勞働してゐる。

　彼等は又頗る商利に長じてゐるのでシンガポールを始め、サイゴン米の集散地ショロン、さては砂糖生産の豐かなジヤヴアに於て頗る優越な地歩を占め、その經濟的勢力は各方面に亘つて拔く可らざるものがある。

【漢族の長所】 漢民族程暑さ寒さに強い民族は尠い。山東苦力の滿洲に出稼ぎするものが嘗ては黒龍江を渡つてシベリヤに行きその嚴寒と戰つてゐる者が多かつたと共に、スマトラ、ボルネオ等の赤道直下で孜孜として働いてゐる者も亦甚だ多い。これは專らその體質が頑健なるためであらうと考へられる。七、八月の中南支の都會は正午頃から百度を越え、それが夜の十時を過ぎなければ冷凉を覺えない。歐米人も日本人も皆膏汗を流して酷暑に苦しみ、夕方からは自動車を驅り然らざるものは人力車により江岸を往復して凉を入れてゐる。ところが車上の客は弱り切つてゐるのに、これを乘せて走る支那人は寧ろ疾走して尙餘裕があるのである。頑健はかゝる勞働者階級のみかと云ふに決してさうでなく、上流階級のものも驚く可き健康を保有してゐる。

又忍耐力强く勤勉で勞働を厭はない。上海や大連の埠頭に働く苦力は四五十貫もある荷物を運搬して苦しさうな顏もしない。轎夫の靑い顏をし痩せ衰へたやうに見えるものでも一度客を得れば一日に十餘里を行くと云ふやうなのもその一つである。

【漢族の短所】 然るにこれ等の長所を有する漢民族の中國が今日まで何故に國家として頗る不振を極め、國內は爭鬪に次ぐ爭鬪を以てしてゐたか、その原因も亦種々あらうけれども先づその最とすべきは彼等が國家的の觀念が乏しく、且つ利己的であることであらう。その因つて來るところも亦一、二にして止まらないであらうけれども、廣漠無涯にして國境、國家等の觀念を明かにすることの出來ないのもその一つであらうし、歷代の惡政が國家、領主を一の搾取機關と見るに到らしめ國家の恩惠を認める等のなかつたのもその一つであらう。

とまれ彼等が一國家として團結する力の弱いことは四億餘の人口を以つてして尙今日の如く世界政局の上に重きをなさなかつた理由であらうが、支那事變を契機とする新政權の成立は東方道德の眞義發揚により近代國家としての體勢を整へつゝあり隣邦日本の共助を得て茲に劃期的な輝しい將來に向つてスタートしたのである。

○滿洲族

一名ツングース族とも稱し二百萬乃至五百萬の人口を有する。古の金卽ち女眞の同族であり三百年前淸朝を興したのも亦この民族である。

明代には吉林、黒龍江(舊)の兩省、遼寧省(奉天、安東、通化)の東北部に住したが淸の勃興と共に多く支那本部に入り漢族と同化して殆ど自己の言語すら忘失するに至つた。滿洲八旗と云ふのは淸朝の時滿洲族に男子が生れると八旗の兵籍に入れられ、丁年に及んで兵役に服し八旗兵となつたもので北京その他の主要都會に配置され守備に當つた。現在では殆ど漢民族に同化せられ、その純粹なものは滿洲の東北部に至つて之を見ることが出來るのみである。

○蒙古族

往時は黒龍江の上流地方に住み、遼や金を服屬して居つたが成吉思汗の起るに及んで遂に世界に名を轟かすに至つた。その住地は現時內外蒙古は勿論、廣く他地にも及んで人口大約二百萬と推せられるが、昔時は比較的狹小な地域に限られ成吉思汗勃興以前には寧ろトルコ族の住地であつたのである。

大別して東蒙古人と西蒙古人とに分ち前者は東部蒙古に住んで通常蒙古人と稱せられ、カルカ人とも稱し成吉思汗も亦この族中から出た。今尙遊牧の民が多く移動住宅包(パオ)に住む。東部內蒙古附近の蒙古人は漢民族化して半農半牧の生活を營んでゐる。

後者は衞拉特(エレート)、瓦剌等の名を以て東洋史に散見するものでカルマク人とも稱せられる。西蒙古から新疆省の北部に住し一部靑

海にも及んでゐる。生活狀態は前者と異らぬが言語が異つてゐる。

別に烏梁海族と云ふものあり蒙古の西北部唐努烏梁海地方に住み最近ソヴエートの勢力範圍である。他にブリヤト族があるがこれは滿洲東北部に住んである。

○苗　族

支那の先住民族であつて漢民族に追はれて西南の山中に遁れ現在は主として貴州省を本據とし雲南にも少くない。大和民族に追はれたアイヌと類似した關係にある。多く農業を營み土地に依つては牧畜をも行つてゐる。嘗ては盛んに漢民族に抵抗したが今は從順である。

○西　藏　族

この種族は現今では多く農牧業に從ひ文化の程度は甚だ低い。農業者は土または石をもつて平屋根の家を造り大麥の煎餅を常食としてゐる。牧畜業者はヤク、羊等を飼養しヤクの毛で織つた黑色の天幕に住み四季によつて山地を上下して遊牧してゐる。ヤクは牛と羊との中間にある動物で駄用にする外乳と肉とは食用とし、毛は織物として聲價がある。彼等の風俗中特記すべきは貧民階級における多夫一妻の奇風であり富者はこれに反して一夫多妻のものが少くない。

支那の西南部に住む西藏族は約二百萬と推定せられ古代の氐羌、唐代の吐蕃、宋代の西夏等史上に重要な位置を占めたものの後裔であつて一般に熱心に喇嘛教を信ずる。

○トルコ族

東洋史上に匈奴、羯、柔然、突厥、回紇、結骨など種々の名稱を以て現れた諸族は大體に於てトルコ族であつたらうと云はれてゐる。

古人の「紫髯綠眼胡人」も亦この種族を指すものである。支那本部に住するもの少くなくこれ等は殆ど漢族化してゐる。纒頭回と稱するのはカシガル人であつて、頭部に布を捲きつけた回子の義である。天山南路(新疆)に最も多く職業の範圍も廣く回教を奉じ純然のトルコ語を用ひ支那に於けるトルコ族の最も開化したものである。

キルギス族はまた歷史上著名なものであり天山地方に住む。漢回と稱するのは甘肅、陝西等支那本部に住するもので漢族化してゐる。その他ロブール湖附近に住するものもあるが人口は極めて少ない。

【省別混血狀態】　支那の人口は複雜な體型の分布をみてゐるのであるが、主として比較的純粹であつた古代支那人に北方、西北方及び南方異民族の混血のためである。古代支那人は稍南方に住し後に北方にまで分布した。そして紀元初年頃から後代まで長く引續いて北方の萬里の長城に沿つてシュンヌ、ツングース、チアン等の諸種族と混血し紀元四、五世紀頃には可なりの變化を來した。又南方に於ても同樣四、五世紀までに已にシャン、モンクメール、チベトビルマ人と混血が行はれてゐた。尙蒙古人との混血は遠く揚子江の南方にまで及んでゐる。

現代支那人は古代支那人に如何なる種族の血が混じたかを各省別に推定すると凡そ次の如くであるとなしてゐる。

河北省	朝鮮人、シュンヌ、ツングース、蒙古人、モンクメール
山東省	ツングース、蒙古人
陝西省	チアン、シュンヌ、ツングース、蒙古人、モンクメール
甘肅省	チアン、シュンヌ、ツングース、蒙古人
河南省	ツングース、蒙古人、モンクメール
江蘇省・浙江省・福建省	シャン、モンクメール
湖北省	シャン、モンクメール、ツングース、蒙古人
湖南省	モンクメール、蒙古人

貴州省　モンクメール、チベトビルマ人、蒙古人
江西省 廣東省 廣西省　シャン、モンクメール、蒙古人
四川省　シャン、モンクメール、チベトビルマ人
　　　　蒙古人
雲南省　シャン、モンクメール、チベトビルマ人
　　　　蒙古人、ネグリト(矮小種族)

以上を要約するに現代支那人は廣頭狹鼻の古代支那人、狹頭狹鼻のツングース、稍狹き廣頭狹鼻のシャン、狹頭廣鼻のモンクメール及びチベトビルマ人等の混血によつて複雜な體型を形成し、それ等の各々の中心地は古代支那人は東部支那、ツングースは北部、シャンは南西部、モンクメールは南部、チベトビルマ人は西部、それに北部のシュンヌ、全部に亙る蒙古人等の血が混り合つて今日の支那人の人種的構成が出來上つてゐるものと云へやう。

政治

民國臨時政府

【臨時政府の成立】　新政權樹立の動機は河南省民代表三千名、昭和十二年十二月三日、彰德に於て聯合大會を開催した時に端を發し、これに俶して各地の治安維持會及び自治政府が一勢に新政權樹立の要望を明白にしたのに始まり、多年の黨治下に民衆と辛苦を共にしてゐた北支の長老政治家は蹶起して同年十二月十四日大總統府の居仁堂に於て嚴肅盛大なる新政權成立の式典を擧げたのである。

新生した中華民國臨時政府は議政委員長湯爾和、行政委員長王克敏、司法委員長董康諸氏の連名による友邦日本國民に對するメッセージにおいて、

「民主國家を恢復し黨治を芟除して共產主義を絕對に排擊し、東亞の道義を發揚しその結實を圖る決心」を表明し親日の手を差し延べた。

【施政方針】　政府の重要人事を發令し陣容を整備した中華民國臨時政府は民國二十七年の新春と共に輝かしい建設の步武を進めたが、各般に亙る建設プログラムの大綱を擧げると左の如くであり、爾來軍部其他と協同し邊境宣撫工作と相俟つて着々實績を擧げ正式政府への移行を進めつゝある。

一、敎育その他
　敎育、文化、社會施設の普及徹底による文盲及び貧民の救濟、赤化竝に排外思想の廢絕を期し、剿共滅黨の目的を遂成すると共に新民主義敎育思想の普及を圖り法院、監獄、その他司法制度を改善整備し、將來の治外法權撤廢に備へる。

二、地方政權の接收合流
　冀東防共自治政府の合流を始め地方政權或は自治政府の合流を期す。卽ち河南省自治政府、山西省臨時政府、蒙疆政權、山東省臨時政府の合流は勿論中支政權とも極めて緊密な聯絡を圖り治安の維持及び民生の向上に協力する。

三、正式政府への移行
　臨時政府は各般に亙る治績擧り、內容實質共に充實整備した曉には國家の機構に飛躍的革新を加へ正式政府に轉換する大本を決定してゐる。

四、交通、通信機關の整備
　鐵道、電信、電話の整備は治安と密接な關係にあり政府としては各鐵路局その他の諸機關を鋭意督勵して可及的速かな復舊を圖る、一方根本的整備改善の具體的方策を決定する。

五、災區の救濟事業
　農村經濟の更生と治安の回復は新政府の最も肝腦を碎いてゐるところであるが、これと密接な關係ある災區救濟事業は最大の努力を傾注してゐる。卽ち賑災部が中心となつて應急及び根本二樣の對策を立案、根本對策としては水利事業及び土木事業による民生の福利增進を圖る可く大規模の工事を起し、今や建設の眞只中で相當の成果を期待されてゐる。

六、治安維持機關の充實
　治安部では敗殘兵の宣撫と敎化に乘り出し更に地方政權と聯合協力して不良分子の掃滅を圖り、又地方警備機構の整備に全力を傾倒し警察機關、保甲團、保安隊等の組織を强化擴充して恒常的治安の確保に當る。

七、經濟產業開發
　產業の開發と經濟的諸建設を全班的に展開し各部門の統制ある開發を行ふため中樞機關として日支經濟協會の機構下に鐵道、港灣、鑛山、電信、電氣等諸般の重要產業機關が統制運營される段取りとなる、日

本の對支國策を遂行すべき北支開發會社の活動と相俟つて劃期的飛躍を行ふ。

八、金融機構の整備

疲弊した農村經濟と産業開發のための金融機構の整備は焦眉の急を要する問題として第一位にあげられてゐるが、中國聯合準備銀行の設立により已に通貨の統一を了し諸事順調に進捗してゐる。

【組　織】中華民國臨時政府の根本法である議政、行政、司法の三委員會の組織大綱、行政部、治安部、教育部、賑災部等各部會の組織大綱は昭和十二年十二月三十日議政委員會に於て正式に決定し、翌年一月一日附を以て公布、即日實施すると共に各委員、部長、局長その他首腦部も夫々正式に就任し、新政府の基礎は確立されるに至つた。

その結果政府は一月四日の政務開始と共に各組織の大綱を發表し更にこれに基いて法令を發布し內治、外交、財政、産業、教育、交通等諸般の施政を實行に移し、中華民國更生の巨歩を進めてゐる。

【新政府の陣容】

行政部	王克敏
治安部	齊燮元
教育部	湯爾和
司法部	朱深
振濟部	王揖唐
實業部	王蔭泰
財政部	汪時璟

民國維新政府

【維新政府成立】支那事變が國民黨の誤つた政策によつて發生し多數の良民が塗炭の苦しみを嘗めるに至つたため、かねての反感が一時に爆發して「打倒國民黨」「打倒南京政府」の聲が街頭に高く叫ばるゝに至つた。而して國民政府を對手としない治安維持會等々の團體が各地に成立し、國民黨、共産黨を排擊して有力にして善政を布く政權の樹立が國民の聲として要望され民國二十七年三月二十八日南京に中華民國維新政府が成立されたのである。

【機構と施政方針】中華民國維新政府は三權分立の憲法制度を採用し行政、法制、司法の三院を最高機關とし行政院の下に外交、內務、綏靖、財政、教育、交通、實業の七部を置いて政治を行ふことになつてゐる。

新政府の各院各部長官の顏觸は左の如くである。

行政院長	梁鴻志
立法院長	溫宗堯
外交部長	缺
內政部長	陳群
綏靖部長	任援道
財政部長	陳錦濤
交通部長	江洪杰
實業部長	王子惠
教育部長	顧澄
司法行政部	胡礽泰

中支新政權も北支政權と同様に機構上では合議分擔の形式を採り、我が國の總理大臣に該當する最上級者の規定はないが、この點も南北相類似し行政院長が代理總理のやうな役割を引受けるもののやうである。

【維新政府政綱】

一、三權分立の憲政制度を實行し、一黨專制を消滅す。

二、極力共産主義を防滅し、赤化し危險を東亞に及ぼさしめず、以て國本を定め亂源を消す。

三、外交は平等を原則とし、國權を喪失せざることを主旨とし、世界の狀勢に應じて東洋平和を謀り、締盟各國との永久的睦誼を確保す。

四、各省災區の難民は原地歸還の方法を講じ、本來の業務に服せしむ。戰場とならざりし地方に於ても保安組織を設け、匪賊討伐地方肅淸を圖る。

五、失業救濟、資源開發、工業振興、農産物改善等は國家指導の下に廣く國外の資本を仰ぎ極力友邦との經濟提携を圖る。

六、既成の商工業及び金融組織を助成して穩健なる發達を謀り國富を增加す。

七、中國固有の道德文化に基き世界の科學知識を吸收し以て理智精粹、體力强健の國民を養成し、從來の矯激なる教育、淺薄なる學說は根本的に廓淸す。

八、財政は收支の兩利を增進す、從前の不急の事業、苛酷なる課税にして人民に害あるものは總てこれを除去す。

九、人材を登用し、學識あるものをして十分に國家の爲に力を盡さしめ、言論を公開し、國人をして隨時政治を批評せしむ。

十、官吏の綱紀紊亂を嚴懲、賞罰を勵行、行政機構を改革し以て吏員を肅正す。

中華民國政府聯合委員會

【政策及組織】 昭和十三年九月二十二日北京に於て臨時政府側並維新政府側の各委員出席して本委員會の成立をみた。その權限及び政策は大體次の通りである。

即ち同委員會は兩政府の共通政務事項を連絡統制すると共に兩政府に代つて近き將來誕生すべき新中央政府の樹立を目的として樹立されたもので、蒙疆政府の參加は暫く將來の問題として、差當り臨時維新兩政府の協定及諸政策協議の必要に應じ隨時會議を召集これを共同處理し以て兩政府間の緊密なる連絡統制を圖らんとするものである。そして差當り之が執行機關としての意味は殆どなく、委員會の決定事項は其まゝ兩政府の手に移牒して執行されるものである。近く更に廣範圍な組織權限を有する新中央政府が樹立される場合には、これが實質的にその母體となり、その育成機關として、發展するものである。この意味で同委員會の成立は、新興中國建設の歷史に輝しき一線を畫したものと云へる。而して同委員會の基調として取上げられてゐる諸政策は。

一、中支の幣制確立。これに伴ふ北中支の幣制調整。
二、稅制改革、輸出制度の制限其他財政々策の確立、輸出入稅率其他關稅政策の合理的是正。
三、治安確立の爲軍事的共同聯携。
四、交通路の調整通信郵務の統制。
五、蔣政權自滅的外交に對し日滿支三國提携を基調とする新外交政策の强化。
六、國民教育の根本改革、教育行政の統一

等であるが同委員會の顏觸れは

主席委員	王克敏	(臨時政府行政委員長)
常任委員	朱深	(同法制部長)
同	溫宗堯	(同立法院長)
委員	王揖唐	(同內政總長)
同	梁鴻志	(維新政府行政長)
同	陳群	(同內政部長)
事務部長	陳籙	(同外交部長)
秘書長	李宣威	
政務處長	夏奇峰	

【汪精衛の重慶脫出、吳佩孚蹶起】

汪精衛は昭和十三年十二月十九日空路重慶を脫出昆明經由ハノイに到着某外人邸に落着いた。之を知つた國民政府部內、特に蔣介石の狼狽はその極に達したが、十二月三十日汪は隱れ家に於て東亞永遠の平和確立と中國救國の精神に則り、速かに日本政府の雅量と矜持に信頼して和を講ずべき第一次聲明通電を發し、超えて昭和十四年一月八日更に第二次對蔣通電を發し和平工作に對する重慶會議の內容、國民政府の共產派跳梁の事實を暴露し、自己の公明なるを天下に表明するの擧に出でたものである。

蔣介石は三月二十一日汪の腹心曾仲鳴を暗殺せしめたが、汪は同志を失つて益々和平救國の決意固く、三月二十八日更に第三次聲明を發し、抗戰の暴擧が遂には中國を亡し、民衆を塗炭の苦みの中に投ずるものなることを言々情をつくし理を說いて四億民衆に對し眞劍に自らの所信を披瀝する所あつた。

また中國將領の最高峰にある吳佩孚は昭和十三年一月二十日第三次聯合委員會出席中の王、梁兩氏の蹶起懇望により二十六日自ら江天鐸へ回答の通電を以て出廬蹶起の決意を天下に闡明するに至つたが、これと相應呼して臨時、維新兩政府の首腦部を加へた和平救國會が一月三十日成立し吳將軍は綏靖委員長に就任自ら陣頭に立つて和平救國の人柱となり馬を開封に進むるに至つた。爾來王兆銘によつて數次に亘り和平救國が叫ばれ、正統國民黨結成の運動も胎頭し、舊國民政府要人次第に蔣政權より離脫して汪兆銘を主班とする新中央政府樹立運動は近く實現を見んとしてゐる。

新民會

昭和十二年十二月北京に中華民國臨時政

府の正式成立を見るや、續いて中華民國新民會が結成された。新民會は新民主義を奉じ政府と表裏一體となり、中國に於ける唯一無二の組織的民衆團體として日滿支三國の共榮を顯現し、掃共滅黨の徹底と世界平和の確保を目的とし新中國の母體をなすものと謂ひ得るのである。

　中華民國人及び新民會の目的を達成せんとする熱意に燃ゆる日滿人を以て構成分子とし會長には政府首班者を推戴し、民衆の教化と育導の團體として政府の施政を圓滑ならしむるを本來の使命とする、從つて活動の對象を農村大衆に置き下層社會より安居樂業の社會を築き上げんとするもので同會は「大學」巻頭の第一ページにある「大學の道は德を明かにするにあり民を新にするにあり」の新民の二字をとつて以てその名稱とした誠に意義深いものである。

　當面の任務としては新政府統治地域に於ける民衆宣撫、民心作興、民生再建に協力指導を與へることにあり、從つて地域的には鐵道沿線地區の確保、部門的には國共兩黨に對する理論鬪爭の展開、鄕村青年の尖鋭反共戰士としての訓練、農村經濟の應急的救濟、合作社、互助社の運營と云ふ方面に力が注がれ、最近に於ける業務實績をみるに登記會員數三、〇八一人、供給延人員約六七、〇〇〇人となつてゐる。

新民會

- 會長
- 副會長
  - 中央指導部
    - 部長
    - 次長
    - 委員
    - 總務部
      - 總務科
      - 企劃科
      - 調査科
      - 主計科
    - 教化部
      - 組織科
      - 社會科
      - 宣傳科
    - 厚生部
      - 業務科
      - 合作科
    - 中央指導部委員
    - 全國聯合協議會
    - 各省竝都市指導部
    - 東京事務所
  - 監察部
    - 部長
    - 次長

・國民政府

蔣の政治組織は國民黨治であるから未だ依然として全國的な國民黨の組織である。

　國民黨の最高機關は國民黨全國代表大會を二年に一回開くことになつて居り、此大會で中央執行委員が選ばれ中央執行委員會が組織されるがそれも從來は殆ど蔣介石の勢力下にあり、それから九人の常務委員が選ばれるがそれも蔣介石が中心である。この常務委員の下に以前は民衆運動のため農民、勞働、商民、青年（學生）、婦女、海外等の諸部を設け、共産黨がこれに據つて大いに活躍し共産黨が逐出された後には國民黨の左派がこれに據つてゐたが、その後組織、宣傳、海外の三つを殘し他は民衆運動指導委員會の下に纏め各主任には蔣の腹心を以つてした。

　政府組織は最高幹部に政府委員があり蔣介石以下多くはその徒黨が固めてゐる。實行機關としては所謂五院制度で立法、司法、行政、考試、監察の各院があるが立法院も他の國の議會と異つて何等立法上の獨立權はなく日本法制局のやうなものである。司法院は司法省に同じだし考試院と監察院は支那に昔からあつた特殊のもので考試院は官吏其他の登用試驗をやり監察院は官吏の非違を監察し惡いのは彈劾する。そこで實際に行政をやつてゐるのは行政院であつて日本の內閣に當る。行政院には日本の省に當る部と云ふのがある。內政、外交、財政、軍政、海軍、實業、教育、交通、鐵道の各部があるがその各部長には蔣の一族や徒黨で占めてゐる。要するに蔣介石は國民黨部の主腦者にして黨總裁とも云ふ可き地位にあり黨部及び政府をその一黨で堅め全く獨裁的地位にあつたのである。

　然るに支那事變勃發による皇軍の神速果敢なる行動と相俟つて各地に新政權は樹立せられ、今では次第に西部に逐ひ詰められ目下は僅かに成都重慶、昆明の線を死守す

るに過ぎず。曩に宿老汪兆銘の離脫あり、今又歐洲戰爭勃發により英佛よりの軍事的援助も賴み少く內は黨共互に相反して、全支に漲る反蔣和平招來竝正統國民黨結成の聲の內に最後のあがきを續けてゐる。

産業

支那は産業から見れば完全な農業國である。尤も西部高地の半乾燥地方には牧畜を主たる業としてゐる住民もあるが、近代國家の特徵とも云ふべき工業殊に重工業の發達は未だ甚だ幼稚な段階にとゞまつて居り、全體としてみる支那の産業發達は近代國家の水準に達してゐない。

【産業不振の原因】 由來支那の資源に對しては世界各國共異常な關心を以てこれを注目し、支那自身も亦地大物博を以て任じて居り、西洋諸國の對支通商要望は遂に深刻なる利權獲得競爭にまで發展したのである。然るに近年支那に於ける多數民衆が極端なる貧窮狀況に陷り而も近き將來に於てこれが恢復の期待を持ち得ざる有樣であつたのが事變前までの狀態であつた。即ち全人口の約八割を占むる農民の徹底的疲弊を始めとし、商工業も著しい不振に陷り土地の尠からぬ面積がサヴィエート區域に變じ國內には無數の貧民が充溢するに至つた。而も貿易上に於て農業國でありながら食糧品の輸入が每年莫大な額に上り、また工業品の輸入も依然多く一方輸出方面に於ても連年輸出市場の閉塞に惱まさるに至つてゐたのである。

凡そ支那は古來極端なる重農主義を採用し農を以て立國の礎となし來つた國で、今日でも支那經濟社會全般の基底的要素をなしてゐるのである。而も人口は多いとは云へ未だその面積に比し必ずしも過剩の域に達しないにも拘らず、國民の主要食糧品たる米及び麥を始めとし砂糖その他食糧品の供給を外國に仰いでゐるのみならず、棉花、石炭及び石油その他の原料天産品をも外國より輸入してゐる狀態である。

豐富なる資源を有する支那の産業が今日まで發達しなかつた原因は幾多存するであらうが、今これを概括すれば第一に舊國家の施政宜しきを得ず未だ中央集權的體制を採り得ず政治的に紊亂してゐたこと、第二に交通發達せざるため各地の經濟的發達が阻害されてゐた許りでなく、地方の發達はその程度を異にして孤立性を維持してゐたこと、第三に經濟組織上に缺陷の多いこと等がその主なる原因をなしてゐたものと云ふことが出來る。

【今後の問題】 支那の如き農業國では大體農業を盛にし農民大衆の生計を向上させるのは勿論緊要のことだが、漸次資本の蓄積を計つて支那土着工業の勃興を助成するの必要がある。これによつて又農業にも國內市場を確保する結果となり惹いては日本が、外國から搾取されない土着工業の興るを援助して、從來ソ聯の赤化工作や或は英國の搾取的植民的政策の立場から行はれて來た階段とは全く違つた新しい民族産業勃興の指導的立場が生れてくるのである。

一口に支那と云つても北支と中支とは經濟工作上の見地からは一應別々に考へねばならないが、北支は天然資源の關係から云へば割合に鑛業資源が豐富であり、中支は農業資源が多い。北支はその上地理的關係もあつて日本と提携してブロック的に〇〇工作を助成して發展せしめて行く可能性が多く、重工業や化學工業を中心とした大産業部門が盛になるものと思はれる。

中支は貿易の中心地でもあり紡績とか、蠶絲業、製粉、雜貨業とか云ふ輕工業方面が盛になることが豫想される。しかし中支にも鐵鑛石が相當豐富で又軍需的な輕金屬類もかなり多量に埋藏されて居りその上揚子江岸にあつて船便の都合よくかうした鑛

工産業も勃興する可能性も亦充分である。

然しさう云ふ産業開發の前に復興の第一着手として通貨と金融部面に於てこれまでのやうに、英米の資本に依存しない新しい親日的な獨立の幣制と金融機構を代表する機關として既に北京に本據を置く中國聯合準備銀行の開設に繼ぎ上海には華興商業銀行の設立を見、急速度に幣制統一工作は進みつゝある。

産業開發に對しても金融的援助機關が必要とされるのであるが、今北支と中支とに夫々産業開發及び振興の兩國策會社が登場して、幾多の子會社も動員し具體的な事業にとりかゝつた。又民間の支那銀行も日本及び外國の銀行も次第に新情勢に順應して夫々積極的に機能を發揮しつゝある。

【北支産業三年計畫】 北支最高當局では修正日滿産業五ヶ年計畫に合致せしむべく昭和十四年六月を第一年度とする北支生産力擴充産業開發三ヶ年計畫を樹立しこれが實行に邁進することとなつた。本計畫の大綱は資金十四億圓、鐵道は戰前三千七百キロを五千キロに、港灣戰前七百二十七萬トン呑吐能力を二千五百萬トン呑吐能力に、鐵は鑛石三百萬トン、銑鐵八十萬トン、鋼材四十萬トン、出炭量三千五百萬トン、石炭液化百萬キロリットル、鹽戰前百十萬トンを二千五百萬トンに、棉花五百萬ピクルとそれぞれ十六年度末までに生産の擴充をはかるもので、これが實現は日滿を含む新東亜建設の産業的基礎と實力を築くものとして各方面から多大の期待をもつて注目されてゐる。

農業

【耕地・農家】 全人口の八〇%が農民で、人口極めて稠密であるために、農法は極度に集約的となり、貧農が大部分である。併し土地の利用は甚だ進み、例の階段耕作や灌漑耕作が比較的發達してゐる。

大體支那の統計は不完全であるが、支那本部だけの耕地は七千萬陌乃至九千萬陌と稱され日本の約十一倍に當る。全面積に對する耕地も一八%乃至二五%位になつて居り日本内地よりも大きいのである。そして最大の耕地は北支那平野、揚子江三角洲、湖廣低地・四川盆地・珠江三角洲等にある。

又支那本部の農家戸數は約五千六百萬と見られ、日本内地の十倍に當る。一戸當りの耕地は一、一六陌で日本内地の一、〇六陌よりは少し多いが日本と同じやうに小農で勞力を集約的に用ひる所謂園農が行はれる。

【農業不振の原因】 農業不振、農村疲弊の原因として次の如きものがあげられてゐる。

一、外來的原因 近時支那の農村も自給自足を漸次脱して農産物を商品化した。然るに最近の國際貿易が萎縮したゝめに支那農産物の國際市場も縮少した。而も外國食糧品のダンピング等もあり之等の事情が農村破壞を招來した。

二、內在的原因 主要なるものとして次の如きものがある。

1 土地の缺乏 人口過剰にして而も地主が土地を壟斷してゐる。

2 生産の減退 農具・農法の幼稚と失敗や土地の分散、天災、人禍等がこの原因である。

3 金融の枯渇 支那の資本は大都市に集中し、田舍はその便が少く且極めて高利である。

4 封建勢力の壓迫、田賦の激增、地價の低落、土地の兼併、農産物價格の人爲的操縦等が之である。

5 交通設備の貧弱 有無相通じないので一方で供給過剰、價格低下が起つてゐるが、他方では飢饉が生ずること多い。

【支那の農業地域】 ウイツトフオーゲルに從へば支那本部は次の如き農業地域となる。

一、(西部及北部の國境地域) 雨量が不充分で荒蕪地、草原となつてゐる所では灌漑によつて小麥、黍作が可能となる。

二、(本來の北支那) 之は次の二つとなる。

1　西部　温帶で雨量は少い。山岳の黄土地は大部分灌漑され得ない。西北部の谷間には冲積土や薄い黄土がある。

2　東部　大平野があり灌漑が行はれ小麥、黍が栽培される。

三、(中支那) 大平野は冲積土又は黄土で、補足的灌漑が行はれ、米を主産物とする。

四、(南支那) 米の二期作が行はれる。

五、(西南支那の邊民諸省) 氣候區々としてゐるが主に温帶的、亞熱帶的である。灌漑を伴つて米作が行はれるが農業には殆ど重要ではない。

農産物

氣候の關係で農産にも地方的な相違がある。北支那には高粱、粟、小麥、玉蜀黍、豆類、煙草、棉花等が多く栽培され、中支那では米を第一として棉花、茶、麻、煙草の栽培が行はれ、南支那では茶、甘蔗、柑橘類、バナナ、パイナップル等を產し、蠶繭は中南支共に行はれてゐる。

【米】　中南支の氣候は年平均一五度乃至二〇度で、大體一、〇〇〇粍乃至二、〇〇〇粍に及ぶ雨量の季節的分配も比較的平均し、而も中支以南の土壤は河川によつて作られた冲積土壤である爲、四川、湖南、江蘇、湖北、安徽、浙江、廣西の七省には水田が多く、米は支那農產物の首位を占めてゐる。米は住民の主食物となつてゐるが、人口の極めて多いこと、從來の政治的不安定、栽培技術の拙劣等のために供給は常に需要を充すに足らず、防穀令を以て輸出を禁じてゐた許りでなくビルマ、佛領の印度支那等から年々輸入を仰いでゐる狀態である。米產額の確實な數字を知ることは出來ないが大約六千萬瓲と云はれてゐる。

【茶】　製法によつて綠茶、紅茶、磚茶の別あり、輸出は綠茶が最も多く、蘇聯、英佛米等に向けられてゐた。茶は支那輸出品中重要なるものゝ一つをなし、又自國內で消費される額も莫大で、上下の階級を問はず喫茶の習慣あることはその程度日本の比ではない。斯くして到る處の都市には大小の茶館、茶亭が設けられ、茶は支那人生活と離すべからざるものとなつてゐる。

產地は温暖な南東部の丘陵地、殊に浙江、湖南、湖北、福建、江西、安徽、廣東等の諸省に多く、產額は大凡二十五萬瓲と推定され世界の首位にありうち約三萬七千瓲を輸出してゐた。

【棉　花】　東經一一〇度から以東北緯二〇度以東に栽培され、江蘇、河北の兩省が主產地で、產額約六十八萬瓲乃至八十五萬瓲に及び米國、英領印度に次いで世界第三位を占めてゐる。纖維が短くて良質ではないが、國內に於て多く需要され、日本にも相當額輸出されてゐる。

【粟】　河北・河南・山西等北支諸省に多く產し地方民の主食糧品の一つである。

【玉蜀黍】　河北省を第一とし河南、山東、山西、陝西地方に多く四川省にも作られてゐる。

【高　粱】　山東河北等の北支平野に多く產し天津に於て集散されてゐるが、近年滿洲からの輸入額が次第に多くなつてゐる。

【小　麥】　夏小麥、冬小麥の二種あり、前者は主に舊綏遠、舊察哈爾、河北省北部等に、後者は山東、河北省南部等より產し、天津に於て取引されるためそこに北支最大の穀物取引市場を作つてゐる。

【大　豆】　山東省を第一にして河南、河北等北支平野に多く栽培され、中支の江蘇、安徽の兩省からも少からず產する。滿洲國と共に世界最大產出國の一つであるが輸出能力はない。

【落花生】　廣く各地に栽培されてゐるが殊に山東、河南、廣東及び河北の諸省に多く、食糧用、製油用として國外に輸出される額も尠くない。

【煙　草】全國に亘つて栽培されてゐるが、北支では甘肅、河南、山東、中支では安徽、浙江、江西、湖南、湖北、四川、南支では福建、廣東、廣西の諸省が主產地である。

【麻　類】苧麻(ラミー)、大麻、亜麻等があり、苧麻が最も多く、揚子江の流域を主產地として九江、漢口は共にその輸出港である。

【繭】日本に次いで世界第二位を占め、その推定產額は二十萬瓲と云はれる。中でも浙江省最も旺んにして廣東、四川、江蘇の諸省之に次ぎ、浙江、江蘇の繭產額は全支の四割を占めてゐる。殊に兩省境太湖の周圍一帶に行はれ、南京、鎭江、無錫、蘇州、杭州、上海等の製絲、絹織物工業の都市を生ぜしめてゐる。かくて生絲と絹製品は支那の主要輸出品となつてゐる。

尙山東省は支那全土中で最も多額の柞蠶絲とこれによる繭紬とを出してゐる。

【果　實】山東の棗、河北の梨、山西の葡萄、福建の柑橘等が代表的のものである。

【其他農產物】棉實、亜麻仁、菜種、胡麻、蘇子、草蔴、甘蔗等を多額に產する。

◇農耕地と農家（下田氏に依る）

	一九二八年耕地 千陌	總面積に對する%	張氏調査耕地 千陌	總面積に對する%	農家戸數 千戸	總人口に對する%	一戸當り耕地 陌
河北	5,823	39.6	6,254	45.4	4,233	88.5	1.47
山東	6,853	44.6	6,799	44.1	5,918	86.9	1.16
河南	8,601	50.6	6,940	40.8	5,061	84.0	1.35
山西	3,061	19.0	3,730	23.0	1,874	82.8	1.96
陝西	3,325	16.5	2,057	10.5	1,364	73.0	1.47
甘肅	1,640	4.3	1,444	3.8	793	73.7	1.84
江蘇	4,546	43.0	5,632	53.3	5,056	78.5	1.10
安徽	6,230	43.7	3,387	23.9	2,682	70.8	1.23
浙江	3,072	30.4	2,531	25.0	3,164	69.4	0.79
江西	5,953	35.4	2,557	15.2	3,292	66.6	0.79
湖北	9,492	51.6	3,748	20.3	3,999	66.6	0.93
湖南	8,332	38.7	2,802	13.1	3,899	70.4	0.73
四川	9,361	23.2	5,916	14.6	4,975	68.5	1.16
福建	1,984	16.4	1,420	11.8	1,635	71.1	0.86
廣東	5,707	25.5	2,608	11.6	3,479	63.7	0.73
廣西	4,816	21.9	5,124	23.9	2,216	—	2.33
雲南	1,597	4.0	1,660	4.1	1,363	71.1	1.23
貴州	509	2.8	584	3.3	1,193	67.5	1.16
支那本部	90,856	24.8	65,209	17.8	53,968	74.3	1.16
察哈爾	779	4.0	1,024	4.0	309	78.4	3.31
綏遠	339	3.8	1,145	3.7	249	68.0	4.30
寧夏	—	0.4	133	0.4	54	71.3	2.27
新疆	607	0.5	841	0.5	304	63.2	2.45

◇農産物作付面積（單位千畝、但全土總計のみ千陌下田氏による）

	小麥	米	大豆	高粱	粟	大麥	玉蜀黍
河北	三二、三三六	六〇一	九、八〇三	二二、六九九	二四、三三〇	三、九四三	一五、五〇二
山東	四九、六八八	一九六	二九、九一六	三一、三二九	一、一五六	三、六七〇	五、九八三
河南	五九、五三八	四、〇三九	一四、三五三	一五、四二九	一九、二二〇	一〇、三七三	八、六三六
山西	一六、五三〇	一二九	三、二四八	九、八二四	一八、四二九	二、一二九	四、〇六五
陝西	一四、八二九	二、九一三	二、二〇四	一、九八三	四、九四一	三、一七六	三、七七二
甘肅	八、六五九	四四九	一、二九四	一、五三一	三、五五四	二、五一三	一、二八七
江蘇	四二、一二七	三一、六四一	一九、三三三	六、七三六	一、五七五	一三、二一〇	三、九三六
安徽	二一、二九五	三三、二三一	八、八四三	五、〇五一	四二九	七、一四〇	五〇七
浙江	八、九九六	二七、九八二	二、九二〇	一三一	五九五	四、五六六	一、一〇五
江西	四、三八九	三二、一九〇	四、六六八	一四二	七六〇	二、二二五	八〇
湖北	一八、七四八	二四、四五二	五、二八〇	三、六九九	二、二七〇	一〇、三二四	六、五三八
湖南	一三、四四四	二六、四九〇	二、九六三	一、四六五	八一三	一、九八四	一、七九〇
四川	一八、四三七	四五、七四七	七、五九九	五、五四四	九八四	八、二三六	一三、七五一
福建	四、〇二七	一三、六五五	一、六二九	二九	一、〇二九	六九八	—
廣東	一、一九九	五三、三七一	一、五六三	一七八	七九五	二四〇	一四三
廣西	—	—	—	—	—	—	—
雲南	四、四四三	一三、六五五	二、六七一	七八	六四三	二、〇四七	三、八八八
貴州	二、六四五	一一、九二四	二、三〇八	六六三	六九一	一、九二一	三、一七六
支那本部	三一〇、三〇〇	三二一、八二五	二三〇、五四六	九六、九七三	一〇二、三二四	八七、四〇五	七三、一三八
察哈爾	一、六四〇	一五六	一、〇三五	一、六五二	三、三五〇	六六四	四八
綏遠	二、六七六	—	—	一、九九七	四、一〇九	九七四	五一
寧夏	五〇三	二四八	七六	一〇九	一三六	七六	一七
新疆	四、七一〇	一、六七六	一四九	七四七	二三四	六二六	二、六三八
合計	一九、六五〇	一九、二九三	七、四八二	六、二三五	六、七七四	五、五一四	四、六六六

林業

西南部の人口稀薄な山地には大森林があるが、人口稠密な地方では森林は極めて少い。殊に北支や蒙古・新疆等には森林をみること稀であり總じて林業は不振である。

支那の山野も決して昔から樹木が無かつたわけでなく秦、漢の時代以前には森林制度が整備してゐたと云はれる。併し元來支那人には森林經營の考が無かつた上に、永年悪政の影響で政府の施設殆ど行はれず、自然のまゝに放置されて居り、其間に濫伐、山火事等が續いたので森林は全く荒廢してしまつたのである。

斯くて今日では中南支の一部を除いては木材の産が少く、所要材は殆ど外材に仰いでゐる。

一般樹木の外支那林産中の特産加工品として次のものが擧げられ藥用、塗染料などに供されてゐる。

桐油、五倍子、甘草、大黄、木耳、漆、木蠟、茶油、八角油

◇各省森林地面積表（單位千畝）

省名	森林地	官林地	省總面積に對する割合
甘肅	三三、一二七	一三一、三九七	二三・〇

寧夏	一八、一四七	一一七、九五五	三六・〇
陝西	四六、八六八	七〇、三二七	二四・〇
山西	一四、五六五	八二、五三九	二九・四
河南	一、四四九	七五、九二〇	二九・三
山東	一、六一三	六七、五五五	二九・一
河北	一、八九七	六一、三三九	一五・〇
四川	二〇五、八五三	九〇、八一七	二八・四
舊察哈爾	二、三三九	一一〇、二五五	二九・二
舊綏遠	三、六四八	一三九、一七	一七・四
江蘇	四、二一八	一二七、五六三	二五・〇
安徽	一〇、七〇一	五三、五〇八	二一・〇
浙江	一三、一二七	三一、八二四	三二・〇
湖南	六一、四〇五	一〇〇、一八八	二七・〇
江西	三〇、二八三	六八、一三六	二七・〇
湖北	三九、五二一	七三、七五五	二七・〇
南支五省	二四四、〇八四	五四三、四一四	

牧畜業

北部及び西部の高原地方には、風土に惠まれないから農業が出來ず、專ら羊、馬、騾、驢、駱駝、犛牛等の遊牧が行はれてゐる處がある。支那本部に於ては山西、陝西、甘肅の諸省の大部分は牧畜地帶をなし羊、山羊、牛、馬、驢、騾、豚、駱駝の飼育が盛んに行はれて、羊毛、駱駝毛、皮革等を出し、これ等は天津に運ばれて輸出され、その額は少くない。東部低地一帶は殊に豚と鷄との飼育が盛んで、其他牛、馬、羊、等の飼育も行はれる。

尚一九三五年の推定頭數は大體左記の通りである。

豚	六千三百萬頭
馬	百萬頭
牛	二千三百萬頭
水牛	一千二百萬頭
緬羊	二千二百萬頭
山羊	二千萬頭

【豚】各農家で之を飼養しないものはない程度で、肉は漢人の最も好むところ、豚毛は支那重要輸出品の一をなし、漢口・天津がその輸出港である。

【牛】漢人は之を食用とせず、主に農耕、運搬に供される。蒙古人は乳を用ひ、回教徒は肉、乳を食用とする。牛皮、水牛皮も亦重要輸出品で上海・天津から日本、米國に向けられ、生牛の輸出は日本に來る山東牛で有名である。

【羊】大約四千萬頭の羊、山羊のうち內外蒙古の一千三百萬頭、新疆の四百六十萬頭、青海の七十萬頭を差引くと支那本部だけで二千萬頭內外となる。支那の羊は所謂在來種で採毛量が少く、濠州羊一頭平均採毛量八、六封度に對し二封度—三封度に過ぎない。

一九三四年には五萬一千噸の產額があつたと云はれてゐるが之は濠州の四十五萬噸に比し略九分の一に當る。

水產業

【漁業】支那の漁場は渤海より黃海、黃海より東支那海、東支那海より南支那海に亘る三區と內陸の淡水漁區であるが、海岸線短く且つ漁政の不備と往年海賊の橫行によつて斯業の發達を阻害されてゐた。國民政府となつてからは漁業法規の制定、漁區の設置、一般水產業の保護獎勵計畫等により幾分進步の跡はあるが、著しき實績は擧つてゐない。殊に北支は中南支に比し海岸の屈曲少く、島嶼にも乏しく且つ河川湖沼の分布も極めて尠きため成績甚だ擧がらざる狀態である。

又中支は黃海より揚子江口以北を除きては屈曲甚しく海灣島嶼に富み好個の漁場をなし、內陸は揚子江、錢塘江等の大河及び洞庭、鄱陽、洪澤、太湖等の湖沼多く淡水魚の棲息亦尠からざるも之又他の產業に比して盛大ならざるは漁法の幼稚、大陸の面積の比し海岸線の短きこと、鮮魚の輸送圈の狹小なること等其の原因をなし大多數の人々は

獸肉及び鹽乾魚の輸入品を副食物となす狀態である。

◇沿海各地方魚獲量
(Chinese year book 1937 刋に依る)

	漁獲量(擔)	價格(元)
山東省	一、三九一、四五〇	一四、三九〇、三五〇
河北省	六四八、八〇〇	五、三五〇、〇〇〇
青島市	七一、五七四	六五一、〇八六
計	二、一一一、八二四	二〇、三九一、四三六
江蘇省	二、九九六、七〇九	三九、八四六、二〇〇
上海市	一、四六六、三七七	一六、五九一、一七三
浙江省	四、八八四、一〇一	九六、八九〇、〇〇八
計	九、三四七、一八七	一五三、三二七、三八一
福建省	五、七九二、六三四	一七、九三三、〇八六
廣東省	一、〇六六、六〇〇	二一、七五八、〇〇〇
計	六、八五九、二三四	三九、六九一、〇八六
鹽業	一八、三一八、二四五	二一三、四〇九、九〇三

【鹽業】 支那に於ける鹽資源は極めて豐富で井鹽石鹽、池鹽、海鹽の四種類に亘つて産出する。井鹽は鹽分が地下水に溶解せるのを汲上げて精製し、四川省の自流井或は雲南等に産する。石鹽は鹽分が岩石中に散浸してゐるのを水を以て流出し之を乾燥して製し湖南、湖北に多産す。又池鹽と稱するは別稱湖鹽とも云ひ山西、甘肅、青海蒙古地方に産し鹽湖及び乾涸せる鹽湖より採取せるもの、海鹽は河北、山東、江蘇、浙江等が主産地である。

一九三三年に於ける全支の産鹽量は四千三百三十六萬五千擔であるが一九二八－一九三二年の五箇年間の平均年産鹽量は次の通りである。

◇各地平均産鹽額 (單位千擔)

産地	數量
長蘆	三、八二六
河東(山西)	一、七一八
口北(察哈爾地方)	二一五
晉北(山西)	二一〇
山東	四、九九〇
淮北(江蘇)	六、七九〇
揚州	七一一
松江	二六二
兩浙(江蘇、浙江)	三、八三〇
福建	一、八三〇
廣東	三、六三二
雲南	四九三
川南	四、七八七
川北	一、四七五
甘肅、青海 新疆、寧夏	一六二
計	三四、九三一

鑛 業

【鑛業概觀】 國土の尨大性と複雜な地形の構成とによつて數多の鑛産を豐かに埋藏してゐるが、交通不便、資本缺乏、工業不振のためその開發は殆ど行はれず、大規模な鑛業の經營は多くは外國の資本と技術とによつて行はれ全體としての生産は余り多くない。

支那の金屬鑛床

一、川西滇北區　四川の西から雲南の北に至る地帶で金、銅、鉛、亞鉛等
二、貴州高原區　貴州の外四川、湖南、雲南にも及び、邊緣部の水銀が最も重要
三、湘西區　湖南西部一帶の山地でアンチモニー、金、鉛、亞鉛等
四、湘中區　湖南中部から廣西北部一帶を占め鉛、亞鉛、滿俺等
五、南嶺區　廣西中部の山地で鉛、亞鉛、銅、アンチモニー、錫、重石、蒼鉛
六、東南海岸區　浙江・福建の兩省及び廣東省東南部に亘る地帶の錫、重石、蒼鉛、水銀、銅、鉛、亞鉛等
七、山東臺地　東部の先カムブリヤ紀層中の花崗岩に伴つて金鑛
八、高原邊緣區　山西高原と貴州高原との東を畫する斷層地帶で、水成岩中に銅、鉛、亞鉛等
九、冀熱金鑛區　河北から熱河にかけて金
一〇、揚子江區　揚子江流域で大冶の如く花崗閃綠岩によつて造られた鐵及銅

◇主要鑛物生産高

	頓
石炭	二〇、八九七、三四一
河北省	七、七四九、四四六
山東省	三、五〇三、九四八
山西省	七、七〇〇、五四四

石油		パーレル
	陝西延長	二、六一三
		二二八噸
鐵鑛		
	湖北省漢冶萍鑛	一、三五九、五八二
	安徽省桃冲	三八二、〇〇〇
	同福利民公司	二八〇、〇〇〇
		一二〇、〇〇〇
マンガン鑛		噸
	廣西省武宣桂平	一、九二九
	湖南省湘潭等	一、〇〇〇
	廣東省欽縣防城	六一八
		五〇
タングステン鑛		噸
	江西省	六、三〇五
	廣東省	四、四八〇
	湖南	一、三二〇
		四五五
金		兩
	四川省西康	八六、九二六
	甘肅・青海	三〇、〇〇〇
	新疆・外蒙	一五、〇〇〇
		二八、〇〇〇
銀		兩
		一二一、五〇四
銅		噸
	雲南省東川	四一七
		四三一
亞鉛鑛		噸
	湖南省常寧水口山	一三、二九九
		一二、八四六
鉛鑛		噸
	湖南省常寧水口山	六、六七〇
		六、四六〇
錫		噸
	雲南省箇舊	八、〇〇四
	江西省大庾	六、九四一
		六〇〇
アンチモニー		噸
	湖南省	一三、五六一五
		一三、六〇五
食鹽		千擔
	淮北	三七、四八六
	山東	七、六五〇
	長蘆	八、〇〇〇
		四、四〇〇
硫黃		噸
	山東省淄川・博山	三、六四六
	山西省陽曲・陽縣汾西	一、五〇〇
		六〇〇
石綿		噸
	河北省淶源	二九〇
		一五〇
礬石		五、〇五〇
	浙江省	五、〇〇〇

【鐵】 埋藏量約三億二千萬噸と云はれ、主として揚子江右岸の大冶、象鼻山、桃冲、銅官山、大凹山、馬鞍山等に多く產する。目下採掘されつゝある著名な鐵山は大冶を第一とし、安徽省の桃冲之につぎ、山東省の金嶺鎭も知られて居る。年產約百三十六萬噸でその四割五分は大冶が占めてゐる。蓋し大冶の鑛鑛は含鐵分六五%內外の富鑛なるがためである。支那產鐵鑛の大部分は日本に送られ支那では餘り利用されてゐない。

【石炭】 推定埋藏量は二千三百九十億噸と云はれ、主要炭田は北支に多く、山西臺地では主として古生代の砂岩、頁岩、石灰岩等の水平層の間には無煙炭または半無煙炭の良質炭層あり、その埋藏量は殆ど無盡藏と云はれる。また北支那平野は陷沒して三角洲平野に堆積されてゐるが恐らくその下部には大炭田があると信ぜられてゐる。河北省の開灤炭田は年產五百萬噸內外で全支の三〇%內外を占め、其他群小炭田を合せて年產二千萬噸位であり未だ國內需要を充すに足りない。

【石油】 新疆、甘肅、陝西、四川の各省には豐かな埋藏があると云はれてゐるが、未だ開發が行はれず、僅かに陝西省の延長油田が著名となつてゐるのみである。延長縣の油田は米國技師の報告によれば全世界に三百年間供給してなほ餘りあると云はれてゐる。

◇鐵鑛埋藏量（單位千噸）

察哈爾	宣化龍關	九一、六四五
河北	灤縣	三三、四二四
山東	金嶺鎭	一三、七〇〇
河南	江山	七四〇
江蘇	利國驛	三、〇〇〇
河北	易縣	一、五〇〇

河南	信陽	二、〇〇〇
河北	井陘	七、七五五
山東	費縣	六四〇
河北	開灤鑛區	・一五〇
綏遠	固陽公益明	七〇〇
河北	撫寧臨楡間鷄冠山	三五〇
綏遠	白雲、鄂博及豫陝甘等	三〇、〇〇〇
安徽	銅官山	四、九二一
同	鷄冠山	四、〇〇〇
湖北	大冶、漢冶萍公司	一〇、五〇〇
同	大冶象鼻山	八、八〇〇
安徽	當塗	六、二九八
同	長龍山	四、六四五
江蘇	鳳凰山	四、四二七
江西	城門山	六、三〇〇
湖北	靈鄉	六、三四〇
同	鄂城	一〇、〇〇〇
浙江	長興	五、一三〇
江西	蓮花	六、二九九
同	萍鄉	二、〇〇〇
湖南	元陵	一、〇五〇
同	安化	二、一六〇
同	錫鑛山	三、六〇〇
同	茶陵	三、九〇〇
同	寧鄉	一、八四〇
江西	滿昌銅登山	五六〇
湖北	宜都	四、〇〇〇
河南	攸縣	四、〇〇〇
四川	綦江	一、〇〇〇
廣東	香港馬鞍山	九一〇
福建	草安漳平	一三、一六〇
同	安溪潘田	七、八〇〇
同	安溪珍池	一、四六二
廣東	雲浮	六、〇一六
同	紫金	一、一四〇
浙江	建德淳安	二、〇二四
廣東	廉江缽塘及其他	四、〇〇〇
合計		三三三、九一六

◇石炭埋藏量竝生產高

省名	埋藏量(單位百万噸)
察哈爾	五〇四
綏遠	四七六
山西	一二七、一二七
山東	三、〇一七
河北	・一、六三九
河南	七、七六四
陝西	七一、九五〇
湖北	四四〇
安徽	三六〇
江西	九二
浙江	一〇〇
江蘇	二一七
湖南	一、七六二
四川	九、八七四
雲南	一、六二七
貴州	一、五四九
廣東	四二三
廣西	三〇〇
福建	三九六
寧夏	四八八
甘肅	一、五〇〇
新疆	六、〇〇〇
青海	五〇〇
合計	二三九、〇九九

省名	生產高(單位千噸)(一九三四)
河北	七、七三九
山西	二、七〇〇
山東	三、五〇四
河南	二、一三〇
湖南	八八九
四川	六二六
江西	三三一
安徽	六二三
湖北	四九八
陝西	二四四
廣東	三三八
浙江	二四〇
雲南	一二五
貴州	一七三
江蘇	二六七
察哈爾	二〇三
寧夏	一五
甘肅	一〇〇
綏遠	五六
其他概數	五二〇
合計	二〇、八九七

工業

大工業の行はれてゐるのは僅かに數個の

都市にして、而も輕工業に限られ重工業は全く未發達である許りでなく之すらも多く外國資本によつて營まれてゐる狀態である。

即ち

一 農業國の常として國民が保守的であること
二 政治的不統一と政情不安なること
三 國內資本缺如によること
四 外資の壓迫あること

等の諸事情によるものである。

【支那工業の特色】㈠工業が都市に集中してゐること、一九三三—一九三四年の統計に從へば、工場法標準に依據する工場二四三五のうち一、二〇〇は上海に集中し、其他は殆ど天津、杭州、靑島、無錫、常州、廣東の諸市に集つてゐる。特に上海は工業資本の四〇%、勞働者の四三%、生產額の五〇%を占めてゐる。㈡紡績工業が偏重的に發達してゐること、上海の紡績工場は全上海勞働者の五五%、生產者の三分の一、使用動力の六六%、資本の四〇%を占めてゐる。㈢中小工業が多いこと、紡績、製粉、造船、製鋼、セメント等を除いては、大體に小規模で、全上海平均で一工場當りの職工は、一九三人、馬力一二三、生產額五八三、七二六弗、資本一五〇、三四八弗である。㈣工場の興廢が頻繁なこと、好況等には工場が簇立されるが、不況になると續々倒潰する。

【支那の工業地域】㈠上海附近、上海、南京、杭州の三角線間は輕工業の重要な地域であり、支那紡績業の三分の二はこゝに集中し、食糧品、化學、煙草工業等の外造船機械の如き重工業も興つてゐる。㈡天津附近、河北省東北部で、開灤炭坑が供給する石炭により、附近にセメント、硝子、紡織、食糧品等の諸工業が興つてゐる。㈢靑島附近、紡績製油等の輕工業を主とするが、ドイツの靑島經營以來發達し、以後日本によつて培はれたものである。㈣漢口附近、紡績其他輕工業の他金屬製錬等の重工業があり武漢、萍鄉、長沙の三角點間に行はれる。㈤香港廣東附近、輕工業が各地に行はれてゐる。

【支那工業の將來性】 有利な條件として次の如きものが擧げられてゐる。

一 豐かな工業原料及動力資源を持つこと
二 安價な勞働力が豐富なること
三 製品の市場たるべき人口が大なること

國民の工業的な訓練と政治の改善と資本の注入と交通の發達を條件として、支那將來の工業は確かに發展の素地を持つてゐるものと結論される。

【在來工業】 在來工業は小規模な家內工業として行はれて居り、近年次第に衰亡しつゝある。陶器、筆墨、紙、漆器、象牙細工、木細工、石材彫刻、麥稈眞田等の美術的家內工業が之に屬し、尙綿織物、生絲、絹織物業等も古くから行はれてゐるが之も近年機械的生產方法に移りつゝある。之等は何れも中南支那に多く行はれてゐる。

【近代工業】 一八六〇年代に始まつたもので、殊に最近三十年足らずの間に發達した綿絲紡績を第一とし、金屬加工及び機械製造、煙草、製糖、製粉、製油、化學等の諸工業で、之等は多く外資によつて興り何れも上海、天津、靑島、漢口等の海岸又は揚子江岸の大都市に行はれてゐる。

就中紡績業は上海を第一とし、天津、漢口、靑島に行はれ、事變前は支那資本によるもの二百九十萬錘、日本資本に依るもの二百十一萬錘、英資本に依るもの十九萬錘計五百二十萬錘で、錘數は世界第九位、棉花の消費量は二百三十萬俵で世界第五位を占めて居り、消費對象たる人口の稠密なることによつてその將來は頗る有望である。

商業・金融

【國內商業】 個人主義で貨殖の念に富む支那人は商業に甚だ長じてゐる。商業上支那商人がよく信用を重んずるのは、同業等の關係で作られた會館とか公所等いふ一種の組合を持つてゐて違反者に對しては嚴罰を加へることにして鞏固な組合を作つてゐるからである。政治的に不安定な境遇にあつた支那人は經濟的にはかゝる統制のとれた鞏固な組織を作つてこれに順應してゐる「地大物博」で各地各樣の資源と產物を有し、國內商業は古くから行はれてゐるが、政治組織の不完全と交通不便とは之に對する二大障碍となつてゐる。又各地軍閥は勝手に地方的な通貨を流通させ、度量衡も各地甚だ異つてゐて、この貨幣と度量衡の不統一が更に國內商業に對する障碍となつてゐた。

支那特有の商業機關として左の樣なものがある。

買辦　外國商人に傭はれる支那商人で外商の店舗內に事務所を有し、外商と支那商との間の取引周旋、仲介業をなし、又雇主のために注文事項を完成し、一切の商行爲を自己の計算でする請負人のやうな業務に從ふもの。

牙行　行棧とも云はれ一種の仲買商で、客商のために賣買を周旋し、その委託販賣に應じたり客商を宿泊せしめたりする。其他倉庫業、廻漕業、釐金代辦、代金取立、市場代理業等にも從ふ。

客商　一種の行商で鄉土產の財貨を携へて他鄉に之を賣却し、更に鄉土の需要品を仕入れてくるものである。

幇制度　幇とは同鄉者、同業者が團結し、相互の利益を增進するための組合で之に會館と公所とがあり、會館は同鄉者、公所は同業者を以て組織されてゐる。

【金融及金融機關】　支那は從來世界中で最も通貨の複雜な國で、これがため產業の開發、商業の發達、國家の統一が阻害されること少くなかつた。よつて一九二八年以來銀元（圓又は弗）が本位貨幣と定められ一九三三年以降商取引には元（弗）と單位とする事となつた。併し舊の兩や弗貨は相當に流通して居り、兩には上海兩、天津兩その他百種以上もあり、なほ海關兩も使用されてゐた。弗も孫逸仙弗その他數十種を數へてゐた。支那は世界唯一の銀本位國であり從つて支那の經濟界は銀相場によつて支配されてゐたのであるが、銀相場は近年下落する一方で特に一九二八年以後は激しかつた。然るに一九三四年米國が銀國有法を發表して以來世界の銀相場は奔騰しこれがため最近では支那は銀の國外流出に惱まされ一九三五年四月以來支那の通貨は銀の國外流出によつて殆ど危機に瀕するに至つた。

そこで一九三五年國民政府は幣制の大改革を行ひ、硬貨制度を廢して紙幣本位とした。卽ち中央、中國、交通三銀行の發行する銀行券を法貨卽ち國幣とし銀貨の使用を禁じた。而してその對外價値は一元を英貨一志二片とし、上記三銀行は無制限に外國爲替の賣買に應ずることゝした。この幣制改革は英貨の後援によつて成功したもので、これを契機に英國は金融的に支配するに至つたのである。

然るに今次事變によつて北支、蒙疆、中支の各地區に於て、中國聯合準備銀行、蒙疆銀行、華興商業銀行の新設をみ、夫々新兌換券を發行し可及的速かに舊法幣の回收に努めたることにより舊紙幣は通貨としての價値を殆ど喪失するに至つた。

中國聯合準備銀行　昭和十三年春北京に開業せる特殊銀行であり同行は北支の中央銀行で唯一の發券行である。之によつて日滿北支を含む廣大な地域が圓ブロックとして一元化され、日本の指導の下に遂行され

る北支那經濟建設の基礎が確立されたものである。

蒙疆銀行　蒙疆地區の中央銀行として昭和十二年末成立し、資本金一千二百萬圓、張家口に本店を設け僅か一年足らずにして地域內の舊紙幣と回收した。中國聯合、蒙疆銀行共に發行されてゐる新紙幣は圓と等價である。

華興商業銀行　蔣政權の沒落が決定的であるにも拘らず、法幣が依然として通貨戰に牢固たる勢力を持續し、加ふるに輻輳せる中支の經濟情勢に禍され、中支方面に於ける新通貨制度の確立は豫想外に遲延してゐたが、昭和十四年五月資本金五千萬圓全額拂込、本店を上海に置く華興商業銀行の誕生をみた。新設銀行は新紙幣の發行をも司るものであるが法幣萬能の中支幣制に一つの輝しき光を與へ蒙疆北支と格段の惡環境にあるを一まづ克服するもの と見てよい。

貿易

外國貿易の少い第一の理由は、大國であるから外國との貿易よりも國內取引の方が寧ろ重要であり、國內取引額は外國貿易額の數倍もあると云はれてゐる。第二に生活低度の低い支那人には外國貿易を十分に行ふだけの購買力を持つてゐないからである人口割にすると支那の貿易額は日本の約十分の一に過ぎない狀態である。最近支那の經濟界は銀の國外流出のため殆ど恐慌の狀態に陷つたと云ふやうな事情で貿易は著しい減退を示したが近頃稍增加してゐる。別表の通り支那貿易が年々入超を示してゐることは、要するに輸出を增大さるべき國內產業が振はないことを物語るものに他ならない。

輸出品の主なるものは動物及其產品、紡織纖維、油脂及蠟、鑛物、金屬其製品、皮革及毛皮、種子、茶、織絲、組物、編物類、織物等で重なる輸入品は、金屬及鑛物、油脂、蠟、ゴム、書籍、紙、パルプ類、機械及工具、穀物穀粉、化學產品及製藥、車輛及船艇、雜金屬製品等である。

【一九三八年度外國貿易】　抗日支那の輸血動脈としての南支諸港の活潑なる動きと新興支那諸港が復活更生への過程を歩みつゝある事實が一九三八年度の支那外國貿易の特徵である。前者は十月を以て日本軍に占領され、かくし南支諸港を完封されるに至つた。更に之を細述すれば、抗日支那輸血路たる香港、廣東を中心とする南支諸港に於ては、全力を擧げての對外輸出にも拘らず二千餘萬元の入超を示し、中北支に於ても入超は依然たるものであるが、北支六港はその總貿易額に於て遂に中支十六港、南支十八稅關を凌駕したことは特に注目すべき現象である。港別にみる時、輸出において上海が依然第一位を占め、天津、廣東が之に次ぎ、輸入においても上海、天津、九龍の順位を示してゐた。

◇支那輸出入貿易額（再輸出入を含む、海關統計）

年次	輸入	輸出	合計	入超
	千元	千圓	千元	千元
一九三一	二、二三六、二七五	一、四一六、九六三	三、六五三、二三七	八一九、三一三
一九三二	一、六五五、三三七	七六六、〇七六	二、四二一、四一三	八八九、二六一
一九三三	一、三五八、九七八	六一二、一九二	一、九七一、一七〇	七四六、七八六
一九三四	一、〇二八、九七八	五二五、七三三	一、五五四、七一一	五〇三、二四五
一九三五	九二四、六九四	五七六、二九八	一、五〇〇、九九二	三四八、三九六
一九三六	九四四、五四三	七〇六、七九一	一、六五一、三三四	二三七、七五二
一九三七	九五六、二三四	八三八、七七〇	一、七九五、〇〇四	一一七、四六四
一九三八	八九三、五〇〇	七六三、七三一	一、六五七、二三一	一二九、七六九

◇對日英米獨三箇年貿易　（單位千元）

國別		三八年	%	三七年	%	三六年	%
日本	輸出	一二三、五九七	一六・一八	九四、八六三	一一・三一	一二六、九七五	一六・五五
	輸入	一一七、七一八	一四・三七	一五六、三七二	一六・三五	一五九、七〇八	一六・九一
	合計	二四一、三一五	二〇・四五	二五一、二三五	一四・〇〇	二八六、六八三	一六・七六
米國	輸出	八六、八五三	一一・三七	二三一、四四九	二七・五九	一八六、三三一	二六・三六
	輸入	一三一、二五四	一六・九三	一八八、八五九	一九・七五	一八五、五三三	一九・六四
	合計	二一八、一〇七	一四・三七	四二〇、三〇八	二三・四二	三七一、八六三	二三・五三
英國	輸出	五六、七七九	七・四三	八〇、三六〇	九・五六	六四、八八四	九・一八
	輸入	七〇、六〇六	七・四〇	一一一、六九五	一一・六八	一一〇、四九七	一一・七〇
	合計	一二七、三八五	七・六九	一九二、〇五五	一〇・七〇	一七五、三八一	一〇・六三
獨國	輸出	五六、四〇〇	七・三九	七二、四四七	八・六四	三九、一七四	五・五四
	輸入	一一二、九二九	一三・六四	一四六、三七四	一五・三一	一五〇、二六八	一五・九一
	合計	一六九、三二九	一〇・三三	二一八、八二一	一三・一九	一八九、四四二	一一・四七

【昭和十四年度上半期貿易額】　全支上半期貿易を國別に就て見るに輸入に於ては圓ブロック貿易の困難を突破して日本品の躍進著しく遂に米國を拔いて第一位を占めるに至つた。其他增加著しき國は米國及英領印度であるがその一因は厖大な數量に上つた棉花輸入に存するものである。輸出に於て其數量は昨年上半期に比し若干の減少を示し、對日輸出は昨年同期に比し二千萬圓以上の減少で輸出國中第四位にある。

昭和十四年上半期貿易額　（單位百萬元）

	輸入	輸出	合計	入出超
占領地域	六三七	二六八	九〇五	入　三六九
非占領地域	八九	一二四	二一三	出　三五
合計	七二六	四〇三	一、一二八	

	本年上半期輸入	昨年上半期輸入
日本	一七〇	六一
米國	一一三	八八
英印	六五	四
獨逸	五二	七〇
英國	三九	四〇

	本年上半期輸出	昨年上半期輸出
香港	一〇四	一一三
米國	七〇	三三
英國	三二	三二
日本	三二	五六
獨逸	二二	三二
佛印	二二	六

在支邦人二十六萬突破

支那事變開始以來二年半、皇軍の神速な進擊の後を受け同胞の大陸進出は目覺ましいものがあるが、邦人の渡支に對しては我官憲に於て明朗支那建設のため嚴選主義をとつて制限してゐる。然し近年大陸移住の數は夥しき數に上り、昭和十四年秋興亞院が在支連絡部、領事館と連絡調査の結果によれば在支人口は、北支蒙疆、中南支を合せ本邦人二十六萬一千二百十名に上り、支那事變前十二年七月一日の在支居留民八萬六千九百二十三人に比すれば二ヶ年半に約三倍の激增振りである。

この數字は旅行者を除いた定住者であるが、移動の多い大陸邦人人口は之より遙かに大きいことは當然で、內譯は左の如くである。

內地人	二〇八、九六一
半島人	五〇、二一五
臺灣人	二、〇三四
合計	二六一、二一〇

之を地域別に見れば

北支	一七七、五一〇
中支	六七、五五三
南支	一六、一四七



略史

成吉思汗が大汗（元の太祖）の位に卽き世界統一の誓を立てたのは今から七百三十三年前である。爾後拔都、忽必烈、旭烈兀等の遠征により、其版圖はアジア大陸を横斷して東は日本海から西はヨーロッパの東北部に達する空前絶後の大帝國を建設しアジア民族のために史上不滅の光彩を放つたのであつた。然しながら小數の蒙古民族を以て廣汎な領域を統治するところに無理があり、後明朝の興るや忽ち北に追はれ、淸朝の擡頭に會つてこれに歸順した。支那事變直前に於て蒙古民族は露、滿、支三箇國の支配下に分割され滿洲國の治下に入つた者を除いては混沌たる政治、經濟、社會的諸情勢下に彷徨しつゝあつたのである。

然るに昭和十二年支那事變の勃發により獨立した三自治政府首腦者が張家口に相會し、茲に蒙疆聯合委員會の結成となり更に昭和十四年九月蒙古聯盟自治政府の成立を見たるのみならず、政治、産業、交通、金融等に亙り實に驚異的な回復と躍進を示し從來の支那地域に於ける一特殊境域をなすに至つたものである。

境域・人口

蒙疆地域とは東は滿洲國、西は寧夏省、南は長城線を隔てゝ陝西、山西、河北の各省に接し、北は遠く戈壁に限られた舊察哈爾省、綏遠省及山西省の北部を加へた所謂內蒙古の大部分を占める廣袤六十萬平方粁の地域を指し、人口約五百五十萬を擁してゐる。

このうち蒙古人は約三十萬前後と推定され、全數の四%弱に過ぎないが政治的には往年の覇權を恢復した形である。

區別	面積	人口
察南地域	二三、〇〇〇方粁	一、四五六、四一七
晉北地域	二二、〇〇〇〃	一、五一五、一四六
內蒙五盟地域	五七〇、三六九〃	二、五三六、五四二
計	六一五、三六九〃	五、五〇八、一〇五

地勢

蒙疆一帶は略々一千米以上の高原を形成し地勢割合に變化少き所であるが今南部京包線一帶の地勢に限りて述ぶれば大體次の如きものである。

鐵道沿線の地勢は大體大同から平地泉の間を最高線として東と西へ漸次に高度を減ずる。この地帶は陰山山脈の支脈に屬する部分であつて、平地泉の西約四十粁の十八臺驛は海拔千五百七十九米で本線に於ける最高の地點となつてゐる。

大同以東は陰山、大行兩山脈の接合地帶で、桑乾河が此間を貫流しその限界を劃してゐる。路線はその支流たる洋河及び南洋河の河谷に沿うて下り、東端に近く大行山脈の餘勢、七百五十五米の八達嶺を越え急降下して河北の平野に達する。

西は十八臺の稜線を越えると路線の北側に沿ひ、陰山の幹脈が屛風の如く聳立し內蒙古の地域を南北に二分しつゝ遠く西へ伸び、その南側は黃河の支流たる黑水河がその流域を擴めつゝ黃河を越えて遙かに鄂爾多斯の平原に續いてゐる。

氣象

河北の平野から大行山脈を西に越ゆれば氣象は急に大陸的な特性を強め、晝夜の氣

溫の變化、寒暑の差は次第に著しくなつて來るが大行、陰山の兩山脈の間に狹まれた鐵道沿線の地域ではその度合があまり目立たないものとなつてゐる。

氣溫に就いて見れば、北京附近では最低溫期間の一月の平均氣溫が攝氏零下四・五度、盛夏七月の月平均氣溫は二六・四度で、張家口では一月の平均氣溫零下一五・三度、七月は一九・三度であるが、遙かに西に移つた厚和に於いても一月の平均零下一五・九度、七月の平均は二二・八度で、その差は極めて小さく、又降水量に就いて見ても北京附近では年に五百六十粍內外で、張家口、厚和は共に四百粍內外であるから空氣の乾燥度も、河北平野を劃する大行山脈を一線として相當な變化を見せてゐる。風は夏季に東南の季節風が吹く關係上降水量もこの期間に多く、冬季は寒冷な西北風が吹き渡り降雪の量は極めて少い。

京包沿線一帶の氣候は概して地圖の上で想像されてゐる程に酷烈なものではなく、寒さに於ては滿洲の奉天以南僅に相當し、暑さも日夕の差こそ激しいと云はれるが平均氣溫は遙に低くなつてゐるから夏季も凌ぎよい。このやうに降雨降雪が少いので空氣の乾燥甚しく、多は風多く所謂朔風胡砂を捲くの風景をば展開するが夏季滿目の綠野紅白の草花の點綴する風景は蒙古高原ならでは見られぬ絶景である。

住　民

察南、晉北地域では住民は殆ど漢人で、舊蒙古聯盟に屬する鐵道沿線は漢蒙雜居地帶となつてゐる。而し此の雜居地域も漢人移民の澎湃たる波に年々侵蝕され現在この地方に生業を營む蒙古人の影は寥々たるもので、それも殆ど漢人化し、定住して農業に從事してをり、かの游牧と包の生活は既に沿線では見られないものとなつた。內蒙古五盟全域の蒙古人は約三十萬人と推定されてゐるが、その大多數は黃河以南の伊克昭盟や陰山山脈の北側地域に退き昔ながらの游牧生活を續けてをり、舊綏遠省二百萬といはれる漢人が主としてこの沿線に入つてゐるのだから雜居地域とは言ふもの丶事實上漢人の居住地域と言つて差支ないだらう。

尙、少數ながら沿線の西端に近い地方は白韃靼と稱ばれるトルコ系タタールが居住してゐる。

京包沿線地方は白耳義系カトリツク教の布教區で、寺院はカトリツクのものが多いが察南地域には別派に屬するものもある。

後者は土地を持たぬがカトリツク寺院は何れも廣大な土地を所有してゐる。

朔北の空に聳える尖塔は西歐資本主義の內蒙古へ侵入して來た道標の如くも見られるが、又その社會的、文化的な影響を思ふと、喇嘛教と對照して極めて興味深いものがある。

言　語

京包沿線一帶は支那語が通用語となつてゐる。蒙古人も沿線地帶居住のものは已に蒙古語を忘れてゐるといはれるが、嘗つて外蒙古方面と交易が盛んだつた頃には蒙古語はもつと廣く用ひられてゐたものらしく、今も商店の看板などに殘つてゐる蒙古文字はその當時の名殘でもあらう。蒙疆政權の確立後、蒙古語は公用語として認められて來てゐるが、これは蒙古民族の興隆に伴ふ自然の勢であらう。

會話用語は山西方面からの流入者が多い關係上自然山西の土語に近いと云はれる。

宗　教

漢人の多いこの地方では矢張り佛教徒が一番多く、住民の七十%が佛教であり、回教徒が之に次いでゐる。

京包沿線一帶に於ける回教徒の數はなほ明かでないが舊綏遠、察哈爾の兩省に於ける教徒數は舊綏遠三十八萬五千、舊察哈爾十九萬五千で寺院數は兩省を合して約四百

と謂はれてゐる。教徒の分布狀態に就いて見れば大體本線を西へ進むに隨つて人口に對する教徒の占む割合も漸次多くなり、厚和包頭附近に於いては二十五%內外となつてゐる。

　事變後、北支新政權下に聯日防共を標榜して蹶起した回教徒の動きは次第に西北に向つて擴大の兆を見せてゐるが支那西北へ通ずる京包鐵道沿線に於いては、回教徒の問題は政治的にも亦重要な意義を有つものと言はなければならない。

　尙、復興民族蒙古人の喇嘛教と西歐資本主義侵入の先驅をなすところの基督教とはその社會的、政治的意義が大きいだけにこの地方に於ける宗教としては見逃し得ないものであらう。

【喇嘛教】　游牧民の社會的、經濟的生活に、そこに以前から存在してゐた薩滿教を適應させ且つ單純化せられた北部佛教の一宗派が卽ち喇嘛教である。喇嘛教が蒙古に普及したのは十六世紀後葉からと云はれるが最も盛大を極めたのは淸朝が蒙古懷柔策としてこの宗教を政策的に利用し出してからである。そのかみ、元朝滅亡の一因が朝廷にあつた喇嘛の權勢とその浪費的な佛事供養の弊にあつたと云はれる樣に喇嘛が蒙古民族の搾取と弱化に演じて來た役割は極めて大きい。これまで教徒達が北に南に遠く去つて敗殘の生活を送つてゐる時、沿線の隨處に見られる莊麗な廟宇は本沿線風景中の一の驚異である。

　此の頹廢の喇嘛教と對照されるのは基督教、殊にカトリック教の勢力である。

【基督教】　基督教がこの地方に入つたのは古く、十三世紀の中葉と云はれるが判つきりしてゐるのは一八二七年張家口北東にカトリック宣教師が入つてからである。その後熱心な布教と宣教師達の苦心經營とによつて次第にその勢力を擴大し本沿線を中心とし教區は東は熱河から西は寧夏に及んでゐる。本沿線地區だけでも教會數は百に近く信徒十萬を擁するといはれる。そしてこれ等の教會は布教のみでなく學校や病院や孤兒院等の社會、文化施設を經營すると共に一方に廣大な土地を所有して、之を信徒に耕作せしめ經濟的にも確固たる基礎を築いてゐる。

　包頭に近い薩拉齊縣の小巴拉蓋は教會を中心として約二千人の信者のみによつて成形された部落で、施設經營に見るべきものがあるといはれる。その他、大同の天主教修導院、厚和の育嬰堂、公醫院などは朔北の不幸な人々には有難き文化の惠であらう。教徒の大多數は漢人であるが蒙古人の歸依する者も少くない。

政　治

　北支戰局の進展に伴れ戰後の各地には治安維持會の成立を見たが、永い間、軍閥の秕政に苦められた地方の民意は期せずして自治の要求へと進んで行つた。それに先鞭をつけたのが察哈爾省二百萬民衆の總意によつて組織された察南自治政府で、その成立の日は我が察哈爾作戰軍が張家口に入城して間も無い九月四日であつた。ついで十月十五日には大同を中心として晉北自治政府の宣言が發せられ、更に同月二十八日には綏遠に於いて蒙漢兩民族三百萬の熱烈な要望によつて蒙古聯盟自治政府が結成された。蒙古聯盟の成立は、忘れ得ない成吉思汗への思慕をいだき永い苦鬪を經て來た蒙古民族にとつては殊に感慨一入なものがあつたであらう。

　この三自治政府は成立の當初、それ〴〵獨自の立場をとつて來たが、東洋平和の理想を目指す三政府の指導精神が、防共、民族協和並民生の向上であり、この共同の目的を一層有效に實現する爲には互に協力することが有利であつたので十一月二十二日三政府の代表が張家口に會し相諮り蒙疆聯合委員會を組織した。

然るに緊迫せる內外の情勢に卽して蒙疆政權の更に鞏固なる戰時體制を確保、以て防共特殊地域たる蒙疆を防共鐵壁の陣となすべく、新統一政府樹立の要望は澎湃として起つた。則ち昭和十四年九月一日成吉思汗紀元七三四年を期し德王を主席とし夏恭、于品卿を副主席とする蒙古聯合自治政府の誕生を見、一切の行政組織が中央集權下に置かれた。將來支那本土に新生すべき中央政權との關係は之を課題として殘されてあり、從つて支那宗主權の問題、外交權に觸れず、只事變發展の現段階に卽して高度自治政權の體制を示してゐる。

【蒙古聯合自治政府】

- 主席／副主席／顧問
  - 参議府
  - 政務院
    - 總務部
    - 民生部
    - 治安部
    - 司法部
    - 財政部
    - 産業部
    - 交通部
    - 察南政廳
    - 晉北政廳
    - 巴彥塔拉盟公署
    - 察哈爾盟公署
    - 錫林郭勒盟公署
    - 烏蘭察布盟公署
    - 伊克昭盟公署
  - 蒙軍總司令部

産業

農産、畜産、鑛産等の豐かな資源に惠まれた鐵道沿線の地帶も邊疆にあつて交通が不便なことや、永い間軍閥政治の弊害に禍され、全線開通已に十五年を經過した今日に於いても、産業の發達は遲々として殆ど見るべきものはない。資源の所在に從つて見れば大體本線東半、晉北地域以東の鑛業と察哈爾盟及び西半の內蒙地域に於ける農業、畜業との二つに大別されるであらう。

鑛産地帶に於ける代表的なものは大同の石炭と龍煙鐵鑛の二つがある。蒙古聯盟に於ける農業は漢人移民の進出によつて、近時非常な發展を遂げ、歸綏、五原の平野は殆ど開拓し盡されたかの感があるが、それだけ蒙古人の游牧地を侵したことゝなり、牧畜業は次第に沿線から影を沒しつゝある。

蒙古聯合自治政府に於いて目下蒙疆全般の産業開發につき調査立案を進めつゝあるが、大同の石炭、龍煙の鐵鑛及び畜産資源の維持改善等已に具體化されたものもあり遠からず面目を一新することゝならう。

【開發三箇年計畫】　昭和十三年三月産業五箇年計畫を樹て蒙疆産業資源の開發に着手したが、昭和十四年に入り國際情勢の變化、日本の物動計畫及び日滿支を繫ぐ生産力擴充など內外共に全面的に促進態勢をとるに至つたので新に新開發三箇年計畫を樹てた。右は日本の生産擴充に呼應すると共に蒙疆産業資源の開發に重點を置き、石炭、鐵、石綿、鉛の資源開發と之に關聯する石炭液化、セメント、羊毛、電力、交通、通信各事業の大擴充に向つて進むことゝなり終年度に於ける開發量の目標は大約次の如くである。

石炭	大同五百萬瓲、下花園五十萬瓲
	大青山四十萬瓲
鐵	龍煙百七十萬瓲
石綿	二萬瓲
雲母	一萬瓲
鉛	十五萬瓲

石炭液化は大同炭を用ひ、電力は發電設備十四萬キロに上り、羊毛は在來種の增産とコリデール種の移入による改良と大量日本輸出とで鐵道、自動車、通信施設も亦之に應ずるものである。

○農　業

民國二十三年中國經濟年報によれば察哈爾綏遠兩省の耕地面積は、察省一六、八三九千畝、綏省一八、六六九千畝で支那各省中寧夏、新疆に次いで最も少い地方となつてゐる。しかし兩省の農業は專ら漢人移民の經營であり、而も漢人の侵入地域が主として察哈爾と南半と歸綏平原、豐鎭高地、鄂爾多斯平野の東北部と河套(五原)地方であるから耕地も亦この地方に限られ、從つて沿線に接近した地方に於ける耕地は全面積に對して非常に多いことは瞭かで、事實鐵道

沿線の範圍では農耕適地は殆ど開拓し盡され、僅かに鄂爾多斯平野の東部に未墾地を殘してゐるに過ぎない。「黄河は百害あり只一套を富ます」といはれる如く、殊に河套地方の開拓は古く最も富裕な農耕地帶となつてゐる。

主として乾地農業であり水田は舊察哈爾省内に一、八五五(千畝)、綏遠省内に一、四〇(千畝)がある。黄河沿岸のオルドス地方は灌漑の便があるので將來水田の經營が有望視されてゐる。

作物の主なるものは粟、高粱、豆類、小麥、亜麻および馬鈴薯等で、毎年京包線一帶から京津方面へ移出される數量は約三十萬噸に達する。最近に於ける主要産額を示せば左の如くである。

種類	察南管内	晋北管内	内蒙五盟管内	計
	石	石	石	石
米	三、七五四	—	—	三、七五四
小麦	三四、六八六	二一〇、〇〇〇	二四〇、七〇二	四八五、三八八
粟	九三、九三六	二四五、〇〇〇	一、一三四、七一〇	一、四七三、六四六
小麦	二一八、九六〇	九八、〇〇〇	一、一六四、二〇四	一、四八一、一六四
大麦	四七、六六八	一〇七、〇〇〇	四〇五、五六八	五六〇、二三六
高粱	四八九、五七八	二二〇、〇〇〇	一九七、七一〇	九〇七、二八八
豆類	三三、三四〇	二三四、〇〇〇	五三九、三六八	八〇六、七〇八

【商業植物】 本沿線の特産と稱せられるものに各種の藥用植物がある。代表的なものとしては甘草と黄麻を擧げるがその他、知母、柴胡、大黄、赤芍、枸杞などがある甘草の產地は沿線近くでは包頭一帶から西へ五原、臨河に及んでゐるが包頭に集散するものには更に寧夏方面より出廻り物が加はり、民國二十五年包頭驛の發送數量は四、八八七噸であつた。その他の藥草類も集散地は主として厚和以西の各地で、寧夏方面のものが集まる關係上包頭の數量が斷然多い。黄麻は下花園が主要集散地である。

○畜産業

農耕地の擴大につれ畜群は次第に沿線から遠ざかつて行つたが畜產は內蒙に於ける最も重要な資源の一つである。本地域內家畜の概數は羊の四百萬頭を第一位とし山羊九十萬頭、牛八十萬頭、騾驢四十八萬頭、馬五十萬頭、豚六十五萬頭で沿線風景の特色とされる駱駝は五萬二、三千頭と見られてゐる。その他鷄の飼養二百六十萬羽があり、卵及びその加工品は沿線特產の一に數へられる。生產數量其他不明の點多いが民國二十五年本路によつて移出された數量及び主要集散地を示せば左の如くである。

(單位噸)

種類	主要集散地	輸送數量
羊毛	張家口、大同、綏遠、包頭	二五、九七四
駱駝毛	綏遠、包頭	一、六七七
皮革	綏遠、包頭、宣化	一、五九二
豚	康莊、察南一帶	四、四八九
羊	康莊、張家口、綏遠	一四、一一一
牛	張家口	一三一
卵及加工品	大同、豐鎭、平地泉	二、四七三

羊毛の數量中には黄河の水運によつて遠く甘肅、寧夏方面から運ばれたのを含むがその數量は明かでなく、包頭がこの集散市場となつてゐる。駱駝毛は嘗て外蒙產のものを多く見たが最近のものは主として伊克昭盟鄂爾多斯及び寧夏產のものが多い。駱駝は重量の負擔に耐へるもので駄獸としてよく沿線では專ら輸送に利用されてゐる。

牛は肉用として殆ど現地の需要に充てられ、境外に移出されるものは甚だ少い。

現在のところ蒙疆の畜產資源として最も重要なるものは羊毛であるが、元來蒙古人が羊を飼ふのは食用が主であるから毛質は粗剛で高級な織物には不適當とされてゐる。從來蒙疆の羊毛は主として米國に輸出されてゐたが、今後これを日滿蒙間のブロツク內に確保することが必要とされるに至

つたので、事變後日本側主要業者八社から成る蒙疆羊毛同業會が組織され、現在已に同會の手により蒙疆羊毛の配給統制が行はれて居り、尙昭和十四年三月蒙疆畜產株式會社が設立され家畜及畜產物の賣買、輸出入竝畜產物の處理、屠宰場の經營等畜產振興上必要なる事業を行つてゐる。

○鑛　業

大同の石炭と龍煙の鐵鑛とは沿線に於ける鑛產資源の雙璧をなすものである。この二つとも既に開發が行はれてゐたものであるが、事變後我が國の資本と優秀な技術をもつて更に大規模な開發が行はれることゝなつた。

この他京包線一帶は殊に石炭の資源が極めて豐富であるが多くは小規模な土法採掘により僅に地方の需要を充してゐるに過ぎない。內蒙五盟地域には鐵鑛その他各種鑛產の存在が知られてゐるが、土地の關係上經濟的開發が不可能であるか若くは其他の理由によつて放棄されてゐるものが多い。

【石　炭】埋藏量は察南五億噸、晋北大同二百億噸その他十億噸、內蒙五盟地域四億八千萬噸と推定されてゐる。察南では宣化、蔚縣、懷來等を主產地とし炭坑數三十箇所に上るが、下花園を除いては皆小規模な土法採掘が行はれてをり年產額は二十萬噸に達しない。下花園炭礦はもと京綏鐵路の經營で年產七萬噸、機械設備を有し、この地方有數の大炭礦であつたが、現在は蒙古聯合自治政府の管理下におかれ、目下滿洲炭礦株式會社をして之が經營に當らしめてゐる。

大同炭　大同炭と稱せられるのは、大同の西南約二十粁の口泉鎭一帶の礦區の產である。晋北全產額百萬噸の中本礦區の產は八十%を占め、年額四十萬噸を京津地方へ移出してゐる。

口泉の礦區は數箇所に分れ夫々經營者を異にし、主なるものは晋北礦務局、大同寶晋煤礦公司、同寶煤礦公司、協興煤礦公司の四公司で晋北礦務局は最大且設備も最もよく本礦區全產額の七十%以上を出炭してゐる。

次に內蒙五盟地域では集寧二百萬噸、歸綏七千一百萬噸、薩拉齊三千八百萬噸、固陽一億五千三百萬噸、安北九千八百萬噸、鄂爾多斯五千九百萬噸、其他五千五百萬噸で埋藏量計四億七千六百萬噸と推定されてゐるが土法採掘によつて現地の需要を充す程度で年產額も僅に六萬噸に過ぎない。

【鐵】龍煙鐵鑛、龍煙炭礦は宣化縣煙筒山、龍關縣辛窰、龐家堡の鑛區より成り、これが採掘權は官商合辦龍煙鐵鑛公司の獨占に歸してゐた。同公司は民國七年の設立で、宣化煙筒山に製煉所を設け次いで民國十年春、京門支線の石景山に製煉場を建設、十一年その大部分を完成したが偶々時局の變動に遭つて工事を停止したまゝ今日に至つてゐる。民國十二年日本側に之を擔保として借款したゝめ、前直隸省長より執行を禁止され、十七年秋國有に收められたが、後鐵道部の所有となつてゐたものである。

現在は蒙古聯合自治政府の管理下におかれ、興中公司によつて再開發が行はれてゐる。鑛質は赤鐵鑛、鐵分四十%—六十%平均五十三%の富鑛である。

內蒙五盟地域では固陽に七十萬噸、武川白雲山に三千二百萬噸の鑛脈のあることが確められてゐる。白雲鄂博の鐵鑛は赤鐵鑛及び輝鐵鑛が主で六十%以上の富鑛といはれるが、位置が邊疆に偏し開發の時期に至つてゐない。

【鹽】池鹽及び湖鹽で產地は內蒙五盟地域に限られてゐる。歸綏縣察素齊及び畢克齊以南、包頭西南の腦包灘、豐鎭、涼城境界の大海泊附近及び和林各爾が主產地として擧げられ年產額、涼城百萬斤、歸綏、包頭各十萬斤、豐鎭七、八萬斤和林各爾は鹽のほか曹達も產し各十萬斤である。

【曹達】伊克昭盟鄂爾多斯地方の湖から年額千八百噸の產出がある。又察哈爾の年產八千噸と云はれ、張家口北部の正藍旗地方產のものは張家口に運ばれて精製され口鹼と稱して京津に搬出販賣されてゐる。

【その他の鑛產】内蒙五盟地域では未だ充分な調査が行はれてゐないが、旣に知られてゐるものゝみでも次の樣なものがある

石棉は武川、薩拉齊、固陽、包頭、歸綏、安北一帶に產し、大青山方面の埋藏量のみでも約六十八萬噸といはれる。榮豐公司、公盡棧等の經營する鑛區は各地にあるが、產額は少く年產二十噸内外を出でない。

その他鄂托克旗のアンチモニー、固陽、清水河の磁土、陶林、武川、固陽、興和及び察哈爾の水昌、華麗石(五色暠營)、歸綏興和の石墨及び歸綏、興和、晋北天鎭の黑鉛等があるが採掘狀況、年產額その他不明である。

〇工　業

電氣(張家口、大同、厚和、包頭)製粉(厚和、包頭)毛織(厚和)酒精(大同)等に若干近代的設備を有するものがあるほか本地方の工業は全般的に見てまだ原始的家內工業の域を脫してゐない。經營は全く漢人の獨占に歸してゐるがその主要なものを擧げると粗紙又は麻紙、毛氈及び毡帽、製革、卵加工、製油、煙草、製繩、銅器、鹽、曹達の精製等である。この中、製毡、製革、曹達、鹽は原料が極めて豐富であるから適當な技術と資本を導き入れるならば充分發展の可能性を持つものであらう。

經　濟

【商業・貿易】京包沿線の商業は大體、張家口を中心とする蒙古貿易と包頭を中心とする西北貿易とによつて代表される。

張家口は嘗て京津の大市場と內外蒙古及び甘肅、寧夏の所謂西北地方とを繫ぐ一大中繼市場として繁榮を誇つたものであつたが、外蒙古の獨立以來、庫倫方面との隊商交易が杜絕したこと、加ふるに京綏鐵路が西に延びるに隨つて綏東方面の背後地が平地泉の勢力圈に移つた事及び更に西北貿易の中心が全く包頭へ移つて行つた事などの爲現在はその背後地關係も非常に狹められ僅に察哈爾、錫林郭爾方面を殘してゐるに過ぎないので自然落潮にあるを免れない。

之に反し包頭は黃河の水運に惠まれ、所謂西北貿易の中心地として本沿線に於ける最大の市場の一つであるが、綏遠の經濟的價値は綏西にあり、綏西の經濟は包頭の西北貿易によつて代表されると言はれる如く將來その地位は極めて重要視されるものがある。而して近年は新、甘、寧省から運ばれる土貨の賣行き惡く自然輸入雜貨の商況も不振となり、いはゆる貨業は一般に不況の狀態にあるといはれる。

京包沿線の商業を概觀するに、近來貿易關係が衰退の一途を辿つて來たのに地方農產關係を主とする粮業は比較的順調な發展を遂げて來たことが見られるが、これは沿線經濟の最近の情勢を示すもので極めて興味ある問題である。

蒙疆の主たる海外貿易港と推定さるゝ天津海關の統計に於ても當地域貿易の數字的全貌を知ることは至難であり、僅かに黃河の水運及び駱駄の隊商によつて行はれる包頭に於ける概況を知り得るのみである。

寧夏・甘肅・青海方面への輸出品

磚茶	五十一万箱	洋油	七千箱
煙草	四千五百箱	雜貨	三万五千個
各種綾布	一万五千梱		

前記各省地方からの輸入品

牛皮	一万餘張	羊皮	三十万張
各種絨毛	一千百万斤	甘草	一千万斤
糧食	五百万斤	白麻	三十万斤
鹽	一千万斤	小烟	四百二十万斤 (三万箱)

【金融・通貨】舊察南自治政府は支那事變始つて以來、自治政體の出現に先覲をつ

けたものであつたが、政府成立以來當局が最も力を注いだのは紊亂せる金融の回復であつた。從來察哈爾地方に於いては軍閥の機關銀行が紙幣の發行權を擁し、各種の金融に相當手廣く携つてゐたものであるが、事變と共に地方金融を操縱してゐたこれ等軍閥の機關がいち早く逃亡して了つた爲、經濟界の活動は一時全く停止の狀態に陷つた。そこで察南自治政府はこの住民の窮狀と經濟界の恐慌を防止する見地から緊急通貨防衞令を發布すると共に十月一日察南銀行を設立し、滿洲國幣にリンクする新紙幣を發行して舊通貨の回收を行ふと同時に戰後の金融工作に當つて來た。

その後、戰局の進展につれて察南銀行の活動範圍を擴大して行つたが、蒙疆聯合委員會の成立と共に、更に蒙疆全般の金融統制を行ふことが必要とされるに至つたので、之に綏遠平市官錢局、豐業銀行を合併し蒙疆銀行として新設されることゝなつたが、引續き幣制の統一と金融改善に努めた結果、今日既に蒙疆の幣制は完成の域に達し、又蒙疆銀行を唯一の爲替銀行として事實上の爲替管理が行はれてゐる。目下蒙疆地域に流通してゐる紙幣は蒙疆銀行紙幣、日本銀行紙幣、鮮銀紙幣、滿洲中央銀行紙幣で何れも同價で通用する。尚舊蒙聯に於いては更に庶民金融の改善を圖るべく同地方既存の各種群小金融機關を打つて一丸とし合理的な新機關の設立を企圖してゐたが、之が具體化として昭和十三年三月、張家口、大同、厚和の各地に夫々實業銀行の開設を見たので蒙疆の金融狀況は著しく改善され、全く舊來の面目を一新することゝなつた。

【蒙疆銀行】　昭和十二年十二月一日營業を開始し三自治政府の平等出資による株式組織で、公稱資本金一千二百萬圓、四分の一拂込、本店を張家口に置き、現在、懷來、宣化、涿鹿、大同、厚和、包頭、豐鎭の各地に支店を置いてゐる。昭和十四年二月下旬現在同行紙幣發行高は三五、八八二、〇〇〇圓で正貨準備高は二五、一一八、〇〇〇圓である。

交通・通信

【鐵　道】　北京を起點とし察南、晉北を經て包頭特別市に至る延長八百十六粁の京包鐵道は蒙疆唯一の鐵道であつて、目下華北交通會社をして一般旅客、貨物の運輸に當らしめてゐる。（旅行機關・鐵道の部參照）

【自動車】　自動車輸送は事變の結果、既存の車輛が悉く支那軍の奪取するところとなつた爲、一時全くその機能を失ふに至つたが、目下蒙疆汽車公司の手により新式優良車を各地に配置し、漸次路線の擴張を行ひ、着々その實績を擧げつゝあり、現在營業路線約二千粁に達してゐる。

【郵　電】　事變の混亂により一時機能を停止してゐた郵政事務は昭和十二年九月、察哈爾交通委員會の成立直後、滿洲國側の援助を得て治安確保された地方より逐次接收を開始し、十月中旬には北支郵政との通郵成立し、一先づ中華制度に依る通常郵税の業務を開始するに至つた。

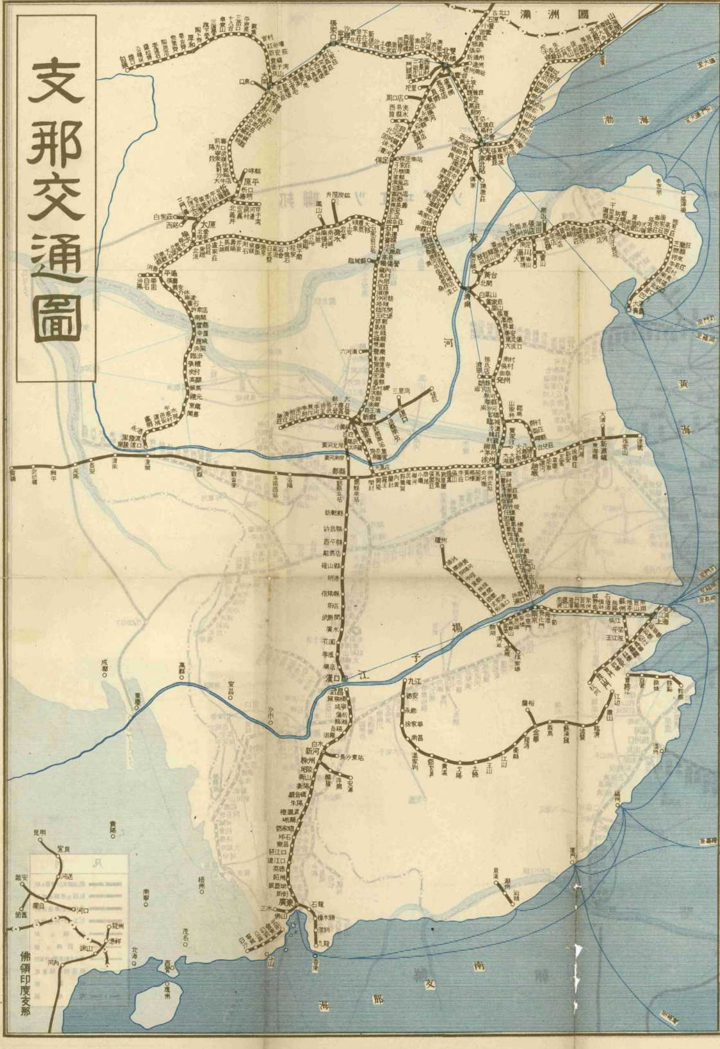
又、電信、電話はその性質上、當初一時的に軍の管理下に置かれてゐたが聯合委員會成立後、郵電の一元的經營の大方針が決定され、之が爲に曩に蒙疆郵電總局が設立されたが、其後蒙疆郵電の統制計畫は着々進捗を見、昭和十三年三月初、資本金一千二百萬圓、日蒙合辦の特殊法人蒙疆電氣通信設備會社の設立によつて全くその基礎を確立するに至つた。

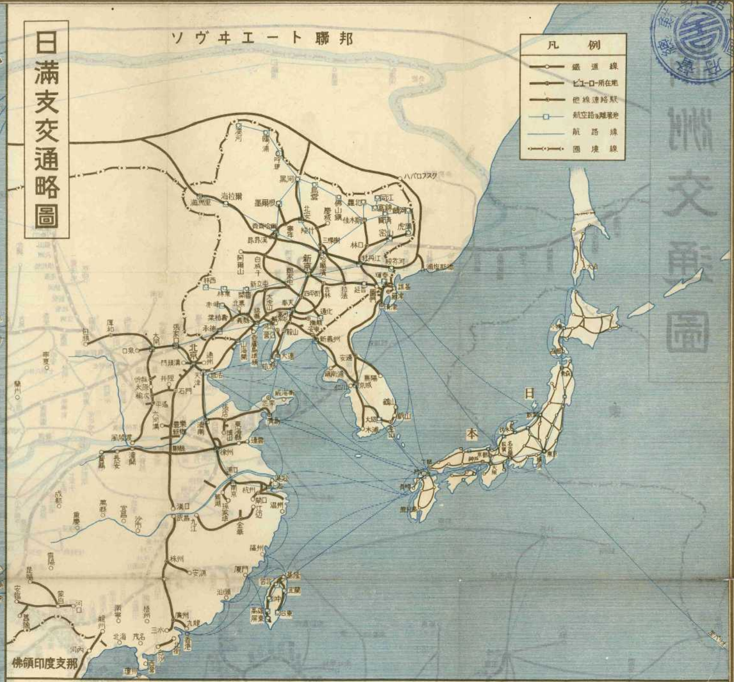
電信設備は政府に於て之が恢復に努めた結果現在では通信可能路線二〇〇〇粁に達してゐる。

尚政府より各縣城に通ずる幹線の整備竝に對外との通信網裝置を計畫中であり、無線電信も一部通信を行ひつゝある。



満洲交通圖
日満支交通略圖
支那交通圖
ソヴエト聯邦
蒙
古
朝
鮮
支
那
凡例
昭和十二年満支旅行年鑑附録
満洲支那交通圖
北京
天津





日滿支連絡主要路

（一）日本—滿洲

〔鐵道〕△東京—下關—（連絡船）—釜山—安東—新京（所要五四時四五分、三等三六圓八六錢）

〔海路〕△東京—神戸—大連—新京—（所要九三時二〇分、三等三六圓〇八錢、大阪商船）△東京—下關—門司—大連—新京（所要七七時二〇分、三等三七圓五六錢、大阪商船）△東京—敦賀—淸津—新京（七一時三〇分、三等三二圓七三錢、北日本汽船）△東京—新潟—淸津—新京（所要八一時五五分、三等三一圓三五錢、北日本汽船）△鹿兒島—長崎—大連—新京（所要一〇〇時二〇分、三五圓八九錢、日本郵船）△那覇—鹿兒島—三角—大連—新京—（所要一四九時二〇分、三等三〇圓八九錢、大阪商船）△高雄—基隆—大連—新京（所要七日、三等三五圓八九錢、大連汽船）

〔空路〕△東京—大阪—福岡—京城—奉天—新京（所要十時四五分、一七〇圓、日空）東京—大阪—福岡—京城—大連（所要九時二五分、一五〇圓、日空）

（二）滿洲—支那

〔鐵道〕△新京—奉天—山海關—北京（所要二〇時一〇分、三等一八圓六四錢）△新京—奉天—承德—古北口—北京（所要四四時三四分、三等二〇圓九六錢）

〔海路〕△大連—青島—上海（所要五一時、三等一八圓、大連汽船）△大連—天津（所要二〇時、三等八圓又は六圓、大連汽船、阿波共同）

〔空路〕△奉天—錦州—天津—北京—（所要四時三五分、六六圓、滿空）△大連—天津—北京（所要一時五〇分、六五圓、華空）

（三）日本—支那

〔鐵道〕△東京—下關—（連絡船）—釜山—奉天—山海關—北京（所要六七時三五分、三等四六圓四錢）

〔海路〕△神戸—門司—天津（所要約九二時、三等二二圓、東亞海運）△神戸—門司—青島（所要七八時、三等二〇圓、東亞海運）△長崎—上海（所要二六時、三等一八圓、東亞海運）△神戸—門司—上海（所要六九時、三等二三圓五〇錢）

〔空路〕△東京—大阪—福岡—青島—天津—北京（所要一一時一五分、二二五圓、日空）△東京—大阪—福岡—上海—南京（所要九時四五分、一八〇圓、日空）

昭和十五年滿支旅行年鑑附錄

滿洲支那交通圖

ジヤパン・ツーリスト・ビユーロー滿洲支部
日本國際觀光局

昭和十五年四月十五日印刷
昭和十五年四月十九日發行

滿支旅行年鑑

正價 金壹圓參拾錢

編纂者 社團法人 ジャパン・ツーリスト・ビユーロー（日本國際觀光局）滿洲支部

飜刻發行者 右代表者 北條保平
東京市日本橋區本町三丁目九番地
株式會社 博文館

印刷者 右代表者取締役社長 大橋進一
東京市小石川區久堅町一〇八番地
大橋光吉

發賣所
東京市日本橋區本町
振替口座東京二四〇番
株式會社 博文館

共同印刷株式會社印刷

鐵道省編纂	改訂 日本案內記 東北篇	三六判布裝函入 紙數三六八頁	二・〇〇	・一四
鐵道省編纂	改訂 日本案內記 關東篇	三六判布裝函入 紙數五六〇頁	二・八〇	・一四
鐵道省編纂	改訂 日本案內記 中部篇	三六判布裝函入 紙數四七六頁	二・七〇	・一四
鐵道省編纂	日本案內記 近畿篇上	三六判布裝函入 紙數四八〇頁	二・三〇	・一四
鐵道省編纂	日本案內記 近畿篇下	三六判布裝函入 紙數四八〇頁	二・五〇	・一四
鐵道省編纂	日本案內記 中國四國篇	三六判布裝函入 紙數四九〇頁	二・五〇	・一四
鐵道省編纂	日本案內記 九州篇	三六判布裝函入 紙數四五二頁	二・五〇	・一四
鐵道省編纂	日本案內記 北海道篇	三六判布裝函入 紙數三五〇頁	二・三〇	・一四
鐵道省編纂	神まうで	四六判布裝函入 紙數三五〇頁	一・八〇	・一四
鐵道省編纂	鐵道旅行案內	四六判布裝函入 紙數六五〇頁	二・四〇	・一四
鐵道省編纂	お寺まゐり	三六判布裝函入 紙數八四〇頁	二・〇〇	・一四
鐵道省編纂	溫泉案內	四六判布裝函入 紙數三三〇頁	二・八〇	・一四
鐵道省編叢	景觀を尋ねて	四六判布裝函入 紙數二五〇頁	一・〇〇	・一二


旅は飛行機で
滿洲航空株式會社